
ライダーとトリッパーが「ネギま」で暗躍

ウィル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライダーとトリッパーが「ネギま」で暗躍

【Nコード】

N7467V

【作者名】

ウィル

【あらすじ】

気づいたら「ネギま」世界の自分（6歳児）に憑依していたと思ったら、なぜか「Fate stay/night」のキャスター（メディア）と謎の少女（？）「がいた世界」。

この世界で（彼女たちに見つからないように）原作介入を決意する主人公です。

（注）この作品は、カモネギ様が投稿されている「ネギまの二次創作『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』」の世界を舞台にした

二次創作になります。

注意事項

この作品は、カモネギ様が投稿されている「ネギまの二次創作『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』」の世界を舞台にした二次創作（再構成小説）、つまりネギまの三次創作になります。

具体的には、「『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』に良く似た平行世界に、もう一人のトリッパーがいたとしたら？」というIFを書いた作品です。

下記の注意事項をお読みいただき、納得の上、本作品をご覧になってください。

【注意事項1】

主人公が召喚したライダーが「絶対に叶えたい願い」を持っていて、その願いを叶えるため主人公はFateの世界へ移動する方法を探します。

この結果、主人公たちはネギま世界とFate世界の二つの世界を舞台にしています。

それにより、ネギまキャラだけでなくFateキャラとも関わるため、「ライダー以外のFateキャラはいらない」「第二魔法を使わずに世界移動が可能なのはおかしい」と考えられる方は、不快になると思います。

【注意事項2】

主人公は『力をつけ仲間を増やして十分に自衛の力を蓄えるまでトリッパーたちから隠れる』という方針の為、『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』の主人公である朱雀たちとの接触を当分避けます。

このため、「朱雀たちと序盤から積極的に関わらないなら『魔女

と槍兵とチートがネギま！で無双』の世界を舞台にする必要はなく、三次創作にする必要は無い」と考えられる方も不快になると思います。

第16話より少し後の話になりますが、メディアと主人公がファーストコンタクトを取った後は、それなりに朱雀たちと関わる予定にはなっています。

【注意事項3】

『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』や原作の『魔法先生ネギま！』『Fate』などで設定されていないことについて、作者の自己解釈や追加設定が多く存在します。

また、ストーリー展開に合わせて、原作設定を一部変更している場合もあります。

そのため、「原作に書かれていない設定を使うのはおかしい」と考えられる方は、不快になると思います。

【備考】

『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』で公開されていない情報については、筆者が勝手に想像して小説を書いています。

設定にずれや誤りがありましたら、全て筆者であるウィルの責任です。

連絡先：g a t e s | 2 9 | n o v e l @ y a h o o . c o . j p

Q & a m p ; A : 【質問66】まで記載（2011・9・9時点）（前書き）

下記のQ & A 一覧は、感想ページでいただいた質問と私の回答をまとめたものです。

勘違いや設定ミスが判明した場合、後から修正を加えています。

そのため、感想ページに記載した回答と内容が異なっている場合があります。

ご了承ください。

注 下記の内容には重大なネタバレがありますので、本編読了後にお読みください。

Q & a m p ; A : 【質問66】まで記載(2011・9・9時点)

【質問1】

主人公の能力の詳細が、仮定とごっちゃになり今一理解出来ないのですが、何が出来て何が出来ないことになっているんですか？

【回答1】

「1995年6月17日のメモ」の「1・1 確認済み能力」に、上記の内容をまとめました。

【質問2】

バクティオー 仮契約の相互契約はできないと思うんですがねえ。

出来たらあの世界の住人同じことしてると思いますし、其処まで馬鹿じゃないだろう。

【回答2】 追加設定(2011・9・9追記) 本編修正(2011・9・9)

『バクティオー 本契約で相互契約は不可能。バクティオー 仮契約なら相互契約は可能だが、バクティオー 仮契約という神聖な儀式を貶める行為の為タブー視されている』という推測を主人公がしたことにしました。

「1995年6月19日のメモ」の「1・1 アーティファクトの設定」に、上記の内容をまとめました。

第11話でキャサリンから『本来、バクティオー 仮契約で相互契約は不可能な仕様であり、できたことがおかしい』と説明があったと修正しました。

バクティオー 相互) 仮契約が成功した理由(主人公とキャサリンの推測)は下記の通りです。

バックティオー

(1) 仮契約の魔法陣を書いたのは、メドゥーサとさよの二人

・ 異世界の力（サーヴァント能力）を持っている。

バックティオー

・ 僕の誤解を信じて相互仮契約が可能だと信じていた。

(2) 魔法陣を通常とは異なる方法で構築していた

・ メドゥーサは、魔術を使って魔力の光で作った魔法陣を構築

・ さよは、（魔力たつぷりの）血文字を使って魔法陣を構築

【質問3】

主人公はネギや木乃香のようなチートアーティファクトが出るほど魔力ありましたっけ？

【回答3】

主人公の魔力量は、サーヴァントの能力を得たのでそれなりに増えましたが、メドゥーサの現界維持が精一杯のレベルです。

【質問4】

アーティファクトの選考基準は『主の魔力 or 気の量と従者の資質』で決まるようで、普通に優秀程度は平凡な物しか出ませんし。

【回答4】追加設定

『魔法使いの能力によっては、各パートナーごとに潜在能力をさらに引き出すことができる固有のアーティファクト（魔法のアイテム）が与えられる』という設定があったので、『契約した全員がサーヴァントの力を持っていることによる補正あり』という設定にしました。

【質問5】

できれば本家のヒロインズとは別キャラとフラグ立てて、上手くクロスしてほしいです

【回答5】

第02話にちょっと書いていますが、仲間に取り込みたい候補の条件として「すでにメディアたちと関わりのあるメンバーがいれば、即却下」と書いています。

主人公はメディアの恐ろしさをよく理解しているので、メディアと敵対しそうな可能性は完全に排除します。

よって、本家ヒロインズは『メディアか朱雀との友好関係が確認された時点で勧誘対象外』になります。ご安心ください。

【質問6】

この魔力量では宝具の真名開放は無理ですよね・・・
とりあえず真名開放はできる仕様なのでしょうか？

【回答6】

現時点の主人公の魔力では、ゲイ・ボルグ 刺し穿つ死棘の槍のように使用魔力が足りない宝具しか真名開放はできません。

クー・フリーンが「七回使っても補給は不要」となっているので、6歳時点の主人公なら1回ぐらいなら使えるかな？

もちろん、『メドゥーサの現界維持のため、全魔力を供給している状態』では無理ですが。

【質問7】

（第05話で）朱雀がさよを確認したようだけど、何か違うのは気づいてないのかな？

メディアは絶対気づいてそうだけど…

【回答7】

『メディアが直接さよを見れば気づくけど、朱雀が遠目に見た程度ではわからないのでは？』と考えています。

【質問8】

この作品は、原作（二次創作）とは似てるようで、違う世界って事でいいんですね？

【回答8】

はい、その通りです。

1995年6月19日にメドゥーサがさよをスカウトした時点で、完全に「魔女と槍兵とチートがネギま！で無双」とは異なる世界（未来）へ分岐しました。

主人公たちが関わっていないことについては、「魔女と槍兵とチートがネギま！で無双」の世界に準拠させるつもりです。

【質問9】

話の展開上仕方ないとはいえ、今受けてるリターンに釣り合うリスクを後々負うのでなければ、主人公にだけ都合の良い砂糖漬けのお話で終わってしまいます。

【回答9】

『「主人公の能力は朱雀の能力をコピーしたもの」とばれた瞬間に、朱雀かメディアに何らかの対策を取られる』という展開は、当

然ですよね。

これを起点にして、色々考えてみようと思っています。

【質問10】

なんで主人公の能力で出来なかった事が令呪に命令したらできるように？

令呪の効果を詳しく知らないのでよく分かりませんが、令呪をライダーに使っても主人公の能力上無理だったなら無理だと思うんですが…

【回答10】

令呪の公式設定は、『サーヴァントの能力以上の奇跡を起こすためのもの。よって肉体の限界を超えることであっても、マスターとサーヴァントの魔力が届く範囲内ならば実行可能にする大魔術の結晶』です。

よって、『主人公とメドゥーサの魔力で届く範囲だったので、メドゥーサの能力設定（魔改造）が可能になった』わけです。

【質問11】

ライダーの行動パターンが分からない。

【回答11】 本編修正

「『過去の桜』を助けるとその世界の桜は救われるが、その世界とは別の世界にいる『メドゥーサを召喚した桜』を助けることができなくなる」ということです。

メドゥーサの最優先目的は、『メドゥーサを召喚した桜を助けること』です。

最優先目的を達成するため、『過去の桜を助けること』を諦めた

わけです。

この内容を、本編に記載しました。

【質問12】

光鷹翼の物質化まで出来るようになることを期待しています。

【回答12】

そこまでいくと、本気でチートですよ。

「天地無用」でも、『光鷹翼の物質変換』が可能だったのは天地たった一人でしたし。

「天地無用」のアニメを見せたから、それを実現しようとかさが努力するのは十分ありえる展開です。

ただ、さがが持つ【道具作成】スキルだけでは、『光鷹翼の物質変換』を実現できるとは考えられず、……何か説得力のあるスキルや能力はないものか。

何かアイデアなどがありましたら、ぜひお知らせください。

【質問13】

『天地無用のアニメを見るだけで、惑星を簡単に破壊できてしまう光鷹翼をコピーできてしまうこと』はやりすぎです。

【回答13】

『さがが再現した『光鷹翼』は、外見といい、性能といい、実質^{ロー・アイアス}熾天覆う七つの円環もどきである』と本編に記載されている通り、形と性質は似ていますが、威力は熾天覆う七つの円環^{ロー・アイアス}以下です。

『光鷹翼』と命名したのは、オリジナルの『光鷹翼』と似ていたからであり、本物ではありません。

よって、惑星を破壊可能な威力は持っていません。

【質問14】

『ネギまの登場人物をランク付して、自分にとって都合のいい駒にしてしまおうと考えていること』に吐き気を覚えます。

【回答14】

「1995年6月18日のメモ」の「6・仲間の勧誘」の「6・3 詳細データ」のランクは、「勧誘の優先度」です。

勧誘やスカウトにおいて、勧誘対象の能力と勧誘の成功率（予想）を調べ、優先度を付けて対応するのは当然のことだと考えています。

【質問15】

第06話で令呪を使うことに躊躇していますが、消費したとしてもまたコピーしてしまえばいいのではないのでしょうか？

【回答15】

令呪は、複製能力に対象制限が掛かる前に、メディアからコピーしました。

現在の主人公は、朱雀からしか能力をコピーできず、朱雀はすでに令呪をメディアに譲ったので持っていません。

そのため、『主人公は今持っている令呪を使い切ると、再度令呪をコピーすることができない』という設定になっています。

【質問16】

令呪によるブーストは聖杯の膨大な魔力補佐によるものだったと思うのですが……

【回答16】

設定には「令呪は膨大な魔力を秘めた魔術の結晶であり、マスタ
ーの魔術回路と接続されることで命令権として機能する」とあった
ので、この物語では『令呪自身が魔力を持っていて、聖杯の補佐な
りで発動可能』と解釈しています。

【質問17】

学園祭のメディアさんを目視できる位置で使ったら、学園側とメ
ディアさんたちの両方に見つかってナニカサレルのが落ちだと思っ
ます。

【回答17】（2011.08.30追記）

主人公は気づいていませんが、メディアにも見つかっていますし、
学園側の魔力探知にも引っかけかかっています。

メディアは当然令呪レベルの魔力発動の反応に気付きましたが、
下記の理由により見逃しています。顔と魔力反応はしっかり覚えて
いますが……。

・「令呪を持っていない」ように見えた。

（『能力（複製）（選択可能）』欄に令呪を入れた状態なので探
知不可）

・朱雀の能力をコピーされたことに気付いていなかった。

（能力のコピー実施は、主人公以外は気づかない仕様）

・メディアや朱雀に向けた魔術や魔法の反応がなかった。

・令呪の発動時に「僕の存在をばらしたくないが、能力をコピーし
たい」と考えたのが影響して、体外に放出した魔力量は少なかった。

（2011.08.30追記）

・（「サーヴァント」の能力を未使用状態の）主人公を魔術で調べ
ても、『少し魔力が多めの子供』という反応しかなかったので、一

時的な魔力の暴走 or 発現と考えた。(2011.08.30 追記)

・麻帆良学園内では、トラブル解決などで魔法を使う魔法先生や魔法生徒が多かったので、魔力反応に慣れていた(2011.09.09 追記)

・朱雀のコスプレ姿を撮影することが最優先だった。

学園側は会場へ調査の人員を送りましたが、すでに主人公たちは他の場所に移動済みであり、それ以降同様の魔力反応もなかったので『謎の魔力反応探知』で終わりました。

【質問18】

令呪って使い切ったら無くなるものなのでは？

【回答18】追加設定

この物語では、『令呪を使い切っても、令呪の痕跡：「令呪(残り0画)」が残っている』という設定です。

【質問19】

魔力が「一般的魔術師」魔法先生」の10倍というのが多すぎるように感じる。

ネギまでは誰しも多少の魔力は持っている(訓練すればだれでも魔法が使える)ようなので、Eランクが一般人の10倍なら、その一般人には魔法関係者以外も含まれると思う。

【回答19】設定修正

Fateの設定では、パラメータールは下記のようにになっています。

（私もパラメータの『魔力』が『扱える魔力量』とは認識していませんでした）

パラメータールール

どれだけの魔力を扱えるかを表す『魔力』。

通常値を1としてEが10、Dが20、Cが30、Bが40、Aが50。

上記の魔力の通常値「1」は、『聖杯世界における一般魔術師が扱える魔力量（平均値）』という認識は多分問題ないと思います。

そうでないと、サーヴァントたちの能力が低くなってしまうので問題は、『聖杯世界における一般魔術師が扱える魔力量（平均値）』が、『麻帆良世界基準』ではどれくらいになるか？」ですよね。

『魔力が扱える量』ならば、『麻帆良世界の魔法学校卒業生以上魔法先生以下』ですかね？

妥当なラインを考えてみます。

【質問20】

キャスター相手に一般人が暗躍できるはずがない……
てか英霊なめすぎでしょ…。

【回答20】

全くその通りです。

今はメディアに見逃されていますが、（敵対していたら）見逃されなくなった瞬間に破滅します。

メドゥーサが守ってくれば、それなりに対抗できるとは思いますが。

「暗躍」というのは麻帆良学園相手がメインです。

メディアたち相手では、『ひたすら隠れ、敵対行為と取られる行

動は可能な限りさける』ことで、対立するのをさけるのみです。

【質問21】

ギリギリ許容範囲だがこれ以上は主人公は知らないとはいえ3次なのに原作（2次）ブレイクがすぎるような…

【回答21】

上記のとおり、主人公は朱雀たちの方針や行動予定を知らないの
で、主人公がわかつている範囲でベストだと考える行動を取ります。
朱雀たちやその関係者に対して理不尽な真似はしませんが、関係
者でなければかなりのことをする予定です。

【質問22】

さすがにこれ以上のパーティーメンバーの増加は慎重になるべき
でしょうが。

【回答22】 本編修正

主人公は、原作キャラのさよとアスナを従者にして、無事にエヴ
アと繋がりを持てました。

あとは、「1995年6月18日のメモ」の「6・仲間の勧誘」
の「6・3 詳細データ」の「勧誘の優先度：C以下」の人しか残
っていないので、当分原作キャラに手を出す予定はありません。
ご安心ください。

ご都合主義が過ぎたので、とある薄幸キャラの従者追加を取り消
しました。（2011・09・05）

【質問23】

アスナは迂闊にサーヴァント化解除できそうにないですが、普段どうするんでしょうか？

案として2個目の別荘（時間等倍で小型、外界が見聞きできるよう道具作製で改造）を作製

【回答23】

このアイテムがあれば、とても便利そうですね。
上記の件、対策を考えてみます。

【質問24】

英霊が回復魔法を使えるというのはまずい気がします…

【回答24】 本編修正

他の方からも同様の指摘をいただいたので、『メドゥーサは適性が無くて回復魔法を覚えられなかった』と変更しました。

【質問25】

アーティファクトのアイデアは、ネタに走ったものでしたが、参考になりましたか？

【回答25】 追加設定

際限なくネタアーティファクトを採用するのは色々と問題がありますので、……主人公のアーティファクトのみ、『複製能力+オタク知識』ネタアーティファクト』とすれば、問題は少ないと考えます。

よって、『ネタアーティファクトは、主人公との**バクティオー**の**契約**のアーティファクトのみ採用』という基本方針でいく予定です。

【質問26】

原作のさよはおそらくメディアさんが身体作った事になってるようですが、こちらの作品世界では彼が現界させている訳で、パラル的に読めば良いのでしょうか？

いえ、三次元のままですとエヴァ半殺しルート決定ですし、色々とヘンな方向行きそうなもので気になって……

【回答26】

この作品は、『魔女と槍兵とチートがネギま！で無双』の再構成ものになります。

具体的には、さよの勧誘に成功した時点で上記作品と分岐し、パラルワールドとなりました。

上記の件、プロローグの前書きに追記しました。

【質問27】

完全に別居してるならともかく就寝時以外は普通に暮らしてるんですよね？

急いで進めようとして飛ばしてるのかもしれませんが一回くらいは会話あったほうがいいかなと思ったり。

【回答27】 本編修正予定

了解しました。

どこかに家族との会話を追加します。

【質問28】

あとラカン

正直一回戦闘ただけで自分の名前も明かしてない人に重要なも

のホイホイ見せたり与えたりってのはどうかと

アスナが出てくる前でしたし

あと感謝してるのもなぜかわかりませんでした

原作では別に記憶を消したことに對して怒ったりとかはしていませんでしたし

【回答28】 本編修正

指摘いただき、ありがとうございます。

上記の件、第11話で下記の通り修正&追記しました。

・まだ信用できないから、今回は「大戦の映像」を見せない。
・『アスナ自身の希望で「記憶を封印された神楽坂明日菜」とは別の独立した存在になり、毎日楽しく過ごしていること』をアスナからラカンへ説明。

【質問29】

それと主人公は朱雀との戦いは避けたいんですよね？

【回答29】

はい、戦いを避けたいと考えています。

【質問30】

今の戦力集中してるの見てると『戦いたくしょうがないけど、勝ち目ないから味方増やそう』って感じにしか見えないんですか？

【回答30】

正確には、朱雀や『多分いると思われるトリッパー』に對抗できるだけの戦力、つまり自衛用の戦力を集めているわけです。

朱雀と主人公とすでに二人のトリッパーの存在が確認されているので、（実際にはいませんが）他のトリッパーがいてもおかしくないですし、最狂で最強なトリッパーという存在も珍しくないのです。まあ、『強くて美少女な従者がいっぱいいれば嬉しい』という欲望に満ちた目的もあります。

……事情を知らない第三者から見れば、『過剰なまでに戦力を集め、何か良からぬ目的を企んでいるように見えること』は否定しません。

【質問31】

別に戦い避けるだけなら一切近づかなければいいだけ、麻帆良に住んでても引越すればいいのでは？

【回答31】

第01話に書いたとおり、下記の内容が主人公の考えです。

せっかく『魔法先生ネギま！』の世界にいるのだから、ある程度原作に関わりたいたいという気持ちもある。

まあ、彼女たちの状況がある程度わかり、こつちもある程度対抗可能な戦力を持つことができたなら、中学生から麻帆良学園に入学するのもいいだろう。

上記のとおり、『ある程度安心して原作介入するため、戦力を集めています』。

主人公には、『自重して原作介入しない』という発想はありません。

【質問32】

まあ最終目的の火星との戦争を防ぐのも朱雀が戦争させようしたりとかしたら対立しなきゃならないんでいざというときのために戦力集めるのはおかしくないですが、主人公はその可能性まだ思いついてないっぽい？

（千雨がいないからネギに丸投げしても成功するかわかりませんし）

【回答32】

『千雨が朱雀ハーレム入り』千雨関連の原作崩壊』が確定しているので、原作通りにはいかず、火星との戦争が勃発する可能性が高いと主人公は考えています。

（実際にはいないけど）他のトリッパの影響も予想できませんし。

これが、戦力を集めている理由の一つです。

『朱雀が戦争させようする』可能性は主人公も思いついていません。

というか、主人公視点では朱雀の情報が少なく、『原作キャラハーレム構築を目指している、原作知識持ちのチートトリッパ』（笑）としかわかっていないので、『ハーレムを守るためなら全力を尽くす可能性が高い』ぐらいしか考えていません。

これも本編でちよつと書きましたけど、『トリッパの目的って人によって違い過ぎて予想しようとするとか疲れてしまう』ので、あえてしていないというのもあります。

【質問33】

あとやっぱ**仮契約**^{バクティオー}がちよつと気になりますね

仮契約のさいサーヴァントのクラスを貸し出し及び譲与できるとかなら主人公だけでなく朱雀もできますよね？

【回答33】追加設定

これは、本編では確定情報として書いていませんが、主人公の『起源』が「複製」と「貸与」であることが原因です。

『主人公の「起源」とサーヴァントクラスの能力が合わさって、従者にクラスを貸し出しできた』という設定です。

【質問34】

まあ『魔女と槍兵』では細かい説明なかったし「この世界ではそういう設定」とAF強化してもいいわけです

【回答34】追加設定

主人公や主人公から貸し出されたサーヴァントクラスを持っている人たちは、主人公の「複製」と「貸与」という『起源』の影響を受け、アーティファクトも英霊の影響を受けたものが出現する、という設定です。

メドゥーサも主人公によって魔改造済みなので、『影響あり』とします。

【質問35】

個人的にはさよがキヤスターだったのが納得いかなかった、というか魔力A+なのにライダーも主人公も反応薄いというか…

特に原作知識ある主人公は何故こんなに高いんだ？と思ってもおかしいと

【回答35】

最初は本編に書いていたんですが、ストーリーに直接関係ない話であり、皆さんから「説明が多すぎる」との指摘をいただいたので

「1995年6月19日のメモ」の「5・相坂さよ」に移動しました。

【質問36】

サーヴァント（偽）になる

↓あれ？さよ魔力高くな？

↓なんか何かとラインがつながっているっぽい

↓なんかそのラインから魔力すごい流れてる

↓たどっていったら世界樹につながっていた

とか？次がちょうど世界樹の話になってましたし

【回答36】本編修正

アイデア提供、ありがとうございます。

第04話において、『実はさよと世界樹は不完全なラインが繋がっていたので魔力供給が可能だったこと』を追記しました。

【質問37】

ちなみに2年生になったころにはもうファンクラブできてて企業買収に向けて進んでいくところっぽいので

【回答37】外伝追加

2年生になってアキラと仲良くなった後、麻帆良祭の前に、『通販サイトが即時統合されて大社会現象を巻き起こしたとかニュース』があったみたいです。

忘れていました、指摘ありがとうございます。

外伝で、この件について触れてみました。

【質問38】

今のままだと別に魔女と槍兵の二次である必要性がまだ出てないような気がします

朱雀じゃなく令呪を持ってチート能力持ってサーヴァント従えてるだけの人物でいいですし

【回答38】

朱雀陣営と絡むのは中学生からなので、しばらくお待ちください。いえ、中学生になって麻帆良学園に入学するまでは、主人公が朱雀たちから隠れることを重要視しているんで、時々偵察する以外絡みようがないんです。

【質問39】

まあ話の流れでまだ出してない・出せないのかもしれませんが、たまに視点代えるくらいなら別にいいのではないのでしょうか？

特にメディアに何かしら察知されているのであればQ&Aで済ますのではなく本編にてメディア視点の内容追記なりなんなりして欲しかったりしました

【回答39】 外伝作成計画中

うーん、主人公以外の視点でうまく書ける自信がないのですが、……今度試しにメディア視点で書いてみて、「自分でも納得できるレベル」だったら公開を考えてみます。

【質問40】

偵察とかもずっと追いかけていつて施設暮らしであるのを見て主人公側が何か思ったりとか

【回答40】

それ、無理です。

チートトリッパー朱雀の全能力も不明ですし、何よりメディアが怖いので、「さよが麻帆良学園内で偶然すれ違うふりの偵察」は可能でも、「尾行など特定の人物をターゲットにしていることが丸わりの偵察」は主人公が絶対に許可しません。

チートトリッパーなら、アーティファクト「世界扉」の存在に気付いてもおかしくないのです、これも使えません。

可能なのは「さよが麻帆良学園内で偶然すれ違うふりの偵察」と「ネットで検索しての情報収集」と考えています。

主人公としても朱雀たちの詳細な情報は欲しいんですが、自分たちの存在がばれたり、警戒されたり、最悪攻撃されたりするのが怖くて、偵察行動が最小限になっています。

上記の手段と同じぐらい「朱雀たちにばれにくい」かつ「ばれても怪しまれない」（と主人公たちが考えられる）偵察方法のアイデアがありましたらお知らせください。

【質問41】

戦闘とか能力以外の話ももっと増やして欲しいと思ってます

【回答41】

そういえば、戦闘、訓練、偵察、勧誘以外の話がなかったですね。今、気づきました。指摘、ありがとうございます。

「外伝」で、ほのぼの日常生活編を書いてみました。

【質問42】

孤児を集めて修行をさせるといふ主人公のクズ思考がもの凄く不

快に感じました

【回答42】本編修正

指摘いただいた通り、『孤児を集めて修行』はやりすぎですね。スカウトされる子供も喜び、主人公側も嬉しいプランに改善してみました。

【質問43】

主人公が強過ぎる気が……？

小学二年生の時点でAAAはやり過ぎだと思えます。

【回答43】

09話で主人公の強さについて、下記の通り書いています。

・この1年において魔法球内で計10年ぐらいの時間を過ごした結果、僕の肉体年齢は約17歳まで成長。
・『肉体系パラメータは『気』の量を増やすことや、効率的な『気』の運用でさらなるパワーアップは不可能ではないが、『気』を使わない状態でのパワーアップはこれ以上無理』とメドゥーサにはつきり言われた。

6歳時点

ステータス：「筋力」「耐久」「敏捷」「魔力」が（サーヴァントのパラメータで）全てEランク。

保有スキル：【黄金律】【魔術】【無窮の武錬】【精霊の加護】

【直感】

宝具　：【無限の剣製】【十二の試練】【己が栄光の為でなく】

強さ表　：ランクA？

17歳時点(1996年、小学2年生)

上記の内容に加えて

肉体成長 : 10年分&『気』によるパワーアップ

修行 : 10年分(エヴァの修行 or 八神パーティの修行)

技 : 魔術、剣術、槍術、弓術、操糸術、瞬動術、西洋魔法

保有スキル:【魔眼】追加

強さ表 : ランクAAA

上記の通り、努力してパワーアップしたので、強さはAAAぐらいかなあと考えたんですが、どうですかね？

あと、メドゥーサの指摘通り、主人公は成長限界に近い状態なので、『これ以降はパワーアップ可能なアーティファクトやスキルを手に入れない限り、強くなれない』という設定にする予定です。

聖杯戦争に介入できる強さを早く手に入れるため、『現実世界の1年で魔法球内で10年修行する』という無茶をやっているんですよ、実は。

【質問43】

幾ら小学二年で一年後とはいえ、どう考えても主人公がチート主人公と同じAAAは高過ぎる気がしますし、朱雀は敗因を体の小ささによるステダウンとしてますから、このままでいくと主人公が原作開始時にはSSSとかSSのクラスに入ってしまう、朱雀組にも勝てちゃうんじゃない？

ってなってしまう気がしますw

【回答43】

上記の通り、主人公は10年後のため一気に強くなれましたが、これ以降はそう簡単には強くなれません。

「朱雀たちや（いるかもしれない）他のトリッパーを警戒して、早く強くなることを望んだ」という理由もあります。

【質問44】

二人はサーヴァントを足止め、五人がかりで朱雀フルボッコとかになったら流石に厳しいと思います。

メディアさんとかアスナとの相性最悪ですし、魔改造メデューサなら魔改造デイルムツドを足止め出来るでしょうし、どう考えても現状主人公が優勢です。

【回答44】

上記のようにメディアを足止めできれば勝機はあるかもしれませんが、メディアさんは瞬間移動が可能ですからね。

アスナに魔法が効かないとわかった時点で、アスナの相手は他の人にまかせてメディアは他のメンバーへ攻撃すると考えています。

魔力に不安がないメディアさんの魔法攻撃って、『対魔力：A』or『魔法無効化能力』持ち以外は一方的な殲滅戦になりかねませんからね。

『前衛の魔改造デイルムツド、後衛のメディア（魔力十分）、オールラウンダーのチートトリッパー朱雀』がチームとして機能されると、ほぼ無敵ですよ。

【質問45】

魔法先生のAはやばい、相性良くて戦術次第で聖杯世界のキャスターに勝てる可能性が出るとか、マジ恐ろしいですww

【回答45】（2011・08・30修正）

言われてみれば、その通りでした。

指摘いただき、ありがとうございます。

ランク差に関する記載を『ランクは総合力の目安であり、相性、戦術、切り札、油断や慢心などで、ランク差をひっくり返すことも可能です』に変更しました。（2011・08・30修正）

【質問46】

並行世界の観測とかFATE主軸に進む現状魔法馬鹿にしてるのか！とか、宝石の爺様に何かしらされるだろとか……

【回答46】本編修正（2011・09・05修正）

麻帆良世界の魔法や主人公だけの能力では、上記の内容は絶対に無理だと考えています。

アーティファクト「世界扉」は、英霊の「メドゥーサあらゆる世界、あらゆる時代に召還される」能力の一部を具現化したもので、それに加えて令呪によつて『麻帆良世界からの別世界への扉』を開き、『セイバー召喚時に聖杯世界へ開いた扉』に接続することで聖杯世界へアクセスすることができた、という設定です。

さらに、『麻帆良世界から聖杯世界へ移動できるのは、サーヴァント（または、実体を持たない存在）のみ』と設定を変更し、本編を改訂しました。

【質問47】

「見逃されてます！」とか説明がありますが、念入りに念入りを重ねて状況を整えるキャスタータイプが監視もせず放置しているのですか？

監視していてこれだけ好きかってやってなお放置しているのです

か？

【回答47】（2011.09.09追記） 本編修正

「令呪クラスの魔力反応」があった場合、ご指摘の通り『メディアが主人公を見逃す可能性が低い』と考えました。

そこで、『令呪の発動時に「僕の存在をばらしたくないが、能力をコピーしたい」と考えたのが影響して、体外に放出した魔力量は少なかった』と、設定を変更しました。

これにより、『メディアは主人公に注意を向けたが、警戒まではしなかった』と考えています。

さらに、『麻帆良学園内では、トラブル解決などで魔法を使う魔法先生や魔法生徒が多かったので、魔力反応に慣れていた』ことにしました。

【質問48】

英霊がいる、霊を人型に移せる、それだけで十分排除されそうですが、不安要素にしかないのでは？

【回答48】

そうですね。

さよが何か強力な力を隠していることは、メディアにはすぐにはわかるでしょう。

ですが、下記の状況により、さよも注意対象ではあっても、警戒対象にならないと考えます。

……朱雀からもさよを助けるように頼まれていることもありますし。

・さよは普段麻帆良学園内をうろついているときはサーヴァント（仮）の能力を封印しているので、サーヴァントであることはメディア

アにもばれていない。

（何か隠していること、強い力を秘めていることは分かる）

・さよは、学園内をうろつく以外何もしていない。

・エヴァの家に帰るときには『気配遮断：A＋』を使っているのでメディアでも探知できない（朱雀は至近距離なら直感でどこにいるかわかる）

・さよは必ず、エヴァの家の地下室の魔法球内から自分たちの魔法球へ帰還する。

・メディアも24時間常に麻帆良学園全体に探査の魔術を使っているわけではない。

【質問49】

イメージ的に他人の隙を窺ってる盗人。

【回答49】

まさしくそんな感じですね。

主人公は、「技や能力に著作権はない」「能力をコピーしているのであって、奪っているのではない」と思っているので「盗人」という自覚はないですけど。

【質問50】

こんな強力な軍団作ってパクリ元のキャストと敵対しないとか冗談でしょう？

ハッキリ言ってキャスト達に十分勝てますよ。

【回答50】 本編修正

主人公は、とある悪役のモットーを参考にしているので、

- ・戦う必要が少ない場合、9割以上の勝率がなければ戦わない。
- ・仲間に犠牲が発生する戦いはできるだけ避ける。

という方針です。

そのため、ネギま関連の戦闘には介入しても、トリッパ―相手では自衛以外の戦いは避けるつもりです。

『戦力を集めすぎて逆にトリッパ―に警戒されるかもしれない』
とも考えていますが、『いざというときに戦力が足りないよりはまし』という考えです。

さらに、『聖杯世界へはサーヴァント（または、実体を持たない存在）しか移動できない』という設定に変更し、本編を改訂しました。

【質問51】

10年の修行で云々とありますが、たった10年でEからAAAになったんですか？

一般人の子供なんて「戦闘力5か…ゴミめ」ぐらいで強さランクで言えばZに近いぐらい下から数えるぐらいでは？

【回答51】

誤解を招いてしまい、もうしわけありません。

まず、本編開始時点の主人公は素の力では6歳の子供ですから戦闘力は最低、底辺です。

【質問52】

Fateの強さ表はA〜Eぐらいが良く出ますが、それでも英霊ですからねえ。

【回答52】

全くですね。

主人公は6歳の時に、『サーヴァントクラスやそれに付随する能力』のコピーに成功したので、この能力を使用した際に『「強さ表」のランクAの下』あたりの強さになったと思います。

完全にもらいもの、借り物の強さです。

で、10年ほど修行して、『「強さ表」のランクAの下から、ランクAAAに成長した』と考えています。

サーヴァント能力を使わない場合は、アーティファクトや投影宝具を使って『「強さ表」のランクA』。

サーヴァント能力もアーティファクトも投影宝具も使わないと、『「強さ表」のランクB』ぐらいでしょうか？

【質問53】

仮契約の情報だけでも相当な筈。あまりに凜が強欲。

【回答53】 本編修正

後で書くつもりで抜けていました。

申し訳ありません。

現時点、対価の一部として「セイバーの戦闘訓練」と「セイバーが認めた人のみに投影アヴァロンを貸す」ということで同意として、足りない分の対価の内容は後日相談、ということに修正しました。

【質問54】

「強さ表」の突っ込み所が多すぎます。

「士郎がギルに絶対勝てなくなってる」とか、「月詠が弱すぎる」とか言いだしたらきりがありません。

【回答54】強さ表修正

指摘いただき、ありがとうございます。

確かに、以前の強さ表ですとランク差の逆転が難しすぎる記述でした。

そこで、下記の文章に訂正&追記しました。

・下記のランクは総合力の目安であり、相性、戦術、切り札、油断や慢心などで、ランク差をひっくり返すことも可能です。
・主人公の主観的判断が元になっていますので、実際の強さとずれている場合があります。

【質問55】

さよの加入の回で、設定ではさよの魔力が高い理由は霊格が上がったからとなっているのに、次の回の本文では世界樹とのラインが繋がっていたからとなっています。

設定の方で、「僕の解析能力で詳細に調べたところ」とか書いておいてそれはおかしい気が…

【回答55】本編修正

指摘いただき、ありがとうございます。

上記の件、後者の本文の記述が誤っていた為削除しました。

【質問56】

ネギまの世界での魔法で世界間移動するには、聖地の膨大な魔力が必要と、複雑な術式と大きい施設で制御しているのにAFで再現出来るのはおかしいと思う。

【回答56】

指摘いただいた通り、世界間移動が簡単すぎたと考えなおしました。

そこで、

- ・サーヴァントがある程度容易に召喚可能であること
- ・桜ルートで、凜が宝石剣を使って平行世界から魔力を取ってきていたこと

から、『麻帆良世界と聖杯世界の移動は、サーヴァント（または、実体を持たない存在）しか移動できない』という設定に変更しました。

「『世界扉』と『令呪』を使ってサーヴァントのみ、それも固定したたった一つの世界へ移動可」なら可能ではないかと考えました。
『世界扉×令呪 宝石剣』という設定です。

【質問57】

聖杯世界で仮契約してもA F協会がないのでA Fは出現しないのでは？

【回答57】追加設定

『世界扉を通じて麻帆良世界と繋がっていたので、A Fが出現した』という設定です。

【質問58】

《時の天秤》で肉体の若返りをしてますが、ネギま世界での魔法技術的に不可能なのでは？

時間操作にしても、加速や遅延はありますが逆行はできないはず。

【回答58】

申し訳ありません。

こればかりは、完全にご都合主義ですね。

メドゥーサの『桜を助きたい』魔物になる前の体に戻したい』『身長を低くしたい』若返りたい』という願いと英霊としての能力が具現化した宝具クラスのアイテム、だとうご理解ください。

聖杯世界では、ギルガメッシュの宝具（の原典）として、若返りの薬もありましたし。

【質問59】

元ネタでは、無双するのは題名通り魔女・槍兵・チートだけで、他のメンバーは日常？の象徴的なものなんです、こっちは従者のみんながみんな戦闘要員の感じがします。

【回答59】

これは、それぞれの主人公の方針の違いが大きいです。

こっちの主人公は、朱雀やいるかもしれない他のトリッパーに対抗する戦力として従者を求めています。

万が一にもトリッパーと戦闘が勃発した時に巻き込んで死なせてしまう可能性を下げるため、今のところ主人公は『戦闘力のない』従者や仲間、親しい友達』を作る予定』はありません。

【質問60】

題名のように、あくまで「ライダー」と「トリッパー」を「ネギま」で暗躍させ、Fateとクロスさせたりしないほうがよいのではないのでしょうか？

【回答60】

今後、主人公は聖杯世界とはあまり関わらない予定です。

というか、主人公は聖杯世界へ移動できませんし、他にスカウト

できそうな人材も思い当りませんし、桜はメドゥーサが守るので、主人公が聖杯世界でできることはもうない、と言いかえてもいいですね。

元々、『聖杯戦争の記憶を持っているメドゥーサ』の願いを叶えるため、どうしても聖杯世界に関わる必要があり、主人公が介入したのはあくまでのそのついで、です。

これ以上介入する理由が無いので、今後は『ときどきキャサリン経由で士郎達に伝言とかアドバイスをすること』を考えています。

【質問61】

あまりFate覚えてませんが、大聖杯を放置したままで良いんですか

【回答61】

凜ルートでは大聖杯は残ったままのはずですから、確かに大聖杯のことを士郎達に教えた方がいいですね。

バゼットが目覚まして、セイバーが己の願いを諦めた後ぐらいに。

書く機会があれば、上記の件についても触れてみます。

【質問62】

一見強そうに見える主人公チームですが、それぞれ致命的な弱点があるような？

主人公（コピー能力）とイリヤ（聖杯、魔術回路）は起源弾、さよ（契約）とライダー（サーヴァント契約）はルールブレイカー、アスナ（黄昏の姫御子）はエルキドゥ、さつき（吸血鬼）はハルペーであっさり無力化出来るのでは？

【回答62】

全くその通りです。

主人公は、自分たちが無敵でも不死身でもないとわかっているの
で、可能な限り戦力を増やし、回復手段や対抗策を増やそうと努力
しています。

【質問63】

贗作工房って持ち運べる形状のものなのでしょうか？

【回答63】

「工房」という名前ですが、手で抱えるサイズです。

【質問64】

さよが道具作製のスキルを持っているとはいえ、自分以外のア
ティファクトを使用できるのでしょうか？

【回答64】追加設定

メドゥーサと主人公がリンクした状態なら、主人公のアーティフ
アクトをメドゥーサが起動できる、という設定です。

【質問65】

メデューサに心霊医術の技能あるんですか？

【回答65】追加設定

さよが実施したことに修正しました。

『さよは回復魔法、治療魔法に優れている為、その応用で令呪を
移植できた』という設定です。

【質問66】

：今まで気になってたことなのですが、本文と設定が1話ずつ繋がっているのがテンポよく続けて読みづらいです
章で別けられてはどうか、と思いますです

【回答66】

申し訳ありません。

私も章で分けることを考えたのですが、『「にじファン」の機能で更新チェックをしている方は、一番下のタイトルが更新されないと、更新されたかわからない』そうです。

かといって、本編の前に『メモ』の章を置くのも不自然のため、現在のような構成になっています。

何かいい方法が見つかれば、構成を変更する予定です。

アーティファクト一覧（アイデア募集中）（前書き）

素晴らしいアーティファクトのアイデアを、たくさん提案していただきありがとうございます。

さっそく、いくつかのアイデアを正式採用し、一部のアーティファクトは今後ストーリーに絡ませる予定です。

また、主人公の従者が増えるたびに、追加でアイデア募集を行う予定です。

よろしくお願いします。

注 下記の内容には重大なネタバレがありますので、本編読了後にお読みください。

アーティファクト一覧（アイデア募集中）

【連絡事項】

第03話に書いた通り、この物語において『主人公の仲間たちは総当たりで相互に仮契約バックティオーして、アーティファクトを手に入れる方針』です。

正直アイデアが追いつかないので、一部のアーティファクトのアイデアを募集しています。

『最終決定していないアーティファクトにおいて、主と従者の能力、素質に合うアーティファクトのアイデア』がありましたら、ぜひご連絡ください。

いただいたアイデアが私のアイデアより優れていた場合、採用させていただきます。

なお、アーティファクトの機能の一部は、ストーリーに合わせて変更させていただくことがあります。ご了承ください

【設定】

1・原作「ネギま」における仮契約バックティオーによって現れるアーティファクトの設定

・魔法使いの能力によっては、各パートナーごとに潜在能力をさらに引き出すことができる固有のアーティファクト（魔法のアイテム）が与えられる。

2・この物語の追加設定

・仮契約バックティオーした人がサーヴァントの力を持っている場合、与えられるアーティファクトに補正あり。

・ネタアーティファクトは、主人公との仮契約バックティオーのアーティファクトのみ与えられる。（例：夜天の魔法書）

・さよかメドゥーサが構築した魔法陣を使った場合、仮契約で相互
契約は可能になる。

【最終決定ではないアーティファクト】

主

×従者 〃アーティファクト
間桐桜 ×メドゥーサ 〃忠誠の指輪

キャスター
相坂さよ ×バゼット 〃琥珀の腕輪（ルーンに加護付き）
セイバー
アスナ ×バゼット 〃

ライダー
メドゥーサ ×千夏 〃
セイバー
アスナ ×千夏 〃

ライダー
メドゥーサ ×千佳 〃
キャスター
相坂さよ ×千佳 〃
セイバー
アスナ ×千佳 〃

【提供いただいたアイデアのアーティファクト】

○検討中

○採用予定

○採用済み
キャスター
相坂さよ ×八神遼平 〃夜天の魔法書
セイバー
アスナ ×八神遼平 〃魔眼のコンタクト

相坂さよ	キヤスター	× アスナ	セイバー	ミステルティン
アスナ	セイバー	× 相坂さよ	キヤスター	世界樹の宿木の剣
メドゥーサ	キヤスター	× 間桐桜		昂魔の宝珠
相坂さよ	セイバー	× 間桐桜		魔獣の指輪
アルトリア	キヤスター	× アスナ	セイバー	四天の指輪
アルトリア	セイバー	× 相坂さよ	キヤスター	ウロボロスの心臓
間桐桜	キヤスター	× 相坂さよ	アサシン	ダビデの豎琴
相坂さよ	セイバー	× キヤサリン	アサシン	縛めの指輪
アスナ	セイバー	× キヤサリン	セイバー	琥珀の爪
間桐桜		× アスナ		夜霧の指輪
				影の剣

【アーティファクトの一覧&機能】

○いただいたアイデア

- ・フェイルノート：必中の弓矢
- 『アーチャー』のアーティファクト候補
- ・ジュウユーズ：デュランダルと同じ金属でできた剣
- 『セイバー』のアーティファクト候補
- ・クラレント：アーサー王を殺した剣
- 『セイバー』のアーティファクト候補
- ・フィン・マクールの魔槍：フィン・マクールが実父の従者から貰った槍
- 『ランサー』のアーティファクト候補
- ・ブリューナクの槍：五つの切っ先から、それぞれ光線を放って攻撃する

『ランサー』のアーティファクト候補
アスラ・マキナ
・機巧魔神

主人公用のネタアーティファクト：副葬処女ネタ
ベリアル・ドール

・風皇の剣

魔力を込めることで、剣にかまいたちを纏わせて攻撃する。

剣を受け止めても、かまいたちによって切り刻まれてしまう。

『セイバー』のアーティファクト候補

- ・風狼の指輪

指輪に魔力を注ぐことで、3体の風によってできた狼を作り、役して攻撃する。

- ・宵闇の翼

漆黒の翼。飛行可能になる。

- ・影ぬいの矢

影を縫い付け、一定時間動きを止める。

- ・風幻結界

空気を圧縮し、体に纏い鎧とする。空気であるが故に、不可視であり、重さもない。イメージとしては、オーフェンの「琥珀の楯」を全身に纏った感じ。

また、威力が低下するものの、従者の力を借りることで、風の結界を作り、味方を守ることも出来る。つまり、物理防御も可能なフバーハ。

で、圧縮した空気の鎧ですから、物理防御のみならず、炎・冷氣・電撃等防ぐことができる。耐久が1ランクアップする。

- ・シルフの書

風の魔法書。風の力を利用することで、身体強化することができる。その場合、筋力・敏捷が1ランクアップする。

ネギの「雷」化のように、「風」化する魔法も修業次第で使えるようになる。

- ・宵闇の鎌

効果は、ダイ大の「死神の笛」。

『アサシン』か『ランサー』のアーティファクト候補

- ・戦乙女の腕輪

身体能力が強化される。筋力・敏捷が、1ランクアップする。また、触れるだけで、武器の使い方について、理解することが出来る。つまりは、ガンダールヴの能力が付与された腕輪。

- ・ 神馬の手綱

神馬スレイプニルを召喚し、騎乗することができる。

- ・ タスラムの指輪

魔弾タスラムの名を持つ指輪。光弾を放って攻撃する。魔力を多く込めれば込めるほど、放つ光弾の数も増加する。

- ・ 矢よけの指輪

矢よけの加護がある指輪。

- ・ 夢刃の檻

元ネタとしては、ダイ大のキルバーンが使う罫、ファントムレイザ^ザ。13本の不可視の刃を敵の周囲に設置する。

重力に影響されることのない刃であり、空中に設置することができる。設置者は、刃に触れても、傷付くことはない。

『アサシン』のアーティファクト候補

- ・ 風神の薙刀

突風を巻き起こし、敵を吹き飛ばすことができる薙刀。

- ・ 幻惑の羽

周囲に光の羽を撒き散らし、敵を攪乱することができる。

○ 検討中

○ 採用予定

○ 採用済み

- ・ 魔眼のコンタクト：『直死』『石化』以外の型月の魔眼を再現

ミステルテイン

- ・ 世界樹の宿木の剣：不死身の神となったバルドルを殺した宿木の剣（対神&対不死身のアーティファクト）

・ 昂魔の宝珠：魔法の発動をサポートする。一定容量内の魔法を貯めて、特定のキーワードで発動できる。世界樹の端末も兼ねているため、さよに危険が迫った場合、光鷹翼の具現化&操作を自動で行う。

・ ダビデの豎琴：ダビデが悪霊退散を行った豎琴

・ 夜天の魔法書：魔法使いの魔力を直接吸収することで、魔法を収集する魔法書

・ 魔獣の指輪

魔力によつて影で魔竜・魔獣を作り、攻撃・防御・回復するといふことができる指輪

・ 四天の指輪

魔力をあらかじめ込めておくことで、使用時に魔力消費することなく使用可能

回復、防御、身体能力向上、魔術・魔法の威力向上の4つの魔法を使用可能。

・ ウロボロスの心臓：魔力炉心。大量の食物が必要な代わりに大量の魔力を生成。

・ ヘカテーの魔法書：魔法を扱うための心得、初級、中級、そして幾つかの高等魔法について書かれているが……。

・ ヘルメスの杖：生と死を司る。病の治療、死者の蘇生、冥界送りが可能。

・ 縛めの指輪（いましめの指輪）

指輪に魔力を注ぐことで、敵を捕縛するための魔法陣を展開。一定時間、影の牢獄を作り出し、敵を拘束する。

・ 夜霧の指輪

魔力のこもった霧を発生させる指輪。霧に包まれると、方向感覚を失う。気配も感じ取ることができなくなる。

また、霧には魔力が込められているので、そこかしこから魔力が感じられるため、魔力感知できなくなる。

・ 琥珀の爪

心を静め、魔法行使をスムーズに行うことができる。精神攻撃耐性有り。

琥珀の爪に埋め込まれている宝玉には、術者の魔法効果を増幅させる魔法陣が組み込まれている

・影の剣

魔力によつて影の刃を作り、投擲して攻撃する。込める魔力が増えることにより、影の刃の数も増加する。

『セイバー』のアーティファクト候補

・グングニルの槍：世界樹の枝と熱した鉄でできた槍

『相坂さよ×ランサー』のアーティファクト候補

・アルテミスの弓矢：魔力によつて光の矢を作り、射出することで攻撃する。込めた魔力量によつて、威力が変化する。

『アーチャー』のアーティファクト候補

・ウジャトの眼：真実を見抜くと言われる眼。暗闇や、濃い霧の中であつても、はつきりと見ることが出来る。また、魔術による幻覚も無効化する。魔眼スキルの威力を上げる。

『魔眼』スキル持ちのアーティファクト候補

【本編のアーティファクト一覧】

主×従者Ⅱアーティファクト

○1995年6月19日

セイバー
八神遼平 × メドゥーサⅡ世界扉

セイバー
八神遼平 × 相坂さよ Ⅱ キャスターの運命、ポルスターガイスト

ライダー
メドゥーサ × 八神遼平 Ⅱ 贗作工房
ライダー
メドゥーサ × 相坂さよ Ⅱ 魔法人形

相坂さよ キヤスター × メドゥーサ ライダー || 魔眼制御の眼鏡
 相坂さよ キヤスター × 八神遼平 セイバー || 夜天の魔法書

○ 1996年1月9日

八神遼平 ライダー × アスナ セイバー || セイバーの運命、ハマノツルギ
 メドゥーサ ライダー × アスナ セイバー || ハルベィ 蛇刈る刺突剣
 相坂さよ キヤスター × アスナ セイバー || ミステルテイン 世界樹の宿木の剣

アスナ セイバー × 八神遼平 ライダー || 魔眼のコンタクト
 アスナ セイバー × メドゥーサ ライダー || 時の天秤
 アスナ セイバー × 相坂さよ キヤスター || 昂魔の宝珠

○ 1996年7月21日

相坂さよ キヤスター × クー・フリーン ランサー || 世界樹の種

メドゥーサ ライダー × 間桐桜 キヤスター || 魔獣の指輪
 相坂さよ キヤスター × 間桐桜 セイバー || 四天の指輪
 アスナ セイバー × 間桐桜 キヤスター || 破魔の指輪

間桐桜 ライダー × メドゥーサ キヤスター || 忠誠の指輪
 間桐桜 キヤスター × 相坂さよ セイバー || 縛めの指輪
 間桐桜 セイバー × アスナ キヤスター || 影の剣

衛宮士郎 セイバー × アルトリア セイバー || 騎士王の武具
 衛宮士郎 × 遠坂凜 || ? (秘密)

衛宮士郎 × 間桐桜 || ? (秘密)

セイバー
アルトリア × 衛宮士郎 || ? (秘密)

セイバー
アルトリア × 遠坂凜 || ? (秘密)

セイバー
アルトリア × 間桐桜 || ? (秘密)

遠坂凜 × 衛宮士郎 || ? (秘密)

セイバー
遠坂凜 × アルトリア || 魔力のペンダント

遠坂凜 × 間桐桜 || ? (秘密)

間桐桜 × 衛宮士郎 || ? (秘密)

セイバー
間桐桜 × アルトリア || 影の馬

間桐桜 × 遠坂凜 || ? (秘密)

○ 1996年8月

セイバー
遠坂凜 × アスナ || アゾット剣

セイバー
遠坂凜 × 相坂さよ || 琥珀の杖

セイバー
アルトリア × アスナ || ウロボロスの心臓

セイバー
アルトリア × 相坂さよ || ダビデの豎琴

○ 1997年1月

ライダー
メドゥーサ × バゼット || フラガラック
斬り決る戦神の剣

セイバー
相坂さよ × バゼット || 琥珀の腕輪 (ルーンに加護付き)

セイバー
アスナ × バゼット ||

○ 1997年4月4日

ライダー
メドゥーサ × アイチャ
キヤスター
相坂さよ × イリヤ
セイバー
アスナ × イリヤ
|| アルテミスの弓矢
|| ヘカテの魔法書
|| ヘルメスの杖

ライダー
メドゥーサ × アサシン
キヤスター
相坂さよ × キヤサリン || ウジャトの眼
セイバー
アスナ × キヤサリン || 琥珀の爪
|| 夜霧の指輪

○ 1997年4月6日

ライダー
八神遼平 × 千夏
ライダー
八神遼平 × 千佳
|| ランサーの運命、
|| ライダーの運命、
|| シーカ・シクシロ
|| ヒ首・十六串呂
|| コチノヒオウキ
|| 東風の檜扇、南風の
|| ハエノス

ライダー
メドゥーサ × ランサー
キヤスター
相坂さよ × 千夏
セイバー
アスナ × 千夏
|| グングニルの槍

ライダー
メドゥーサ × ライダー
キヤスター
相坂さよ × 千佳
セイバー
アスナ × 千佳
||

八神式「強さ表」：第19話時点（前書き）

麻帆良世界1997年（第19話）時点の主人公が持つ情報と「ネギま」と「Fate」の原作知識に基づいて作成した強さ表です。キャラの強さランクで誤っていると思うものがありましたら、お知らせください。

注 下記の内容には特大のネタバレがありますので、本編読了後にお読みください。

八神式「強さ表」：第19話時点

【麻帆良世界1997年（第19話）時点の強さ表】

これは、「主人公自身の経験と予想」と「前世で見た2chの考察情報と原作知識（ラカン式強さ表含む）」に基づき、『八神遼平が考えた「強さ表」』です。

下記のランクは総合力の目安であり、相性、戦術、切り札、油断や慢心などで、ランク差をひっくり返すことも可能です。

主人公の主観的判断&情報が元になっていますので、実際の強さとずれている場合があります。

なお、Fateのパラメータのランクと、下記の「強さ表」のランクは全く別のランクです。ご注意ください。

EX

チートトリッパー朱雀（最悪の想定）

ギルガメッシュ（本気モード）

SSS

チートトリッパー朱雀（本命の想定）

ギルガメッシュ（慢心モード、子供モード）

SS

魔改造デイルムッド

ラカン

ナギ

フェイト

ネギ（魔法世界編後期）

ヘラクレス

アルトリア

クー・フリーン

S

メディア（麻帆良世界）

魔改造メドウーサ

セイバー
アスナ

アーチャー
イリヤ

アサシン
キャサリン

エヴァ（封印解除時）

アルビレオ

デュナミス

ディルムッド（聖杯世界）

佐々木小次郎

メドウーサ（聖杯世界：桜ライダー）

エミヤ

A A A

キャスター
相坂さよ

バゼット（咸卦法を使用可）

メディア（聖杯世界）

ネギ（魔法世界編中期）

月詠（妖刀ひな装備時）

A A

偽エヴァ（エヴァの人造霊）

衛宮士郎（固有結界、気を使用可）

遠坂凜（咸卦法を使用可）

ネギ（魔法世界初期）

月詠（魔法世界編）

A

八神遼平（サーヴァント能力未使用時）

チャチャゼロ

麻帆良学園 魔法先生（平均）

高位と呼ばれる魔法使い

B

C

魔法学校卒業生

D

桜咲刹那（8歳時点）

近衛木乃香（8歳時点）

ライダー

千佳

ランサー

千夏

【パーティーリスト】

朱雀パーティー

EX : チートトリッパ 朱雀（最悪の想定）

SSS : チートトリッパ 朱雀（本命の想定）

SS : 魔改造デイルムッド

S : メディア

戦力外：長谷川千雨、椎名桜子、大河内アキラ

八神パーティー

S : 魔改造メドゥーサ、セイバーアスナ、アーチャーイリヤ、アサシンキャサリン

AAA : 相坂さよ

- A : 八神遼平（サーヴァント能力使用不可）
D : 千佳、千夏

アラルブラ
紅き翼

- SS : ラカン、ナギ、近衛詠春（大戦時）

- S : アルビレオ、タカミチ（魔法世界編時点）、クルト（魔法世界編時点）

- 死亡 : ゼクト、ガトウ

エヴァパーティー

- S : エヴァ（封印解除時）

- A : チャチャゼロ

- C : 絡繰茶々丸（現在は作成前）

衛宮パーティー

- SS : アルトリア（全て遠き理想郷と勝利すべき黄金の剣、アーティファクト有り）

- AA : 衛宮士郎（気と固有結界使用可）、遠坂凜（咸卦法を使用可）

修業中：間桐桜

- 備考 : 全員小型全て遠き理想郷を所持し、アルトリアと仮契約によるライン接続済みのため、吸血鬼並みの回復力を保有

間桐パーティー

- SS : 魔改造メドゥーサ

- AAA : バゼット

修業中：間桐桜、間桐慎二

以下、未来の強さ表になります。

フェイトパーティー（未登場）

SS : フェイト

S : デュナミス

AAA : 月詠（妖刀ひな装備時）

C : 焰、栞、暦、環、調

超パーティー（未登場）

S : 龍宮真名（半魔モード）

B : 超鈴音、龍宮真名（通常モード）

支援班：葉加瀬聡美

^{アラアルバ}
白き翼（未登場） 注 魔法世界編後期の強さ

SS : ネギ（闇の魔法使用時）

AA : 桜咲刹那（半妖モード）、犬上小太郎（獣化モード）

A : 桜咲刹那（通常モード）、犬上小太郎（通常モード）、

長瀬楓、古菲

B : 神楽坂明日菜、絡繰茶々丸

C : 近衛木乃香

D : アーニャ、綾瀬夕映、早乙女ハルナ、明石裕奈、佐々木

まき絵

支援班：宮崎のどか、朝倉和美、和泉亜子

脱落済：長谷川千雨、大河内アキラ、相坂さよ

脱落？：桜咲刹那、近衛木乃香

【強さ変動履歴】

1995年6月17日 八神遼平 : 戦力外↓A (サーヴァ
ント能力のコピー成功)

1995年6月19日 相坂さよ : 戦力外↓C (サーヴァント(偽)化)

1995年6月20日 相坂さよ : C ↓B (世界樹との契約)

1995年8月1日 メドゥーサ : A A A ↓S (魔改造実施、マスターの魔力増加によるパワーアップ)

1996年1月9日 八神遼平 : A ↓A A (『気』習得、修行によるパワーアップ)

相坂さよ : B ↓A (魔法の習得)
アスナ : 封印中↓C (サーヴァント)

偽)化)

1996年1月10日 アスナ : C ↓A (『咸卦法』の再習得、『戦いの歌』の習得)

1996年6月14日 八神遼平 : A A ↓A A A (魔法習得、修行によるパワーアップ)

メドゥーサ : S ↓S S (マスターの魔力増加によるパワーアップ)

相坂さよ : A ↓A A (サーヴァント化、修行によるパワーアップ)

アスナ : A ↓A A A (サーヴァント化、修行によるパワーアップ)

1996年7月20日 イリヤ : ? ↓A (夜天の騎士化)

キャサリン : A ↓A A (夜天の騎士化)
イリヤ : A ↓A A (魔法習得)

1996年7月22日 アルトリア : S ↓S S (投影アヴアロンと投影カリバーン入手、アーティファクト入手)

1996年8月 衛宮士郎 : A ↓A A (魔改造、セイバーとのライン接続、『気』習得、アーティファクト入手)

遠坂凛 : B ↓A A (『気』と『咸卦

法』習得、セイバーとのライン接続、アーティファクト入手)

1997年1月 バゼット : A A A (復活&『気』

と『咸卦法』習得、アーティファクト入手)

1997年4月4日 イリヤ : A A ↓ A A A (サーヴァ

ント化)

キャサリン : A A ↓ A A A (サーヴァント化)

1997年4月6日 八神遼平 : A A A ↓ A (メディア

による『サーヴァント能力』使用の阻害)

メドゥーサ : S S ↓ S (マスター弱体

化の影響

相坂さよ : A A ↓ A A A (スキルの下賜)

アスナ : A A A ↓ S (スキルの下賜)

イリヤ : A A A ↓ S (スキルの下賜&

『無限の剣製』習得)

キャサリン : A A A ↓ S (スキルの下賜)

千佳 : 戦力外 ↓ D (サーヴァント)

偽)化)

千夏 : 戦力外 ↓ D (サーヴァント)

偽)化)

八神式「強さ表」：第19話時点（後書き）

【更新履歴】

2 0 1 1 . 0 8 . 2 9 「1ランク差：相性が良ければ、戦術次第で逆転可能」に変更

2 0 1 1 . 0 8 . 2 9 「衛宮パーティー」を追加

2 0 1 1 . 0 8 . 3 0 「ランク差」に関する注意書きを変更

2 0 1 1 . 0 9 . 0 5 大改訂の内容を反映

2 0 1 1 . 1 0 . 0 1 【強さ変動履歴】を追加

改訂内容（2011年9月5日実施の第10話、第14話改訂について）（前書

2011年9月5日に実施した、第10話、第14話の改訂内容の概要は下記の通りです。

いきなり、ストーリーに大きな影響のある大改訂を行うことになり、申し訳ありませんでした。

改訂内容（2011年9月5日実施の第10話、第14話改訂について）

1．麻帆良世界と聖杯世界への移動

・改訂前

世界扉を使って麻帆良世界と聖杯世界を誰でも自由に移動可能。

・改訂後

世界扉を使って麻帆良世界と聖杯世界を移動可能なのは、魔力のみで構成されている人や物限定。

移動可能な存在

人：メドゥーサ、さよ、アスナ、イリヤ（夜天の騎士）、キャサリン

物：魔力で作った服、仮契約カードのオプション機能の服、仮契約カード

移動が不可能な存在

人：主人公、実体がある存在

物：投影品、実体がある物

・改訂理由

第二魔法の平行世界（異世界）への移動が簡単すぎた為。

「『世界扉』と『令呪』を使ってサーヴァントなどの実体がない存在のみ、それも固定したたった一つの世界へ移動可」なら可能ではないかと考察。

『世界扉×令呪 宝石剣』という設定。

2・主人公が助けた存在

・改訂前

イリヤスフィール：瀕死状態から復活して、サーヴァント（アーチャー）化

弓塚さつき

：瀕死状態から復活して、サーヴァント（バー

サーカー）化

・改訂後

イリヤスフィール：死亡&遺体を夜天の書に取り込んで、イリヤのコピーが夜天の騎士として誕生

弓塚さつき

：未調査&接触なし

・改訂理由

主人公が聖杯世界へ移動できないため、主人公がイリヤスフィールや弓塚さつきと仮契約できなくなった為。

『弓塚さつきが吸血鬼になった世界で、かつ偶然弓塚さつきが死にかけているところへ主人公が遭遇』というのが都合主義すぎる考えた為。

3・戦闘

・改訂前

八神チーム vs ギルガメッシュ（八神チームの逃走）

八神チーム vs 弓塚さつき（辛うじて弓塚さつきを無力化）

・改訂後 なし

・改訂理由

主人公は聖杯世界へ移動出来なかった為、イリヤを助ける方法は一番リスクが少ない方法を取った。

そのため、ギルガメッシュが立ち去って士郎達がイリヤのお墓を作っている時にイリヤを回収したので、ギルガメッシュに見つかるともなく当然戦闘も発生しなくなった。

弓塚さつきについては、会いに行かなかったため当然戦闘は未発生。

4・衛宮士郎たちへの交渉人

・改訂前

主人公

・改訂後

キャサリン

・改訂理由

主人公が聖杯世界へ移動できなくなったので、一番対人交渉能力に優れたキャサリンを交渉人に抜擢。

プロローグ

目が覚めると懐かしい天井が見えた。

そう、見慣れた天井ではなく、懐かしい実家の天井が見えたのだ。
……いや、違う。この天井は立て直す前の実家の天井だ。

あゝ、また、夢でも見てるのか？

全然自慢にならないのだが、僕は夢だと自覚している状況でものすごくリアル、かつ現実と同じく自分の思い通りにならない夢を見ることが結構あるのである。

ちなみに、幼稚園児のときはサイボーグの体になって幼稚園で暴走した夢を見た。……5歳にしてなんとという中二病。

今回もその一つかと思い、あたりを見回して見ると、両親が、それも若返った（30代ぐらい）両親が寝ている。

なるほど、子供の頃の夢を見ているのか、となるはずなのだが、横になぜか弟の代わりに、知らない女の子（小学生低学年ぐらい）が寝ている。

はて？ いったいどういう設定の夢なんだろう？

一番安直に考えると、ここは弟の代わりに（多分）姉がいる世界設定ということだろうか？

確か、死産した姉がいたという話を聞いたことがあるし、この世界では姉が無事に生まれたから、弟を作らなかったという可能性は十分ある。

特に僕は病弱でずいぶん両親に迷惑を掛けていたから、三人目の子供を生んで育てる余裕はなかったのか。

いまさらながら自分の体をチェックしてみると、指の鳴らしすぎで節くれだった指がほっそりとした可愛い指になっている。座

っているとはいえ、視線の高さもずいぶん低い。

隣にいる姉（？）らしき少女より身長が低そうなところを見ると、小学生低学年ぐらいか、あるいは幼稚園生という可能性もありそうだな。

いわゆる転生ものか？ それとも平行世界の同一人物憑依ものか？ 考え込むとこの世界の僕の記憶が思い出すことができた。どうやら、平行世界憑依ものらしい。

弟の代わりに姉がいるぐらいしか違いがないので、『逆行もの』の一種と考えてもいいかもしれない。

ふむふむ、まさに『体は子供、頭は大人』の名探偵コナンな状態だから、この状況なら、『目指せ立身出世＆ハーレム』が基本だろうな。

まあ、立身出世と言っても、『すでに理解していることを再び勉強する時間を、英語などの外国語や資格取得に回して学力アップする』ぐらいしか現時点では思いつかないが。

ああ、オタク趣味を生かして、この世界に存在しない小説を自分なりに再構成して公開してみるのもいいな。

うまく書けなければ、著作権フリーにしてネタを公開すればいい。あと、ハーレムは『美人になる素質がありそうな娘がいたら光源氏＆幼馴染計画を発動する』ということ。可能なら、無垢な女の子を自分色に染めまくるのもいいかもしれない。

そんなことを考えていると、眠気が襲ってきてそのまま寝てしまった。

で、目が覚めると、まだ夢の続き（？）だった。

いや、さすがにここまでくると、これは夢じゃないか？

でもなあ、夢だとわかっていてもものすごくリアルで、その世界で死ぬまで目が覚めなかった夢もあったからなあ。

まさに胡蝶の夢である。

あれの意味を、身を持って知る羽目になるとは思わなかったよな
あ。

ちなみに、何故か罪を犯して死刑執行された夢のことである。（
夢で）13階段を上って死んだ瞬間に目が覚めたが。

……夢とはいえ、やっぱり僕って普通じゃなかった？

確認したことないけど、こんな夢を結構見る僕は、かなりおかし
かったのか？

言い忘れていたが、今の僕は小学一年生である。

生まれた時代も前世より少し後にずれているが、まあ大したこと
ではないだろう。

気が付けば、一人称も『私』ではなく『僕』である。いつの間に
か、体に影響を受けていたようだ。

まあ、子供なら『僕』の方が相応しいから構わないけど。

前世のことはともかく、せっかく生まれ変わったんだから、何か
普通じゃないことが起きてもおかしくない。

……いや、絶対に起きるはずだ、と根拠のない考えの元、瞑想し
たり、念能力に目覚めなにか試したり、ありえない身体能力を持っ
ていないか全力で運動したりと、周りから見たら実にほほえましい、
子供らしい行為を繰り返した。

その結果、ついに僕は普通ではありえない力を持っていたことを
発見した。

それは、……解析能力である。

衛宮士郎とは違って、「人を見るとパラメータを見ることが可能」
という実に地味な能力である。

見れるのは、名前、性別、職業、種族、画像（全身の3D画像）

のみ。

もしかやと思い、色々試したが、他人のパラメータをいじることは不可能だった。

自分のパラメータなら何かできそうな感じがするのだが、現時点ではなにもできない。

……意味がなさすぎる。

一度見たパラメータは一定数まで保存可能で、後でも見ることが可能だ。

保存しなかったものは、再びその人と会わない限り再表示不可、という設定らしい。

人の顔と名前を覚えるのが苦手な僕にとっては、便利な機能かもしれないが、……こう、もっと強い能力とか戦闘に使える能力とかないんだろうか？

色々試した結果、保存したパラメータのリアル3D画像はポーズ変更が可能だと判明した。

ただし写真に撮るとか念写したりとかは一切できない。

うーん、テレパシーとか念写とか使えないと、他の人には一切見れないから「妄想乙」とか「超能力ごっこもほどにしとけ」と言われるのが目に見えてる能力だなあ。

名前が分かり、リアル3D画像が見えるのは凄いが、『デスノート』か『イドノエニツキ』がないと活用しようがない。

これだけでは、無いとは思いつけど何か事件に巻き込まれたらすぐに死んでしまうだろう。

まるで『解析しか使えない衛宮士郎』みたいなもので全く使えない。

せめて『衛宮士郎の投影や固有結界』とまでは言わないから、『強化』に該当する『戦闘に役立つ能力』は使えないのだろうか？

自分の能力の使い無さに嘆きつつ、暇つぶしに好きだったマンガ、小説、ゲームに出てくる地名をインターネットで検索していると、なんと麻帆良学園が実在することが分かった。

どうやらこの世界は『魔法先生ネギま！』の世界か、それに近い世界らしい。（念のため調べたが、『魔法先生ネギま！』のマンガは存在しなかった。）

これだ！！ この世界はある程度魔法の才能があれば、比較的短時間で（綾瀬夕映のように）それなりに強くなることができる。魔法の才能が無ければ、デスメガネのように気と咸卦法で強くなる方法も残っているしな。

そうそう、神鳴流や陰陽術もあったな。

素質と受け継いだ魔術刻印が全てと言っていい、型月の世界に転生よりはよっぽどましである。

「アラルツラ紅き翼」レベルは無理でも、努力すれば自衛の力を入れるぐらいはなんとかなるだろう。

何せ「魔法の矢」レベルでも銃レベルの殺傷力があり、それを使える魔法使いがごろごろいるのだから、最低限「魔法の矢」と「魔法の矢」を防げる魔法、そして（魔法の矢のダメージを回復できるレベルの）回復魔法は絶対に必要だ。……可能なら、戦場や敵から逃げ出せるような瞬間移動魔法も覚えたいところである。

『転生で得たチート能力で俺TUEEE』などというものは最初から諦めている。

そんなものは、神様にチート能力をもらって転生した奴（主人公）だけが見れる夢だ。

まあ、僕の解析能力がパワーアップすれば相手の能力の詳細とか、

あるいは弱点なども見れるかもしれないが、それでも偵察には役に立っても直接的な戦闘力にはならないだろう。

いやいや、漫画の世界へ転生できただけでも幸運だしな。

しかも、原作通りなら主人公周辺以外はそれなりに平穩に過ごせるわけだし、素質が枯渇していない限り努力すればある程度強くなれるという恵まれた世界である。これ以上の望むのは傲慢だろう。

『学園黙示録』や『マブラヴ（BETA編）』に転生したら、死亡フラグ満載だし、この世界に来たのはとっても嬉しい話だ。

問題は強くなるために、「誰に何を教わるか？」ということだ。

麻帆良学園に入学して、魔法生徒経由で魔法先生に紹介してもらい、魔法生徒として魔法を覚えるのが一番わかりやすい方法だろう。しかしそれは、学園長（愉快犯）や魔法先生（正義の味方病患者）の指揮下に入ることである。

「立派な魔法使い」を全否定するつもりはないが、『魔法生徒全員に対して「立派な魔法使い」を目指すように指導（強制 or 洗脳？）する』のは賛成できない。型月の魔術師の原則である「等価交換」のように、労働には対価を与えるのが普通ではないのだろうか？

そういう意味では、傭兵の龍宮真名の生き方には同意できるが、金儲けのために戦場に出ようとは思わない。……ましてや、ただ働きの義務として、麻帆良学園の侵入者と戦うなんて断固拒否させてもらう。……若いうちに適度の戦闘経験を積む機会として適しているとは思っけど。

そういう意味で、自己をしつかり持ってトラブルを全力で忌避する春日美空などは好感が持てる。

そうになると、麻帆良学園にいる中立かつ魔法に詳しい人材に魔法を教わるしかないが、……いかん、エヴァしか思いつかない。

転生者とはいえ、たかが30歳程度のサラリーマンの記憶を持つ6歳の子供。

うん、エヴァに手玉に取られて玩具にされるか、全く相手にされないかの二択になるのが簡単に予想できてしまう。

こっちの手札は『原作情報に基づくエヴァが求める情報と未来予知』が全てである。とっつかまって、心を読まれるか、洗脳されるか、手っ取り早く拷問されれば抵抗できずに全ての情報、それも僕が転生者である情報すら渡す羽目になる。

『最初は平和的にお知り合いになって交友を深め、その後情報提供をして信頼を得て、最後に依頼』というパターンしかないかなあ。……エヴァを恋人にする、あるいは契約で縛って支配下に置く、というのは論外だな。チートトリッパでもなく、ニコポやナデポの能力を持つわけでもなく、全然もてない僕にそんなことができるわけがない。というか、そんなことを考えていることがばれた時点でバッドエンド一直線である。

（敵対しない）女子供は殺さない主義らしいから、絶対とは言わないがそれなりに安全か？

僕としては、死亡フラグは絶対にいらないが、適度なスリルは欲しいと思う。

そのバランスを見極める洞察力は絶対に必要だな。

とりあえず、まずは瞑想や鍛錬でもして、魔力や気を感じ取る訓練でも始めることにするか。

第01話 チート能力(?) 覚醒(小学1年生 1995年6月17日)

今日小学校は、創立記念日で休みだった。

そのため、世間的にも有名であり、とても楽しいと評判である麻帆良祭に家族で参加することになった。

……もちろん、僕が猛烈にブッシュしたのだけど。

まずはエヴァとお近づきになるうと探してみたのだが、全然見つからない。

エヴァに会うことは諦めて普通に麻帆良祭を楽しんだ後、麻帆良祭(秘) コスプレコンテストを見学してみた。

「もしかしたら、小学生時代の原作キャラが出てくるかも？」なんて期待していたんだが、とんでもないものを発見してしまった。

舞台上に登場した魔法少女ビブリオンの少女のパラメータが、一切見れなかったのだ。

<パラメータ>

名前：x x x x

性別：x

職業：x x x

種族：x x x

これは、つまり『僕的能力を無効化する、あるいは通用しない能力』の持ち主ということなんだろう。

もしかして、僕以外のトリッパーか？

まあ、僕というトリッパーが存在する以上、他にいてもおかしくないとは考えていたけど。

『トリッパーに仲間がいるかもしれない』と考えて、目立たないように辺りを見回すと……、え〜と、あの〜、後姿しか見えないが、最前列に見える『ビデオカメラを構えている耳がエルフみたいな青髪の美女』って、まさか、もしかして……。

ばれたらまずいと悟ったが、視線を向けてすぐに動くのもまずいと考え、視線を外し、少し時間が経ってから静かに会場から去ろうと思った。

僕の視界にまだ残っている青髪の美女のパラメータを確認したところ、パラメータに能力という項目が追加されていた。

<パラメータ>

名前：メディア

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（キャスター）

魔術

令呪（残り0画）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 メディア

マスター ？

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【陣地作成】：A

 【道具作成】：A

保有スキル 【高速神言】：A

【金羊の皮】：EX
宝具
【破戒すべき全ての符】：C

このパラメータの情報は、……正しいんだろうなあ。
やっぱり、「F a t e / s t a y n i g h t」のキャスターの
メディアで間違いないようだ。

思わずメディアに向きそうな目の動きを僕はがんばって止めた。
あゝ、そういうことですね、この世界は『魔法先生ネギま!』で
はなく、『ネギまとF a t eのクロス設の世界』なんです。どれ
だけ設定がクロスしているかは不明ですけど。

使用済みの令呪を持っているということは、『メディアがサーヴ
アントを召喚済み&命令済み』ということか？

佐々木小次郎を召喚したのか？

それとも、さっきの少女が召喚されたサーヴァントなのか？

僕が調べた限りでは冬木市はなかったはずだけど、別の場所で聖
杯戦争があるのか？

あるいは、メディアがこの世界にトリップしたのか？

それとも、この世界の魔法使いに偶然召喚されたのか？

もしかして、トリッパーか転生者に召喚されたのか？

いくらでも湧いてくる疑問の答えを得るべく、より詳細な情報を
知りたいと思い、保存したメディアのパラメータに色々と試してい
た。

すると、能力の『令呪』を選択したときに『コピー』という選択
肢が表示された。

半信半疑でコピーして自分のパラメータの能力欄へ貼り付けたと
ころ、見事に成功しなげか『令呪（残り3画）』と使用回数まで増
えていた。

しかし、令呪があっても大聖杯がないとサーヴァント召喚ってできないはずだよな。

いや、メディアやサーヴァント（？）の少女がいるっていうことは、この世界にも大聖杯、あるいはそれに該当する存在があるのか？

そんな疑問より、『僕が令呪をコピーしたことに気付いたかも？』とメディアと少女の方を伺うが、二人とも特に反応は無し。

どうやら、『コピーしたこと』と『僕が令呪を持ったこと』はばれずにすんだようだ。

改めて魔法少女ビブリのオンのコスプレ少女のパラメータを確認すると、相変わらず内容は不明だが、能力欄が追加されていた。

<パラメータ>

名前：××××

性別：×

職業：×××

種族：×××

能力：××××××××××××

とりあえず、謎の少女のパラメータの保存を試すと、これは成功した。

やっぱり能力で自分の情報を他人から見えないようにしているのだろうか？

『見えないままだが、彼女の能力もコピーできないだろうか？』と駄目元でコピーを試したら成功したので、自分のパラメータの能力欄へ貼り付け……ようとして、思いとどまった。

すでに令呪をコピーしているのに、ここでさらに『トリッパーが持つ謎の能力』のコピーに成功してしまうと、メディアたちにはれる可能性が高すぎる。

しかし、コピーしないのはもったいなすぎる。そう思っていたところ、新しい機能が使用可能になり、メディアにはれずにコピーできそうな方法がわかった。

いきなり謎の能力をコピーするのは怖いので、まず『サーヴァント（キャスター）』で試したところ、これはコピー不可だった。

なぜ失敗したか解けない謎に悩みながら、『謎の少女の謎の能力』をコピーしようとすると、今度は『容量が足りません』というエラー表示が。

……だが、それくらいでは今の僕は諦めない。

せっかく令呪以外のコピーできそうな強そうな能力（予想）があるんだ。

隠しているんだから、隠す必要があるぐらい強力か、貴重な能力を持っているのだろう。

……彼女たちに僕の存在をばらしたくない。けどどうしても、なんとしても欲しい！

この能力が手に入れば、多分この世界でも安心して生きていける……！！

そう強く強く何度も念じていると、なんと勝手に令呪が発動し、ついに能力のコピーに成功した。

僕はコピーに成功した能力を見て驚愕した。

そこには、なんと『サーヴァント』という能力が表示されていたのだ！

一瞬目を疑った後、衝動的に使おうとして、慌てて思いとどまった。

一つ目の理由は、（幸いにも「僕の存在をばらしたくない」と考

えたのが影響したのか、体外に漏れた魔力量は少なかったが）令呪を使って能力をコピーしただけでも危険なのに、サーヴァントの能力を発揮したら、絶対に僕の存在がメディアにばれる。

二つ目の理由は、『アーチャーの腕を移植した衛宮士郎』のように、ただの人間が『英霊の能力を制御できる素質や魔術などの準備』もなく、いきなり英霊の能力を不用意に使うとすれば、近い将来、下手すれば即自滅する可能性が高いと考えたからだ。

幽遊白書の浦飯幽助も幻海から霊光玉を受け取った時に死にかけてたしな。

特に僕の場合、神様にもらった能力ではなくトリップにより自力で得た（？）能力である。

コピーした能力を問題なく使えるような安全装置なんて、絶対にっていないと考えるべきだ。

そうだ！ もしこいつもトリッパーだった場合、『英霊の能力』を持つている以上、『英霊の能力を制御できる能力』を別に持っているんじゃないか？

そう考えた瞬間、例によって文字は読めないが、新しい能力が表示された。

ビンゴ！

僕はためらわずに即コピーを行った。

意外なことに、今度はすんなりコピーに成功した。

新しくコピーした能力を確認すると、それは『能力使用による心身への悪影響の無効化』という予想通りの能力であった。

よしっ、これを使えば英霊の能力使用による自滅が避けられるな。

……さすがに能力を暴走させた場合は死んでしまいそうだけど。

しかし、『能力使用による心身への悪影響の無効化』などというこれまたとんでもない能力が、さっきとは違ってあっさりとコピーできたことが不思議だった。

そこで、改めて自分の能力を確認したところ、とんでもないこと

が起きていた。

なんと「能力複製」の対象がたった一人に固定されていたのだ。

……まあ、使えない手札を山ほど持っているよりも、コピーできた『英霊の能力』の手札の方がよっぽど強くて使い勝手がいいのは確かだけど。

再び疑問が色々と湧いてきたが、今は安全な場所に避難するのが最優先。

なにせ令呪が発動してしまったんだ。

もしかしたら、メディアにばれたかもしれない。

すぐに『飽きたので他の場所へ行きたい』と家族に話しかけたところ、家族はそれに同感だったらしくそのまま会場を出ることになった。こうして僕は『これ以上コスプレ大会を見る気が無くなった子供』を可能な限り全力で演じて会場を出た。

それ以降、学園において謎の少女サーヴァントやメディアに会うことはなかったが、自宅に帰るまで僕はまったく安心できなかった。相手が謎のサーヴァント少女とキャスターであるメディアなのだから、これくらい警戒してもやりすぎということはあるまい。

もっとも、鳥や虫タイプの使い魔に追跡されていれば意味がないけど。

もしかすると雑魚として見逃されたのかもしれないが、それならそれでOKだ。

……ついでに言えば、エヴァや原作キャラにも会うことはできなかった。

やっと自宅にたどり着いた後、疲れたと言って僕は寝室に入った。

そして、改めて自分のパラメータを確認すると、次のようになっていた。

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

令呪（残り2画）

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り2画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

どうやら、僕が持っていたレアスキルは「能力複製」というスキルのようだ。

そして、今まで使っていた他人のパラメータを見られる「能力解析」は、この能力の一部だったらしい。

安心できるのは『能力による負担と身体への悪影響の無効化』という能力をコピーできたことだ。

この能力は、（多分）『リスクなしでサーヴァントの能力が使える』というチートな代物である。

もちろん、怪力のように『能力そのものにデメリットが存在（設定？）しているもの』は例外だろうが。

普通の人間が特別な対策なしで英霊の能力を手に入れるとどうい

うことになるかは、アーチャーの腕を移植した衛宮士郎でよくわかってる。

この能力がなければ、英霊の能力など怖くて使えない。

さっそく、「能力（複製）（選択可能）」欄にある「サーヴァント」能力を選択したところ、選択した能力が自動的に『能力（複製）（使用中）』に表示され、＜サーヴァントのパラメータ＞が表示されたが、その内容は突っ込みどころ満載だった。

＜サーヴァントのパラメータ＞

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：B +

【精霊の加護】：B

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

何この、『Fate Zero』と『Fate/stay night』に登場した英霊の能力を組み合わせて、万能かつ最強設定の英霊を作りました』的な保有スキルと宝具は。

ステータスがほとんどEで、スキルや宝具などのランクが全体的に低いけど、それ以外がほとんどないことになってるぞ？

ここまでチート、かつ『Fate Zero』と『Fate/stay night』に登場した英霊の能力しか使っていないことから考えると、謎の少女セイバーは『自分で選択した英霊の力を持つオリ主』そのものか、『オリ主が能力を設定したオリジナル英霊』、あるいは『オリ主のチートスキルで能力を魔改造済みの英霊』のどれかってところか？

最後の予想が正しかった場合、今後メディアも魔改造される可能性もあるし、まじで洒落にならない。

どちらの予想が正しいにせよ、彼女のステータスがほとんどEということはないだろう。多分、オリジナルと同等以上のパラメータのはずだ。

となると、僕的能力ではパラメータをコピーできなかったということだな。

ただ、なんとなくだけど、英霊のパラメータをコピーしなかった代わりに、自分が成長することでパラメータを向上させることは可能なような気がする。

この世界は、気と魔力それぞれの方法でパワーアップが可能だし、咸卦法という技術も存在する。

すでに、サーヴァントのクラスとスキルと宝具のコピーに成功してチートしている身なんだから、せめてパラメータ（身体能力）ぐらいは自力でがんばって成長させよう。

……それがとんでもなく大変だということは理解しているが、この世界の場合、ナギとかラカンとかぐらいの実力なら英霊とタイマ

ンで戦えそうな強さだし、素質があれば英霊並みに強くなるのも不可能ではなさそうだ。

この世界の僕には『複製能力』というレア能力があったんだから、少しは身体能力の方にも素質があるはずだ。……ないならしないで、英霊エミヤのように、努力を果てしなく積み重ねてやるまでだ。

少なくとも、保有スキルとクラススキルと宝具があるから、衛宮士郎よりスタートが圧倒的に有利なのは事実だしな。

後は『24倍速の魔法球』と『身体能力はアップするけど、老化は停滞 or 停止の魔法具か魔法薬』を手に入れば、英霊エミヤ並みの努力を積み重ねるのは不可能じゃないだろう。

『それだけの努力を飽きずに、嫌にならずに続けられるか?』という問題はあるけど。

幸運だけランクAなのは、夢だった『マンガ設定の世界への転生(憑依)』『若返り』『チート能力ゲット』『英霊能力ゲット』という自分の夢(願望&妄想)をかなえたからだろうな。

もっとも、現時点で『肉体系と魔力のステータスが全部ランクE』というは、まともなサーヴァントに会えば瞬殺されるレベルである。強くなるまでは、絶対に隠れ、逃げる必要があるわけだ。

話を戻して、会場にメディアがいたということは、最低でも謎のセイバーと協力関係にあるのは間違いないだろうし、多分どっちかがどっちかを召喚した可能性は十分に考えられる。

メディアが謎のセイバーを召喚していた場合、さらにトリッパーが別にいる可能性も高くなる。

この時点で、この二人に敵対するのは自殺行為なのは確定。いくら僕が『サーヴァント(セイバー)』の力をコピーできたのだとしても、謀略を得意とするメディアと、謎が多いセイバーのコ

ンビを相手にしたら瞬殺されるのは目に見えている。

今後の行動目標として、

- ・可能な限りこの二人に関わらず、かつ見つからないようにする。
- そして、見つからないうちに、可能な限り強くなる&信頼できる戦力（仲間）を集める。

- ・見つかった場合、最低でも（好意的）中立。可能なら同盟を結ぶ。最低限の権利を認めてももらえるのなら、最悪の場合従属も可。

というところだな。命あつての物種である。命が助かるのなら、プライドなんていくらでも捨ててみせよう。

ただ、せっかく『魔法先生ネギま！』の世界にいるのだから、ある程度原作に関わりたいたいという気持ちもある。

まあ、彼女たちの状況がある程度わかり、こつちもある程度対抗可能な戦力を持つことができれば、中学生から麻帆良学園に入学するのもいいだろう。

僕は、『便利ではあっても戦闘には役に立たない特殊能力を持った、原作知識ありのトリッパー』でしかなかった。

本来なら、『戦闘能力は一般人レベルの、他人の特殊能力をコピーできる（制限あり？）レアな特殊能力者&原作知識ありのトリッパー』で終わったのに、セイバー少女がいて、彼女の能力をコピーできたおかげで一気にチート能力者になってしまったな。

ああ、そういう意味でも士郎と同じか。あいつも聖杯戦争に参加しなければ宝具、それもあれだけ多種多様な宝具を見る機会などなかっただろう。

聖杯戦争で多くの宝具を見る機会がなければ、固有結界所持者と

いう魔術的価値は変わらなくても、戦闘力が比較にならないほど弱くなっていただろうしな。

僕が気を付けなければいけないことは、『能力が優れていること』『能力を使いこなすこと』『技量が優れていること』『戦闘が強いこと』『戦う覚悟があること』は、全く別のことだと理解することだ。

特に覚悟は、実戦を経験しない限り本当に覚悟を決めているかどうかは、本人でも判断できない。

これを理解していないトリッパーとか、思い上がったあるいは勘違いしたトリッパーが、別のトリッパーやオリキャラ、時には原作キャラに退治されるのもよくある話である。

このことを忘れた瞬間、死亡フラグが立つと考えても過言ではないだろう。

麻帆良祭に参加していたメディアたちの目的は分からないが、願わくば戦うことは避けたいものだ。

この世界が、マンガ『魔法先生ネギま!』と同じ展開になるのなら、僕は地球対火星の戦いが起きるのは絶対に避けたいと思っている。

可能ならば、超鈴音と関わりを持ち、何かしらの方法で魔法世界人（火星人）が地球に来れないようにしたいものだ。

魔法世界人が地球に来れなくなれば、魔法世界が崩壊しようが、火星で復興しようがどうでもいい。

むしろ、地球と戦争することで消費する人材、資材、時間を火星の復興に費やすことができれば、原作より早く火星（魔法世界人）の自給自足の生活が可能になるかもしれない。

まあ、そんな大それたことを考えるより、まずは戦力アップをしないといけないか。

そんなことを考えつつ、衝撃の一日は終わっていった。

ライダー召喚は、次話になります。
もう少し、お待ちください。

【更新履歴】

2011.08.13 「備考」(登場人物のパラメータ)を追記
2011.08.13 余分な説明をメモへ移動
2011.08.30 余分な説明をメモへ移動(2回目)
2011.08.30 『「僕の存在をばらしたくない」と考えた
のが影響したのか、体外に漏れた魔力量は少なかったこと』を追記

【備考】

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力閲覧

能力複製↓能力複製(対象固定)

能力(複製)(使用中)：

令呪(残り3画↓2画)

サーヴァント(セイバー)

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力(複製)(選択可能)：

令呪(残り3画↓2画)

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター

アサシン

アヴェンジャー

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【精霊の加護】：B

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

謎の少女

<パラメータ>

名前：？

性別：女

職業：小学生？

種族：？

能力：サーヴァント（セイバー）

<サーヴァントのパラメータ>（下記のランクは推測含む）：

クラス セイバー

マスター ？

真名 ？

ステータス 筋力？ 魔力？

耐久？ 幸運？

敏捷？ 宝具？

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【黄金律】：A

【魔術】：C-

【無窮の武錬】：A+

【精霊の加護】：A

【直感】：A

宝具 【無限の剣製】：E→A++

【十二の試練】：B

【己が栄光の為でなく】：B

メディア

<パラメータ>

名前：メディア

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（キャスター）

魔術

令呪（残り0画）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 メディア

マスター ？

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【陣地作成】：A

 【道具作成】：A

保有スキル 【高速神言】：A

 【金羊の皮】：EX

宝具 【破戒すべき全ての符】：C

1995年6月17日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年6月17日のメモ

1. 僕的能力

1.1 確認済み能力

・能力解析

視界内の人について、「名前」「性別」「職業」「種族」「能力」の情報を閲覧可能

能力解析を行った対象がサーヴァントだった場合、Fateのパラメータシートと同じく「クラス」「真名」「マスター」「ステータス」「クラス別能力」「保有スキル」「宝具」を閲覧可能。ただし、「マスター」欄は「？」と表示（メディアの場合）

・能力複製：初期

メディアの『令呪（残り0画）』のコピー成功。

コピー後は、『令呪（残り3画）』に変化。

（『回数制限ありの能力をコピーした場合、使用回数は最大まで復活する仕様』と推測）

メディアの『サーヴァント（キャスター）』のコピー失敗。

・能力複製（対象固定）：能力変質後

コピー対象は、『謎のセイバー少女』限定。

『サーヴァント』と『能力使用による心身への悪影響の無効化』

のコピー成功。

『能力複製』に『対象固定』の条件が追加されたのは、『容量が足りません』とメッセージが表示されてコピーに失敗した能力を、（メディアからコピーした）令呪まで使って無理やりコピーしたための副作用と推測。

「H×H」の念能力の『誓約と制約』のように、『複製対象を一

人に固定し、他の人からは複製不可とする』、かつ『（コピーした）令呪を使用』することで、本来なら容量オーバーのチートスキルをコピー可能にした可能性あり。

メディアからコピーした令呪が、特別性とか改造済みだった可能性も考えられる。

1・2 能力解析の詳細

『能力解析』が通用しない存在を確認。理由は宝具「己が栄光の為でなく」が原因である可能性が高い。

『隠蔽の魔法、魔法具を使っている場合はどうなるか？』について、今後の調査が必要。

1・3 能力複製の詳細

（1）対象固定

『対象固定：今後、能力を複製できる対象は1名に固定』という条件が付いて外せない。

コピー済みの能力を残したまま、この条件が外せないか要調査。

（多分、外すのは無理だと思うけど）

能力複製系統の能力は、同時に使用できる能力数、保有できる能力数に制限があるのがお約束。

早めに限界を知る必要があるが、存在を隠すことが優先されるため、謎の少女に会うのはできるだけ避けておく。

今は、複製した能力を使いこなす方に注力するべき。

（2）クラス

謎の少女の「サーヴァント」のコピー成功。

初期は、「セイバー」クラスのみ。

その後、なぜか「ランサー」「アーチャー」「ライダー」「キャスター」「アサシン」「アヴェンジャー」クラスもコピーできてい

たことが判明。

ただし、「セイバー」以外はクラス別スキル以外はすべてなし。
(アヴェンジャーは、クラス別スキルもなし)

アヴェンジャーのクラス別スキルは元からなかったのか、僕が知らないから反映されなかったのか。

ゲーム内で一切触れられてはいなかったから、アヴェンジャーのクラススキルは元からなかった可能性もあるが、僕的能力は僕が知らないことは表示されない(使えない)仕様になっているようなので、クラスはコピーできても知らない能力はコピーできなかった可能性は高いと思う。

しかしこれではメリットなしのクラスが一つ増えただけである。
何かいい使い道があるといいのだが。

(3)ステータス

僕の「筋力」「耐久」「敏捷」「魔力」のパラメータはEランク。謎のセイバー少女の上記パラメータがEランクとは思えない。多分、原作キャラと同等以上のパラメータのはずだ。

よって、僕的能力では『自分の体のパラメータを英霊並みにする能力』はコピーできなかつたらしい。

原因は、「複製能力」の限界か、無意識にパラメータを上げる能力を拒絶したか、どちらかだと推測する。

・拒絶した原因1

アーチャーの腕を移植した士郎は、アーチャーの力を引き出すために一瞬で肉体改造(成長)していた。

元々、アーチャーの腕の封印を解いた時点で時限爆弾のタイマーが作動していたと思うが、それ以外にも何か犠牲にしていたと思う。

・拒絶した原因2

H×Hのゴンが『ゴンさん化』して大人の体を手に入れたときに、未来の才能を犠牲にしていた、らしい。

・僕が感覚的に受け入れ可能なパラメータアップの方法
強化魔術とか、魔力放出とか、魔術やスキルで一時的にパワーアップ

・僕が感覚的に受け入れ不可能なパラメータアップの方法
肉体改造

負担が最小限で、僕が無意識に受け入れられたパラメータアップが、ランクEという可能性は高い。

まあ、『死か肉体改造か』の二択になったら、迷わず肉体改造を選ぶけど、選ばなくていい状態なら一生選びたくないな。

(4) 項目

僕のパラメータに『能力(複製)(使用中)』『能力(複製)(選択可能)』の二つの欄が追加され、『能力(複製)(選択可能)』に『令呪』が表示されていた。

どうやら、僕の願いが新しい能力(項目)を追加したらしい。単に元から合ったけど、今まで気づいていなかったという可能性もあるが、同じことだ。

調査した結果、『能力(複製)(使用中)』に表示された能力は使用可能で、『能力(複製)(選択可能)』だけに表示された能力は使用不可であることが確認できた。

1・4 全般

他に気づいていない、又は眠っている能力はないか？

複製した能力の貸与、譲渡、複製、改造など？

「できること」「できないこと」、「できることのうち、さらにできることとできないこと」について研究が必要。

2・人物

・謎の少女

名前：？（「己が栄光の為でなく」で隠蔽）
性別：？（女に見えた）

職業：？（「己が栄光の為でなく」で隠蔽）

種族：？（「己が栄光の為でなく」で隠蔽）

能力：サーヴァント（セイバー）

他にもあるかも？

予想：謎の少女の正体

- 1・自分で設定した英霊の力を持つオリ主
- 2・オリ主が能力などを設定したオリジナル英霊
- 3・オリ主のチートスキルで能力を魔改造済みの英霊

サーヴァントのパラメータ（下記のランクは推測含む）：

クラス セイバー

マスター ？

真名 ？

ステータス 筋力？ 魔力？

耐久？ 幸運？

敏捷？ 宝具？

クラス別能力 【対魔力】：A

 【騎乗】：A

保有スキル 【黄金律】：A

 【魔術】：C-

 【無窮の武錬】：A+

 【精霊の加護】：A

宝具

【直感】：A

【無限の剣製】：E→A++

【十二の試練】：B

【己が栄光の為でなく】：B

備考

どう見ても、『Fate Zero』と『Fate/stay night』に登場した英霊の能力を組み合わせ、万能かつ最強設定の英霊を作りました』的な保有スキルと宝具。

特に誰もが考えるであろう最強コンボである【無窮の武錬】と【無限の剣製】がありえない。

【無限の剣製】や投影魔術で状況や敵に最適な宝具を投影して、【無窮の武錬】を使って担い手レベルで使いこなす。これで、敵と場所と状況に応じて最適な戦闘方法が可能。

【直感】と【十二の試練】で身を守って、【己が栄光の為でなく】で能力隠蔽と推測。

人生楽しく生きるために、そして装備や道具を充実させるために【黄金律】は基本。ネギま世界ならお金である程度ハイレベルな魔法具や回復薬を手に入れるってのも可能。

唯一疑問なのは【精霊の加護】の幸運向上。ずいぶん渋い選択をするものだ。

【無限の剣製】は衛宮士郎と英霊エミヤの心象風景であって、この二人以外が固有結界を展開する能力を手に入れたとしても、（それでも十分チートだが）その固有結界が無限の剣製になるはずがない。

まさかあの少女が女性版英霊エミヤ、あるいはアチャ子ということもないだろうし。

そうなると【無限の剣製】が使えるということは、これは『本人

の心象風景に関係なく、【無限の剣製】という固有結界を展開可能な能力』というチート能力であると推測される。

・メディア

名前：メディア

性別：女

職業：サーヴァント

能力：サーヴァント（キャスター）

魔術

令呪（残り0画）

予想：使用済みの令呪を持っていることから、サーヴァントを召喚&命令済み？

謎の少女がメディアが召喚したサーヴァントか？

謎の少女がメディアのサーヴァントでない場合、別のサーヴァントがいることになる。要調査。

サーヴァントのパラメータ：

クラス キャスター

真名 メディア

マスター ？

ステータス 筋力 E 魔力 A +

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【陣地作成】：A

 【道具作成】：A

保有スキル 【高速神言】：A

 【金羊の皮】：EX

宝具 【破戒すべき全ての符】：C

備考

魔術師でない葛城がマスターの時とパラメータが同一。

マスターが魔術師（魔法使い）ではない可能性あり。

あるいは、聖杯戦争敗退後に、こっちの世界へトリップして能力値が変化しないまま受肉化したか？

3・世界

麻帆良学園があることから、メインは「魔法先生ネギま！」の世界だと推測。

よって、この世界を「麻帆良世界」と命名。麻帆良は『日本最大の学園都市兼西洋魔法使いの拠点』で有名な場所だろうから、ちょうどいいだろう。

キャスターであるメディアがいたため、「Fate/stay night」とクロス設定なのは確定。

キャラクロスか、それとも世界設定融合か？

冬木市はなかったが、聖杯戦争などがないか調査要。

4・火星との戦争回避

・目的

この世界が、マンガ『魔法先生ネギま！』と同じ展開になるのなら、僕は地球対火星の戦いが起きるのは絶対に避けたい。

・手段

超鈴音と関わりを持ち、何かしらの方法で魔法世界人（火星人が地球に来れないようにしたいと思っている。

魔法世界人が地球に来れなくなれば、魔法世界が崩壊しようが、

火星で復興しようがどうでもいい。

むしろ、地球と戦争することで消費する人材、資材、時間を火星の復興に費やすことができれば、火星人が早く自給自足の生活が可能になるかもしれない。

超鈴音が来た未来の詳細情報は知らないが、100年後まで地球と戦争できていたのだから、魔法世界の崩壊後に現実世界の火星で自給自足の生活を構築できた、はずだ。

多分、チートアイテムである魔法球を気密室に大量に保管し、魔法球内で火星人が生活をしたのではないだろうか？

エヴァの魔法球を見た限り魔力を継続して供給した様子もなかったし、かなりメンテナンスフリーのようだった。

さらに、魔法球内では昼と夜があって空気もあるから、あれを避難民が全員入れる量だけ用意して、それらをすべて気密室に入れて連結するのはそれほど難しくないだろう。

気密室から出て地球へのゲートへ移動する場合は、宇宙服を着るなり、『宇宙服と同等の効果を持たせた魔法』を使えば問題ないだろうし。

5・成長限界

天才的な剣士ではあっても純粋な人間だった佐々木小次郎のパラメータは下記の通りである。

<サーヴァントのパラメータ>

クラス アサシン

マスター メディア

真名 佐々木小次郎

ステータス 筋力 C 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 A + 宝具 ??

クラス別能力 【気配遮断】 : D

保有スキル 【燕返し】

【心眼（偽）】 : A

【透化】 : B +

【宗和の心得】 : B

宝具

—

ただの人間でも、才能があつて限界まで努力すれば、（型月世界の設定では）『筋力：C、敏捷：A +』まで行けるって証拠だよな。サーヴァントとして召喚されたおかげで多少パワーアップした部分があるかもしれないけど。

ただし、『筋力：C』はまだ分かるが、『敏捷：A +』はありえないだろう。サーヴァントでも最速だぞ、これは。

いや、ただの人間でもここまで強くなれるということが証明されているんだから、いつか追いつき、追い越せるように努力しよう。

……保有スキルの方は、自力のみで超えるのはさすがに無理だとわかってるけどね。

一方、英霊エミヤは『（固有結界と弓術以外の）才能がない努力の人が到達した地点』であり、僕が目指す到達点として一見参考になりそうだが、あのパラメータは世界と契約してレベルアップした後の能力である。

世界と契約して本来の能力よりパワーアップしていると思うので、参考にはならないな。

仮に、世界と契約してステータスのランクが1ランクアップしたと仮定すると、

聖杯戦争時から（幸運と宝具以外の）ステータスのランクを1ラン

クダウンした場合

<サーヴァントのパラメータ>

クラス アーチャー

マスター 遠坂凜

真名 エミヤ

ステータス 筋力 E 魔力 C

耐久 D 幸運 E

敏捷 D 宝具 E } A ++

クラス別能力 【対魔力】 : D

 【単独行動】 : B

保有スキル 【千里眼】 : C

 【魔術】 : C -

 【心眼（真）】 : B

宝具 【無限の剣製】 : E } A ++

あつ、これなら納得できるな。

才能のない努力の人（魔術使い）が訓練と実戦を果てしなく積み重ねると肉体系パラメータはランクDまで、魔力はランクCまでランクアップ。

『鍛え上げた肉体＋限界まで熟練した強化魔術』なら、……うん、十分可能そうだ。

佐々木小次郎と世界との契約前（勝手な想像）の衛宮士郎のステータスから予想できるのは、神性もなく特別な血を引く存在でもないただの人間の場合

ランクA+ : 超天才 + 尋常じゃない努力

ランクC : 素質あり + 尋常じゃない努力

ランクD : 素質なし + 尋常じゃない努力＋限界まで熟練した

強化魔術

ランクE　：素質全くなし＋尋常じゃない努力＋限界まで熟練した強化魔術

まで到達可能ってどこか？

保有スキルは、完全に個人の素質と適性に強く関わる。それゆえに狙って身に着けられるスキルじゃないから、考える必要はない。

僕の場合、スタートがランクEという十分に恵まれている状況だ。
(ランクEで、一般人の10倍の能力だったはず)

素質があるかどうかは努力しなければわからないわけだから、限界まで努力あるのみだな。

不老化の手段さえ手に入れば、魔法球に入ってそれなりに努力するつもりはあるんだが。

……不老化は真祖化が一番確実かなあ。

備考

八神遼平　NEW

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製↓能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

令呪（残り3画↓2画）

サーヴァント（セイバー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り3画↓2画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター

アサシン

アヴェンジャー

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

宝具

【精霊の加護】：B
【直感】：B
【無限の剣製】：E
【十二の試練】：C
【己が栄光の為でなく】：C

（ランサー）

クラス別能力 【対魔力】：C

（アーチャー）

クラス別能力 【対魔力】：D
【単独行動】：B

（ライダー）

クラス別能力 【対魔力】：C
【騎乗】：A

（キャスター）

クラス別能力 【陣地作成】：B
【道具作成】：B

（アサシン）

クラス別能力 【気配遮断】：A

（アヴェンジャー）

クラス別能力 無し

【サーヴァント】

1・謎の少女 NEW

<パラメータ>

名前：？

性別：女

職業：小学生？

種族：？

能力：サーヴァント（セイバー）

<サーヴァントのパラメータ>（下記のランクは推測含む）：

クラス セイバー

マスター ？

真名 ？

ステータス 筋力？ 魔力？

耐久？ 幸運？

敏捷？ 宝具？

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【黄金律】：A

【魔術】：C-

【無窮の武錬】：A+

【精霊の加護】：A

【直感】：A

宝具 【無限の剣製】：E→A++

【十二の試練】：B

【己が栄光の為でなく】：B

2・メディア NEW

<パラメータ>

名前：メディア

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（キャスター）

魔術

令呪（残り0画）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 メディア

マスター ？

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【高速神言】：A

【金羊の皮】：EX

宝具 【破戒すべき全ての符】：C

1995年6月17日のメモ（後書き）

2011.08.30	本編から設定関連の記述を移動
2011.08.30	本編から設定関連の記述を移動（2回目）

第02話 ライダー召喚（小学1年生 1995年6月18日）

今日は僕の『サーヴァント』能力の詳細を確認するため、朝から外へ遊びに行った。

幸い近くに林がある広い公園があるため、その林の奥で試せば見つかる可能性は低いだろう。

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：B +

【精霊の加護】：B

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

改めて能力を確認すると気づくのは、スキルや宝具は原作より1ランク以上低いことだ。

……多分、複製時に1ランクダウンしたんだろうな。

衛宮の投影もそうだが、普通は複製したものが劣るのは当たり前だし。

固有結界の方は宝具が登録されていなかった。現在登録されている刀などはどこかで見たことがあると思ったら、前世において僕が見たことがある刀剣類しか存在しなかった

あとは、Eランクのパラメータだが、体が成長すればランクアップするのだろうか？

……まあ、この辺は地道に体を鍛えていくしかないだろう。それでランクアップすればよし、ランクアップしない場合はその時に対策を考えよう。

さて、次に調べるものは『令呪』である。

「僕の『能力解析』で解析できるはずだ」と詳細に『令呪』を解析したところ、徐々に詳細な情報を確認可能になった。

その結果、コピーしたものとはいえこの令呪が『原作の令呪と同等の能力を持っていること』かつ『この令呪を持った者が召喚を行えば、この世界でもサーヴァントの召喚が可能なこと』が判明した。メディアたちと敵対するにしろ、同盟するにしろ、手札や戦力が多いほうがいい。

当然、サーヴァントを召喚したいと思っているのだが、……召喚に使用する縁の品がない。

投影魔術が使えるので、できれば宝具を投影して使いたかったのだが、今の僕が投影できるものには英霊縁の品はない。……というか、平凡な人生を送っていたのに、英雄の縁の品を見ることが出来るほうがおかしい。大英博物館ならもしかして英雄縁の品とかあったかもしれないけど、行ったことないしなあ。

この状態で召喚するとなると、「縁の品なし」で召喚するしかない

い。

原作では『縁の品がない状態で召喚すると、召喚者と相性がいいサーヴァントが召喚される設定』だったはずだ。

となると、僕は『能力複製』、英霊エミヤは『武器複製』という能力の『複製』つながりで彼が召喚される、……ないな、これは。あるとしたら、コピーした『無限の剣製』つながりで英霊エミヤが召喚されるのか？

でも、英霊エミヤと僕の理想というか行動指針は違いすぎるから、彼の能力は魅力的でも、あまり呼びたくないなあ。

召喚できたとしても、いずれ英霊エミヤと対立してしまうような気がする。

あとは、この令呪が規格外の令呪で、『召喚するサーヴァントを召喚者が指定できる令呪』なら話は別だが、……僕の能力で調べた限りこれもないだろうなあ。

えーい、一か八か、このまま召喚してやる。

縁の品がない場合は召喚者と相性がいいサーヴァントが呼ばれるって設定だったはずだし、反英霊が召喚されるとか、召喚された英霊が反抗とか暴走されても、こっちに被害が及ぶ前に令呪で自害を命令すれば何とかなるはずだ。……極力やりたくないけど。

「一閉じよ（満たせ）、一閉じよ（満たせ）、一閉じよ（満たせ）、一閉じよ（満たせ）、一閉じよ（満たせ）」

繰り返すつどに五度、ただ満たされる時を破却する」

呪文を唱えながら魔法陣を書く。

といっても、魔法陣がわからないので、地面を削って六芒星を書いて、削った部分に水を満たし、少しだけ水に血を垂らした。

では、召喚開始だ。

「告げる。汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ

誓いを此処に。我は常世総ての善と成る者、我は常世総ての悪を敷く者、汝三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ

我に従え、ならばこの命運、汝が剣に預けよう」

ここまでは完全にオリジナルと同じ、しかし

「至れ、我がパートナーとなりし、美しき女性の英霊よ！」

我ながら欲望丸出しだったかと思っただが、まあものは試しと試してみた。

しかし、意外にも問題なく召喚陣より眩いばかりの光が発生し、そしてそれが集った。

そこには、足元まで届く長く美しい髪と顔の半分を覆う眼帯。

それはまぎれもない、ゴルゴン三姉妹の末妹である反英霊メドウ

ーサ。

……って、なんでメドウーサ？

まさか僕って、調子に乗って節操なく英霊の能力を使っていた結果、能力の暴走かなんかで化け物になる末路が待っているのか？

……いかん、凜ほどではないがうつかり属性を持っている僕なら、自分でもあり得ると思っってしまった。

「問いましょう。……貴方が私のマスターですか？」

そんな動揺しまくる僕には構わず、召喚者が6歳のガキだったにも関わらず、メドウーサは僕を見て率直に質問してきた。

「あ、ああ、そうだ、いやそうです。……よろしく頼む、いえ頼みます。これからよろしく願います。」

いまだ、動揺から立ち直れなかった僕だったが、何とかそれなりに返答することはできた。

「受諾しました。」

私、ライダーのサーヴァント、メドゥーサは、私の願いを叶えてくれるのならば、貴方の剣となり盾となり、貴方が望む限り貴方と共に戦うことを誓いましょう」

……んっ？　今、妙な言葉が混じってなかったか？

「……今、私の願いつて言ったか？」

「はい、何故かはわかりませんが。今の私は聖杯戦争でライダーとして召喚され戦った記憶を持っています。

そして、その聖杯戦争において私のマスターだった桜のことも。

私の願いは桜を助けること。聖杯戦争では途中で敗退したため、その後桜がどうなったのかが分かりません。

桜と再会し、桜を助け、桜の望みをできる限り叶えること、それが私の願いです。

この願いを叶える、あるいは叶えるために助力していただければ、桜の不利にならない限り、貴方の全ての命令に従い、忠誠を誓います。」

メドゥーサはここで言葉を切ったが、『この願いを切り捨てれば、力づくでも承諾させる』と言いたいのは僕にもよくわかった。

なるほど。どうやら、今回の召喚の縁の品として、僕の聖杯戦争に関する知識がキーになった可能性があるな。

そして、記憶がキーになったため、アルトリアじゃないのに『聖杯戦争の記憶を持った英霊』が召喚されたというわけか。

そんな無茶なことを可能にするなんて、やっぱりこの令呪、（僕では解析できなかったけど）とんでもなく特別性である可能性は高そうだな。

僕がFateの原作知識で知っている女性英霊は、アルトリア、メドゥーサ、メディアの3名のみ。

そして、召喚呪文の「パートナーとなりし」に該当したのが、『自分の願いが叶えられるなら、召喚者に対して絶対の忠誠を尽くす

覚悟』があつたメドゥーサのみだつたということか。

僕としても、桜は（アルトリアと凜よりは劣るが）好きなキャラではあるし、助けることに異論はない。

もつとも、保護とか可愛がるのはOKだが、恋人にしたいとは思わない。

……なんか、下手に桜に手を出して選択肢を間違えると、Nic e Boatになりそうな気がすごくするんだよね。

それはともかく、今の僕は身体能力のステータスはランクEだけど、（劣化しているとはいえ）サーヴァントのスキルなどを持っているから、メドゥーサと協力すれば臓硯を倒すことは可能だろう。

あとは、桜の体内の蟲が暴走しないようにメドゥーサが応急処置して、それ以降のことは凜にまかせれば何とかなる、と思いたい。

これで、メドゥーサの願いは叶うから問題ないはずだ。

そして、桜とメドゥーサのサポートを続ける限り、メドゥーサの忠誠は続くともていいな。

メドゥーサへの説明内容

1・暫定的に、メドゥーサがかつて召喚された世界を『聖杯世界』、この世界を『麻帆良世界』と呼ぶことを説明。（『聖杯世界』は聖杯戦争から即興で命名）

2・メドゥーサが召喚された世界へ移動して桜に会うため、異世界の移動手段を探すのを手伝い、移動できたら全力でメドゥーサをサポートして桜を助ける。

「ええ、この内容で契約していただけるのなら文句は全くありません

ん。

この契約が果たされ続ける限り、私は貴方に絶対の忠誠を誓います」

そう言った後、メドゥーサは少し考えて、誓いを訂正した。

「……失礼しました。一部、例外があります。

「2」の契約が果たされた場合、桜を救うことが最優先になります。

聖杯世界との往復が可能な場合は、あなたへの忠誠の優先順位は2番目になりますがよほどのことがない限り、あなたに不利益をもたらす行為は行いません。

万が一にもあなたが桜へ不利益をもたらす行動を行ったとしても、桜に害が及ぶまでにある程度時間があれば、実力行使に出る前にできるだけ話し合いを行います。

残念ながら、聖杯世界への移動が一方通行のため私が麻帆良世界に戻れない場合で、あなたが同行される場合も同様です。

聖杯世界への移動が一方通行で私が麻帆良世界に戻れない場合は、あなた同行されなければ移動する時までがあなたに仕える期間となります。この場合、あなたへの恩返しが終わっていない可能性も高いですが、一刻も早く桜を助けたいのです。

それでもよろしいでしょうか？」

ああ、僕の誠意に答え、メドゥーサも可能な限り誠実に回答してくれたようだ。

これなら、お互いを理解し、信頼しあえる主従関係を構築できると思う。

「僕はそれで文句はない。

よろしく頼むよ」

無条件の忠誠って、デイルムツドみたいに理由を知ってないと信用できないよね。

その点、メドゥーサの条件の理由はよくわかっているから、交換

条件の忠誠は僕にとってはわかりやすく安心してできるからいい。

問題は、僕以外に桜を助けることができる魔法使いが現れて、その魔法使いが僕と敵対している場合だが、……今のうちに確認しておこう。

「確認しておきたいが、契約の「2」を実現可能な魔法使いが現れて、その魔法使いが僕に敵対してきたらどうする？」

ああ、僕からはその魔法使いに対しては、向こうから喧嘩を売られない限り敵対するつもりはないし、できるだけ平和的に協力してくれるように依頼するよ。」

「そうですね。貴方は私の現マスターであり、桜を助けることについて契約を結んでくれた相手であり、この契約が果たされる限り絶対の忠誠を誓った対象です。」

貴方が原因でその魔法使いが敵対したのならともかく、そうでないのならば貴方の味方であり続けます。

……もちろん、桜を助けることを諦めるつもりはないので、力づくでもその魔法使いを従え、強制的にでも手伝わせるつもりですが「聞いたというよかった。僕が原因でない限りはOKみたいだ。」

「あと、念のためだけど、ああ、あくまでの念のため、IFの話だから怒らないでくれよ。」

もし将来君が『桜を助けたいという願い』を捨てたり諦めたりすることがあったとしても、僕が生きている限り、僕のサーヴァントとして最後まで従ってくれるということでもいいかな？」

「私がその願いを諦めることなどありません」

メドゥーサは即行でその言葉を否定した。

「確かに今の君を見るとそう思うけど、全知全能の神でない限り完全な未来予測はできないだろう？」

まあ、諦めるつもりがないから、そういう条件で問題ないね」

「ええ、全く問題ありません」

改めて、メドゥーサの過去、第五次聖杯戦争の内容を聞いてみた。すると、第五次聖杯戦争で敗退したメドゥーサであることは間違いないが、凜ルートの、つまり葛木に殺されて序盤で敗退したメドゥーサだったらしい。

となると、この世界のメディアに対しても、敵対心をもつ可能性は高いか。

一応、気を付けておこう。

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

魔術

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

 【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

宝具

【単独行動】	：	-
【怪力】	：	B
【神性】	：	E -
【騎英の手綱】	：	A +
【他者封印・鮮血神殿】	：	B
【自己封印・暗黒神殿】	：	C -

パラメータは、桜ライダー以下、慎二ライダー以上ってところか。
まあ、今の僕がマスターならそんなところだろう。

そうだ！ 今さらだが、やってもらうことがあった。

「ライダー、僕たちを監視している魔術、魔法、使い魔がいないか調べてくれ。」

昨日偶然、キャスターを見つけた。

キャスターは反応を示していなかったが、もしかしたら何か魔術をかけている可能性がある」

「わかりました。少しお待ちください」

キャスターの言葉にメドゥーサは顔を引き締めると、すぐに魔術を使って探査を始めた。

「ご安心ください。私が調べた範囲では魔力反応は何もありません。
キャスターの探査はないと見ていいでしょう」

「そうか、ありがとう」

本当にほっとした。

ずっと気になっていたからなあ。

「……ですが、キャスターなら痕跡を一切残さずに魔術を使うことも可能でしょう。」

すでに貴方は探査され、追跡の魔術を掛けられていた可能性もあります。

……さすがに、何十キロも追跡の魔術の効果があるとは思えない

ため、追跡の魔術を掛けられていたとしても途中で解除されたとは思いますが」

まじですか？

で、こっちの事情と能力を説明した後、思いついたことがあって「自己封印・暗黒神殿」に僕の意識を取り込んでもらう。

「リヨウ、あなたの希望通り取り込みましたが、一体何をするつもりですか？」

「あ、ああ、駄目元で試したいことがあるんだ。

失敗したらただの時間の無駄で、君の気分も害することになるけど、……成功すればメリットは大きい。

リスクもほとんどないしね」

「そこまで言われるとは、よほどのことなのですな」

「成功すれば、だけどね。」

で、この世界って君の自由に作り変えることができるし、光景も変更できるっていう認識でいいかな？」

「はい、基本的に私の記憶に基づく光景、そしてとりこんだ相手の記憶から読みだした光景を元に世界を作ることが多いです」

「じゃあ、話は早い。」

君にとって思い出さたくない相手だろうけど、……君の記憶にあるペルセウスの姿を映してくれないか？」

「……何のつもりですか？」

うおっ、凄まじい殺気と冷気が襲ってくる。

ここはある意味メドゥーサの心象風景でもあるから、メドゥーサの激情のまま攻撃的な世界になってしまったらしい。

「ご、誤解しないでくれ。」

僕的能力は話しただろう？

一度でも見て解析したものは、規格外のレベルでない限り、宝具でも投影可能になる。

例え記憶のものであると、解析ができれば投影できるはずだ」

「……だから、ペルセウスの姿を、正確にはペルセウスが身に着けていた宝具を見たいというわけですか？」

「そういうことだ。」

頼めるか？」

「そういう理由でしたら、……仕方ありませんね」

そう言つてメドゥーサは、本当にものすごくいやいやペルセウスを登場させた。

縦横無尽に飛び回っているところを見ると、邪神メドゥーサに追いついて回されているシーンだろうか？

幸いにもその記憶の情報から宝具の解析は可能であり、これにより『蛇刈る刺突剣』^{ハルペー} 『蒼鏡の盾』^{アイギス} が僕の固有結界「無限の剣製」に登録された。

ここまでは予想通りなのだが、あと何故か『^{キビス}翻転響界』 も固有結界「無限の剣製」に登録された。

嬉しい誤算だな。

「ありがとつ、メドゥーサ。」

『蛇刈る刺突剣』^{ハルペー} 『蒼鏡の盾』^{アイギス} 『^{キビス}翻転響界』の三つが登録できた。

特に蛇刈る刺突剣は強力だ。

本当に助かる」

「喜んでいただけるのは嬉しいのですが、……私としてはできるだけ使うのが、いえ見るのが嫌なのが本音です。」

……いえ、桜を助けるために必要ならば、我慢しましょう」

自分を殺した武具だから当然の反応だったか。

ちよつと無神経すぎたか？

ちよびつと後悔したが、メドゥーサからそれ以上の反応は無かつたので、続いて第五次聖杯戦争のダイジェスト（メドゥーサの記憶）

を見せてもらうことにした。

「……それも、宝具を見ることが目的ですか？」

「ああ、それが一番の目的だが、『メドゥーサ視点の生の聖杯戦争を見たい』という気持ちも勿論あるぞ」

はつきり言つと、メドゥーサはため息をついて答えた。

「わかりました。」

……好きなだけ見てください」

なんか投げやりっぽい感じもしたが、まあ聖杯戦争が見れるのだから問題ない。

【メドゥーサの記憶（第5次聖杯戦争の凜ルート）】

間桐桜による召喚と『令呪で作った偽臣の書』による間桐慎二へのマスター権限の移動

ランサーとの戦闘（引き分け）

学園における遠坂凜＆アーチャー　vs　ランサーの戦闘監視

・セイバー　vs　ランサー（ランサーの勝利）

ランサーが刺し穿つ死棘の槍の一撃をセイバーの胸部に喰らわせた後、撤退

・セイバー　vs　遠坂凜＆アーチャー（引き分け）

アーチャーが攻撃される寸前、衛宮士郎が令呪を使用してセイバーの攻撃を止める

・セイバー＆アーチャー　vs　バーサーカー（引き分け）

墓場においてセイバーとバーサーカーが互角に戦う中、アーチャーの偽・螺旋剣2の一撃により墓場は炎上し、イリヤとバーサーカーは撤退

・衛宮士郎 vs ライダー（引き分け）
遠坂凜を狙ったライダーの短剣の攻撃を、衛宮士郎は腕を盾にして防ぎライダーと戦闘を行う。

ピンチの場面で、遠坂凜の援護があり、ライダーは撤退。

・セイバー vs アサシン（引き分け）
お互いに攻撃を当てることができずないで終わる。

・衛宮士郎 vs キャスター（キャスターの勝利）
衛宮士郎では動くことすら出来ず殺される寸前に、アーチャーにより救出される。

・アーチャー vs キャスター（アーチャーの勝利）
干将・莫耶の投擲後のカラドボルグの真名開放により、キャスターに大ダメージを与える。
その後、お互いに戦う意思がないことを確認して戦闘終了。

・衛宮士郎 vs アーチャー（引き分け）
アーチャーが衛宮士郎を殺そうとするが、ぎりぎりまで逃げてセイバーと合流し、アサシンに庇われて助かる。

・アーチャー vs アサシン（引き分け）
戦闘内容の詳細は不明。
アーチャーが遠坂邸に帰宅時は、傷を負って魔力なしの状態。

フラットフォート・アンドロメダ
・学園で他者封印・鮮血神殿発動

・葛木宗一郎 vs ライダー（葛木宗一郎の勝利）

葛木の一撃により、ライダーは首を引きちぎられて敗北

次の瞬間、あたりの光景は元の夢の世界へ戻っていた。

メドゥーサも自分の情けない負け方を見せることになり、あまり機嫌が良くないように見える。

とりあえずこれで、急ぎでメドゥーサに見せてもらいたいものは全部だったので、僕のことを話し始めた。

「方法は教えられないけど、僕は第四次聖杯戦争と第五次聖杯戦争を見たことがある。

だから、令呪を手に入れることができたとき、すぐにサーヴァント召喚を試すことができた。

そうそう、第五次聖杯戦争は、何パターンが存在した結末をそれぞれ見たよ」

そう言った瞬間、ものすごい勢いでメドゥーサが迫ってきたので、物理的手段に訴えられる前に慌てて僕は教えた。

「僕が見た『君の記憶と展開が一致する聖杯戦争』のその後では、間桐桜という少女は聖杯戦争に一切関わらず、聖杯戦争終了まで無事だった」

これを聞いたメドゥーサは落ち着き、ほっとした様子だった。

Fateの凜ルートでは桜はメドゥーサ召喚と衛宮邸訪問以外、聖杯戦争に一切関わっていなかったから嘘ではない。

……いや、念のため言っておいた方がいいことがあるな。

「僕が見ていない衛宮士郎が死んだ場合の未来（つまりバッドエン

ド後、またはデッドエンド後など）やメディアなどが聖杯戦争に勝利した場合に、間桐桜が無事だったどうかは不明だから、それは忘れないでくれ」

これを聞いたメドゥーサは、再びピリピリした雰囲気になったが、後で『嘘をついた』と言われるよりはよっぽどましだ。

途中で見るとのをやめたけど、アニメ版だと確か桜はメディアに誘拐されてたしな。

「急いで桜を助ける必要があります。」

本当に聖杯世界への移動手段はないのですか――！」

桜の安全は保証されていないと理解したメドゥーサは、当然と言うべきかすぐに聖杯世界へ行きたいようだ。

この反応は予想できていた僕は、まずはメドゥーサを落ちかせることにした。

「悪いけど今の僕には異世界へ移動できる能力やアイテムは持っていない。」

……焦るといい結果は得られないよ。

桜さんを助けるため、慌てず急いで異世界への移動方法を探そう」

「……確かにその通りですね。」

申し訳ありません。

今の私は冷静さを欠いていました。

……あなたが嘘をつく必要性は少ないので、異世界へ移動できる能力やアイテムは持っていないのは信じます。

ですが、異世界へ移動できる能力やアイテムについて心当たりもないのですか？」

「同じく方法は内緒だが、この麻帆良学園が存在する世界の未来を見たことがある（他人に説明する場合、予知夢の一種だと説明する予定）。

ただし、僕が見た未来で一度も登場しなかったキャスターのメディアと謎のセイバーを、昨日麻帆良学園の学園祭で見かけた。

彼女たちほどの存在が、全く世界に関わらなかったとは考えにく

い。

だから、僕が見た未来とは異なる展開になる可能性が高い。
あと、僕が見た未来では異世界へ移動する魔法や魔道具は登場しなかった。

……近い存在としては、この世界と魔法世界をつなぐ扉があるくらい、だったかな？」

これを聞くとあからさまにメドゥーサは落胆していた。
しかし、まだ続きがある。

「聖杯世界にない魔法がこの世界にはあるから、諦めるのはまだ早い。」

この世界には、バックタイオー仮契約という魔法がある。

これは、聖杯世界でマスターとサーヴァントの間のラインの接続を、魔法で簡単に実現するようなものだけど、副産物としてアーティファクトという魔道具を手に入れることができる。

そして、アーティファクトは、ピンからキリまである。

最低ランクは市販の魔道具と同じものだけど、最高ランクになると貴女の知る宝具クラスのものもあるのさ、これが。

例えば、

- ・魔法無効化能力を持つ剣
- ・3分以内ならどんな傷でも完璧に治せる扇
- ・宝具の如意金箍棒の複製版
- ・アサシンレベル以上の気配遮断を複数メンバーで使用可能にするマスク
- ・如何なる武具にも変幻自在・無敵無類の武器
- ・登録した人物の身体能力と外見的特徴を再生する本
- ・任意の空間へ時間干渉して時間遅延や時間遅滞延できる砂時計
- ・無限の広がりを持つ閉鎖結界空間を作るアイテムなどだよ」

このことを知ったら、凜とか発狂しそうなくらいとんでもないも

のばっかりだよなあ。

「つまり、アーティファクトの中には、異世界へ移動するものがある。でも不思議ではないと思うよ。」

それからさつき説明したけど、僕は「能力解析」と「能力複製」という能力を持っている。

この能力を使って、『令呪』を持つメディアと『サーヴァント（セイバー）』の能力を持つ少女を見つけて、コピーに成功したのが昨日ってわけ。

能力複製は、対象固定の制限が掛かっているけど、能力解析に制限はない。

この能力を使って異世界移動の能力を持つ者を探して協力を依頼するつもりだから」

「よろしくお願いします。」

『異世界へ移動可能なアーティファクト』と『異世界移動の能力を持つもの』の探索。

両方とも全力でやりましょう」

桜を助ける希望を見出したせい、メドゥーサはやる気に満ち溢れていた。

うーん、この世界に、ゼルレッチの爺さん来ないかなあ？

そうすれば、簡単に聖杯世界に連れてってもらえそうだけ。

あ、対価がないか。僕の今までの経験を話せば面白がつて連れてってくれるのかな？

後は、メドゥーサに僕が考えている「現時点の方針」の概要を伝えた。

「つまり、『メディアと謎のセイバー少女とは干渉とする』ということですか？」

「そうだ。彼女たちサーヴァントがこの世界にいる理由、目的は不明だし、セイバー少女の能力も一部しかわかっていない。

さらに、僕の見た未来が正しければ、この世界には聖杯戦争はないし、英霊も現れることはなかった」

「……確かに、情報が少ない今の状態でメディア達と接触するのは危険でしょうね。

私としてもあなたの方針に賛成します。

……ですが、もし、メディアの協力が得られるのなら、聖杯世界への移動手段の研究を依頼してほしいのですが」

まあ、メドゥーサとしてそう考えるよな。

「わかった。

こっちとしてもメディア達と敵対したい理由もないし、メディア達と協力関係を築けるようなら依頼するよ」

「感謝します、マスター」

まずはお互いの能力の確認、ということ、僕を「自己封印・暗黒神殿」に意識を取り込んでもらい、ここで戦闘訓練をすることにした。

「確かに暗黒神殿でイメージトレーニングは可能ですが、……今までそんな使い方をしたことはありませんでしたね」

「そうなのか？」

「はい、この中で取り込んだ相手の吸血・吸精行為しか行っていないのでした」

「そうだったのか。

……一応確認しておくけど、ここで戦闘訓練というか実質イメージトレーニングして、僕やメドゥーサに悪影響はない？」

「所詮意識だけですから、精神が死なない限り問題はないでしょう。ですから、精神攻撃系統の宝具などは使わない方がいいでしょうね。

あと、何が起こるか分からないので、固有結界の展開だけはやめ

てください」

……確かにその通りだ。

暗黒神殿と言う一つの世界で、さらに別の世界を作り出したら、……考えるのが怖い結果になりそうだな。

うん、ここで固有結界展開は禁則事項にしておこう。

この場でメドゥーサ相手に戦闘訓練をしてもらったが、『サーヴァントの力（の一部）を手に入れて一日しか経っていない6歳の子供』がまともに戦えるはずもなく、パラメータ自体最低ランクで、メドゥーサより大幅に下回っていることもあり、手も足も出なかった。

メドゥーサには、『接近戦は自殺行為。敵のアウトレンジから宝具を射出して攻撃し、敵が接近してきたらひたすら直感に従って逃げながら牽制に遠隔攻撃をしない』と言われた。

まあ、僕としてもその戦い方が妥当というか、それしかないと思う。

「メドゥーサ、君の名前なんだけど」

「はい。何か？」

「メドゥーサ、あるいはメデューサは、石化の魔眼の持ち主としてギリシャ神話でもトップクラスで有名だ。いや有名すぎる」

「……まあ、そうでしょうね」

メドゥーサは特に感情を見せずに答えた。

「そういうわけで、君の正体を隠すため、悪いけどメドゥーサ・ゴルゴンとは名乗れない。」

メドゥーサはこれから名乗る名前に希望はある？」

「聖杯戦争がないとはいえ、無闇に私の名を知らしめることが不利益になることは分かっています。」

偽名を使うことは別に構いません。聖杯戦争でもライダーと名乗っていたのですから。

……この世界でもライダーで構いませんよ」
それは無理。

セイバーならファミリーネームとして誤魔化せなくもないけど、ライダーは無理だろう。

「いや、さすがにライダーそのままと目立つから。少しは変える必要があるよ。」

『ライダー』から、『ライド』『ライト』『ライ』、そうだな、『ライ』はどうか。

で、名前はメデューサを短くして、メデュー。」

「メデュー・ライ、それが私の新しい名前ですか？」

「ん、どうかな？」

「メデュー・ライ、……気に入りました。これからはこの名を使わせていただきます」

「気に入ってくれて何よりだ。……改めてよろしく」

「よろしく願います、遼」

メドゥーサは感情を込めずに答えたが、少しは喜んでいたと信じたいものだ。

そろそろお昼の時間になったので、帰宅して昼食を取った。

悪いけど、メドゥーサは霊体化したままで着いてきてもらった。

午後に家を出て、再び「自己封印・暗黒神殿」内でメドゥーサと作戦会議を開始した。

幸いにも、すぐに僕はメドゥーサとラインを通じての会話やメドゥーサの五感を借りることが可能になった。

メドゥーサが協力的なのもあるが、サーヴァントの力を持っていることの影響も大きいのだろう。

そのため、偵察と情報収集を兼ねて、さっそく明日からメドウスアによる麻帆良学園へ偵察を行うことにした。

よって、残りの時間は明日の行動予定などについて綿密に打ち合わせをすることで終わった。

僕はライダー召喚でかなり魔力を消耗していたこともあって、布団に入るとすぐに眠りの世界に落ちて行った。

第02話 ライダー召喚（小学1年生 1995年6月18日）（後書き）

【更新履歴】

2011.08.13 「備考」（登場人物のパラメータ）を追記
 2011.08.13 余分な説明をメモへ移動
 2011.08.30 余分な説明をメモへ移動（2回目）
 2011.09.09 メドゥーサとの会話を追加

【備考】

メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

魔術

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

	敏捷	A	宝具	A+
クラス別能力	【対魔力】	: B		
	【騎乗】	: A+		
保有スキル	【魔眼】	: A+		
	【単独行動】	: -		
	【怪力】	: B		
	【神性】	: E-		
宝具	【騎英の手綱】	: A+		
	【他者封印・鮮血神殿】	: B		
	【自己封印・暗黒神殿】	: C-		

1995年6月18日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年6月18日のメモ

1. 投影可能な宝具（ランクは投影宝具のもの）

蛇刈る刺突剣	ランクC
ハルペー アイギス	
蒼鏡の盾	ランクD
アイギス	
翻転響界	ランクD
キビシス	
刺し穿つ死棘の槍	ランクC
ゲイ・ボルグ	
干将・莫耶	ランクC
カラドボルグ	-
偽・螺旋剣2	ランクA

メドゥーサの記憶を見たことにより、下記の宝具や武具を固有結界に登録することに成功した。

セイバー：なし
ゲイ・ボルグ
ランサー：刺し穿つ死棘の槍
アーチャー：干将・莫耶、偽・螺旋剣2
カラドボルグ
ライダー：短剣（鎖付き）
キャスター：なし
バーサーカー：斧剣
アサシン：物干し竿

悔しいことに、セイバーのエクスカリバーはインビジブル・エアでずっと隠していたため、登録不可だった。
ループレイカー
破戒すべき全ての符も使用前だったし、ギルガメッシュも登場前だが、贅沢を言っではきりがない。

ちなみに投影してみたが、どれも大人サイズのためまともに使い

こなすのは難しかった。（持つだけならOK）
がんばって、投影魔術を使いこなしサイズ縮小版を投影できるようにする必要があるようだ。

2・固有結界「無限の剣製」

ランクAまでの宝具が投影可能になったため、固有結界がランクE↓E↪Aへ変化

初期状態では、なぜかEランクの【無限の剣製】だ。もつともこれは固有結界を試したら一発で成功して、すぐに理由が判明した。

固有結界『無限の剣製』の展開は問題ないのだが、なんと固有結界内は刀やナイフや包丁などが刺さっているだけだった（数えられる量ではあるが、数はそれなりにあった）。

これでは無限の剣製ではなく、有限の剣製である。なるほど、僕の【無限の剣製】がEランクなのも納得である。

多分、能力は複製できても、衛宮士郎の固有結界に登録されている武具（宝具）のデータまでは複製できなかったのだろう。

まさか、謎の少女セイバーの固有結界も空っぽってことはないだろうしな。

ちなみに、投影魔術で固有結界に存在した刀やナイフの投影は問題なくできた。

それから、現在固有結界に登録されている刀などはどこかで見たことがあると思ったら、前世において美術館で見た国宝や重要文化財の刀などが含まれていた。ナイフなどもどっかの店で見たやつだろう。

原作と同じく、目にした武具が固有結界に登録される仕様みたいなので、これから可能な限り強力な武具を見て、登録数を地道に増やしていくしかないだろう。

狙い目は、ネギの従者達のアーティファクトあたりだな。
あれなら、容易に見ることができ、かつ結構強力な武具が揃っているしな。

3・武装

剣

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

ハルベ
蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）：C（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓：投影武具

カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）：A（投影宝具）

盾

アイギス
蒼鏡の盾（盾&センサー）：D（投影宝具）

注 干将・莫耶の「対魔力&対物理向上」の能力は装備、つまり両手に持たないと効果なし。

4・戦闘

セイバーの能力と【無窮の武錬】があっても、全然使いこなせないし、子供の体ゆえに近接戦闘はヒットアンドアウェイぐらいしかできない。

よって、離れた場所から投影による宝具射出攻撃と直感による回避をメインとした戦い方を目指す。

5・自己封印・暗黒神殿
ブレイカー・ゴルゴーン

「自己封印・暗黒神殿」内ではメドゥーサが協力してくれば、
脳の奥に眠っている情報を取り出し可能。

これにより、前世で収集した「ネギま」「Fate」関連情報を
詳細に確認することが可能になった。

6・仲間の勧誘

6・1 条件

絶対条件：メディアの関係者以外

条件：魔法未関与メンバー、または中立に近い立場

注意事項：他にもトリッパーが存在する可能性あり。

他のトリッパーに勧誘される可能性もあるから調査し
て問題なければ即行スカウト。

6・2 方針

原作関係者で仲間に取り込みたいと考えているのは、魔法未関与
メンバー、または中立に近い立場となる。

それに該当するのは、

麻帆良学園に多分小学生（今）からいて、仲間にしたいと思ってい
て、対価が思いつくメンバー

相坂さよ、アスナ、エヴァンジェリン、綾瀬夕映、長谷川千雨、
葉加瀬聡美

麻帆良学園に多分小学生（今）からいて、可能なら仲間にしたいが、
対価が思いつかないメンバー

宮崎のどか、明石裕奈

麻帆良学園に来るのは多分中学生からのメンバー

超鈴音、龍宮真名、長瀬楓、古菲

（超鈴音は茶々丸（完成・起動が2001年）を開発しているの
で、その前にこの時代に来たはず）

6・3 詳細データ

（1）麻帆良学園に多分小学生（今）からいるメンバー

対象：相坂さよ

対価：友達になる&憑代を提供する

役割：偵察要員（ハイレベルな気配遮断持ち）

問題：特になし

優先：A

対象：アスナ

対価：神楽坂明日菜とは別人格として覚醒させ、体を与える？（プ
リズム・イリヤのクロエ方式）

役割：戦闘要員（魔法無効化&近接戦闘）

問題：「対価」が実行可能か？

優先：A

対象：エヴァンジェリン

対価：ナギの情報、登校地獄の解除（の助言）

役割：協力者、指導者（魔法&魔法戦闘）

問題：裏切らないか？ そもそも仲間になるか？

優先：B

対象：綾瀬夕映

対価：魔法の存在を教えること
役割：戦闘要員&情報収集要員
問題：素質はあるが、戦力になるまである程度の時間が必要。
優先：C

対象：長谷川千雨
対価：認識阻害結界の存在を教えること
役割：情報処理要員
問題：情報処理技術を身に着けるまでは戦力外
助言者としては優秀（中学生時点）
戦闘要員としては役立たず
優先：C

対象：宮崎のどか
対価：惚れさせる？
役割：情報収集（読心術）、トレジャーハンター
問題：「対価」が実行可能か？
方法は、ネギと出会う前に「命の危険を演出して助ける」や
「前髪をどかして可愛いと言う」ことをするか？
読心術をこっちに使われると最悪に面倒なので、検討要。
優先：C

対象：葉加瀬聡美
対価：魔法や魔術関連の情報提供
役割：開発要員（科学技術関連）
問題：下手に早くから干渉して、科学への情熱や技術力を奪ってしまつと問題。

超鈴音と一緒に勧誘するべきか？
優先：対象外

対象：明石裕奈

対価：惚れさせる？

役割：戦闘要員（魔法銃による遠隔攻撃）

問題：「対価」が実行可能か？ 惚れさせる方法が思いつかない。

ファザコンで、その父親が魔法先生

優先：対象外

対象：近衛木乃香

対価：自分の立場と能力の情報、桜咲刹那と仲良くなる方法

役割：回復要員

問題：父親と祖父が魔法関係者の超重要人物

優先：対象外

備考：完全治癒能力と極東最大の魔力量は魅力的。

家族思いだから、父親と祖父から離反させるのは難しい。

護衛にもばれないようにしばらくは夢の中だけで接触し、さらに夢で話したことは起きたら思い出せないようにして反応を見てみるか？

（２）麻帆良学園に来るのは多分中学生からのメンバー

対象：超鈴音

対価：目的達成に協力（ただし、魔法公開は協力不可。魔法世界人を救うプランなら内容によっては協力可能）

役割：開発者

対象：龍宮真名

対価：金銭

役割：戦闘要員（オールラウンダーのガンマン）

問題：金の切れ目が縁の切れ目、超鈴音が先に雇いそう

対象：長瀬楓、古菲

対価：魔法、魔力、気の情報提供

役割：戦闘要員

対象：桜咲刹那

対価：ハーフという情報を秘密にすること（脅迫？）

役割：戦闘要員

問題：木乃香以上に僕に惚れさせるか洗脳でもしない限り、『刹那の秘密が木乃香にばれた上で仲良くなった瞬間』に木乃香の方針に従う可能性大

7・メドウーサライダーのパラメータ

パラメータは、桜ライダー以下、慎二ライダー以上ってところか。まあ、そんなところだろうな。

単独行動のスキルがないのは、大聖杯のバックアップがないせいだろうな。

単独行動って、どう考えてもマスター以外、つまり大聖杯から魔力が供給されていると思えないし。

パラメータールール

どれだけの魔力を扱えるかを表す『魔力』。

通常値を1としてEが10、Dが20、Cが30、Bが40、Aが50。

サーヴァントのステータスのランクEは、確か通常値の10倍の

能力だったはずだ。で、ランクDで20倍、ランクCで30倍という風になっていたはずだ。

衛宮士郎方式で計算すると、『一般の魔術師』の平均的な魔力量はMP25（最大は、二倍のMP50ぐらい？）

遠坂凜が通常時は約MP400〜500、最大でMP1000。

サーヴァントの『魔力』は、どれだけの魔力を扱えるかを表すパラメータである。

通常値を「1」で、『MP50の魔力を扱える』と仮定すると、遠坂凜の魔力ランクはランクD程度となる。

で、妹の桜も姉とほぼ同等の才能を持っていたらしいから、間桐桜の魔力ランクDとなる、と思う。

で、比較して僕の『魔力』は、セイバーの能力を使っている時点で魔力ランクはE。

サーヴァントの能力は、『マスターの魔力が多いほど強くなる』となっていたので、八神ライダーのパラメータが、桜ライダーに劣るのは当然と言えるだろう。

サーヴァントの能力を持っていることで補正されることを期待したが、……やはり駄目だったか。

幸運については、「桜に召喚された記憶を持ったまま、桜を助けることに全面的に同意する『サーヴァント（セイバー）』の能力を持つチート存在のマスターを得た」のだから、メドゥーサの「幸運：A」も当然か。これは、マスターである僕の「幸運：A」の影響もあるかもしれないけど。

8・1 ペルセウス

最初に見せてもらったのは、（メドゥーサは嫌な顔をしていたが）ペルセウスの姿。

初めて詳細な姿を見せてもらったが、『蛇刈る刺突剣』、『冥王の兜』、『^{ユネエ}翻転響界』、『^{キビシス}蒼鏡の盾』、『^{アイギス}天駆ける白鷺』という5つの宝具で身を固めた姿は壮観だった。

印象としては、先入観があるのかもしれないが、やっぱり『宝具で身を固めた間桐慎二』だった。

この世界はメドゥーサの夢でも、ほぼ現実に近い世界であるため、問題なく宝具は解析可能だった。

これにより、『蛇刈る刺突剣』、『^{ハルベ}蒼鏡の盾』が僕の固有結界「無限の剣製」に登録された。

ここまでは予想通りなのだが、あと何故か『^{キビシス}翻転響界』も固有結界「無限の剣製」に登録された。

剣と盾は分かるが、キビシスが登録されたのは『Fate/Flow ataraxia』で衛宮が投影できたのを知っていたからだろうか？

続いて、第五次聖杯戦争のダイジェスト（メドゥーサの記憶）を見させてもらった。

8・2 第五次聖杯戦争

メドゥーサの記憶（視点）の、第五次聖杯戦争のダイジェストを見させてもらった。

最後は葛木によってメドゥーサの首を引きちぎられて終了。

9・今後の方針

9・1 世界情勢

この世界でも魔法は秘匿されているが、魔法公開を企む事件、そして魔法世界が消滅する事件がある。

魔法が公開されると魔女狩りとか起きて、僕たちにもトラブルが発生しそうなのでこれは妨害する。

魔法世界が消滅して現実の火星の環境に戻り一緒に魔法世界人が全滅するなら、この世界には影響はない。

しかし、何らかの手段で魔法世界人が火星の大地に生き残り、移住や領土獲得のため、地球に攻め込んでくると史上最大規模の戦争（殲滅戦）になりかねない。

よって、魔法世界人が火星で生き延びるならともかく、地球に攻め込もうとするのは絶対に妨害する。

魔法世界人もどうせ地球への侵略に失敗して100年も戦争を続けるなら、戦争に費やす人員と資材を火星で生き残ることに使った方が幸せだろうし。

「聖杯から得た知識では『火星で人類が生き延びるのは相当難しいこと』ぐらいしかわかりませんが、それは可能なのですか？」

とメドゥーサから質問があったが、

「魔法世界には魔法球という、独立した閉鎖空間を作り出す技術がある。

で、これは手に抱えるサイズの玉なのに、中に入ると城や島が入るくらいの広さがある。

火星でも、狭い空間なら『人間が居住可能な閉鎖空間』を魔法か科学で構築、維持することぐらい可能なはずだから、そこに魔法球を可能な限りおいて、そこで暮らせば何とかなるはずだ。」

と答えた。

ああ、そうだ。せっかく、宝具を複製できる能力を手に入れたんだ。火星に移動できる宝具とテラフォーミングに使える宝具を投影

できるようになったら、負担にならない程度で火星のテラフォーミングを試してみるのもいいかな。

『リアル・シム・マーズ』。

なんて燃える言葉だろう。

僕だけで実現が無理そうなら、機密保持契約を結んだうえで、超鈴音と葉加瀬聡美を巻き込むのもありだな。

マッドサイエンティストとしてテラフォーミングの実現は燃える課題だろうし、未来から来た火星人である超鈴音なら効率的な火星のテラフォーミングの方法を知っているだろうし、それを実現する技術を持っていってもおかしくはない。

9・2 人間関係

まずは、メディアと謎のセイバー少女とは不干涉とする。

万が一、見つかりそうになったら全力で逃走。どうしても逃げ切れない場合は、可能な限り平和的な交渉を行い、可能なら同盟。最低でも好意的中立を目指す。

そのためには、当然敵対行為は避け、同盟を組むに値する戦力であることを示す必要があるので、情報収集と戦力強化は必須。

メドゥーサも、最重要目的は桜を助けることのため、この方針に賛成。

もし、メディアの協力が得られるのなら、聖杯世界への移動手段を研究してほしい、とのこと。

あつ、今思いついたけど、能力のコピー元が死ぬとコピーした能力も消えてしまうのではないかな？

そう、彼は能力をコピーではなく奪っているという違いはあるが、

H×Hのクロロの能力『盗賊の極意』^{スキルハンター}の制約のように。

そうになると、令呪をコピーしたメディアはもちろん、サーヴァント能力をコピーした謎のセイバー少女にも絶対に生きていてもらう必要はあるな。

敵対した場合でも、殺す訳には行かない、というわけか。

殺せる自信なんてないけど、間違っても殺してはいけないなんて、それなんて無理ゲー？

家も東京だし、小学生のうちに麻帆良学園へ転向する理由もないため、準備を整えた上で中学校から麻帆良へ入学したいところだ。もしかしたら、麻帆良学園にメディアや謎のセイバー少女もいるかもしれないが、せっかく『魔法先生ネギま！』の世界に来たのに、原作に一切に関わらないのはつまらない。

『常に最悪の事態を想定して、大胆に行動する』をモットーに、リスト、そしてメリットとデメリットをしっかりと考えた上で色々やってみよう。

原作介入するといつても、麻帆良学園などの組織の指揮下に入ったりするつもりはない。……状況次第で一時的な協力関係になることはあるかもしれないが。

魔法生徒になると、狸でもあり、愉快犯でもあり、ネギ至上主義だと思われる学園長に利用されるか、玩具にされるだろうか。

よって、原作関係者で仲間に取り込みたいと考えているのは、魔法未関与メンバー、または中立に近い立場の魔法関係者となる。

ただし、原作を完全崩壊させることは避けた方がいいかな？

まあ、その辺はなりゆきでいいか。

あと、すでにメディアたちと関わりのあるメンバーがいれば、即却下である。

情報漏洩も怖いが、下手に関わってメディアと敵対することにな

ったら、まじで命の危機となるためだ。

当然ながら、誰がメディアとつながっているかがわからない状況では危険すぎるため、メドウィーサに吸血行為の禁止を依頼した。

代価として、僕の血を提供することを約束したこともあり、メドウィーサも同意してくれた。

まずは、さよと接触してみるか。

彼女が大きな役割を果たすのは魔法世界編からだし、魔法世界編から本格的に原作介入する予定の僕には、ネギパーティーからさよがいなくなっただけ全く問題ない。

次はアスナだな。神楽坂明日菜ではなく、『黄昏の姫御子』の方のアスナである。

メドウィーサに協力してもらって、明日菜をとりこんで、黄昏の姫御子の人格と会えないか試してみるか。

それ以外のメンバーについては、この二人と会ってから考えよう。

9・3 情報収集

- ・魔法世界への行き方
- ・パクティオーの方法

この辺も、メドウィーサに魔法使いたちの夢から読みだしてもらうかなあ。

ああ、美女、美少女の夢に入る場合は僕も参加させてもらおう。

夢で情報収集する候補は下記のメンバーの予定だ。

- ・近衛 近右衛門
- ・エヴァンジェリン
- ・高畑・T・タカミチ
- ・明石教授
- ・神多羅木先生

魔法で心を読もうとした場合、魔法でブロックされたり、魔法の痕跡が残る可能性がある。

フレイカー・ゴルゴーン

しかし、宝具である「自己封印・暗黒神殿」に意識を取り込んで夢に入る場合、相手が英霊クラスか、夢に対する適応性がよほど高くない限りまず気づかないとメドゥーサは自信たっぷりだった。

ネギも封印状態とはいえエヴァの夢を簡単に覗いていたから、英霊であるメドゥーサが宝具を使って夢や記憶を覗くのなら、抵抗できるやつなどいないのは間違いないだろう。

霊体化したメドゥーサなら麻帆良学園に侵入してもばれないだろうし、ばれても最悪霊体のまま逃げればそう簡単には見つからず、最悪は力づく、そして最終兵器のペガサスを使えば妨害できるのは同じサーヴァントしかいないだろう。

うん、あらゆる意味でメディアたちが不確定要素、かつ不安要素だなあ。

接触するのは先延ばし、できれば中学入学以降にしたいが、メディアと謎のセイバー少女の目的とかも調べる必要がある。

メディアが原作準拠の性格なら、愛する人がいるのなら愛する人のために尽くし、愛する人がいないなら自分のために生きる。多分、『第二の人生を謳歌する』かな？

問題は、謎のセイバー。メディアが召喚したサーヴァントならメディアに従うだろうから、行動パターンについて考える必要はない。

しかし、チートトリッパだった場合（あるいは、別にメディアを召喚したトリッパーがいた場合）、どういう行動にでるか全く予想がつかない。

原作不介入の方針ならいいが、原作介入の場合、『Aクラス参加ルート』『副担任就任ルート』『アンチ麻帆良 or アンチ魔法使いルート』など、トリッパの趣味と嗜好で全く異なる結果を齎す。

せいぜい、原作のAクラスの情報をリアルタイムで入手しておくぐらいしか、できることはないかな。

さよとかの勧誘が成功すれば、生の情報ももらえるだろうし。

備考

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

令呪（残り2画）

サーヴァント（セイバー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り2画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

武装：剣

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

NEW

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
ハルベール
：C（投影宝具）N

EW

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
ゲイ・ボルグ
：C（投影宝具）N

EW

弓矢

エミヤの弓
カラドボルグ
：投影武具 NEW

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）N

EW

盾

蒼鏡の盾（センサー）
アイギス
：D（投影宝具）N

EW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【精霊の加護】：B

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E ↓ E } A

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【サーヴァント】

1・メドゥーサ NEW

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

魔術

<サーヴァントのパラメータ>	
クラス	ライダー
真名	メドゥーサ
マスター	八神遼平
ステータス	筋力 C 魔力 B
	耐久 D 幸運 A
	敏捷 A 宝具 A+
クラス別能力	【対魔力】：B
	【騎乗】：A+
保有スキル	【魔眼】：A+
	【単独行動】：-
	【怪力】：B
	【神性】：E-
宝具	【騎英の手綱】：A+
	【他者封印・鮮血神殿】：B
	【自己封印・暗黒神殿】：C-

1995年6月18日のメモ（後書き）

2011.08.13	本編から設定関連の記述を移動
2011.08.14	パラメータの『魔力』に関する記述を修正

朝起きると、いきなりとんでもないことが発生した。

と言っても、メドゥーサにそう言われただけで、何が起きたのが僕はまだ理解できていない。

メドゥーサは霊体化して見えない状態で僕の近くにいたのだが、起きてすぐに二人で話したいと言ってきたのだ。

そこで、家族がみんな寝てる中、僕と姉さんの遊び部屋へ移動したところ、いきなりメドゥーサが実体化したのだが、……その姿がありえなかった。

なんと、昨日まで『原作通りのグラマー美女』だったメドゥーサが、『グラマーっぽい美少女』になっていたのだ。

一番に目につくのは明らかに小さくなったおっぱい……胸と低くなった背。170cmぐらいあった身長が、かなり低くなっている。

「メドゥーサ、一体何があった？」

慌てて尋ねてみたが、メドゥーサ自身困惑している様子だった。

「何と言われても、魔力の消費量を抑えるため霊体化したまま昨日は眠りにつきました。」

そして、先ほど目が覚めたらこの状態でした」

んっ？

どっかでこれに近いシチュエーションを聞いた覚えが……、って

そうか、ロリキャスターか！

本当かどうか知らないけど、『士郎がキャスターを拾ったのはいいけど、供給できる魔力が少なくてキャスターがロリ化する』という幻のルートが存在したとか。

ってことは？

慌てて僕は自分の魔力保有量を調べると、予想通り空っぽだった。

「メドゥーサ、どうやら僕の魔力は空っぽで君に供給できていないようだ。」

そっちの魔力保有量はどれくらいだ？」

「確かにほとんど魔力がありませんね。」

……なるほど、これが原因でしたか」

慌ててメドゥーサに尋ねると、予想通りの回答が来た。

やばい、僕の魔力保有量と回復量だとメドゥーサを現界させ続けることがぎりぎりの量しかないらしい。

特に昨日はメドゥーサ召喚で魔力は空っぽになってしまった。それを察知したメドゥーサの本能が、魔力消費量を抑えて現界を続けるため、無意識にメドゥーサは魔力消費量を減らすため、肉体を若返らせて、体を小さくしたのだろう。

解決策は、……ある。

「十二の試練」を解除して僕は、メドゥーサに血を吸ってもらった。

で、貧血で意識が薄れる寸前まで血を吸わせた後、すぐに「十二の試練」を発動することで気絶することを防いだ。

この状態なら、失血死で死ぬ危険性もなく、健康体に戻るまで順調に回復できるだろう。

さらにメドゥーサに、魔力消費量が少ない回復促進の魔術をかけてもらい、やっと一息つけた。

メドゥーサに確認したところ、少なくとも数日は持つ程度の魔力を補充できたそうだ。

せっかくメドゥーサが従者になってくれたというのに、まさか維持するだけの魔力がないとは。

幻のロリキヤスタールートみたいにロリ化しなかったただけかもしれませんが、やっぱりパワーダウンしている。

ちなみに外見は十代半ばぐらいで、身長は145cmぐらい。(ちよっと胸が小さくなったが)もちろんすごい美少女ではある。

なお、なぜかメドゥーサから嬉しそうな感じも受ける。

「なあ、気のせいかもしれないけど、……今の状況を喜んでないか？」

「申し訳ありません。」

体が小さくなってパワーダウンしたのは問題だとは分かっているのですが、……正直背が低くなったのは嬉しいですね」

そういえばメドゥーサって自分が長身だったのを気にしてたんだっけ。

胸も大きくて背も高い美人だし、モデルみたいで似合っではいたが、……本人が好きじゃないんじゃないか。

……本音を言えば、一緒にいる女性が（大人時点の）僕より長身なのはあまり嬉しくないもので、そういう意味では嬉しいけど。

今の6歳児時点じゃ、全く意味ないけどね！

なお、パワーダウンしてなお現界に必要な魔力量と僕の魔力供給量はほぼ同じ。当然、戦闘は不可能らしい。

マジでサーヴァントを召喚した意味がなさすぎ。

まさに猫に小判状態である。

ああ、ウェイバーの気持ちがよくわかる。

優秀なサーヴァントなのに、自分のせいで思いつきり足を引っ張っているのは情けない。

まあ、今の僕は『子供で、魔術も魔法も習っていないただのレアスキルを持っているだけの一般人』だから当然と言えば当然なんだが。

（サーヴァントの力と令呪は、コピーしたもので僕自身の力じゃないので除外）

何とか気を取り直してメドゥーサに確認したところ、「筋力は低下したが体が小さくなって軽くなったため、敏捷はランクAのままであり偵察には問題ない」とどこか嬉しそうな回答だった。

なんか、若返って身長が理想に近づいて、明らかにテンションが上がっているメドゥーサだった。

ラインを通じてメドゥーサと視覚と聴覚を共有している僕の指示に従って、霊体化したままメドゥーサは麻帆良学園女子中等部へ到着。

もちろん移動は電車を使いました。余計な魔力を使う余裕なんてありません。

麻帆良学園にメドゥーサが侵入しても、魔法先生たちがメドゥーサの前に姿を見せなかったところを見ると、サーヴァントが霊体化したままの場合、麻帆良学園側から侵入や存在を探知できないようだ。

そのまま、麻帆良学園中等部の近辺を僕の直感に従って探してもらったところ、見事にコンビニで発見。

やはりサーヴァントはハイレベルな幽霊みたいな存在だし、ほかの幽霊を見るのも可能だったようだな。

そこで目立たないように実体化したあと、メドゥーサが呼びかけて人気のない場所へ移動。

一応メドゥーサにも確認をとったが、監視の目は感じられないというし、僕の直感にも嫌な予感はないから、メディアや麻帆良学園側の監視はないだろう。

試したところ、メドゥーサの目を経由、かつ幽霊の相坂さよに対してもパラメータは確認可能だった。

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：地縛霊

能力：気配遮断：A

バトントワリング（ペン回し）

ポルターガイスト現象発生

血文字表示

憑依

空中浮遊

突っ込みどころの多い能力ばかりだが、『気配遮断：A』は見逃せない。

この強力すぎる能力をさよは制御できずにいたため、ずっと誰にも気づかれなかったのだろう。

霊体のままメドゥーサはさよに接近し、静かに話しかけた。

「こんにちは、あなたは相坂さよで間違いないかしら？」

「え、え」と、すいません。

確かに私は相坂さよですけど、どちらさまですか？

姿が見えないんですけど、……というか、私が見えるんですか！

「！」

「ええ、見えますよ。」

今、私は霊体化しているのであなたには見えないようです。

ここで実体化すると目立つので、その林まで来てくれませんか」

それを聞くと、さよはすごい勢いで頷くと、走って林へ入ってしまった。

「来ましたよ。」

……え」と、すいません。名前、聞いていなかったですね」

次の瞬間、メドゥーサは実体化して、頭を下げてさよに挨拶をした。

「失礼しました。」

私の本名は訳あって教えられませんが、今はライダーと名乗っています。

ライダーと呼んでください」

「わっ、すごきれい。」

あっ、私、幽霊の相坂さよと言います。

私、他人と話すなんてすごく久しぶりなんです。

…… 本当に嬉しいです」

「それは、よかった。」

私があなたに会いたかったのもありますが、一番の目的は貴女のスカウトです。

まずは話を聞いてもらえませんか？」

「よくわかりませんが、私は一杯お話したいんです。

いくらでも話をしてください」

それを聞いたメドゥーサは、さよが可愛かったのか少し微笑むと、勧誘の話を開始した。

説明と勧誘の概要は以下の通り。

- ・ 自分も幽霊のような存在だが、実体化が可能なこと。
- ・ 自分ともう一人の仲間は霊視できること。
- ・ よければ仲間になって一緒に暮らさないか。
- ・ 一緒に暮らしてくれれば、いずれ幽霊が憑依できそうな特殊な人形を購入してプレゼントする予定。
- ・ 対価として、仲間（僕のこと）の従者になってもらう。
- ・ 従者になった場合、自分たちの家は東京にあるので、そっちで暮らすことになる。

今までずっと過ごしていた麻帆良学園から離れることについてさよはちょっと不安そうだったが、『大切な場所で、誰にも見えず話せないまま一人ぼっち』と『見知らぬ土地だが、自分を見て、話し

てくれる仲間がいるところ』では比較にならないらしくすぐに同意。今はさよが憑依できる人形もないので、メドゥーサに憑りついてもらう。

メドゥーサが受け入れたため、憑依に問題はなし。

つまり、サーヴァント（幽霊）に幽霊が憑りついた状態だ。ある意味ギャグだな。

……しかし、勧誘を頼んどいてなんだが、こんなにあっさりとメドゥーサを信じちゃって大丈夫か？

こっちは騙すつもりはないけど、悪い人に掴まったら速攻で売り飛ばされそうな気がする。

まあ、同じ幽霊みたいな存在であるメドゥーサだからこそ、すぐに信じたのかもしれないけどね。

時間が余ったので、情報収集する予定のメンバーが探してもらうことにした。

その結果、下記の5名を発見。

接近時はメドゥーサだけ、かつ視界範囲外で行動したこともあり、一度も怪しまれずにすんだ。

なお、自宅で昼寝中だった明石教授の夢から、仮契約の魔法陣を**バックテイオー**確認できたのは幸運だった。

- ・近衛 近右衛門
- ・エヴァンジェリン
- ・高畑・T・タカミチ
- ・明石教授
- ・神多羅木先生

それから、能力欄に表示される能力は、僕が原作知識で知ってい

る能力だけだった。

まさか、僕の解析能力は、『僕が知っている』、あるいは『持っている』と僕が予想している能力』しか表示されない仕様なのか？

しかし、ごく一部の人のしか使えない能力と、ある程度素質がある人が一定の努力をすれば身に着けることができる能力の区別が面倒だな。

後者をいつそ「能力」ではなく「技術」と分類すればわかりやすいのに、と考えたところ、『能力』欄が『能力』欄と『技術』欄に二つ項目に分類された。

……我ながら便利な能力である。
できる範囲ならば、いくらでも僕の認識次第で応用が効くということなんだろうけど。

これ以上いても収穫はないと、メドゥーサとさよは僕の家まで戻ってきた。

死んでから初めて中学校周辺外へ出ることができて、さよは涙を流すほど喜んでいた。

帰宅途中でもさよが分からないことについて、メドゥーサが色々説明してあげていた。

といっても、メドゥーサも聖杯から受け取った知識のみでそれほど詳しくはないわけで、僕が頻繁にフォローしてあげただけだ。

メドゥーサにとって、可愛い妹ができたような感覚なのかもしれないな。

なににせよ、仲がいいのは良いことである。

家に帰ってから、例の公園で結界を張って、さっそく仮契約の**バクティオー**実験開始。

メドゥーサが、魔術で仮契約の魔法陣を構築し、まずは僕とメド

ウーサで試したところ、無事に成功。

恥ずかしがつていたが、約束でもあり、さよの身を守るためと説明したこともあり、さよとも仮契約^{バックタイオー}を行った。

ちなみに、ファーストキスだったらしい。

さよは、アーティファクトとして「キャスターの運命」という『Fate/stay night』のサーヴァントを表すカード（キャスターが描かれたカード）¹が現れた。

その時点で「プリズム・イリヤ」のクラスカードを連想して嫌な予感²はしたのだが、それを持ったさよが「ロード」と呟いた瞬間、幽霊である相坂さよがサーヴァント「キャスター」になって実体化してしまった。

<更新されたパラメータ>

名前：相坂さよ

種族：地縛霊↓サーヴァント（偽）

アーティファクト：

キャスターの運命

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 E 宝具 -

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル

【気配遮断】：A+

【念動力】：C

【憑依】：D

【浮遊】：D

アーティファクト

【ポルスターガイスト】

最初は驚いたが、さよのパラメータを詳細にチェックしたところ、……どうやら「プリズム・イリヤ」のクラスカードとは違うことが判明した。

あれは、『第五次聖杯戦争のサーヴァントの能力を、イリヤたちが完全にインストールして使用する』というチートすぎる能力だったが、これは違う。

魔力と幸運以外のステータスが低すぎるし、保有スキルはさよが持っていたものしかない。

近い例でいうと、『第五次聖杯戦争で無名の剣士の亡霊がアサシンのサーヴァントとして召喚されたような感じ』かな？

さよの場合、元々持っていた能力が拡大強化されて、クラス別能力が追加された感じだな。

……まあ、保有能力がパワーアップして、キャスターのクラス別能力が追加されただけでもとんでもないことなんだが。

とはいえ、この現象を見たときには、僕もメドゥーサも驚きを隠せなかった。

慌ててメドゥーサが、さよの身体や能力のチェックを開始していた。

どうやら、助けてくれた僕の力になりたいという思い、サーヴァントという存在の認識、僕が持つサーヴァント能力&複製能力が組み合わさって、サーヴァントになるアーティファクトが現れたよう

だ。

僕には敵わないが十分にチートである。というか、現時点のステータスはさよの方が上だし。

もともと『魔力は高くても使える魔法が全くない』というアンバランス、かつ（現時点では）意味がない存在ではあるが。

しかし、さよがキャスターか。イメージがどうも合わないが、…キャスターに必要な高い魔力を持っていたから、キャスターにでもなったのか？

高い魔力を持っていたこと自体驚きだったが。

そんなことより、さよはアーティファクトでサーヴァントになっている関係上、ものすごい勢いで僕の魔力を消費している。

その消費量は、メドゥーサの消費量より少ないとはいえ、今の僕ではきつい。

『「プリズム・イリヤ」のクロエがアーチャーとして存在し、魔力切れ＝消滅の危機』だったように、『さよはサーヴァント（偽）と存在しており、同様に魔力切れ＝消滅』となりかねない。

さよが現界できるだけの魔力の確保を、早急になんとかしなければいけない。

さらにいえば、この世界は聖杯や大聖杯のバックアップがなく、メドゥーサもさよも受肉化していないため、現界のための魔力に加えて、二人が使う魔力の供給源は全て僕となる。

原作で凜が言っていた、まさに『一人のマスターが二人のサーヴァントを持ったりしたら、供給魔力が減ってサーヴァントが二人とも弱体化する』ことになってしまう。

さよがキャスターになったのはすごく嬉しいことなのに、なんでこんなに困る羽目になってしまっただろう。

もつともさよは、すごい能力を得た以上に、メドゥーサと同じく実体化する手段を手に入れられたことが嬉しいらしく、さっそく実体化して僕やメドゥーサに抱き着いて大喜びしていた。

そのままキャスター化した状態の相坂さよとメドゥーサが仮契約実施。

さらに駄目元で、メドゥーサをマスターにして仮契約をしてみた
ら、問題なく成功してしまった。

というわけで、残りの組み合わせもまとめて仮契約を行った。
言うまでもなく、アーティファクトが多いに越したことはないからだ。

……というか、仮契約をするだけで強力なアーティファクトがリ
スクなしで手に入るのだから、みんなで総当たりの仮契約をしない
のはもったいなすぎる。

まあ、男同士でキスしろと言われれば全力で拒絶するが、女性同
士が仮契約のためキスをするのならそれほど抵抗はない、と思う。

原作のネギパーティーにしても、『パートナーとしての契約の証』
という理由ではなく、魔法世界編において『戦力強化』という理由
でほぼ全員がネギと仮契約をしたのなら、そのまま極東一の魔力量
を持つ木乃香相手とか、「下手な鉄砲数撃ちや当たる」で総当たり
の仮契約をすればいい、とか思わなかったのかなあ？

そうすれば、色々な意味で普通じゃないネギパーティー。色々と
便利、かつ強力なアーティファクトが出てきそうなのに。

ああ、そういうば、クウネルはいつぱいパクティオーカードを持
ってたな。

同じ方針だったのか、それともそれだけ大事な人が多かったのか？

この仮契約大会は、魔力不足の問題を解決してくれた。それは、
アーティファクトの魔法人形だった。

「魔法人形」は使い魔のように遠隔操作可能な人形だが、既製品とは違って『普通の魔法使いでは区別がつかないぐらい完璧に人間に変身できる』という特製の魔法人形である。

これに憑依したさよは、生前とほぼ同様の体を取り戻すことに成功した。

これによりさよの消費魔力が格段に少なくなり、僕からの供給量でカバーできる範囲に収まったのだから、とても重要である。

さらに、人形憑依時に自動的にキヤスターの能力が封印されるわけだから、能力の隠蔽にもってこいである。

アーティファクト「世界扉」を手に入れたメドゥーサはというと、僕が「世界扉」を解析した結果を伝えた途端、聖杯世界へ接続できないか何度も試し、全て失敗して落胆していた。

ちなみに、「世界扉」は『どこでもドア』と似たような機能を持つ魔法具である。違うのは『一度行ったことがある場所か、一度でも会ったことがある人が現在いる場所にしか移動できない』ということだ

いつまで落ち込んでいるのかな……と思ったら、いきなり僕の方を向いて、

「令呪で聖杯世界へ「世界扉」を繋げるように命じてください」
ってちよつと待った！

僕としてはもう少しアーティファクトを使いこなしてから試してほしいのだが、……ものすごいプレッシャーで迫ってくるメドゥーサに説得は無理そうですね。

「わかった。ただし、安全に試せる場所を確保してからにしてくれ」「安全に試せる場所とはどういう意味ですか？」

「僕のアーティファクト「贗作工房」は、その名の通り魔道具の機能を一時的にコピーして贗作として使用可能みたいだ。

そこで、麻帆良学園にいるエヴァンジェリンという真祖の吸血鬼が持つ魔法球の贗作を作りたいと思っている。

この魔法球は抱えるぐらいのサイズのボトルシップなのに、内部に独立した空間、それも小島ぐらいの広さの空間を持っているので、他者からの干渉を気にすることなく、安全に試すことが可能なんだ。

「わかりました。すぐに麻帆良学園へ向かいます」

今にもペガサスを召喚して直行しそうなメドゥーサを抑えて僕は慌てて叫んだ。

「ちょっと待った。ペガサスを出さなくても、世界扉で麻帆良学園に移動できないか？」

「……そういえばそういう機能でしたね。……どうやら行けそうですね。では、さっそくエヴァンジェリンを探してきます。」

「目的はエヴァンジェリンじゃなくて、彼女が家の地下に持っているという魔法球。……くれぐれも見つからないように気を付けてよ」

「わかりました、遼」

そう答えた瞬間、メドゥーサは霊体化した後世界扉を通って麻帆良学園へ移動した。

取り残された僕たちは、とりあえずアーティファクトをパクティオカードに戻し、アーティファクトの使い方を念話で話しながら家に戻った。

家に着き、僕の部屋に戻ったところで「遼、エヴァンジェリンの小屋を発見しました。現在、小屋の地下室にいます。魔法球とは多分これではないでしょうか？」

はやっ！ 公園から家までそれほど距離ないんだぞ？

どんだけ気合入っているんだか。

慌ててメドゥーサの視覚情報を受け取ると、薄暗い地下室の中、魔法球らしきものが見えた。

そして、メドゥーサの視覚を通して解析に成功。

贗作工房に魔法球「エヴァンジェリン・リゾート」を登録し、即座に変形させると、魔法球が現れた。

「メドゥーサ、無事に複製が成功した。見つからないように小屋が

ら十分に離れてから戻ってくれ」

こうして無事にメドゥーサも撤退に成功した。

そして、メドゥーサが僕の家族に対して『僕の不在を不審に思わない』という暗示をかけた後、僕、メドゥーサ、相坂さよの三人はさっそく魔法球に入った。

マンガで見たとおりの小島と別荘だったため、何が起きても大丈夫なように小屋から離れた空き地に陣取った。

あと、ビデオカメラも設置して準備完了だ。

「さあ、約束です、遼」

「わかった、わかった。本当はアーティファクトを完全に使いこなしてからの方がいいんだが「桜に危険が迫っているかもしれない」リスクは覚悟の上です。至急お願いします」

「了解。三回しか使えない令呪を使うんだから、それなりの報酬を頼むよ」

「もちろんです。成功不成功に関わらず、貴方に今まで以上の忠誠を誓い、全身全霊で奉仕することを約束しましょう」

「OK。じゃあ、始めるよ。」

僕とメドゥーサが対面して立ち、その間にアーティファクト「世界扉」を配置する。

「令呪を持ってライダーに命ずる！

メドゥーサのアーティファクトである世界扉を、メドゥーサがつて間桐桜に召喚された世界へ接続せよ！」

次の瞬間、僕の保有する魔力のほとんどをメドゥーサに持って行かれた。

メドゥーサの方も、保有する魔力がほとんど無くなっている。ついでに、さよも魔力の残りがわずかだ。

……ということは？

慌ててメドゥーサの方へ行き、世界扉を見るとそこにはどこかの城の風景が映っていた。

冬木市にあるアインツベルン城へ繋がったのか？ それなら大成功だが。

……ここは礼拝堂か？

次の瞬間、予想外の言葉が聞こえてきた。

「告げる。」

汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。

聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ。

誓いを此処に。我は常世総ての善と成る者、我は常世総ての悪を敷く者。

されど汝はその眼を混沌に曇らせ侍るべし。汝、狂乱の檻に囚われし者。我はその鎖を手繰る者。

汝三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ

！

っておい、いきなりサーヴァント召喚の場面か？

祭壇に置いてあるのは、……アヴァロン 全て遠き理想郷？

次の瞬間、逆巻く風と稲光が発生し、光の中からセイバーが現れた。

「問おう、そなたが私のマスターか？」

出現と同時に、F a t eと同じくセイバーはそう問いかけた。

……ま、まさか、世界扉が繋がったのは？

驚きが収まる前に、視界に入ってきたのは、どうみても衛宮切嗣とアイリスフィールだった。

なんで、第四次聖杯戦争前。それも、セイバー召喚時点へ繋がったんだ？

いや、メドゥーサもいいけど絶対服従してくれるならアルトリア

も召喚したかったとか、凜ルートの世界へ繋がると全て遠き理想郷
アロンダイト
を見れる機会がなさそうだったとか、無毀なる湖光 も見ておきたいと
か、第四次聖杯戦争も見ておきたいかと思ってたけど……、もしか
して僕のせい？

まあいいや、目的の世界につながったんだから、あとは目的の時
代になるまで待てばいい。

そう考えると、接続先の状況を把握しようとしてと世界扉を見つ
めているメドゥーサをこっちに呼び寄せて、世界扉が繋がったのは
第四次聖杯戦争開始前だと告げた。

「なぜ、私が望んだ時間とずれたのでしょうか？」

「さあ、原因は分からないけど、平行世界というか異世界への接続
なんて下手すると第二魔法を超えているし、アーティファクトとサ
ーヴァント3人分の魔力と令呪を使ったとはいえ、目的の世界に繋
がっただけでも奇跡じゃないか？」

それに、あと10年ちよつと待てば目的の時間になるんだし、そ
れまでの時間で桜さんを助ける準備とかすればどうかな？」

時間がずれた原因に心当たりがあることはしらばっくれて答えた
が、とりあえずメドゥーサは納得したようだった。

今後接続できるように、接続対象として「衛宮切嗣」「アイリ
スフィール」「アインツベルン城（本城）」を世界扉に登録した。

世界扉の接続先をアインツベルン城の敷地外と思われる場所まで
移動して、実験開始。

世界扉による聖杯世界へ移動は、何度試しても成功しなかった。

「多分だけど、因果が崩壊するのを防いでいるんじゃないか？」

ほら、メドゥーサは第五次聖杯戦争で敗北するまでの記憶を持っ
ているだろう？

その時点より前である世界へ干渉すると、『メドゥーサが召喚さ
れた世界』につながらなくなるとかで、今映っている世界はメドゥ
ーサが消滅した時間軸までは一切干渉できないようになってい

かじゃないか？」

「……それはどういう意味でしょうか？」

私としては、桜は幼いころから苦しんでいたようなので、できるだけ早く助けたいと思っています。

それは不可能でしょうか？」

「あゝ、確認したいんだけど、メドゥーサは『君を召喚した桜』を助けたい？ それとも、『過去の桜』を助けたいのかい？」

「それは同じ意味ではないのですか？」

そういうことか。メドゥーサは平行世界や歴史改変について全く理解していなかったのか。

まあ、ギリシャ神話の存在がそんなこと理解できなくてもおかしくないし、聖杯がそんな知識まで与えるはずもなかったか。

「僕の知識だから絶対とは言えないけど、今聖杯世界へ移動可能だったとして、その時点『過去の桜』を助けた場合、助けた時点でその世界は新しい歴史を刻み始めることになる。

そして、その世界とは別に、『桜によってメドゥーサが召喚された世界』は存在しつづける」

この場合、『過去の桜』を助けられることには変わらないが、『君を召喚した桜』を助けることはできない、そういうことさ」

SFファンにとって、『タイムトラベルで過去へ行った際に歴史を変えてしまえば、その時点から新しい平行世界が作られる』ことはよく知られている設定である。

特に聖杯世界は原作設定として平行世界の存在が肯定されているため、『歴史改変をした場合、世界は分岐して、新しい平行世界が生み出される』と考えるのが妥当だろう。

なかなか時間移動と平行世界の概念を理解できないメドゥーサに対して、溢れんばかりのSFオタクの知識を使って説明したところ、メドゥーサもなんとか理解することができたらしい。

さよもSFに詳しくなかったのか、メドゥーサと一緒に興味深そうに聞いていた。

「……正直、全てを理解できたわけではありませんが、私が一番助けたいのは『私を召喚した桜』です。」

『私を召喚した桜』を助けなくなるといふならば、……無念ですが『過去の桜』を助けることは諦めましょう」

納得してくれて何よりだ。

正直、この時点の聖杯世界に干渉可能だったとして、桜を救うことに成功してメドゥーサがずっと桜の側にいることになったら、第五次聖杯戦争がどうなるか、全く予想できない。

大聖杯を破壊すれば聖杯戦争はもう起きないはずだが、アインツベルン、下手すると遠坂凜にも恨まれて、僕やメドゥーサが一生狙われてしまうかもしれない。

それを考えると、凜ルートのハッピーエンドになるのなら、干渉しない方が無難だと思ふのだ。

少し死者もでるし、メディアに不能にされる男たちもいるが、まあ仕方ないだろう。

その後、さよに聖杯戦争について説明しながら、セイバーたちの様子を観察していると、さよが質問をしてきた。

なお、覚悟はしていたが、ランクEXの全て遠き理想郷は解析できず、当然投影もできなかった。

「あの、この魔法球の中って、外と比べて時間が24倍速って本当ですか？」

「ああ、複製したこれでは調べてないけど、オリジナルは24倍速だったのは間違いないよ」

「でも、聖杯世界の時間の流れはこっちと同じように見えますけど、どうなっているんでしょうか？」

言われてみれば、その通りだ。

三人で相談した後、試してみるのが一番だということになり、魔法球の中で24時間過ごした後、世界扉の接続を切断した。

そして、外に出て改めて世界扉を起動すると、問題なく聖杯世界に接続でき、時間の速度はこちらと同じだった。

問題は、接続を切断した直後の様子が映っていたことだ。

改めて3人で相談した結果、メドゥーサの見解としては、この世界と向こうの世界は世界扉でつながっているため、世界扉が存在する場所の時間の速度に同調しているのでは？ という意見だった。

さらに、世界扉は向こうの世界との接続を切断した直後の時間軸に再接続するため、世界扉を繋げないかぎり、向こうの世界の時間は進んでいないように見えるらしい。

つまり、魔法球の中で聖杯世界へ世界扉を繋げっぱなしにすれば中で10年、外で半年弱で第五次聖杯戦争が始まるが、繋げない限り第四次聖杯戦争すら始まらない状態が続くということだ。

答えは大体予想できていたが、メドゥーサにどうしたいか確認したところ、『さつさと第五次聖杯戦争で私が消滅した時間まで進め、それ以降向こうの世界へ移動可能なら、そこで接続を一時中断して桜を助ける手段、戦力を集める』『向こうの世界へ移動できないようなら、令呪を含め移動を可能にする手段を探す』ということだった。

僕はメドゥーサの意見にほぼ賛成だったが、『第四次聖杯戦争、第五次聖杯戦争だけはリアルタイムで見たい』のと、『記録に残すため僕が見ているところで世界扉を繋げてほしい』と依頼し、メドゥーサもそれぐらいなら、と承諾してくれた。

「あと、今回さよを助けたように、もう一人の女の子に手を差し伸べようと考えているんだけど」

そう言えば、まだアスナ救出について二人に説明していなかったことを思い出したので、さっそく説明をした。

「誰ですか？」

「神楽坂 明日菜という女の子だよ。」

「救う、とは言わないのですか？」

メドゥーサは不思議そうに尋ねてきた。

「ああ、人が人を救うのはとんでもなく大変なことだと考えている。僕にできるのは、『僕の主観で困っているように見える人、他人に生き方を強制されている人に対して、新しい選択肢をあげること』だと思っているんだ。」

それで、その対象は神楽坂 明日菜、本名はアスナ・ウェスペリ
ーナ・テオタナシア・エンテオフュシアなんだ」

そう、人が人を救おうなんて傲慢なことだ。

僕は衛宮士郎と違うから、救おうなんて考えないし、対価だって取り立てる。

「二つも名前があるということは、訳ありますか？」

「そう、彼女のほうは、相当のわけありなんだ。」

ギリシャ神話には創作も混じっているとは思いつけど、アスナの人生は伝説におけるコルクス国王女のメディアと共通点が多いと思うよ。

これから話すことは、僕が見た過去視みたいなものに基づいた情報だから、裏づけを取るまでは話半分でよろしく。

まずアスナは、魔法世界の大戦で滅亡したウェスペルティア王国の王女で、希少な魔力完全無効化能力から「黄昏の姫御子」と呼ばれていた。

詳細は不明だけど、どうやら100年以上生きているみたいだ。

ああ、肉体年齢は6歳ぐらいで固定されたままだったよ。

魔法世界の大戦の際、ウェスペルティア王国の戦力として前線に投入され、魔力無効化能力を使って魔法の盾として利用されていたらしい。戦場に出たのが本人の意志かは分からねけど、まあ無理やりだろうね。

さらに、彼女は魔法世界を滅ぼそうとする秘密結社「コスモエンテレケ完全なる世

界」に攫われ、魔法世界を滅ぼす儀式に利用された。

幸いにもこの儀式は完成前に「紅き翼」^{アラルブラ}という集団に妨害され、その後アスナは彼らと共に旅に出ていた。

僕が見た光景では、表情に乏しいものの、彼女も旅を楽しんでいたようだっ たよ。

ただ、紅き翼^{アラルブラ}のメンバーの一人が戦死した後、どういう経緯かは不明だけど彼女の記憶は封印されることになっていた。

そして、今までの記憶と名前を封印されて、一般人として神楽坂明日菜という名前で麻帆良学園へ通うことになったってわけ」

ここまで一気に話してメドゥーサのほうを見ると、完全に無表情だった。しかし、ものすごいプレッシャーを感じる。……こ、怖い、怖すぎる。

さよの方はかなりショックを受けているようだった。

「ここからは、僕の意見なんだけが、続けていいかな？」

「はい、構いません」

「お願いします」

「……それでは、続けるよ。」

まずは、僕が今話したことが正しいかどうか、そしてより詳細な情報について、魔法世界で情報収集する必要があると思う。

それから、記憶の封印について。

僕は時と場合に依じては、一時的に記憶を封印することも認めている。

例えば、あまりにもショックなことがあり、精神崩壊や精神病になった場合、あるいは生きる気力を完全に失ってしまった場合などだね。

当然だけど、精神が回復し、過去を受け入れることができるようになり、かつ本人が希望した場合に限り、記憶の封印をとく必要はあると思う。

まあ、婦女暴行や殺人未遂などの一生の傷になるような記憶については、犯罪行為そのものの記憶を一生封印したままにすることを否定するつもりはないけど。

記憶封印の経緯を確認するため、明日菜さんの封印された記憶を確認する必要があるだろうね。

もちろん、見た記憶は治療に関わるメンバー以外絶対秘密にする。

そして、彼女自身が記憶の封印を望んでいたのなら、彼女を見守るだけにする。

後は状況次第だろうけど、彼女の魔法無効化能力に気づきこれを利用しようとする存在が現れた場合、失われた記憶を取り戻したいか、彼女に確認を取ってその意見を尊重するのはどうかな？

問題は、彼女自身は記憶の封印を望んでいなかったのに、回りが彼女の意志を無視して記憶を封印した場合。

これは僕の個人的な意見だけど、本人の意志を無視した記憶封印は、洗脳の種類だと考えている。

人格は記憶に基づいて形成されるもので、彼女のように記憶の全てを封印される行為は、『純粹無垢で真っ白な人格を作り出す洗脳』だと言っても過言ではないと思う」

ここまで一気に言って、メドウーサの方を見ると、わずかに微笑んで静かに頷いた。

ふう、どうやら僕の意見は彼女の意見と近いらしい。

「で、対処方法ですが、強硬論から穏健論まで色々と考えてみた。

……ただ、一番重要なのは彼女の意見なのは言つまでもない。

ベストは明日菜さんの夢の世界などで、可能なら記憶が封印される前の彼女へ接触し、現状をしつかり理解してもらった後、彼女の希望を聞きたいと思っている。

これって、メドウーサなら可能かな？」

つまりは、『遠野志貴の夢の中で七夜志貴に会う』ようなものである。

「……私の宝具『自己封印・暗黒神殿』に精神を取り込むことは可能ですが、記憶を失う前の人格を覚醒させることは……多分可能でしょう」

「良かった。じゃあ、記憶封印前の彼女と相談できるという前提で話を進めるよ。」

ああ、二人を区別するため、記憶封印後の彼女を『明日菜』、封印前の彼女を暫定的に『黄昏の姫御子』と呼ぶから。

記憶を封印されて新しい人生を歩みだした神楽坂明日菜の人格は、『黄昏の姫御子』の別人格、いわば彼女の妹のような存在だと思う。自力で記憶を取り戻すならともかく、他人が無理やり記憶の封印を解くことは、明日菜の人格と『黄昏の姫御子』の人格を融合させることになりかねない。

二重人格としてうまく折り合つてやっていくのならともかく、どちらかの人格が消滅、あるいは融合して第三の人格になるのは、ある意味彼女達の死だね。

また、明日菜が懐いているタカミチや学園長は、彼女が記憶を取り戻したことに気付いたら再び記憶の封印を行うだろうし、いくら彼女のためでも懐いている人から無理やり引き離すのも明日菜を傷つける結果になりかねない。

そして、黄昏の姫御子の選択次第によって変更する予定だが、僕

なりに考えたいいくつかのプランをメドゥーサに説明したところ、あっさりと同意してくれた。

「わかりました。貴方のプランに協力します。ただ、プランに追加したいことがあります」

「なんか、不備か問題あった？」

結構がんばって考えたつもりなんだが。

「追加したいのは、貴方との仮契約バクティオーです。

貴方と仮契約バクティオーをして現れたアーティファクトは、私の願いを叶えるものでした。

そこで、貴方が黄昏の姫御子とも仮契約バクティオーを行って、どんなアーティファクトが現れるか試してから今度の方策を検討するのはどうでしょう。

もちろん、情報収集をすることには賛成ですが」

アスナが僕の従者になってくるのは嬉しいで、僕としては大賛成。さよも異論なし、ということで、アスナ救出作戦は全員の了承の元、動き出すことが決定したのだった。

最後に落ちが一つ。

さよはどう考えても接近戦ができるようになるとは思えないから、「キャスター」になったのはいい。

問題は、さよがキャスターになった後、僕もキャスターの能力を使おうとしたところ、「従者が使用中のクラスのため使用不可」というメッセージが視界に表示されてキャスターの能力が使えなかったのだ。

……このメッセージから判断するに、『アーティファクト』の運命』は、僕のサーヴァントクラスを従者に貸し出している』こと

になっているらしい。

なるほど、これが制約というわけか。

……これだけ破格の能力だ。H×Hの念能力と同じように、強力な制約があるのは当然だな。

まあ、僕は同時に複数のクラス的能力を使うことはできないから、使っていないクラスの能力を従者に貸し出すことに異論はない。ないが、やっぱりキャスターになれないのは残念だな。

さて、そうすると現在残っているのは、アーチャー、ランサー、ライダー、バーサーカー、アサシン、アヴェンジャーの6つか。

「アヴェンジャー」のクラスを貸すことになる人なんているかなあ？

「悪であれ」と周りの人間に願われて、悪として存在が固定した反英霊ねえ。

……なんか、『本人の意思を無視して吸血鬼にされて、吸血鬼だという理由だけで迫害されて、さらにはなまはげ扱いされているエヴァンジェリン』のことを連想してしまったが、……まさか、ねえ。

第03話 相坂さよの勧誘（小学1年生 1995年6月19日）（後書き）

【更新履歴】

2011・08・13	「備考」（登場人物のパラメータ）を追記
2011・08・13	余分な説明をメモへ移動
2011・08・13	「メドゥーサに対する平行世界の説明」を追記
2011・08・15	相坂さよ× キャスター 八神遼平 セイバー 「夜天の魔法書に変更 「世界扉」が聖杯世界に接続したタイミン グを、召喚開示時に変更
2011・09・09	メドゥーサとの会話を追加

【備考】

メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼殺しの眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C↓D 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【単独行動】：-

【怪力】：B

【神性】：E-

宝具 【騎英の手綱】：A+

【他者封印・鮮血神殿】：B

【自己封印・暗黒神殿】：C-

相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：中学生↓無職

種族：自縛霊↓サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

技術：バトントワリング（ペン回し）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 E 宝具 -

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：C

【憑依】：D

【浮遊】：D

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

1995年6月19日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年6月19日のメモ

1.アーティファクト

1.1 アーティファクトの設定

・原作設定

仮契約システムは、本契約と比較するとお遊び程度でチェックが甘く、複製カードはオリジナルカードと能力的には同じで、複製カードでも契約執行は可能なようである。

魔法使いの能力によっては、各パートナーごとに潜在能力をさらに引き出すことができる固有のアーティファクト（魔法のアイテム）が与えられる。

・確認した設定

本契約は分らないが、仮契約の場合、仮契約済みの主従を入れ替えることで、さらに仮契約が可能。

ネギま世界でも可能だったけど、仮契約を貶める行為だったからタブーだったのか？

それとも、ネギま世界ではできなかったが、この世界では可能なのか？

・未確認の設定

僕たちの仮契約において、ハイレベルのアーティファクトが多く出現した。

全員がサーヴァントであるため、アーティファクトランクに補正が加わった可能性が考えられる。

1.2 出現したアーティファクト

主

×従者

〓アーティファクト

セイバー
八神遼平 ×メドゥーサ〓世界扉（どこでもドア）

セイバー
八神遼平 ×相坂さよ 〓キャスターの運命（サーヴァント「キャ

スター」になる）、ダビデの豎琴

セイバー
メドゥーサ ×八神遼平 〓贗作工房（登録した魔道具の贗作に一時
的に変形）

キャスター
メドゥーサ ×相坂さよ 〓魔法人形

キャスター
相坂さよ ×メドゥーサ〓魔眼制御の眼鏡

セイバー
相坂さよ ×八神遼平 〓夜天の魔法書（魔法使いの魔力を直接吸
収することで、魔法を収集する魔法書）

僕の「贗作工房」は、その名の通り僕が一度でも解析した魔法具
を、再現可能というチートアイテムだ。

『複製』属性を持つ可能性が高い僕らしい魔法具だろう。

宝具は再現不可というのが残念である。

もう一つの「夜天の魔法書」は、……名前から想像がつくと思う
が、『リリカルなのは』の「闇の書（夜天の書／夜天の魔導書）」
の機能を再現している。

といっても、魔法収集能力のみで、それ以外の物騒な機能や守護
騎士システムはない。

純粹に初期状態の『夜天の書／夜天の魔導書』の機能を再現して
いるようだ。

収集機能は、ターゲットの魔力を体内から直接吸収することで機
能するため、敵からの魔力収奪装置としてもなかなか使えそうだ。

……ただ、『機能のカスタマイズも可能だが、カスタマイズに失
敗すると暴走する危険性があります』と解析できたのが物騒すぎる。

下手なことをすれば、第二の「闇の書」になってしまっわけか。人格を設定するか、誰かを夜天の書に取り込んで転生させれば騎士システムも起動できるみたいだが、……うん、余計なことは考えずに、当分は初期機能だけ使っていればいいな。

ところで、「夜天の魔法書」、通称「夜天の書」を手に入れた以上、僕は「夜天の王」を名乗るべきなのだろうか？

……「夜天の書」を持っているからその資格はあるし、『ヴォルケン・リッター』の代わりに『サーヴァントの従者』がいるから、名乗っても笑われないと思うが……。

いや、名乗った瞬間、トリッパーに能力が即行でばれるし、「闇の書」の暴走を恐れて保険としてトリッパーに僕が殺されたり、「夜天の王」になりたいトリッパーに「夜天の書」を狙われそうな気がするから、止めておくのが賢明か。

メドゥーサの「世界扉」は、まさしくどこでもドア。

現時点では、一度行ったことがある場所の監視、そして移動が可能となるらしい。

となると、魔法世界へも移動可能になるのだろうか？

「魔眼制御の眼鏡」はその名の通り。「魔眼殺し」ではなく「魔眼制御」となっているのが要注意。

なんと、魔眼の威力を抑えるだけでなく、威力を増幅することもできるらしい。例えば、石化はしないが、圧力の威力を増加させるとか。

これでマスクなしでもメドゥーサは日常生活が可能になった。よかったよかった。

さよの「キャスターの運命」は、さっき説明したように魔力が続

く限りサーヴァント「キャスター」として存在できる。

とんでもなくチートなアイテムであるが、僕の「能力複製」の劣化コピーと考えれば納得できなくもない。

問題は元の幽霊に戻ることもできず、魔力が切れた瞬間にさよが消滅するかもしれないという、とんでもないリスクも抱えているが。

「魔法人形」は使い魔のように遠隔操作可能な人形だが、区別がつかないぐらい完璧に人間に変身できるという特製の魔法人形である。

これに憑依したさよは、生前とほぼ同様の体を取り戻すことに成功した。

残念ながら『魔法人形に憑依したままキャスター化して、受肉化したキャスターになる』というのは無理だった。

魔法人形の容量ではキャスター化したさよを受け止めきれないらしく、自動的にキャスターの能力は封印されるようだった。

まあ、それはそれで使い道はあった。なにせ、これによりさよの消費魔力が格段に少なくなり、僕からの供給量でカバーできる範囲に収まったのだから、とても重要である。

さらに、キャスターの能力が封印されるわけだから、能力の隠蔽にもってこいである。

2・贗作工房

2・1 登録済みの魔法具

・世界扉：どこでもドア

一度人や場所を登録すると、次回から登録した人や場所をすぐに表示可能

・魔法人形：使い魔のように遠隔操作可能な人形

・魔眼制御の眼鏡：魔眼を制御できる眼鏡

・魔法球「エヴァンジェリン・リゾート」

中に入ると時間が24倍速のプライベートスペース

・複製の魔法書

登録した魔法のうち、設定した魔法を一つ使用可能。ラーニング機能付きの魔法書の形をした魔術刻印

2・2 登録に失敗した魔法具

・キヤスターの運命

2・3 登録しておきたい魔法具（現存）

優先度：S

・イノチノシヘン：登録済みの特定人物の身体能力と外見的特徴の再生

アルビレオ・イマの仮契約カード

・千の顔を持つ英雄：如何なる武器にも変幻自在・無敵無類の宝具
ジャック・ラカンの仮契約カード

2・4 登録しておきたい魔法具（原作通りの展開なら未来に出現予定）

優先度：S

・ハマノツルギ：魔法無効化

神楽坂明日菜の仮契約カード

・東風ノ檜扇：外傷完全治癒

南風ノ末廣：状態異常快癒

近衛木乃香の仮契約カード

・いどのえにつき：名前さえわかれば、相手の心の表層を読むことができる魔法の本

宮崎のどかの仮契約カード

優先度：A

・建御雷：魔力刃を形成する刀

桜咲刹那の仮契約カード

・渡鴉の人見：最大6体のスパイゴーレムを超々遠距離まで遠隔操作

朝倉和美の仮契約カード

・空飛び猫：二二三〇式超包子衛星支援システム

絡繰茶々丸の仮契約カード

・孤独な黒子：使用者の存在感を極限まで薄くする強化版認識阻害

魔法のマスク

村上夏美の仮契約カード

優先度：B

・神珍鉄自在棍：如意金箍棒の複製

古菲の仮契約カード

・世界図絵：魔法百科事典（魔法学大系）

綾瀬夕映の仮契約カード

・天狗之隠蓑：庭付きの家を内蔵しているカモフラージュマント

長瀬楓の仮契約カード

優先度：C

・落書帝国：スケッチブックに描いた絵を簡易ゴーレムとして召喚できるアイテム

早乙女ハルナの仮契約カード

・力の王笏：ユーザインターフェースを魔法的に再構成する

長谷川千雨の仮契約カード

・七色の銃：魔力の弾丸を撃つ銃

明石裕奈の仮契約カード

2.5 備考

宝具は登録不可。

アーティファクトは大丈夫か？
一度に具現化できるのは一式のみ。

3・僕の能力

3・1 能力解析

原作キャラの「能力欄」に表示される能力は、僕が原作知識で知っている能力のみ。

『僕が知っている』、あるいは『持っている』と僕が予想している能力』しか表示されない仕様と推測される。

3・2 能力複製

『アーティファクト』の運命』は、僕のサーヴァントクラスを従者に貸し出す』ため、貸し出しているクラスは僕が使えなくなる。
(要注意)

3・3 起源

僕は、解析能力、複製能力を持っている。

そして、仮契約によって現れたアーティファクトは、複製系とサーヴァントクラスを貸し出すものだった。

となると、僕の起源は『複製』と『貸与』だろうか？

『コピーした能力を他人に貸し出す能力』は、バックアップ要員の能力としてはすごく便利。

もっとも、僕はサーヴァントのクラスやスキルを複数持っているからこそすさまじく使えるが、そうでなければあまり役に立たない能力だったな。

4・パラメータの『魔力』

パラメータの『魔力』は、「どれだけの魔力を扱えるか？」を表していた。

通常値を1としてEが10、Dが20、Cが30、Bが40、Aが50。

上記の魔力の通常値「1」は、『聖杯世界における一般魔術師が扱える魔力量（平均値）』と予想。

そうでないと、サーヴァントたちの能力が低いことになってしま
うから。

『聖杯世界における一般魔術師が扱える魔力量（平均値）』
麻帆良世界の魔法学校卒業生以上、魔法先生以下の魔法使いが扱
える魔力量（平均値）と予想。

5・相坂さよ

相坂さよがありえないくらい魔力のランクが高かったのは、僕も
メドゥーサも驚きだった。

僕の解析能力で詳細に調べたところ、魔力がとてつもなく高かつ
たのは、世界樹の存在する麻帆良学園というとてもなく優れた霊
地で50年以上幽霊として過ごしたため、霊格がとても高くなつて
いたかららしい。

高い霊格とサーヴァント化の相乗効果で、キャスターにふさわし
い「魔力：A+」というステータスになったようだ。

もしかしたら、このまま自縛霊を続けていたら、いずれ土地神、
つまり麻帆良の守護者（守護神）に成り上がっていたかも？

あるいは、それを狙って学園長たちはさよを放置していたのかも
しれないな。

それをあっさりとゲットできた僕はすごくラッキーである。

僕には敵わないが十分にチートである。というか、ステータスはさよの方が上だし。

もともと『魔力は高くても使える魔法が全くない』というアンバランス、かつ（現時点では）意味がない存在ではあるが。

保有スキルを確認してみると、【気配遮断】【念動力】【憑依】

【浮遊】は、幽霊のときの能力を引き継いで強化されたいらしい。

【気配遮断】は1ランクアップ（？）して、ランクA+に。つまり、真アサシン並みの気配遮断能力を手に入れたわけだ。

【念動力】は、ポスルターガイスト現象を起こしていた力の強化版。投影宝具をいくつか渡しておいて、念動力で操作すればかなり強力な攻撃手段になりそうだ。めざせ、ファンネル攻撃。

【憑依】は、自分を受け入れてくれる人間が意識を失った人間に憑依して、その体を自分の体のように動かせるらしい。もちろん、拒絶されたり、意識を取り戻すとすぐに体からはじかれるみたいだ。もちろん、魔法人形に憑依することも可能らしい。

【浮遊】は幽霊のときと同様に、サーヴァントとして具現化しているときも、魔術や魔法を使うことなく空を飛ぶことができる。ただし、浮遊であって飛翔ではないので、速度はそれほど速くないし、自分以外に持ち上げられる重量もそれほど多くないらしい。

もともと、元々自分が持っている能力の強化版だから、すぐに使いこなすことは可能だろう。

さすがに、『血文字』と『バントワリング（ペン回し）』という能力を強化したスキルはなかったか。

ただ、さよが元々持っていた「血文字」の能力だが、血文字を描

くだけなので、効果は全くない。全くないが、使いようによっては使える能力かもしれない。

短時間で自分から離れた場所にも血文字を描くことができるのだ。練習は必要だろうが、原作の対ラカン戦のネギみたいに相手に気づかれないように（血で）魔法陣を描いて戦闘に利用したり、あるいはルーン魔術を身につければ、離れた相手にもルーン文字を血文字で描くことができ、戦術的な幅が大幅に広がるだろう。

問題は、魔法陣はともかく、ルーン魔術を学ぶ相手が思いつかないところなんだが。……クー・フリーンの召喚って無理かな？

宝具はないようだが、まあ当然といえば当然だ。

その代わりに、アーティファクトを持っていたのだが、これが【ダビデの豎琴】。

もちろんレプリカなのだが、宝具のレプリカとは大したものだ。

伝説では、ダビデの豎琴で悪霊を退散させたので、悪霊などを追い払う機能かと思いきや、機能を解析したところ『死霊などの霊体や下等な魔物を操ることができる』とのこと。

「あれっ？ 確か、サーヴァントって霊体に分類されるよな？」と気づいて本人の了承の元メドウーサに対して使ってみたところ、操ることまではできないが、動きを束縛することはできる、とのこと。

機能的には、『GS美神』でおキヌちゃんが使っていた『ネクロマンサーの笛』そのものである。

まあ、元幽霊という共通項はあるし、幽霊の気持ちを理解できるのも間違いないだろうけど。

対魔力が低い相手なら、人間であつたも霊体（魂）を操作することとで動けなくすることも不可能ではないらしい。

さよ本人は「成仏できない幽霊を成仏させることができるかも」と喜んでいるが、間違つて自分を成仏させないように気をつけるよ

）。

6・麻帆良学園の魔法関係者

<パラメータ>

名前：近衛 近右衛門

性別：男

職業：麻帆良学園の学園長、西洋魔法協会の理事長

種族：人間

技術：西洋魔法

陰陽術

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル

性別：女

職業：中学生

種族：真祖の吸血鬼

能力：吸血

再生

飛行

魔眼

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）
マギア・エレベア
闇の魔法

<パラメータ>

名前：タカミチ・T・高畑

性別：男

職業：大学生、魔法生徒

種族：人間

技術：居合い拳（無音拳）

咸卦法

瞬動術

<パラメータ>

名前：明石教授

性別：男

職業：先生、魔法先生

種族：人間

技術：西洋魔法

<パラメータ>

名前：神多羅木

性別：男

職業：先生、魔法先生

種族：人間

技術：西洋魔法（風系）

無詠唱呪文

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

令呪（残り2画↓1画）

サーヴァント（セイバー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り2画↓1画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター（相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

武装：剣

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

蛇^{ハルベ}刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）：C（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓

：投影武具

カ
ラ
ド
ボ
ル
グ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：A（投影宝具）

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【精霊の加護】：B

【直感】：B

【魔眼】：B NEW

【無限の剣製】：E→A

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

『魔眼のコンタクト』使用により、【魔眼】スキル

備考

追加 NEW

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼殺しの眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C↓D 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【単独行動】：-

【怪力】：B

【神性】：E -

宝具

【騎英の手綱】：A +

【他者封印・鮮血神殿】：B

【自己封印・暗黒神殿】：C -

備考 若返りにより筋力のランクダウン

2・相坂さよ NEW

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：中学生↓無職

種族：自縛霊↓サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

技術：バトントワリング（ペン回し）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター	八神遼平
ステータス	筋力 E 魔力 A+
	耐久 E 幸運 B
	敏捷 E 宝具 -
クラス別能力	【陣地作成】 : B
	【道具作成】 : B
保有スキル	【気配遮断】 : A+
	【念動力】 : C
	【憑依】 : D
	【浮遊】 : D
アーティファクト	【ダビデの豎琴】

1995年6月19日のメモ（後書き）

2011.08.13 本編から設定関連の記述を移動

2011.08.13 パラメータの『魔力』について説明を修正

2011.08.15 「夜天の魔法書」について説明を追記

第04話 世界樹との契約（小学1年生 1995年6月20日）

僕は霊体化したメドゥーサとさよを引き連れ小学校へ登校し、特に問題なく授業を終え、家に帰ってきた。

今日、僕がずっと考えていたこと。

それは、魔力が足りない、ということにつきる。

予想通り、メドゥーサが現界しつづけるだけで、僕の魔力が尽きそうな状態だ。

幸いと言っていいか、僕の一日の魔力回復量とメドゥーサが限界に必要な魔力量／日がほぼ同じなので、メドゥーサが限界するだけなら何とかなるが、それでは何もできない。

仕方がないので、毎日少しずつメドゥーサに吸血してもらい、魔力を貯めている毎日である。

今は亡きとあるSSにもあったが、『英霊の力を持つ存在の血』は魔力が多いらしい。

聖杯戦争中、サーヴァントは現界に必要な魔力は大聖杯から受け取り、活動用の魔力は召喚時に持っている分以外は、マスターからもらったり、他人から奪ったり、吸血行為や性行為で補給する。

たぶん、スキルの独立行動はさらに大聖杯から魔力を引き出すスキルなのだろう。それも、聖杯戦争実施時のみ。

この世界には大聖杯はないから魔力補給は、……いや大聖杯はなくとも、地脈から膨大な魔力を蓄えている世界樹があるじゃないか。足りないなら他から持ってくるのが魔術師、さっそく試してみよう。

世界扉を使って、密かに世界樹の幹へ移動してみた。

すると、さよは世界樹の幹に触れるだけで世界樹から魔力を吸収することができた。が、なぜかメドゥーサと僕はダメだった。
なんでだ？

世界樹から魔力を受け取れるようになるためには、『素質』『霊体』『数十年世界樹のすぐ傍で過ごす』の複数の条件を満たすことが必要なのだろうか？

そして、さよだけがその条件が満たしているのか？

さすがに不思議に思い、さよと世界樹を念入りに解析すると、いつの間にかさよと世界樹の間にラインが繋がっていたことが分かった。

……不完全なラインであり、魔力のやり取りも全くなかったため、僕やメドゥーサはもちろん、さよ本人も気づいていなかったようだ。当然、いつ繋がったのかも不明のままだ。まっ、それは今考えることではないだろう。

なるほどね。世界樹と繋がっていたからさよだけ世界樹から魔力を受け取れたわけか。

僕とメドゥーサは無理だったが、とりあえず緊急時のさよの魔力回復手段が手に入ったのは助かった。

ただ、さよも世界樹とのラインが不完全なせいで、接触していないと魔力補給はできなかった。

駄目元で、世界樹の周りに仮契約の魔法陣を書き込み、全員が世界樹の幹にキスをしたり、血を世界樹に垂らしてみたりしたが、全員契約失敗。

まあ、当然だな。

これぐらいで世界樹と仮契約できるなら、とつくに誰かがやっているだろう。

天地無用なら『樹雷皇家の者は皇家の樹と契約して、樹液の結晶と枝で作ったマスターキー經由で力を受け取っていた』と思い出し、これまた駄目元で世界樹の樹液の結晶を探してみることにした。

まあ、世界樹と契約できなくても、「樹液の結晶を見つけられれば何かに利用できるかも？」と考えたのもあるのだが。

すると、霊体化して世界樹の内側を調べていたさよが、それらしい魔力を秘めた結晶の発見に成功した。

さよはこの結晶を何故か相当気に入ったらしく、すぐに帰還して魔法球の中へ入り、キャスターの「道具作成」スキルを駆使して、樹液の結晶と世界樹の枝を材料に魔法具のブレスレット作成に注力した。

魔力と時間をかなり費やした後、ついに完成させた『世界樹の結晶付きブレスレット』をさよが身につけたところ、いともあっさりさよが世界樹との契約に成功した。

……僕としては、『世界樹の結晶で、ブースターなり、魔力の貯蔵なり、何か便利な魔法具ができればラッキー』ぐらいのつもりだったのだが、完全に予想外である。

何十年もずっと麻帆良学園、つまり世界樹の側で過ごしてきた幽霊が、英霊もどきにクラスアップして、しかも魔術に優れたキャスターになり、不完全とはいえ世界樹とラインが繋がっていて、とどめにキャスターのクラススキル「道具作成」で世界樹の枝と樹液の結晶を材料に『世界樹のブレスレット』を作ったんだから、当然と言えば当然だったかも。

よくある魔法ものでは、地脈と契約するためには土地との親和性が重要なことが多いしな。

何十年も麻帆良学園の地縛霊だったさよ以上に、世界樹との親和性が高い存在などいるはずもないか。

冗談半分で、『自己封印・暗黒神殿』に僕とさよを取り込んで

らい、そこで僕の記憶ライブラリーから天地無用のアニメを二人に見せてみた。

魔力を使った新しい技の参考になれば、と思って見せたのだ。

「将来の役に立てば」ぐらいに思っていたのだが、アニメ鑑賞終了後さよが世界樹の魔力を使っていきなり『光鷹翼』を再現してしまったのには笑ってしまったが。

当然、『光鷹翼』と名付けてさよに使いこなす練習を勧めたところ、気づいたらさよの宝具に『【光鷹翼】：B』が追加されていた。どうやら、メドゥーサのような『変化しない（成長しない）サーヴァント』とは違って、サーヴァント（偽）であるさよ、そして多分僕も、初期ステータスが低い代わりに、成長や新スキル獲得が可能なんだろうな。

さよが再現した『光鷹翼』は、外見といい、性能といい、実質熾天覆う七つの円環もどきである。（熾天覆う七つの円環って、ランクB+の突き穿つ死翔の槍を防いだんだから、アーチャーが投影した熾天覆う七つの円環はランクB+だよな、多分）

もっとも、ただの『魔力で作った翼』のはずなのに、『世界樹から引き出した魔力』が威力と神秘度を後押ししているのか、熾天覆う七つの円環に準ずるランクなのにはただただ驚いた。

この世界、ネギま世界に型月世界の設定がすでに混じっているせいもあって、他の小説やアニメの設定も有効なのか？

それとも、魔力の具現化のイメージの助けにしたらうまく成功しただけか？

他にも色々試す価値がありそうだな。

さよに確認したところ、同じ世界にいる限り、世界樹から常に魔力をもらえるそうだ。

別の世界にいる場合でも、『別の世界と世界樹がある世界を繋げている扉が常時開いてあれば多分可能』とのこと。

世界扉を開けっぱなしにしとけば大丈夫そうだな。

<更新されたパラメータ>

名前：相坂さよ

能力：光鷹翼：B

所持：世界樹のブレスレット

備考：世界樹と契約済み

これでさよについては、現界&戦闘用の魔力補給の問題は解決できたか。

『日本最大級の霊脈の上にある世界樹からの魔力供給』なんだから、宝具を連続使用なんて無茶な量の魔力を使わない限り、たぶん問題ないだろう。

魔力チートの存在となつたさよのおこぼれに預かろうと、バクティオー仮契約のラインを通じて、僕とメドゥーサはさよから魔力をもらおうと思つたのだが、どうやっても、何度試してもこれが成功しなかった。

どうも、世界樹は魔力を供給する相手をしっかり限定している為、さよ経由でも僕たちには魔力を供給してくれないらしい。

さすがというべきか、けちというべきか、まあ諦めが肝心か。

第04話 世界樹との契約（小学1年生 1995年6月20日）（後書き）

【更新履歴】

2011・08・23 『さよと世界樹の間に、不完全なラインがあつたこと』を追加しました。

2011・08・30 『さよは世界樹とラインが繋がっているから魔力ランクが高いこと』を削除しました。

1995年6月20日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年6月20日のメモ

1・世界樹

1・1 世界樹との契約

世界樹の枝と樹液の結晶を材料にさよが作成した『世界樹のブレレット』により、さよが世界樹との契約に成功。

天地無用の『樹雷皇家の者と皇家の樹の間の契約』によく似た状態と思われる。

1・2 魔力補給

同じ世界にいる限り、世界樹から常に魔力をもらえるらしい。別の世界にいる場合でも、『別の世界と世界樹がある世界を繋げている扉が常時開いてあれば多分可能』とのこと。

世界樹は魔力を供給する相手をしつかり限定している為、さよ經由でも僕たちには魔力を供給してくれない。

1・3 光鷹翼

天地無用の「光鷹翼」を、さよが世界樹の魔力で再現したもの。外見といい、性能といい、実質熾天覆う七つの円環もどき。ロー・アイアス（間違っても、天地無用の「光鷹翼」の威力はない）

『世界樹から引き出した魔力』と、もしかしたら『世界樹そのもの』が威力と神秘度を後押ししているのか、熾天覆う七つの円環にロー・アイアス準ずるランクの威力を持つ。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

令呪（残り1画）

サーヴァント（セイバー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り1画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター

（相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー

（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

武装：剣

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C - （投影宝具）

蛇^{ハルベ}刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）：C（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓

：投影武具

カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：A（投影宝具）

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

<サーヴァントのパラメータ>

クラス

セイバー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 E

魔力 E

耐久 E

幸運 A

敏捷 E

宝具 A

クラス別能力

【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル

【黄金律】：B

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【精霊の加護】：B

【直感】：B

宝具

【無限の剣製】：E→A

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼殺しの眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【単独行動】：-

【怪力】：B

【神性】：E-

宝具 【騎英の手綱】：A+

【他者封印・鮮血神殿】：B

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B NEW

技術：バトントワリング（ペン回し）

所持：世界樹のブレスレット NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

備考：世界樹と契約済み NEW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A +

耐久	E	幸運	B
敏捷	E	宝具	無↓B
クラス別能力			
【陣地作成】	: B		
【道具作成】	: B		
保有スキル			
【気配遮断】	: A +		
【念動力】	: C		
【憑依】	: D		
【浮遊】	: D		
【世界樹の加護】	: A		
宝具			
【光鷹翼】	: B	NEW	
アーティファクト			
【ダビデの豎琴】			

第05話 チートトリッパー発見（小学1年生 1995年7月20日）

魔法球を手に入れてから、睡眠時間、つまり就寝時間の21時から起床時間の1時間前の6時までの9時間を魔法球の中で過ごし、メインは第四次聖杯戦争の鑑賞、少し戦闘訓練、残りの時間で食事やら睡眠をとるという生活を行っていた。（念のため、魔法球で過ごしている間は、僕の外見に変身させた魔法人形を布団に置いた）

メドゥーサが幻術の魔術を覚えているので、『いざとなれば幻術で年齢を誤魔化せる』と思っているからできる無茶である。

そして、ついに世界扉から見ていた第四次聖杯戦争は終結した。

視点は2つ（世界扉と贗作工房を変形させた世界扉）、かつリアルタイムという厳しい条件ではあったが、【自己封印・暗黒神殿】ブレイカー・ゴルゴンで僕の記憶から再生させた『Fate/Zero』のあらずじを元に、メインカメラをセイバーに設置し、サブカメラで他の人物を映すことで、ほぼ理想的なシーンを撮影することができた。

ちなみに、切嗣が聖杯に取り込まれて究極の二択を迫られるシーンまで見れた時には驚いた。このアーティファクト「世界扉」はきちんと指定すれば精神世界まで映しだせるようだ。

なお、あまりに過酷かつ救いがない展開ゆえ、さよはかなりショックを受けていた。

メドゥーサは相変わらずの桜至上主義ゆえに、桜の過酷な過去を直接知り、絶対に助けるのだと固く固く決意していた。

僕はというと、第四次聖杯戦争を生（世界扉経由）で見れたのはもちろん嬉しかったが、様々な宝具を投影できるようになったのはすごく嬉しかった。

聖杯世界の方は、第四次聖杯戦争終了後は衛宮切嗣で視点を固定し、切嗣がアインツベルン城へ向かった時期以外はほとんど見ないで流しているので、時間はほとんど経過している。

ちなみに、予想通り向こうの世界へはまだ移動できない。

他にしていることというと、さよに麻帆良学園の偵察を依頼している。

メドウィーサが偵察して、万が一にもメディアたちに見つかることを避けるためだ。

やはり、『気配遮断：A+』は偵察用としてとても使えるスキルである。さすが、原作設定で『完全に気配を絶てば発見することは不可能に近い』とまで言われるだけのことはある。

そういう意味では、魔法球を急いで複製するためとはいえ、メドウィーサが麻帆良学園へ行ったのは危険な行為だったな。

今後は気を付けておこう。

で、麻帆良学園の小学校を片っ端から回ってもらい、下記のメンバー発見に成功した。

- ・近衛木乃香
- ・椎名桜子
- ・長谷川千雨
- ・綾瀬夕映
- ・宮崎のどか
- ・明石裕奈
- ・雪広あやか
- ・大河内アキラ

当然、全員世界扉に登録済みである。

問題なのは、長谷川千雨と一緒にいた謎の少年の存在である。

<パラメータ>

名前：××××

性別：×

種族：×××

職業：×××

能力：××××××××××××

××××××××××××

内容が全く見えないのは、謎のセイバー（少女？）と同じ。

よく見れば彼女と顔立ちが似ているような？

もしかして、兄妹。いや、コスプレ女装少年だったのか？

千雨からは「朱雀」と呼ばれ、かなり頼りにされているようだった。

念のため、能力を複製してみると、「同一能力のため、上書きコピーされます。上書きを行いますか？ はい いいえ」とメッセージが表示された。

ずいぶん親切なメッセージにより、結論は出た。

何せ今の僕の能力は、『今後、能力を複製できる対象は固定』という制限付きである。

上書きが可能な以上、謎のセイバー少女の正体は、朱雀という名の少年だったというわけだ。……まさか、男装の少女って落ちはないよな？

同一人物なら問題ないと、上書きコピーを選択し、「はい」を選

択した。

その結果は、【精霊の加護】が【燕返し】に変わっていたこと以外、スキル構成は全く同じだった。

って、おい、まさか、こいつ。

自分の意志で、自由に保有スキルの設定変更が可能なのか？

それなんてチート！？

僕的能力複製とは、文字通り次元が違うチート能力に、僕は愕然とした。

能力を確認したところ、警告通り「サーヴァント（セイバー）」の能力は上書きされていた。

設定は異なっても、同一クラスの場合、僕が保有できる能力は一つだけらしい。

「朱雀はサーヴァントの保有スキルの設定変更が可能」であり、それに関する能力を持っているはず、と考えて再度朱雀の能力を確認すると、例によって読めないが新しい能力が二つ追加されて表示されていた。

多分、この二つの能力は「英霊の能力を自由に設定可能」に関連する能力なんだろうな。

そしてこの能力を僕がコピーするのは、多分僕では難しいだろう。

なぜなら、英霊の能力を自由に設定できるということは、英霊の座に自由にアクセスできるということの意味している。

聖杯戦争の英霊の召喚には、第二魔法の一部を使っていると設定にあったから、まさに魔法の域にあるといえるだろう。

神からもらったチート能力でもない限り、そんなものを使えるはずがないし、たかが僕のレア能力でコピーできるはずがない。

ゴンみたいに、『すばらしい才能を持つものが、その才能の未来すべてを代償にする制約』まですればコピーできるかもしれないが、そこまでする気はさらさらないし。

駄目元で試してみたけど、二つとも予想通り『容量が足りません』とメッセージが表示されたので、コピーするのは素直に諦めました。

さよに気配遮断能力をフルに使ってもらい、念のため目立たないように、さらにさりげなく追加の調査を依頼したところ、朱雀少年は千雨以外にも桜子と仲が良かった。

少年の名前は、『朱雀』でいいらしい。

小学1年生にして、桜子と千雨の幼馴染の立場とは、こいつは原作キャラのハーレムを目指しているのか？

原作に千雨の幼馴染として桜子の存在がなかった以上……少なくとも、原作介入（崩壊）を気にしていないのは間違いなさそうだな。「自分のプラン（ハーレム）の邪魔になるから滅ぼそう」と思われないように、僕たちは細心の注意を払う必要があるだろう。

そういう意味では、『麻帆良学園にいても不思議ではなく、かつ気配遮断ランクの高いさよ』が偵察するのは正解だったようだ。

……なにせ、朱雀少年は明らかにさよに気づいている様子だったからだ。

いや、さよをじっと見つめることはないのだが、視線をずらした際に一瞬だけだがさよと視線が合うことが多かったのだから、多分気づいているのだろう

もっとも、『朱雀に対しては怪しまれないように自然に行動』という注意をさよががんばって守ってくれたおかげで、怪しまれずにはすんだと思う。

さらに言えば、今のさよは常にキヤスター状態だが、これまでの訓練で一時的に自分がサーヴァント（偽）であることを隠すことに成功したのだ。もっともその間、さよはサーヴァントとしての能力

は一切使えないというデメリットもあるが、それは仕方ない。

……そういえば、さよに気づいていそうなのにな今までずっと接触していないってことは、朱雀はさよをハーレムに入れる予定、あるいは助ける予定はないのかな？

こっちとしては、いまさらさよを失うわけにはいけないので、ありがたいことではある。

それにしても、原作キャラでハーレム構築となると、こいつはやはり原作知識持ちのチートトリッパーなのだろうか？

朱雀がトリッパーだとすると、（従ってくれるかはかなりリスクーだと思うが）やはり彼がメディアを召喚したのだろうか？

……この予測が正しいとすると、メディアの令呪は第二のサーヴァントを召喚してそのサーヴァントに使われた可能性が高い。

英霊の力を持つ（&自由に設定可能？）チートトリッパーとサーヴァント二人、勝ち目は全くないな。

僕やメドゥーサの偵察は論外だが、さよによる偵察も最小限にしないとたほうがよさそうだな。

話は変わるが、今僕たちが悩んでいるのは、『どうやってこの世界の魔法を身に着けるか』についてである。

メドゥーサは『桜ルート後で桜に魔術を教えられる』ぐらい魔術について知識があり、サーヴァントであるさよも魔術を使える素質を持っているそうなので、『先生：メドゥーサ、生徒：僕、さよ』で聖杯世界の魔術（の基礎）について学んでいる。

が、この世界の魔法はメドゥーサが魔法使いの夢の中で覗き見て練習するしか方法はない。

これでは、あまり効率が良くない。やはり、優秀な魔法の先生を

見つける必要があるだろう。

麻帆良学園の指揮下に入るつもりはないので麻帆良学園勢力は却下、メディアたちも当分接触するつもりはないので却下。

あとは、魔法世界へ行つて探すか、あるいはエヴァンジェリンと交渉するか思いつかない。

エヴァンジェリンに教わるメリットは、

- ・最強クラスの魔法使いとその従者に魔法と戦闘について教われる。
- ・この世界の真祖の吸血鬼の強さを実体験できる。

デメリットは、

- ・未来が間違いなく変わる。
- ・エヴァと親しくなることで絡繰茶々丸が作られなくなるかも？（二次創作でそういう展開のものあり）
- ・エヴァから情報が漏れるかも？
- ・エヴァとメディア陣営が接触した際に、僕たちも巻き込まれる可能性がある。

こんなところか。

未来が変わるのは別に構わない。

ただし、茶々丸が作られなくなるのはまずいから、予知夢の一環として『5年後ぐらいに科学と魔法のハイブリッド人形の従者を作っていたこと』を伝えて、契約条項に未来への影響を最小限にするために、この従者を作ることを追加しておけばいいか。

エヴァからの情報漏洩については、契約さえしておけばこちらが裏切らない限り、誇りにかけてばらさないだろう。

問題は、夢を覗き見られたり、心を読まれたりすることだが、それくらいリスクは許容すべきだな。

最後の件が一番の問題だが、向こうが無理難題を言ってきたら、喧嘩を売ってこない限り、メディア陣営と敵対しないことは大前提。エヴァとメディアは境遇が似ている部分もあるが、お互いに相当誇り高いところもあるから、出会った場合無二の親友になるか、殺し合い上等の敵対関係のどちらになりそうな気がする。

親友になった場合は機会を見て紹介してもらい、敵対関係になった場合こっちは完全不干渉とすることを契約に入れておくしかない。

この件は3人で相談した結果、いずれエヴァと秘密裏に接触し、相手の出方次第で決めることになった。

最後に魔法世界についての報告。

さよが偵察していた時に、魔法先生の一人が魔法世界へ近いうちに出張するという情報を入手していた。

ちょうどいい機会なので、その魔法先生に霊体化したメドゥーサが憑りついていき、そのまま魔法世界へ移動することになった。

一度魔法世界へ行ってしまうえば、アーティファクト「世界扉」でこちらの世界と自由に行き来できる可能性もあるし、実現すればとても便利だろう。

1995年7月20日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年7月20日のメモ

1・朱雀（元「謎の少女セイバー」）

1・1 能力

自分の意志で自由にサーヴァントの『保有スキル』の設定変更が可能。

サーヴァントの『宝具』の設定変更もできる可能性あり

「英霊の能力を自由に設定可能」に関連すると思われる二つの新しい能力が表示。

いずれも容量不足でコピー失敗。（令呪未使用状態）

1・2 交友関係

原作キャラの長谷川千雨、椎名桜子と仲がいい。

1・3 さよへの対応

さよが見えている反応は示すが、一切接触せず。

さよはハーレムに入れる予定、あるいは助ける予定がないと予想。

1・4 朱雀の正体

原作キャラでハーレム構築中のため、原作知識持ちのチートトリッパーと予想。

この予想が正しかった場合、彼がメディアを召喚した可能性あり。その予想も正しかった場合、メディアの令呪は第二のサーヴァントを召喚して、そのサーヴァントへの命令に使われた可能性が高い。

2・現時点でエヴァと交渉できるカード

（1）ナギの情報（息子のネギがウェールズにいること）

(2) 登校地獄の情報(正しい手順で近衛近右衛門が書類に印を押せば、一定期間麻帆良学園から出られること)

(3) アルビレオの情報(図書館島の地下に多分いること、ナギのパクティオーカードを持っているのでナギ生存の確認ができること)

(4) ネギの情報(ネギが魔法学校を卒業した後(ネギ:数えて10歳時)、卒業課題として麻帆良学園に来ること)

情報の入手元は限定的な予知夢としておけばネタ元を突っ込まれる恐れはない。

1と2は、学園長にすぐに確認が取れるし、3もアルビレオがいれば確認可能。

4については、ネギが来てから対価をもらえばいい。

3・投影可能な宝具(ランクは投影宝具のもの)

(1) 追加された投影可能な宝具

エクスカリバー

・約束された勝利の剣

ゲイト・オブ・バビロン

・王の財宝

ゲイ・ジャルグ

・破魔の紅薔薇

ゲイ・ボウ

・必滅の黄薔薇

アロンダイト

・無毀なる湖光

エルキドゥ

・天の鎖

・英雄王の鎧(ギルガメッシュの黄金の鎧)

・宝具の原典(武具限定、無数)

ランクA+

ランクE

ランクC

ランクC

ランクA+

ランクA

ランクB

ランクE→A

(2) 既に投影可能な宝具

ハルペー

・蛇刈る刺突剣

アイギス

・蒼鏡の盾

キビシス

・翻転響界

ランクC

ランクD

ランクD

- ・ゲイ・ボルグ 刺し穿つ死棘の槍
- ・カラドボルグ 干将・莫耶
- ・カラドボルグ 偽・螺旋剣2

ランクC
ランクC -
ランクA

注 上記のランクは投影宝具のランク。盾や鎧は剣投影の2〜3倍の魔力を使えば投影できる。

(3) 考察

アヴァロン 結局、全て遠き理想郷は解析できないままだった。

アヴァロン やはり、全て遠き理想郷というランクEXの規格外の宝具を投影できるのは衛宮士郎本人だけということなんだろうな。

アヴァロン もっとも、衛宮士郎にとって全て遠き理想郷は10年も体と一体化して己の半身と化していたのだから、当然といえば当然か。

アヴァロン しかし、これで『全て遠き理想郷を投影して所有することで回復力アップ』というプランは破棄するしかないか。とっても残念だ。

ちなみに、聖杯戦争を見ていた合間、ずっと投影の訓練をしていた成果で、やっと僕はサイズを変更した投影ができるようになっていたのだ。

エクスカリバー 嬉しい誤算だったのは約束された勝利の剣と無毀なる湖光。アロンダイト 問題なく投影できたのも嬉しかったが、1ランクダウンというのが、『+』が一個なくなるだけだったので、Aランクのままだったのだ。なるほど、衛宮士郎が投影したカリバーンや、アーチャーが投影したカラドボルグがBランク以下無効のバーサーカーに通用したのはそういう理由だったのか。

カラドボルグ 投影した偽・螺旋剣2がランクAだったのがずっと不思議だったんだよねえ。

悲しい誤算だったのは、王の財宝がランクEだったこと。原因はすぐに分かった。

ゲート・オブ・バビロン

王の財宝の本来の機能は、『異空間における使用者専用の蔵作成&蔵への物の出し入れ』なのだろう。

ゲート・オブ・バビロン

となれば、初めて『王の財宝』を使う僕の場合、僕の蔵が空っぽなのは当然である。

しかし、これは二次創作でよく使われている設定であり、想定内の状況である。王の財宝が問題なく投影できただけでも感謝しなければ。

ゲート・オブ・バビロン

ギルガメツシュが攻撃に使っていたから、種別は武器なんだろうけど、実質は道具というか倉庫の鍵だから、投影対象外でもおかしくなかったからな。

それゆえにそれほどショックを受けることなく、すぐに固有結界「無限の剣製」を発動し、固有結界内のすべての物を『王の財宝』へ格納して固有結界を解除。

ゲート・オブ・バビロン

王の財宝の起動はそれほど魔力を使用しないため、サーヴァントの能力を使わない状態の素の僕でも十分に起動可能だった。

これで、『サーヴァントの能力を隠しているときの僕の切り札』ができた。

つまり僕は、『普段は王の財宝に入っている投影宝具を使って自分の実力で戦い、いざというときの切り札としてサーヴァントの能力を使う』という戦い方をするつもりだ。

普段は見せ札で戦い、見せ札ではどうしようもないときに切り札を使うのが賢い戦い方だと僕は信じている。

予想外だったのが盾や鎧である。『衛宮士郎と英霊エミヤは、盾や鎧は剣投影の2〜3倍の魔力を使えば一時的に投影できる』という設定だが、投影できる以上固有結界内には盾や鎧は存在している

はずだと思っていた。実際、固有結界内にあったから、全部『王の財宝』に投影品をしまったのだが、念のため投影魔術で試したところ、必要魔力こそ剣投影の2〜3倍必要だったが、継続して魔力を注ぐ必要もなく、そのまま具現化しつづけたのだ。

これは何か？

コピーした元、つまり謎の少女セイバーのチート能力で仕様が変更されたのか？ それともそれ以外の要因があるのか？

……まあいい、鎧や盾も一度投影すればそのままというのは助かる。

これで、盾として熾天覆う七つの円環を使用できるだろう。

ギルガメッシュの鎧の方は、……装備したら重すぎて動けなかった。

子供用にサイズを縮小しても、である。

……いや、サーヴァントの能力使用時なら問題ないが、自力のみでは無理なのである。

仕方なく、『ダイの大冒険』のダイが騎士の鎧で使った手段、すなわち鎧の一部パーツを装備することにした。

動きを阻害しない程度の重さのパーツのみ装備することで、防御力アップと機動力のある程度の維持が可能となった。

あと、今はできないが、装備した鎧の表面部分の一部のパーツのみをブローケン・ファンタズムで爆発させることで、リアクティブアーマー（炸裂装甲）兼接近戦時の隠し武器として使おうとか考えている。

問題は金ぴかであること、かつこいいことは否定しないが、僕の趣味には合わないのである。

……とはいえ、鎧の色を変える方法があるわけでもなく、諦めてそのまま使うことにした。

4・贗作工房の登録済みの魔法具

・世界扉：どこでもドア（一度人や場所を登録すると、次回から登録した人や場所をすぐに表示可能）

・魔法人形：精神体が憑依すると自由な姿に変身可能

・魔眼制御の眼鏡：魔眼を制御できる眼鏡

・魔法球「エヴァンジェリン・リゾート」：中に入ると時間が24倍速のプライベートスペース

・魔眼のコンタクト（『直死』『石化』以外の型月の魔眼を再現）

5・世界扉

（1）登録済みの場所（麻帆良世界）

八神遼平の自宅

麻帆良学園

エヴァの家

（2）登録済みの場所（聖杯世界）

衛宮邸

遠坂邸

間桐邸

（3）登録済みの人（麻帆良世界）

エヴァ

魔法先生

原作Aクラスの生徒（一部）

（4）登録済みの人（聖杯世界）

衛宮切嗣

言峰綺礼

ウェイバー

間桐臟硯

衛宮士郎

遠坂凜

間桐慎二

間桐桜

注 聖杯世界は表示のみで移動不可。

6・発見した原作キャラ

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

職業：小学生

能力：魔力：A+

<パラメータ>

名前：椎名桜子

性別：女

職業：小学生

能力：直感：A+

黄金律：A

幸運：A

<パラメータ>

名前：長谷川千雨

性別：女

職業：小学生

能力：魔法抵抗力：A（精神干涉系魔法限定）

<パラメータ>

名前：綾瀬夕映

性別：女

職業：小学生

能力：なし

<パラメータ>

名前：宮崎のどか

性別：女

職業：小学生

能力：なし

<パラメータ>

名前：明石裕奈

性別：女

職業：小学生

能力：なし

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント（セイバー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り1画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター（相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

ゲイト・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E→A+（投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）：

剣

アロンダイト

無毀なる湖光（パラメータ向上）：A+（投影宝具）

NEW

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A+（投影宝具）

NEW

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C-（投影宝具）

ハルベ蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

槍

ゲイ・ボルグ

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）

ゲイ・ジャルグ

破魔の紅薔薇（魔力無効化）

E
W

：C（投影宝具）

N

必滅の黄薔薇（不治の傷）

ゲイ・ボウ

E
W

：C（投影宝具）

N

鎖

エルキドゥ

天の鎖（拘束&対神）

E
W

：A（投影宝具）

N

弓矢

エミヤの弓

カラドボルグ

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：投影宝具

：A（投影宝具）

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

鎧

英雄王の鎧のパーツ

E
W

：B（投影宝具）

N

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

<サーヴァントのパラメータ>

クラス

セイバー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 E ↓ D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A ↓ A +

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : B

保有スキル 【黄金律】 : B

【魔術】 : D -

【無窮の武錬】 : A

【燕返し】

【直感】 : B

宝具 【無限の剣製】 : E ↓ A +

【十二の試練】 : C

【己が栄光の為でなく】 : C

【サーヴァント】

1 . メドゥーサ

<パラメータ>

名前 : メドゥーサ

性別 : 女

職業 : 無職

種族 : サーヴァント

能力 : サーヴァント (ライダー)

吸血

技術 : 魔術

アーティファクト :

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 D↓C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A↓A+宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【単独行動】：-

【怪力】：B

【神性】：E-

宝具 【騎英の手綱】：A+

【他者封印・鮮血神殿】：B

【自己封印・暗黒神殿】：C-

備考 マスターである八神の魔力が1ランクアップしたので、ステータス向上 NEW

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 E 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：C

【憑依】：D

【浮遊】：D

【世界樹の加護】：A

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

第06話 魔改造ランサー発見(小学1年生 1995年8月1日)(前書き)

本日(2011.8.13)、日間ランキングBEST5に入れま
した。

評価していただき、ありがとうございます。

第06話 魔改造ランサー発見（小学1年生 1995年8月1日）

7月末にメドウーサが魔法世界へ旅立ち、アーティファクト「世界扉」で無事に戻ってくることに成功したことはよかった。

これだけならよかったが、魔法世界で入手した情報の一つである『無敗の拳闘士「赫翼の槍兵」デイルムツド』が大問題だった。

「もしか、デイルムツドがメディアによって召喚したサーヴァントか？」と夏休みであることをいいことに、世界扉で魔法世界の闘技場へ遊びに行ってみた。

そして、闘技場到大歓声と共に現れたのは、まごうことなきランサーのサーヴァント、超絶美形のデイルムツドだった。

<パラメータ>

名前：デイルムツド

性別：男

種族：サーヴァント

職業：拳闘士

能力：サーヴァント（ランサー）

技術：二槍流槍術

剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

マスター メディア

真名 デイルムツド

ステータス 筋力 A 魔力 D

耐久 C 幸運 E

敏捷 A + 宝具 B

クラス別能力

【対魔力】：B

保有スキル

【心眼（真）】：B

【怪力】：B

【矢よけの加護】：B

【燕返し】

【透過】：B +

宝具

【破魔の紅薔薇】：B

【必滅の黄薔薇】：B

【突き穿つ死翔の槍】：B +

メディアがマスターであることを予想していたせいか、『マスター』の欄に『メディア』と表示されたのはいいが、……保有スキルと宝具がでたためだった。

なんだよ、この魔改造ランサーは……！

パラメータが見えないメドゥーサとさよに詳細を教えたところ、さよは純粹に驚いていたただだが、メドゥーサは顔を青ざめさせていた。

「申し訳ありませんが、魔眼が効いて石化に成功しない限り、私では彼に勝つのは不可能でしょう。」

ステータスも優れていますが、……それ以上にこの保有スキルはでたらめすぎます」

うん、同感だね。『最速のランサーが、怪力持ちの二槍流で燕返し』って、それなんて悪夢？

『アサシンがやった刀一本の燕返し』でさえ躲すのは困難なのに、二槍でやれば絶対に躲すのは不可能。そして、ゲイ・ボウを使われれば不治の傷までおまけでついてくる。

それに加えて、筋力だけ原作より1ランクアップしていることから、『【怪力】のスキルを常時、しかもリスクなしで使っている』
とは思えない。なんだ、そのご都合主義。

二人とも、第四次聖杯戦争は全部一緒に見ていたし、その際サーヴァント全員（第五次聖杯戦争含む）のパラメータについても説明済みだったから、この違いはなんだろうと不思議がっていた。

「遼、デイルムツドの現在と第四次聖杯戦争時点の保有スキルと宝具の違いは、一定の法則に則っています。」

「そうですね。確か、デイルムツドさんが新しく持っている能力って、第五次聖杯戦争でランサーさんとアサシンさんが持っていた能力じゃないですか？」

あと、怪力はメドゥーサさんの能力ですよね？」

さよもそのことに気づいたか。

「……そうだよ。考えられるのは、……メディアの仲間らしい朱雀少年は、第四次聖杯戦争と第五次聖杯戦争に登場した英霊のスキルと宝具を持っていて、かつその設定を後で変更したようだった。

もし、彼が英霊の能力を自由に設定可能だとしたら、その能力をデイルムツドに使った可能性は、……十分あるね。

さらにいえば、筋力だけ1ランクアップしているのは、【怪力】のスキルを常時、リスクなしで使っている可能性が高い。

彼は『能力使用による心身への悪影響の無効化』という能力を持っていたから、それをデイルムツドの怪力にも適用したのかも？」

「ですが、貴方の話ではメディアのパラメータはあの世界のものと同一でした。メディアに使っていないということは、この能力を使うためには、何らかのリスクか制約があるのではないのでしょうか？」

考えられるのは

「それは、令呪でしょうか？」かな？」

僕とメドゥーサの意見は同じようだった。

あとは、忠誠度の違いもあるかもしれないな。

普通、サーヴァントに対して「パラメータを改造させてくれ」と言ったら、よほど忠誠度が高くないと拒絶する。

何しろどこまで改造されるかわからないから、洗脳されるかもしれないし、「DQ ダイの大冒険」のハドラーみたいに裏切り防止&鉄砲玉として使うために爆弾を体内に仕込まれるかもしれないし、それ以前に改造に失敗してとんでもないことが起きるかもしれない。しかし、『新しい主に忠誠を尽くすこと』そのものが目的となっているデイルムツドなら、喜んで改造を受け入れるだろうなあ。

「ところで遼。あなたは能力をコピーする力を持っていますが、それはサーヴァントの能力にも使えないのですか？」

「えっ、いやセイバーの能力はコピーしただろ？」

「いや、セイバーの能力そのものではなく、保有スキルや宝具単体のことです」

そういえば、保有スキルや宝具の説明はチェックしていたが、それぞれ複製可能かどうかは調べていなかったな。

試そうとすると、「能力」欄に「能力設定」という新しい能力が表示され、保有スキルや宝具ごとに「コピー」の選択肢は表示された、となると。

「「コピー」という選択肢は出てきたってことは、今までクラススキルしかなかったセイバー以外のクラスも能力が設定できる!!」

「それは何よりです。それでは、私のパラメータに試しに貼り付けてもらえませんか？」

そう来たか。その発想はなかった。……いや、デイルムツドの例を見たのだから、僕が気づくべきだった。

さっそく試してみたが、表示されたメドゥーサのパラメータに「コピー」や「貼り付け」の選択肢は表示されなかった。

「残念だけど、貼り付けの選択肢はなかった」でしたら、令呪を使ってください」

「待て待て、一体何をそんなに焦っているんだ？」

なんでそんなに性急なんだ？

「セイバーの能力を持つ朱雀と、キャスターのメディアの二人だけなら、貴方と協力して対処すれば何とか逃げる見込みがありました。……さよも手伝ってくださいまし。」

しかし、新しくランサーのデイルムツドが、それも大幅に能力を向上させた状態で現れた以上、彼らが私たちと敵対すれば、逃げることもさえも不可能でしょう。

……その事態を少しでも改善するため、私はできるだけ早く強くなる必要があります。

そうしなければ、桜を助けることができません」
なるほど、相変わらぬ桜至上主義だな。

「だけど、……いいのか？」

令呪はこれが最後の一つだ。

ここで使っちゃうと、聖杯世界でメドゥーサ消滅後も世界扉で聖杯世界へ移動できなかった場合、さらに令呪を使うつて方法が取れなくなるぞ？」

それを聞いてメドゥーサはしばらく悩んでいたが、

「……確かに、できれば令呪を残しておきたい。ですが、生き残ることが最優先です。」

桜を助けるため聖杯世界へ移動可能になるまでに生き延びられなければ意味がありません。

最悪、こちらの力を見せつけて、メディアの力を借りるという方法もあります」

あゝ、今のメドゥーサって絶世の美少女だから、確かにメディアさんのお気に入りになれる可能性は高いか。

もともと持っていた妖艶さと、若返って得た清楚さが合わさってすごい魅力的だから、……その可能性は十分ありか。

それから、……多分だが、メドゥーサはメディアのマスターに殺されたことに、トラウマ、とまではいかなくても、相当の恐怖を持っているのだろう。

そして、この世界ではメディアの従者として、魔改造済みのディルムツドがいる。

『暗殺術が使える程度の葛木でも、メディアに強化されたらメドゥーサを殺すことも可能だった』のに、今度は『魔改造済みのディルムツドが、さらにメディアの強化やバックアップありで攻撃をしかけてきたら』と考えたら、ああ、そりゃ、僕でも絶望するわ。

瞬間移動の魔術を使えるメディアと、最速のディルムツドの組み合わせでは、……逃げることも絶対に不可能だろうなあ。

今まで魔術で防音していたが、これ以上の会話を闘技場でするのはまずいと考え、ディルムツドの試合が終わった時点でさっさと自宅へ帰還した。

なお、当然ながらディルムツドの能力はコピーできなかった。

メドゥーサの魔改造が可能だった場合の対応をしっかりと3人で相談した後、僕は令呪で「僕にメドゥーサの能力設定を可能にさせる」と命令した。

これで、特別性らしい令呪を二画もメドゥーサのために使い切ってしまった。

……まっ、美少女に甘い僕らしいと言えるかな。

メドゥーサ（魔改造後）

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A +

保有スキル 【魔眼】：A +

【怪力】：B

【神性】：E -

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

メドゥーサが望んだスキルと宝具は、全て桜を助けるためのものである。

魔改造ライダーは、『桜という大切な人を守る強さ』を具現化したものと言えるかもしれない。

「ランサーに匹敵する敏捷性と【無窮の武錬】の技量を持ち、う

まくいけば魔眼で石化、石化できなくても重圧で敵の肉体系全能力がワンランクダウン」が可能になったので、魔改造ランサーであるデイルムツドにも戦い方次第で匹敵できるだろう。

驚いたのが、メドゥーサの魔改造終了後。

さっそくメドゥーサは、砂浜に出て新しく得た能力を試している中、僕は今まで使っていなかったクラスに、セイバーの保有スキルや宝具をコピーして、色々設定を試そうと思っていた。

が、ライダークラスのパラメータを開くと、そこには、メドゥーサと全く同一のクラス別能力、保有スキル、そして【騎英の手綱】以外の宝具が登録されていたのだ。

当然目を疑ったが、何度見ても映されている情報に変化はなかった。

色々調べてみると、どうもメドゥーサの能力設定（魔改造）を行った際、メドゥーサのクラス別能力、保有スキル、そして【騎英の手綱】以外の宝具は、僕の能力として認識されらしい。

そのため、メドゥーサの『サーヴァント（ライダー）』の能力をコピーした結果になったようだ。

現在、『能力複製』は対象固定という制限ありの状態だが、まさかこんな抜け道があったとは。想像もしなかったな。

まあ、コピーできたのはラッキーと現在のセイバーとライダーのクラスを比較したところ、「クラス別能力」は同種類の上、ランクはライダーの方が高い。

セイバーというクラスに心惹かれるところはあったのだが、能力が高いことに越したことはない。

……ということで、僕はメインで使うクラスをライダークラスに変更することになった。

魔改造後

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : A+

保有スキル 【魔術】 : D-

【無窮の武錬】 : A

【燕返し】

【魔眼】 : A+

【直感】 : B

宝具 【無限の剣製】 : E→A+

【十二の試練】 : C

【己が栄光の為でなく】 : C

こんな感じである。

よく考えれば、朱雀たちに見つかからないようにするため、僕は普段は素の状態で過ごし、サーヴァントの能力が必要となる戦闘時のみこの能力を使う。

ライダークラスは純粋な戦闘用と割り切って、【黄金律】も外し、宝具もセイバークラスと同じ設定にしてみた。

ふっふっふ、キター!!! これで僕も勝てる!!!

あとは、せっかくライダーをメインで使うことに決めただから、騎乗用の使い魔が欲しいよな。

メドゥーサに頼んで、魔法世界で忠実かつ強力な魔獣を探して調教してもらうか。

ドラゴンライダーにもあこがれるが、騎乗クラスは龍種が対象外らしいから、メドゥーサと同じくペガサスかグリフォンあたりかな。

これにより、僕もメドゥーサも相当パワーアップしたけど、向こうはサーヴァント3人、こっちはサーヴァント1人＋サーヴァント（偽）1人＋サーヴァント（コピー）1人だから勝ち目はまだないな。僕とさよのパラメータはほとんどランクEだし。

同じことをメドゥーサが考えたようで、こちらに振り向くとさらなる提案をしてきた。

「遼のおかげで大幅にパワーアップできましたが、まだ足りません。そこで、保留中だったエヴァへの師事をできるだけ早く行いたいのですが？」

他に急いでパワーアップできるアイデアがなかったので、僕も同意した。

メドゥーサ自身の希望もあり、メドゥーサがエヴァと接触した。

当然最初は散臭げに対応されたのだが、「自分が『人外&吸血種』であり、実年齢は外見と大きく異なっていること」を説明し、魔法球内でそのことを証明してみせるとエヴァはそれなりの対応を取ってくれるようになった。

その後、時間は掛かったが、下記の内容で契約が無事に成立した。

『提供情報5件のうち、3件の裏付けが取れた時点で契約成立』
という良心的な契約の為、エヴァもメドゥーサをある程度信じてく

れたらしい。

提供情報（予知夢で得た内容として）

1・ナギ関連の情報

ナギの息子のネギがウェールズにすること。

2・登校地獄の情報

近衛近右衛門が正しい手順で、登校地獄用の魔法の掛けられた正式な書類に印を押せば、学業の一環として一定時間内麻帆良学園から出られること。

3・アルビレオの情報

図書館島の地下に多分いること。

遅くともネギが麻帆良学園に来るときにはいたこと。

アルビレオはナギのパクティオカードを持っているのでナギの生存の確認ができること。

4・ナギ登場の予言

時期は不明だが、ウェールズにいる時期にネギが事件に巻き込まれた際にナギが現れること。

ナギへの伝言を、ネギやネギの保護者に預かってもらえばどうか？

5・ネギの情報

ネギが魔法学校を卒業した後（数えて10歳時）、卒業課題として麻帆良学園に来ること。

ネギの血で登校地獄が解除できるのなら、エヴァが回復呪文を覚えて、ネギに回復呪文をかけながら吸血することで、ネギが死なず、かつ大量に吸血可能にならないか？

契約

1・予知夢と状況を近づけるため、未来において（ネギが麻帆良学園に来る前に）麻帆良学園の生徒の科学者と協力して、科学と魔法

のハイブリッドロボットの従者を作ること。

また、『僕たちが色々と情報を内緒にしていること』について詮索しないこと。

2・メドゥーサとその仲間について、こちらから話さないことについては詮索無用。

3・メドゥーサとその仲間に関わる情報漏洩の禁止。

話していいのはチャチャゼロのみで例外はなし。

情報が漏れた場合、情報の質と量に応じてエヴァが対価を支払う。

4・「3」を守るため、メドゥーサとその仲間は、エヴァとチャチャゼロの二人しか会わない。

「1」の従者は、エヴァと協力者によって作成されており、協力者から情報漏洩する可能性があるため、「1」の従者との接触は一切行わず、エヴァも「1」の従者へ情報提供しない。

5・メドゥーサとその仲間が望むだけ、魔法と戦闘の訓練の実施（人数制限、時間制限なし）

6・メドゥーサとその仲間に関わりなくエヴァが特定勢力、人物と敵対状態になった場合、メドゥーサとその仲間は中立を保つ（例：エヴァの吸血行為に基づく戦闘など）

7・契約「1」・「6」は、提供情報「1」・「3」が正しい情報だと確認できた後に有効とし、提供情報「1」・「5」に偽りがあった場合、全契約を一端破棄して再交渉を行う。

8・契約「1」・「7」の対価は、今日提供した情報（情報提供1・5）で全てとする。

取引に使えそうだが、まだ秘密の情報

1・ルールブレイカーを投影できるようになれば、多分登校地獄を解除できること。

2・条件さえ整えれば麻帆良学園から出られることから、同系統の術と書類を使えば登校地獄から解放できるかもしれないこと。（例：

正しい手順で登校地獄用の魔法を掛けたエヴァの卒業証書に、学園長が印を押す、など)

3・エヴァの魔力封印は、登校地獄とは別の魔法で行われていること。

エヴァも『何度も強制的に繰り返される中学生の日々』と『中学卒業と同時に自分のことを忘れるクラスメイト(魔法生徒を除く)』にうんざりしていたのか、麻帆良の魔法関係者以外で話が合う知り合いができたことに喜んでいようだし、登校地獄から解放される可能性に希望を見出したようだった。

ちなみに、エヴァは交渉成立後、提供情報「1」も「3」の真偽を確認するため、即座に学園長を強襲していた。

独自の情報網と登校地獄の魔法を自分で解析したことにして問い詰めたところ、学園長は提供情報「1」「3」についてはその場で認めた。

当然エヴァは、そのまま学園長を引きずってアルビレオに会いに行った。

アルビレオに相当からかわれたらしいが、パクティオーカードを確認してナギの生存を確信したらしい。

「2」については慌てて学園長が調査を開始し、当然のことだが『正しい手順を踏めば、エヴァは学業の一環として麻帆良学園から出られること』が判明した。

『アルビレオの存在を隠していたこと』と『今まで登校地獄についてともに調査していなかったこと』がばれた学園長は、当然エヴァに半殺しにされ、遠足や修学旅行はもちろん、社会見学や学園の備品購入などの様々な名目で、エヴァは頻繁に学園から出られることになった。

……もちろん、トラブルを避けるため、学園外に出る場合は魔力

を封印する魔法具を装着し、自衛目的以外での魔法行使は禁止されるようだ。

多分、エヴァの登校地獄を一時的に解除するのに合わせてエヴァの魔力封印を解除して、登校地獄がエヴァの魔力封印をしていないのは隠し通すつもりなのだろう。

提供情報「4」についても、学園長経由でネギとネギの保護者それぞれに「もしかしたら生きているかもしれないから、ナギが現れたら（エヴァが書いた封印解除依頼の）手紙を渡してほしい」と依頼することになった。

これらの結果により、エヴァのメドゥーサに対する評価は天井知らずの大幅高騰となり、弟子であると同時に信頼できる仲間レベルまで信頼度が上がっているようである。

そのため、予言については半信半疑ながらも、暇つぶしと保険を兼ねて、エヴァが苦手としていた回復魔法の練習を開始することにしたらしい。

メドゥーサのおまけである僕とさよについても、エヴァに対してガキ扱いせず、自分より年上で各上の存在として扱ったこともあり、それなりに気に入ってくれているらしい。

まあ、半魔物で年齢不詳のメドゥーサ（外見年齢10代半ば）、60歳ぐらいで地縛霊のさよ（外見年齢10代前半）、600歳ぐらいで真祖の吸血鬼のエヴァ（肉体年齢10歳）、そしてエヴァの従者の殺人人形チャチャゼロ、の計4人（？）は、全員人間でないという共通項があり、セットで考えても違和感がない全くない集団である。

そのため、たった一人の人間の男である僕は仲間外れになってもおかしくなかったが、エヴァのおもちゃというか、いたぶりがいのある弟子として扱われそうな予感がしている。

……いや、まだ6歳児で体ができていないから、肉体の鍛錬は基

礎の基礎、年齢にあった体力づくりのみで、メインは魔法訓練をお願いしますけどね。

ああ、言い忘れていたが、僕たちのエヴァに対する情報公開は下記の通りである。

エヴァへの情報公開内容

1・メドゥーサ

名前：メデュー・ライ（偽名）

種族：人間の外見と知性を持つ魔物

能力：魔眼、強力な対魔力

2・相坂さよ

名前：相坂さよ（本名）

種族：背後霊（実体化可能）

能力：気配遮断、念動力、憑依、浮遊、光鷹翼、血文字

3・八神遼平

名前：八神遼平（本名）

種族：人間

能力：特殊召喚能力あり（ライダーを召喚した一回のみ）

特殊能力（保有スキルのこと）

所持：アーティファクトの武器多数（投影宝具のこと）

上記の通り、メドゥーサについては正体と魔眼を除く保有スキル以外は結構ばらしている。

まあ、僕やさよと違ってサーヴァントの能力を完全に使わないことができない以上、ある程度の能力がばれるのは時間の問題のため、さつさとはらしてしまった。さすがに、メドゥーサ本人であること

は言っていないが。

ちなみに、エヴァの「永遠の氷河」でもほとんど無傷の対魔力にはさすがのエヴァの呆れ顔だった。

「対魔力：B」だと、『詠唱が三節以下の魔術を無効化。大魔術、儀礼呪法等を以ってしても傷つけるのは難しい。』という設定なので、当然の結果なのだが。

魔法球内におけるメドゥーサとエヴァの戦闘は、魔法がほとんど効かないメドゥーサに対してエヴァは「闇の魔法」まで使って攻撃をしかけてきたが、やっぱりほとんど効果がない。

そこで、「闇の魔法」でパワーアップした状態で操糸術と合気鉄扇術で戦うも、「無窮の武錬」で達人クラスの技量にあがったメドゥーサの鎖を突破できず、しかしメドゥーサもエヴァにダメージを与えることができず、引き分けに終わった。

もつとも、魔眼を使っていないメドゥーサは全然本気ではなかったと思うが、それでも魔改造済みのメドゥーサとここまで戦うのだから、さすがは真祖の吸血鬼である。

これにより、メドゥーサはエヴァのライバル認定もされ、「いつか倒してやる」と宣言し、エヴァ自身の修行も行うことになった。やっぱり、ライバル（好敵手）がいると、やる気になるものなんだな。

さよについては、ほぼすべての能力を話している。話していないのは、キャスターのクラススキルと実体化能力を手に入れた方法ぐら이다。

エヴァには、『方法は秘密だが、さよは僕の魔力を使って一時的に肉体を構成できるようになった』と話してある。

魔法人形に憑依すると、ほぼ完ぺきに人間化して、この状態でも

魔法を使うことも可能らしい。

さよは、僕と一緒に魔法の基礎から勉強をしている。

それ以外にも、さよ独自の能力である念動力や浮遊能力について、エヴァが色々と指導しているらしい。

僕については、偶然メドゥーサを召喚し、メドゥーサの同意の元従者として仕えてもらっていることと、僕の保有スキルと所持する多数のアーティファクト（投影宝具のこと）などやっぱりほとんど話している。

メドゥーサもさよもサーヴァントとしての能力を持っているのに、僕だけダントツで弱いのはあまりにも怪しいからだ。

なぜかという、僕のパラメータはほとんどランクEであり、スキルを使いこなすことが一番早く強くなる道だと考えたからだ。

もちろん、パラメータアップも目指すけどね。

スキルを一時的に封印できることも話してあるので、訓練内容に応じてスキル構成を変更すれば、スキルに頼りきりでスキルなしでは最弱、というのも避けられるだろう。

エヴァは、『自分と互角に戦う強力な存在であるメドゥーサが、特殊なスキルとアーティファクトを持つとはいえ、実力が圧倒的に劣る子供に従っていること』に不思議そうだったが、メドゥーサが『大切な目的を持っていて、それを成し遂げることに協力する対価として仕えている』と説明すると、一応納得したようだった。

こうして、『各人の能力+この世界の魔法&気&戦闘技術（瞬動など）』で戦う方法をみんな学んだ。そして、僕とさよはサーヴァントの能力を封印した状態で、戦う方法も学んだ。

メディアたちがこの世界にいる以上、常にサーヴァントの能力を

使っているのは『さつさと見つけてくれ』と宣伝して歩いているのと同義である。

ゆえに、非常時か強敵相手の戦闘時しかサーヴァントの能力を使えない以上、それ以外の能力を鍛えるのは当然だろう。

ちなみに、魔力で体を構成しているので、メドゥーサとさよは『気』を使えなかった。

あと、さよは麻帆良学園にいないことが多くなると、成仏認定されかねない。

これは原作崩壊しかねない問題なので、麻帆良学園側に対して『エヴァの協力によってさよも学園外にも出られるようになって、日本のおちこちの霊地へ行って実体化できるようにするための訓練中』と説明してもらった。

こうすれば、中学入学時に実体化していても色々と誤魔化しができると思う。

しかし、エヴァに気に入られるのはいいが、メドゥーサたちもエヴァに対して仲間意識が生まれてくると、エヴァがトラブルに巻き込まれた際に手助けしようとか考えてしまわないか？

原作なら、吸血鬼事件をエヴァが起こすただけけど、この世界にはメディアたちがいるし、「直感」がものすごく嫌な予感を伝えてくる。

もう巻き込まれることは覚悟して、被害を最小限にすることを考えた方がいいのかもしれないな。

さて、これで僕とさよがこの世界の魔法を身に着け、戦闘訓練を積むことで強くなる可能性は高くなった。

けど、それだけではまだ足りない。

……うゝん、聖杯世界へ移動可能になったら第五次聖杯戦争後に士郎たちに恩を売って、セイバーにパートタイムで手伝ってもらうか？

凜ルートのセイバーならば、パラメータは最強クラス。弱点は魔力供給だけだから、……それまでに僕が魔力を供給できるぐらい魔力保有量と魔力回復量を増やせばいいだろう。

毎日魔力が空っぽになるまで、メドゥーサに魔力を供給しているおかげで、気が付けば魔力はランクDまでランクアップしていたしな。

あとは何で士郎たちに恩を売るか、だな。

それから、エヴァの指導の元、メドゥーサ以外が初級の回復魔法を使えるようになった。

メドゥーサは、桜の為と回復魔法の習得には相当力を入れていたのだが、全く適性がなく泣く泣く習得を諦めることになった。

いくら英霊でも、適性がない魔法は覚えられない、ということみたいだ。

回復魔法に適性があつたらしいさよはとびぬけて回復魔法の効力が向上したので、今までリスクがあつて踏ん切りがつかなかった僕の魔術回路を開くことにした。

以前からメドゥーサが魔法と魔術の両方を使うのを見て、僕も魔術を使えるのではないか？ と考えていたのだ。

メドゥーサに調べてもらったところ、僕の体にも魔術回路があるので、魔術回路を開けば自力で魔術を使うことも可能、とのことである。

メドゥーサに頼んで、速攻で魔術回路を開いた。

さよは人形の体とサーヴァントの体しかなく、魔術回路は開けな

いのでパス。

メドゥーサのおかげで魔術回路を開くことには成功はしたが、本当にきつかった。

これを毎日約8年間続けたという士郎の狂気っぷりを思い知らされた、といえは少しはその恐ろしさが伝わるだろうか？

だって、痛すぎて気絶すらできないんだぞ！

スイッチを作らず、毎日魔術回路を作り続ければ、少しでも衛宮士郎の強さに近づけたとしても、絶対にやる気にはなれない。

それほどのものだった。

当然というべきか、『魔術回路を開いたばかりの見習い魔術師』である僕は強化もなかなか成功しない。

固有結界があるせいか、保有スキルの【魔術】なしでも投影はいとも簡単にできるが、宝具などのランクが高いものを投影しようとする、体（魔術回路）が耐えきれず途中でキャンセルするはめになる。

衛宮士郎の投影魔術は、自分の体（魔術回路）を通じて幻想を具現化するわけだが、当然具現化するために必要な魔力を魔術回路に通す必要がある。

で、宝具クラスの投影をしようすると、莫大な量の魔力を魔術回路に通す必要があるわけだ。

無理に最後までやると、魔術回路が焼ききれかねないだろう。

アヴァロンがあつたとはいえ、衛宮士郎が宝具を投影して平気だったのは、8年に及ぶ鍛錬の繰り返しによって鍛えられた強靱な魔術回路があつたおかげなんだろうな。

それでも、カリバーンを投影した際には、魔術回路付近の肌が黒くなるという後遺症が残ったぐらいだし。

まあ、僕の場合『保有スキルの【魔術】でこつとか成功手順を理解しながら練習する』というカンニングもどきのことを行っている

ので、ある程度のレベルまでは到達可能だろう。

実際、短時間に投影しようとするとも魔術回路の限界を超えてしまい魔術回路が焼きつきかねないが、魔術回路が耐えられる量の魔力を継続して流せば問題ないことが判明し、時間をかければいずれラックの低い宝具なら投影できそうな感触を得られた。

……まあ、そんなに投影に時間がかかると戦闘には全く使えないのだが。

上記の方法で投影の方は宝具まで成功したのに、強化の方はなかなかうまくいかない。……まるで、原作の士郎のようだ。

自分の体を強化して失敗するのは怖いので、まずはナイフなどを投影して強化しているのだが、……全然うまく強化いかない。

僕自身の属性は剣じゃないから、剣の強化は補正が効かないのだろうか？

まあいいや。体の強化は、魔法の方を使っているし、投影魔術さえできればとりあえずは問題ない。

投影のレベルが高くなれば、保有スキルから【魔術】が外せるのは嬉しい。

それがいつのことになるのかは、まだ全然予定は立たないが。

【備考】

メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 D↓C（B） 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A↓A+ 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

 【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E -

【無窮の武錬】：A NEW

【直感】：B NEW

【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C NEW

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

NEW

で、ステータス向上 NEW
マスターである八神の魔力が1ランクアップしたの

デイルムッド

<パラメータ>

名前：デイルムッド

性別：男

職業：拳闘士

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ランサー）

技術：二槍流槍術

剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

マスター メディア

真名 デイルムッド

ステータス 筋力 A 魔力 D

耐久 C 幸運 E

敏捷 A + 宝具 A

クラス別能力

【対魔力】：B

保有スキル

【心眼（真）】：B

【怪力】：B

【矢よけの加護】：B

【燕返し】

【透過】：B +

宝具

【破魔の紅薔薇】：B

【必滅の黄薔薇】：B

【突き穿つ死翔の槍】：B +

エヴァンジェリン

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル

性別：女

職業：中学生

種族：真祖の吸血鬼（封印中）

能力：吸血：A

飛行：A

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）
マギア・エレベア
闇の魔法

チャチャゼロ

<パラメータ>

名前：チャチャゼロ

性別：女

職業：エヴァの従者

種族：人形

能力：飛行

強化

技術：二刀流剣術

1995年8月1日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1995年8月1日のメモ

1・能力

1・1 能力解析

サーヴァント（ランサー）の能力詳細も解析可能。
魔改造されて持っていると思像すらしていなかったのに、全スキルと宝具を見れたので、マスターの名前以外は制限なくサーヴァントのパラメータを確認できると推測。

1・2 能力設定

保有スキルや宝具をそれぞれコピー可能
メドゥーサ
他人に、コピーしたものの貼り付けは不可。
ただし、令呪を使うことで、メドゥーサに対してコピー可能になった。

予想外のメリットとして、メドゥーサの能力設定（魔改造）を行った際、『メドゥーサのクラス別能力、保有スキル、そして【騎英の手綱】以外の宝具は、僕の能力として認識』され、メドゥーサの『サーヴァント（ライダー）』の能力をコピーした結果になった。

2・無敗の拳闘士『赫翼の槍兵』デイルムツド

<パラメータ>

名前：デイルムツド

性別：男

種族：サーヴァント

職業：拳闘士

能力：サーヴァント（ランサー）

技術：槍術

剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

マスター メディア

真名 ディルムツド

ステータス 筋力 A 魔力 D

耐久 C 幸運 E

敏捷 A + 宝具 B

クラス別能力 【対魔力】：B

保有スキル 【心眼（真）】：B

【怪力】：B

【矢よけの加護】：B

【燕返し】

【透過】：B +

【破魔の紅薔薇】：B

【必滅の黄薔薇】：B

【突き穿つ死翔の槍】：B +

宝具

備考

筋力だけ原作より1ランクアップしていることから、【怪力】のスキルを常時、リスクなしで使っているとしたか思えない

上記のパラメータを知ったメドゥーサ（魔改造前）のコメント「魔眼が効いて石化に成功しない限り、私では彼に勝つのは不可能でしょう。」

推測1

第四次聖杯戦争と第五次聖杯戦争に登場した英霊のスキルと宝具

を持っていて、かつその内容を変更した形跡があった。

デイルムツドも同じ。

よって、朱雀が英霊の能力を自由に設定可能だとしたら、その能力をデイルムツドに使った可能性はある

ただし、メディアのパラメータは原作と同じだったため、その能力の使用には何らかの制限があると推測。

令呪を使わないと他人には使えないか？

推測2

デイルムツドは、筋力だけ原作より1ランクアップ、かつ【怪力】のスキルを持っている。

このことから、【怪力】のスキルを常時、リスクなしで使っている可能性が高い。

よって、朱雀がデイルムツドの能力を設定したのだとしたら、『設定した能力のリスクと制限の解除』ができる可能性が高い。

推測3

メディアもデイルムツドも、原作とステータスが同一。（デイルムツドの筋力を除く）

朱雀の能力は「召喚したサーヴァントのパラメータは原作のパラメータと同一であり、マスターの影響によるパラメータ向上がない」という制約がある可能性がある。

まあ、魔改造されたデイルムツドにとって、多少のパラメータの上昇など大したことないのかもしれないが。

3・メドゥーサの能力魔改造

メドゥーサ（魔改造前）

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【単独行動】：-

【怪力】：B

【神性】：E-

宝具 【騎英の手綱】：A+

【他者封印・鮮血神殿】：B

【自己封印・暗黒神殿】：C-

メドゥーサ（魔改造後）

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

【無窮の武錬】：A

宝具

【直感】：B

【騎英の手綱】：A+

【自己封印・暗黒神殿】：C-

【十二の試練】：C

メドゥーサの魔改造は成功したけど、僕の令呪やサーヴァントの能力はコピーできませんでした。……そこまで都合がよくなかったか。

ただ、何故か『能力使用による心身への悪影響の無効化』だけはコピー可能だった。この能力だけは、サーヴァントにも適用可能な設定だったのだろうか？

この能力をコピーできたことにより、メドゥーサはデイルムツドと同じく【怪力】のスキルをリスクなしで使えることを確認した（時間制限あり）。

保有スキルの方は、元々「戦士」や「騎士」といった戦う存在ではないため、そういった英霊に比べて技量に劣るメドゥーサの弱点補強として「【無窮の武錬】：A」を追加。

宝具については使う必要性が少なく、桜を守るために使えない「

【他者封印・鮮血神殿】：B」を外して、桜の盾になれるように「

【十二の試練】：C」を追加した。

さらに、意味のない「【単独行動】：-」を外して「【直感】：B」を入れた。もちろん、桜の危機を察知するためである。

【単独行動】はサーヴァントに対して『マスターを介さない大聖杯からの魔力供給量を増やすスキル』であり、大聖杯がないこの世界では意味がないので議論の余地なく削除となった。

「ランサーに匹敵する敏捷性と【無窮の武錬】の技量を持ち、うまくいけば魔眼で石化、石化できなくても重圧で敵の肉体系全能力がワンランクダウン」が可能になったので、魔改造ランサーである

ディルムッドにも戦い方次第で匹敵できるだろう。

4・八神遼平のサーヴァント能力のコピー&改造

<サーヴァントのパラメータ>：今回コピー

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 B

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：-

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【他者封印・鮮血神殿】：B

【自己封印・暗黒神殿】：C-

魔改造後

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（戦闘用の切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

<サーヴァントのパラメータ>：雑魚相手に使用（見せ札）

クラス セイバー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

宝具

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

メドゥーサの魔改造終了後に、自分のライダークラスのパラメータを開くと、そこには、メドゥーサと全く同一のクラス別能力、保有スキル、そして【騎英の手綱】以外の宝具が登録されていた。

色々調べてみると、どうもメドゥーサの能力設定（魔改造）を行った際、メドゥーサのクラス別能力、保有スキル、そして【騎英の手綱】以外の宝具は、僕の能力として認識されたらしい。

そのため、メドゥーサの『サーヴァント（ライダー）』の能力をコピーした結果になったようだ。

現在、『能力複製』は対象固定という制限ありの状態だが、まさかこんな抜け道があったらしい。

まあ、コピーできたのはラッキーと現在のセイバーとライダーのクラスを比較したところ、「クラス別能力」は同種類の上、ライダーの方が圧倒的にランクが上である。

セイバーというクラスに心惹かれるところはあったのだが、能力が高いことに越したことはない。

……ということで、僕はメインで使うクラスをライダークラスに変更することになった。

で、せっかくコピー＆貼り付け対象が増えたのだから、僕のくサーヴァントのパラメータも魔改造を実施してみた。

魔改造後にセイバーとライダーのクラスを比較したところ、「クラス別能力」は同種類の上、ライダーの方が圧倒的にランクが上である。

セイバーというクラスに心惹かれるところはあったのだが、能力が高いことに越したことはない。

……ということで、僕はメインで使うクラスをライダークラスに変更することになった。

よく考えれば、朱雀たちに見つからないようにするため、僕は普段は素の状態で過ごし、サーヴァントの能力が必要となる戦闘時のみこの能力を使う。

ライダークラスは純粋な戦闘用と割り切って、【黄金律】も外し、宝具もセイバークラスと同じ設定にしてみた。

ふっふっふ、キター！！これで僕も勝てる！！

これで終わればハッピーだったのだが、なぜかメドゥーサからコピーしたスキル、宝具をライダー以外のクラスにコピーすると、1ランクダウンしていた。

同ランクのままコピーできるのは、同じライダークラスだけの例外ということか？

それにしても、メドゥーサからコピーできた宝具はとても使えそうだ。人の精神を取り込んで自由に夢（淫夢）を体験させられる【フレイカー・ゴルゴン自己封印・暗黒神殿】は色々な意味で使い勝手がよさそうである。

【フレイカー・ゴルゴン騎英の手綱】はコピーできなかったけど、何故か【フレイカー・自己封印・暗黒神殿】はコピーに成功した。

物として形を持つ宝具はコピーできないが、ランクも低いし、令呪でコピー可能にしたから例外でコピーできたのだろうか？

多分、スキルや宝具を同ランクでコピーできたけど、仮契約済みの自分のサーヴァントに令呪で命令してコピー可能にしたからこれも今回が例外なんだろうな。

もつとも、調査対象が朱雀とメドゥーサしかいないからまだ判断できないな。

あとは、せつかくライダーをメインで使うことに決めたんだから、騎乗用の使い魔が欲しいよな。

メドゥーサに頼んで、魔法世界で忠実かつ強力な魔獣を探して調教してもらうか。

ドラゴンライダーってのにもあこがれるが、騎乗クラスは龍種が対象外らしいから、メドゥーサと同じくペガサスかグリフォンあたりかな。

注意事項

今回ライダーからコピーした下記の能力の「ステータス」「保有スキル」「宝具」は、他のクラスへコピーすると1ランクダウンした。

多分、『同ランクでコピーできたのは、令呪を使ったことによるライダークラスのみの例外』と思われる。

＜サーヴァントのパラメータ＞：ライダークラス
クラス ライダー

保有スキル 【魔眼】：A＋

 【怪力】：B

宝具 【他者封印・鮮血神殿】：B

 【自己封印・暗黒神殿】：C－

<サーヴァントのパラメータ>：ライダークラス以外にコピーした場合

クラス ライダー以外

保有スキル 【魔眼】：A

 【怪力】：C

宝具 【他者封印・鮮血神殿】：C

 【自己封印・暗黒神殿】：D -

5・メドゥーサのパラメータ

いまさら気づいたことなのだが、僕が「サーヴァント」の能力を未使用時は、メドゥーサのパラメータは大幅ダウンしていた。

パワーダウン後（八神遼平がサーヴァントの能力を未使用時）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

 耐久 E 幸運 A

 敏捷 B 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】：B

 【騎乗】：A +

保有スキル 【魔眼】：A +

- 【怪力】 : B
- 【神性】 : E -
- 【無窮の武錬】 : A
- 【直感】 : B
- 【騎英の手綱】 : A +
- 【自己封印・暗黒神殿】 : C -
- 【十二の試練】 : C

宝具

なんと、耐久、敏捷が1ランクダウンである。それでも、慎二ライダーと同じである。つまり、僕は慎二と同等、ということか？

ありえない現実に落胆したが、よく考えたら当然だった。

何せ、「サーヴァント」の能力を未使用時の僕はただの6歳の子供だった。魔法球を使って魔法の訓練も始めているが、教師はいないから独学に近いし、これは当然の結果か。

絶対にメドゥーサのパラメータを慎二ライダー以上にしてやる、と強く決意した僕だった。

それと、肉体系パラメータが1ランク違うのは結構大きいから、メドゥーサが戦う時は気を付ける必要があるだろう。

6・エヴァとの交渉

提供情報（予知夢で得た内容として）

- 1・ナギ関連の情報（息子のネギがウェールズにいること）
- 2・登校地獄の情報（近衛近右衛門が正しい手順で登校地獄用の魔法の掛けられた正式な書類に印を押せば、学業の一環として短期間麻帆良学園から出られること）
- 3・アルビレオの情報（図書館島の地下に多分いること。遅くとも

ネギが麻帆良学園に来るときにはいたこと。アルビレオはナギのパクティオーカードを持っているのでナギの生存の確認ができること）

4・ナギ登場の予言（時期は不明だが、ウェールズにいる時期にネギが事件に巻き込まれた際にナギが現れること。ナギへの伝言を、ネギに預かってもらえばどうか？）

5・ネギの情報（ネギが魔法学校を卒業した後（ネギ：数えて10歳）、卒業課題として麻帆良学園に来ること。ネギの血で登校地獄が解除できるのならば、回復呪文を覚えて、ネギに回復呪文をかけながら死なない程度ネギから血を吸えるようにすればどうか？）

契約

1・予知夢と状況を近づけるため、未来において（ネギが麻帆良学園に来る前に）麻帆良学園の生徒の科学者と協力して、科学と魔法のハイブリッドロボットの従者を作ること。

また、『僕たちが色々と情報を内緒にしていること』について詮索しないこと。

2・メドゥーサとその仲間について、こちらから話さないことについては詮索無用。

3・メドゥーサとその仲間に関わる情報漏洩の禁止。話していいのはチャチャゼロのみで例外はなし。情報が漏れた場合、情報の質と量に応じてエヴァが対価を支払う。

4・「3」を守るため、メドゥーサとその仲間は、エヴァとチャチャゼロの二人しか会わない。

「1」の従者は、エヴァと協力者によって作成されており、協力者から情報漏洩する可能性があるため、「1」の従者との接触は一切行わず、エヴァも「1」の従者へ情報提供しない。

5・メドゥーサとその仲間が望むだけ、魔法と戦闘の訓練の実施（人数制限、時間制限なし）

6・メドゥーサとその仲間に関わりなくエヴァが特定勢力、人物と敵対状態になった場合、メドゥーサとその仲間は中立を保つ（例：

エヴァの吸血行為に基づく戦闘など)

7・契約1～6の対価は今日提供した情報(情報提供1～5)で全てとする。

取引に使えそうだが、まだ秘密の情報

ル・プレイカー

1・破戒すべき全ての符を投影できるようになれば、多分登校地獄を解除できること。

2・条件さえ整えれば麻帆良学園から出られることから、同系統の術と書類を使えば、登校地獄から解放できるかもしれないこと。(

例：正しい手順で登校地獄用の魔法を掛けたエヴァの卒業証書に学園長が印を押す、など)

3・エヴァの魔力封印は、登校地獄とは別の魔法で行われていること。

7・能力複製

(1) 保有スキルと宝具は同ランクでコピー可能。仮契約済みの自分のサーヴァントに令呪で命令してコピー可能にしたから今回が例外?

プレイヤー・ゴルゴーン

(2) 物として存在する宝具【自己封印・暗黒神殿】を初めてコピー成功。複製能力のレベルアップの成果か? 令呪の効果か? それとも両方か?

順調にレベルアップすれば、ランクAの物として存在する宝具もいずれはコピー可能になるか?

8・メドゥーサの能力

僕が「サーヴァント(セイバー)」の能力を使っていないときは、メドゥーサのパラメータ耐久、敏捷が1ランクダウン。

要注意。

9・エヴァへの情報公開内容

(1) メドウーサ

名前：メデュー・ライ（偽名）

種族：人間の外見と知性を持つ魔物

能力：魔眼、強力な対魔力

(2) 相坂さよ

名前：相坂さよ（本名）

種族：背後霊（実体化可能）

能力：気配遮断、念動力、憑依、浮遊、光鷹翼、血文字

(3) 八神遼平

名前：八神遼平（本名）

種族：人間

能力：特殊召喚能力あり（ライダーを召喚した一回のみ）

特殊能力（保有スキルのこと）

所持：アーティファクトの武器多数（投影宝具のこと）

10・自己封印・暗黒神殿

フレイカー・ゴルゴーン

コピーした自己封印・暗黒神殿の中の精神世界において、自分が

望んだ世界を構築可能

自分の記憶にある前世の僕の部屋を構築したところ、見事に再現成功

生前集めたあらゆるオタクグッズ（本、漫画、ゲームなど）が復活
復元したPCは、データが存在しているのみならず、なんと生前
に一度でも見たWebサイトも閲覧可能だった。

これにより、Type - moon 関連の設定や考察は相当深いレベルまで確認可能になった。

さらに、生前書いていたFateの二次創作の文章と設定データも閲覧可能になった。

11・使い魔

ライダーのクラスを活かせる騎乗可能な使い魔を将来ほしい。

メドゥーサに、騎乗可能な使い魔の調達を依頼済み。

12・今後の予定

朱雀パーティ（仮）は、『チートトリッパー（？）』のセイバー：朱雀、キャスター：メディア、魔改造済みランサー：デイルムツド』というバランスがとれ、かつ最強のチーム。

八神パーティは、『レアスキルトリッパー』のライダー：八神、魔改造済みライダー：メドゥーサ、サーヴァント（偽）のキャスター：さよ』であり、正直朱雀パーティに勝てるとは思えない。

そのため、第五次聖杯戦争後に士郎たちに恩を売って、セイバーにパートタイムで手伝ってもらうか要検討。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定 NEW

技術：魔術（投影） NEW

回復魔法 NEW

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント（ライダー）

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り1画↓0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター（相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）：

剣

アロンダイト

無毀なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）

破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

鎖

天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓
：投影武具

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）

盾

蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

鎧

英雄王の鎧のパーツ
：B（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

＜サーヴァントのパラメータ＞：重要な戦闘で使用（戦闘用の切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔術】：D-

宝具

【無窮の武錬】：A
【燕返し】
【魔眼】：A + NEW
【直感】：B
【無限の剣製】：E → A +
【十二の試練】：C
【己が栄光の為でなく】：C

<サーヴァントのパラメータ>：通常戦闘に使用（見せ札2）

クラス

セイバー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 A +

クラス別能力

【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

宝具

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

<サーヴァントのパラメータ>：隠密行動用

クラス アサシン

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【気配遮断】：A

保有スキル 【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A +

【直感】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

宝具

<サーヴァントのパラメータ>：雑魚相手に使用（見せ札1）

クラス アーチャー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 D

耐久 E 幸運 E

敏捷 E 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：D

【単独行動】：-

保有スキル 【黄金律】：B

宝具 【己が栄光の為でなく】：C

以下、セイバーと同じスキル構成

(ランサー)

クラス別能力 【対魔力】 : C

(キャスター)

クラス別能力 【陣地作成】 : B

【道具作成】 : B

注意事項

相坂さよに貸し出しているクラスのため常時使用不可

(バーサーカー)

クラス別能力 【狂化】 : C

(アヴェンジャー)

クラス別能力 -

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】 : A (ライダークラスのみ A+) NEW

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】 : A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）NEW
魔術系

【魔術】：D -
戦闘補助系

【精霊の加護】：B

【直感】：B

その他

【黄金律】：B

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）NEW

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）NEW

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：魔術

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A +

保有スキル 【魔眼】：A +

【怪力】：B

【神性】：E -

【無窮の武錬】：A NEW

【直感】：B NEW

宝具 【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C NEW

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス NEW

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

回復魔法 NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 E 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：C

【憑依】：D

【浮遊】：D

【世界樹の加護】：A

宝具
【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・デイルムツド NEW

<パラメータ>

名前：デイルムツド

性別：男

職業：拳闘士

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ランサー）

技術：二槍流槍術

剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

マスター メディア

真名 デイルムツド

ステータス 筋力 A 魔力 D

耐久 C 幸運 E

敏捷 A+ 宝具 A

クラス別能力 【対魔力】：B

保有スキル

【心眼（真）】：B

【怪力】：B

【矢よけの加護】：B

【燕返し】

【透過】：B+

宝具

【破魔の紅薔薇】：B

【必滅の黄薔薇】：B

【突き穿つ死翔の槍】：B+

【関東魔法協会】

エヴァンジェリン NEW

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル

性別：女

職業：中学生

種族：真祖の吸血鬼

能力：吸血：A

飛行：A

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）
マギア・エレベア
闇の魔法

チャチャゼロ NEW

<パラメータ>

名前：チャチャゼロ

性別：女

職業：エヴァの従者

種族：人形

能力：飛行

強化

技術：二刀流剣術

第07話 アスナの救出（小学1年生 1996年1月9日）（前書き）

本日（2011・8・14）、日刊ランキング4位、週間ランキング33位に入れました。

評価していただき、ありがとうございます。

第07話 アスナの救出（小学1年生 1996年1月9日）

1996年1月、ついに神楽坂明日菜が麻帆良学園へやってきた。そろそろ明日菜が来るはずだと学園長の動きをチェックしていたら、予想通りタカミチに連れられた明日菜を発見できた。

朱雀たちや、いるかもしれない他のトリッパーたちが明日菜に接触を図るかもしれないと、恐る恐る明日菜を監視していたのが、学園長とタカミチ以外は誰も接触する様子はなかった。

なお、僕からアスナの話聞いて以降、メドゥーサは『魔法世界での情報収集』と『アスナの願いを叶えるための準備』を、気合を入れてやっていた。

『保護者である学園長と高畑以外、誰もアスナに接触しないこと』を再度確認した後、魔法使いたちにはばれないように、メドゥーサは眠っている明日菜の精神を夢の中へ取り込んだ。

夢の中で、メドゥーサは僕にはよくわからないことをすると、アスナ・ウェスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシアの人格を覚醒させることができた。

ちなみに、夢の中にはメドゥーサとアスナ以外に、僕とさよもいます。

覚醒したアスナに話を聞いたところ、記憶を封印された時点で、アスナ・ウェスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシアの人格はずっと眠っていたような感じらしい。

まずは事情説明をした後、記憶を封印された後の明日菜の記憶を見せたところ、とても聡明ですぐに状況を理解してくれた。

おばかな明日菜とは大違いだ。

「私はギリシャ神話に登場する、ゴルゴン三姉妹のメドゥーサ本人

です。

振り回される人生から逃れたいのなら、手助けをします。

今の私はメドゥーサとしての力を使つて、全てとはいかなくてもかなりの範囲で貴女の希望を叶えることができます。……貴女の希望は何ですか？」

と、メドゥーサはアスナに優しく尋ねた

アスナはしばらく考え込んだ後、静かに話し始めた。

「ガトウさんの遺言もあつたし、タカミチは私が記憶を持ったままだと、いずれ誰かに利用されると考えていたみたい。

……ナギもいなくなつたし、ガトウさんも死んじゃったから、タカミチがそう考えるのは理解できる。

私は特殊な力を持っているし、余計なことを知りすぎているから、どこへ行つてもいつかはそうなつてしまうと私でも思う。

だから、記憶を封じられたまま私が生きていくことは否定しない。でも、貴女なら、伝説にあるメドゥーサである貴女なら、私が私の記憶を持ったまま、アスナとして暮らしても守ってくれる？」

アスナの静かな、しかし強い想いを込めた質問に、メドゥーサは即座に頷いた。

「もちろんです。私の力の及ぶ限り、ありとあらゆる貴方の敵を滅ぼしてみせましょう。」

そして、貴女が自分の力で、自分と自分の大切な人を守るように手伝つてあげましょう」

「なら、私の答えは決まっている。

あなたに可能ならば、この私の記憶と人格を別の体、例えば魔法人形などに移植してほしい。

そして、明日菜の体において私の人格が目覚まさないようにしてほしい。

タカミチが守りたい『記憶を封じられたもう一人の明日菜』は、ここでこのまま生きればいい。

もし、記憶を取り戻すことがあっても、この体は彼女のもの。

私の人格が体を奪ったり、人格が融合したりしたら、明日菜を殺してしまうことになる。

それはいや。

でも、この記憶と人格を持った私も、私として生きていたい。

だから、体は人形でいいから、心は私のコピーでいいから、明日菜とは別の、私だけの体が欲しい。

……いつ返せるかは分からないけど、この借りはいつか、絶対に返すから」

明日菜の人格と存在を認めるのが大前提で、可能なら自分も自由に生きたいとは。

アスナって本当に優しい子なんだなあ。

僕と同じく感動したらしいメドゥーサもすぐに頷いた。

「いいでしょう。貴女の覚悟と希望は、このメドゥーサが聞きました。」

……それで今後の対応ですが」

そう言うと、メドゥーサは僕の方を見て目で合図をしてきた。

「失敗する可能性はあるけど、試してみたいことがあるんだけどいいかな？」

「なにを？」

「僕はメドゥーサとさよの二人とパクティオーをしたんだけど、現れたアーティファクトはそれぞれ二人の願いを叶えるものだったんだ。」

異世界に助けたい人がいるメドゥーサには異世界へ移動する扉が、人との触れ合いを求めていたさよにはメドゥーサと同等の存在とな

って、実体化できるアーティファクトが現れた。

「ご都合主義かもしれないけど、この法則が君にも成り立つのなら私の願いが叶うかも？」

「そういうこと。この夢の中で仮契約をすれば、神楽坂明日菜ではなく君と仮契約できるだろうから、試してみる価値はあると思う。」

「どうかな？」

「キスも仮契約もはじめてだけど、……わかった、ためしてみる」

僕との仮契約が願いを叶えるものにしろ、相手をサーヴァントするものにしろ、どちらにしてもアスナを助けられるはずだ。

できれば、プリズム・イリヤのクロエと同じように、神楽坂明日菜から完全に独立した存在になってもらいたいものだが。

これで駄目なら、……アスナの希望通りに魔法人形を用意してさらに人格と記憶をコピーするか、……あるいは「夜天の書」にアスナの人格と記憶を取り込んで、「夜天の書」をカスタマイズして騎士システムを起動させるか、だな。

後者は成功するかわからないし、「夜天の書」の暴走のきっかけになるかもしれないし、できればやりたくない方法ではある。

「リリカルなのは」の「夜天の書」が暴走したのは、『歴代の持ち主の何人かがプログラムを改変したのが原因』だったから、いきあたりばったりで無茶な改造をしなければ大丈夫だとは思っけど。

そんなことを考えている横で、メドゥーサが仮契約の魔法陣を出現させた。

魔法陣に僕が入ると、アスナは飛びついてきてキスをして、仮契約は成功した。

アスナの手には、『セイバーの運命』という『Fate/stay night』のサーヴァントを表すカード（セイバーが描かれたカード）が現れた。

「これは？」

「手に持って「ロード」と言うと、メドゥーサやさよと同じ存在に

なれるアーティファクトさ。

とりあえず試してみて」

僕の言葉を疑うこともなく、アスナは頷いて言葉を紡いだ。

「ロード」

言葉と共に、目の前にいるアスナが二人に分離し、一人は睡眠状態で倒れこんできたため慌てて僕が抱き留めた。

もう一人は、と確認すると、予想通りセイバーになったアスナが立っていた。

アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウェスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

性別：女

職業：ウェスペルティア王族

種族：サーヴァント（偽）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動

アーティファクト：

セイバーの運命

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 C

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

アスナがセイバーになったのはいいが、なぜか黒目、黒髪、そして黄色人種系の肌色に変化

つまり、体色は完全に日本人と同じになったのである。

これは僕の願望か？ それとも『プリズム・イリヤ』のクロエから黒化を連想したせいかな？

まあ、この姿なら、黄昏の姫御子とばれる可能性は減るだろう、多分。

あと、ネギと契約した際に現れてたアーティファクトである【ハマノツルギ】をなぜかセイバーとなったアスナは持っていた。

あれか？

サーヴァントとなったときに持っているアーティファクトは、原作のネギまで出てきたアーティファクトになるのだろうか？

それとも、僕がハマノツルギを持つことを望んだから、その願いが叶ったのだろうか？

「どうかな？」

「……わかる。今の私は、神楽坂明日菜から独立した存在。

リョウをマスターとして、魔力で作り上げた体に私の人格と記憶が存在している。

多分、魔力切れでこの体が消えない限り、私はこのまま。

魔力が切れると、それまでの記憶をもった状態で明日菜の中に戻

って眠りにつくと思う。

その場合、今と同じように再び覚醒できるかどうかはわからない。……ただ、その際、すでに明日菜が生きていなければ、間違いなく私も消えてしまう。」

そっか、そういう意味でも、『プリズム・イリヤ』のクロエと同じ状況ってことか。

「それって、神楽坂明日菜が死ねば、君も消えてしまうってこと？」

「……勘だけど、この状態なら例え明日菜が死ぬことがあっても、私は消えないと思う。それくらい独立した存在だと感じられる。

ただ、さっきも言ったけど、その状態で魔力切れ、あるいはこの肉体が滅びれば、私も消滅すると思うけど」

「……わかりました。

ほとんど、私と同じ存在になったということですね。

安心してください。一番ではありませんが、貴女も大切な存在です。

可能な限り私が守りましょう。

あとは、貴女が貴女自身を守る力を身に着けるだけです」

あとは、魔力供給の問題だな。

自力で魔力を回復して供給できるのは僕だけ、世界樹から供給された魔力を受け取ることができるのはさだけである。

メドゥーサとアスナを僕の魔力だけで支えるのはかなり大変そう
だ。

夢から出て、明日菜とアスナが別個体として存在していることを確認すると、すぐに明日菜以外の全員で自宅の魔法球へ戻った。

そこで、アスナの同意の元、仮契約大会^{バクティオー}を実施。

最後に僕と仮契約^{バクティオー}をした。

なぜか、アスナから舌を入れてきて、すっごいディープキスをしてきた。

全員哑然として止めるものなし。ぴちゃぴちゃ音を立てるディープキスがかなり長い間続く。

呆然としたままアスナに理由を尋ねると、お礼、とのこと。

嬉しいけど、時と場所を選んで欲しかった。

一体誰が、アスナにこんなことを教えたんだ！

ラカンとかが酔っぱらって冗談半分で教えた、とかは十分ありそうだが。

……後ろのメドゥーサとさよの視線がかなり冷たいし。

「ところで、アスナは、これからどう暮らしますか？」

「僕としては、僕たちと一緒に過ごしてほしいけど」

「いいよ」

アスナの答えは素っ気なかったけど、承諾してくれたのは嬉しかった。

そっか、もしかすると、このメンバーでトップクラスの年長者ってアスナになるのかもしれないな。

一番じゃないのは、メドゥーサがいるので。

元々女神だし、魔物になってからはずっと孤島にいたらしいし、けっこう長い間生きていてもおかしくないんだよなあ。

まあ、わざわざ逆鱗に触れる必要もないし、このことを確認する必要はあるまい。

「それじゃあ、メドゥーサ、さよと一緒に住んでもらうことになるけど、いいかな？」

「あと、僕を含めた3人で毎日24倍速の魔法球で訓練してるから、

アスナがよければ「参加する」

「そうか、じゃあ一緒に訓練しよう。」

自分の身を守るように。そして、大切な人たちをずっと守れるように」

魔法球内のお風呂に一人で入っていると、いきなりアスナが入ってきた。

いくら実年齢が百歳以上とはいえ、今の肉体年齢は6歳ぐらいのつるぺた幼児。

今のアスナに対して、きれいとか可愛いとか思っても、欲情することなどありえない。

……で、こっちも精神年齢は30代のおっさんでも、今の体はまだ11歳の子供（魔法球で4年半ほど過ごしたため）。

向こうも僕を意識することなくそのまま風呂に入り、なぜか僕の膝に乗ってもたれかかってきた。

「そうだ、君の……妹にあたるのかな？」

神楽坂明日菜について、アスナはどうしたい？」

「とりあえず接触するつもりはない。」

……あなたはどうするつもりなの？」

「僕たちは中学生、つまり今から5年後に麻帆良学園へ入学するつもりだけど、それまでは必要以上に接触するつもりはないよ」

「じゃあ、私もそれでいい。」

メドゥーサさんに頼んで、明日菜が重傷以上の傷を負いそうになったり、誘拐されそうになったり、洗脳されそうになったら守ってもらいたいけど、そうでないなら放置でいい」

明日菜の保護は最小限でいい、ってことか。……となると、

「……もし、神楽坂明日菜が再び魔法世界に関わったらどうする？」
「それが自分の意志ならば放置する。」

「だけど、相手にとって都合のいい情報や捏造された情報しか聞いていないなら、第三者を通して正確な情報を与える。」

「実力もないのに、魔法世界に関わるうとしていているのなら、あらゆる手段を使って自分の実力の無さと魔法世界の危険性を思い知らせる。」

「……あとは様子を見て、その都度決める」

「アスナの答えに迷いはなかった。」

「教えるだけで助けなくていいのか？」

「正しい情報を聞いて状況を理解した上で、自分の意志で危険な世界に入ったのなら、それ以上は余計なおせっかいになる」

「まあ、そうだね」

「アスナはなかなかスパルタ方針のようだ。」

「いくらお馬鹿な明日菜でも、正しい情報と客観的に見た自分の実力を知ればそうは危険なことをしないだろう。」

「……もしかして、明日菜がネギのパートナーになるフラグをへし折った？」

「……ま、まあ、未来のことはその時に考えればいい。」

「今の僕にとって、『アスナの願い>原作展開』なのは当然だしな。」

「それにしても、なぜ貴方は私のことを恐れたり、気持ち悪がったりしないの？」

「ん？ どうして？」

「考え込んでいた僕に、アスナは予想外の質問をしてきた。」

「私は魔法無効化能力を持っていて、その能力を利用して魔法世界を滅ぼすところだった。」

「それ以前に、……自分でも正確にはわからないけど、間違いなく百歳は超えている。」

「どう考えても普通じゃない」

「ああ、それか。いや、僕たちに普通なんて人はいないしね。じゃあ、改めて僕たちの家族の紹介をしようか。」

まずは最初に君に会ったメドゥーサ。

知ってのとおり、ギリシャ神話で石化の魔眼を持つ魔物にされた存在。

はるか昔にペルセウスに殺されたけど、使い魔として現代に召喚されたのが彼女。

それから、さやちゃんも見て分かっただろうけど、体は魔法人形。魂は死んでから何十年も経つ地縛霊さ。

ああ、今は君と同じくサーヴァント（偽）だった。

で、最後に僕。30歳まで普通に生きていたんだけど、気づいたら異世界の自分、それも子供時代の自分の体に憑依していて、色々あつてこういう状況。

そういうわけで、僕の家族たちは年齢も体も過去も普通じゃないメンバーだらけだから、君もすぐに馴染むと思うよ」

とんでもない言葉の連続に、さすがのアスナも驚きが隠せないようだった。

しばらくは会話もなく、二人で並んで静かにお湯につかっていた。

しかし、この娘、可愛いなあ。

何か既視感を覚えると思ったら、レイとかタバサとか長門にそっくりなんだな。

……いわゆる、クーデレキャラでいいのか？

おっと、今はロリクーデレ美少女（美少女？）キャラだな。

今の神楽坂明日菜は記憶がないとはいえほぼ同じ性格なのに、9年後にはノー天気＆学年一お馬鹿キャラになってしまっただから、時間の流れとは残酷なものだ。

いや、『朱に交われれば赤くなる』を地でいく、朱である麻帆良学園が恐ろしいというべきか。

いや待て待て、原作の裏設定で明日菜がバカなのは、記憶を封印された副作用だったし、そのせいもあるか。

二次創作では『高畑先生と一緒に過ごす時間を多くしたくて、わざと落第点を取り続けた』っていう話もあったが、それなら高畑先生の担当科目の英語だけ落第点を取ればいい。

まさか、『英語だけ落第だと目立つから、全科目わざと落第点を取る』なんて高度なことをあの明日菜が考えられるはずもないし、全科目壊滅ってことはやっぱり記憶消去の副作用だろうな。

未来の明日菜がノー天気な性格になるのは仕方ないとしても、バ力になるのは治してあげたいな。

特に『元々聡明なのに、他人が勝手にかけた魔法で知力を落とされる』というのは哀れすぎる。

そんなことを考えていると、アスナがいきなり衝撃の発言をしてきた。

「あなた、私に手を出す気があるの？」

「い、いったい何を？」

爆弾発言に動揺を抑えられない僕に、アスナは次々と言葉の矢を放ってきた。

「メドゥーサさんは遼の愛人のようなことを言っていたし、さよも遼の恋人みたいだったから、……私も狙ってるのかと思って」

「た、確かにアスナは可愛いとは思っけど、無理やり手を出すつもりはないよ」

必至で冷静さを保って答えた（つもりだ）が、アスナの追及は容赦がなかった。

あと、正確にはメドゥーサは僕に絶対服従を誓っている従者で、

さよは僕にもものすごく感謝しているだけで、まだ恋人ではないです。
「無理やりじゃなければ出すの？」

「ま、まあ、僕に好意を持ってくれて、かつ僕がメドゥーサのさよの二股を目指していることを知っていて、それでも良いっていう娘ならね。」

そんなやつ、普通ならいるはずがない。

普通ならいるはずがないから、賭けとか借りとかで無理やりハーレムメンバーを増やそうなんて、密かに考えているのだが。

もちろん、『惚れた弱み』でもOKである。

「じゃあ、私もOK？」

「もちろんだよ」

なぜこんなことをアスナが言ってきたか意図がよく分からないが、好みの美少女（になる予定）の子からこんなことを言われたら、即OKなのは言うまでもない。

「私、体はこんなだけど、実年齢が百歳以上だけどいいの？」

「肉体年齢が若くて、容姿と性格が僕の好みの範囲内ならOKだよ？」

ああ、今は身も心も完全な女性でも、元男性だけは勘弁だね。

『前世が男だったという記憶があっても、今は身も心も女として生きている女性』ならぎりぎり許容範囲だけど。

さつきも言っただけど、僕も30歳でこの世界に来て6歳児になっただから……他人のこと言えないしね」

「だったら、本気で遼のハーレム入りを目指す」

「な、なんでそうなるのかな？」

「貴方も知つてのとおり、私の過去は簡単に話せない上に、とても危険な内容だらけ。」

いつか私が恋人を作ったとして、その人に私の過去を話せば信じてくれない人がほとんどだろうし、信じた人も逃げ出してしまうのは簡単に想像できる。

それ以前に話せるかどうかの調査も重要だし、話した人から私の情報が漏れてしまったらただじゃすまない。

そういうことを考えると、私の過去を知っているメンバーから恋人を探すのが現実的。

…… 本当ならナギが良かったけど、ナギはアリカと結婚して子供も作ってるし、今どこにいるかも分からないから無理。

残りの「紅き翼^{アラルブラ}」のみんなも好意はあっても恋愛対象じゃない。

…… そうなると、残るのは貴方だけ。

貴方、というか貴方たちなら、私を利用するため誰かが襲ってきてもよほど強くない限り撃退できるし、最悪の場合に逃げるのも可能。

最後に、今の私のことを助けることを考え実行してくれたのは貴方だけだから、貴方を恋人候補にするのはおかしくないと思う。

決定的なのは、私の体は貴方に供給された魔力で構成されたもので、事実上私は貴方の従者を辞めることはできない。

そうなると、貴方しか選択肢がない」

自分の好みとか感情をほとんど含まない、冷徹な考えによる消去法なんですね。

いや、『お姫様みたいな特別な立場の女性は、婚約者候補の中から自分が望む人を結婚相手に選べるだけまし』ってことも多いらしいけど。

まるで、『スカーレット・ウィザード』のジャズミン・クーアみたいな選び方だな。

アスナが僕好みの美少女になるのは分かっているし、クーデレな性格も可愛いから、明日菜みたいにお馬鹿にさえならなければ、僕は当然OKである。

あとは、『魔法世界編において取る予定の僕の行動』をアスナが

是とするかどうか、だ。

最悪、魔法世界人は完全に見捨てることになるからなあ。

「何か、問題ある？」

「……ええ、まあちよつと」

言葉を濁した僕に、アスナは事情を察したのかそれ以上は質問してこなかった。

「今言えないことがあるなら、後でいい。言ってくれるのを待つ」

「それで頼むよ」

「わかった」

コクンと頷くアスナがとっても可愛くて、思わず抱きしめてしまった。

ん、あつたかくて柔らかい。

ロリの趣味はなかったが、何か目覚めてしまいそうだ。

アスナもほんの少し表情が柔らかくなった感じで、少なくとも嫌がってはいなかった。

いや、抱きしめ返してきたからアスナも嬉しかったのかな？

こうして、アスナが仲間に加わった一日は終わった。

今のところは、めでたしめでたし、かな。

第07話 アスナの救出（小学1年生 1996年1月9日）（後書き）

【更新履歴】

2011.8.15 「夜天の書」にアスナの人格と記憶をコピーして、「夜天の書」をカスタマイズして騎士システムを起動させるプランを追記

【備考】

アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

性別：女

職業：ウエスペルタイア王族

種族：サーヴァント（偽）

能力：完全魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動

アーティファクト：

セイバーの運命

退魔の剣

吸魔のマント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター	八神遼平
ステータス	筋力 D 魔力 A+
	耐久 D 幸運 C
	敏捷 C 宝具 -
クラス別能力	【対魔力】：B
	【騎乗】：B
保有スキル	【完全魔法無効化】：A
	【咸卦法】：A
アーティファクト	【ハマノツルギ】
備考	ステータスは『気』使用時のもの (筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

1996年1月9日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年1月9日のメモ

1. 黄昏の姫御子

アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフユシア

性別：女

職業：ウエスペルタイア王族

種族：サーヴァント（偽）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動

アーティファクト：

セイバーの運命

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 C

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：B

 【騎乗】：B

保有スキル 【魔法無効化】：A

 【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

アスナの身体は魔力で構成されているので、魔法無効化能力が暴走すれば、自分の体を消滅させかねない。

アスナがそんなミスをするとは思わないけど、注意しといたほうがいいな。

2・仮契約大会

バクティオー

主

× 従者

Ⅱ アーティファクト

ライダー
八神遼平

× アスナ

Ⅱ セイバーの運命

メドゥーサ
× アスナ

Ⅱ 蛇刈る刺突剣（屈折延命）

キャスター
相坂さよ
× アスナ

Ⅱ

セイバー
アスナ
× 八神遼平

Ⅱ 魔眼のコンタクト（『直死』『石化』以外

の型月の魔眼を再現）

セイバー
アスナ × メドゥーサ Ⅱ 時の天秤（天秤に手を載せた二者間で、両

者の同意の元、時間 or 肉体年齢を移動させる）

セイバー
アスナ × 相坂さよ Ⅱ 昂魔の宝珠（魔法の発動をサポートする。

一定容量内の魔法を貯めて、特定のキーワードで発動できる。）

魔眼のコンタクトは、『石化』『直死』以外の型月の魔眼を再現するという、やっぱりチートアイテムである。

再現可能な魔眼は、現在確認できるだけで、『浄眼』『歪曲』『千里眼』『魅了』『偽直死』。

注 『偽直死』は、ロアの持っていた『生物を生かしている部分

（Ⅱ命）を視覚化して見る事ができる魔眼』のこと。

3・神楽坂明日菜への方針

・中学生になるまでは、必要以上に接触するつもりはないが、可能なら重傷以上の傷を負いそうになったり、誘拐されそうになったり、洗脳されそうになったら守るが、そうでないなら放置。

・魔法世界に関わった場合

自分の意志ならば放置する。

相手にとって都合のいい情報や捏造された情報しか聞いていないなら、第三者を通して正確な情報を与える。

実力もないのに、魔法世界に関わろうとしているのなら、あらゆる手段をとって自分の実力を思い知らせる。

あとは様子を見て、その都度決める。

・自分の意志で危険な世界に入ったのなら、それ以上は余計なおせっかい。

5・アスナへの情報提供

魔法世界編において取る予定の僕の行動を是とするか？

最悪、魔法世界人は完全に見捨てることになるだから、アスナは受け入れない可能性あり。

アスナの思考パターンや大切なものを理解してから話すか決めること。

6・贗作工房

登録済みの魔法具

・世界扉：どこでもドア（一度人や場所を登録すると、次回から登録した人や場所をすぐに表示可能）

・魔法人形：精神体が憑依すると自由な姿に変身可能

・魔眼制御の眼鏡：魔眼を制御できる眼鏡

・魔法球「エヴァンジェリン・リゾート」：中に入ると時間が24倍速のプライベートスペース

・魔眼のコンタクト（『直死』『石化』以外の型月の魔眼を再現）

・ハマノツルギ（魔法無効化の剣）

・蛇刈る刺突剣（屈折延命）
ハルベ

・魔眼のコンタクト（『直死』『石化』以外の型月の魔眼を再現）

・時の天秤（天秤に手を載せた二者間で、両者の同意の元、時間 or 肉体年齢を移動させる）

・昂魔の宝珠（魔法の発動をサポートする。一定容量内の魔法を貯めて、特定のキーワードで発動できる。）

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

技術：魔術（強化、投影）

剣術 NEW

槍術 NEW

弓術 NEW

瞬動術（虚空瞬動も可能） NEW

西洋魔法（風、影、回復） NEW

能力（複製）（使用中）：

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー （アスナに常時貸し出し中）

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター （相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー （理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

所持：王の財宝（倉庫）

：E→A+（投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光 （パラメータ向上）：A+（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A+（投影宝具）

EW

干将・莫耶（対魔力&対物理向上） : C - （投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ : B （投影宝具） N

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
ハルベ : C （投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化） : 投影アーティファ

クト NEW

世界樹の宿木の剣（対神、対不死）
ミステルテイン : 投影アーティファ

クト

妖刀ひな（呪われた刀） : 投影武具（メドウ

ーサ用） NEW

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
ゲイ・ボルグ : C （投影宝具）

破魔の紅薔薇（魔力無効化）
ゲイ・シャルグ : C （投影宝具）

必滅の黄薔薇（不治の傷）
ゲイ・ボウ : C （投影宝具）

鎖

天の鎖（拘束&対神）
エルキドゥ : A （投影宝具）

弓矢

エミヤの弓 : 投影武具
カラドボルグ

偽・螺旋剣2（矢&爆弾） : A （投影宝具）

盾

蒼鏡の盾（センサー）
アイギス : D （投影宝具）

鎧

英雄王の鎧のパーツ : B （投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト NEW

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E ↓ D 魔力 D ↓ C

耐久 E ↓ D 幸運 A

敏捷 E ↓ C 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A +

保有スキル 【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A +

【直感】：B

【魔眼】：B

宝具 【無限の剣製】：E ↓ A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 『魔眼のコンタクト』使用により、【魔眼】スキル

追加 NEW

ステータスは『気』使用時のもの NEW
（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<サーヴァントのパラメータ>：隠密行動用

クラス アサシン

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E ↓ D 魔力 D ↓ C

耐久 E ↓ D 幸運 A

敏捷 E↓C 宝具 C
クラス別能力
保有スキル
【気配遮断】：A
【魔術】：D -
【無窮の武錬】：A

【燕返し】
【魔眼】：A +
【直感】：B
【十二の試練】：C

宝具

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

備考
ステータスは『気』使用時のもの NEW
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<サーヴァントのパラメータ>：通常戦闘に使用(見せ札2)

クラス ランサー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E↓D 魔力 D↓C

耐久 E↓D 幸運 A

敏捷 E↓C 宝具 C

クラス別能力
【対魔力】：C

保有スキル
【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

【魔眼】：B

宝具
【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考
【自己封印・暗黒神殿】：D -
ステータスは『気』使用時のもの NEW
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

備考
追加 NEW
『魔眼のコンタクト』使用により、【魔眼】スキル
ステータスは『気』使用時のもの NEW
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<サーヴァントのパラメータ>：雑魚戦闘に使用（見せ札1）

クラス アーチャー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 E↓D 魔力 D↓C

耐久 E↓D 幸運 A

敏捷 E↓C 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：D

【単独行動】：-

保有スキル 【黄金律】：B

宝具 【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの NEW
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

以下、同じスキル構成

(セイバー)
クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

注意事項

アスナに常時貸し出しているクラスのため使用不可

(キャスター)

クラス別能力

【陣地作成】：B

【道具作成】：B

注意事項

相坂さよに貸し出しているクラスのため基本的に使用不可

用不可

(バーサーカー)

クラス別能力

【狂化】：C

注意事項

理性を失うため使用不可

(アヴェンジャー)

クラス別能力

-

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A (ライダークラスのみA+)

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C (ライダークラスのみB)

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B

【直感】：B

その他

【黄金律】：B

宝具

【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスののみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D-（ライダークラスののみ

みC-）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

所持：妖刀ひな（投影品）NEW

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤 NEW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 B ↓ A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : A +

保有スキル 【魔眼】 : A +

【怪力】 : B

【神性】 : E -

【無窮の武錬】 : A

【直感】 : B

宝具 【騎英の手綱】 : A +

【自己封印・暗黒神殿】 : C -

【十二の試練】 : C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

マスターである八神の魔力が1ランクアップしたの

で、ステータス向上 NEW

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント（偽）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A +

耐久 E 幸運 B

敏捷 E ↓ D 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル 【気配遮断】：A +

【念動力】：C ↓ B

【憑依】：D ↓ C

【浮遊】：D↓C

【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ NEW

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

性別：女

職業：ウエスペルタイア王族

種族：サーヴァント（偽）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルベィ
蛇刈る刺突剣

ミステルテイン
世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 C

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

第08話 エヴァの訓練（小学1年生 1996年1月10日）

さて、今日もエヴァの修行を受けに行くわけだが、当然アスナも参加するわけでエヴァとアスナが顔合わせすることになった。

アスナについては、下記の内容、つまりほとんど全てをエヴァに話した。

エヴァに話したアスナの事情

- ・魔法世界の王族であること
- ・100歳を過ぎているが、幼生固体状態でずっと幽閉されてきたこと
- ・魔法無効化能力を持ち、戦争に利用されてきたこと
- ・戦争後にナギたちが助けてくれて一緒に旅をしていたが、ナギがいなくなり、ガトウも死んで、高畑によって記憶を消された（元の人格を封印された）こと。
- ・今のアスナは、本来の体から独立した『実体化した精神生命体みたいな存在』であること。（方法は内緒）
- ・僕からの魔力供給が途絶え魔力が切れてしまうと、消滅してしまう存在であること

メドゥーサがアスナに同情したように、エヴァも相当同情したらしく、「自分で自分の身を守るように。お前を利用しようとするものを皆殺しにできるぐらいの強さを与えてやる」と、ものすごく張り切ってアスナの修行を始めていた。

メドゥーサ、エヴァ、アスナは過去に共通点が多い上、いずれもかなり不幸なのは確かだからなあ。

エヴァの場合、吸血鬼にされ迫害されたのは事実だが、それでも自分の意志で戦い、旅をして、そして生きてきた。

強制的に100年もの間ずっと幽閉され、たまに外に出れたと思

つたら戦争に利用されてきたアスナの方が、はるかに不幸なのは言うまでもないだろう。

「ほう、封印された人格を精神生命体として独立した存在にするだけでなく、実体化も可能にしたのか。

……多分、さよを実体化させたのと同じ方法だろうが、やはり秘密なのか？」

「すいませんが、内緒です。

もちろん、対価をもらえるならば話してもいいですよ」

「ふん、断る。とんでもない対価を請求されそうだからな」

そう言つて、エヴァは修行場へ向かつていった。

対価として「従者になつてくれ」と言いたいのが本音だが、言った瞬間に殺されそうなのが大问题である。

やっぱり、エヴァは僕たちの師匠的立場であり、従者にしようなんておこがましすぎるか。

『「登校地獄」を解除する代わりに従者になれ』なんてエヴァが受け入れるはずがないし、他にエヴァが欲しがりそうな情報とかネタとかもつないからなあ。

……可能性があったら、『トリッパーとエヴァが衝突した結果エヴァがずたばろに負けて、エヴァが「あいつに勝てるためなら何でもしてやる」と宣言した時』ぐらいかな？

平均的なチートトリッパーなら封印状態のエヴァは一蹴できるだろうし、エヴァってかなりプライドが高いから「俺TUEE」の傾向が多いトリッパーと激突する可能性も高いだろう。

トリッパーはエヴァの過去を知っているのでエヴァを助ける傾向が高いけど、原作知識なしのトリッパーだと容赦なくエヴァを倒しかねないよなあ。

……問題は、『エヴァを助ける』エヴァが対立したトリッパーの敵になる』ということで、『エヴァを従者にできたとしても、黒字

になるか怪しい』ということだ。

最悪、エヴァもろともトリッパーに皆殺しにされるかもしれない。

……今のメドゥーサに僕たちのサポートがあれば、サーヴァントクラス敵なら十分撃退できると思うが、トリッパーによってはサーヴァントを一蹴できる強さを持つやつもいるからなあ。

原作知識ありのトリッパーだから可能性は低いと思うが、万が一にも朱雀たちとエヴァが激突したら、絶対に中立を宣言させてもらう。

朱雀の能力の全貌も見えない上、魔改造デイルムツドとメディアが一緒なのだから、勝てる見込みは少ないし、運よく勝てたとしても被害が多すぎるのが目に見えているから当然だ。

そんなことを考えていると、エヴァに「何をしている。さっさと来い！」と怒られてしまった。

先のことはともかく、今はまず訓練を積んで、可能な限り強くなることを考えないとな。

いつも通り、エヴァ、チャチャゼロと一緒に訓練を始めた。

チャチャゼロは、エヴァが麻帆良学園へ来て魔力を封印されて以来、ほとんど動けずに過ごしてきたらしい。

そのため、訓練とはいえ戦えるのが嬉しいらしく、大喜びで殺す気の攻撃をしかけてきており、訓練といえども全く油断できない。

これだけ強いのに魔力が足りないだけで、戦えないのはもったいない。

エヴァが魔力を供給できないなら、他のところから供給すればいい。

……チャチャゼロがエヴァ以外と契約するはずがないから、何か魔力補給に使える便利なアイテムとかないだろうか？

原作に魔力回復アイテムか、パワーアップアイテムは出てこなか

ったか？

……あゝ、そういえば、魔法世界編で月詠が妖刀ひなを使って無茶苦茶パワーアップしていた。

『呪われた人形と言っても過言ではない殺戮人形チャチャゼロ』
に、『かつて神鳴流が一度全滅しかけた原因である妖刀ひな』の組み合わせ。

……『混ぜるな危険』と考えた僕は間違っていないだろう。

チャチャゼロに渡すのは危険そうだから、……呪いに強そうなメドゥーサが望むなら渡してみるか。

いや、アテナに呪われて魔獣にされたメドゥーサが、たかが人間に制御できる程度の妖刀に乗っ取られるはずがないと思って。

例の予知夢のようなものでメドゥーサに下記のことを説明してみた。

・呪われた刀

・かつて神鳴流が一度全滅しかけた原因

・人間の神鳴流剣士（人斬り）の月詠が制御下に置いていた

・黒い気（妖気？）を全身に纏うことで月詠がパワーアップ

「……で、貴方はどうしたいのですか？」

「うん、メドゥーサがたかが妖刀程度に乗っ取られるはずがないから、呪われてるけど『気』を放出する刀があれば便利かと思って。

世の中には『気』じゃないと有効なダメージを与えられない存在もいるかもしれないし、『サーヴァントは『気』を自力で生み出せない』という弱点をカバーできるかと思ってね」

「何か隠しているような気がしますが、……それが手に入れば確かに便利そうですね。

わかりました。

試してみますので、持ってきてください」

メドゥーサからの了承ももらえたので、後日ひなた荘へアサシンの【気配遮断】を使って侵入し、妖刀ひなを固有結界に登録した。試してみたところ、投影した妖刀ひなもオリジナルと同様に呪われていて、鞘に収めた状態でも禍々しい気配を持っていた。

一目見てとても僕では制御できないとすぐに諦めたほど、あまりにおぞましい気配だった。

万が一にもメドゥーサが乗っ取られたら速攻消すつもりでいたが、メドゥーサが妖刀ひなを持ったところ、一瞬で制御下に置いてしまった。

呪われたもの同士相性が良かったのか、それとも所詮は人間に制御できる程度の呪いでしかなかったのか？

「メドゥーサ、見た感じ大丈夫そうだけど、どんな感じかな？」

「ご安心ください。完全に私の制御下にあります。」

論より証拠。見てください」

そう言った瞬間、メドゥーサが持つ（投影版）妖刀ひなの刀身を黒い気が包み込んでより大きな黒い気の刀身を構成した。

……どっかで見たことがあると思ったら、原作の刹那のアーティファクト「建御雷」と似た感じだったのだ。

あつちは木乃香の魔力で作った刀身。こっちは、ひなの黒い気（妖気？）で作った刀身、という違いはあるけどね。

「話半分に聞いていましたけど、ここまで威力があるとは想像以上です。」

……遼、あなたに感謝を」
喜んでくれて何よりだ。

まあ、メドゥーサは元女神にして、半魔物。それもFateではペルセウスに邪神クラスとまで言われた存在だったわけだしな。
やはり、妖刀程度でメドゥーサに敵うわけがなかったか。

また、最高の刀を手にいれたので、これから剣術を学んでみるらしい。

神鳴流剣士を夢に取り込んで無理矢理教わるのか、それともメドウーサの目になう剣術家を探すのかと思ったが、なんとひな自身に教わるという。

残留思念というか、ひな自身が神鳴流の技を覚えているのでメドウーサが求めれば情報が流れ込んでくる仕様らしく、その情報を元に自分自身の技として覚える予定らしい。

当然だが、「チャチャゼロには妖刀ひなを絶対に見せるな」と言っておいた。

メドウーサはこれでOKだが、他の二人には……さよに妖刀は合わないし、使いこなせるはずがないな。

さて、セイバーであるアスナはどうか？

アスナに事情を話して聞いてみると

「妖刀を制御できるとは思えないから、今はいい。」

……でも、私が一人前になったら試させてほしい」という回答だった。

自分のことを理解できているのはいいことなので、僕は特に何も言わなかった。

これでもしかすると、メドウーサが神鳴流を使うことになるのか？

「僕も神鳴流を習ってみるか？」とも考えたが、正直「斬魔剣

式の太刀」以外は、宝具で攻撃したほうがよっぽど簡単に破壊力も大きいんだよな。

時間に余裕があれば、でいいか。

エヴァの修行に話を戻すが、アスナもがんばって修行を始めている。

しかし、魔法無効化能力のせいかな、アスナは魔法を使うことはで

きなかった。

ただし、魔法無効化能力は体外で作用する力の為、自分の体内なら魔法を使えると判明した。

アスナは元の身体では『氣』を使うのが得意だったらしいのだが、今の身体は魔力で作られたサーヴァント（偽）なので、『氣』を生み出すことも使うこともできない。

対策として、自分の体に魔力を供給して身体能力を向上させる『戦いの歌』を（あっという間に）覚え、一気に強くなることに成功した。

さらに、僕からライン経由で受け取った『氣』と自分の『魔力』を融合させて『咸卦法』を発動させるという新技も習得し、再び『咸卦法』すら使用可能になってしまった。

これにより、『戦いの歌』や『咸卦法』を使った戦いをエヴァに徹底的に叩き込まれ、アスナは前衛としては相当強くなっている。というか、すでに僕では勝てなくなっているんですけど。

もちろん、僕は【燕返し】と【魔眼】は使ってないけど、……天才とは恐れ入る。

手加減されているというものの、アスナはメドゥーサとも訓練でいい勝負をしているし、……強いのはいいことだよな、うん。

もしかすると、すでに原作終盤の明日菜以上の強さなのかもしれないな。

一方僕は、相変わらずサーヴァントの保有スキルを使いこなす訓練と、サーヴァント能力を使わない訓練という、二種類のエヴァの訓練を受けている。

サーヴァントの能力という最高の切り札を持っているがゆえに『深層意識で自分の力におごり、『ザンヤルマの剣士』の『チートアイテムをもっていたくせに、ただの（？）サバイバルガールに負け

た美山果林」のようになってしまふのでは？」と心配していたからだ。

だが、エヴァの訓練は容赦が全くなく、死なないために必死で訓練している僕がいました。

サーヴァント能力を使わない訓練では、「十二の試練」の宝具もないから死んだら終わりだし、対魔力もない今の僕では魔法も防げないわけだから、平気で致死性の攻撃をしてくるエヴァ相手に本気で必死で訓練するしかなかったのもあるが。

……なるほど、死なないと思うからハイスペックのアイテムや能力を持つ者は成長できないわけで、油断すれば即死ぬという状況ならばいやでも本気で成長しようとするわけだ。

そういう意味では容赦ないエヴァは鬼教師（鬼軍曹）としては最高の指導者ではある。……死なずに、無事に訓練を終えられれば、という条件付きではあるが。

それから、原作知識から『記憶封印の魔法と副作用で、将来明日菜の知力が低下する（馬鹿になる）可能性があること』をアスナに伝えたところ、メドゥーサと何やら相談を始めた。

すぐに結論が出たようで、再び寝ている明日菜をメドゥーサが【自己封印・暗黒神殿】に取り込み、メドゥーサの魔眼による『暗示』で記憶が蘇らないように維持しつつ、僕が投影したハマノツルギで明日菜の記憶を封印している魔法を解除、その上で『暗示』と魔術の併用により副作用なしで明日菜の記憶の封印をやり直したのだった。

さらに、後催眠で『魔法を使って記憶を蘇らせようとする行為に對して、明日菜に負担がかからないレベルで魔法無効化能力を自動的に発動する設定』までしたらしい。もちろん、アスナの許可をもらった上で。

メドゥーサ曰く、「記憶封印が原因で明日菜の知力が低下するこ

とは絶対ないし、『黄昏の姫御子』時代の記憶は……メディア達が関与しない限り蘇らない」とのこと。

……やっぱり、メドゥーサもメディアの魔法技術力の高さを認め、警戒しているんだな。

アスナは自分の妹（みたいな存在である）明日菜に掛かっていた呪いを解除できて、とても喜んでくれた。

表情に乏しい女の子だから、笑顔を見せてくれたのは嬉しかったな。

後で気づいたのだが、この行為により明日菜が『黄昏の姫御子』時代のことを夢で見ることなく、当然ガトウを懐かしがっていたことが原点だった（はずの）オジコンもなくなる可能性が高くなっていたのだ。

つまり明日菜は、このまま成長すると『聡明でオジコンではない少女』になる可能性が高い。

トリッパーが明日菜に会っても、「明日菜にそっくりなこの少女は誰？」なんて思うほど、（性格が）別人になるかもしれないな。

……はっはっは、一体どこまで原作崩壊してしまったのやら。

原作崩壊は気にしないつもりだったが、ヒロイン（の記憶&人格）をここまで魔改造してしまって本当に大丈夫だったかな？

今さらながら、少し不安になってきた僕だった。

第08話 エヴァの訓練（小学1年生 1996年1月10日）（後書き）

本日（2011.8.16）、10万PVを達成し、週間ランキング18位に入れました。

評価していただき、ありがとうございます。

1996年1月10日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年1月10日のメモ

1．神楽坂明日菜への対応

・記憶封印のやり直し

メドゥーサの魔眼による『暗示』で記憶が蘇らないように維持しつつ、僕が投影したハマノツルギで明日菜の記憶を封印している魔法を解除、その上で『暗示』と魔術の併用により副作用なしで明日菜の記憶の封印をやり直した。

後催眠で『魔法を使って記憶を蘇らせようとする行為に対して、明日菜に負担がかからないレベルで魔法無効化能力を自動的に発動する設定』を実施。

メドゥーサ曰く、「明日菜が持つ『黄昏の姫御子』時代の記憶は蘇らないし、記憶封印が原因で知力が低下する（馬鹿になる）ことは……メディア達が関与しない限り絶対にならない」とのこと。

・明日菜の未来予想

記憶封印のやり直しにより、明日菜が『黄昏の姫御子』時代のことを夢で見ることもなく、当然ガトウを懐かしがっていたことが原点だった（はずの）オジコンもなくなるはず。

つまり明日菜は、このまま成長すると『聡明でオジコンではない少女』に成長する可能性が高い。

2．妖刀ひな

2．1 仕様

・呪われた刀

・かつて神鳴流が一度全滅しかけた原因

・人間の神鳴流剣士（人斬り）の月詠が制御下に置いていた

・黒い気を全身に纏うことで月詠がパワーアップ

2・2 状況

- ・最初は「投影品をチャチャゼロへのプレゼント」として考えたが、『混ぜるな危険』の組み合わせになりそうだったので却下。
- ・メドウーサが持ったところ、一瞬で制御下に。
- ・原作の刹那のアーティファクト「建御雷」と似たような感じで、大きな黒い気の刀身を構成。
- ・ひなを使うことで、『サーヴァントは『気』を自力で生み出せない』という弱点をカバー
- ・残留思念というか、ひな自身が神鳴流の技を覚えているのでメドウーサが求めれば情報が流れ込んでくる仕様らしい。
- ・アスナは一人前になったら、（投影）ひなを試す予定。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

セイバー（アスナに常時貸し出し中）

ランサー

アーチャー

ライダー

キャスター（相坂さよに常時貸し出し中）

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

ゲート・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）
：投影アーティファ

世界樹の宿木の剣（対神、対不死）
：投影アーティファ

妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

槍
ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）

破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

鎖
エルキドゥ
天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢
エミヤの弓
：投影武具

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）

盾
アイギス
蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

鎧
英雄王の鎧のパーツ
：B（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト NEW

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 C

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

【直感】：B

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<サーヴァントのパラメータ>：隠密行動用

クラス アサシン

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 C

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【気配遮断】：A

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具

【直感】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

備考

ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<サーヴァントのパラメータ>：通常戦闘に使用（見せ札2）

クラス

ランサー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 D 魔力 C

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力

【対魔力】：C

保有スキル

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

【魔眼】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

『魔眼のコンタクト』使用により、【魔眼】スキル

備考

ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<サーヴァントのパラメータ>：雑魚戦闘に使用（見せ札1）

クラス	アーチャー
マスター	-
真名	八神遼平
ステータス	筋力 D 魔力 C
	耐久 D 幸運 A
	敏捷 C 宝具 C
クラス別能力	【対魔力】：D
	【単独行動】：-
保有スキル	【黄金律】：B
宝具	【己が栄光の為でなく】：C
備考	ステータスは『気』使用時のもの （筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

以下、同じスキル構成

（セイバー）	
クラス別能力	【対魔力】：B
	【騎乗】：B
注意事項	アスナに常時貸し出しているクラスのため使用不可
（キャスター）	
クラス別能力	【陣地作成】：B
	【道具作成】：B
注意事項	相坂さよに貸し出しているクラスのため基本的に使用不可

(バーサーカー)

クラス別能力 【狂化】 : C

注意事項 理性を失うため使用不可

(アヴェンジャー)

クラス別能力 -

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】 : A (ライダークラスのみ A+)

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】 : A

【怪力】 : C (ライダークラスのみ B)

魔術系

【魔術】 : D -

戦闘補助系

【精霊の加護】 : B

【直感】 : B

その他

【黄金律】 : B

【無限の剣製】 : E (A+)

【十二の試練】 : C

【己が栄光の為でなく】 : C

【他者封印・鮮血神殿】 : C (ライダークラスのみ)

B)

【自己封印・暗黒神殿】 : D - (ライダークラスのみ)

み（こ）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）NEW

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤 NEW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : A +

保有スキル 【魔眼】 : A +

【怪力】 : B

【神性】 : E -

【無窮の武錬】 : A

【直感】 : B

宝具 【騎英の手綱】 : A +

【自己封印・暗黒神殿】 : C -

【十二の試練】 : C

備考 ステータスの () は、【怪力】使用時のステータス

マスターである八神の魔力が1ランクアップしたの

で、ステータス向上 NEW

2. 相坂さよ

<パラメータ>

名前 : 相坂さよ

性別 : 女

職業 : 無職

種族 : サーヴァント (偽)

能力 : 気配遮断 : A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

アーティファクト：

キヤスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キヤスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 D 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：B

【道具作成】：B

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：B

【憑依】：C

【浮遊】：C

【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

性別：女

職業：ウエスペルタイア王族

種族：サーヴァント（偽）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルベ

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 D（C） 魔力 A+

耐久 D（C） 幸運 C

敏捷 C（B） 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：B

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

備考

【ハマノツルギ】

ステータスは『戦いの歌』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの○は、【咸卦法】使用時のステータ

ス

外伝第01話 GOLD FLASH GROUP(第09話の直前)(前書き

リクエストがあったので、主人公の日常編を書いてみました。

外伝第01話 GOLD FLASH GROUP（第09話の直前）

いつものように、母親と姉と僕の3人で夕食を食べていると、そのニュースは流れた。

それは、いきなり通販サイトが統合されたというニュースだった。「こつちの世界でも、楽天かアマゾンに該当する巨大通販サイトでもできるのだろうか？」などと考えていたが、冷静さを保っていたのはキャスターの次の言葉を聞くまでだった。

「なお、この統合を行ったグループ名は『GOLD FLASH GROUP』という最近急成長を遂げている企業です」
んっ？

『GOLD FLASH GROUP』、なんか引つかかる言葉だな。

『Gold』＝『金』

『Flash』＝『ひらめき、ひかる』

『Gold Flash』＝『金ひかる↓金ぴか』って、『ギルガメッシュ』に対する遠坂凜の呼び名『か！』

考えすぎかもしれないが、もしこの連想が事実なら至急調べる必要がある。

これはトリッパーからのメッセージか？

メッセージだとして、他のトリッパーと話し合いを求めるメッセージなのだろうか？

それとも、トリッパーである自分の存在をアピールして、他のトリッパーに対して「掛かってこい！」と挑発しているのだろうか？

今まで『GOLD FLASH GROUP』に興味もなく全く知らなかった僕は二人に会話を振ってみると、意外なことに姉が反応

を示してくれた。

「ああ、あの会社ね」

「姉さん、知ってるの？」

「ええ、もちろんよ。」

あたしは利用してないけど、ゴスロリ商品とかファンシー商品とかかわいいグッズが格安で売ってるから、クラスメイトでも親に買ってもらったとか、プレゼントしてもらったとかいう子は多いわよ」
小学3年生にしては妙に大人びた回答だが、僕が転生していきても大人びた対応を取ったため、姉も負けじと大人びた態度と言葉遣いをするようになり、今ではこんな感じである。

「お母さんは知ってたの？」

「そうね。」

「ご近所づきあいとか、PTAの集まりとかで聞いたことはあるわ。」

「……結構大きそうな会社みたいだし、今度調べてみるわ」

「じゃあ、今度そこで人形を買ってちょうだい！」

「……実は友達に見せてもらったんだけど、とってもかわいい人形があったの」

「な〜に、実は狙ってたんじゃない。」

お父さんにも聞いて信頼できる会社か確認するから、確認が取れてからにしないさ」

「はい」

父親のOKが出れば買ってもらえる可能性が高いと判断した姉は、大人しく引き下がった。

【黄金律】スキルを持つ僕がいるせいか、父親のボーナスが大幅に増えたり、宝くじに当たったり、懸賞に当たったりと家の家計にゆとりが出てきたこともあり、贅沢品でなければある程度買ってくれるようになったのだ。

まあ、僕の場合、宝くじなどをメデュー（メドゥーサ）名義で買って結構当ててるから、親にねだる必要はないんだが、……まあお金に余裕があるのはいいことだ。

その後、いつものように、隣の家に遊びに行くと言って、メドゥーサの家に向かった。

メデュー（メドゥーサ）、さよ、アスナの3人とは家族ぐるみの付き合いであり、僕が夜に隣の家に遊びに行くのは良くあることなので、家族も誰も止めないし心配しない。

……ま、まあ、そうなるように、ちよつとメドゥーサに暗示をかけてもらったのは事実だけど、悪いことはしてないぞ。

で、メドゥーサの家にある僕のパソコンを使って、さつそく『GOLD FLASH GROUP』を調べてみた。

「リョウ、いきなり調べ始めてどうしたの？」

「ああ、ちよつと気になることがあってね。

もしかしたら、重要なことが分かるかもしれないんだ。ちよつと待っててね」

『GOLD FLASH GROUP』を検索すると、今まではゴスロリ商品とかファンシー商品とかを売っているほか、孤児院を経営していたようだが、いきなり他の通販会社を買収して合併し、スポーツ用品とぬいぐるみなどの今まで扱っていなかった分野のファンシーグッズを扱うようになったらしい。

特に変わったことはないが、……。

次の瞬間、僕は思わず嘔き出した。

会長の名前に、『メディア・キャス』の名前があったのだ。

キャスターのメディアの偽名として、二次創作でよく使われるやつですね、わかります。

僕も同様に、メドゥーサの偽名として、『メデュー・ライ』なんてわかりやすい名前を使ってるし。

会長の紹介ページへ行くと、そこには凜々しいメディア様の姿が……あまりのことに魂が半分抜けたような状態になり、心配したアスナやさよが画面を見て、やつぱり驚いた。

ああ、この二人は第四次聖杯戦争の他に、第五次聖杯戦争のメドゥーサの記憶も見ているし、麻帆良祭でメディアと思われる人であったことも教えてあったのだ。

「遼さん、このメディア・キャスつて人、もしかして？」

「うん、多分、第五次聖杯戦争に出てきたキャスターのサーヴァントのメディアで、僕が麻帆良祭で会った人だろうね。」

第五次聖杯戦争の記憶を持っているかは分からないけど」

慌てて、チートトリッパーと思われる『朱雀』や『SUZAKU』で検索すると、……ビンゴ！！

『GOLD FLASH GROUP』の創設者は『MEI SUZAKU』と登録されていた。

間違いなく、トリッパー朱雀とメディアの会社だな。

金儲けして何か企んでいるのか？

それとも、『トリッパーはいはい』としてあえて目立つように会社を立ち上げたのだろうか？

……で、トリッパーが攻め込むと、一般人の警備員が合法的な装備でトリッパーに立ち向かい、トリッパーは非合法的な攻撃 or 魔法や気を使った超常的な現象で警備員を殺傷しまくり、それがリアルタイムで世界に流れたりして、警察に追われたり、魔法バレの犯人として世界中の魔法使いを敵にするんですね、わかります。

僕は絶対にこの会社には近づかないぞ！

さよとアスナ、そして僕の異常な気配を感じて部屋に入ってきたメドゥーサも呼び寄せて、友達とかが購入するのは構わないが、僕たちは一切購入やアンケートなどに関わってはいけないことを説明した。

黄金律を持つトリッパーが創始者で、メディアが会長を勤める会社か。

絶対に大成長するだろうから、株を買っておきたいところだけど、……止めておこう。

どんなルートからどんな情報が漏れるかわからないからな。
一切関わらないのが一番だ。

……理由が説明できないから、家族が買つことまでは止めないけどね。

くれぐれも、アンケートに答えて僕の名前とかを書きこまないように頼んでおこう。

もしかして、と『ディルムッド』で検索すると、『ディルムッドファンクラブ』の運営も『GOLD FLASH GROUP』が担当していた。

……本気で全く隠す気がないんだな。

無謀なのか、何も考えていないのか、それともどんな敵が来ても無傷で撃退できる自信があるのか、……多分最後なんだろうなあ。

これからは、ネットや新聞、テレビなどで『GOLD FLASH H GROUP』の動向をチェックしておこう。

ネギまの二次創作で、大きな企業を作って技術力と財力と権力を持ったトリッパーは、大体下記のどれか、あるいは複数を実行することが多い。

トリッパーの魔法世界救出プラン

- 1・火星のテラフォーミング
- 2・魔法世界から、人間のみ旧世界への移住
- 3・魔法世界の崩壊阻止

しかし、『GOLD FLASH GROUP』は通販サイトと孤児院経営しかしてないから、将来どれを目標としているのか全然わからない。

孤児院に『魔法』や『気』の素質がある子供を集めて、私兵集団

を作っているのかもしれないし、孤児院に近づくのはどう考えても自殺行為。特大の死亡フラグとしか思えない。

……ああ、このアイデアを忘れていた。

見込みがありそうな孤児がいたら保護する代わりに修行をさせる「魔術士オーフェン」の「牙の塔」みたいな孤児院を、将来僕が経営するのもありだな。

もちろん、メディアたちに見つかるのは論外だし、裏切られても困るから、……やるとしたら魔法世界の人間の孤児、いやラカンのような戦闘奴隷で素質があつて、強くなることを望んでいる子供（人間）をスカウトするのが一番かな？

子供も戦闘奴隷から解放され望み通り強くなれるし、こっちは忠誠を期待できる子供を獲得できる。

誰も損をしない素晴らしいアイデアだ。

『孤児を見つけて保護して、自分の意志で戦いに加わることを望む子供だけに戦闘訓練を施し、それ以外は孤児院に送る』というフイト式のスカウト方法もあるが、んゝ、手間がかかる上に素質がある子が戦いに加わることを望むかわからないし、この方法は諦めるか。

『ハーレムメンバーが偶然全員強い or 特殊能力持ち』なんて、主人公のライバルという補正があつてこそ実現したと考えるべきだ。

優秀な従者候補を学園長が事前に集めておいたからこそ、ネギもあれだけ優秀な従者が揃ったんだろうし、ただのトリッパーである僕にそんな都合がいいことは起きるわけがない。

まっ、それも人材と財力に余裕ができれば、の話だな。

今はもつと目の前の戦力増強を考えよう。

魔法世界との世界間戦争の阻止を大前提として、僕はプランの「1」、さよは「3」を実行するつもりだから、うまくいけば『GO

LD FLASH GROUP』と協力できそうだけど。

……うゝん、まあ、急ぐ話でもないし、僕たちもまだ戦力を集めている段階だし、『GOLD FLASH GROUP』の目的が分かってから協力するかどうか考えればいい。

こうして、他のトリッパーも容赦なくこの世界への介入を進めていることを知り、僕の想像以上の速度で原作崩壊が進みそうなこと改めて理解した。

なお、後日うちの父親の確認が取れたらしく、姉さんはかわいい人形を買ってもらっていた。

僕も触らしてもらったが、確かに質は良く、デザインも可愛らしいので人気が出るのも納得だった。

……やっぱり、可愛い物好きのメディアがデザインしているのだろうか？

考えすぎかとも思ったが、一応ハマノツルギをぬいぐるみに使っておいた僕だった。

メディアも、こういう方面だけに才能を使ってくれれば世の中平和なんだけど、そうはいかないんだろうなあ。

気が付くと、可愛い人形を眺めつつ、一人で落ち込んでいるというシニールな光景を作り出していた僕だった。

今日は麻帆良祭の日。

本当ならみんなで参加したかったのだが、……絶対に朱雀を筆頭とする他のトリッパーに見つかるわけにはいけないので、泣く泣く参加を諦めた。

そのため、偵察を兼ねて、世界扉で麻帆良祭の様子を見ることが楽しむことにした。

そして、本命の麻帆良祭（秘）コスプレコンテストを（世界扉越しに）見学した。

あくまでも念のため、というつもりだったのだが、去年見た少女セイバーと桜子のペアが魔法少女プリオンのコスプレで登場。

桜子と一緒にいうことは、（パラメータは見えないけど）やっぱり朱雀少年が女装しているのか。

（コスプレ限定かもしれないが）桜子公認の女装趣味持ちで、原作キャラハーレム狙いのチートトリッパー。

……随分とまた、個性豊かなトリッパーだな。

将来何かに使えるかもしれないから、写真でも撮っておこう。

彼の持つ能力は念のため確認したが、やはり全部見えないし、コピーすると「上書き」か「容量が足りません」の警告が表示される能力しか存在しなかった。

特に問題がないので、能力の上書きコピーを試みたが、保有スキルと宝具は変化しなかった。なんだ、つまらないなあ。

客席を探すと、……予想通りメディア、千雨、あと何故かアキラを舞台の正面最前列で発見した。

どうやら、僕の予想通り原作キャラハーレムを拡大中らしい。

この3人の傾向からすると、『ネギから未来の従者を奪ってやれ』とか考えているわけではなさそうだな。

全員美少女なのは当然で、「幸運の女神」「コスプレ女王にして優秀なアドバイザー」「モデル並みのグラマースイマー（怪力）」の3人か。

戦闘には参加できないが、「幸運」「アドバイス」「癒し系？」と外見だけでなくそれぞれの分野で優秀な人材を集めていることから、ただの女好きではなさそうだな。

……どんな能力を持っているか知らないが、ニコポ、ナデポ系能力なしで3人とも落としたのなら朱雀は大した奴だと認めざるを得ないだろう。

メディアのパラメータを確認したところ、……おいおい、「技術」欄に「西洋魔法」が追加されているよ。

メディア

<更新されたパラメータ>

名前：メディア

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（キャスター）

令呪（残り0画）

技術：魔術

西洋魔法

使用可能な西洋魔法の詳細までは分からなかったが、メディアが

ますます強くなったのは間違いなさそうだ。

メディアは『聖杯世界の魔法』すら覚えられる実力の持ち主で、
【高速神言】スキルさえ持っている。

さらに、朱雀がメディアを満足させる魔力を供給できているとしたら、（というかチートトリッパーだから当然できているだろうけど）……遠距離の魔法戦でメディアに勝てる奴いるのか？

「対魔力：A」を持つサーヴァントか、魔法無効化能力を持つアスナを盾にしないと、一方的な殲滅戦になる気がするぞ。

メディアのパラメータをチェックすると、……よかった。デイルムッドと違い、メディアのパラメータに変化はないようである。

デイルムッドに続いてメディアまで魔改造されていたら、……戦闘になった場合、抵抗しないで無条件降伏すら考えますよ、本気で

っと、よく見るとメディアのマスター欄に「朱雀命」と書いてある。

これで、『チートトリッパー』と思われる朱雀命がメディアを召喚し、メディアがデイルムッドを召喚した』ということが確定したな。そういえば、聖杯世界ではメディアは『イレギュラーなアサシンである佐々木小次郎（偽）』しか召喚できなかったのに、なんでこの世界ではデイルムッドを召喚できたのだろう？

一番考えられるのは、……メディアの「令呪（残り0画）」は僕が解析できた以上に特別性で、『この令呪を持っていれば、サーヴァントでも他のサーヴァントを召喚可能』という仕様もあったというのか。

し、しまったー！！

メドゥーサに僕の令呪を譲っていたら、メドゥーサが（イレギュラーでない）サーヴァントを召喚できていた可能性があったのか……！さすがの僕も、そこまで思いつかなかった。

……もったいないことをしたなあ。

今さらであるが、僕の『令呪（残り0画）』を解析すると、予想通り『この令呪を持っていれば、サーヴァントでも他のサーヴァントを召喚可能』だとわかった。……遅すぎ、た。

もし召喚できるとわかっていたら、『満足できる戦いがあればOK』のクー・フリーンの兄貴を召喚していたのに！

……まてまて、召喚するのは無理でも勧誘できる可能性はまだある。

なにせ、世界扉は聖杯世界に繋がっているのである。

僕の予想が正しければ、聖杯戦争でメドゥーサ死亡後に移動可能になるはず。

つまり、（原作展開を変えずに）クー・フリーンをスカウトできる可能性が残っている。

よしっ、しっかりスカウトプランを練ってがんばろう。

朱雀たちの状況確認という目的は達成したので、麻帆良祭へ行けなかった代わりにみんなで魔法世界へ行って、観光ついでにデイルムツドの戦闘を観戦することにした。

ああ、さよががんばって、サーヴァントの気配を隠す魔法具『英霊隠し』を作ったので、念のため全員それを使っています。

これは、英霊として力を発揮、つまり戦闘時以外はサーヴァントとしての気配を隠せるという優れもので、メディア以外ならかなり近づいてもばれないらしい。実際、メドゥーサもこれを付けたアスナやさよからサーヴァントの気配を感じるためには、相当近づかなければ無理だった。

デイルムツドは相変わらず大人気で無双状態だが、……ちよつと待て！

デイルムツドのくサーヴァントのパラメータのうち、耐久と幸

運が1ランクアップしている？

デイルムツド

<更新されたサーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

マスター メディア

真名 デイルムツド

ステータス 筋力 A 魔力 D

耐久 B 幸運 D

敏捷 A+ 宝具 A

おいおい、『デイルムツドの耐久と幸運が1ランクアップ』って
一体何が起こった？

まさか、朱雀の魔改造レベルが上がって、ステータスもランクア
ップが可能になったのか？

それがデイルムツド限定だとしても、ステータスが全部Aランク
になったらこっちの勝ち目はさらになくなってしまっぞ。

慌てて同行者（メドゥーサ、さよ、アスナ）に説明したところ、
3人ともしばらく考え込んだ後、メドゥーサが最初に発言をした。

「デイルムツドの弱点と言える耐久と幸運のランクアップは確かに
脅威ですが、魔力はそのままです。」

以前のスキルと宝具変更と同様に、ステータスのランクアップも、
何かしら制約や制限があるのではないだろうか？」

……言われてみればそうだな。

弱点である耐久と幸運を上げたんだから、さらに魔力のランクを
上げてもおかしくない。

さて、一体どんな制約か制限なんだ？

皆で色々考えた結果、いくつかのアイデアが提案された。

【デイルムツドのパラメータ向上について】

1. 去年の8月以降に、令呪を使ってステータスのランクアップを行った。（実は朱雀も令呪を持っていたが、僕には見えなかった）
2. 僕がメドウーサにスキルをコピーしたように、チート能力でデイルムツドに対してステータスをコピーした。
3. ステータスを（一時的に？）向上させる宝具がアーティファクトを使用した。当然、制限が制約あり。

可能性として高そうなのは、「1」か「3」だな。

ただ、令呪での効果は基本的に一時的だろうから、やっぱり「3」かな？

「3」の宝具がアーティファクトがあればすごく便利だが、何とかしてコピーできないかなあ。

ちなみに、この1年において魔法球内で計10年ぐらいの時間を過ごした結果、僕の肉体年齢は約17歳まで成長。

その結果、肉体系ステータスもさらにレベルアップしました。（もちろん、普段の生活では年齢詐称薬を使って7歳児に変身しています。）

具体的には、下記の通り。

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A +

備考

ステータスは『気』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

技量は【無窮の武錬】で最高ランクだが、ステータス的にはデルムッドに全く敵わない。しかも、この肉体系ステータスはすでに『気』を使って強化済みのパラメータである。

さらに、相手は歴戦の戦士。経験とセンスで勝ち目があるとは思えん。

……やはり、なんとしても仲間を増やしてさらなる戦力アップが必要だな。

ちなみに、『肉体系パラメータは『気』の量を増やすことや、効率的な『気』の運用でさらなるパワーアップは不可能ではないが、『気』を使わない状態でのパワーアップはこれ以上無理』とメドゥーサにはつきり言われた。

まあ、レアスキル持ちでしかない僕がこれだけ強くなれたんだから、贅沢言ってもしかたないけど。

エヴァにもしごかれ続け、僕は瞬動術(虚空瞬動を含む)の他に、『気』の制御、そして西洋魔法を身に付けることができた。

咸卦法は無理でした。っていうか難しすぎるぞ、あれ！

……タカミチは『咸卦法』を習得するのに数年必要とした、とあったけど、それでもかなり短かった方なんじゃないか？

僕の魔法適性は、風魔法、影魔法、回復魔法に偏っていたが、『風使い』や『風の聖痕』の大ファンだった僕は、あれらの技を再現しようと日々特訓中である。

『風使い』の主人公と同様に、エヴァも『操糸術』を身に着けているから、当然この技も教わっている。……まだまだ全然使いこな

せていないけど。

仲間たちも順当にパワーアップし、エヴァも苦手としていた回復魔法をかなりのレベルで使えるようになってる。

……自分の呪い解除という目標がある以上、当然と言えば当然な結果ではある。

あと、最近気づいたこととして、ずっとさよに貸していたキャスタークラスと、アスナに貸していたセイバークラスが、僕のパラメータからいつの間にか消滅していた。

気づいた時点で、慌てて解析能力でこの件について調べたところ、どうも二人とも『サーヴァントの能力を己の物として、完全にサーヴァントとなった』ため、僕からサーヴァントクラスを奪った形になったらしい。

ま、まあ、常時貸し出しの時点で、キャスターとセイバーのクラスは諦めていたが、まさかこんなことが発生するとは夢にも思わなかった。

完全なサーヴァントになったことで、二人のクラススキルがランクアップしたのは嬉しい誤算だったけどな。

一応、失ったクラスを再度朱雀からコピーできないか試しては見ただが、失ったクラスはコピー失敗し、スキルと宝具のみ（上書き）コピー成功となった。

僕の『能力複製』は、コピー済みの能力の上書きコピーはできても、永久貸与⇨譲渡済みの能力のコピーは不可能らしい。

この点については、気を付けておこう。

それから、訓練とはいえ（魔法球の中で）エヴァやチャチャゼロたちと、かなり長い時間を一緒に過ごしているわけで、もうエヴァを切り捨てることはできなさそうだな。

それくらい、僕を含めたみんなはエヴァたちと仲良くなってしまうっている。

僕の直感が、「エヴァに肩入れすると大変なことになる」と常に囁いているのだが、……まあ楽なだけの人生もつまらない。

信頼できる仲間と一緒になら、困難に立ち向かうのもいいだろう。

……もちろん『誰かが死んだりするような、取り返しのつかないことが起きないなら』という条件付ではあるが。

さよやアスナは完全にファミリーの一員となっており、いい機会なので原作の魔法世界編において取る予定の行動を伝えた。

【未来の行動予定】

・平和維持

旧世界、特に日本の平和を守る。

ゆえに、ゲートは破壊するか封印するかして、魔法世界人の難民をこっちの世界へ来させない。

ただし、仲間が犠牲になる、あるいは犠牲になりそうなことは可能な限り避ける。

・魔法世界崩壊後

魔法世界人（の生き残り）が、魔法世界崩壊後の火星で復興を目指すのならサポートする予定。

魔法世界を平和的に継続させる方法があるようなら、手伝ってもよい。

もちろん、こっちの余力の範囲内で。

「うん、それは当然だと思う。」

……今まで魔法世界の存在をこっちの世界から隠しておいて、自分たちでは解決できない問題が発生してからいきなり『助けてくれ』

『そつちに逃がしてくれ』っていうのが通じないのは当たり前。それを断わられたからと言って侵略戦争を仕掛けたとしたら、こつちの世界からすれば絶対に許せないのは当然。

私が助けたいのは紅き翼^{アラルプラ}ぐらいだし、そのメンバーなら自力で何とかするはず。

私も遼の意見に賛成だし、手伝う」

「遼さんは、魔法世界の人たちに恨みがあるわけじゃなくて、彼らがこつちの世界の人たちに迷惑をかけるのが嫌なだけなんですよね？」

アスナはあつさりと答えたが、さよは相当考え込んだ後に質問してきた。

「まあ、そうだね。

もちろん、『持ちつ持たれつ助け合ってきた間柄で、国交が正式にある』ならば話は別だったけどね」

「魔法世界の人たちが、数千万人も規模で難民としてこちらの世界へ来ようとしたら、残念ですけど紛争や戦争が起きる可能性が高くなるのは分かります。

……ですから、遼さんが行つ予定の行動は正しいと思います。

ただ、『魔法世界を平和的に継続させる方法』の調査を私がやってもいいですか？

今の私はキヤスターです。魔法に特化した力を使えば、……もしかしたら、その方法が分かるかもしれません」

「別に構わないよ。

……それが一番平和的な方法であることは間違いないからね。

ただ、僕らの存在の隠蔽と平和的な生活の維持が最優先だから、それだけは守つてね。

僕も時間が空いていれば手伝うから」

「はいっ、お願いします」

さよは死んだ経験があるせいか、他人の死に敏感なところがある。それで魔法世界人がたくさん死ぬのを防ぎたいと考えたんだろう

けど、……調査するだけなら問題ないよね。

原作でもネギが発見していたし、『雪広財閥の力を借りれば9年以内に対応可能』とか言ってたし。

そうそう、言い忘れていたが、小学2年生からさよとアスナは小学校に通っているのである。

僕の自宅の隣の家が貸し出し中だったので、そこを借りてメデュー・ライと相坂さよと相坂アスナの3人で住んでいる。

もちろん、二人の保護者は年齢詐称薬で大人に変身したメデューことメドゥーサである。

戸籍上は、アスナはさよと姉妹ということにしたため、苗字が相坂となった。

さよは60年ぶりの学校ということで、小学校でも楽しいらしいし、アスナはもちろん初めての学校ということで楽しんでいるようだ。

……もちろん、二人とも僕と同じクラスである。

前世から夢だった、美少女の幼馴染たちと一緒に学校生活である。

僕の夢（妄想）が一つずつ実現されていくこの世界、……なんと
しても守りたいなあ。

第09話 朱雀達への偵察（小学2年生 1996年6月14日）（後書き）

次話から、聖杯世界へ介入を開始します。

なお、申し訳ありませんが、明日から出社の為、次回の更新が遅くなります。

ご了承ください。

本文の誤字脱字などは、気づき次第直しています。

誤字脱字を連絡していただければ、すぐに修正します。

【更新履歴】

2011.8.19 さよとアスナのサーヴァント化について追記

1996年6月14日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年6月14日のメモ

1・朱雀少年

- ・桜子と一緒に魔法少女ピリオンのコスプレ。
- ・観客席に、メディア、千雨、アキラを発見。
- ・原作キャラハーレムを拡大中？
- ・「幸運の女神」「コスプレ女王にして優秀なアドバイザー」「モデル並みのグラマースイマー（怪力）」と、「戦闘はできないがそれぞれの分野で優秀な人材」をハーレムに入れているのか？

2・メディア

- ・「西洋魔法」を習得済み
- ・メディアのマスターは「朱雀命」
- ・メディアが持っていた令呪は僕が解析できた以上に特別性で、「この令呪を持っていれば、サーヴァントでも他のサーヴァントを召喚可能」というチート仕様だった。

3・デイルムッド

- ・相変わらずの人気と無双ぶり
- ・「耐久」と「幸運」が1ランクアップ
- ・『ステータスを（一時的に？）向上させる宝具かアーティファクトを使用した』と予想

4・未来の行動予定

- ・平和維持

旧世界、特に日本の平和を守る。

ゆえに、ゲートは破壊するか封印するかして、魔法世界人の難民をこっちの世界へ来させない。

ただし、仲間が犠牲になる、あるいは犠牲になりそうなことは可能

な限り避ける。

・魔法世界崩壊後

魔法世界人（の生き残り）が、魔法世界崩壊後の火星で復興を目指すのならサポートする予定。

魔法世界を平和的に継続させる方法があるようなら、手伝ってもよい。

もちろん、こっちの余力の範囲内で。

5・僕の修行の成果

・肉体年齢は約17歳まで成長。

・肉体系ステータスもさらにレベルアップ。

・『肉体系パラメータは『気』の量を増やしたり、効率的な『気』の運用でさらなるパワーアップは不可能ではないが、『気』を使わない状態でのパワーアップはこれ以上無理』とメドゥーサにはつきり言われた。

6・サーヴァント化

・ずっとさよに貸していたキャスタークラスと、アスナに貸していたセイバークラスが、僕のパラメータから消滅。

・解析能力で調べたところ、どうも二人とも完全にサーヴァントの能力を己の物として完全にサーヴァントとなったため、僕からサーヴァントクラスを奪った形になったらしい。

・さよとアスナは完全なサーヴァントになったことで、クラススキルがランクアップした。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

アーチャー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

ゲイト・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

ハルベ

蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神、対不死）：投影アーティファ

クト

妖刀ひな（呪われた刀）：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）：C（投影宝具）

ゲイ・ジャルグ

破魔の紅薔薇（魔力無効化）：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ

必滅の黄薔薇（不治の傷）：C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ

天の鎖（拘束&対神）：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓

カラドボルグ

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）：A（投影宝具）

盾

：投影武具

蒼鏡の盾（センサー）
アイギス
：D（投影宝具）

鎧

英雄王の鎧のパーツ
：B（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 C↓B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

【無限の剣製】：E↓A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<サーヴァントのパラメータ>：隠密行動用

クラス アサシン

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 C↓B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【気配遮断】：A

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

【直感】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D-

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

宝具

<サーヴァントのパラメータ>：通常戦闘に使用(見せ札2)

クラス ランサー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 C↓B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：C

保有スキル 【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

【魔眼】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【自己封印・暗黒神殿】：D -

『魔眼のコンタクト』使用により、【魔眼】スキル

宝具

備考

追加

ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<サーヴァントのパラメータ>：雑魚戦闘に使用（見せ札1）

クラス アーチャー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 C↓B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 C

クラス別能力 【対魔力】：D

【単独行動】：-

保有スキル 【黄金律】：B

宝具 【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

以下、同じスキル構成

(バーサーカー)

クラス別能力 【狂化】 : C

注意事項 理性を失うため使用不可

(アヴェンジャー)

クラス別能力 -

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】 : A (ライダークラスのみ A+)

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】 : A

【怪力】 : C (ライダークラスのみ B)

魔術系

【魔術】 : D -

戦闘補助系

【精霊の加護】 : B

【直感】 : B

その他

【黄金律】 : B

【無限の剣製】 : E } A+

【十二の試練】 : C

【己が栄光の為でなく】 : C

【他者封印・鮮血神殿】 : C (ライダークラスのみ

B)

【自己封印・暗黒神殿】：D - (ライダークラスの
みC -)

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドウーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) ↓ B (A) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】 : B

 【騎乗】 : A +

保有スキル 【魔眼】 : A +

 【怪力】 : B

 【神性】 : E -

 【無窮の武錬】 : A

 【直感】 : B

宝具 【騎英の手綱】 : A +

 【自己封印・暗黒神殿】 : C -

 【十二の試練】 : C

備考 ステータスの() は、【怪力】使用時のステータス

 マスターである八神の魔力が1ランクアップしたの

で、ステータス向上 NEW

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前: 相坂さよ

性別: 女

職業: 無職 ↓ 小学生

種族: サーヴァント (偽) ↓ サーヴァント

能力: 気配遮断: A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

キヤスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キヤスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 D↓B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：B↓A

【道具作成】：B↓A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：B↓A

【憑依】：C

【浮遊】：C↓A

【世界樹の加護】：A

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシ
ア↓相坂アスナ

性別：女

職業：ウエスペルタティア王族↓小学生

種族：サーヴァント（偽）↓サーヴァント

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー
蛇刈る刺突剣

ミステルテイン
世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス	筋力	D (C) ↓ C (B)	魔力	A +
	耐久	D (C) ↓ C (B)	幸運	C
	敏捷	C (B) ↓ B (A)	宝具	-
クラス別能力	【対魔力】	: B ↓ A		
保有スキル	【騎乗】	: B ↓ A		
	【魔法無効化】	: A		
	【咸卦法】	: A		
アーティファクト	【ハマノツルギ】			
備考	ステータスは『戦いの歌』使用時のもの (筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)			
ス	ステータスの○は、【咸卦法】使用時のステータ			

1996年6月14日のメモ（後書き）

2011.8.19 「6.サーヴァント化」を追記

第10話 イリヤの救出（小学2年生 聖杯世界2月6日）（前書き）

皆さんから『第二魔法の平行世界（異世界）への移動が簡単すぎる』という

指摘をいただきましたので、『聖杯世界へはサーヴァント（または、実体を持たない存在）しか移動できない』という設定に変更しました。

第10話 イリヤの救出（小学2年生 聖杯世界2月6日）

ついに、世界扉から見える聖杯世界は、第五次聖杯戦争へ突入した。

当然ながらメドゥーサの世界扉は間桐桜の映像で固定されているため、鷹作工房で複製した世界扉で他の人物を映している。

現在僕たちがいるのは、さよが作った魔法球（24倍速）の中である。

ここを拠点に、第五次聖杯戦争の観察を開始した。

【聖杯世界】

2月6日

衛宮士郎を中心に観察開始

・学園でブラットフォート・アンドロメダ（他者封印・鮮血神殿）発動

・衛宮士郎&遠坂凜 vs 竜牙兵（多数）

衛宮士郎が強化した椅子の足で時間を稼ぎ、遠坂凜がトパーズを使用して消滅させる。

・葛木宗一郎 vs ライダー（葛木宗一郎の勝利）

葛木の一撃により、ライダーは首を引きちぎられて敗北

メドゥーサはさすがに自分が殺されるシーンに顔を顰め、実戦は未経験のさよも顔を青ざめていた。

そしてメドゥーサが聖杯世界から消滅した瞬間、明らかに世界扉の反応が変わった。

すぐに聖杯世界の別の場所に世界扉の接続先を移動して試したところ、無事に世界移動に成功した。

と、そのことを確認した瞬間、メドゥーサが桜を助けに行こうとしたため、3人がかりで押さえつけて「下手に手を出すと、桜に危険が迫る可能性がある」「というか、脱落したはずのライダーが復活したのがばれたら絶対に面倒なことになる」「こっちの世界でなら、いくらでも作戦を練られる。急いては事を仕損じる、に成りかねない」などなど怒涛のごとく説得の言葉を浴びせかけ、なんとか多少は落ち着かせることに成功した。

メドゥーサって普段はクールなのに、桜が絡むと途端に情熱的、かつアグレッシブになるよね。

こんなメドゥーサを初めて見た二人なんて目を丸くしているし。

混乱はこれだけではすまなかった。

メドゥーサが世界扉をくぐって聖杯世界へ行こうとするのを僕も必死で抑えたのだが、僕の体が引きずられて世界扉に触れた際、僕の体は聖杯世界へ行くことができなかったのだ。

慌てて確認したが、メドゥーサは全く問題なく移動できた。

さよやアスナは手とかは大丈夫だが、体は無理だった。

……ぶっちゃけて言うと、服などが引っかかって入れなかった。

しかし、メドゥーサは服ごと入れる。つまり、「魔力で作った服

バックティオー

ならばOKか？」ということで、仮契約カードのオプション機能で作った服だけを着たところ、さよとアスナも問題なく聖杯世界へ移動に成功した。

つまり、

聖杯世界への移動OK

人：メドウィーサ、さよ、アスナ

物：魔力で作った服、バックタイオー仮契約カードのオプション機能の服、バックタイ仮契約カード

聖杯世界への移動NG

人：僕

物：普通の服

となった。

ん、これは、あれか？

聖杯世界への移動は、魔力のみで構成されているもの限定ってことか？

まあ、平行世界（異世界？）の映像と音声を受信できていただけでも奇跡なんだ。

もともと『あらゆる世界に召喚される英霊』サーヴァントは、ちょっと後押しすれば平行世界に移動できてもおかしくないけど、れっきとした物質が平行世界へ移動できるためには、越えなければいけない壁がたくさんあるってことだな。

例えば、第二魔法の習得、みたいな。

……そうだった。桜ルートの終盤で、凜は宝石剣を使うことで平行世界から魔力を集めてきて使っていたんだっけ。

その理屈からすれば、宝石剣に準ずる術式礼装（魔法具）があつて使いこなすことができれば、平行世界に魔力を移動させることは可能ってことか。

『桜を助けたいと強く願った聖杯戦争世界の記憶を持つメドウィーサ』の移動系アーティファクトに、特殊性らしい僕がコピーした令呪を使つて聖杯世界へ接続させたのだから、……まあ、ありが。

ってことは、聖杯世界からもサーヴァントや魔力のみで構成されているものしかこっちに持つてこれないのか？

さっそくメドウィーサたちに色々テストしてもらったが、予想通り

向こうの世界の物は一切持ち込めなかった。

のわゝ!!

聖杯世界でスカウトに成功したら、こっちに連れてくるつもりだったのに！

……い、いや、サーヴァントなら連れてこれるんだ。

何とかがんばって、サーヴァントをスカウトしてやる!!

この後、世界扉の接続を解除し、作戦タイムに突入。

僕の暗黒神殿に全員取り込み、凜ルートのグッドエンドの展開といくつかのIF、ようはバッドエンドやデッドエンドの展開を、ゲームとアニメと現実の士郎たちを元に僕のイメージで再構築したドキュメント風実写版ドラマみたいな感じで説明した。

18禁シーンは口頭で説明しただけだが、さよはキャラクター言っていたし、アスナも顔を赤らめていた。

「なんで今までやっていなかったのか？」と問われれば、取らぬ狸の皮算用になる可能性もあったし、向こうの世界との接続を切っておけば準備も作戦会議もいくらでもこっちの世界でできるので後回しにしていた為だ。

で、この展開だと衛宮士郎のグッドエンドかトゥルーエンドで終われば、桜に危険が及ぶことはない。

……とはいえ、メドゥーサはできるだけ早く桜を助けたい。

ゆえに、上記の展開の場合、サーヴァントがほとんど消滅した最終決戦段階で介入することに決定した。

衛宮士郎のバッドエンド、あるいはデッドエンドの場合、そのルートに入ったと確認できた時点で桜を救出することになった。

これ以降の展開　グッドエンド　or　トゥルーエンドの場合（以降、F a t eのネタバレ）

2月8日（金）　九日目

・遠坂凜　vs　葛木宗一郎&キャスター

遠坂凜が葛木宗一郎に手加減して攻撃したガンドの一撃をキャスターが完全に無効化

・セイバー　vs　キャスター

キャスターが放ったランクAの光弾を5個、セイバーが睨むだけで無効化

・セイバー　vs　葛木宗一郎（葛木宗一郎の勝利）

セイバーが先制攻撃するも、肉体を強化された葛木宗一郎の拳法の前に一方的に押される。

最後には首の肉を削がれながら投げ飛ばされ、時速200キロのスピードでコンクリートの壁に叩きつけられて活動停止。

・衛宮士郎&遠坂凜　vs　葛木宗一郎（引き分け）

葛木宗一郎の一撃により、遠坂凜は呼吸を止められて戦線離脱。

衛宮士郎は、干将・莫耶を投影し、葛木宗一郎の攻撃を約30回防ぐ。

2月10日(日) 十一日目

・衛宮士郎、セイバー、遠坂凜でデート

・キャスターの襲来

キャスターが藤村大河を人質に取り脅迫。

衛宮士郎が降伏しキャスターに令呪を渡そうとするが、キャスターは衛宮士郎を殺そうとする。

それを止めるため、セイバーが攻撃を仕掛けるが、衛宮士郎の令呪による命令により強制的に行動停止後、キャスターの破戒^{ル・ブル}すべき全ての符により令呪を奪われる。

支配下においてセイバーを使い、キャスターは遠坂凜を殺そうとするも、セイバーの必死の抵抗により、衛宮士郎、遠坂凜、藤村大河の脱出成功。

2月11日(月) 十二日目

・遠坂凜&アーチャー vs 葛木宗一郎&キャスター(キャスターの勝利)

アーチャーが裏切り、キャスターの破戒^{ル・ブル}すべき全ての符によつてキャスターに令呪を奪われる。

葛木宗一郎が遠坂凜を攻撃したとき、衛宮士郎が介入して遠坂凜を守る。

アーチャーがキャスターに二人を助けるように依頼し、キャスターは承諾、衛宮士郎と遠坂凜は無事に帰還する。

2月12日(火) 十三日目

・ギルガメッシュ vs バーサーカー&バーサーカー

ギルガメッシュの宝具の魔弾をバーサーカーは避けることができず、止めに天の鎖で動きを止められた後、更なる宝具の魔弾を喰ら

つた後、刺し穿つ死棘の槍の原典の槍で止めを刺される。
ゲイ・ボルグ

同時にイリヤも又、ギルガメッシュによって命を絶たれ、心臓を
摘出される。

・ランサー出現

アインツベルン城にランサーが出現し、ランサーの提案により衛
宮士郎、遠坂凜とキャスターを倒すまでという条件で、一時同盟締結

2月13日（水） 十四日目

・ランサー vs アーチャー（引き分け）

接近戦はほぼ互角、ランサーの突き穿つ死翔の槍の真名開放に対
し、アーチャーは熾天覆う七つの円環の真名開放で対抗。
ゲイ・ボルグ

辛うじて突き穿つ死翔の槍を迎撃するが、アーチャーの腕は辛う
じて繋がっている状態で腕の傷の痛みと想像を絶する頭痛というダ
メージを受ける。

その時点で、キャスターの監視が無くなったため戦う理由が無く
なり休戦。

・衛宮士郎 vs 葛木宗一郎（引き分け）

衛宮士郎は投影した干将・莫耶で何とか対抗するも、一方的に攻
められる状態。

・遠坂凜 vs キャスター（遠坂凜の勝利）

キャスターの魔術の一撃に対し、遠坂凜は十年分の宝石で相殺。
遠坂凜の限界を超えた、宝石三つを用いた魔術すら、キャスター
に完全に吸収される。

油断したキャスターの隙を突いて、宝石で強化した拳を持ってキ
ャスターをノックアウト。

・衛宮士郎&遠坂凜 vs 葛木宗一郎&キャスター vs アーチャー（アーチャーの勝利）

ノックアウトしたキャスターに、遠坂凜が止めを誘うとした時葛木が援護に回り、キャスターは体勢を立て直す。

キャスターがセイバーに令呪をしようとした瞬間、アーチャーが葛木宗一郎に向かって投影宝具を複数射出。

葛木宗一郎を庇って、キャスター消滅。

その後、アーチャーと葛木宗一郎の一騎打ちとなり、葛木宗一郎死亡。

・衛宮士郎&セイバー vs アーチャー

アーチャーが衛宮士郎を殺そうとするも、セイバーと衛宮士郎の粘りで時間を稼ぐ。

その隙に、遠坂凜がセイバーと契約。

接近戦でセイバーに圧倒されたアーチャーは、固有結界「無限の剣製」を展開。

結界内の宝具でセイバーを攻撃するが、衛宮士郎が宝具を投影して迎撃し、固有結界は消滅。

アーチャーは遠坂凜を誘拐して、アインツベルン城へ向かう。

・ランサーとの同盟続行

ランサーに事情を説明したところ、ランサーの気が変わり引き続きランサーとの同盟関係継続

2月14日（木） 十五日目

・ランサー vs 言峰綺礼&間桐慎二（ランサーの勝利？）

囚われの遠坂凜をランサーが救出に向かったところ、間桐慎二とランサーのマスターである言峰綺礼と遭遇。

言峰綺礼に遠坂凜を殺すように命令されたがランサーは拒否。

言峰綺礼は令呪を使用して、「自害しろ」とランサーに命令。ランサーは、槍で自分の心臓を貫くが、その後言峰綺礼の心臓を貫いて殺す。

さらに、間桐慎二の右肩に槍を突き刺し遠坂凜を救出した後、火のルーンで自分を含めた部屋の全てを燃やし尽くした。

・衛宮士郎 vs アーチャー（衛宮士郎の勝利）

アーチャーの投影魔術を使った剣術に対し、衛宮士郎も投影魔術で対応し、結果として憑依魔術のように、衛宮士郎はアーチャーの技術、記憶の一部を手に入れる。

最後は、衛宮士郎の剣がアーチャーの胸を貫く。

・衛宮士郎&遠坂凜&アーチャー vs ギルガメッシュ

ギルガメッシュが衛宮士郎に対して攻撃をしたが、アーチャーが身代わりとなり、アーチャーが複数の宝具に串刺しにされ、姿を消す。

遠坂凜が魔術で攻撃するが、完全に無効化される。

ギルガメッシュの火事の火の粉が掛かるのを嫌がり撤退。

2月15日（金） 十六日目

・セイバー vs アサシン（セイバーの勝利）

アサシンの燕返しの際、長刀が曲がっていたが故に存在した僅かな隙を見出し、アサシンを倒す

・遠坂凜&アーチャー vs 聖杯

遠坂凜は、聖杯から間桐慎二を引き離し、脱出経路をアーチャーが作成して無事に生還。

・衛宮士郎（&アーチャー） vs ギルガメッシュ（衛宮士郎の

勝利)

ギルガメツシュが持つ宝具の原型に対し、衛宮士郎は投影が追いつかず、エアの一撃を喰らってしまう。

アーチャーの熾天覆ロー・アイアスう七つの円環の援護もあり、固有結界「無限の剣製」を展開。

武器の召喚速度を上回るが故に、ギルガメツシュより有利に立ち、エアを取ろうとした腕を干将・莫耶で切断する。

ギルガメツシュが孔に飲み込まれ、鎖が衛宮士郎に巻きつけられた際、アーチャーの一撃がギルガメツシュに止めを刺す。

上記のタイムスケジュールを確認しながら全員で相談した結果、この通りに状況が進んだ場合、『2月14日(木) 十五日目』に行動開始予定となった。

あと、僕個人の希望として、可能ならイリヤを助けないことを伝えた。

聖杯だし、魔力供給量は桁違いだし、今までのパターンと同様、「命を助ける代わりに従者になってくれ」と頼もうと考えていた、わけだ。

しかし、イリヤを助けることに成功しても麻帆良世界に連れてこれないとなると、イリヤを保護するのも大変だ。

リスクは最小限に、可能なら助ける、と言う方針でいくかな。

それでも聖杯世界への介入は危険なので、さよ、アスナは留守番させるつもりだったのだが、

「ぜひ私も手伝わせてください」

「私も手伝う」

と二人から猛烈な希望をぶつけられた。

「気持ち嬉しいけど、サーヴァント相手だから危険はかなりあるぞ？」

「だ、大丈夫です。」

こんな時のために、ずっと訓練を積んできたんです。

少しでも死ぬ人がなくなるなら、全力を尽くします」

「イリヤは私と似ている。」

限度はあるけど、助けてあげたい。駄目？」

二人で至近距離から上目遣いとか卑怯だぞ。

ここで断ったら僕が鬼じゃないか。

「わかった。ただし、危険度が高いときは参加不可だからな。」

それだけは譲れないぞ」

「はい、わかりました」

「わかった」

僕の実質上の敗北宣言に、二人は笑顔で答えた。

【聖杯世界】

2月10日（日） 十一日目

・キャスターの襲来

士郎と凜が衛宮邸に帰宅した際、結界を消去し衛宮邸に侵入していたメディアは大河を誘拐する寸前だった。

大河を人質に取ったキャスターは士郎を殺そうとしてセイバーに妨害される。

しかし、大河が死ぬことを許容できなかった士郎が令呪を使ってしまったことでセイバーの動きが止められ、……そして、セイバーにメディアの破戒すべき全ての符が突き刺さり、令呪を奪い取った。セイバーは令呪に命令されて凜を殺そうとするが、士郎は自分の体を盾にして、それを防いだ。

そして、……セイバーは必死で令呪に抵抗し、その隙に二人は脱出に成功した。

僕の話で展開は知っていたが、メディアの悪辣さと恐ろしさに全員震撼した。

「メディアには、絶対に破戒すべき全ての符を使わせてはいけませんね」

「そうだね。」

まあ、彼女は生粋の魔女で接近戦の知識も経験もないから、……さよ以外なら破戒すべき全ての符を刺されるようなことはないと思うよ。

士郎と同じく、人質作戦を取られない限り、けどね」

デイルムツドが破戒すべき全ての符を使ったとしても、令呪を消すことはできても、奪うなんて真似はできないはず。

チートトリッパーの朱雀ならできてもおかしくないけど。

「麻帆良世界では、メディアに人質作戦を実行されないように十分注意する必要がありますね。」

そうだね。きちんと、対策を練った方がいいだろうね」

あんな究極の選択なんて、自分がするのは絶対に嫌だ。

まあ僕の場合、どれほど大切な人でも、まずは自分の命が大切というエゴイストであるから、あの場面は迷わないけど。

ちなみに、このシーンを見たことで僕は破戒すべき全ての符が登録され、投影可能になった。

2月11日（月） 十二日目

・凜&アーチャー vs 葛木&キャスター

アーチャーが裏切ったせいで凜がピンチになったが、士郎が凜の救出に入る。

そして、裏切ったアーチャーの交渉により、ぎりぎり二人は生

還した。

2月12日（火） 十三日目

・ 慎二&ギルガメツシュ vs イリヤ&バーサーカー

ギルガメツシュ相手にバーサーカーが絶望的な戦いを挑むのを見て、メドゥーサ以外の全員が顔を青くしていた。

そして、ついに天の鎖で動きを止められ、更なる宝具の魔弾を喰らったヘラクレスは動かなくなった。

バーサーカーの死を認められないイリヤは、ギルガメツシュに目を切り裂かれ、肺を貫かれた。

「遼さん！」

「まだだ」

「そうですね。今はまだ危険です」

さよの悲鳴のような催促に対して、僕とメドゥーサは冷静に答えた。

「ああ、その通りだ。今助けると、絶対にあいつに気づかれる。

……イリヤはアインツベルンの特殊性のホムンクルス。死んですぐなら蘇生できる、はず。今は機会を待つときだ。」

僕も絶対の自信があるわけではないが、ギルガメツシュ相手なのだ。リスクは最小限にしないと生き残れない。

次の瞬間、天の鎖を引きちぎったヘラクレスがギルガメツシュへ襲いかかったが、それもまた即座に撃退され、ついに絶命した。

傷つき、目も見えないイリヤが、それでもバーサーカーを探して這っていく。

死しても肉体を残したバーサーカーに触れ、ついに意識を失ったイリヤからギルガメツシュは心臓を引きずりだした。

このあたりでイリヤを助けたかったが、ギルガメツシュに僕たちの存在がばれるのは危険すぎる。

僕は、……仲間の安全を重視し、ギルガメツシュが完全に去るまで機会を待つことにした。

ギルガメツシュによって士郎は殺される寸前だったが、時間切れを告げたギルガメツシュによって命拾いをしていた。

自分をないがしろにしてまで他人を助けようとする士郎と、それを止めようとして、あきらめて何とかすることを決意した凜。つくづく士郎の歪みっぷりを思い知らされるよな。それを何とかできると思える凜をすごいと思ったよ、本当に。

士郎と凜は、ヘラクレスの遺灰とイリヤの遺体を棺に納めて埋葬の準備を開始した。

棺の蓋が絞められた時点で、メドゥーサは世界扉を棺の中へ接続し、魔法人形とすり替えて、イリヤの遺体とヘラクレスの遺灰を回収した。

回収は問題なく成功したものの、心臓を奪われ血の気もなくどう見ても死体にしか見えないイリヤに対し、さよが全力で回復魔法をかけ、メドゥーサが魔力を注ぎ込み、さらにアスナが口移しでイクシールを飲ませた。

しかし、イリヤが回復する様子はなく、メドゥーサは魔術でイリヤの容態をチェックすると、首を横に振った。

「さすがは聖杯用のホムンクルスとして作られただけはあって、魔力を注ぎこんだことで僅かですが生命反応が感じられるようになりました。」

……ですが、これ以上回復する見込みもなく、イクシールと魔力の効果が切れた時点で完全に死ぬでしょう」

ちっ、やはり無理か。

いつもなら、こういう困ったときの最後の手段として僕との仮契約^{バクティオー}なんだが、僕は麻帆良世界、イリヤは聖杯世界では仮契約は不可能だ。

……いや、封印していた本当に最後の手段があるじゃないか！！
「アデアット」

僕は夜天の書を具現化して起動させると、世界扉の向こうにいるメドゥーサに投げ渡した。

「メドゥーサ、今夜天の書を起動してある。

それをそのままイリヤの頭の上に置け！」

「リヨウ、一体何を？」

「どうせこのままなら必ず死ぬんだ。

駄目元で、夜天の書の転生モードでイリヤが蘇生できないか試す！」

「……わかりました。他に手段はなさそうですね。

さよ、アスナ、イリヤから離れてください」

その言葉を聞き、大人しくイリヤから二人が離れたのを確認し、メドゥーサはイリヤの頭に夜天の書を置いた。

次の瞬間、イリヤの体は光に包まれ、そのまま夜天の書に吸い込まれた。

「……うまくいったか？」

確認したいから、とりあえずみんな戻ってきてくれ」

こうして、イリヤを回収（？）した夜天の書を持ったメドゥーサたちは無事に麻帆良世界へ帰還した。

僕たちは黙って夜天の書を囲んでいた。

夜天の書のページには、「ただ今、守護騎士システム起動中」と

表示されているので、多分イリヤの守護騎士化は順調に進んでいるのだろう。

……今気づいたけど、夜天の書に取り込んだ状態なら麻帆良世界へ連れてくることができてよかった。

「イリヤちゃん、大丈夫でしょうか？」

「さあ、夜天の書には転生モードって機能があるけど、さっきの状態はほぼ死亡状態だったからね。

……うまくいくかどうか、完全に賭けだと思ってるよ」

「でも、実行中って表示されていますよね」

「ああ、そうだね。

せつかくここまでみんなががんばったんだ。

……いい結果になると嬉しいけど」

そう言ったとき、再び夜天の書が光り、その光は人の形を構築した。

慌てて抱き留めると、それは紛れもなくイリヤだった。……服は構築されなかったのか、真っ裸だったけど。

すぐにメドゥーサがイリヤを受け取ると、すぐに寝室へ連れて行った。

イリヤが無事なのを見て、さよもアスナもほっとしていた。

麻帆良世界と聖杯世界を移動できるのはサーヴァントだけだったけど、夜天の書に取り込めば人間でも移動できるわけか。

つまり、『夜天の書に取り込んで守護騎士に転生させれば、聖杯世界の人間でも麻帆良世界につれてこれる』わけだ。

守護騎士という魔法生命体に生まれ変わらせることができれば、聖杯世界のメンバーをスカウトできる。

……イリヤみたいにほぼ死んでる場合ならともかく、スカウトするためだけに魔法生命体にするのはあくどすぎるけど、……きちんと説明した上で本人の承諾があればいいか？

魔法生命体の詳細はこれから調べることになるけど、うまくすれ

ば人間であることを辞める代わりに、不老不死に近い体になれる可能性は高い。

…… 不老不死の為なら人外になることなど構わない人、人間だったのに本人の意思を無視して化け物にされてしまった人、とかならスカウトを承諾してくれる可能性はありそうだな。

【聖杯世界】

・ランサー出現

アインツベルン城にランサーが現れた。

ランサーにどう対応するかで、…… 二人が口喧嘩を開始。

数分間にもわたり、ランサーそっちのけで喧嘩できる神経の太さには驚くよな。

結局、ランサーの提案により衛宮士郎と遠坂凜は、キャスターを倒すまでという条件でランサーと一時同盟締結したが……、何だあのラブコメ。

リアルで見るとものすごく笑えるぞ。

さっきまでの殺伐とした空気と180度違う展開に、イリヤが助かって安心したのかみんなも大笑いしていた。

しばらく後、きちんと服を着たイリヤがメドゥーサと一緒に部屋に入ってきた。

イリヤはこちらを向くと、恭しくお辞儀をしてきた。

「礼を言います、八神様。見ず知らずの私を助けていただいたその心遣い、心より感謝いたしますわ」

「い、いや、助けたと言っても魔法具を使うように指示しただけだし。」

それに、あの世界へ移動可能にしたのはメドゥーサの魔法具だ。」「ご謙遜を。私を助けることを提案し、瀕死の状態だった私を助けてくれたのは八神殿だと伺いました。

おかげで、私はこうして生き返ることができました」

「いや、助けるだけならいつでも助けられたけど、可能な限り僕たち、そしてこの世界の情報をばらしたくなかったからぎりぎりになっただけだよ。」

……それに、まともな方法じゃ無理で、君の意志も確認せずに守護騎士、魔法生命体にしたしね」

「それでもです。助けてくれたことには感謝します」

「わかったよ。……あと、無理に丁寧に話さなくていい。衛宮に話した感じで構わないよ」

そう僕が言くと、今まで一部の隙もない淑女だったイリヤは、ニコッと笑って可愛い女の子の雰囲気変わった。

「うん、ありがとう、お兄ちゃん。」

そう言って、イリヤは抱きついてほっぺにキスをしてきた。

「これは、そのお礼よ。……こんなじゃ全然足りないとは思っけど。」

あと、助けてくれたのはわかるけど、詳細な状態について教えてもらえないかしら？

もちろん、私がコピーであることは自覚してるけど」

「……コピーだって？」

聞き間違えじゃないのか？

「そうよ。もしかして、気づいていなかったのかしら？

……イリヤスフィール・フォン・アインツベルンは謎のサーヴァントに敗れ、心臓を引き抜かれた。

いくらオリジナルがアインツベルン製の聖杯として調整されたホムンクルスでも、聖杯の本体である心臓を引き抜かれたら生きてはいけない。

あの時、オリジナルであるイリヤスフィールは死んだのよ」

「じゃ、じゃあ？」

「ええ、私は夜天の書に取り込まれた『イリヤの遺伝子情報と脳内の記憶情報を元に守護騎士として再構築された存在』よ。

限りなく、オリジナルに近い人格を持っているし、記憶も全部受けついているけど、コピーであることは間違いないわ」

「そっか、間に合わなかったか。

……君に謝っても意味がないことだとは分かっているけど、ごめんね。

僕の手持ちの戦力とあの状況ではイリヤを助けることはできないと手出ししなかった結果、イリヤを死なせてしまった」

「それは仕方ないわ。

お兄ちゃんはライダーのマスターではあっても、聖杯戦争の参加者じゃなかったし、第一オリジナルと同盟を組んでいたわけでもない。

あの状況でオリジナルを助けようとするのは、ライダーが無駄死にする可能性が高いわ。

お兄ちゃんの判断は当然よ」

「……ずいぶん、冷静に判断できるんだな。

え」と

「イリヤでいいわ。

コピーだけど、イリヤのほとんどを引きついているのも事実だしね」

「了解、改めてよろしく、イリヤ。

で、オリジナルのイリヤを見捨てたことはいいのかい？」

「ええ、私が知っている情報でもあの状況から助かるのは絶望的よ。それに、無駄かもしれないと思っていても、オリジナルを生き返

することができないか全力を尽くしてくれたのは事実だし、コピーだ
けどこうやって私は今生きているしね。

……感謝こそすれ、恨むことなんて何もないわよ」

「……そう言ってくれると、少しは救われるよ」

この後僕は、麻帆良世界のこと、メドゥーサを召喚したこと、ア
ーティファクトの世界扉で聖杯世界へ（サーヴァント限定で）関わ
っていることを説明した。

「普通じゃないとは思っていたけど、まさか平行世界、いえ異世界
とは思わなかったわ。

……でもそれで納得できたわ。

夜天の書みたいなどんでもないものがあつたのも、そういう訳だ
つたのね」

「そういうこと。

まあ、夜天の書はこの世界でもトップクラスに貴重な魔法具だと
思っただけね。

……君の承諾なしで、夜天の書の守護騎士にしてしまったけど、
もちろん、貴方の従者として働くわ」

「それでいいのかい？」

「ええ、今の私はコピー」。

だからこそ、自由に生きることができるわ。

そして、お兄ちゃんといると退屈しなくてすみそうだしね」

そう言って、イリヤはにっこり笑った。

本当の意味でイリヤを助けることはできなかったけど、……まあ
何もしなかったよりはるかにいい結果だったかな。

「そうだ、僕に可能な範囲で君の希望を叶えるつもりだけど、何か
あるかな？」

「……そうね。まずは、聖杯戦争の続きを最後まで見たいわ。

あとは、前回の聖杯戦争でお父様とお母様はどう戦ったのか、それがオリジナルにとって一番心残りだったから、可能なら詳細を知りたいわ。

……今はそんなところよ」

「それくらい、お安い御用だ。

聖杯戦争の続きは、常に世界扉から見ることができるよ。

前回の聖杯戦争については、世界扉から見たものを録画して編集したものがあるからみんなで見よう。」

超絶美少女の外見といい、天真爛漫な女の子ぶりといい、時々見せる完璧なお嬢様ぶりといい、イリヤはとても可愛いな。

彼女の願いなら全て叶えてあげたくなくなってしまふ。

……いかにいかに、イリヤの操り人形にならないように気を付けないと。

こうして、世界扉から映した映像を元に再構成した『Fate / Zero』（実写版）をみんなで鑑賞することになった。

なお、いずれ間桐臓硯と言峰綺礼を捕獲、または脳のみ収集し、脳から記憶を読み出すことにより、この2名から見た第4次聖杯戦争の映像も追加する予定である。

できれば、エルメロイ2世の記憶ももらいたところだが、それはあまりにもリスクが多すぎるので諦めるしかあるまい。

そんなことはともかく、何度か休憩をはさみながら『アルトリア視点の第4次聖杯戦争』、そして『切嗣と士郎視点の聖杯戦争後』を見た。

イリヤは、『切嗣がイリヤに会いに戻ってきたが、アインツベルン側が拒絶したためアインツベルン城にたどり着けなかったこと』を知り、切嗣が自分を捨てたわけではないことを理解して安心していったようだった。

続いて、イリヤが殺されるまでの第五次聖杯戦争の映像を観賞し

た。

その後、^{バックティオー}仮契約とアーティファクトの説明をイリヤに行った。

「ふーん、お兄ちゃんは他人の能力を解析する能力とコピーする能力を持っていて、キャスターと一緒にいた謎の少年の『解析不能だった能力』をコピーしたら「サーヴァント」の能力を手に入れられたんだ。

……それが本当だったら、とんでもないことね」

「うん、信じられないのも無理ないと思うよ。

というか、コピーに成功した時には僕も本当に驚いたからね」

「でも、実際に、あなたのサーヴァントになっっている人がいる以上、すべてを否定するのは馬鹿げているわ。

……少なくとも、あなたが『サーヴァントのクラスとスキルを持っていること』、『サーヴァントのクラスを他人に貸したこと』の二つは間違いのない事実のようだしね。

さすがにアスナとさよが英霊には見えないわ」

「そう言ってくれて助かるよ。

で、君はサーヴァントじゃないけど、似たような存在である守護騎士になっただけど大丈夫かい？」

「ええ、私ができる範囲では、全く問題ないわ。

……というか、聖杯戦争の少し後ぐらいには私は死んでしまっただったんだけど、……この体なら問題なさそうね。

あまりにも違和感がなさすぎて、まるで生まれたときからこの体だったかのような錯覚すら覚えるわ。

普通の意味での成長はもうできないみたいだけど、自分の意志で肉体年齢を変更できるみたいよ。

あと、訓練を積みばもつと強くなれそうな感じもするわ」

「聞いた限り問題はなさそうだね」

これで一安心だ。

「それにしても、……幽霊をサーヴァントにしたり、封印された人格をサーヴァントとして独立した存在にしたり、本当になんでもありね」

「いや、さよの時は偶然で、アスナも駄目元でやった結果なんだけどね。……まあ、結果だけ見れば何でもあり状態なのは否定できないけどね」

なんせリストアップすると、

今までに八神遼平がやった重大事項

- 1・聖杯戦争がない世界で、（魔術師でも魔法使いでもない存在が）サーヴァントの能力ゲット
- 2・聖杯がない世界で、ライダー（メドゥーサ）召喚&契約
- 3・メドゥーサとの仮契約で、（サーヴァントのみだが）異世界へ移動可能なアーティファクトゲット
- 4・地縛霊をサーヴァント（偽）にする↓後にサーヴァント化
- 5・封印された人格をサーヴァント（偽）にする↓後にサーヴァント化
- 6・ほぼ死んでいるイリヤを「夜天の書」に取り込んで、守護騎士イリヤを生み出す。

うん、聖杯世界でこのことがばれたら、即行で封印指定か解剖コースだな。

「ライダーから聞いた限りでも、こつちの世界でもそんなことができる**と**ばれたらただじゃすまないわ。

わかってる**とは思**うけど、くれぐれも気を付けてね。

絶対に私も巻き込まれるに決ま**っ**てるんだから」

「りょ〜かい。

こつちもトラブルはご免だから、可能な限り避けるよ。

で、サーヴァントの専門家として聞きたいんだけど」

「何かしら？」

「さよとアスナの体は問題ないかな？」

さつきも言った通り、偶然サーヴァントになったから、本当に問題がないか全然わからないんだよね」

「よくそれで、平気で過ごしてきたわね。」

ある意味感心するわ。

……安心なさい。彼女たちも私と同程度に安定しているわ。

今まで問題なかったのなら、当分問題が起きることはないはずよ」

「そうか、それはよかった。」

教えてくれてありがとう」

そう、さよとアスナがサーヴァント化して、それが一番の心配だったのだ。

まあ、いきなり伝説の英霊の力を与えられれば扱いきれずに自滅する可能性もあり得たと思うけど、二人が持っていた特別な力はクラス別スキルのみ。

『保有スキルとパラメータは、自分の能力の強化版のみ』という保有能力だったのが幸いしたか。

そして、サーヴァントとしての存在に慣れていくうちに。スキルを使いこなし、少しずつパラメータも上昇していったから、問題なく強くなれたのかもしれないな。

イリヤは疲れを感じたらしく、この後すぐに寝室へ向かった。

イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：聖杯↓「夜天の書」の守護騎士

種族：ホムンクルス↓魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪↓消失

聖杯↓聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

部屋を出る直前にイリヤのパラメータを確認すると、「聖杯」の代わりに「聖杯（複製）」となっている。

……多分、守護騎士として生まれたときに性能が劣化したんだと思うけど、明日にでもイリヤに確認してみるか。

こうして、初めての聖杯戦争への介入は、……評価に困る結果となった。

イリヤは助けられなかったが、イリヤの記憶と意志を受けつぐ存在が生まれたわけだしな。

僕にできることは、彼女を保護し、彼女の希望をできるだけ叶えてあげることぐらいか。

「夜天の書」の守護騎士の機能の封印を解いたわけだし、他の候補者も探してみるかな。

明日こそはいい結果になってほしいな。

そんなことを思いつつ、僕は眠りについた。

第10話 イリヤの救出（小学2年生 聖杯世界2月6日）（後書き）

本日（2011・8・19）、14万PVを達成し、週間ランキング18位に入れました。

評価していただき、ありがとうございます。

【更新履歴】

2011・09・05 『聖杯世界へはサーヴァントなどしか移動できない』という設定に変更。

2011・09・05 『イリヤスフィールのオリジナルは死亡し、夜天の騎士として誕生したのはコピー』という設定に変更。

【備考】

イリヤスフィール NEW

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：聖杯↓「夜天の書」の守護騎士

種族：ホムンクルス↓魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯↓聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

1996年7月20日（聖杯世界 2月6日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月20日（聖杯世界 2月6日）のメモ

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：聖杯↓「夜天の書」の守護騎士

種族：ホムンクルス↓魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯↓聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・聖杯戦争の参加者

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

能力：令呪（残り2画）

黒い聖杯

技術：魔術：E

吸収：A

使役：B

弓術

所持：刻印虫

契約：ライダー（メドゥーサ）

<パラメータ>

名前：間桐慎二

性別：男

職業：高校生

種族：人間

技術：魔術の知識

所持：偽臣の書（ライダー用）

契約（偽）

：ライダー（メドゥーサ）

<パラメータ>

名前：間桐臓硯

性別：男

職業：魔術師、マキリの当主

種族：蟲

技術：使役

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印（遠坂家）

令呪（残り0画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

契約：アーチャー（エミヤ）

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：聖杯

種族：ホムンクルス

能力：令呪（残り2画）

聖杯

魔眼

魔力放出

契約：バーサーカー（ヘラクレス）

<パラメータ>

名前：バゼット・フラガ・マクレミッツ

性別：女

職業：魔術師

ゴッズ・ホルダー

能力：伝承保菌者

技術：格闘術

ルーン魔術

所持：魔術刻印（マクレミッツ家）

備考：仮死状態（アヴェンジャーと契約中）

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：令呪（残り1画）

固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

所持：全て遠き理想郷
アヴァロン

契約：セイバー（アルトリア）

<パラメータ>

名前：言峰綺礼

性別：男

職業：魔術師、異端審問官

能力：令呪（残り0画）

令呪（残り9画）

技術：八極拳

魔術（鍊金、召喚、降霊、ト占、治癒）

契約：アーチャー（ギルガメッシュ）

ランサー（クー・フーリン）

<パラメータ>

名前：葛木宗一郎

性別：男

職業：教師、元暗殺者

技術：拳法

契約：キャスター（メディア）

3・魔法球

・メインで使用しているのは、さよが作った魔法球（24倍速）

・「黄金律」で可能なかぎり目立たないようにして金を稼いで、メドウサが魔法球（等倍）を購入。

そして、魔法球「エヴァンジェリン・リゾート」を参考にして、さよが魔法球を改造しました。

僕は無理だと思ったのだが、「道具作成：B」を使い、さらにエヴァのアドバイスをもらうことで改造成功。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

技術・魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）NEW

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

	アロンドライト	無敵なる湖光（パラメータ向上）	：A＋（投影宝具）
	エクスカリバー	約束された勝利の剣（最強）	：A＋（投影宝具）
		干将・莫耶（対魔力&対物理向上）	：C－（投影宝具）
		干将・莫耶オーバーエッジ	：B（投影宝具）
	ハルベ	蛇刈る刺突剣（屈折延命）	：C（投影宝具）
クト		ハマノツルギ（魔法無効化）	：投影アーティファ
クト	ミステルテイン	世界樹の宿木の剣（対神&対不死）	：投影アーティファ
クト		妖刀ひな（呪われた刀）	：投影武具（メドウ
ーサ用）			
	槍	ゲイ・ボルグ	
		刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）	：C（投影宝具）
	ゲイ・ジャルグ	破魔の紅薔薇（魔力無効化）	：C（投影宝具）
	ゲイ・ボウ	必滅の黄薔薇（不治の傷）	：C（投影宝具）
	鎖	エルキドゥ	
		天の鎖（拘束&対神）	：A（投影宝具）
	弓矢		
	エミヤの弓	カランドボルグ	：投影武具
		偽・螺旋剣2（矢&爆弾）	：A（投影宝具）
	盾	アイギス	
		蒼鏡の盾（センサー）	：D（投影宝具）
	鎧		
		英雄王の鎧のパーツ	：B（投影宝具）
	アーティファクト：		
	贗作工房		
	夜天の魔法書		
	魔眼のコンタクト		

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術・剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A+ 宝具 A+

備考 ステータスの（ ）は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具

【騎英の手綱】：A＋

【自己封印・暗黒神殿】：C－

【十二の試練】：C

備考

ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2．相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能
所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A +

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A +

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3 . アスナ

<パラメータ>

名前：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

蛇刈る刺突剣

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 B (A) 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』使用時のもの

ス

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）
ステータスの（ ）は、【咸卦法】使用時のステータ

【「夜天の書」の守護騎士】

1・イリヤスフィール NEW

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：聖杯↓「夜天の書」の守護騎士

種族：ホムンクルス↓魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯↓聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

イリヤ（コピー）が「夜天の騎士」の守護騎士になったばかりであり、新しい体の性能や能力もよく分かっている状態なので、しばらく聖杯世界への接触と介入は中止することにした。

具体的にはイリヤの強化と、夜天の書のパワーアップが終わるまで、だ。

「メドゥーサ、これでいいかい？」

一番、というか唯一不満だろうメドゥーサに対して僕は尋ねた。

「……正直に言えば、すぐにでも桜を助きたいです。」

しかし、聖杯世界と接続しない限り桜にとっては助けられる時期は同じです。

ですから、強化プランの実行を認めます」

「そうか、認めてくれてありがとう」

メドゥーサが同意してくれたんなら問題ないな。

起きてきたイリヤも特に異常はないということなので、さっそくみんなで訓練を開始した。

といっても、イリヤに麻帆良世界の魔法を覚えてもらうだけで、それなりに時間が掛かることは覚悟していたのだが、……っておいおい、さよに教わった魔法を初見で一回目から成功させているぞ。

『イリヤの魔術は理論を飛ばして結果を出すというもので、小規模な聖杯というか、彼女の望みが彼女の魔力で可能ならばその方法を知らなくても実現できる』というチート設定は、この世界の魔法にも有効だったらしいな。

……ということ、たった一日で僕たちが使えた魔法を全てイリヤはマスターしてしまい、さよはキャスターなのにサーヴァントでないイリヤに（たった一日で）魔法で負けるという状況に、シヨックを隠せないようだった。

「諦める、さよ。」

イリヤは聖杯の化身で、チートの存在だ。

そんなイリヤを相手にして、相手の土俵で勝とうなんて無謀なんだ。

お前は世界樹の加護で、回復とか防御とか補助とかの魔法の適性が高いんだから、そっちでがんばれ」

「……は、はい。がんばります」

僕の励ましで何とか立ち直ったさよだったが、まだまだ引きずっているようだった。

理不尽な奴とかチートな存在とか、この世界（麻帆良世界）には結構いるからな。

早めに僕みたいに悟りを開いて、マイペースに生きたほうが楽だぞ。

……限界を超えようと努力しないわけだから、他人には『根性なし』とか呼ばれかねない生き方ではあるが。

イリヤの修業は順調なので、もう一つの課題である「夜天の書のパワーアップ」に着手することにした。

それは、イリヤにも使用した「夜天の書」の守護騎士システムを再度使用することである。

元ネタの「リリカルなのは」の「夜天の書」のヴォルケンリッターのように、守護プログラムによって「夜天の書」の主を守る騎士を作り出すというチート機能である。

「簡易版サーヴァントを作るようなもの」と言えばそのチートさも理解できるだろう。

もつともこのシステムには制限があり、2パターンの利用のみが可能となっている。

一つ目はイリヤに使った転生モード。

……イリヤの場合、転生というよりはコピーだったが、まあそれは置いておく。

知的生命体を夜天の書に取り込んで魔法生命体として生まれ変わるもの。

転生ゆえに強く、かつ独自性もかなり高い。

二つ目は人格構成モード。

一から人格プログラムを作り上げ、人格が成長するに従って強さを獲得していくことができる。

自分で産み出し、じっくり時間をかけて育てることができるので、教育に成功すれば最高の結果も得られるが、失敗すれば人格や能力に問題を抱えた存在となる。

当然ながら、どちらのモードで守護騎士を作り出しても、サーヴァント（偽）より弱い存在だが、「夜天の書」の容量内ならいくらでも守護騎士を増やせるのがメリットだ。

色々と面倒そうだし、「夜天の書」の「闇の書」化のフラグのよくな気がして使っていなかったが、……すでに使った以上、使わないのはもったいない。

調べたところ、転生モードで取り込む『知的生命体』は、かなり適用範囲が広いらしい。

非道でないレベルで、色々試してみるのもありかもしれないな。

あと、「夜天の書」の守護騎士に対して、『主への絶対服従』を強制させることも可能らしい。

所詮、魔法生命体だから、本体である「夜天の書」を使えば洗脳も不可能ではないようだ。

……ま、まあ、そんなことばかりやってたら、いつかシステムの裏について、守護騎士に裏切られるかもしれないし、仲間の評判も下降の一途だろうから、……できるだけばれないように、ささや

かな洗脳のみにしておくべきだな。
やらないという選択肢は僕にはない！

夜天の騎士を増やすためには、……やっぱり瀕死で助かる見込みがない人に対して、事情を説明して本人の承諾後に取り込むのがベスト、かな？

一から人格プログラムを構成するのも不可能ではなさそうだが、……実質子育てをするようなものでものすごく大変そうだ。

能力的には、サーヴァントのクラススキルもなく、ステータスやスキルがパワーアップすることもないサーヴァント（偽）よりかなり劣るようだが、自力で魔力を回復する能力は持っているらしい。これは便利である。

イリヤみたいな魔力タンクが存在が仲間にいない限り、サーヴァントを多数従えることは、サーヴァントの弱体化を絶対に招いてしまう。

しかし、守護騎士ならいくら数を増やしても、自分で魔力を回復してくれるので、魔力不足による弱体化はありえない。

もっとも、魔力で体を構築する関係上、サーヴァントと同じく気の生成や利用はできないが、こればかりは仕方ないな。

さて、実際に守護騎士へ転生してもらうとなると、……『余命が短い』とか、『訳あってずっと閉じ込められている』とかで、『助けてくれるなら僕の守護騎士になってもいいと承諾してくれそうな強い美少女』がベストなのだがそんな都合のいい存在なんて、……心当たりが見つかってしまった。

こんなご都合主義が続いて本当にいいのだろうか？

……まあ、いい。

それだけ『麻帆良世界がご都合主義に溢れていて、さらに僕の記

憶力と発想力が優れている』ということにしておこう。

ちなみに、男の従者は強くて裏切る可能性がほとんどない人（例：デイルムツド、クー・フリーン）以外は増やすつもりはない。

最初の心当たりはバゼット。

彼女は封印指定ハンターで強さは（人間の魔術師としては）指折りであり、斬り決る戦神の剣というカウンター宝具まで使うことができる優秀な人材である。

しかも今は聖杯世界において、言峰綺礼の不意打ちを食らって瀕死の状態という、今の僕から見ればまさに『鴨がネギをしょってやつてきた』状態である。

が、『Fate hollow ataraxia』の設定通りならば、今のバゼットはアヴェンジャーのアンリ・マユと契約しており、彼女を守護騎士に転生すると、もれなくアンリ・マユがいてくる可能性がある。

……どう考えてもこれは、『闇の書』化の特大フラグとしか言いようがない。

うん、バゼットの守護騎士化は素直に諦めたほうが賢明だな。

原作通りなら、ほつといっても半年後ぐらいに目を覚ますだろうし。

次の心当たりは、月姫キャラである弓塚さつき。

しかし、……死徒、それも27祖クラスの吸血鬼なんて取り込んで大丈夫か？

それ以前に吸血鬼の弓塚さつきは今存在しているのか？

三咲町へ行って確認すればいいが、シエルグッドエンドだとアルクェイドとシエルが二人ともいるし、この世界はどのルートになったのかもわからない。

シエルはともかく、アルクェイドに見つかると面倒なことになりそうだ。

吸血鬼となった弓塚に会える可能性も低く、リスクもデメリットも大きく、弓塚が守護騎士に転生することを承諾するかわからないとなると、……弓塚のことは諦めた方が懸命そうだな。

残念だ。……本当に残念だ。

聖杯世界からスカウトするのは、あまりにも条件が厳しすぎるから偶然条件に該当する人と会えたらスカウトする、ぐらいに考えたほうがいいかもしれないな。

次の心当たりをスカウトするため、僕とメドゥーサはラカンの元を尋ねた。

幸いにも外出していなかったラカンに対して、「ラカン編集の大战の映像」と「エヴァから奪った闇の魔法の巻物」^{マギア・エレベア}を見せてほしいと依頼してみたところ、返ってきたのは予想外の内容だった。

それは

「信用できないから駄目だ。

信用してほしかったら俺と戦って証明しろ」

との無茶苦茶な回答だった。

守銭奴だから金を請求されると思って結構な額を持ってきたけど、まさか戦えと言われるなんて、想像できるか！！

ま、まあいい。僕の最終兵器、魔改造メドゥーサに出てもらって、死なない程度に石化の魔眼を使って、宝具を使ってもらえば

「お前さんがリーダーだろ？」

リーダーなら自分で戦って勝ち取りな。

安心しろ。手加減してやるし、死なない程度にしてやるぜ」

……マジですか？

あの、原作公式バグキャラと僕が戦えと？

無理だー！！

僕はレアスキル持ちであって、チートでもバグでもないんだ。

あんたらみたいなバグと戦ったらあつという間に死んでしまう。

……あんた、原作では「寸止め」と言っておきながら対戦相手を粉々にしてただろ。

いくら僕には宝具「十二の試練」があるとはいえ、ラカン相手なら殺されきってしまうのが簡単に予想できてしまうぞ。

内心でパニクリながら絶叫していることに気付いたのか、メドゥーサが審判役を引き受け、僕が殺されそうなときはレフリーストッブを全力でやってくれることを提案してくれ、なんとか僕は落ち着くことができた。

こうして、なぜか『僕 vs ラカン』の戦いが始まってしまったのだが、……今の僕は少々機嫌が悪いのだ。

昨日は、自分ひとりだけ聖杯世界へ行けなかったせいで、思いつきりストレスが貯まっている。

そうだな。ラカンなら死ぬことはないだろうし、生まれて初めての遠慮なしの殺す気の全力で攻撃させてもらおう。

「試合、開始」

メドゥーサの宣言と共に、僕は王の財室内にある投影宝具で、全力射出攻撃を行った。

「おっと、なかなかやるじゃねえか、だがその程度「壊れた幻想！」」

全て躲したラカンの言葉を無視して、大量に打ち込んだ宝具を全て爆破。

さらに油断せず、
カラドボルグ

「偽・螺旋剣！」

続いて
ゲイ・ボルグ

「突き穿つ死翔の槍！！」

とどめに

ブローケン・ファンタズム
「壊れた幻想！！！！」

と、打ち込んだ偽・螺旋剣と突き穿つ死翔の槍を爆破させた。

カラドボルグ

ゲイ・ボルグ

ものすごい爆発音と共に土煙が舞い上がっているが、……多分これでも勝てないだろうなあ。

世界扉経由で見学しているさよやイリヤは、「さすがに死んだのでは（死んだんじゃないの）？」と念話経由で心配しているが、この程度で勝てるなら苦労しない。

……実際、アスナは欠片も動揺してないし。

で、予想通りラカンが土煙の中から大笑いしながら登場。

どうせ気合防御とかしたんだろうけど、完全に無傷。

ネギが感じた理不尽さを僕も嫌というほど感じながら、ため息一つついて、諦めて干将・莫耶（強化済み）を取り出した。

王の財宝はほぼ空っぽだし、今から投影したとしても、投影している間に攻撃されてしまうだろう。当然、固有結界なんて論外である。

よって、残りは接近戦しかないわけだ。

以前予想した通り、僕は戦いについて大した才能はなかった。

ゆえに、努力の天才であったエミヤの技は本当に参考になった。

彼の技を解析魔術で徹底的に読み込み、それを【無窮の武錬】で僕の身体で最適な内容に修正し、ひたすら訓練を行ってきた。

僕は細かい作業を延々と繰り返すのが結構好きだったりするのだが、戦闘訓練でもこの性行が存分に発揮された結果、意外と強くなれたのだ。

目に見えて効果が分かる訓練、そして格闘マンガや戦闘マンガの技の再現に結構はまっていたというのもあるけど。

ともかく、「勝てないのは分かっているが、この世界のトップレベルと本気で戦えるいい機会だ」「やれるとこまでやってやる」と

後先のことを考えずにラカンに全力で攻撃をしかけた。

しかし、本気モードになったラカンに僕程度が敵うはずもなく、ついに、やっと一撃を当てたと思ったら、

「よくがんばったな。ラカン努力賞をやるう」

という言葉と共に強烈な一撃を食らい、あっさりと意識を刈り取られてしまった。

「ラカン、やりすぎ」

「驚いた、姫子ちゃんじゃねえか。」

なんでこいつらと一緒なんだ？」

目を覚ますと、一緒に来たメドウーサ以外にも、さよにアスナにイリヤと、全員集合状態だった。

どうも、豪快に負けた僕を心配してみんな来てくれたらしい。

ラカンに対しては、アスナから事情説明が説明された。

できれば、アスナのことはラカンにも内緒にしておきたかったけど、アスナの姿を見せてしまった以上、今さらだな。

『アスナ自身の希望で「記憶を封印された神楽坂明日菜」とは別の独立した存在になり、毎日楽しく過ごしていること』が伝えられると、ラカンから感謝されることになった。

この反応からすると、ラカンはアスナが記憶を封印されることは知っていたが、ラカンにとっても不本意な対策だったのか？

それで、アスナ本人から「完全なる世界」に襲われることもなく、毎日楽しく過ごしていると聞ければ嬉しいのも無理はないか。

さっきの戦闘でがんばった結果もあり、エヴァの巻物を貸してもらったことができた。

もちろんその場で使うのを許可されただけで、持っていくのを許可されたわけではない。

残念ながら、ラカン編集の大戦の映像は見せてもらえなかった。

「……あれっ？ 信頼できるか証明するため戦ったんじゃないのか

？」

「確かにさっきの戦闘でお前さんが信頼できそうなことはわかったが、一回だけわかることには限界があるに決まってるだろ？」

姫子ちゃんの保証があったからエヴァの巻物は少しだけ貸してやるが、大戦の映像が見なければ見せてもいいと俺が信頼できるくらい戦わないと無理だぜ？」

ラカンはそのすぐくむかつく、とっても爽やかないい笑顔でそう答えた。

こいつは！

原作でネギに対してからかったように、僕に対してもからかって遊ぶことにしたのかよ！！

……いや、（前世の）昔よりはましだけど、僕はこういうタイプに対しておもちやにされやすいからなあ。

はあ。大戦の映像を見せてもいいと思ってくれるまで、ここに来るしかないのか。

ま、まあ、大戦の英雄にして接近戦のスペシャリストと何度も戦えるんだからいい訓練になると思えばいいか。

……一応、一度も死なないで今回の戦闘を終えることができたしな。

僕の従者達にとってもいい訓練になる、ってそれが狙いか？

姫子ちゃんことアスナの存在を知った今、ラカンにとって一番の心配事はアスナの安全となる。

アスナの安全を守るように、アスナ自身とアスナを守ってくれるであろう僕たちを鍛えることにしたのか？

……ラカンってバカのようにで結構戦いに関わると結構策士なところがあるから、考え過ぎって可能性も低そうだな。

……美少女達が頻繁に訪れてくれるように画策したってことはないよな。ラカンの好みって大人の女性だし、僕の従者たちは実年齢はともかく、外見は10代半ばばかりだし。

そういうわけで、大戦の映像を見せてもらうのは大人しく諦めることにした。

しかし、ただでは引かず大戦の映像の代わりに『千の顔を持つ英雄^{ホ・ヘーロース}』を使うところも見せてもらうことには成功した。

『千の顔を持つ英雄』は特殊なアーティファクトで、仮契約カードから様々な武具を作り出せるというものだ。

「作り出した武具を固有結界に登録しても、『千の顔を持つ英雄^{ホ・ヘーロース}』は登録できないのでは？」と恐れていて、実際最初は予想通りの結果だった。

しかし、諦めの悪い僕は、色々試しているうちに、なんと仮契約カードの『千の顔を持つ英雄^{ホ・ヘーロース}』そのものを固有結界に登録することに成功した。

感覚的には、僕が『千の顔を持つ英雄^{ホ・ヘーロース}』を投影し、使いこなすことができそうな感じがする。

武具関連の仮契約カード限定だろうが、新技ゲットだ。ラッキー！！

さて、本来の目的であるエヴァの巻物を開けた瞬間、巻物から偽エヴァが出現して僕を巻物の中へ引きずり込もうとした。

が、その手をメドゥーサがつかみ、逆にエヴァの人造霊を捕獲することに成功した。

……何故かエヴァの人造霊は全裸だったけど、原作もそうだったっけ？

まあ10歳の子供だから、それほど嬉しい光景ではないけど。

「なっ、貴様ら、一体何をするつもりだ。

マキア・エレベア
闇の魔法を覚えたいのなら、巻物に入って訓練を受ける必要があるのだぞ！」

私を捕まえて一体何をするつもりだ？」

「僕は寿命を削って一時的な強さを得る、あるいは己の体を魔物化

マギア・エレベア
して強さを得る闇の魔法に興味はないんです。

興味、というか僕が欲しいのは、エヴァ、あなた自身なんですよ」
「何だと？」

一体どういう意味だ？

からかっただけ、という理由なら、殺すぞ？」

何故かエヴァが切れる寸前だけど、これが今回の主目的。

エヴァの人格をコピーされた存在であり人間どころ生き物ですらない、さらにずっと巻物に閉じ込められていて退屈しているだろうから、このエヴァを「夜天の書」の守護騎士にスカウトする交渉の成功確率は結構あるはずだ。

このエヴァは、本体、つまりオリジナルのエヴァの数分の一の力しかないらしいが、封印解除エヴァの数分の一の力があれば十分すぎるほど強いのは言うまでもない。

「冗談じゃないですよ。」

僕のこのアーティファクト「夜天の魔法書」には、『知的生命体を夜天の書に取り込んで守護騎士という魔法生命体として生まれ変わらせる機能』があります。

そして、エヴァさんの分身がここで巻物の中に閉じ込められていることを知ったので、スカウトに来たんですよ」

「ふんっ、お前の話が本当である保証などどこにある？」

……まさか、僕の言葉を信じてください、などと言うつもりではあるまいな」

さすがにそれはない。

僕はそこまで馬鹿じゃないぞ。

「論より証拠、調べたいなら「夜天の書」をいくらでも調べて結構ですよ。」

それからすでに体験者がいます。

イリヤがそうですよ」

「……そこまで言い切るのなら、はったりや嘘ではないということか。」

しかし、それが事実だったとして、私にどんなメリットがあるというのだ？」

「まずは、退屈しない日々を。」

あなたはそれが作られた目的とはいえ、ずっと巻物の中で待ち続けていたはずです。

守護騎士になってくれれば、巻物から離れて自由に移動可能になりますし、何より僕の従者たちは個性豊か、かつ優秀な人材が多いですからね。

一緒に過ごすだけでも退屈しませんよ。

ああ、『巻物の管理人』の役割を破棄しろとは言いませんよ。

巻物に連絡系の魔法をかけておいて、ラカンさん以外が巻物を手にすることがあればエヴァに連絡がいくようにして、連絡があったら巻物に戻ればどうですか？

……巻物をどう管理するかは僕が口出しすることではないので、対応は全部まかせますけど。

二つ目は強敵との戦いを。

僕の従者たちもかなり強いですが、いずれ彼女たちよりはるかに強い存在と戦うかもしれず、……と、近い将来も同等以上の存在と戦う危険性がありました。

とにかく、戦いを求めているなら高い確率で強敵と戦う機会を提供できるでしょう」

朱雀パーティーと対立しないで済んだ場合この約束は嘘になりかねないが、メドゥーサやアスナと戦わせれば嘘にはならないだろう。「ふん、ラカンに負けたとはいえ、お前がかなり強い、少なくともこの私と互角に戦えるぐらいに強いのはわかってる。

そのお前がそこまで気を掛ける以上、強敵との戦いに本気で備えているのは嘘ではなさそうだな。

……実際、お前の従者の中には、お前以上の強さを持つものもあるようだしな。

確かに、お前たちと一緒にいれば退屈しないのは間違いなさそうだな

……だが、それだけか？」

おや、これだけじゃ足りなかったか。

もう一押ししてところか。

じゃあ、切り札を出すのでしょうか。

「では、貴女の知らない世界へ招待するっていうのはどうですか？魔法世界や旧世界ではなく、全く別の第三の世界。

基本は旧世界と似ていますが、その魔法や魔法使いたちはこの世界とは別物ですし、ごく僅かですが規格外の存在もいますよ」

「……その言葉に嘘は無いな？」

「もちろんありませんよ。

何を賭けてもいいですよ」

何せ聖杯世界は世界扉から見ることできて、移動できるのだ。守護騎士化したエヴァならアスナと同様に間違いなく移動できるはずだ。

世界扉があるかぎり、何でも賭けてやろう。

「……いいだろう、巻物の中にずっと閉じ籠っているのにも退屈していたところだ。

巻物から出るだけでなく、全く新しい世界を見て新しいことを知ることができるというのなら文句はない。

ただし、お前たちにとって重要なことや戦闘には参加するが、普段は自由にさせてもらおうぞ？

従者になるのは形だけだ。

それで問題ないな？」

「あと、麻帆良学園にはオリジナルのエヴァがいますので、麻帆良学園で自由に行動されるのは困ります。

それ以外の場所なら、姿を変えて魔力を隠すならOKです。

……できるだけ、トラブルは避けてくださいね」

「それぐらいのことなら、約束を守ることを約束しよう。

よし、さつさと「夜天の魔法書」とやらを出せ」

「ちよつと待ってくれ、巻物の管理はどうするんだ？」

契約が成立したのはいいが、いきなり仕事放棄していいのか？

後で、オリジナルのエヴァにばれたときに、僕の責任にされるのはご免だぞ。

「ふん、どうせ今まで使うやつなどいなかったものだ。

……だが、確かに私がいないのは問題か。

よし、ちよつと待ってる」

エヴァはそう言うと言文を唱えた。

呪文を唱え終わると、そこにはエヴァそっくりの少女が出現していた。

「私は本体のコピーだが、私を元にさらにコピーを作った。

私よりかなり弱いマキア・エレベアが、精神世界で闇の魔法を覚えるだけならこれで十分だ。

……念のため、お前のアイデア通り、ラカン以外が巻物に触れたら私に魔法で通知が来るようにも設定しておいた。

通知がきたらコピー経由で無謀な挑戦者の状況を確認しておけば問題あるまい。

もつとも、確認するのは闇マキア・エレベアの魔法を覚える前にコピーが消滅しないかだけだな。

……まあ、教えがいのある奴がいたら、私直々に教えてやってもいいが、そんな奴はいないだろうな」

いいのかそれで？

僕がスカウトしておいてなんだが、なんてフリーダムな。

さすがはエヴァのコピー人格、ものすごく自分勝手だな。

しかし、僕たちと一緒に行動すれば、必然的にエヴァの言う『教えがいのある奴』のレベルが半端なく上がってしまうような気がする。

何せ、さよは『世界樹の加護で治癒と防御と補助の魔法に優れて

いる』し、アスナは『天才剣士』、イリヤは『魔法チート』、加えて全員サーヴァントか守護騎士である。

言っちゃなんだが魔法世界編初期のネギ程度の實力で、目が肥えまくった未来のエヴァ（人造霊）のお眼鏡に叶うだろうか？

……まっ、いいか。

エヴァのコピーのコピーがマギア・エレベア闇の魔法を教えてくれるんだ。

開発チートのネギなら、闇の魔法さえ覚えれば、そこから自力で原作レベルまで強くなるのも不可能じゃないだろうさ。

「ところで、お前の話が事実だとしても、夜天の書を使って転生というとんでもないことをするわけだ。

話に嘘はないか、危険性はないか、しっかり調べさせてもらうぞ」
そう言つて、エヴァは僕が渡した「夜天の魔法書」の解析を開始した。

もっとも解析と言っても、エヴァは解析魔法を使えるわけでもなく、「夜天の魔法書」のヘルプ機能の内容を確認し、ヘルプ機能を元に機能を確認しているだけだが。

エヴァは「夜天の書」の機能確認に相当の時間を費やした後、僕の方を振り返つて発言した。

「お前の話に嘘はなかった。

これなら私を100%転生させることができるし、お前が死んだりして夜天の魔法書が消滅したとしても、その時点で別のマスターを探して新しい依り代とすれば私は消滅しないですみそっだな」

あっ、そうだったんだ。

そこまで調べてなかった。

さすがは僕のアーティファクトだ。かなりの便利機能だな。

「おいおい、そんなにあつさり信頼して大丈夫なのか？

転生とやらに失敗したら、お前さんでも消滅しかねないんじゃないか？」

面白がって見ているだけだったラカンだが、さすがに見かねたのかエヴァに忠告をしてきた。

「その心配はなかるう。これはとんでもなくレベルの高いアーティファクトであることは私自身が確認を取った。

あとは、そいつがおかしな設定をしている可能性だが、……もし変な真似を私にしたらどんな目にあうかわかっているな？」

「そりやもう、貴女のオリジナルとは長い付き合いですからね。

高い確率で、自分から殺してくれと懇願するような地獄を見せられるんじゃないですか？」

「分かっているならいい。

そのことをゆめゆめ忘れないことだ。

……まあ、いくらレベルの高いアーティファクトであろうとも、私に影響を及ぼすことは不可能だろうがな」

僕はそれを聞いて神妙な顔つきで頷いておきながら、実はエヴァの言う『おかしな設定』をすでに実行済みだった。

といっても、僕がやったのはマスター権限を使って「夜天の書」の一部の機能を見えなくしてただけだ。

その機能はもちろん、守護騎士の精神改竄能力である。

あまり多用するつもりはないが、守護騎士に激しく反抗されたり裏切られたりするのはごめんなので、ささやかながらデフォルトで裏切りにくくなるような設定をしておいたのだ。

さすがのエヴァも、マスター権限がない以上調べられなかったようだな。

まあ、コピーとはいえ「闇の福音」としての自信と同時に慢心まです引き継いだ故の油断かもしれないけどね。

準備が整い、夜天の書を広げ、守護騎士転生モードを起動すると、エヴァ（人造霊）が夜天の書に吸い込まれていった。

と思つたら、なぜか15歳ぐらいの金髪美少女に成長したエヴァが出てきた。

確認すると、まちがいに「夜天の書」の守護騎士になっている。

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル

性別：女

職業：巻物の管理人↓「夜天の書」の守護騎士

種族：人造霊↓魔法生命体

能力：飛行

魔眼

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操系術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

人造霊のため、「吸血」「再生」能力は未所持

「エヴァ、何で成長してるんだ？

お前はずっと幼女の姿だったろ？」

「幼女言うな！

……コホン。私のあの姿はオリジナルのものをコピーしたもの。

今までは特に変える必要性は感じていなかったが、こいつらは全員10代半ばの外見だ。

私だけ今までの姿だと浮いてしまうだろうが」

そう、実は僕のパーティーってみんなだいたい10代半ばの外見年齢で統一されているんだよね。

そこに肉体年齢10歳のエヴァが混じると、確かに目立ってしまうのは間違いない。

「本当にそれだけか？」

ラカンが完全にからかいモードに入ってしつこくエヴァに迫っている。

「うるさいな。それだけだ！」

「つまらん嘘は、後ではれるときつくなくなるぜ。」

ほれっ、さつさと吐いた方がお前のためだぞ」

「ああ、そうだよ！ 守護騎士には、肉体年齢を自由に変更できる機能があつたんだ。

それを思わず使ってしまったただけだ。

……これで満足か？」

自棄になって白状したエヴァに対して、ラカンの反応は普通に見てもひどかった。

「なんだ、それだけか？」

最初からそう言えばいいのに一々もったいぶりやがって」

「貴様……!!」

いきなり切れたエヴァ（守護騎士）は、そのまま全力でラカンに攻撃をしかけたが、ラカンは余裕で攻撃を躲し続けていた。

「ほっ、どうやら新しい体に問題はないようだな？」

というか以前より強くなってるだろ、間違いなく」

「ふん。まあ、そうだな。人造霊であつた私と守護騎士の相性はすばらしく良かったようだ。

魔力も自前で、それも大量に作り出せるようになった。

オリジナルには敵わないとはいえ、舐めてかかれれば痛い目を見るぞ」

「はあ？」

エヴァの自信たっぷりの返事に対して、ラカンの回答はバカにしまった顔つきと返事だった。

「貴様、私の言うことを全く信じていないな。」

その態度、絶対に後悔させてやる！」

どうやら怒りが限界に達したらしいエヴァは、マギア・エレベア闇の魔法を発動させた。
コンプレクシオ―

「掌握」

おお、これが本家本元のマギア・エレベア闇の魔法か。

エヴァは得意呪文である「闇の吹雪」を取り込んでパワーアップを果たした。

「ほっ、大したもんだ。

その体でこの魔法まで使えるとは、正直思ってたが」

言われてみれば、さっきまでのエヴァは人造霊で、今のエヴァは守護騎士である。

マギア・エレベア……闇の魔法って、ある程度素質があれば人外なら問題なく簡単に使える魔法なのか、もしかして？

「相性が良かったと説明しただろうが、この体は魔力で作っているからよりマギア・エレベア闇の魔法はより効果的だ。

お前の体で思い知らせてやろう」

そう言ってエヴァは猛攻撃を開始した。

そして、数分後。

立っていたのはラカンだけだった。

「ぐっ、貴様」

「確かに強くなっているようだが、元々本体の数分の一の実力だろう。」

……とはいえ、これだけ強ければ安心だ。

戦闘も全く問題なかったしな。

……じゃあな、エヴァ。

せいぜい楽しく暴れてこいや。」

「言われるまでもない。

今まで閉じ籠っていた分、思いつきり鬱憤を張らしてやる」

なるほど、何でいきなりラカンがエヴァを挑発しているのかと思
ったら、守護騎士になったエヴァと戦ってみたただけか。

原作でネギと戦ったのと全く同じ発想か。

……もしかしたら、今のエヴァが本当に強いのか確認するという
意味もあつたのかもしれないけど。

ラカンに勝てなかった以上、（最初手加減されたとはいえ）引き
分けまで持ち込んだ『原作の魔法世界編後半のネギ』よりは弱いだ
ろうが、相当強いのは間違いないさそうだ。

エヴァ（人造霊）はオリジナルエヴァの数分の一の強さらしいけ
ど、今のエヴァ（守護騎士）はもしかしたらエヴァに準ずる強さを
持っているのかもしれないな。

嬉しい誤算だな。

「ところで、この魔法書の名は「夜天の書」だったな？」

「そうですね、どうかしました？」

「そうか、「夜天の書」か。」

本体が「闇の福音」と呼ばれている私に相応しい魔法書だな。

さしずめ、私は「夜天の女王」と言ったところか。

……これから、お前はこの「夜天の書」の守護騎士を増やしてい
くのだろう？

私の部下として、「夜天の騎士」として名を汚すことがないよう
に、徹底的に鍛え上げてみせよう」

……いや、「夜天の王」は僕で、貴方はその「夜天の騎士」の一
人なんだけど、……って全く聞いてないね。

まっ、夜天の騎士たちをまとめて、さらに鍛えてくれるのは助か
るのは事実か。

エヴァが「夜天の女王」を名乗るなら、僕は「夜天の王」じゃな
くて、「夜天の主」かな？

僕は、王って柄じゃないし、ちょうどいいかも

……そういや、なし崩し的に『「夜天の書」の守護騎士Ⅱ夜天の騎士』ってなったみたいけど、……まっ、いいか。

僕はネーミングセンスがあまりないし、「ヴォルケンリッター」みたいな名を付けるよりも、安易だけどわかりやすい「夜天の騎士」で十分だな。

さてさて、エヴァの希望もあるし、どんどん「夜天の騎士」を増やしていかないと。

「ところで、君のこと何て呼べばいいかな？

エヴァだと、オリジナルと君の区別がつかないだろう？」

「そうだな、……私のことはキャサリンと呼べ。

間違っても、キティと呼ぶな、殺すぞ」

冷静に「殺す」と言われるよ、余計に怖いんですけど。

まあ、エヴァをからかう度胸などない僕は素直に頷いた。

「了解、これからよろしく、キャサリン」

「私は退屈しないため、新しい世界を見るためにお前についていくのだ。

それを忘れるなよ」

この後、僕の家の魔法球に戻ってキャサリンにイリヤの指導をお願いしたところ、イリヤはエヴァの全ての魔法すらあっさりと覚えてしまった。

あと、気づいたら「夜天の書」にエヴァの全魔法が登録されていた。

どうも、夜天の騎士になった存在が覚えていた魔法は、自動的に夜天の書に登録される仕様のようだ。

それから、これは全員で相談したのだが、僕としては夜天の騎士の存在を切り札とするため、（オリジナルの）エヴァにすら秘密にするつもりである。

これは、夜天の騎士は夜天の書に格納することができて、格納してしまえば誰にも気配や魔力を感じることができないという、チートな仕様のためだ。

そういうわけで、エヴァ同士を会わせるつもりはなかったのだが、キャサリンも本体に巻物の管理人をさぼっていることがばれるのが嫌だったのか、あっさりと同意してくれた。

こうして僕はこの日、魔法チートの存在となったイリヤと、夜天の女王（自称）となったキャサリン（元エヴァの人造霊）を手に入れた。

しかし、これでもまだ朱雀チームに勝つところか、対抗できる自信はない。

デイルムツドはメドゥーサが、メディアはアスナとイリヤの二人で対抗できそうだが、朱雀の相手ができる人材がいない。

……というか朱雀一人が相手でも、僕たちのパーティーでは勝てる気がしない。

さらなる仲間の実力アップと、強い仲間集めをがんばって、朱雀たちにとって「勝つことはできるけど倒すのは面倒」ぐらいの地位は確保しないと。

……やっぱり、「戦いは数」だよな。ある程度以上の質は当然必要だけど。

この後僕らは、（魔法球の外が）朝になるまで魔法球内で訓練を積んだ。

強力な新戦力二人の加入に、目の前で人が死ぬところを見て覚悟を決めた僕とさよ、聖杯戦争を見てより強くなりたいと考えるアスナ、他のサーヴァントから桜を守るぐらいの力を求めるメドゥーサが気合を入れて訓練を積んだおかげで、「聖杯戦争に介入する前

より、とても強力なパーティーになった」とメドゥーサのお墨付きをもらえるくらい僕たちは強くなった。

もともとキャサリンは訓練に少し参加した後、聖杯戦争の映像を見ることに夢中になっていたけど。

……まあ、彼女は元々相当強いから問題ないか。

訓練終了後、（博識なエヴァのコピーである）キャサリンなら知っているだろうと、以前から疑問だった「なぜ魔法使いたちは、総当たりで相互仮契約バクティオーをしないのか？」について尋ねてみると、意外な答えが返ってきた。（エヴァには、相互仮契約バクティオーのことは内緒にしていたので聞けなかった）

「確かに、お前の言うとおり神聖な仮契約を『アーティファクト獲得手段』を貶めてしまうから、総当たりの仮契約がタブーになっている面もある。

しかし、それだけなら、タブーなど気にしない悪党や外道が多用に決まっているだろう？

総当たり仮契約バクティオーがほとんど行われていないのは、単に仮契約カードから使えるアーティファクトが出現する確率が低すぎるからだ。

魔法世界では、アーティファクトカードが伝説扱いされているところもあるからな。

多数のメンバーと仮契約バクティオーを実行する奴も珍しいが、仮契約を行った全員からアーティファクトが出現する可能性はあまりない。

ましてや、その全てが強力なアーティファクトである可能性などほとんどない。

……まあ、『主が世界最強クラス、あるいはそれくらい強くなれる素質』を持っていて、『従者もそれぞれ能力や素質に優れている』ことはあれば、そういうことが起きるかもしれないがな。

そういうわけで、お前たちのような存在が例外中の例外で、仮契約バクティオーをするメリットが少ないから世の中では行われていないわけだ。

わかったか？」

なるほど。

主人公補正じゃなくて、ネギは『ラカンと互角に戦えるぐらいの素質』があり、『従者全員優れた能力や素質を持っていた』から、『ネギの全従者に強力なアーティファクトが現れた』わけか。
サーヴァントがたくさんいるという規格外のメンバーが揃っている僕たちが異常なのは言うまでもないし。

原作における通常レベルの魔法使いの**仮契約**（バクティオー）というと、

ココネ×春日美空＝名称不明（足を速くするだけのシューズ）
高音 × 佐倉愛衣＝オソウジダイスキ（異界国境魔法騎士団の正式
篇）

の二つか。

なるほど、「あれば便利だが、すごく欲しいわけではない」というレベルのアーティファクトだな。

これじゃ、総当たり**仮契約**（バクティオー）が流行らないわけだな。

ただ、ネギパーティーとかフェイトパーティーとかの例外的な存在だと、『メンバー全員による総当たりで相互**仮契約**（バクティオー）をすると、相当強力なアーティファクトが大量に出てきてもおかしくはないだろうなあ。

『極東最大の魔力量を誇る木乃香』や『黄昏の姫御子の明日菜』が主になった場合なんて、特に。

実際、『木乃香×刹那＝建御雷』という強力なアーティファクトが出現しているし、すぐもったいない気がする。

もっとも、どう考えてもA組の生徒は『学園長がネギの従者候補と指導者候補（エヴァや四天王）を集めたクラス』としか思えないから、最低条件に『**仮契約**（バクティオー）カードに、アーティファクトが登録される可能性が高い生徒』という条件があってもおかしくないけど。

それから、なぜか相互仮契約バクティオーについて説明が無かったので、再度確認してみると予想外の返事があった。

「相互仮契約バクティオーのことを教える、だと？

言い間違いではなかったのか？

一体お前は何のことを聞いているんだ？」

どうも、話がかみ合っていないらしい。

『百聞は一見にしかず』ということで、全員の仮契約バクティオーを一齐にキヤサリンに見せると、キヤサリンは動きを止めてしまった。

はて、何かおかしいなものでもあったのだろうか？

「……なんだこれは？」

「なんだこれは、と言われても、さっき言った相互仮契約バクティオーした結果の仮契約カードです」

キヤサリンは何故か黙ったまま、全ての仮契約カードを受け取ると、僕の言葉通り相互に仮契約バクティオーしていることを確認し、さらにその仮契約カードが本物であるかどうかも調べているようだった。

「貴様、自分が何をやっているか自覚しているのか？」

やっぱり理由はわからないが、キヤサリンの言葉はものすごく危険な響きを帯びていた。

「だから、相互仮契約バクティオーですよ。」

なぜか他にこれをやっているのは見たことありませんけど」

「当たり前だ！！」

なぜか、いきなりキヤサリンは大爆発をした。

「貴様、色々と規格外なのは理解していたが、常識を理解しとけ！
いいか、仮契約バクティオーを一度した後、主と従者を入れ替えて再度仮契約バクティオーをするなんて、絶対にできない仕様なんだ！！」

「えっ、そうだったのか？」

っていつか、僕たちはみんな成功しているけど？」

「だからありえないんだ。」

……お前、変なことをしていないか？」

変なことって言っても、仮契約の魔法陣を書いたのは、いつもメドゥーサかさよだったし、…… あっ！

「何か思い当ることがあったようだな。」

さっさと吐け！」

言外に吐かないと殺す、と言っているようだったので、僕は慌てて推測を話した。

「キャサリンにさっき言ったけど、僕らは通常世界でも魔法世界でもない、第三の世界へ移動することができる。」

で、メドゥーサはその第三の世界から来た存在で、僕はその世界の力を手に入れて、皆にその力の一部を貸していたんだ。

……あと、関係ないかもしれないけど、僕は相互仮契約ができる
バクティオー
と思い込んでいて、他の皆も仮契約について全く知らないか、詳しいことを知らなかった。

だから、皆も僕の思い込みを信じていたと思う」

「全員相互仮契約ができる^{バクティオー}と信じていたことと、第三の世界の力が合わさって、偶然相互仮契約^{バクティオー}ができてしまったとでも？」

それしか思いつかないけど、キャサリンは全く信じていない様子だった。

これは、『論より証拠』でいくべきだな。

「メドゥーサ、さよ。」

悪いけど、ここに仮契約の魔法陣を書いてくれないか？」
バクティオー

「了解です」

「了解しました」

二人はそう答えると、メドゥーサは魔術で、さよは血文字であったという間に仮契約の魔法陣を出現させた。
バクティオー

「お前たち、一体何で魔法陣を書いた？」

「私は、第三の世界の魔術を使って魔法陣を構築しただけですが」

「わ、私は、地縛霊だったときに身に着けた、血文字で魔法陣を書いただけです」

それを聞いたキャサリンは、頭痛を感じているようだった。

なんでさ？

「常識を知らないというのは、恐ろしいな。」

いいか、^{バクティオー}仮契約の魔法陣はチヨークか何かで書けば十分なんだ。

こんな、異世界の魔術や、異世界の力が混入している血で魔法陣を構築すれば、異常を起こしても当然だ」

うわ、そうだったのか？

……そういえば、カモはチヨークで魔法陣を書いていたつけ。

ただのチヨークで書けば十分なのに、魔術やら魔力たつぷりの血文字やらで魔法陣を作っていれば、そりゃ誤作動を起こしても当然か。

「全く、結果が良かったから問題ないが、……ちよつとでも間違っていたらどんな結果になっていたか想像もつかないぞ。」

……これだから素人は恐ろしい」

おっしやる通りです。

原作知識と夢で見た程度の知識で^{バクティオー}仮契約をしてたからなあ。

……今考えると、少々無謀すぎたか。

当然、今作った魔法陣を使って、お約束の^{バクティオー}仮契約大会を行った。

……しかし、悔しいことに、イリヤも^{バクティオー}キャサリンも、僕を含めて全員と^{バクティオー}仮契約の儀式を行ったのに、全て不成立だった。

「もしかしたら、キャサリンは^{バクティオー}仮契約やキスを嫌がるかも？」と
考えていたのだが、コピーだからなのか、それともナギとの記憶を
持っていないのか（or ナギと会う前に作られたのか）、「お前
たちのルールで決まっているなら従う」と言ってくれたのに、とて
も残念な結果だった。

イリヤはコピーであり、キャサリンは元人造霊であり、現守護騎
士である彼女たちは、魂がないから^{バクティオー}仮契約は無理だということなの
だろうか？

それとも、「夜天の書」の一部であり、「夜天の書」は僕としか

ラインを接続できないから、二人とも仮契約バクティオーが不成立になったのだ
ろうか？

……どちらかというと後者がありそうだな。

本人たちは、「予想していたこと」と平然としていたが、僕はち
よつと残念だった。

こうして、偽エヴァこと人造霊エヴァのスカウトは予想以上にう
まくいった。

仮契約バクティオーは増えなかったが、それでも十分な結果である。

明日もこれぐらいうまくいくといいのだが、そう思いながら僕は
眠りについた。

第11話 夜天の女王誕生（小学2年生 1996年7月20日）（後書き）

本日（2011・8・21）、17万PVを達成しました。
どうもありがとうございます。

【更新履歴】

2011・08・21 「夜天の書」の「守護騎士」作成の方法から、「コピー」を削除しました。

2011・08・21 守護騎士のスカウト候補にバゼットを追加しました。

2011・08・22 キヤサリンの自由行動許可について、契約内容に追加。

2011・08・22 「相互仮契約」について追記

2011・08・23 ラカンの「大戦の映像」は見せてもらえなかったことに変更しました。

2011・08・23 ラカンが主人公に感謝していた理由を追記しました。

2011・09・05 『聖杯世界への移動は実体を持たないサーヴァントのような存在のみ可能』という設定に変更しました。

2011・09・09 『相互仮契約バックティオーの魔法陣は、メドゥーサと相坂さよのみ構築可能』という設定に変更しました。

2011・09・21 『武器限定で、仮契約カードバックティオーも投影可能』という設定に変更しました。

【備考】

キヤサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル↓キャサリン
性別：女

職業：巻物の管理人↓「夜天の書」の守護騎士

種族：人造霊↓魔法型生命体

能力：飛行

魔眼

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操系術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

守護騎士（元人造霊）であり吸血鬼でないため、「吸血」「再生」能力は未所持

1996年7月20日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月20日のメモ

1. 守護騎士へのデフォルト設定

・以下の制約は、守護騎士の無意識領域において、違和感を感じない範囲の最大レベル近辺で実施され、守護騎士は自覚できないものとする。

なお、制約に引っ掛かりそうな行動予定や目標がある場合は、可能な限り主の了承後に行動を起こすものとする。

・主を裏切る行為、殺す行為、傷つける行為、又はそれらに準ずる行為の禁止。（なお、確実に殺す行為と裏切る行為以外は、主承認の訓練時のみ許可する）

これらの行為の実行を決断した時点で、実行前に必ず主に対して念話で絶縁宣言を伝えること。

・主に対する好意、愛情などのプラスの感情の上昇率アップ&低下率ダウン。

・主に対する悪意、憎悪、嫌悪、猜疑心などのマイナスの感情の上昇率ダウン&低下率アップ。

以上の4つである。

制約をかけていることを可能な限り気づかせず、裏切り行為などの禁止と通知、さらに心そのものは改竄しない、感情変化の方向性を誘導するわけだ。

これにより、守護騎士たちは事前予告なしで裏切れないし、僕に好意などを持ちやすくなり、悪意などを持ちにくくなる。

これなら、僕は罪悪感を持たずにすむし、罪悪感を持たずにすむ

範囲では一番安心できる制約となっている。

2・僕が考えた強さランキング（麻帆良世界1996年時点：2chの考察情報と僕自身の経験と予想を参考）

「僕自身の経験と予想」と「前世で見た2chの考察情報と原作知識（ラカン式強さ表含む）」に基づくもの

EX

チートトリッパー朱雀（最悪の想定）
ギルガメッシュ（本気モード）

SSS

チートトリッパー朱雀（本命の想定）
ギルガメッシュ（慢心モード、子供モード）

SS

魔改造デイルムッド
魔改造メドゥーサ
ラカン
ナギ
フェイト
ネギ（魔法世界編後期）
ヘラクレス
アルトリア
クー・フリーン

S

メディア（麻帆良世界）

セイバー
アスナ

エヴァ（封印解除時）

デュナミス

ディルムッド（聖杯世界）

佐々木小次郎

メドゥーサ（聖杯世界）

エミヤ

A
A
A

ライダー
八神遼平

キャサリン（夜天の騎士）

メディア（聖杯世界）

ネギ（魔法世界編中期）

月詠（妖刀ひな装備時）

A
A

キャスター
相坂さよ

イリヤ（夜天の騎士）

ネギ（魔法世界初期）

人造霊エヴァ

A

八神遼平（サーヴァント能力未使用時）

チャチャゼロ

月詠（通常時）

麻帆良学園 魔法先生（平均）

B

C

魔法学校卒業生

D

備考

一対一、かつコンディションが同程度の状態で戦った場合

同ランク：（相性が悪くなければ）ほぼ互角

1ランク差：相性が良い or 戦術次第で逆転可能

2ランク差：絶望的。相性が良ければ、戦術次第で逆転可能

3ランク差：絶対に勝てない。

注 相手に油断 or 慢心があったり、主人公補正が発生した場合、3ランク差以上でも勝てる場合あり。

【パーティーリスト】

朱雀パーティー

EX：チートトリッパ―朱雀（最悪の想定）

SS：魔改造デイルムツド

S：メディア（麻帆良世界）

八神パーティー

SS：魔改造メドゥーサ

S：アスナ

AAA：八神遼平、キャサリン（夜天の騎士）

A A : 相坂さよ、イリヤ（夜天の騎士）

アラルブラ
紅き翼

S S : ラカン、ナギ、近衛詠春（大戦時）

S : アルビレオ

エヴァパーティー

S : エヴァ（封印解除時）

A : チャチャゼロ

? : 絡繰茶々丸（作成前）

フエイトパーティー（未登場）

S S : フエイト

S : デュナミス

A A A : 月詠（妖刀ひな装備時）

? : 焰、栞、暦、環、調

超パーティー（未登場）

? : 超鈴音、龍宮真名、葉加瀬聡美

3 . バクティオー
仮契約

3 . 1 総当たり仮契約をしない理由

- ・神聖な仮契約を『アーティファクト獲得手段』を貶めてしまうから
- ・仮契約カードから使えるアーティファクトが出現する確率が低す

ぎるから

魔法世界では、アーティファクトカードが伝説扱いされているところもある。

例：原作における通常レベルの魔法使いの仮契約バクティオー

ココネ×春日美空Ⅱ名称不明（足を速くするだけのシューズ）

高音 × 佐倉愛衣Ⅱオソウジディスク（異界国境魔法騎士団の正式篇）

備考

A組の生徒は『学園長がネギの従者候補と指導者候補（エヴァや四天王）を集めたクラス』としか思えないから、最低条件に『仮契約バクティオーカードに、アーティファクトが登録される可能性が高い生徒』という条件があるかもしれないと推測。

3・2 相互仮契約バクティオーをしない理由

・仮契約バクティオーを一度した後、主と従者を入れ替えて再度仮契約バクティオーをするなんて、絶対にできない仕様

3・3 八神パーティーで相互仮契約バクティオーが成功した理由（予想）

- （1）仮契約バクティオーの魔法陣を書いたのは、メドゥーサとさよの二人
- ・異世界の力（サーヴァント能力）を持っている。
 - ・僕の誤解を信じて相互仮契約バクティオーが可能だと信じていた。

(2) 魔法陣を通常とは異なる方法で構築していた

- ・メドゥーサは、魔術を使って魔力の光で作った魔法陣を構築
- ・さよは、(魔力たっぷりの) 血文字を使って魔法陣を構築

4 バクティオー 仮契約カード

ラカンの仮契約カードの『千の顔を持つ英雄』そのものを固有結界に登録することに成功した。

バクティオー
僕が仮契約カード『千の顔を持つ英雄』を投影し、使いこなすことが可能だった。

バクティオー
僕の従者達の仮契約カードを見せてもらったところ、武具関連の仮契約カード限定で登録&投影&使用が可能だった。

バクティオー 投影可能な仮契約カード

- ・魔眼制御の眼鏡
ハルペー
- ・蛇刈る刺突剣
ミステルテイン
- ・世界樹の宿木の剣
ホ・ヘーロース
- ・千の顔を持つ英雄

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生
種族：人間
外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）
能力：能力解析
能力複製（対象固定）
能力設定
技術：魔術（強化、投影）
剣術
槍術
弓術
操糸術
瞬動術（虚空瞬動も可能）
西洋魔法（風、影、回復）
能力（複製）（使用中）：
サーヴァント
能力使用による心身への悪影響の無効化
能力（複製）（選択可能）：
令呪（残り0画）
サーヴァント
能力使用による心身への悪影響の無効化
能力（複製）（サーヴァント）：
ランサー
アーチャー
ライダー
バーサーカー（理性を失うため使用不可）
アサシン
アヴェンジャー
気：回復可能、使用可能
魔力：回復可能、使用可能
所持：王の財宝（倉庫）
：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）
ルールブレイカー
 破戒すべき全ての符（対魔術＆魔法）
 ・D（小物サイズの
 投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドライト
 無敵なる湖光（パラメータ向上）
エクスカリバー
 約束された勝利の剣（最強）
 ・A+（投影宝具）
 干将・莫耶（対魔力＆対物理向上）
 ・C-（投影宝具）
 干将・莫耶オーバーエッジ
ハルベ
 蛇刈る刺突剣（屈折延命）
 ・B（投影宝具）
 蛇刈る刺突剣（屈折延命）
 ・C（投影宝具）
 ハマノツルギ（魔法無効化）
 ・投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース
 千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
 ・投影アーティファ

クト NEW

ミステルテイン
 世界樹の宿木の剣（対神＆対不死）
 ・投影アーティファ

クト

妖刀ひな（呪われた刀）
 ・投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ
 刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
 ・C（投影宝具）
ゲイ・ジャルグ
 破魔の紅薔薇（魔力無効化）
 ・C（投影宝具）
ゲイ・ボウ
 必滅の黄薔薇（不治の傷）
 ・C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ
 天の鎖（拘束＆対神）
 ・A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓
カラドボルグ
 偽・螺旋剣2（矢＆爆弾）
 ・A（投影宝具）

盾

アイギス
 蒼鏡の盾（センサー）
 ・D（投影宝具）

鎧

英雄王の鎧のパーツ

: B (投影宝具)

アーティファクト:

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>: 重要な戦闘で使用 (切り札)

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】: B

【騎乗】: A+

保有スキル 【精霊魔術】: D

【直感】: B

【魔術】: D-

【無窮の武錬】: A

【燕返し】

【魔眼】: A+

【無限の剣製】: E } A+

【十二の試練】: C

【己が栄光の為でなく】: C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A +

保有スキル 【魔眼】：A +

【怪力】：B

【神性】：E -

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ポルスターガイスト】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 B (A) 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの()は、【咸卦法】使用時のステータ

ス

【「夜天の書」の守護騎士(以降、夜天の騎士)】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：聖杯(複製)

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）NEW
気：回復不可、使用不可
魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王） NEW

<パラメータ>

名前：エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル（コピー）↓キ
ヤサリン

性別：女

職業：巻物の管理人↓「夜天の書」の守護騎士

種族：人造霊↓魔法生命体

外見：10歳↓15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

第12話 聖杯戦争終結（小学2年生 聖杯世界2月13日）

イリヤを救出して以来、初めて聖杯世界へ世界扉を接続した。
前回は、イリヤを本当の意味で助けることはできなかった。

……やはり、原作展開を変えないで、原作キャラを助ける、ということは難しいということだ。

僕はハッピーエンドにならないと確信しない限り、Fateの原作展開変更をするつもりはない。

となると、やはりできれば助けたい彼を展開を変えずに助けるのは、……難しいんだろうな。

ちなみに、キャサリン（元エヴァの人造霊）は、徹夜で第四次聖杯戦争、第五次聖杯戦争の録画映像を見て、この間のイリヤ救出のところまですでに全部見終わっている。

異世界の聖杯世界、聖杯世界の魔術、英霊を召喚してサーヴァントとして戦わせる聖杯戦争、そして召喚される有名な英霊のオンパレードに、キャサリンは驚きと興奮を隠せない様子だった。

当然、メドゥーサが聖杯戦争で呼ばれたサーヴァントであることを知り、メドゥーサに対して色々と聞いていたようだった。

【聖杯世界】

2月13日（水） 十四日目

ランサーと一時的な同盟を結んだ士郎と凜は、ランサーと共にキヤスターが待つ教会へ突入。

最初に出迎えたアーチャーは、ランサーに任せて二人は協会へ入

って行った。

・ランサー vs アーチャー（引き分け）

接近戦はほぼ互角、ランサーの突き穿つ死翔の槍の真名開放に対し、アーチャーは熾天覆う七つの円環の真名開放で対抗。

辛うじて突き穿つ死翔の槍を迎撃するが、アーチャーの腕は辛うじて繋がっている状態で腕の傷の痛みと想像を絶する頭痛というダメージを受ける。

その時点で、キャスターの監視が無くなったため戦う理由が無くなり、アーチャーの申し出により休戦。

この戦闘を見たことで、ついに僕は熾天覆う七つの円環の登録に成功した。

正直、さよの光鷹翼は羨ましかったんだよな。

これで、さよと一緒に敵の攻撃から仲間を守ることができる。
さよの光鷹翼とのコンビネーションの特訓をしとかないといけ
いな。

相乗効果で超パワーアップを狙ってやるぜ！！

・衛宮士郎 vs 葛木宗一郎（引き分け）

衛宮士郎は投影した干将・莫耶で何とか対抗するも、一方的に攻められる状態。

・遠坂凜 vs キャスター（遠坂凜の勝利）

キャスターの魔術の一撃に対し、遠坂凜は十年分の宝石で相殺。
遠坂凜の限界を超えた、宝石三つを用いた魔術すら、キャスターに完全に吸収される。

油断したキャスターの隙を突いて、宝石で強化した拳を持ってキャスターをノックアウト。

・衛宮士郎&遠坂凜　v s　葛木宗一郎&キャスター　v s　アーチャー（アーチャーの勝利）

ノックアウトされたキャスターに対して遠坂凜が止めを刺そうとした時、葛木が援護に回り、キャスターは体勢を立て直す。

キャスターがセイバーに令呪をしようとした瞬間、アーチャーが葛木宗一郎に向かって投影宝具を複数射出。

葛木宗一郎を庇って、キャスター消滅。

その後、アーチャーと葛木宗一郎の一騎打ちとなり、葛木宗一郎死亡。

・衛宮士郎&セイバー　v s　アーチャー

アーチャーが衛宮士郎を殺そうとするも、セイバーが防ぎ、その後は衛宮士郎の粘りで時間を稼ぐ。

その隙に、遠坂凜がセイバーと契約。

凜との契約で本来の力を取り戻したセイバー。

そのセイバーに接近戦で圧倒されたアーチャーは、固有結界「無限の剣製」を展開。

結界内の宝具でセイバーを攻撃するが、衛宮士郎が宝具を投影して迎撃し、固有結界は消滅。

アーチャーは遠坂凜を誘拐して、アインツベルン城へ連れ去った。

そして、教会の外で待っていたランサーに事情を話し、ランサー自身の希望によりランサーと共にアインツベルン城へ向かうことになった。

この戦闘により、英霊エミヤの固有結界内の（全て遠き理想郷を
除く）全宝具コピーに成功した。
アヴァロン

ふっふっふ、これで僕の固有結界内も相当充実したぞ。

やつと、『固有結界「無限の剣製」(偽)』から、『固有結界「無限の剣製」』(完全コピー)へと進化したのだ。

いや、ここまで辿りつくのにずいぶん時間が掛かったなあ。それだけ苦労しただけ感動も大きい。

僕が一人で感動している横で、さよはキャスターの消滅と葛木の死を悲しそうに見ていた。

とはいえ、一般人にすら害を与えるまさしく悪役だった二人であり、助けるすべもなく、助けるべきでもない相手であることは分かっているのか、さよは何も言わずにいた。

……僕もさよもまだ実戦は未経験であるため、「人の死を、人が殺されるところをこの目で見る」という意味でも良い経験になったのかもしれない。

「ネギま」は原作ではほとんど人が死んでいなかったけど、……僕や朱雀と言うイレギュラーがいるこの世界もそうなるかは怪しいからなあ。

2月14日(木) 十五日目

ついに、二回目の聖杯世界への介入の日となった。

周辺を世界扉で、念入りにもれなくしっかりと探查してギルガメッシュを含めたサーヴァントがいないことを確認した後、聖杯世界の早朝に行動を開始した。

まずは霊体化したメドゥーサが間桐邸に侵入し、桜救出。

桜を事前に準備しておいた拠点(冬木市から遠い場所)へ回収して強力な結界で保護&隔離した後、臓硯捕獲&蟲を皆殺し。

一匹ずつなら雑魚である蟲駆除なので、イリヤの魔法無双が一番効果的だった。

さよは探查魔法を駆使して、サーヴァントが接近してこないかずっとチェックをしていた。

メドゥーサは魔眼を使用し、捕獲直後に臓硯の自我を完全に破壊した。

それだけでなく、絶対に逃げられないように魔術と魔法を二重にかけた後、封印&保管処理まで行った。

さすがに桜を苦しめた主要原因。容赦と言うものが全くなく、怒らせたメドゥーサの恐ろしさを思い知らされた。

僕は『犯罪者に人権はない』の意見の持ち主なので、メドゥーサの臓硯に対する行動は全て許可している。

……ああ、臓硯の知識と記憶だけは惜しいから、可能ならそれだけは保存するように頼んでいるけどね。

続いてメドゥーサは桜にハマノツルギを使って、臓硯とのつながりを完全に断った。

メドゥーサとさよとイリヤとキャサリンが、桜の体を詳細に調査し、とりあえず蟲がすぐに暴走することはなさそうだと判断。

そこで初めて『死んだはずのメドゥーサが現れてパニックになっているうちに、いつの間にか攫われてしまい、絶賛混乱中の桜』に対して、メドゥーサが事情を説明した。

最初は混乱していたが、他ならぬ信頼するメドゥーサの説明を受けて、やがてさよたちを信用し、事情を理解してくれた。

……まあ、「桜に変なことをしようとするれば、誰であろうと私が絶対に守ります」とメドゥーサが宣言したのもあるんだろうけど。

桜が落ち着いたところで、再度メドゥーサとさよとイリヤが桜の診察を行った。

……当然僕は世界扉の接続先を他の部屋に移動させた。
診察が終わった後、イリヤから桜に対して診察結果の報告が行わ

れた。

「桜もある程度理解していると思うけど、桜の体はマキリ一族の属性である水属性に改造するだけじゃなくて、第4次聖杯戦争の聖杯の欠片で作った蟲を埋め込まれ、さらにマキリ製の聖杯として改造されていたわ。

当然、そんな無茶をして長く生きられるはずがないわ。

そうね、今のままだと長くて30歳。多分25歳までには死んでしまうわね」

イリヤは容赦なく残酷な事実を伝えた。

この推測は『桜は慎二の子供を産めば用無しであるから、それまで生きていて子供が産めればいいと臓硯が考えていただろう』という僕の予想と一致するため、かなり正確なものだと思っている。

「アインツベルンの聖杯を流用したとはいえ、初めて作った聖杯と考えれば大したものよ。

でも、所詮は試作品ってことね。

まあ、本物の聖杯である私も、本来ならそう長くは生きられないんだけどね」

それを聞いた桜は、やはり覚悟、いや理解していたらしく、顔色を青くしながらも黙って頷いた。

桜が自分の体の状況を把握しているのは何よりだ。

生まれた時から聖杯として調整されていたイリヤと違って、桜は遠坂桜だったときは健康体であり、魔術師としての素質も優れていた。

『ここまでぼろぼろの体を、完治するかわからない方法で時間をかけてがんばって治す』より、『時の天秤を使って安全に遠坂桜の体に戻す』方が、桜の体の治療という意味ではよっぽどいいだろう。……ただし、間桐桜として改造された体質に基づく魔術は全て使えなくなるが、……蟲の使役以外まともに使えるマキリの魔術はな

いみたいだし、架空元素属性が復活したほうがまっとうな魔術師にはなれる可能性は高いと思う。

そのことを、桜が信頼しているメドゥーサから説明してもらったところ、結構な時間考え込んだ後、時の天秤を使って若返ることによる治療を了承した。

「時の天秤」を使うことで、特に問題もなく『5歳当時の遠坂桜』に若返った。

覚悟はしていたことではあったが、あれだけ立派なおっぱい、……コホン、見事なスタイルがつるべたになるのを見るのは悲しかった。

……ましてや、今の桜の体は『遠坂桜』であり、彼女が成長しても凛と似たスタイルになる可能性もあると考えるとなおさらである。今はスカートとか下着がずれ下がり、上着がダボダボのパジャマみたいになっている。

ちなみに、10年分の時間は、メドゥーサ、さよ、アスナのサーヴァント3人で等分して受け取った。（よって、4人とも肉体年齢が3・3年分ずつ成長した）

……その後、背が伸びて落ち込んでいたメドゥーサに対して、アスナが

「私だけ背が低いから、メドゥーサの分の時間が欲しい」

と提案し、メドゥーサが受け取った3・3年分の時間は双方同意の元、アスナへ移譲された。

「すごい。

こんなに体が小さくなって、視点もすごく低くなりました。でも、体がすごく軽いです。

それに、魔力を吸う蟲も全部いなくなって、魔力もたっぷりあります」

桜は大喜びで、完全な健康体に見える。

髪の色も黒色になっているし、問題なさそうだな。

若返って肉体年齢5歳のロリ桜になったが、それ以外は精神的にも肉体的にも魔力的にも問題ないと診断された。

当然、刻印虫を含めた蟲は一匹残らず全て消滅したらしい。

とはいえ、新しい体になれるため、リハビリみたいなことをする必要があり、メドゥーサとさよが付き添うことになった。

色々あつて精神的に疲れた桜が眠りについた後、今後の桜の対応について相談した。

『時の天秤で一気に成長させる』のではなく、『新しい肉体になれ、新しい肉体で魔術と（麻帆良世界の）魔法の訓練をするため、魔法球の中で修行を行う』ことが決定した。

しかし、桜は麻帆良世界へ移動できないし、魔法球を聖杯世界に持ち込むこともできない。……まさか桜を夜天の騎士にするわけにもいかない。

よって、とりあえずは僕の贗作工房を聖杯世界に持って行って魔法球にして、この中でみんなで修行することになった。

……当然僕以外のメンバーで。

可能なら、聖杯世界で材料を集め、さよが魔法球を聖杯世界に作ることによって贗作工房を僕に返してくれる予定になっているが、いつになることやら。

メドゥーサは自衛の力を強化するため、僕と桜の仮契約を希望していたが、僕は麻帆良世界で桜は聖杯世界にいたので接触する手段がないため、当然仮契約はできず、泣く泣くメドゥーサは諦めた。
バクティオー

ただ、世界移動が可能だとしても、『桜にサーヴァントクラスを貸し出すことに成功し、聖杯世界で英霊の力を使っていることがば

れたら、桜が封印指定されかないこと』が怖いから、僕は桜と仮契約するつもりはなかったけどね。

もっとも、桜が使えるアーティファクトがたくさんあれば便利なのは間違いないので、聖杯世界へ移動可能なメンバー全員と仮契約をすることになった。

僕以外の全員は聖杯世界の拠点で桜と共に一晚を過ごし、僕は一人寂しく麻帆良世界から世界扉で監視を続けた。

……どうしてこうなった？

悔しかったので、何とかして擬似的にでも聖杯世界へ移動する方法を検討し、メドゥーサ経由で聖杯世界に持って行った魔法人形を操作することで擬似的に聖杯世界で活動しようと思ったのだが、……できなかった。

僕はメドゥーサたちと念話で話したり、メドゥーサの五感情報を受け取るのが限界で、それ以外は不可能だった。

今までは結構アイデアと工夫でなんとかあったんだが、……やはり現実には越えられない壁があるんだなあ。

【聖杯世界】

2月14日（木） 十五日目

士郎とセイバー、ついでにランサーは衛宮邸で休んだ後、アインツベルン城へ向かった。

一方アーチャーの方は、遠坂凜を目的としてやってきた間桐慎二、そしてギルガメッシュを迎えていた。

そして、アーチャーは「期限（夜明け）がきたのなら、後は好き

にするがいい」と言っ、遠坂凜を間桐慎二に引き渡した。

これには女性陣に総スカンであり、みんな一気に機嫌が悪くなっ
てしまった。

こっちは、ギルガメッシュに世界扉の存在が気づかれないうか戦々
恐々としているのに、万が一間桐慎二が遠坂凜に手を出そうとした
ら、ギルガメッシュに構わず間桐慎二に攻撃さえしかけそうな雰囲気
がラインから伝わってきている。

……頼むから原作通り手を出さないでくれよ、慎二。

僕は間桐慎二に祈るしかなかった。

間桐慎二のことは気になりつつも、僕はアーチャーと衛宮士郎の
対峙を見守った。さらに、メドゥーサの視覚情報も受け取っている
ので、桜たちの様子も同時に把握している。

遠坂凜に対する彼の独白を聞いて、桜とそしてさよはとても悲し
そうな顔をしていた。

イリヤもまた、自分が殺そうとした義理の弟の末路を知り、複雑
そうな表情だった。

・ランサー vs 言峰綺礼&間桐慎二（ランサーの勝利？）

囚われの遠坂凜をランサーが救出に向かったところ、間桐慎二と
マスターである言峰綺礼と遭遇。

言峰綺礼に遠坂凜を殺すように命令されたがランサーは拒否。

そのため、令呪を使用して「自害しろ」とランサーに命令。

令呪による命令の為、ランサーは槍で自分の心臓を貫いて倒れた。

あまりの出来事に、このことを知らなかった（僕が教えていなか
った）桜とイリヤは驚きを隠せなかった。

遠坂凜に「裏でこそ手をまわしている」と言われた言峰綺礼だったが、……よく考えると僕の立場って、言峰綺礼に似ている？ 自分の存在を隠し、密かに力を蓄え、好き勝手に行動する男。……あゝ、嫌になるほど共通点が見つかるなあ。あつ、僕は人の苦しむところを見て楽しいと思うような趣味は、……悪党や僕の敵限定でしか持っていないよ。暴走するとああなりかねないと自覚して、言峰みたいにならないように気を付けよう、うん。

そして、言峰綺礼が自ら遠坂凜の心臓を引きずり出そうとしたその時、ランサーによって言峰綺礼は心臓を貫かれて死んだ。

間桐慎二は遠坂凜を襲おうとして、……ランサーによって右肩に槍を突き刺され追い払われた。

これにより、女性陣の機嫌は一気に良くなった。

誰も同情する奴など存在しない。

……桜ですら、「これぐらい当然です」という顔をしているのだから、嫌われ具合が半端じゃないな。

さすがに殺されていたら、悲しむか多少は同情した、と思いたいな。

あゝよかった。あいつが原作通り馬鹿な奴で。

一番ほっとしたのは、ギルガメッシュがいる時に自殺行為な介入をしなくてすんだ僕であることは言うまでもない。

ランサーが遠坂凜の拘束を解き、彼女が大広間に掛けて行った後、ランサーは火のルーンで自分を含めた部屋の全てを燃やし尽くそうとした。

ここで、僕たち（正確には僕以外のメンバー）は三度目の介入を開始した。

メドゥーサが聖杯世界へ移動し、問答無用でランサーへ魔力を供給、さらにイクシールも無理やり飲ませた。

部屋に火がついているので、ランサーを抱えさらに言峰綺礼の死体も引きずって、とりあえずアインツベルン城の裏手へ世界扉で移動した。

そこで、全員が合流し、さよとイリヤが二重の気配遮断の結界を張った。

聖杯世界へ移動できない僕は、世界扉を使ってギルガメッシュなどの敵が近づいてこないかの確認をしている。

メドゥーサも魔法と魔術を使って、何者かがこちらにこないか全方位を警戒している。

イクシールと供給された魔力のおかげでぎりぎりで消滅を避けられたランサーに対して、さよとイリヤが全力で回復魔法を掛けている。

その横でアスナはライダーの仲間であることと『バゼットが仮死状態だが生きていること』を説明し、証拠として現在のバゼットの写真を見せた。

「どういふつもりか知らねえが、消える前にバゼットの生存を教えてくださいがとうよ。

……で、俺に何の用だ？ 一体お前たちは何を企んでやる？」

「答えは簡単です。

あなたほどの英雄が、こんなところで消えてしまうのは惜しい、と私のマスターが考えたからです。

…… 一々伝言するのは面倒なので、マスターの言葉をそのまま伝

えます。

今後、私が男性口調で話したら、マスターの言葉だと考えて結構です」

「なんだ。お前さんのマスターも裏に隠れてこそこそ動くタイプだよ」

うわっ、ランサーは僕のことを言峰の同類と考えたらしい。

「いえ、本人はとも来たがっていたのですが、マスターにはどうしようもできない問題が発生してここに来れないのです。

……まあ、証拠が一切示せないのどう受けとるか自由ですが」メドゥーサもフォローはしてくれたが、証拠が示せないので説得力に欠けていたのは否めなかった。

「では、マスターの言葉をそのまま伝えます」

メドゥーサは、多少声色を低くすると、僕が念話で伝えた言葉をランサーに伝えてくれた。

「僕の目的は、クー・フリーンに僕のサーヴァントになってもらうこと、それだけだ。」

「へっ、バゼットの安否の情報を手土産にして、俺を助けることを対価にスカウトにきたわけか？」

「その通りだよ。」

ああ、バゼットさんとは敵対するつもりもないし、あなたがバゼットさんをサポートしたいっていうのならこちらで仕事がないときならOKだ。

……さすがにマスター権限をバゼットさんに譲るわけにはいかないけない」

「ほう、ずいぶん良心的なスカウトだな。

さっきまでのマスターとは大違いだ。

……バゼットに不義理を働かなくて済むのならそのスカウトに答えてもよかったんだが、……惜しかったな。

お前さんがくれた薬にこの回復魔法は相当強力だが、遅すぎたな。消滅までの時間を遅らせることはできて、消滅を止めることは、

……もう無理だぜ」

ちっ、原作展開を変えないため、凜が部屋から出るまで待っていたのが失敗だったか。

『そうだ、イリヤならどうだ？』

夜天の騎士になったとはいえ、聖杯スキルを持っているイリヤなら！

「それは無理ね。

いくら私でも、この状態のサーヴァントを蘇らせるのは無理よ。

……例え令呪を使ったとしても、ね」

「……そ、そんな、何とかならないんですか？

そうです。八神さんと仮契約……は無理でしたね。
バックデューパー

メドゥーサさん、何かできることはないですか？」

尋ねられたメドゥーサも黙って首を横に振った。

最期の希望を打ち砕かれ、さよは俯いてしまった。

それを見て、僕も悔しかった。

……そうだ！「夜天の書」の転生機能ならどうだ！

さっそくメドゥーサに「夜天の書」を試してもらったが、「容量オーバー」とメッセージが出て失敗。
サーヴァント

さすがの「夜天の書」も、英霊相手では容量が足りないらしい。

助ける手段が尽きたのを彼も悟ったのか、ランサーは僕たちに声をかけてきた。

「俺が助からないのは仕方ない。

……まあ、バゼットが生きていることを教えてたことには感謝するぜ。

ないとは思うが、この時代に再び俺が召喚されることがあれば、俺のできる範囲で手助けするからそれで勘弁してくれ」

ランサーの顔に後悔はなく、僕たちも諦めたその時

「駄目です！

待っている人がいるのに、勝手に死ぬなんて、そんなの絶対に駄

目です!!」

さよは叫ぶと同時に、一瞬で血文字によって仮契約の魔法陣を書き、止める間もなくランサーにキスして仮契約バクティオーを実行した。

そして、出現した仮契約カードを手に取ると、すぐにランサーに渡して命令した。

「ランサーさん、『来たれ』アテアットと言ってください」

「お、おう、来たれ」

ものすごいさよの気迫に押され、ランサーはさよの指示に従った。そこに現れたのは、種？

メドゥーサの目を通して解析すると、……っておい、世界樹の種ってマジか？

世界樹の加護があるさよも、見た瞬間に種の正体が分かったのか、それをランサーに渡して話し始めた。

「ランサーさん、この種は世界樹の種と言って、将来は『膨大な魔力を蓄えられる世界樹』に育ちます。

……もしかしたら、サーヴァントのような存在も宿することが可能になるかもしれません。

本来ならランサーさんが消滅するとこのアーティファクトも消滅しますが、……奇跡が起きればサーヴァントの持ち物でもこの世界に残ることもあります。

バゼットさんに対する想い、心残りなど、今ランサーさんが持っている全ての感情、可能なら魂も、全魔力と一緒にこの種に注ぎ込んでください。

うまくいけば、その種にランサーさんの魂や意識が、……全部は無理でも一部は残るかもしれません」

なるほど。「天地無用」で皇家の樹に津名魅つなみが憑依していたように、世界樹の種にランサーを憑依させようっていうわけか。

「天地無用」のアニメを見ていたからこそその発想だが、……そんなにつましくいくか？

「よく分からねえが、……どうせすぐに消滅する身だ。

俺を助けるために口づけまでしてくれた嬢ちゃんを信じて、俺の全力を注いでやるぜ」

ランサーの言葉に、キスしたことを思い出したのか、さよは真っ赤になった。

そんなさよには目もくれず、ランサーはルーン魔術まで使つと、握りしめた世界樹の種に全魔力を注ぎ始めた。

もちろん、今もランサーには回復魔法がかけ続けられ、イリヤも加わって膨大な魔力がランサーに注がれている。

ランサー経由で世界樹の種に魔力を注げば、さよの希望が叶うことを信じて、メドゥーサたちはこの行為を続けた。

「このまま俺の魔力はもちろん、俺の全ての力を注ぎ込む。現界を続けるのも、もう限界だしな。

……お嬢ちゃんの計画通りになるかは分からないが、俺のために尽力してくれたことは感謝してるぜ。

ああ、バゼットには『守ってやれなくて、すまなかった』と伝えておいてくれ。

じゃあな」

そう言つてランサーは消えて行つた。

そして、……ランサーの身体が消えた後には、世界樹の種が残っていた。

英霊エミヤの『凜のペンダント』やバーサーカーの『遺灰』が残ったように、ランサーも最後に奇跡を起こし、この世界に遺品を残せたようだ。

「よかった。

これで、ランサーさんが助かるかもしれません」

そう言つて、さよは優しく世界樹の種を手にとると、それをゆつくりと昂魔の宝珠の中に押し込んだ。

あゝ、なるほど、昂魔の宝珠は世界樹の端末。

当然、世界樹の種なら宝珠の中に入れることも可能ということか。

「天地無用」でいう、「皇家の樹を育てるユニット」代わりということか？

そんな機能まであるとは知らなかったな。

昂魔の宝珠に世界樹の種が格納された瞬間、昂魔の宝珠が一瞬光を放った。

そして、さよは何故か驚いた顔を見ると、昂魔の宝珠を手にとつて、何か調べ始めた。

「……あの、どういう理由かは分からないんですけど、珠からランサーさんのルーン魔術に関する知識が流れてきてます」

「きつとそれは、ランサーがさよに感謝して力を貸してくれてるのよ。」

よかつたじゃない。種にランサーの意識が一部でも残っているって証拠よ」

「そ、そうですね。」

よかつた。私のやったことは無駄じゃなかったんですね。

……あとは、この種が無事に芽を出すように、大切に育てます！」
そう言つてさよは目を閉じて、昂魔の宝珠（世界樹の種入り）をそつと胸に抱きしめた。

世界樹の種から芽が出れば、世界樹に残っていると思われるランサーの意識が覚醒するとさよは考えているのか？

そうなればベストだが、そううまくいくかどうか。

……ルーン魔術の知識は、『自分を最後まで助けようとしてくれたさよへのプレゼント』って可能性も0ではないからな。

まあ、そんな空気が読めない言葉は当然心の中にしまっておいたけど。

そんなさよの手を煩わせるのはやばなので、さよ以外のメンバーが少し離れた場所で言峰の頭部と両腕を回収し、それ以外の部分、

特に心臓は念入りに燃やした。

あんな奴でも墓を作らないと祟られそうなので、後で墓を作るため遺灰は回収して、メドゥーサたちは拠点へ撤退した。

……悠長に墓を作っていて、接近中のギルガメッシュに存在を気づかれて襲撃されたら大馬鹿だしな。

・衛宮士郎 vs アーチャー（衛宮士郎の勝利）

アーチャーの投影魔術を使った剣術に対し、衛宮士郎も投影魔術で対抗

切りあいの最中に憑依魔術のような現象が発生し、衛宮士郎はアーチャーの技術、記憶の一部を手に入れる。

最後は、衛宮士郎の剣がアーチャーの胸を貫いた。

・衛宮士郎&遠坂凜&アーチャー vs ギルガメッシュ

アーチャーが別れを告げていたところで、ギルガメッシュが衛宮士郎に対して攻撃をした。

が、アーチャーが身代わりとなり、衛宮士郎は助かる。

アーチャーの全身が複数の宝具に串刺しにされ、姿を消す。

遠坂凜が魔術で攻撃するが、ギルガメッシュには全く効果がなかった。

そしてギルガメッシュは遠坂凜を殺すとするが、セイバーがその一撃を防ぐ。

ギルガメッシュは、火事による煤で汚れるのを嫌がり撤退。

一緒に状況を確認していた桜は、二人とも無事だったことにほっとしていたが、アーチャーがギルガメッシュに殺されたと思いこみ、

また士郎が将来あれほど後悔することを知り、相当ショックを受けていた。

そこで僕は、メドゥーサに仲介してもらって下記のことを話して桜を慰めた。

・英霊エミヤは『衛宮士郎の未来の可能性の一つ』であること。
・この世界の衛宮士郎とは違う過去を辿ったらしいこと。
・未来は未確定だから、衛宮士郎から英霊エミヤの過去を聞いてみ
んなで『英霊エミヤがやったことで、正しいこと、間違っていたこ
と』を調査し、『多くの人に受け入れられる可能性が高くて、裏切
られる可能性が少ない方法』を検討し、より良い未来を目指せばい
いこと。

例：報酬を受け取らないことで不気味がられたのなら、『報酬は
きっちり受けとり、別名義で報酬をもらった人 or 組織に対し
て（報酬金額分）援助 or 融資する』など

上記のことを聞いて、桜も少しは元気を取り戻したが、それでも
まだまだ立ち直れないようだった。

まあ、『自分の憧れの先輩が、正義の味方として努力を続け結果
も出し続けたのに、最期は冤罪を押し付けられて絞首刑で死亡』な
んて聞いたんだから、無理もないか。

メドゥーサが桜を抱きしめて、色々とフォローやアドバイスをし
ているようなので、後のフォローはメドゥーサに任せるか。

ギルガメッシュはアインツベルン城から逃げる間桐慎二にイリヤ
の心臓を埋め込み、間桐慎二を醜い肉の塊の聖杯へと変貌させた。
そしてギルガメッシュはその聖杯を天の鎖^{エルキドゥ}で縛り上げて移動を開

始した。

さすがにこの光景は、桜には見せていない。

桜と桜を慰めているメドゥーサは別の部屋へ行き、残ったメンバーで見続けている。

あまりにもおぞましい光景に、さよは吐き気を感じているようだ。正直、僕も気持ち悪かった。

あれを見て平然としているギルガメッシュの感性が信じられないな。

それにしても、肉塊なのは間違いないが、どうも小さくないか？原作では、この時点で相当な大きさのように思えたのだが？気のせいかな？

そんな些細なことはともかく、イリヤはオリジナルの心臓をよりにもよって間桐慎二に埋め込み、あんな聖杯を作り出したことに怒り心頭の様子だった、

ここまでの流れを見る限り、僕たちがギルガメッシュに襲われ、ランサーの最期を看取ったことによる歴史の変化は、……なさそうだな。

多少は安心して、明日からの展開が見れそうだ。

2月15日（金） 十六日目

夜明け前に衛宮士郎、遠坂凜、そしてセイバーの3人は柳洞寺へ向けて出発した。

・セイバー vs アサシン（セイバーの勝利）

執念で現界を続けていたアサシンとセイバーの戦闘

アサシンの燕返しの際、長刀が曲がっていたが故に存在した僅かな隙を見出し、アサシンを倒す

さよは可能ならばアサシンも助けたかったようだが、残念ながら助けに行く前に消滅してしまった。

・遠坂凜&アーチャー vs 聖杯

遠坂凜は、肉塊の聖杯から間桐慎二を引き離し、脱出経路をアーチャーが作成して無事に生還。

即座にセイバーが^{エクスカリバー}約束された勝利の剣の真名開放で聖杯を消滅させた。

・衛宮士郎（&アーチャー） vs ギルガメッシュ（衛宮士郎の勝利）

ギルガメッシュが持つ宝具の原典の攻撃に対し、衛宮士郎は投影が追いつかず、エアの一撃を喰らってしまう。

アーチャーの熾天覆^{ロー・アイアス}う七つの円環の援護もあり、固有結界「無限の剣製」を展開。

武器の召喚速度を上回るが故に、ギルガメッシュより有利に立ち、エアを取るうとした腕を干将・莫耶で切断する。

次の瞬間、ギルガメッシュが孔に飲み込まれ、ギルガメッシュが孔から脱出しようと、衛宮士郎に天の鎖^{エルキドゥ}を巻きつける。

衛宮士郎も孔に落ちかけたが、アーチャーの一撃がギルガメッシュに止めを刺し、助かる。

夜明けの中、アーチャーと凜の別れ。

皆も最後のシーンは生で見たいだろうと考え、僕の提案でメドウ

ーサたちは二人の視界に入らない位置に世界扉を接続し、魔法で声が聞こえるようにして二人の別れを見守った。

二人は最後だからこそか、本当に遠慮のない言葉を交わしていた。そして、アーチャーは、まるで衛宮士郎のような曇りのない笑顔を見せて消えていった。

それを見て、桜はほっとし、イリヤはかなり複雑そうだった。

そうそう、セイバーは幸いにも消滅しなかった。

この世界は、凜ルートのセイバー生存のグッドエンドルートだったらしい。

正直、僕の介入でどこまで展開が狂ってしまうか心配だったけど、ハッピーエンドで終わって何よりだ。

一方、聖杯戦争の裏で暗躍した僕が得た利益はというと、

- ・イリヤの従者化&夜天の騎士化
- ・桜救出成功&遠坂桜（5歳児）化
- ・ランサーの復活フラグ？
- ・世界樹の種を取得
- ・さよがルーン魔術の知識を取得
- ・令呪（残り15画）を取得（言峰の腕↓メドゥーサの腕↓僕の腕、とさよが順番に移植）

ってところか。

人助けもできたし、メドゥーサの願いも叶ったし、めでたしめでたしってところだな。

可能なら、ランサーやアサシンを従者にしたかったけど、……ま

あこれ以上贅沢言ったらきりがないな。

ランサーが世界樹の種とルーン魔術の知識を残してくれただけでも感謝しないと。

それに、セイバーとの戦いに満足して消えて行ったアサシンを引き留めるのは野暮だしな。

『士郎たちが朝食をとり終わった後』に、桜とメドゥーサの二人で衛宮邸へ訪問することを決めてからひと眠りすることになった。

こうして僕たちの第五次聖杯戦争への介入は、なんとか無事に終わらせることができたのだった。

第12話 聖杯戦争終結（小学2年生 聖杯世界2月13日）（後書き）

本日（2011・8・23）、20万PVを達成しました。
どうもありがとうございます。

「アーティファクト一覧」にも書きましたが、桜との仮契約バクテイオーによるアーティファクトのアイデアを募集しています。
アイデアがありましたら、ぜひお知らせください。

【更新履歴】

2011・08・23 さよが「ルーン魔術」を使えるようになる
設定を外しました。

2011・09・05 『聖杯世界への移動は実体を持たないサー
ヴァントのような存在のみ可能』という設定に変更しました。

【備考】

間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

能力：黒い聖杯↓消滅

技術：魔術

吸収

使役

備考：「時の天秤」で肉体年齢5歳に若返り、「遠坂桜」の体質に戻る

1996年7月21日（聖杯世界 2月13日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月21日（聖杯世界 2月13日）のメモ

1. 間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

能力：黒い聖杯↓消滅

技術：魔術

吸収

使役

備考：「時の天秤」で肉体年齢5歳に若返り、「遠坂桜」の体質に戻る

2. 投影可能な宝具（ランクは投影宝具のもの）

（1）追加された投影可能な宝具

・熾天覆う七つの円環
ロー・アイアス
ランクB+

・突き穿つ死翔の槍
ゲイ・ボルグ
ランクB

・赤原獵犬
フルンディング
ランクC

・固有結界「無限の剣製」内の全武具
ランクE→A+

（2）既に投影可能な宝具

・蛇刈る刺突剣
ハルペー
ランクC

・蒼鏡の盾
アイギス
ランクD

・翻転響界
キビシス
ランクD

・刺し穿つ死棘の槍	ゲイ・ボルグ	ランクC
・干将・莫耶	カラドボルグ	ランクC -
・偽・螺旋剣2	エクスカリバー	ランクA
・約束された勝利の剣	ゲイト・オブ・バヒロン	ランクA +
・王の財宝	ゲイ・ジャルグ	ランクE
・破魔の紅薔薇	ゲイ・ボウ	ランクC
・必滅の黄薔薇	アロンダイト	ランクC
・無毀なる湖光	エルキドゥ	ランクA +
・天の鎖		ランクA
・英雄王の鎧（ギルガメッシュの黄金の鎧）		ランクB
・宝具の原典（武具限定、無数）		ランクE〜A

注 上記のランクは投影宝具のランク。盾や鎧は剣投影の2〜3倍の魔力を使えば投影できる。

3・令呪

回収しといった言峰の腕から、令呪（15画もあつた）をまずはメドゥーサの腕に移植し、メドゥーサが麻帆良世界に戻ってから僕の腕に移植しようと思ったが、さすがに目立つ。

コピーした能力じゃないから、隠すことができないしな。

さよに、令呪の魔力と存在を隠す魔法具「令呪封じ」を作ってもらうことで解決することができたので、メドゥーサに頼んで全令呪の移植を頼み、聖杯世界の拠点に置いてある言峰の腕は骨まで完全に燃やして遺灰に追加しといた。

もちろん、遺灰は拠点の嚴重な結界の中に保管し、ハマノツルギで魔法無効化を実施済みである。

4・間桐臓硯と言峰綺礼

自我を破壊した間桐臓硯の本体の蟲と、言峰綺礼の頭は拠点に回収済み。

メドゥーサの魔術によって二人の脳から記憶を読み込み、僕にも見せてもらう。

これにより、この2名から見た第4次聖杯戦争の映像も追加され、より多視点の場面が増えた。

また、原作のバッドエンドルートの一つにおいて、キャスターが衛宮士郎を『投影用の生体魔杖』として改造したように、メドゥーサに間桐臓硯を『マキリの魔術の情報提供用魔杖』として改造してもらい、これによりマキリの業の情報を手に入れることが可能になった。

もちろん、麻帆良世界には持ってこれないので、実質、イリヤとメドゥーサの二人用となっている。

イリヤとしては、聖杯を作り上げた一人の知識ということで、アインツベルンとは守備範囲は違うが、一部とはいえ情報を受け取り理解しているらしい。

まあ、イリヤにとって利益になるのなら全く問題はない。

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生
 種族：人間
 外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）
 能力：能力解析
 能力複製（対象固定）
 能力設定
 令呪（残り15画）NEW
 技術：魔術（強化、投影）
 剣術
 槍術
 弓術
 操糸術
 瞬動術（虚空瞬動も可能）
 西洋魔法（風、影、回復）
 能力（複製）（使用中）：
 サーヴァント
 能力使用による心身への悪影響の無効化
 能力（複製）（選択可能）：
 令呪（残り0画）
 サーヴァント
 能力使用による心身への悪影響の無効化
 能力（複製）（サーヴァント）：
 ランサー
 ライダー
 バーサーカー（理性を失うため使用不可）
 アサシン
 アヴェンジャー
 気：回復可能、使用可能
 魔力：回復可能、使用可能
 ゲート・オブ・バビロン
 所持：王の財宝（倉庫）
 ：E/A+（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）
ルールブレイカー
破戒すべき全ての符（対魔術＆魔法）
：D（小物サイズの
投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

ク
ト
アロンドライト
無敵なる湖光（パラメータ向上）
：A+（投影宝具）
エクスカリバー
約束された勝利の剣（最強）
：A+（投影宝具）
干将・莫耶（対魔力＆対物理向上）
：C-（投影宝具）
干将・莫耶オーバーエッジ
：B（投影宝具）
ハルベ
蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）
ハマノツルギ（魔法無効化）
：投影アーティファ

ク
ト
ホ・ヘーロース
千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
：投影アーティファ

ク
ト
ミステルテイン
世界樹の宿木の剣（対神＆対不死）
：投影アーティファ

ク
ト
妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）
ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍（対軍）
：B（投影宝具）
ゲイ・ジャルグ
破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）
ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

杖

ヘルメスの杖
：投影アーティファ

ク
ト

鎖

エルキドゥ
天の鎖（拘束＆対神）
：A（投影宝具）

弓矢

アルテミスの弓矢
：投影アーティファ

クト

カ
ラ
ド
ボ
ル
グ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：A（投影宝具）

フルンディング
赤原獵犬

：C（投影宝具）N

EW

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環

：B+（投影宝具）

NEW

鎧

英雄王の鎧のパーツ

：B（投影宝具）

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス

ライダー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 C

魔力 B

耐久 D

幸運 A

敏捷 C

宝具 A+

クラス別能力

【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

宝具

【魔眼】：A+

【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考

ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D-

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ）

B)

【自己封印・暗黒神殿】：D-（ライダークラスのみ）

み（こ）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B (A) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : A +

保有スキル 【魔眼】 : A +

【怪力】 : B

【神性】 : E -

【無窮の武錬】 : A

【直感】 : B

宝具 【騎英の手綱】 : A +

【自己封印・暗黒神殿】 : C -

【十二の試練】 : C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前 : 相坂さよ

性別 : 女

職業 : 小学生

種族 : サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル

【気配遮断】：A +

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

宝具

【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3 . アスナ

<パラメータ>

名前：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー
蛇刈る刺突剣

ミステルテイン
世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 B (A) 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】 : A

【騎乗】 : A

保有スキル 【魔法無効化】 : A

【咸卦法】 : A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの○は、【咸卦法】使用時のステータ

ス

【夜の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操系術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マキア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【被保護者】

1・間桐桜 NEW

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：16歳↓5歳（普段は16歳に変身）

能力：黒い聖杯↓消滅

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：魔術

吸収

使役

備考：「時の天秤」で肉体年齢5歳に若返り、「遠坂桜」の体質に戻る

第13話 衛宮士郎の魔改造（小学2年生 聖杯世界2月16日）

【聖杯世界】

聖杯世界 2月16日（土） 聖杯戦争終了一日後

麻帆良世界で朝起きた僕は、「衛宮士郎が起きて道場でセイバーを見つけ、遠坂凜とラブコメドラマをする」のを一人で見た後、聖杯世界にいるメドゥーサへ念話で連絡して、そろそろ衛宮邸へ行くことを提案した。

今日は、まず桜とメドゥーサで、士郎たちに説明に行ってもらうことになっている。

もちろん、早めに事情を説明することで、将来彼らとの間にトラブルが発生するのを避けるためである。

事態が収拾する前に、なし崩し的に認めさせようという考えもあるのは否定しない。

イリヤは、（この世界では）士郎たちとの接触は戦闘だけであり、さらに自分はコピーだから士郎たちに会うつもりはないとのこと。「コピーをどうやって作ったか、とか話すことになったら間違いなく面倒なことになるから存在を知らせない方が都合いいわ。それにバーサーカーも、セラとリズも死んじやったしね」そう言ったとき、イリヤは寂しげな表情だった。

オリジナルの人間関係とはいえ、今までの人生で親しくしていた人が全員死んでしまったのだから当然ではあるが。

そんな孤独の辛さをわかっているさよとアスナが、イリヤを慰めていた。

キャサリンもエヴァの記憶と本人の経験で孤独の辛さを知っているはずだが、まあ慰めるよりも挑発して元気づける性格か。

まずは、メドゥーサとさよとキャサリンが慎二が入院している病院へ侵入した。

そして有無を言わず慎二に対して、『さよが魔法を使って治療をする対価』として、『桜を解放し、今後一切干渉せず、暴力を振るわないことの約束』に成功した。

鞭として『約束を破った場合、メドゥーサが作った永遠の夢の中で、精神崩壊一步手前の恐怖をずっと感じることになる』とキャサリンが説明し、横でメドゥーサがものすごいプレッシャーをかけて慎二を脅したので、慎二はすごい勢いで顔を上下に振り、快く同意してくれた。

まあ、うちのメンバーの最凶の二人でもあるからな。
慎二程度が太刀打ちできる相手でないことは言うまでもない。

そしてさらなる飴として、

「自分の意志ではなかったとはいえお前は聖杯となった。

その結果、お前が持っていた魔術回路は全て開いた。

ぼろぼろになった体も、さよのおかげでほぼ治った。

さらに間桐臓硯も死んだから、お前は自由だ。

間桐家に残っている魔術書を元にして、聖杯戦争すら構築したマキリの魔術を習得し、さらに新しい間桐の魔術を作っていけばいい。今までお前は魔術回路が開いていなかっただけで、マキリの魔術の全知識を独学で習得済みの天才なんだろう？」

とキャサリンに思いつきり挑発してもらったと、

「当然だ。桜なんていなくても、僕が間桐家を立て直して『間桐家の中興の祖』と呼ばれるぐらいの偉業を成し遂げてやるさ」と元氣よく宣言した。

どうも本気でそう思い込んでいるらしく、キャサリンたちが引くくらいのやる気が満ち溢れていた。

予想していたが、実にコントロールしやすい。

これで慎二が桜に対して害を与える可能性は、最小限になっただろう。

懲りないようなら地獄を見せるだけだし。

このまま正しい道で成長すれば、……もしかしてロード・エルメロイ？世みたいになるのか？

……いつか彼らを会わせてみるのも面白いかもしれないな。

ケイネスにとってみれば、昔の自分を見ているようで嫌な顔をするかもしれないけど。

ちなみに、僕の代弁者としてキャサリンが立候補して、僕を含めた皆が承認したので、今後はキャサリンが僕の念話からの情報提供を元に聖杯世界の人と交渉することになっている。

他には、無口なメドゥーサとアスナ、気が弱いさよ、しかないからキャサリンしか適当な代弁者はいないが、弁も立つし、迫力もあるし、コピーとはいえ600年分の経験もあるから、まさに適役である。

一度拠点に戻って慎二の治療を終えてきたことを桜たちに説明し、今度は桜とメドゥーサとキャサリンの3人が衛宮邸へ出発。

世界扉で覗いたところ、どうやら朝食も終え、今は居間でのんびりしている状態らしい。

メドゥーサは離れていてもらって、まずは桜とキャサリンで訪問してもらおう。

……聖杯世界に移動できないからしょうがないけど、世界扉で見てただけじゃなくて僕が話したかったよなあ。

見るだけ、って本当に面白さが半減する。

……特に仲間は接触できるのに僕だけできない、っていうのは特に。

衛宮邸に入ると初対面のキャサリンがいるから当然かもしれないが、妙に凜が警戒しているような気がする。

……それも、キャサリンだけじゃなくて、桜に対しても。

キャサリンはサーヴァントでもないし、吸血鬼でもないから、怪しまれることはないはずだよな。

「おはようございます、先輩、遠坂先輩、セイバー。」

この人は、キャサリンさんと言います。

私の恩人で、今日は私の報告と彼からの話があったので伺いました」

「初めまして、私の名はキャサリンだ。

今日は桜のことについて話したいことがあって来た。

お前たちにとっても利益のある話だと保証しよう。

どうだ？ 時間を少しばかり融通してくれないか？」

今は20歳ぐらいの姿を取っているキャサリンは、貫録たつぷり、かつかなり偉そうに凜たちに言葉を投げかけた。

「桜の恩人なら歓迎だ。

どうぞ、あがってくれ」

士郎は怒ることなく、キャサリンの言葉を全く疑うことなくキャサリンを家に上がらせた。

もちろん、凜とセイバーは少々、いやかなりキャサリンを警戒しているようだった。

キャサリンのことを紹介し、凜たちが自己紹介をした後、いきな

り桜は話を切り出した。

「いきなりですいませんが、私から話をさせてもらいます。

まず、聖杯御三家の間桐家としての報告です。

昨日、当主である間桐臓硯が死亡しました。

これにより、間桐家の家督は、正式に兄である間桐慎二が引き継ぐことになりました」

いきなりの宣言に凜も驚きを隠せず、桜の口から聖杯御三家という予想外の言葉が出てきたことに土郎は動揺を隠しきれなかった。

「次なんですが、……先輩、ごめんなさい。

私は先輩が魔術師であることを知っていました。そして、お爺様の命令で先輩を監視していたんです」

耐え切れず、俯きかげんで話した桜だったが、どこまでお人よしな土郎はすぐに桜を慰めた。

「別に気にしないよ。悪いのは命令した桜のお爺さんであって、桜じゃないだろう？」

「それだけじゃありません。間桐家の後継者が兄さんなのは間違いないんですけど、マキリの魔術を学んでいたのは私なんです。

今回の聖杯戦争でも、お爺様に命令されてライダーを召喚しました」

さすがにその発言には、凜が黙っていられなかった。

「ちよつと待って！　ライダーは慎二が！！」

「はい、私が聖杯戦争に参加したくないと考えていたのを知っていたお爺様は、私にライダーを召喚させた後、令呪でマスターの権限をお兄様に譲らせたんです」

「……そっか、それがあの本ってわけね」

「その通りです。

兄さんが持っていた本は偽臣の書と言うんですが、令呪を使ってマスターとしての権利を兄さんに委譲した証なんです。

そして、それを持つ者がライダーを制御できるんです。

……でも、まさかお兄様がライダーに命じて、学校にいる全員を殺そうとするなんて、思ってもいなかったんです、本当です」

桜の告白に、土郎は言葉を出せず、凜は冷静に桜を促した。

「さて、桜。貴女の告白はそれで全部かしら？」

「いえ、まだあります。

これはキャサリンさんにも関わる話なのですが、……これから私はライダーを呼びます。

先輩たちに敵対するつもりはなく、ただ紹介するだけです。

だから、そんなことは絶対にありえませんがライダーに攻撃されない限り、攻撃したりしないでくださいね」

そう言つて、桜は仮契約カードでメドゥーサを召喚した。
バックティオー

桜がいきなりメドゥーサを召喚したため、凜と土郎は反応できなかったが、さすがにセイバーが即座に前に出て二人の盾になった。

「馬鹿な。お前は確かに死んだはずだ！」

「ええ、私は学園でキャスターのマスターである葛木に不意打ちで殺されました。

それは間違いありません」

「では、なぜだ!？」

一触即発と言った状態であつたが、さすがに百戦錬磨の（エヴァのコピーである）キャサリン。

全く気にせずに発言していった。

「そこから先は私が説明しよう。

すでに気づいていると思うが、私は使い魔だ。

格は桁違いに劣るが、サーヴァントと同じく魔力で体を構築している。

そして、その私のマスターだが、当然魔術師の端くれでな。

マスターは聖杯戦争に参加するつもりはなかったが、サーヴァントには興味津々だったわけだ。

なにせ、『何でも願いを叶える聖杯』の信憑性は怪しいものが、

サーヴァントが召喚されていることはしっかりと確認されているからな。

で、無謀にもマスターはサーヴァントを従者として従えたいと考えたわけだ」

「なるほど、聖杯じゃなくてサーヴァントに興味を持つ魔術師か。

聖杯には興味が無くても、サーヴァントに興味があつて聖杯戦争に関わる魔術師もいるんだ」

「士郎、今さら何を言っているのよ。

……確かにサーヴァントは聖杯を手に入れる為の手段だけど、サーヴァントは本物の英霊を召喚しているのよ。

それに、英霊を召喚すること自体、本来ならあり得ない奇跡なのよ。

だから、今回の聖杯戦争にはいなかったけど、英霊を従者にするためだけに聖杯戦争に参加した魔術師がいてもおかしくないわ」

「私のマスターは、まさにそのタイプの魔術師なわけだ。

で、そんなマスターが、聖杯戦争開始前に聖杯戦争の数パターンの未来を見ることができてな」

キャサリンがそう言った瞬間、凜、士郎、セイバーの3人とも顔色を変えてキャサリンを凝視した。

……キャサリンは嘘は言っていないぞ。

聖杯戦争前にFateというゲームで聖杯戦争の数パターンの未来（結末）を知ったのは紛れもない事実だしな。

それに聖杯戦争終了後にIFの結果を知るのは第二魔法に属するのはずだから、魔法には当たらない、と思う。

「で、お調子者のくせに妙に臆病者の面があるマスターは、未来の何パターンかを見た程度では聖杯戦争を勝つどころか、生き残ることも難しいと判断して参戦を諦めたわけだ。

……もつとも、諦めが悪くて魔術具とかを使ってずっと聖杯戦争を監視していたがな」

……ずいぶんな言われようだ。

確かにお調子者の面もあるし、過剰なまでに戦力を整えて暗躍を目指しているが、後者に関しては一番そのほうが生存確率が高いからそういうふうに行動しているだけだぞ。

「で、奇跡と言っていていいと思うが、マスターは聖杯戦争の途中で令呪を手に入れることができた」

それを聞くと、3人とも驚きを隠せなかったが、その話が本当か疑ってモいるようだった。

令呪を手に入れたのは、麻帆良世界で聖杯戦争を見る前だし、僕
の能力によるコピーによる入手だが嘘は言っていないぞ。

「令呪を手に入れたのなら、すでにサーヴァントが7人召喚済みである以上、聖杯戦争を監視して、主を失ったはぐれサーヴァントと交渉して契約する、のが常道だな。」

臆病者のマスターはその手段を最後の手段と考え、まずは駄目元でサーヴァント召喚の儀式を試したわけだ」

「そんなことしても、7人召喚済みだから無駄のはず、……ってまさか？」

「そのとおりだ。そのまさかが起きて、ライダーの再召喚というありえないことが起きた。」

マスターは一か八かの賭けに勝ったわけだ」

そこまで聞いた3人はライダーの方を向き、ライダーは静かに頷いた。

「奇跡を起こすことに成功したマスターは、この奇跡を可能な限り長続きさせるため、ライダー自身の希望を尋ねた。」

もちろん、可能な限りライダーの希望を叶え、ライダーが望んで自分の従者になってくれるようにするためだな。

そして、両者は合意に達して、『ライダーの願いを叶える対価として、ライダーが自分の意志でマスターの従者になる』という契約を交わした。

今日、私たちがここに来たのは、聖杯戦争が終わった以上、今後

のトラブルを避けるためにもできるだけ早く事情を説明し、お前たちと協定を結びたいとマスターが考えたからだ」

「待つて。聖杯戦争を観察していたと言ったわね。それはつまり」

「ああ、大体のことは見ていたぞ。」

……セイバーやアーチャーの真名を知った時、そして固有結界を見たときには私も驚いたがな」

そう言つて、キャサリンは含み笑いをした。

「……まさか、かの有名な騎士王が戦う姿を直に見るだけでなく、こうして話すことができるとはな。」

いやいや、約束の半分でも守ってくれれば十分だと考えていたが、ここまで素晴らしく、かつ予想以上の体験ができるとは。

マスターの従者になったかがあるというものだ」

キャサリンは全っ然僕のことを信用してなかったのな。

……まあ、満足してくれて何よりである。

キャサリンが、真名と固有結界を言葉にした瞬間、セイバーと凜から強烈な殺意がキャサリンに向けられた。

世界扉を通してみているだけの僕も、強烈な殺氣に一瞬呼吸が止まったぐらいだ。

それだけでなく、気が付いたらセイバーがキャサリンの目の前にいて、片腕を突き出している。

この体勢からすると、……っておい、見えない剣がキャサリンの首に突きつけられていないか？

凜の方を見ると、こちらもガンドをいつでも撃てる体制になっている。

士郎と桜は一瞬の状況の変化に対応できずあたふたと慌てている。待て待て、警戒されるのは予想していたが、なぜここまでされなきゃいけないんだ？

……もしかして脅迫に来たとも思われたか？

それに思い至った僕は、慌てて誤解を解くようにキャサリンに念話で伝えたが、キャサリンはそんなのはどこ吹く風という感じで言

葉を続けた。

さすがは、600年生きた吸血鬼のコピー。肝の太さは半端じゃない。

交渉役を任せて正解だったな。

「……安心しろ。私も私のマスターも今言った情報を使って脅迫しようなどとは考えていない。」

わかりやすく言えば、どちらかが裏切らない限り、今後双方に利益のある関係を作りたい、といったところだな」

「信用できません。私の真名はともかく、固有結界の存在は公開されるとシロウが破滅するレベルの秘密だと聞いています。」

それほどの切り札を、たかだか我々との今後の良好な関係の構築程度で使うとは思えない。」

「ふん、その意見には私も同感だな。だが、私のマスターの意見は違うようだ。」

何せ、最強にして一番頼りにしている切り札であるライダーは元マスターである間桐桜を幸せにしたいと考えているし、桜の願いはお前たちの幸せだからな。

お前たちを脅迫することも考えただろうが、それを実行すると、桜が悲しみ、結果としてライダーの希望に反する結果、つまり契約違反となり、ライダーがマスターに反抗する恐れが高くなるからな。マスターはそうなることを恐れている、それだけのことだ」

「……なるほど、貴女の言っていることが事実なら、貴女のマスターがライダーとの良好な関係を保とうとする限り、そしてライダーが桜を大切に思っている限り、私たちを脅迫できないというわけね」

「その通りだ。納得したか？」

「一応筋が通っていることは認めるわ。」

桜がライダーを信頼しているのは事実みたいだしね。」

そう言って凜はガンド撃ちの体勢を解いた。

それを見て、セイバーもしぶしぶ剣を引いた。

……ふう、戦闘勃発にならなくて何よりだ。

「そういえば、なんでライダーが小さくなってるのかしら？」

一瞬とはいえ、凜が見たライダーの身長は170cmぐらい。今は145m。

一目でわかるほど小さくなったのだから不思議がるのは当然だろう。

ちなみに、それを聞いてメドゥーサは密かに嬉しがっていたのが僕にはわかった。

「ふん、情けない話だ。」

マスターがライダーを召喚して魔力が空っぽになり、次の日に起きたらこの状態だったらしいな。

『現界する魔力すら不足していることに気づいたライダーの無意識というか本能が、少しでも消滅を遅らせるため魔力消費量を減らそうとした結果』だとマスターは予想しているが、まあ、その通りだろうな。

慌てて、ライダーの魔力を別の手段で回復させてこれ以上小さくなるのは防いだらしいが」

ちなみに、幻覚魔術や時の天秤を使えばすぐにもライダーを元の姿に戻せるが、本人の希望によりずっとそのままである。

まあ、凜たちを油断させるという意味でも有効だったので、特に異論はなかったけど。

「へー、面白い現象ね。」

セイバーも同じ状況になったら同じことが起きるのかしら？

「困ります、凜。ただでさえ、この体は小柄なのです。」

魔力消費量が減るとしても、これ以上小柄になるのは困ります」

「冗談よ。それに、ライダーがこうなったからって、セイバーにも同じことが起きるなんて保証はないし、万が一にもセイバーが消滅したら困るしね」

「冗談が過ぎますよ、凜」

凜のたちの悪い冗談に、セイバーはむくれていた。

確かに、霊体化できないセイバーは若返らず消滅してしまう可能性が高そうだな

「……で、貴女の話ってそれだけかしら？」

「まさか、これからが本題だぞ。」

マスターの方針である共存共栄を前提として、マスターが持つ『第五次聖杯戦争を見て得た情報』、『第四次聖杯戦争を調べて知った情報』、『第五次聖杯戦争開始前に見た未来情報』を元に、お前たちに莫大な利益となる情報を提供するそうだ。

その対価として、セイバーにアルバイトを依頼したいらしいな」

「……貴女のマスター、正気？」

凜の言葉は、危険な響きを帯びていた。

「一応正気だぞ。考えることが桁外れすぎるが。」

……いくら重要な情報を提供するとはいえ、対価として騎士王の派遣を依頼するとは、我がマスターながら本気で命知らずだと思うぞ」

「全くね。その意見には同感だわ」

あれっ？

キャサリンと凜の二人に思いつきり呆れられているぞ？

そこまで無謀な対価を依頼したのだろうか？

「まあ、マスターの頭の中についての考察はともかく、セイバーに依頼したい内容は、私たちの戦闘訓練と、セイバーの承諾があれば強敵との戦いで手伝ってもらいたいらしいな。」

依頼のたびに、セイバーの仕事内容について説明して、セイバーの承諾があつた場合のみ依頼を受けてもらう形にするらしい。

一応、アルバイトの途中でも、対価以上の労働や契約違反だとセイバーが判断したら、いつでも仕事を放棄することを許すらしいな。正当防衛としての攻撃もほぼ全面的に認めるらしいぞ。

仕事の時間もセイバーの希望に沿ったものにするが、平日の朝から夕方ぐらいを考えているらしい」

ここまで一息に説明すると、呆れたように言葉を続けた。

「で、マスターが言うには、情報は先に提供するから、対価の支払い時期は『情報の価値を調査し確認した後』、かつ『私たちが信頼できると判断してからでいい』とのことだ。

……全く、大物なのか、馬鹿なのか。私は両方だと思っているがな。

そうそう、どうしてもセイバーのアルバイトが許可できないなら、別の方法での対価もOKとのことだ。

マスターからの提案はこの通りだが、とりあえず情報を聞くつもりはあるか？」

「あら、こつちにずいぶん都合のいい条件だけど、踏み倒されるとは思わないのかしら？」

「ふん、それについてはマスターは随分お前たちを信用しているらしくてな。

正当な交渉ならライダーと桜は中立の立場になるだろうし、誇り高い遠坂とセイバー、それに誠実な衛宮が正当な交渉を踏み倒すとは思っていないらしい。

……まあ、私もかの有名な騎士王が、敵でもなく、交渉を申し出てきた相手に、意味もなく契約を破るような真似はしなないと思っているがな」

「ふん、こつちの性格はお見通しってわけね。

……いいわ、聞いてあげるからその『利益となる情報』とやらを話してみなさい。」

「それでは、始めるぞ。

ああ、言い忘れていたが、マスターは私やメドゥーサのラインを通じてリアルタイムでこの会話を聞いている。

私の言うことは、マスターの言うことだと考えてもらっていいぞ」

くつくつく、そっちは聖杯戦争が終わったばかりでこれからどうするか考えるので手一杯だろうが、こっちはFateというゲームに出会ってからすでに5年。

原作知識、Fateファンによる集合知の魔改造プラン、そして僕自身が考えたネタをたくさん集めてある。

僕自身が二次創作作家を目指していたこともあって、色々ネタは考えてあるのだ。

その全てを（キャサリンから）聞いて慄くがいい。

それでは、ここから僕のターンだ。

1・セイバーの大幅強化&衛宮パーティの治癒力アップ

「聖杯戦争においてセイバーを召喚した縁の品は『生前に失った強力な治癒能力を持つ鞘』らしいな。

それは、第四次聖杯戦争に巻き込まれて死にかけた衛宮士郎を助けるために、そいつの体に融合したらしい。

そう考えると、バーサーカー戦において衛宮の致命傷があったという間に治った理由が納得できるしな。

衛宮、セイバーの宝具の鞘が自分の体内にあると認識したうえで、自分の体内を解析して探してみる」

「ちよつと待ってくれ、今やってみる。

トレス・オン
「解析開始」

士郎は目を瞑ったまま精神集中して、何かを探しているようだった。

「確かに、すごい魔力の塊が俺の体の中にある。

……でも、うまく形をとらえることができない。」

「セイバー、お前の出番だ。衛宮の胸に手を触れて、鞘に魔力を送り込め、それでうまくいくはずだ。」

……鞘の形状を強くイメージしながらすると成功しやすいぞ」

「……わかりました。シロウ、いいですか？」

「ちよつと。少しは疑いなさいよ！」

士郎だけならともかくセイバーまで……！」

「大丈夫ですよ、リン。私の直感でも悪い予感はありませんし、彼女の言葉に嘘も害意も感じられません。」

……隠していることはあるようですが」

そのままセイバーが魔力を送り込むと、

「おお、これが、よし」

「おつと、士郎。気を付けよう。」

まずは体内の鞘を具現化して取り出すのではなく、鞘を詳細に解析して同じものを投影してみる」

「わかった、トレス・オン投影開始」

アヴァロン

次の瞬間、士郎の前に全て遠き理想郷が現れた。

アヴァロン

それは、まさしく原作で見た全て遠き理想郷そのものだった。

「凄い、……見事ですシロウ！」

こんな完全な姿の投影など、私ですらオリジナルと区別がつかみせん……！」

アヴァロン

セイバーは感動して、全て遠き理想郷を抱きしめていた。

凜もこの結果を見て、やっとキャサリンを少しは信用してくれたみたいだ。

「衛宮、体内に鞘は残ったままか？」

「……ああ、そのままだ。セイバーが持っているものは俺が投影したものだ。」

……ずっと俺の中にあつたからな、もう俺にとっても半身みたいなものだ」

「そうか。……今セイバーの魔力を鞘に注いでもらったが、何か変化はあつたか？」

「……すごいな。傷が全部治ってる。体が全く痛くない」

「ふん、なるほどな。」

セイバーが魔力を注げば治癒能力を発揮するわけか、……追加で鞘を3つ投影できるか？

「掌サイズに縮小して、だ」

「試したことないけど、……ただ縮小するだけなら難しくないと思う。
トレス・オン投影開始」

さすが主人公。いともあっさりと縮小版投影を成功させた。

「で、これをお前たちが持ってみろ」

「何のつもりって、ええ！？ 嘘！！」

「どうしたんですか？ 遠坂先輩」

「傷が完治して、しかも体力が回復したのよ、それも一瞬で。……」

まさか、これって？」

「マスターの予想通り、か。」

衛宮がセイバーの魔力を注がれた鞘で回復したように、遠坂もライン経由で鞘とセイバーが繋がって回復能力を発揮したのだろうよ。高い確率で、桜が持っている鞘でも同じことが起きるだろう。

……セイバーは失っていた宝具を投影品とはいえ取り戻し、お前たちは副作用なしで吸血鬼並みの回復力を手に入れた。

それに、セイバーはその小型の鞘を傷ついた人に触れさせて魔力を注ぎ込めば、どんな致命傷でも死んでいない限り完治させられるだろうな。

どうだ？ これで、セイバーがいる限り、人間の夢である不死身になり近い体を手に入れたわけだ。

「これでも情報の有益さを疑うか？」

キャサリンはそう言って、意地の悪い笑顔を見せた。

完璧にいじめっ子の雰囲気を漂わせている。

「く、くやしい。……けど、すごく私たちにとって価値のある情報なのは否定できないわ」

「ああ、俺がずっとセイバーの宝具に守られていたなんて教えてもらわなければ気づかなかった。」

本当に感謝している。」

「私からも、心から感謝します」

「マスターはきちんと対価をもらうつもりだから、別に気にしないと思うぞ。」

……そうそう、マスターからの伝言だ。

衛宮、お前はセイバーに本物の宝具を返したいと思っているだろうが、それを取り出すと衛宮の回復力のみならず、それ以外の能力も弱体化する可能性がある。

セイバーの希望もあるだろうが、セイバーがすぐに返してもらうことを望まないなら、返すのは自分の死を悟った時にしたらどうだ？ とのことだ」

「シロウ、確かに本物の鞘を返してもらえれば嬉しいですが、それでシロウが弱くなるのは困ります。」

……いつか、シロウが必要としなくなったときに返してくれればそれでいいです」

「わかった。ありがとう、セイバー。」

悪いけどしばらくは貸してもらおう。

それまでは、悪いけど俺の投影品を使ってくれ」

「問題ありません。」

士郎が作ってくれた鞘を大切に使います」

なんか二人がいい雰囲気いきなり作り出して、それを見た二人の少女の機嫌が悪くなってる。

しかしキャサリンはスルーして話を続けた。

2．規格外の投影魔術の誤魔化し方

「おい、衛宮。お前はギルガメッシュの宝具である王の財宝、その鍵剣を投影可能か？」

オリジナルかアーチャーの固有結界にあった投影品のどっちかを

ゲイト・オブ・バビロン

見た可能性が高いらしいが」

「え〜と、……ああ、ギルガメツシュのオリジナルは見たことないけど、どうやらアーチャーの固有結界にあったみたいだ。トレース・オン 投影開始」
その手には、まぎれもなくギルガメツシュの王の財宝である鍵剣。ゲイト・オブ・バビロン
「よし、それを使ってみる。」

それで、ギルガメツシュの蔵と繋がれば「やりなさい、士郎！
いますぐに――！」

キャサリンの言葉を遮って、いきなり凜のテンションが最高潮だな。

あつ、凜の目が欲望で染まっている。

漫画なら、目がお金マークで表現されてそうだな。

っていうか、もうキャサリンの言うことを信頼したのか？

「ああ、わかった。」

……あゝ、すまん。この宝具、『空間を繋げて、異空間にある持ち主の宝物庫に物を出し入れ出来る機能』だ。つまり」

「『ギルガメツシュの宝物庫』じゃなくて『士郎の宝物庫』につながってるから、中身は空っぽってこと？」

凜はすぐに状況を悟り、涙目で質問した。

「そういうことだ。何も入っていなかった」

「やはりそうか。」

では、全て遠き理想郷を投影して、王の財宝に取り込んで、その後取り出すことは可能か？
ゲイト・オブ・バビロン

「ああ、できるはずだぞ。トレース・オン 投影開始……ほら、できた。」

士郎は投影した全て遠き理想郷を倉庫にしまったらしく、手の上アヴァロンに全て遠き理想郷が現れた直後いきなり見えなくなった。

そしてすぐに、空間から全て遠き理想郷を湧き出させて手に取った。

「ならば、お前が固有結界を展開して、結界内の全ての投影品を王ゲイの財宝に取り込むことはできるか？」

「……すごいことを考えるな。」

俺の所有物、かつ俺の視界内の物は即座に取り込み可能な仕様だから、理論上はできるはずだ」

「それを実行すれば、お前は王の財宝を起動する魔力だけで、即座に固有結界内にあった宝具を自由に取り出しできるわけだ。

それだけでなく、一番の秘密であるお前の規格外の投影魔術も隠せるな」

「……そういうこと。士郎は『投影した宝具を使っている』んじゃないくて、『ギルガメツシュから奪った王の財宝を使うことができる』ってことにするわけね！」

「そのとおりだ。」

衛宮は『固有結界に特化した魔術師』ではなく『解析に特化した魔術師』であり、その能力ゆえに『ギルガメツシュ消滅後もなぜか残っていた王の財宝を解析して使うことができ、あまつさえ中に入っていた宝具の原典も取り出して、ある程度使いこなすことができる。

ただし、衛宮の属性が『剣』のため、蔵の中から取り出して使いこなせるものは武器がほとんど』とするわけだな。

あとは、『王の財宝とその中に入っていた宝具の原典も、衛宮が持つていない状態である程度の時間が経つか、衛宮が呼ぶと自動的に戻ってくる。さらに、宝具の原典が破壊された場合も、修復するため自動的に蔵の中に戻る』とでも説明して、投影宝具が奪われたり貸し出してから一定時間後に消滅させておけば、衛宮の投影魔術の仕様とつじつまがあうだろうよ。

そうだな。味方を増やすために、今言った説明をした後に、宝具の原典として投影宝具を有料で貸し出すのはありだな。

どうせ、『召喚されたギルガメツシュが持つていた宝具の原典』と『衛宮が投影した宝具の原典』の区別なんてできる奴はこの世にほとんどいるわけがない。

そもそも前者を手に入れることが不可能だから比較できるわけないしな。

釈迦に説法だろうが、『宝具を投影可能で、かつ使いこなすことができる固有結界の使い手』となると、世界でたった一人、かつ歴史上でも稀有な存在なのは言うまでもないから、封印指定確定で世界中の魔術師から狙われるのは間違いない。

だが、『本来は解析だけに特化した魔術師でしかなかったが、偶然にも聖杯戦争で英雄王ギルガメッシュの宝具を手に入れ、それを解析した結果、宝具の一部の機能を使えるようになった魔術師』ならば、かなり危険度は下がるはずだ。

まあ、宝具のコレクターから狙われることは避けられないだろうがな」

例えば、死徒二十七祖のメレム・ソロモンとか。

あいつに狙われると面倒そうだけど、……まあ狙われてから教えられる方がいいか。

「マスターの予想では、今言った対処を行えば衛宮が封印指定になる可能性はほとんどないと見ているらしいが、お前たちから見えてうだ？」

「そうね。……『どんな宝具すら解析し使いこなすことも可能な魔術師』と誤解されると危ない気もするけど、投影魔術と固有結界を完全に隠し通して、『使いこなせる宝具は王の財宝と^{ゲート・オブ・バビロン}その中にある宝具の原典の一部だけで、それ以外の宝具は解析しできない』と認識されれば……」。

……そうね、多分封印指定は避けられるわね。

というか、今まで解析不能だった秘蔵の、あるいは封印していた宝具や魔術具を解析してもらおうと士郎は引っぱりだこになるかもね」

「私も同意見だな。

会ったことはないが、封印指定ハンターのバゼットという魔術師は、現存する数少ない宝具の担い手らしいが、封印指定にはなっていないしな。

マスターの提案通りにうまくことを進めれば、衛宮と王の財宝を
ゲート・オブ・バビロン
セットで誘拐、あるいは衛宮を利用しようとする輩は数えきれなほ
ど現れるだろうが、封印指定にされるよりはよっぽどまし、かつ自
由に投影が使えるだろうよ。

実際投影魔術を使っても、よほどのレベルの高い魔術師でない限
り、『投影魔術ではなく、魔力を使って王の財宝から宝具を取りだ
した』と衛宮が説明すれば、誰にも否定できないしな」

「……あ、ありがとう。」

そっか、そうやって誤魔化す方法があったのか。

全然気づかなかったよ」

「私からも再度お礼を伝えます」

3・衛宮士郎の強化

3・1 方針

「衛宮の能力だが、基本的に固有結界の亜種である、解析、強化、
投影が可能だな？」

「本当に詳しく知ってるんだな。」

「……ああ、今のところできるのはそれだけだ」

「で、アーチャーは他に施錠や修復の魔術が使えたそうだから、そ
れも多分できるようになるだろう。」

他にも、強化の発展版の変化とか、結界とかも可能かもしれない
が、……それ以外の魔術ができる可能性は低いだろうな」

「うっ、まあアーチャーが使えていなかったのが事実なら、俺もそ
の可能性は高いだろうな」

「そうね、士郎は特化型だから、それ以外の魔術ができなくてもお
かしいわね」

「だが、お前は一度見た武器は、規格外のもの以外は投影できる。
だから、お前自身が万能になるのではなく、それぞれ特化した機

能を持った武器を投影できるようにして、状況に応じてそれらの武器を投影して使い分ければ、自分を鍛えるより遥かに容易に万能になることも可能だろうな」

「おお、なるほど!!」

で、士郎が便利な魔術具を投影できるようになったら当然僕もそれを解析して、僕も便利な魔術具を投影できるようになるわけだ。何という見事な鵜匠ぶりだろう。

誰も損をしない素晴らしいアイデアに、思わず自画自賛してしまった。

「すでに、投影した全て遠き理想郷をセイバーが使うことで、セイバーは世界でトップクラス、いや世界最高の回復術者になったな。キヤスターの破戒すべき全ての符を投影して使うことで、お前は世界でトップクラスの魔術破戒能力者になったも同然だろう。

あれは、宝具クラス以外の魔術は全て無効化できるらしいから、事実上世界のほとんどの魔術による呪いや契約、結界などを解除可能みたいだな。

あと、ギルガメッシュが使っていた天の鎖。エルキドゥ

これが使えれば、滅多にいないが『神性』を持つ存在の天敵になれるらしい。

聖杯戦争でもそうだが、『神性』を持つ存在というのはイコールで『強敵』だが、天の鎖の前では力も同然だな」エルキドゥ

ってそうだよ、メドゥーサも神性持ちだから、天の鎖が使えたらエルキドゥ（多分使えるだろうけど）朱雀相手じゃ無力だなあ。

ますますセイバーの助力が重要になるな

ってことは、凜ルートで士郎が天の鎖を投影できるようにして、ギルガメッシュ戦で使えば楽勝だったのでは？エルキドゥ

……全然盛り上がらない展開になっただろうけど。

いやいや、『大切な友（の友情の証）の複製を作って、あまつさえ自分に使うという絶対に許せない暴挙にキレて、ネイキッドギル

ガメツシュが降臨してギルガメツシュ無双』って可能性もあったか。
ヘラクレスも一度天の鎖を破壊してるし、神性持ち相手でも絶対
無敵というわけじゃないのは証明済みだし。

ちなみに、後で本人に許可をもらった上でメドウーサに使ったところ、『魔術や魔法は使えなくなり、怪力を使っても脱出不可能で、ついにギブアップしたぐらい』だから、あれを破壊できるのは神性持ちではヘラクレス（とギルガメツシュ？）だけかもしれない。

「おおお、言われてみればそうか！」

「やつと気づいたか？」

普通ならそんな能力を持っているとばれると間違いなく破滅するだろうが、セイバーは『英霊として元々持っていた能力』として、お前はさっき言った通り『ギルガメツシュの遺産』と説明すれば、それほど問題にはならないだろうよ。

当然、その情報を公開する前に、魔術協会の強大な権力者にお前たちのバックになってもらわないと、魔術協会にいいように利用されるだけになるだろうがな」

「あゝ、まあ、そうだな。」

「ちなみに、お前たちのバックになってくれそうな、強いコネの持ち主にマスターは心当たりがあるそうぞ。

…… 本人がその気になれば、魔術協会の勢力図が塗り変わる、とまで言われている傑物らしい」

「誰よ、それ？」

「ロード・エルメロイ二世という有名な教授らしい。

第四次聖杯戦争のライダーのマスターだった魔術師で、今は時計塔の講師であり、彼の元で学んだ魔術師の全員が大成しているそうだ。

彼の弟子になって「王冠」^{グランド}階位を得なかった者はいない、ということから大した奴だな。

そついう意味でも、指導を受けられれば衛宮にとっても最適な先

生になるだろうな」

「何よ、私じゃ士郎の教師として不適格ってこと？」

「はつきり言えばそうだ。少なくとも今の時点では、な。」

遠坂は間違いなく天才だ。

魔術師として優秀なのは言うまでもなく、同じ天才タイプ相手ならいい先生になれるだろうよ。

……ただ、衛宮は直感やひらめきではなく、一つずつ理解して実力をつけていくタイプだ。

ロード・エルメロイ二世は自分自身が魔術師としてはそれほど優秀ではなかったらしく、天才ではない魔術師が『何が理解できないか？』が理解でき、教え方もずば抜けてうまいため、教師として最高レベルらしい」

『何が理解できないか？』が理解できる、というところで、凜は『士郎は何が理解できないか？』が理解できなかったことを思い出したのか、反論できないようだった。

「まっ、ロード・エルメロイ二世に会えるのは当分先だろうし、指導を受けるかどうかは会ってから決めればいい」

「いろいろ納得いかないこともあるけど、……確かに本人と会ったことないんじや議論にならないわね。」

いいわ。この件については、保留としておきましょう」

3・2 宝具

(1) 干将・莫耶オーバー・エッジ

アーチャーが、干将・莫耶を強化して、サイズ拡大&ランクAまで上昇させていたことを説明。

「私もマスターの記憶を見せてもらったが、この世界とは違う今では平行世界となったIFの世界では、これと固有結界を使ってバーサーカーを相手に、アーチャーが単独で6回殺していたよ。」

あれには私も驚かされた。

……さすがにそれが限界で、その後アーチャーはバーサーカーに殺されたがな」

「狂化したバーサーカーを、あいつは6回も殺したのか」

「ふーん、それが本当ならあいつが自分のことを最強と言ったのは口だけじゃなかったわけね。」

……バーサーカー相手だと勝てなかったみたいだけど、……さすがに相手が悪すぎるわね」

「まあ、そうだな。」

解析魔術により、敵サーヴァントの宝具を見るだけで宝具の詳細は解析可能で、それにより相手の真名も推測可能。

敵と場所と状況に合わせて、魔力のある限り武器関連限定とはいえず多種多様な宝具を投影し、真名開放も可能。

宝具を爆発させる壊れた幻想^{ブローケン・ファンタズム} という禁断の必殺技も、投影宝具だから躊躇なく連続で使用可能。

弓による狙撃は神業かつ威力は絶大で、射程距離は規格外。固有結界の使い手。

とどめに、生前に参加したことがある聖杯戦争だから、いくら記憶が摩耗していたとしても、マスターとサーヴァントを全員覚えていてもおかしくないしな。

ステータスが平均ランクCしかないというハンデを考えても、普通なら圧勝してもおかしくないほど有利なのは間違いないな。

まあ、ヘラクレスとギルガメッシュという規格外が2名も参加していた時点で、実際は圧勝は難しかっただろうがな」

「改めて考えると、……確かにそうね。」

『士郎を殺す』という願いを持たず、聖杯戦争に勝つことだけを考えていたら、……確かにあいつは最強のサーヴァントだったわね。」

「凜、それにキャサリン。」

それは私がアーチャーよりも弱いということですか？」

自分の強さを否定されるような言い方をされたのが気に食わない

のか、セイバーが拗ねたような感じで質問してきた。

「セイバー、お前が強いことは私もよく分かっている。」

しかし、マスターが見た予知夢の中で、アーチャーはマッハ11もの速度の矢を射る事が出来て、それを使って4km先の移動物体を撃ち抜いていた。

しかも、その際に撃った矢は赤原獵犬という宝具で、フルンディング相手を倒すまで自動で敵を追尾誘導する能力を持っているという凶悪な宝具だ。確かに接近戦ならセイバーが圧倒的に有利だろうよ。

しかし、遠距離戦、それもセイバーが視認すら難しい超遠距離戦ならば」

「……そうですね。さすがの私も4km先となると、直感で危険に気づくことはできても、敵の姿をすぐに見つけることはできません。その距離から追尾誘導する宝具を連続で攻撃されれば、……さすがに私では勝ち目は薄そうですね」

悔しそうだったが、さすがに騎士王。

戦闘の分析は確かだった。

ついでに言うと、この後に士郎に教える予定である干将・莫耶の必殺技「鶴翼三連」ブローケン・ファンタズムと壊れた幻想ブローケン・ファンタズムを使えば、接近戦でもアーチャーはセイバーに勝つことは不可能ではなかっただろう。

「うーん、そこまで長距離攻撃能力と投影した宝具の威力がすごいんなら、アーチャーは狙撃メインで戦わせるべきだったかもね」

「まあ、アーチャーの固有結界と弓術は、超一流を超えた規格外だからな。」

いくら強くても、攻撃が届かず相手を見つけれないなら、よほど防御か回避か回復力に優れていないと勝てないのは言うまでもないしな」

強者は強者を知る。

エヴァの記憶を持つキャサリンも、アーチャーのことを相当認めていたらしい。

その後、士郎が干将・莫耶を投影して解析。さらに、深く、深く解析を行った。

「やり方は分かったけど、今の俺ではまだ干将・莫耶の強化はできない。」

……もつと強化の訓練が必要だな」

(2) 勝利すべき黄金の剣 カリバーン

予知夢の中で衛宮士郎が投影したことを話す。

これも固有結界にあったと、士郎はあっさりと投影に成功する。

セイバーが再び感激し、やっとセイバーの真名に気づいた士郎はセイバーに勝利すべき黄金の剣をプレゼントした。

「つて、さっき俺が投影したのは『アーサー王の失われた鞘』だったのか!？」

「何よ、投影したくせに気づいていなかったの?」

「いや、さっきも言った通り、もう俺の半身みたいなものだから、投影の手順をすべてすっ飛ばして投影できたんだ。」

だから、鞘の情報は一切理解していなかった」

それを聞いた凜は、あまりの理不尽さに頭を抱える。

「宝具を投影できるだけでも規格外なのに、エクスカリバー約束された勝利の剣の鞘を、手順をすっ飛ばして投影できるつて、何よそれ!」

その気持ちはよく分かる。

しかも、アヴァロン全て遠き理想郷はランクEXだもんなあ。

それを『手順を全て吹っ飛ばして投影できる』とかって、規格外を超えて異常としか言いようがないよな。

ちなみに、士郎が投影した勝利すべき黄金の剣を見たので、僕も投影可能になった。

……と思ったら、固有結界に登録済みだった。

そっか、アーチャーの固有結界にあったのを登録済みだったんだ。僕が気づいていなかったただけか。

あとで、投影して素振りを試してみよう。

(3) 必殺技

フルンディング
・赤原獵犬

フルンディング
さっき話した赤原獵犬という誘導弾による遠距離攻撃についてキヤサリンが詳細に説明。

すぐに士郎は投影し、解析した結果、今の士郎でも使用可能だと判明した。

ナインライフズ・ブレイドワークス
・是・射殺す百頭

ナインライフズ・ブレイドワークス
対人用の「超高速9連撃」の是・射殺す百頭。
ようは、「るろくに剣心」の九頭龍閃みたいなもの。あれは突きで、こっちは斬撃という違いはあるが。

バーサーカーの斧剣を経験・武技ごと投影して攻撃するものだが、今の俺だと、体が持たない。

もう少し鍛えてからやってみる」

というのが、士郎の解析結果だった。

アヴァロン
まあ、全て遠き理想郷の回復力があるので、セイバーの監督の元なら近いうちにできそうだな。

・干将・莫耶の鶴翼三連

士郎に『アーチャーが使っていた干将・莫耶の蓄積された年月』のさらなる解析をさせる。

キーワードは、「連続投影乱舞によるアーチャーの必殺技『鶴翼三連』」。

「おお、これなら今の俺にもできそうだ」

「そうか。ならば、さっそく試したらどうだ？」

「そうだな。セイバー、悪いけど相手頼めるか？」

「構いません。アーチャーの必殺技ですか、……どんな技なのか楽しみですね」

ということ、キャサリンの扇動により庭でいきなり模擬戦闘をすることになった。

キャサリンも、僕の記憶に基づく再現映像ではなく、本物の技を生で見たかったんだろうなあ。

セイバーには刃を落とした丈夫なだけの投影武器を渡し、士郎は刃を落とした干将・莫耶を投影した。

お互い全て遠き理想郷を持っているので、そうそう致命傷は負わないだろう。

「——鶴翼^{ししぎむけつ}、欠落ヲ不ラズ^{けつたふた}」

士郎はいきなり干将・莫耶を一投し、それはセイバーの首を狙って飛んでいった。

しかし、そんなものがセイバーに通用するはずもなく、セイバーは容易く迎撃し、干将・莫耶の軌道をずらした。

それにより、迎撃された干将・莫耶はセイバーの背後へ飛んでいくことになる。

士郎は自分からセイバーに接近し、干将・莫耶を再び投影。

直後、襲いかかってきたセイバーの攻撃を、干将・莫耶で受け止めることに成功した。

「——心技^{ちからわざ}、泰山二至リ^{たいざんにしり}」

干将に引き寄せられて、セイバーの背後を飛んでいた莫耶の奇襲攻撃。

セイバーは直感で避けるが、そこへ士郎が手に持つ干将で攻撃。それすらも、セイバーは迎撃して干将を一撃で破壊する。

「――心技黄河ヲ渡ル」

今度は、莫耶に引き寄せられて、セイバーの背後を飛んでいた干将の奇襲攻撃。

ここに至って、さすがのセイバーも焦る。

が、セイバーは神業めいた反応速度で、背後からの干将の奇襲を避けることに成功した。

しかし、避けたがゆえにこれ以上ないくらい無防備になった胸元へ、士郎は残った莫耶を叩き付け

それさえも、セイバーは打ち砕いた。

しかし、さすがのセイバーも、この瞬間だけはこれ以上迎撃不可能な状態。

その完全な隙に対して、

唯名別天二納メ。

士郎は空の両手に再び干将・莫耶を投影し、

両雄、共二命ヲ別ツ……！

その無防備な体に、干将・莫耶で同時攻撃を行った。

刃を落としているがゆえにセイバーの鎧を破壊できなかったが、その攻撃はクリティカルヒットし、セイバーを思いつ切り吹っ飛ばした。

「すごいです、先輩。

……あつ、セイバーさん、大丈夫ですか？」

「セイバー、大丈夫か？」

士郎も慌ててセイバーの元へ駆け寄るが、セイバーはすぐに立ち上がった。

「安心してください。傷はありません。

攻撃によるダメージはありましたが、アヴァロン全て遠き理想郷ですぐに回復しました。

……それにしても恐ろしい攻撃ですね。

お互いを引き寄せる干将・莫耶の特性と、それを連続で投影できるシロウの能力あつての必殺技でしょうが……」

手加減して受け身だったとはいえ、アヴァロン全て遠き理想郷がなければ間違いなくセイバーを倒すことが可能だった一撃に、セイバーも感嘆していた。

「いや、自分でやつといてなんだけど、ここまでうまくいくとは思わなかった。」

「確かに見事な一撃でした。」

ですが、これは今の私のように敵が攻撃を迎撃する敵には有効ですが、最初の一撃を躲した後、後退するか投擲攻撃などをしかける相手には通用しません。

さらに言えば、初見殺しの必殺技です。

一度でも見たことがあれば、……いえ、どのような技か知っているだけでも十分対策が可能です。

強力な技とはいえ、使う相手と状況を間違えてはいけません」

「ああ、わかったよ、セイバー」

「今の応用技として、相手が飛んできた干将・莫耶を迎撃した瞬間に、ブローケン・ファンタズム壊れた幻想で爆発させるのもありだな。

その爆発でダメージを受け態勢を崩し視界を失った相手に、投擲した干将・莫耶と衛宮が同時攻撃を仕掛ければ、より確実に倒せるだろうよ。

ブローケン・ファンタズム投影による投擲攻撃と壊れた幻想をうまく混ぜれば、相手が逃げることもかわすことも封じられる可能性は高い。

今のお前は、ブローケン・ファンタズム投影と壊れた幻想、ゲート・オブ・バビロンそして王の財宝による射出攻撃を組み合わせて攻撃することが可能だ。

……これらの攻撃のバリエーションを増やせば、今の攻撃を知っ

「いても相手は躲すことも防ぐことも困難になるのは間違いないな」
これは、僕とキャサリンで考えたアイデアなのだが、それを聞いたセイバーはその攻撃の悪辣さに顔をしかめていた。

今の攻撃みたいに、予知できても手数が足りなければ防ぐことはできないからな。

ゲイト・オブ・バビロン
そういう意味で、投影と王の財宝による射出攻撃で二重同時攻撃が可能な士郎は、一気に強くなったのは間違いないだろう。

3・3 投影武器の増加

・刀剣鑑定のアルバイト&オークション見学

「遠坂のコネで、魔剣などの鑑定のアルバイトをして、投影武器の登録するのはどうだ？」

あとは、魔術具などのオークション会場へ行つて片っ端から解析&登録の実施、といったところか。

実績を積んだ後、すでに他の人が鑑定済みの強力な魔剣などをより詳しく鑑定したいと言つて、魔術協会秘蔵の魔剣などを解析&登録もありだな。

これは将来の話になるが、エルメロイ2世と繋がりができたら、魔術具の管理責任者を紹介してもらつて、時計塔秘蔵の魔術具を片っ端から見せてもらうこともいいだろうよ」

「それができれば、投影できるものが相当増えるな。」

遠坂、オークションとかの情報があればぜひ教えてくれ」

「わかったわ。できるだけ多くのオークション情報を集めておくわ。楽しみにしてなさい」

オークション会場へ行くだけで投影可能な魔術具が増えるであつて、二人とも大いに乗り気だった。

・魔剣の鍛冶師

「設計さえしつかりできていれば、作成工程を投影魔術で代用する

ことは可能か？

これが可能になれば、設計だけでいくらでも魔剣を作れるようになる、とマスターは言っていたが。

そうなれば、魔力の許す限り簡単に作り直しができるし、自分が欲しいと思う機能を持った魔剣を自分で作れるようになるから、お前の能力アップが容易になるわけだが」

「あゝ、その手もあったのか。

うゝん、……投影魔術の訓練を積み重ねれば可能になるかもしれないが、今の俺じゃ間違いなく無理だな」

まあ、駄目元で言ったただだし、仕方ないか。

可能性があるだけ大したものだ。……投影魔術が使える僕も、そんなことはできてないしな。

「これもマスターからの提案だが、魔力を込める前の宝石を組み込んだ短剣とか作成して、それを投影してみたらどうだ？

その短剣に遠坂が魔力を籠めることができれば、遠坂の宝石代が節約できるかもしれないしな」

とキャサリンが発言した瞬間、

「すぐに短剣を作るから、なんとしても私の魔力が込められる投影品を作りなさい！！」

と凜は大声で有無を言わず宣言した。

再び、凜の目は欲望の色に染まっているように見える。

「失敗すると大変だろうから、とりあえずアゾット剣の投影から練習したらどうだ？

で、投影したアゾット剣に魔力を込められるようなら、魔力蓄積用に短剣の作成の研究を始めるほうがいいと思うぞ」

「くつ、確かに宝石を無駄にしたら大損ね。

……いいわ。土郎、後で家からアゾット剣を持ってくるから、すぐに投影を試しなさい、いいわね」

「わ、わかった」

凜のものすごい気迫が籠った言葉に、士郎にできたのはただ頷くことだけだった。

4・バクティオー 仮契約の魔法陣

実際に、メドゥーサが主、桜が従者でバクティオー 仮契約を実施。

……どうやら、この世界でも相互仮契約は問題なくできるようだな。

試してなかったが、無事に成功してyかった。

さっそく、凜が魔法陣とバクティオー 仮契約の調査を始めた。

等価交換のルールを完全に無視し、契約しただけでアーティファクトが具現化したことに驚愕した。

あまつさえ、バクティオー 仮契約カードでライン接続、念話、召喚までができたことキレてしまった。

キレた凜の対応は士郎たちがやっていたが、この結果を見て僕は実はほっとしていた。

実は、この世界でもバクティオー 仮契約が成功するか、ちょっと不安だったのだ。

元から可能だったのか、僕たちが来たから麻帆良世界の魔法の法則が混じったのか、さてどっちなのやら。

……まあ、成功したのだから今さら調べる必要もないけど。

当然、バクティオー 仮契約のことは、このメンバー以外には絶対秘密だと伝える。

「そんな部外秘にしたいほどの魔術を、なんで私たちに教えたのよ」
凜はバクティオー 仮契約という初めて聞くとてもない魔術（本当は、麻帆良世界の魔法）を、自分たちに教えたことが信じられないようだった。
あゝ、そうか。こっちは当たり前すぎて感覚がずれていたけど、
『アーティファクト具現化』『ライン接続』『念話』『召喚』を可

能とするカードをキスするだけで作り出す儀式なんて、聖杯世界において、ある意味宝具並みの価値があるのかもしれないな。

こつちとしては黙っていても、『メドゥーサ↓桜↓凜』ルートでいずれ仮契約の情報が流れてしまうことを予想したため、その前に教えて恩を売っただけのつもりだったんだが。

……まあ、適当に誤魔化しとこう。

「マスターの言葉をそのまま伝えと、『あなたたちを友好的な関係を作りたいたいと思っているからです』だそうだよ。

それから、『セイバーにアルバートを依頼する』対価として、それぐらいの情報提供は必要だと僕は考えている』らしい」

「あゝ、うゝ、まあ、……そうかもしれないけど」

『英霊貸し出しの対価』と言われると、納得するしかなかったのか、それ以上凜は何も言わなくなった。

5・教会内で犠牲になっている孤児の報告

キャサリンからその話を聞いた瞬間、土郎は一人で飛び出そうとして凜に止められ、全員で孤児を助け出す準備を整えると全速力で教会へ移動した。

教会に着くと、解析魔術を使った土郎がすぐに地下室を発見した。孤児たちの哀れな状況を見ることになったが、幸いなことに全員かろうじてだが生きていた。

そして、キャサリンのアドバイスにより、全員がセイバーの全^アて遠き理想郷によって完全治癒。

失っていた手足どころか、火事による火傷の跡なども、きれいに再生することができた。

ただし当然ながら全員精神崩壊寸前の状態には代わりはなく、凜とメドゥーサが魔術で全員の記憶を封印し、すぐに電話で魔術関連の病院へ入院させる手配を整え、孤児たちは無事に入院できること

になった。

当たり前と言うべきか、全員は言峰に対して怒り狂うも、キャサリンのマスター（僕）に対して情報提供のお礼を伝えてきた。

特に、兄妹ともいうべき存在を助けられた士郎は、本当に感謝しているようだった。

対価をもらうつもりとはいえ、感謝されるのも悪くない気分だな。

あと、これは予想しておくべきだったが、

「孤児たちの問題の処理に時間がかかるから、この話の続きは一週間後にしてほしいの。」

もちろん、提供してもらった情報の対価はきちんと払うつもりよ」と凜に言われた。

まあ、当然だな。

凜がセカンドオーナーをしている町で、聖堂教会がこんな大不祥事を起こしたことが発覚したんだ。

言峰がギルガメッシュやランサーのマスターだったことも問題だが、これもまたそれに匹敵するぐらいの大問題だろう。

一週間でも短いかもしれないな。

こうして、キャサリンとメドゥーサは、今日のところは何も収穫はなく、あえて言えば、士郎たちの信頼と感謝をお土産として彼らと別れることになった。

ああ、桜は当然凜たちと一緒に残り、凜の希望によりメドゥーサはキャサリンと一緒に帰ることになった。

理由として、「メドゥーサなしで相談したいことがある」とはっきり言われた。

多分桜から、メドゥーサと僕について寝掘り葉掘り確認するんだろっなあ。

まあ、桜には『話していいことと話してはいけないこと』を伝え、それを守ると約束してくれたからそれほど問題はないだろう。

この後はバゼット救出へ行く予定だったが、僕から詳細な情報を聞いたメドゥーサが『下手にバゼットに触れると、予想外の事態が発生しかねない』とアドバイスをしてくれた。

夢を覗くのも危なそう（夢を見たこっちにアンリ・マユがこちらに侵食しかねない）ということで、原作通りバゼットは完全放置で決定した。

……すまん、ランサー。きっちり見守って、バゼットが起きてきたらサポートするから許してくれ。

時の天秤を使ってバゼットの体を怪我の体に戻せば、失った腕もきっちり蘇るし、その時お前の遺言も伝えるからな。

こうして僕たちは、現時点では物質的契約的には何も得ることはなく、麻帆良世界へ帰還することになった。

一週間後、色よい返事がもらえればいいのだが、……まあ、凜とセイバー相手だからそう甘くはないだろうなあ。

期待と不安を抱えながら、僕は少しでもいい結果が出ることを祈っていた。

第13話 衛宮士郎の魔改造（小学2年生 聖杯世界2月16日）（後書き）

本日（2011・8・26）、25万PVを達成しました。
どうもありがとうございます。

【更新履歴】

2011・09・05 『聖杯世界への移動は実体を持たないサーヴァントのような存在のみ可能』という設定に変更しました。

それにより、交渉人はキャサリンに変更しました。

【備考】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印（遠坂家）

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具)

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）
アヴァロン

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A+

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

1996年7月21日（聖杯世界 2月16日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月21日（聖杯世界 2月16日）のメモ

1．士郎達への交渉内容

1・1 僕たちの事情

・メドゥーサの召喚成功

・士郎たちと『どちらかが裏切らない限り、今後両方に利益のある関係』を作っていきたいという方針提示

・士郎たちの『利益となる情報』の対価として、セイバーのアルバイトを依頼したい。なお、対価の支払い時期はその情報の価値を調査し確認した後、かつ僕たちが信頼できると判断してから。

1・2 提供した情報の概要

（1）セイバーさんの大幅強化&衛宮パーティの治癒力アップ
アヴァロン
全て遠き理想郷の情報提供

（2）規格外の投影魔術の誤魔化し方
ゲイト・オブ・バビロン
王の財宝の正しい使い方

（3）衛宮士郎の強化

・方針

それぞれ特化した機能を持った武器を投影できるようにして、状況に応じてそれらの武器を投影して使い分ける。

ロード・エルメロイ二世の紹介。

・宝具

干将・莫耶オーバー・エッジ
カリバーン

勝利すべき黄金の剣

・必殺技

フルンディング
赤原獵犬

ナインライフズ・ブレイドワークス

是・射殺す百頭

干将・莫耶の鶴翼三連&応用技のプラン

・投影武器の増加

刀剣鑑定のアルバイト

魔術具などのオークション見学

魔剣の鍛冶師

(4) 仮契約 バックデイト

(5) 教会内で犠牲になっている孤児の報告

1.3 対価の内容

『孤児たちの保護とトラブル解決後』ということで、対価についての交渉は一週間後に延期

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）NEW

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操系術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

クト 干将・莫耶オーバーエッジ
ハルベール
蛇刈る刺突剣（屈指延命）
ハマノツルギ（魔法無効化）
：B（投影宝具）
：C（投影宝具）
：投影アーティファ

クト ホ・ヘーロース
千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
：投影アーティファ

クト ミステルテイン
世界樹の宿木の剣（対神&対不死）
：投影アーティファ

クト 妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）

ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍（対軍）
：B（投影宝具）

ゲイ・ジャールグ
破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

杖

ヘルメスの杖
：投影アーティファ

クト

鎖

エルキドゥ
天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢

アルテミスの弓矢
：投影アーティファ

クト

カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）

フルンディング
赤原猟犬
：C（投影宝具） N

E W

盾

アイギス
蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環
：B +（投影宝具）

N E W

鎧

英雄王の鎧のパーツ

: B (投影宝具)

アーティファクト:

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>: 重要な戦闘で使用 (切り札)

クラス

ライダー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 C

魔力 B

耐久 D

幸運 A

敏捷 C

宝具 A+

クラス別能力

【対魔力】: B

【騎乗】: A+

保有スキル

【直感】: B

【魔術】: D-

【無窮の武錬】: A

【燕返し】

【魔眼】: A+

【無限の剣製】: E } A+

【十二の試練】: C

【己が栄光の為でなく】: C

備考

ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B

（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B

（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A+ 宝具 A+

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【騎英の手綱】：A+

【自己封印・暗黒神殿】：C-

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルベィ

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C（B） 魔力 A+

耐久 C（B） 幸運 C

敏捷 B（A） 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの○は、【咸卦法】使用時のステータ

ス

【夜天の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷系、闇系など）

操系術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）
マキア・エレベア

マキア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：5歳（普段は16歳に変身）

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：魔術

吸収

使役

備考：「時の天秤」で肉体年齢5歳に若返り、「遠坂桜」の体質に戻る

【交渉相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）NEW

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷NEW

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

NEW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A NEW

【全て遠き理想郷】：EX NEW

第14話 士郎達との再交渉（小学2年生 聖杯世界2月23日）

【聖杯世界】

聖杯世界 2月23日（土） 聖杯戦争終了八日後

世界扉を繋げて魔法球内で一週間過ごした後、メドゥーサとキャサリンは聖杯世界へ再訪問した。

凜は疲れている様子だったが、とてもご機嫌のようすだった。

桜もニコニコしていて、セイバーと士郎の二人は何故か顔を赤くしていた。

バクティオー

仮契約の結果について聞いてみるが、成功したとは教えてくれたが、アーティファクトは内緒だった。

まあ、当然かな。

ただし、セイバーのアーティファクトだけは教えてくれた。

「なぜ、セイバーだけ？」と不思議だったが教えてもらって納得した。

どれも、セイバーの弱点補強や戦力強化のアーティファクトで、今のセイバーに敵対するのは自殺行為だと嫌でも思い知らされたからだ。

こっちに対する抑止力として情報を公開したと見て間違いないだろう。

これは、僕たちと同じく全員が総当たりで相互仮契約したか？

バクティオー

凜は『凄くいいアーティファクトが出てきたこと』に、桜は『凜公認で士郎とキスできた』から機嫌がいいんだろうな。

「教会に監禁されていたみんなのこと、教えてくれてありがとう。」

10年もの時間は奪われたけど、アヴァロン全て遠き理想郷のおかげで全員後遺症もない五体満足の健康な体を取り戻すことができたし、記憶も魔術で封印したから今までの地獄のような日々は思いださない。

みんなはこれから人生をやり直すことができる。

本当に感謝している」

言葉通り、士郎は本当に感謝しているようだった。

「全く、綺礼は死んだ後も迷惑をかけるんだから。」

この一週間、とんでもない騒ぎだったのよ」

まあ、ある程度予想はしていたが、凜の疲れ具合から見ると僕の想像以上に大変だったのだろう。

その後、キャサリンたちはセイバーのアーティファクトを見せてもらうことができたので、僕も改めてパラメータチェックをした。みた。

アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凜

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

- 【ロングミニアド】：C（槍）
- 【カルンウェナン】：E（短剣）
- 【プライウエン】：C（盾、魔法の船）
- 【グースホワイト】：D（兜）
- 【ウィガール】：D（鎖帷子）

セイバーのアーティファクトはそれぞれ下記機能があららしい。

- ・騎士王の武具（アーサー王の武具一式：オリジナルより2ランクダウン）
- ・魔力のペンダント（触れるだけで任意に魔力の入出力が可能）
- ・影の馬（影で作られた馬型の使い魔）

騎士王の武具は士郎との、影の馬は桜との、魔力のペンダントは凜との仮契約によるアーティファクトか。バクティオー

騎士王の武具は、オリジナルより2ランクダウンだが、それでもとんでもない代物だな。アヴァロン

全て遠き理想郷だけなぜかランクが変わらないが、元々EXは規格外。ランクダウンとか関係ないのかもしれないな。

それぞれらしいというか、なんというか。

これがフルアーマーダブルセイバー（真）の状態かな？

確かに、古菲のアーティファクトで如意棒というれっきとした宝具のレプリカが出てきたし、まき絵のアーティファクトも複数あったから、宝具のレプリカが複数出てきても理論上はおかしくないが、こんなアーティファクトが出たことを知ったら、あっちの世界じゃ大騒ぎになるぞ、間違いなく。

もつとも、宝具さえ投影可能な未来の英霊とアーサー王の仮契約カードのアーティファクトって考えると、ものすごい説得力があるけどね。バクティオー

こんなすごいものを、キスするだけで手に入れられたんだから、凜が喜ぶのは当然だな。

多分、他のメンバーもすごいアーティファクトを手に入れたんだろうし。

ついでに僕も投影可能になったからすごく嬉しい。

このセイバーに魔改造済みメドゥーサは勝てるのだろうか？ と僕と同じようにメドゥーサに目で問いかけていたキャサリンに対して、メドゥーサは答えてくれた。

「セイバーは、いざという時の絶対防御は全て遠き理想郷。アヴァロン攻撃は約束された勝利の剣と勝利すべき黄金の剣を使い、通常の防御はウィガールとグースホワイト、プライウエンがあります。

今まで鎧に回していた分の魔力を魔力放出に回すと、さらにパワー・スピード共に増加するでしょう。

私の予想では、「筋力はA＋、敏捷はAぐらいになります。プライウエンとウィガールとグースホワイトによる防御は、最低でも耐久：B、もしかするとAに達するかもしれません。」

要はこんな感じか？

セイバー

鎧に回していた分の魔力を魔力放出に回した状態＆「騎士王の武器」装備状態

ステータス 筋力 A＋ 魔力 A

耐久 B（A） 幸運 A＋

敏捷 A 宝具 EX

おゝい、なんだこの『僕が考えた最強のサーヴァント』状態は！！
今のセイバー相手だと、魔改造メドゥーサでも勝つのは難しいじゃないか？

絶望に満ちた僕の感情をラインから読み取ったのか、メドゥーサは言葉を続けた。

「ステータスは敏捷以外すべて私より上で、全部ランクA以上。技量は私の方が劣り、宝具の質も私以上です。

勝とうと思うならば、宝具を使わせる隙を与えずに一気に決着をつける方法しかありませんが……」

「ステータスに劣り、技量に劣るライダーでは、私にその方法で勝てる確率はごく低いでしょう。

……全く勝てないとは言いませんが」

まあ、セイバーが知っているライダーならそうなるよな。

あと、逆に言えば、具現化&維持に魔力がいらないアーティファクトで守備と攻撃がかなり強くなったから、セイバーの燃費が良くなった可能性もあるな。

地味だけど、凜にとっては一番嬉しいことかもしれない。

「ところでライダーのパラメータが向上してるけど、理由を聞いていいのかしら？」

「簡単なことです。

以前は魔術回路がない慎二がマスターだったせいで、かなりパワーダウンしていましたので。」

「なるほど、そうだったの

あいかわらずあいつ、他人の足を引っばる真似ばかりしてたわけか
やっぱり馬鹿よね」

「ええ、その通りです」
ためらわず、メドゥーサは即答した。

「あと、何故か宝具欄に【他者封印・鮮血神殿】が見えないんだけど？」

「今のマスターがこの宝具を好まなかったので、令呪で使えなくしました」

まあ、令呪を使ってメドゥーサを魔改造する際に削除したんだから嘘は言っていないよな。

「へえ、確かにあの宝具は碌でもないけど、わざわざ封印までしたんだ」

凜は信じてくれたのか、なかなか高評価のようだ。

まあ、マスターによるサーヴァントのパラメータチェック機能をそれだけ信用しているのだろう。

ところで、凜に見える（今の）ライダーのパラメータは下記のとおりだ。

（士郎と桜はサーヴァントを失った際に令呪を失っているので、サーヴァントのパラメータは見れない）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 不明

ステータス 筋力 C 魔力 A

耐久 E 幸運 A

敏捷 A 宝具 ?

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル

【魔眼】：A+

【神性】：E-

宝具

未表示

今の僕はサーヴァントの能力を使っていない状態にしてあるため、メドゥーサのステータスはダウンした状態である。

さらに保有スキルと宝具は、（特殊能力がなければ）それぞれのスキルや宝具を使った後か、持っているを知っていない表示されない。

そのため、凜ルートではあまり活躍できないまま退場したメドゥーサは、保有スキルと【他者封印・鮮血神殿】以外の宝具、何より真名は謎のままだったのである。

もつとも、メドゥーサ経由で桜に確認したところ、さすがにライダーの真名は質問されたいらしい。

真名は話して構わないと事前に話していたこともあり、桜はメドゥーサのことを教えたそうだ。

メドゥーサの知名度はギリシャ神話でもトップクラスだから、さすがの士郎も知っていて驚いたらしい。

で、『メドゥーサといえば石化の魔眼』というのは言うまでもなく、それ以外の保有スキルや宝具には特に質問がなかったらしい。

さすがに、メドゥーサの桜への忠誠の確認をされたいが、絶対に大丈夫です、と桜が自信を持って回答したので、少しは安心したとのことだ。

凜のうっかりや士郎の大甘に助けられたところもあるが、メドゥーサの伝承から【騎英の手綱】は気づきにくいだろうしな。

クラスがライダーだから、ペガサスに騎乗することは気づいてもおかしくはないけど。

実際僕も、原作のゲームでは石化の魔眼を使うまで、正体に全く

気付きませんでした。

「まさかライダーがメドゥーサかよ」と心の中で絶叫したぐらいです。

で、石化の魔眼以外は、宝具だと【他者封印・鮮血神殿】、保有スキルは【怪力】が脅威だが、それ以外は直接戦闘には影響しないものばかりだしなあ。

もっとも、それは僕が魔改造する前の状態であり、今のメドゥーサはもっと強くなっているんだけどね。

まあ、セイバーの強さによる安心があるから、あとはメドゥーサが桜を裏切らない限り安心ということか？

僕同様、メドゥーサへの信頼度も少しずつ確認するところかな？

さて、ここまで信頼してくれたのなら、僕が依頼した対価はもらえるのかな？

と思っていたら、凜から報酬について条件が付けられた。

「貴方、正確には貴女のマスターが教えてくれた情報はすべて正しく、かつ私たちにとって絶大な価値があることは間違いないわ。

だから、『情報の価値を調査』については、『私たちに不利益を与えない限り、セイバーがアルバイトする』だけの価値があると私たち全員が認めるわ。」

「それは何よりだ。……だが、それで終わらないのだろう？」

キャサリンは、厳しく凜を追求した。

……あれっ？

セイバーのアルバイトを快く認めてくれる展開じゃないのか？

「ええ、貴女は『どうしてもセイバーのアルバイトが許可できないなら、別の方法での対価もOK』と言ったわね」

「ああ、言っただけ。」

……やはりそうだったか」

凜がこう言うつてことは？

「悪いけど、貴女個人のことはそれなりに信用しているんだけど、あなたの所属するグループ、あるいはあなたのマスターを私は信用できないのよ」

「凜、何故ですか？

彼女がもたらしてくれた情報はすばらしいものばかりです。

その恩を返すため、私がアルバイトで働くというのは妥当だと考えますが？」

「そうね。確かに彼の情報はとてつもない価値があるわ。

どの情報もいつかは私たちだけでも気づいたかもしれないけど、聖杯戦争の報告書を提出する前の段階で知ったことはすごい利益よ。特に士郎の能力の隠し方、とかね。

……最初に提出する報告書の段階で『王の財宝がギルガメッシュ

消滅後も残っていて現在調査中』ということにしておいて、将来時

期を見計らって『解析魔術に特化した衛宮士郎が王の財宝』の機能

の一部を起動させることに成功した』って発表すれば、余計な詮索は最小限に抑えられるしね。

もつとも、現存しているけど使えない宝具の鑑定を士郎が頼まれるかもしれないけど、解析だけなら問題なく士郎はできるし、武器なら士郎が投影できる可能性も高いし、いいことだらけね。

あと、彼が言ったように宝具コレクターがうじゃうじゃ寄ってくるでしょうけど、魔術協会のコネとセイバーの力で追い払えばいいしね」

おや、予想以上に高評価だな。

「でも、セイバーを貸し出すのは駄目。

忘れてるのかもしれないけど、奇跡的に再召喚されたライダーを除けば、セイバーは現在唯一存在が確認されている英霊よ。

士郎の価値も高いけど、セイバーの価値もそれに匹敵するぐらい高いのよ。

今後、『隙あらばセイバーを自分の使い魔にしようとする魔術師』は、これから数えきれないほど現れるわ」

「そして、私のマスターがその最初の一人でない保証はない、というわけだな」

そう言つてキャサリンは、にやりと笑った。

「ええ、悪いけど、貴女とは一回しか会っていないし、マスターに至つては一度も会っていない。」

桜とライダーは信用しているみたいだけど、私としてはまだ完全に信用できないし、貴方の組織や背後関係が分からない以上、セイバーに危険をおかさせるわけにはいかないわ」

「遠坂、それは失礼じゃないか？」

「あら、士郎。どうしてそう思うのかしら？」

「だって、この人も、そして桜とライダーも言つてたろ？」

この人のマスターは聖杯に興味がなく、興味があるのはサーヴァントを従者にする事。

そして、ライダーが八神さんの従者になる条件は桜を助け、桜の望みを適えること。

桜の望みが俺たちの幸せである以上、俺たちに不利益な行動を取ることは、結果としてライダーを失うことになる。

桜は遠坂以上の魔力供給量があるから、ライダーの新しいマスターになることも可能だしな。

まあ、令呪で無理やりライダーを従わせることも不可能じゃないけど、『対魔力：B』のライダーを令呪で従わせるのは大変だし、ライダーに不信感を与えて将来裏切られかねないし、そんなことはしないだろう？」

「士郎の言うことはだいたい合つてるわ。」

「……でも、一つ抜けてることがあるわ。」

「なんだよ、それ？」

「簡単なことよ。彼がライダーを切り捨ててもセイバーを欲しいと思つて居る場合は、今の話が全てひっくり返るわ」

ああ、なるほど。

僕がセイバーを欲しがっていて、ライダーが離反することを厭わなければ、セイバーに対して不利益となる行動をとる可能性はあるわけか。

もつとも、ライダーが裏切らない限り、僕からライダーが離反するような行動はとるつもりはないけどね。

「その通りだな。」

しかも、以前からサーヴァントに従者にすることを目的としていたのなら、サーヴァントに従える何らかの手段を持っていたもおかしくない、というわけだな。

マスターとしては、ライダーを切り捨てることはするつもりはありえないらしいが、……証拠がない以上説得力に欠けるな」

キャサリンは、あっさりと凜の言葉を肯定した。

……考えてみれば、そういう結論になるのも当然、か。

「凜、その危険性があることは否定しませんが、私ならそのような企みがあれば、直感ですぐに気づけます。」

……ライダーが敵に回ると多少苦戦はするでしょうが、よほどの切り札がない限り私に勝つのは不可能です。

それに、私の見る限り、ライダーが桜を裏切る可能性は低いと判断します。

さすがに令呪を使われると敵対される可能性はありますが」

そのよほどの切り札があるんだけどね、実は僕とライダーの二人とも。

それがわかつているライダーは失礼なことを言ったセイバーに対して何も言わず、ポーカーフェイスを貫いている。

「士郎、あなたとセイバーはそれくらい警戒するぐらいでちょうどいいのよ。気を付けなさい。」

それからセイバー。

聖杯のバックアップがなくて魔力が十分とはいえないとはいえ、

さらに強くなつた今のあなたの能力ならライダーに負けるとは思わないわ。

……あなたが言つた通り、よほどの切り札がなければ。

でも、ライダーの新しいマスターは、嘘を言っていない限り、たった一人でライダーとキャサリンの二人に魔力を与えていることになる。

私でもセイバーを支えるのがぎりぎりなのに、よ。

そしてキャサリンが言つた通り、彼女のマスターがサーヴァントが欲しいと思つていたのなら、サーヴァントを奪う魔術が魔術具を持つてゐる可能性もあるわ」

正確には、僕が魔力を提供しているのはメドゥーサとアスナの二人だけで、後は自前で魔力を回復できるけど、……まあ魔力量が多いのは事実だな。

自分だけの力じゃなくて、サーヴァント能力を使うことで相当増えているのは事実だけど。

「遠坂、さすがにそれは無理じゃないか？」

セイバーに効果がある魔術なんて現代では魔法ぐらいだろうし、魔術具も無意味だ。

効果があるのは、「宝具ぐらい、でしょ」

「確かに現存する宝具はほとんどないわ。その宝具を使える存在なんてごくわずか。

さすがに、その宝具すら投影するという規格外の能力を持つ人は士郎とアーチャー以外聞いたことがないしね。

……でも、セイバーにすら有効な魔術は現存するのよ」

「そうなのか、遠坂……」

その発言は僕にとつても予想外だったが、セイバーはすぐ思い当たつたようだ。

「セイバーは気づいたようね。そうよ、令呪よ」

「あつ、そうか……」

「やっと気づいたの？」

もつとしつかりなさい。

聖杯戦争でマスターが持つ令呪は、もともとマキリが開発した魔術。

とんでもなく高度な技だけど、魔術である以上、他の魔術師が似た効果を持つ魔術を開発しても驚かないわ。

さらに言えば、彼女のマスターも令呪も手にいれたわけで、それを解析してさらに効果がアップしている可能性もあるわね。

だから、会ったばかりの相手が指定した知らない場所に、のこのこ一人で着いていくのは危険すぎるわ」

その予想は外れだが、いざとなれば破戒すべき全ての符を投影できるのは事実だから、凜の危惧は結構当たってるな。

そこまで言われると、士郎もセイバーも反論できないようだった。

やはり凜は甘くなかったか。

こうなると、セイバーをアルバイトに連れて行く、というプランは諦めた方が賢明だな。

……この状態で最大の利益を得るためには、……どうしよう。

麻帆良世界と聖杯世界を移動できるのはサーヴァントと実体のない魔力で構成されたものだけだから、セイバーの派遣以外で嬉しいこと、となると。

……ああ、あれがあったか。

僕は思いついたことをすぐにキャサリンにラインで伝えて、交渉を頼んだ。

「マスターも、遠坂の予測と危機管理は正しいと認めたらしい。

あっさりと、別の方法での支払いを認めたぞ。

「ありがたいわね。

で、それは何かしら？」

「まずは、……マスターの従者や仲間を相手にセイバーに戦闘訓練を依頼したいらしいな。

ただし、場所と時間はそちらの指示に従うそうだ。

『お前たちが登校している時間ならセイバーの時間も空いているだろうし、ライダーは桜の護衛として一緒に登校しているだろうか、そちらの希望に合うのでは?』と言ってきている。

もちろん、結論はお前たちが決めることだ。

……おつと、セイバーには『衛宮と遠坂にも口外禁止』という条件で、訓練相手の能力を信頼度に応じて明かしていくらしい。

当然、セイバーの視覚や聴覚の情報を遠坂が受けとるのも無しだ。『セイバーが私たちの能力の説明をするのは禁止だが、能力の危険性や有効性、私たちの信頼性について話すのは自由』だそうだ。

言うまでもないが、監視や盗聴、能力についてセイバーに質問をするのも禁止だがな。

これでどうだ?」

「……セイバーが手伝う内容としては、その辺が落としどころかしら?」

セイバーはどう思う?

……どうせ、士郎は賛成なんでしょうけど」

「ああ、そうだな。ここまで譲歩してくれたんだ。断る理由はないだろう?」

「私も同意します。

ライダーが離れ、しかも場所がここならば、私の能力で十分対応可能だと考えます。

いざとなれば、凜に令呪を使ってもらえば何があっても対応可能でしょう。

アーティファクト

仮契約カードでお互い召喚もできますし。

……もちろん、なにか良からぬことを実行しようとしたら、その時点で私自身が動けなくしますが」

そう言つて、セイバーはじろりとキャサリンを睨んだ。

もちろん、キャサリンはその程度の脅しなど全く気にしていなかった。

「じゃあ、それで決まりね」

こうして、対価の一部としてセイバーの訓練をつけられることになった。

といつても、セイバーが麻帆良世界に来ない以上、セイバーの訓練を受けられるのは僕の従者達しかないんだが。

……とりあえず、強敵との戦いを要求していたキャサリンと、同じセイバーであるアスナの二人の訓練を頼むかな。

契約内容は、

- ・遠坂凜、衛宮士郎、セイバーの3人全員と事前に会って、了承を得たメンバーのみがセイバーとの訓練に参加できる。

- ・訓練中に部外秘と説明した情報をセイバーは完全秘匿すること

- ・衛宮士郎が投影した小型全てアヴァロン遠き理想郷の複数貸し出し

- ・『セイバーの訓練』と『小型全てアヴァロン遠き理想郷の複数貸し出し』では、情報提供の対価として不足しているため、残りは別途検討

アヴァロン

全て遠き理想郷の貸し出しには凜も渋ったが、セイバーが「私が貸しても問題ないと思った相手にしか、小型全てアヴァロン遠き理想郷を貸し出さない」と言ってくれたため何とか許可がおりた。

とりあえず、仮許可ではあるが、キャサリンに対して一個貸してくれることになった。

元々僕は士郎、凜、桜を戦わせることは考えていなかった。

この三人はこの世界出身だし、僕の為に異世界で命を懸けて戦うほどの貸しはない。

桜を助けた貸しはメドゥーサが全部肩代わりするので、桜に対しての貸しもない。

そして、桜を死なせるようなことがあればメドゥーサが暴走するのは間違いないので、絶対に桜は僕たちの戦いに巻き込まない。

ついでにいうと、いくら強くても所詮この三人は人間であるわけ

だし、攻撃力とはかく守備力に不安がある。

アヴァロン
全て遠き理想郷とセイバーとの仮契約の組み合わせで、全員吸血鬼並みの回復力を持つているとは思うが、一撃で絶命してしまえばそれまでだしな。

まあ、後からわかったことだが、『世界扉を使った異世界への移動は、サーヴァントや夜天の騎士のみ可能』だったから、元々無理だったんだけど。

あと、サーヴァントは老化しないという特性もあり、セイバー自身が了解さえすれば、向こうの世界でいくらでも手伝ってもらうことが可能である。

そういうわけでセイバーだけを助っ人として借りたいと思っているわけだが、……これもどうやら不可能なようだ。

同じ理由で、月姫メンバーも、空の境界メンバーもパスである。

下手に接触して、封印指定にされたり、死徒とのトラブルに巻き込まれたりしたくない。

僕が二次創作のネタを考えていたときには、月姫メンバーと空の境界メンバーに接触して可能な限り戦力を増強した後に聖杯戦争に参戦したが、この状態でそれをするとなると、『異世界の存在や魔法の情報漏洩』やら『交渉失敗による紛争勃発』やら、『知ってはいけないことを知りすぎていることがばれることによる拷問や口封じ』やら、山のようにトラブルが発生しそうな気がする。

アヴァロン
あと、僕が投影できなかった投影全て遠き理想郷を借りられそうなのは僥倖である。

セイバーが魔力を供給してくれば吸血鬼並みの回復力なのは言うまでもないが、自分の魔力を注いでも、それなりの回復力があることが調査の結果判明した。

それを説明すると「なるほど。だから、俺が何回か魔術回路の生成に失敗しても死なずに済んだんだな」と士郎はこぼし、凜と桜か

ら盛大に叱られていた。

「そうそう、言い忘れていたが、^{アヴァロン}全て遠き理想郷には老化停滞の効果もあるそうだ。

セイバーは勝利すべき黄金の剣を抜いた時点で老化とは無縁の存在になったらしいから、意味のない効果だったようだがな。

……アーチャーはあれほど長身だが、^{アヴァロン}成長期がそろそろ終わりのはずの衛宮が平均的な身長なのは、全て遠き理想郷が体内にあることで『老化停滞』が影響を及ぼしたからではないか？

「言われてみれば、そうかもしれないな。……そっか、『老化停滞』の効果があつたのか。

そうだよな。アーチャーも長身だったし、俺もいずれば」

士郎は長身と言えない自分の身長を気にしていたのか、それを聞いて嬉しそうだった。

僕の持つ全てのネタを提供したおかげで、衛宮士郎を魔改造、いや超魔改造してしまったが、まあ聖杯世界は彼ら以外に関わるつもりもない。

彼らと敵対する理由もないし、問題ないだろう。

彼らの秘密は隠し通した上で戦力強化に成功すれば、桜の安全にも繋がってメドゥーサも安心できるしな。

それにより、メドゥーサの機嫌が良くなること、僕たちの仲間がセイバーに直接指導してもらえることで戦力アップが可能なことで満足するべきなんだろうな。

やはり、アルバイトとはいえ、セイバーという最優のサーヴァントを自分の戦力にしようというのが甘すぎたか。

こうしてキャサリンは、明日訓練のためにくることを伝え、メドゥーサを残して僕だけ麻帆良世界へ帰った。

最後に最大の落ちが一つ。

キャサリンは拠点に戻った後、麻帆良世界に戻ろうとしたのだが、
……なんと投影^{アヴァロン}全て遠き理想郷が世界扉を通れなかったのだ。

しまったー！！

投影した時点で確固たる実体を持っているから、アーティファクトとは違って異世界移動は無理だったのか。

色々試してみたが、結果は全て失敗で、諦めて拠点に投影^{アヴァ}全て遠き理想郷^{アロン}を置いて、キャサリンは麻帆良世界に戻ることになった。

やはり『現実^{アヴァ}は厳しく、僕の思い通りにはならない』と思い知らされた一日だった。

第14話 士郎達との再交渉（小学2年生 聖杯世界2月23日）（後書き）

【更新履歴】

2011・08・29 イリヤに対する『アーチャーの意識』につ
いての質問を追加
2011・09・05 『聖杯世界への移動は実体を持たないサー
ヴァントのような存在のみ可能』という設定に変更しました。

【備考】

アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）
アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミニアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

1996年7月22日（聖杯世界 2月23日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月22日（聖杯世界 2月23日）のメモ

1．士郎たちとの契約内容

- ・最初の約束通り、セイバーのアルバイトを認めないので、別の方法での支払いをする。
- ・別の方法の支払いとして、「衛宮邸の道場内でセイバーの訓練を受けること」と「セイバーが認めた人に、全て遠き理想郷を複数貸し出すこと」
- ・遠坂凜、衛宮士郎、セイバーの3人全員と事前に会って、了承を得たメンバーのみがセイバーとの訓練に参加できる。
- ・訓練中に部外秘と説明した情報をセイバーは完全秘匿すること
- ・『セイバーの訓練』と『小型全て遠き理想郷の複数貸し出し』では、情報提供の対価として不足しているため、残りは別途検討
- ・セイバーには衛宮と遠坂にも口外禁止という条件で、キャサリンたちの能力を明かす。
- ・監視や盗聴、キャサリンたちの能力についてセイバーに質問は禁止。
- ・キャサリンたちの能力の危険性や有効性、信頼性について話すのは自由。
- ・セイバー自身の感想などは、衛宮や遠坂に話してよい。

2．士郎たちの仮契約大会

主 × 従者 ≡ アーティファクト

衛宮士郎×セイバー≡騎士王の武具（アーサー王の武具一式：オリジナルより2ランクダウン）

衛宮士郎 × 遠坂凜 〓 ?
衛宮士郎 × 間桐桜 〓 ?

セイバー × 衛宮士郎 〓 ?
セイバー × 遠坂凜 〓 ?
セイバー × 間桐桜 〓 ?

遠坂凜 × 衛宮士郎 〓 ?
遠坂凜 × セイバー 〓 魔力のペンダント（触れるだけで任意に魔力の出入力が可能）
遠坂凜 × 間桐桜 〓 ?

間桐桜 × 衛宮士郎 〓 ?
間桐桜 × セイバー 〓 影の馬（影で作られた馬型の使い魔）
間桐桜 × 遠坂凜 〓 ?

騎士王の武具で、今までの魔力で編んだ鎧の代わりに【ウィガール】と【プライウエン】を装備して守備力アップと魔力節約。

魔力のペンダントに魔力を蓄えて、セイバーの唯一の弱点である魔力不足を解消というわけか。もっとも、セイバー自身は魔力を回復できないから、ほかの人に蓄えてもらう必要があるんだろうけど。影の馬を陸上で、【プライウエン】を水上で使い機動力アップ。

3・アルトリア

<パラメータ>
名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凜

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A
【全て遠き理想郷】：EX
アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）
【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）
【カリバーン】：B（剣）
【ロンゴミアド】：C（槍）
【カルンウェナン】：E（短剣）
【セクエンス】：E（剣）
【プライウエン】：C（盾、魔法の船）
【ウィガール】：D（鎖帷子）

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無毀なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）
：投影アーティファ

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
：投影アーティファ

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）
：投影アーティファ

小さな白い柄手（短剣）
：E（投影アーティ

妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

槍

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）

突き穿つ死翔の槍（対軍）
：B（投影宝具）

破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

鎖

天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓
：投影武具

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）

赤原獵犬
：C（投影宝具）

盾

蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

熾天覆う七つの円環
：B+（投影宝具）

魔法の船となりし聖盾（魔法の船）
：C（投影アーティ

兜

騎士王の兜
：D（投影アーティ

ファクト）NEW

鎧

英雄王の鎧のパーツ

：B（投影宝具）

ウイガール
騎士王の鎧（鎖帷子）

：D（投影アーティ

ファクト）NEW

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【精霊魔術】：D

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考

ステータスは『気』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A (ライダークラスのみA+)

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C (ライダークラスのみB)

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B (イリヤに貸し出し中)

【直感】：B

その他

【黄金律】：B (イリヤに貸し出し中)

宝具

【無限の剣製】：E } A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C (ライダークラスのみ)

B

【自己封印・暗黒神殿】：D - (ライダークラスの

みC -)

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B (A) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】 ：A +

保有スキル 【魔眼】 ：A +

【怪力】 ：B

【神性】 ：E -

【無窮の武錬】 ：A

【直感】 ：B

宝具 【騎英の手綱】 ：A +

【自己封印・暗黒神殿】 ：C -

【十二の試練】 ：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2. 相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術（知識のみ）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具
【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー
蛇刈る刺突剣

ミステルテイン
世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 B (A) 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】 : A

【騎乗】 : A

保有スキル 【魔法無効化】 : A

【咸卦法】 : A

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの○は、【咸卦法】使用時のステータ

ス

【夜の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：5歳（普段は16歳に変身）

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

【交渉相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト NEW

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）
【カリバーン】：B（剣）
【ロンゴミアード】：C（槍）
【カルンウェナン】：E（短剣）
【プライウエン】：C（盾、魔法の船）
【グースホワイト】：D（兜）
【ウィガール】：D（鎖帷子）

第15話 セイバーの訓練（小学2年生 聖杯世界2月24日）（前書き）

皆さんから『第二魔法の平行世界（異世界）への移動が簡単すぎる』という

指摘をいただきましたので、『聖杯世界へはサーヴァント（または、実体を持たない存在）しか移動できない』という設定に変更しました。

上記の理由により、第10話以降の大改訂を実施しました。

これにより、改訂前の登場キャラと比較して、『弱体化1名、未登場1名』という結果になりました。ご了承ください。

第15話 セイバーの訓練（小学2年生 聖杯世界2月24日）

【麻帆良世界】

朝、キャサリンとアスナが衛宮邸へ向かう準備をしていると、なぜかメドゥーサが麻帆良世界に戻ってきた。

「リョウ、あなたは落ち込んでいますか？」

「あつ、やっぱりわかるか。」

……うゝん、自分でも予想以上にセイバーのアルバイトが断られたことと、投影全て遠き理想郷がこっちに持つてくれなかったのがショックだったみたいなんだ。

ちよつと調子に乗りすぎてたかな？」

「その通りだと思いますよ。」

……正直最近のリョウはシンジに近い危うさを感じていました」
うげつ、そこまで危なかったのか？

「知つての通り、シンジは桜に譲られて私のマスターになりました。……自分の実力でないのに私のマスターになったことに浮かれたシンジは暴走し、自分の通う学園に結界を張らせ、無計画に結界を発動させた結果、私はキャスターのマスターに倒されました」

「それに近いものを僕に感じると？」

「はつきり言えばその通りです。」

普段からある程度気を付けてはいたようですが、イリヤを従者にするという目標は達していた為、かなり調子に乗っていたように見ええました。

……正直、今の段階で被害もない状態で、そのことに気付けたのは良かったと思いますよ」

そこまでメドゥーサに心配されていたとは。

……多分調子に乗っている僕に助言しても聞いてくれないと思わ

れたんだろうな。

いかなあ、思い返してみると、力を持って調子に乗った慎二そのものの行動を取ってるじゃないか。

神に愛されているわけではない僕は、ペルセウスみたいに最後まで成功するわけないんだから、そのことを肝に銘じておかないと。

……言峰と慎二の行動パターンと似ているって、とんでもない死亡フラグだろ、それ！

「メドゥーサ、指摘してくれてありがとう。

……自分でも気を付けるつもりだが、もし同じようなことをしたら、『セイバー勧誘の時と同じような状態です』と言ってくれ。

それならさすがに自分でも気づけるようだし、それすらも聞き入れないようならその時点でその僕は終わってるだろうしな。」

「私もそう思います」

メドゥーサは容赦なく即答した。

そして、少し微笑むと

「リヨウが愚かでないことを確認できてよかったです。

……多少調子に乗りやすいところはありますが、あなたは今のところいいマスターです。

願わくば、ずっといいマスターでありつづけて、私が安心して桜を守るようにしてください」

「わかってるよ。

だから、出し惜しみなしで、未来情報を基にした衛宮士郎強化計画を全部教えたんだしな。

……さすがに、麻帆良世界の魔法とかを教えるわけにはいかなかったけど」

「いくら私でもそこまで欲張りません。

麻帆良世界の魔法は、バクティオー仮契約さえ教えれば十分です。

……さすがに、あそこまでセイバーが強化されるとは予想できませんでしたが」

「サーヴァントクラスの能力を持つ僕たちのアーティファクトが規

格外だらけだったんだから、それぐらい予想しておくべきだったね。まあ、セイバーが強化されれば桜の安全性も高まるだろし、問題ないだろ？」

「ええ、士郎も桜を全力で守ってくれるそうですから、セイバーも一緒に守ってくれるでしょう。」

凜に加えて桜と士郎が魔力を供給することでセイバーの魔力不足も解消できそうですし、今のセイバーはほぼ弱点はないと言ってく、頼もしい存在です」

そうか。仮契約で3人から魔力供給が簡単にできるようになったし、凜以上の魔力量と魔力回復量がある桜が供給者として追加されたことで、そこまで戦力は向上したのか。

……うん、仮契約を教えてよかったな。

【聖杯世界】 2月24日（日） 聖杯戦争終了九日後

約束どおり、キャサリンが朝アスナを連れて衛宮邸を訪問すると、玄関で凜が硬直し、セイバーも警戒態勢を取っている。

士郎は不思議そうな顔をしていたがアスナを見て驚きのあまり声も出せないようだった。

事情を知っているメドゥーサと桜は傍観している。

まあ、無理もないか。

今のアスナはサーヴァントとしての能力を隠していない。

つまり、下記のパラメータが凜と士郎には見えているし、セイバーはアスナが同じサーヴァントであることを感じ取っているのだろう。

<凜視点のサーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 不明

ステータス 筋力 D 魔力 A +

耐久 D 幸運 C

敏捷 C 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

備考 ステータスは『戦いの歌』未使用時のもの

「どうということよ、これ!!」

なんで、セイバーがもう一人いるのよ」

思わず、と言った凜の叫びに、やっと驚愕から解放された士郎も警戒態勢を取って、凜の前に出た。

「昨日の約束通り、セイバーの訓練のため、顔合わせに來ただけだ。

……安心しろ。妙な真似をするつもりはない。

事情を説明するから、まずは話ができる場所に案内してくれ」

相変わらず偉そうに話すキャサリンに反論する内容が思いつけなかったのか、凜はしぶしぶキャサリンとアスナを案内した。

当然、セイバーは二人の行動を一瞬も見逃さずに見張っている。

「さて、事情を知りたいだろうからさつさと本題に入るぞ！

さつき凜が言った通り、アスナはセイバーのサーヴァントだ」

「そんな馬鹿な。聖杯戦争でセイバーと呼ばれたのは一人だけのはずだ。

……いや、第四次聖杯戦争のアーチャーが現界しつづけたって例外があっただけ、第四次聖杯戦争もセイバーが「ややこしいので、私のことはアルトリアでいいですよ」そうか。

第四次聖杯戦争もアルトリアがセイバーとして召喚されただろう？

まさか、第三次聖杯戦争以前の生き残りなのか？」

「さすがにそれはないぞ。」

焦らすのも面白いが、焦らし過ぎるとアルトリアに切れそうだからさっさと話そう。

……私のマスターがサーヴァントに興味があることは話したな。

アスナは聖杯戦争のサーヴァントとして召喚された存在ではない。

……偶然の要素が多かったが、封印された人格にサーヴァントという器を与えた存在が、この少女だ」

「ありえないわ、そんなこと!!」

「私も同感だな。」

……だがまあ、封印された人格ではないが、『技量だけは超一流の無名の侍』をアサシンとして召喚した例があっただろう。

あれのさらにイレギュラー版だと思えばいい。

マスターは『英霊の力』ではなく、『聖杯が英霊に与える、『サーヴァントのクラスとクラススキル』の力を手に入れることができないか研究していた。

その研究の成果が、このアスナという少女というわけだ。

……もつとも、さっき言った通り偶然の要素が多すぎて、マスタ

ー自身再現できるかわからない技術だがな」

「……もしかして、アーティファクトの力？」

「察しが良いな。……さすがは天才魔術師と言ったところか。

正解だよ。マスターはサーヴァントクラスの力の一部を使えるようになった。

そのマスターが、精神世界で封印された人格であるアスナと仮契^{バクティ}約をしたところ、アーティファクトの力でアスナがサーヴァントになったわけだ。

……まあ、パラメータを見ればわかるとおり、本物の英霊と比較すれば遥かに弱いし、当然宝具も持っていないがな」

「……あ、ありえない。」

確かに過去の侍がアサシンと召喚されていた以上、過去に死んだ

普通の人間を召喚して、サーヴァントクラスの力を与えることは理論上は可能よ。

でもそれは、聖杯がやったこと。

サーヴァントクラスの力を人の身のまま手に入れたり、あまつさえ他の人に与えるなんて！！！！

……まさかつ、他にも！？」

「いるぞ。

地縛霊の少女と仮契約をしたところ、やはりアーティファクトの力でサーヴァントになった。
バクティオー

そいつは魔術は使えないが、魔力適性が高かったせいでキャスターになった。

……安心しろ。サーヴァントはこれで打ち止めた。

セイバーのアスナに、キャスターとなった元地縛霊のさよの2人が、サーヴァントになったマスターの従者だよ。

キャスターの訓練はセイバーではできないだろうから今日は連れてこなかった」

「う、嘘でしょ？

封印された人格をセイバーにするだけじゃなくて、地縛霊までキャスターに？」

凜はありえないことを知らされて、動揺が収まらないようだった。

「遠坂。聖杯戦争だって、遠坂家と間桐家とアインツベルン家の三家で作ったんだろ？」

だったら、聖杯戦争の一部のサーヴァントクラスの力を手に入れるだけなら、誰かが真似したっておかしくないんじゃないか？

聖杯戦争のほんの一部の力だし、聖杯戦争っていう成功例がある以上、俺はあり得ると思うんだけど？」

「何言ってるの！

聖杯戦争は三家が総力を挙げて200年前に、……」

いきり立った凜は、そこで言葉を切ってしまった。

「そっか、聖杯戦争が始まってから200年経っているのよね。

それなら、……悔しいけど、聖杯戦争のシステムを解析、あるいは複製してその一部を手に入れた魔術師がいてもおかしくない、か認めるのは悔しいけどね」

いや、真つ当な手段じゃなくて、トリップによって手に入れたレア能力でコピーして、アーティファクトで偶然成功しただけだから、すごく心苦しいんですけどね。

「まだ、納得できないところもあるけど、とりあえずアスナがセイバーであることは認めるわ。」

で、目的は本当に訓練だけなの？」

「本当に訓練だけだ。」

まあ、今後偶然会ったときに敵と間違われて斬られないようにするための顔見せ、という意味もあるがな。

もちろん、セイバーのクラスに相応しく剣の才能があるから、剣の英雄に鍛えてもらうという意味もあるぞ」

「あゝ、もう約束したことだからしょうがないけど、なんでセイバーなんて存在をあつさりで見せるのよ。」

……確かにアルトリアには勝てないでしょうけど、サーヴァントである以上、普通の魔術師にとっては十分以上に脅威よ。

というか、対魔力：Aを持っている以上、魔術はほぼ効果がないとみていいわ。

あなたのマスターは一体何を考えているのよ……！」

「怒る気持ちは分からないでもないが、……多分考えるだけ無駄だぞ。」

マスターがお調子者で臆病者なのは話したが、ときどきものすごく大胆に行動するからな。

今回のことも、『アルトリアがアルバイトに来てくれない以上、多少情報をばらすことになってもアスナを強くするのが先決』だとか考えたのだろうよ。

もし、お前たちから情報が洩れたら『契約違反のペナルティを取り立てて、二度と接触しなければいい』ぐらいしか考えていないと

思っぞ」

まさしくその通りです。

最悪の事態になったら、僕らは接触を断ち、メドゥーサだけ聖杯世界と麻帆良世界を往復していればいいと思っていました。

だからって、アスナの存在をばらしたのは大胆すぎたかな？

「……もういいわ。」

なんとなくあなたのマスターの性格に予想がついてきた。

行動パターンや思考パターンを読もうとすると、こっちが疲れるだけの厄介な存在なのね」

「そうだな。」

必要以上の予想は疲れるだけだ。

マスターの行動に対して、その都度臨機応変に対応したほうが疲れないのは確かだぞ」

「そうさせてもらうわ。」

で、今日の訓練だけど、私たちも見学させてもらっていいかしら？」

パラメータを見せた以上、『魔法無効化能力』とアーティファクトさえ隠せば問題ないことを僕はキャサリンに伝えた。

「マスターは別に問題ないそうだ。」

もちろん、能力の一部は隠させてもらうがな」

「それでいいわ。」

じゃあ、道場へ行きましょう」

こうして、セイバーによるアスナの戦闘訓練が始まった。

「私の名は、アスナ。」

訓練をお願い」

「わかりました。私のことはアルトリアと呼んでください。訓練である以上容赦はしませんよ。」

全力で掛かってきてください」

「わかった」

二人は竹刀を持つと向き直った。

アスナには、キャサリンを通じて「魔法無効化能力」「咸卦法」「戦いの歌」の使用禁止を伝えてあるから絶対に勝てっこないが、それでもアスナがどこまでアルトリアを驚かすことができるか、実に楽しみである。

試合開始の合図と同時に、アスナは瞬動でアルトリアの一步手前の位置まで移動して攻撃を開始した。

さすがに初めて見る瞬動にアルトリアは驚いてはいたが、初回からきっちり躲し、二回目以降からはカウンターまで合わせてきて、アスナはうかつにアルトリアに向かって瞬動を使えないありさまだった。

……とどめに、アスナの瞬動を真似して、アルトリアが魔力放出を応用した瞬動を使い始めた時点でアスナは手も足もでなくなった。

そのうち、アルトリアに瞬動を教えてさらに恩を売るつもりだったが、アスナが使うのを見ただけで身に着けられるとは。

さすがは騎士王、おそるべき戦闘の天才と言えるだろう。

……まあ、魔力を一気に放出する瞬動術と、アルトリアの魔力放出は良く似ていて相性が良かったのもあるんだろうけど。

こうして、アスナの瞬動は通用しなくなり、逆に瞬動を使われ、経験も技量も身体能力も全部劣るアスナはセイバーに徹底的にこかれて戦闘訓練は終わった。

いや、「戦いの歌」や「咸卦法」を使えばまだまだ対抗できると思うけど、凜たちが見学している以上それは使えないしな。

訓練終了後、アスナがセイバーに全て遠き理想郷アヴァロンを使って傷の治療をもらっている時、セイバーは意外な言葉をもらした。

「正直、ここまであなたが戦えるとは思っていませんでした。

……それに、瞬動、でしたか。

あの技は非常に使える。

魔力の消費を抑えつつ、今まで以上の速度で戦闘が可能になりました。

瞬動により熟練することで、私はさらに強くなれそうです」

すでに今のセイバーは、半端なく強くなっていると思うんだが、……瞬動を縮地レベルまで極められたら、勝てる奴ってほとんどいないんじゃないか？

こうしてアスナは、「扱きがいのある存在が現れたこと」と「瞬動術を覚えられたこと」が嬉しいセイバーによってさらにしごかれた。

途中から訓練に参加した士郎と、セイバーと戦うことを希望したキャサリンも加わり、三人が動けなくなるまでセイバーの訓練は続いたのだった。

僕もそれをときどき確認しながら、さや伊リヤと一緒に麻帆良世界の魔法球内で訓練をしていたが、セイバーの厳しさは予想以上だった。

ここまで来たら隠す必要はない、とキャサリンに対して虚空瞬動を使う許可を出したのだが、それすらもセイバーがあっさりと覚えてしまったことにはさすがに驚いた。

セイバーの弱点の一つって空を飛べないことだからなあ。

空を駆け、空中で方向転換が可能になる虚空瞬動を覚えられたのは、僕の想像以上にセイバーの強化に繋がったのかもしれない。

夕食の時間が近づくと、桜が料理を作って、皆で食事を始めた。衛宮士郎、遠坂凜、間桐桜、セイバー、ライダー、藤村大河、そしてキャサリンとアスナの8人と大人数である。

メドゥーサは間桐家の遠い親戚として、キャサリンとアスナはそ

の付き添いとして紹介され、大河は特に気にすることもなく、楽しい食事の時間を過ごしていた。

凜は最初こそアスナのことを警戒している様子はあったが、セイバーとの訓練を見て、セイバーが警戒していないのを見て、そのうちそれほど警戒されなくなっていた。

食後みんなでのんびりと過ごした後、桜とメドゥーサの帰宅に合わせてキャサリンとアスナも帰宅した。

間桐家に帰ったところで、3人は麻帆良世界へ戻ってきた。

メドゥーサは、しばらくは桜の睡眠中は麻帆良世界に戻り、桜が起きている時は聖杯世界で過ごす生活を送るようだ。

麻帆良世界から聖杯世界への接続を切断すれば、聖杯世界の時間は流れないのと同じだから、メドゥーサの麻帆良世界での活動も全く問題ない。

桜が起きている間の時間は、魔法球内から聖杯世界に接続すれば、現実時間で1時間以内にメドゥーサは戻ってこれるしな。

こうして、まあ、なんとか『凜たちとの緩やかな協力体制を構築すること』に成功し、『メドゥーサの「桜を幸せにする」という願いを叶える環境の構築』にも成功した。

あとは、この状況を維持するだけだが、……さてうまくいくかなあ？

そんなことを考えつつ、僕は一日を終えた。

第15話 セイバーの訓練（小学2年生 聖杯世界2月24日）（後書き）

【更新履歴】

2011・10・05 元マスターも「サーヴァントのパラメータ
が見える」という内容に訂正しました。

1996年7月22日（聖杯世界 2月24日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年7月22日（聖杯世界 2月24日）のメモ

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

ゲート・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドライト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ

ハルベ

蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）：投影アーティファ

クト

カルンウェナン

小さな白い柄手（短剣）：E（投影アーティ

ファクト）

妖刀ひな（呪われた刀）：投影武具（メドウ

ーサ用)

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍(一撃必殺)

・C (投影宝具)

ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍(対軍)

・B (投影宝具)

ゲイ・ジャルグ
破魔の紅薔薇(魔力無効化)

・C (投影宝具)

ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇(不治の傷)

・C (投影宝具)

鎖

エルキドゥ
天の鎖(拘束&対神)

・A (投影宝具)

弓矢

エミヤの弓

・投影武具

カラドボルグ
偽・螺旋剣2(矢&爆弾)

・A (投影宝具)

フルンティンダ
赤原猟犬

・C (投影宝具)

盾

アイギス
蒼鏡の盾(センサー)

・D (投影宝具)

ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環

・B + (投影宝具)

フライウエン
魔法の船となりし聖盾(魔法の船)

・C (投影アーティ

ファクト)

兜

グースホワイト
騎士王の兜

・D (投影アーティ

ファクト)

鎧

英雄王の鎧のパーツ

・B (投影宝具)

ウィガール
騎士王の鎧(鎖帷子)

・D (投影アーティ

ファクト)

アーティファクト:

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【精霊魔術】：D

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳
能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A+ 宝具 A+

備考 ステータスの（ ）は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

宝具

備考

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

【騎英の手綱】：A+

【自己封印・暗黒神殿】：C-

【十二の試練】：C

ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術（知識のみ）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）NEW

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルベ

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C (B) 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 B (A) 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

アーティファクト

備考

【ハマノツルギ】

ステータスは『戦いの歌』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

ステータスの()は、【咸卦法】使用時のステータス

【夜の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア

闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【被保護者】

1. 間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：5歳（普段は16歳に变身）

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）
の投影宝具）

：EX（小物サイズ

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）
の投影宝具）

：EX（小物サイズ

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）アヴァロンNEW

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミニアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

第16話 少女たちの勧誘（小学2年生 1996年8月1日）

あれからは特に問題は起きておらず、アルトリアによる僕の従者達の訓練は順調に続いている。

さよも二回目の訪問からは、アスナたちと一緒に聖杯世界に行った。

で、さよが初めて衛宮邸を訪問した時、予想通り凜がまた切れた。

話には聞いていたが、やっぱりキャスターがいるという不条理に耐えられなかったらしい。

対価の一部として、桜に教えるのと一緒にさよにもガンドのやり方を教えてくれたのは助かったが。

<凜視点のサーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 不明

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 ?

クラス別能力 【陣地作成】 : A

 【道具作成】 : A

保有スキル 【念動力】 : A

 【憑依】 : C

 【浮遊】 : A

まあ、スキルや宝具を隠しているとはいえ、元幽霊ということで幽霊スキルについてはさよから話させたから、念動力や憑依のスキルや脅威だと思っているだろし、何より魔力A+は怖いだろうな。

……改めて考えると、対魔力Aのセイバーのアスナに、魔力A+のキャスターのさよがコンビを組めば、凜の手持ちの戦力ではアルトリア以外では対抗は不可能か。

ここまであつさり手札を見せたのだから、もっと信頼してくれると嬉しいんだけど、どんなもんかねえ。

あと、原作であつたアスナのラーニング能力のチートぶりを見せつけられることが発生した。

なんと、アルトリアの【魔力放出】を使っているところを見ていただけで、アスナ流の【魔力放出】を使えるようになってしまったのだ。

……これには僕も呆れた。完全な予想外である。
さすがはあつという間に咸卦法を覚えた公式チートのラーニング能力。

アルトリアも驚いてはいたが、元々素質溢れる生徒だと認識していたため、大喜びで【魔力放出】のコツを教えてくれた。

その結果、アスナはそれなりのレベルまで【魔力放出】のスキルが使えるまでになっていた。

「次は鎧の具現化を目指す」とアスナは宣言し、弟子の向上心にアルトリアも感心していたが、さすがにそれは厳しいんじゃないかなあ。

とはいえ、本当に鎧の具現化が可能になったら戦力アップは間違いないので、僕も心から応援した。

そういうわけで、アスナは『魔力放出を使いこなす訓練』と『魔力による鎧の具現化を可能にする訓練』に努力し、さよはアルトリア相手に『強力な前衛を近づけさせない訓練』をしている。

さよは攻撃魔法が苦手のため、魔法の矢と凜に教わったガンドぐらいしか攻撃手段がない。

これと光鷹翼を組み合わせて、『可能なら前衛を撃退、撃退が無

理なら味方の前衛がたどり着くまでの時間を稼ぐ』のが目標である。なにせ、アルトリアは対魔力Aでさよが使える魔法や魔術の効果が全くないため、傷つける心配なく遠慮なく全開でアルトリアに魔法攻撃を行うことができる。

最強クラスのアルトリア相手に訓練をすることはさよにとって最高の訓練になるだろう。

……アルトリアと同様にさよの攻撃魔法が効かない、僕、メドゥーサ、アスナ相手に訓練していたが、やはり騎士という戦闘の本職相手の訓練は効果が大きそうだ。

さよはアルトリアからのプレッシャーに耐え、がんばって攻撃をしたり、光鷹翼でアルトリアの攻撃を防いだりしており、アルトリアも適度に手加減しながら容赦なく攻撃をしかけていた。

キャサリンの方も、アスナたちと組んでアルトリアと戦ったり、キャサリン一人でアルトリアに挑んだり、大いに楽しんでいる様子だった。

メドゥーサに聞いたところ、「魔法球内における桜の訓練と成長も問題ない」とのことなので、聖杯世界に関わることは全く問題はない、と言いたところだったんだが実は問題が一件発生していた。

あの慎二が、なんと桜とメドゥーサに頭を下げて、「一緒に訓練をさせてくれ」と頼んできたらしい。

なんでも、「遠坂や衛宮に魔術を教わるのは絶対に嫌だし、かといって独学で魔術を学ぶのも限界がある」と悟ったらしい。

そこで、最後のつてである桜、というかメドゥーサに頼ったらしい。

メドゥーサは相当嫌だったらしいが、桜からのお願いもあり、しぶしぶ、本当にしぶしぶ慎二の魔法球内での訓練を許可したそう。過去の経緯が経緯だから、メドゥーサ先生に生徒である慎二は相

当いびられているらしいが、それでもきちんと魔術を学べる事が嬉しいらしく、慎二はがんばっているらしい。

……頼むから、桜にまた変なちょっかいかけて、こっちにトラブルの影響を及ぼさないでくれよ。

まあ、プライドを捨ててまで桜とメドゥーサに頭を下げる事ができただけ、人間として成長できたとは思っけど。

桜のご機嫌取りも兼ねて、さよに老化遅延の薬と老化遅延の解除薬を聖杯世界で作ってもらい、メドゥーサ経由で慎二に渡すことにした。

渡す判断はメドゥーサに任せているし、慎二の桜へ暴力のさらなる防止にもなると思う。

さよには、対価の一部として凜から材料を譲ってもらい、聖杯世界製の魔法球の作成も頼んでいる。

こっちは時間がかかりそう、とのことだ。

後で確認したところ、『老化遅延の薬と老化遅延の解除薬の提供』を報酬として、『桜を解放し、今後一切干渉せず、暴力を振るわないことの約束』に加えて、『桜が分からず、自分がうまく説明できないことについてのフォロー実施』を慎二に依頼したらしい。

メドゥーサはいくら魔術に詳しいとはいえ、この世界のこの時代についての知識は聖杯から渡された断片的なものでしかない。

この世界の常識とメドゥーサの知識の橋渡しを慎二に頼んだというわけだ。

意外にも慎二はそういうことが上手くできて、桜がより深く、より正しく理解できるようにフォローできているらしい。

もちろん、最低限の節度は守りつつも、桜が理解できないときは嘲りや皮肉を言うらしい。

ただ、今までとは違ってメドゥーサの目が光っているせいで、それらは正当かつメドゥーサの許容範囲内のものであり、当然ながら

完全に非暴力であるため、結果として優れた教師役をこなしているらしい。

……冗談半分だったが、まじでエルメロイ2世の後継者としていい指導者になれるかもしれないか。

これまたエルメロイ2世と同じく、本人は全然嬉しくないかもしれないけど、

あと、詳しく聞いてないが、僕が桜にアドバイスした通り、士郎から英霊エミヤの過去の詳細な聞き取り調査を実施し、全員で英霊エミヤがやったことの内容、方法、結果など全てにおいて評価を行い、「他にもっといい方法がなかったか？」とか「何で失敗したか？」などについて詳細な分析を行っているらしい。

君主視点のアルトリア、魔術師視点の凜、正義の味方視点の士郎、一般人視点の桜、第三者視点のメドゥーサと様々な視点を持つメンバーが揃っている為、様々な意見が出て色々な解決策が提案されているらしい。

これで、士郎の世界が広がり、「誰にも理解されない正義の味方」として自滅することがなければ、桜の機嫌も良くなり、メドゥーサの忠誠度もますますアップしてくれるんだがぁ。

まあ、凜ルートのグッドエンドである以上、凜とセイバーが士郎を破滅の道へ行かせるはずがないのだが、さてどうなることやら。

聖杯世界の方は必要以上関わっていないし特に問題も起きてないから現状維持で問題ないが、麻帆良世界における今後の方針は変える必要があると思っている。

聖杯戦争への干渉で、こっちは一切被害はなく済ませられたが、……増えた仲間はイリヤ（コピー）一人。

他に手にはいったのは、世界樹の種と、（ランサーの）ルーン魔術の知識、そして、アルトリアとの戦闘訓練の権利と、凜たちへのコネ。

確かに大きな成果とも言えるが、……最大の目標であったサーヴァントのスカウトや、アルトリアのアルバイト、投影アヴァロンの麻帆良世界への持ち込みは全て失敗に終わってしまった。

コピーとはいえ、膨大な魔力を生み出せるイリヤが仲間（従者）になったのは嬉しいが、戦力はまだまだ欲しい。

僕たちの弱点は、……やっぱり魔力供給者が少ないことだ。

僕とイリヤとキャサリンの3人なら魔力供給量はかなりのものになるが、魔改造サーヴァント一人とサーヴァントの一人への供給を考えると、強敵との戦闘時の場合、いざというときに魔力が足りなくなる可能性がある。（さよは世界樹からの供給があるので除外）

……もう一人、できればイリヤレベルの魔力保有者がほしい。

って、そんな存在、この世界にも数えるほどしかない。

すぐに思い当たる原作キャラである近衛木乃香は、家族と立場を考えるとスカウトするリスクは最悪と言っている。

しかし、うまく仲間にできれば『魔力供給役』兼『頼もしい回復役』となる。

当初の予定では、中学入学頃に接触を開始して、刹那との関係改善や魔法の情報提供を餌に交渉する予定だったが、早めに接触して可能なら仲間に引き込んでしまえばいいかもしれない。

世界扉を使っても刹那と会えることを餌にすれば、今からでも釣るのは簡単だろう。

いつからかは知らないが、中学時点で占いが得意でオカルト好きだったから、その嗜好をすでにもっていればより成功率は高くなるセットで、空飛ぶ侍少女がついてくる可能性も高いし。

……と今までの僕ならこのプランを実行して、交渉で丸め込んで有無を言わずに従者にするとところなんだが、……彼女たちはまだ8歳で幼いし経験不足だ。

今までみたいに取り引しようとしても、どう考えても僕に有利すぎる内容になってしまっただろう。

今は、『彼女たちに嘘偽りを一切話さず魔法関連の情報を提供し、彼女たちが望むなら一緒に訓練したりするレベル』で留めておいて勧誘まではせず、将来自分で判断できるだけの知識と実力と知性を身に着けたところ（中学入学ぐらい？）で、改めて仲間になるか尋ねるべきだろうか？

そして、仲間入りを断られても、それ以降も仲良く付き合っているように努力すれば、……後から保護者とかにとにかく言われる可能性は低くなるか？

関東魔法協会と関西呪術協会と強力なコネを持っているわけだから、個人的に強い繋がりを持てるだけでも、十分僕たちにとって利益になるだろう。

……一人で考えるとどうしても視野が狭くなり独善的になりやすいから、みんなと相談して方針を決めることにしとくか。

少し考えを整理した後、仲間全員を集めて相談したところ、意外にも全員から異議なしで賛同を得られた。

そして、「子供を洗脳まがいの説得や交渉で勧誘するのは論外だ」とも言われた。

だから、僕の『原則として、中学入学までは情報提供と夢の中で一緒に訓練をするだけ』というプランのはぎりぎりセーフだったらしい。

……今まで勧誘したのは、50年ぐらい地縛霊をやっていたさよ、100歳以上のアスナ、18歳のイリヤ、年齢不詳だが600歳のエヴァの記憶を持つキャサリンといずれも精神的に成人していた存

在ばかりだったし、当然といえば当然だったな。

方針転換して正解だったということか。

……今まで通りやってたら、「8歳に女の子に対してひどすぎる」とか非難の的だったな、間違いないく。

思いつくまま行動しないでよかった。心からそう思った。

念の為世界扉で偵察した結果、木乃香と刹那は朱雀や未知のトリッパーらしき存在との関わりがなさそうだったので、今夜接触することに決定した。

すでにお約束となっているが、今回も世界扉を木乃香の部屋に続き、監視などが無いことを確認した後、自己封印・暗黒神殿に木乃香の精神を取り込んだ。

中には当然、僕の従者達全員が待っている。（キャサリンも面白半分に参加）

「うち、部屋で寝とったはずやけど、ここはどこやろか？」

「こんばんは、木乃香ちゃん。

初めまして、私の名前は相坂さよよ。

ここは夢の世界。木乃香ちゃんと仲良くなろうと思って招待したのよ。

……迷惑だったかしら？」

木乃香への説明は、さよに任せた。

僕の従者達の中で一番心優しく、かつ無口でないので、木乃香の相手に一番適役だと考えたからだ。

実際、木乃香はさよの紹介と説明を聞いて笑顔になっている。

「そうやったの。

うちは、近衛木乃香。

さよさん、よろしくな」

そう言つと、木乃香はきよるきよると辺りを見回した。

現在夢の世界の風景は、夢の世界らしく、ありえないほど美しい風景を、ということで、メドゥーサがかつて暮らしていた『形なき

島』の風景を使っている。もちろん、石像とかは取り除いてある風景だ。

計画通り、木乃香はこの素晴らしい風景に心を奪われているようだ。

「なあなあ、ここが夢の世界なら、何でも思い通りにできるん？」

「大抵のことはできるよ。」

「……そうだね、例えば」

そう言つて、僕は周りの風景を、わかりやすいディズニーランドに変えてみせた。

「うわー、あれディズニーランドでしょ、すごい、すごい！」

夢の世界だとあっさりと受け入れた木乃香は、大喜びのようだった。

これなら問題ないと判断して、そのまま皆ディズニーランドで遊ぶことにした。

もっとも、木乃香、さよ、アスナ、イリヤ、キャサリンの5人が大はしゃぎで遊んで、僕とメドゥーサは子供たちに引きずられる保護者のような感じだったけど。

こうして、夢の中で思う存分遊んだ後、また明日の夜に夢の中に招待することを約束して木乃香と別れた。

……多分、あの様子なら楽しい夢を見たことは話しても、僕たちのことを親に話すことはないだろう。

実際、次の日の夜に木乃香の部屋を世界扉で覗いたとき、時に監視や呪術による結界などが存在する様子はなかった。

……メドゥーサによると部屋の周辺には呪術らしき反応が感じられるが、これは以前からなので木乃香と夢で遊んでいることはばれていないようだ。

こんな感じで、8歳時点でオカルト好きの嗜好を持っていた夢の世界で思う存分不思議な経験ができてご満悦の木乃香と、木乃香と一緒に（夢の世界で）海へ行ったり、山へ行ったり、グアムへ行つ

たり、ハワイへ行ったり、形なき島へ行ったり、とまさしく夢の大旅行だった。

何せ夢だからな。この世界にいる誰かの記憶さえあればやりたい放題である。

もちろん、木乃香の故郷である京都へも（夢の世界で）行って、木乃香に京都を案内してもらった。

これで、木乃香はお客さんとしての立場でなく、友達として溶け込めたと思う。

かわいい女の子にはまず飴で攻める。

この方針は大成功だったようだ。

毎晩夢の中で思う存分遊ぶことを一週間ぐらい繰り返して、木乃香が僕たちを十分に信用してくれたと見た僕は、木乃香に詳しい事情を話すことを決めた。

いきなり真面目に話したいことがあると言ってきた僕に木乃香は戸惑っていたが、本気であることを察したのか、真面目に聞いてくれた。

木乃香に説明したこと

- ・魔法や呪術や神鳴流の存在
- ・僕たちは、魔法使いや人ならざる存在であること。
- ・関東魔法協会と関西呪術協会の存在
- ・木乃香が『極東最強の魔力の持ち主』になれる素質を持っていること。
- ・木乃香の父親の方針で、木乃香は魔法や呪術に関して一切教えられていない。

「なあなあ、それならうち、魔法や呪術を使えるの？」

裏の事情を聞いた木乃香の最初の質問はそれだった。

やっぱり木乃香はこの年からオカルトが大好きだったんだな。

「ああ、多少は訓練が必要だけど、木乃香ちゃんは魔法の才能があるから、普通の人より早く使えるようになるよ。」

呪術と神鳴流の才能は、僕には分からないけどね。

……それから、仮契約バクティオーという儀式があつて、仮契約バクティオーの魔法陣の上でキスするだけで、アーティファクトっていう特殊な魔法具を手に入れられることがある。

才能が多い木乃香ちゃんならその可能性がすごく高い。

それを使いこなせば、魔法使いの端くれにはなれるかな。

……もちろん、魔法使い見習いだけだね」

「やる。」

アーティファクトが手に入るなら、うち仮契約バクティオーをする。

……八神さんとキスすればええの？」

木乃香は全く抵抗なく、自分から依頼してきた。

まだ子供だからキスも抵抗がないのかな？

「あゝ、ちよつと待った。」

木乃香ちゃんだけで判断しちゃうと、後で騙されたとか、洗脳したとか言ってくる人がいそうなんだ。

だから、木乃香ちゃんが信頼できて、相手も木乃香ちゃんを信頼している人と話してから決めてくれないかな」

「でも、お父様もお爺さまもうちに魔法のことは内緒にしてるでしょ？」

「そうだね。」

ちよつと君の知り合いを調べさせてもらっただけど、幼馴染の刹那ちゃんが今神鳴流を習っているらしいんだ。

……多分呪術や魔法について教わってると思うよ」

「せっちゃんか？」

「多分ね。」

本人の意志とか、君のお父さんの意志とかもあつて、刹那ちゃんは将来君の護衛になるつもりらしいよ」

「ほんま？」

せつちゃんと一緒にいられるのは嬉しいけど、……うち、せつちゃんに迷惑を掛けとうない」

いきなり知らされた事実、木乃香は嬉しいと同時に迷惑をかけるしてしまうことを気にしているらしい。

「刹那ちゃんが木乃香ちゃんの護衛になるのはお父さんたちの意向で決定済みだから、あとは木乃香ちゃんが力をつけて足を引つ張らないように、自衛できるだけの技術と力を身に付ければどうかな？

まあ、そういうことも含めて、刹那ちゃんと話してみたら？

最近会ってないんだろ」

「うん、せつちゃんと会えなくて寂しかったわ。

お願いします」

善（？）は急げ。

木乃香の気持ち変わらないうちに、ということ、刹那が下宿している家にもう一つの世界扉をつなぎ、刹那の意識も夢に取り込んだ。

「こ、ここは？」

幼くともさすがは神鳴流剣士。すぐに状況の確認を行った。

「せつちゃん、久しぶり。会えて嬉しいわ」

言葉と同時に木乃香は刹那に抱き着いた。

「こ、このちゃん。このちゃんは関東へ行かれていますのでは？」

「うん、今も麻帆良市におるんよ。

ここは夢の中で、あの人たちの力でせつちゃんと会えたんよ」

木乃香は刹那に抱き着いたまま、この一週間にあったこと、僕たちに教わったことなど大体の事情を刹那に説明した。

「そのような怪しいものたちを信用してはいけません。

お気を付けてください」

やっぱりそうだったか。

まあ、護衛として育てられているなら間違いなくそういう結論になるよなあ。

「せつちゃんならそない言つと思つとったわ。

せやから、せつちゃんの口からこの世界の隠されたことやうちのことについて教えてゝな」

「し、しかし……」

「せつちゃんから教えてくれへんと、うちはあの人たちから教えてくれたことしか知れへんことになるのよ。

それでええの？

木乃香の言う通りで反論の内容が思いつかなかったのか、刹那は少し悩んだ後、木乃香に向き直った。

「わ、わかりました。

それでは、二人きりで話したいのですが」

「うん、あそこなら二人つきりになれるわ」

そして二人は木乃香と刹那の相談用として念のため作っておいた小屋に入って行った。

僕たちは、事前に調査しておいた刹那の予想される性格と、さっきの言動からこの後の刹那の反応を予想していた。

「木乃香ちゃんに押しきられて、刹那ちゃんはこの夢の世界での訓練に参加する」

と僕は予想した。原作知識があるから当然だな。

さよは逆に刹那が木乃香を説得して、もう一緒に遊べないかもしれない、と予想して悲しんでいた。

「本当に木乃香のことを大事に思っていて、状況をきちんと理解できるなら、私たちと一緒に行動するしか選択肢がないとわかるはず」

アスナは簡潔に答え、メドゥーサは頷いた。

「そうなのか？」

「そう。木乃香は私たちから魔法関係のことをすでに聞いている。

木乃香の記憶を封印しない限り、木乃香が魔法関連についてさらに知れたがるのは当然。

……そして、刹那が木乃香を大事に思っているなら、木乃香が望

まない記憶封印なんてできるはずがない」

まあ、そうだな。

アスナは記憶封印されてしまったわけだが、木乃香の場合記憶封印してもしなくても危険度は大差ない、というか、記憶封印したほうが危険という状況だな。

「それから、木乃香と刹那はこの夢の世界に精神が取り込まれているけど、刹那は一切抵抗できず気づいたらこの世界にいたわけだし、ある程度強ければ私たちと戦っても勝ち目がないことはすぐにわかるはず。」

木乃香に危害も加えず、洗脳もしていないこの状況なら『状況が変化するまで木乃香を守りながら様子見』という選択肢しかないことに思い至るはず」

さすがは聡明なアスナ、見事な推理だな。

最後にキャサリンはアスナの説明に補足を加えた。

「アスナの言うとおりだな。

木乃香に危害が加えられているのならともかく、そうでないのなら現状維持しか選択肢はない。

……それ以外の選択肢を取るようなら、護衛の資格はないだろう。人生はいつも準備不足の連続だ。

準備不足で最善の選択肢を選べなかった、というのは言い訳にはならない。

……特にそれが一生を左右する選択ならな」

相変わらず厳しいが、正しい意見である。

さすがにエヴァの記憶を持っているだけのことはある。

「私も同感。

……刹那は私たちに内緒で木乃香の父親に事情を話したいと思うけど、下手に話して私たちを怒らせると木乃香の身が危険になるからそれできないと思う」

刹那に選択肢は残されておらず、無理やり別の選択肢を選べば『護衛として無能』と評価されるわけか。

…… 自覚してなかったけど、僕は刹那を完全に嵌めてたわけか。
可哀想なことをしちゃったな。

木乃香の希望を全て認めるようなら、刹那に優しくしてやろう。

そんなことを話していると、木乃香と刹那が仲良く並んで小屋から出てきた。

もっとも、木乃香は満面の笑みだが、刹那は複雑な表情であるところを見ると、刹那にとって不本意な結論になったのだろう。

「二人での話はもういいのかい？」

「うん、せっちゃんからもおおまかなことは教えてもらうたわ。」

全部、遼さんに教えてもらったことと同じやったわ」

そう言った木乃香は、刹那から教えてもらった情報と一致したこともあり、僕たちのことをさらに信頼したようだった。

「そうか、それはよかった。」

でも、刹那ちゃんは納得してないみたいだけど？」

そう、刹那は黙って僕たちを睨んでいたのだ。

「まあいいや、とりあえずこっちのメンバーを紹介するよ」

そして、まずは僕を、次にメドゥーサを紹介した時点で、刹那が切れた。

…… まあ、『僕が召喚したギリシャ神話に出てくるあのメドゥーサ本人』と言われれば、僕たちのことを信じきっているか、よほどの大物でない限り切れてもおかしくない。

両方該当しそうな木乃香は、一切疑わずに信じており、メドゥーサに気に入られている。

その結果、ペガサスに乗せてもらえるという機会も得られ、ものすごくメドゥーサに懐いている。

「ふざけるな。よりにもよってメドゥーサだと！」

そんなものをお前ごときが召喚できるわけがないし、万が一召喚

できたとして大人しく従うはずがない。

第一、髪は普通ではないか！」

いやいや、僕も令呪を持っていなかったからメドゥーサを召喚するなんて奇跡を起こせたはずがないから、その怒りは当然だよな。

「特殊な召喚だったせいで外見は魔獣にされる前の女神だったころの姿だけど、石化の魔眼はちゃんと持つてるから怒らせないほうがいいよ」

「まだ言うか！

そこまで言うのなら、魔眼を見せてみる！！」

本人の承諾も得たし、リクエストに応えてみるか。

しかし、そこまで言うとなると、僕たちと自分の力の差が分かっていないのだろうか？

……そうだとすると、護衛失格だなあ。

「じゃあ、論より証拠。

君は幼くても神鳴流の剣士なんだろう？

戦ってみればすぐにホントかどうか分かるはずだ。

メドゥーサ、傷をつけず、痛めつけず、君が本物であることを思い知らせてやってよ。

……ああ、怖がらせるぐらいならいいけど、トラウマまでは作らないように」

「了解しました

……刹那、いつでもいいですよ」

「舐めるな！」

刹那は叫ぶと同時に切りかかったが、あっさりとメドゥーサにかわされる

いくら振り回してもすべてかわされると思ったら、今度は真剣白羽取りをあっさりと指二本でやってのけ、しかも指でがつちりと押さえたのか刹那は刀を動かせなくなってしまった。

諦めずに刀を解放させようとする刹那に対して、

「最後まで諦めない根性は認めますが、世の中には努力や根性だけ

ではどうしようもできないことがあることを理解しなさい」

メドゥーサは静かに言って、物凄く威力を抑えた石化の魔眼を解放した。

とうぜん、刹那は足からゆっくりと石化を始めた。

「あ、ああ、ああああ!!」

石化されて初めて恐怖を見せた刹那だったが、涙目になりながらも刀を構え、まだ諦めていないようだった。

「おいおい、やりすぎは駄目だろ？」

「少しやりすぎましたか、……申し訳ありません」

メドゥーサは僕に謝ったが、すぐには刹那を解放しなかった。

「さて、お分かりになりましたか？」

私たちは力づくで、あなたたちを従えることは簡単なのです。

しかし、正しい情報を提供し、貴女たちが自分で自分の身を守る強さを身に着ける手伝いをしてあげたいと思っているだけです」

「そんな言葉が信じられるか!」

「信じられないのは結構ですが、ではどういう対策をあなたは取れますか？」

言葉や理念も大事ですが、実行力がないと意味がないですよ」

そう言われた後、石化の魔眼を解除されたが、刹那はその場から動かなかった。

慌てて木乃香が駆け寄り、刹那を抱きしめて慰めている。

「おいおい、確かに力量差を見極められかつたし護衛失格かもしれないけど、8歳の子供に言いすぎじゃないか？」

幸いにも今回のことは誤解だったわけだし、次に失敗しないようにすればいいだろ?」

まあ、相手が自分より強いかどうか判断して、自分より強いなら護衛対象を連れて逃げられるか逃げられないか見極めて、逃げられそうもないなら会話で時間を稼ぐとか、本当に相手は敵なのかどうか確認するとか、を護衛ならするべきだろうけど、やっぱり8歳には難しすぎたか。

僕が8歳のときにしろって言われたら、絶対に失敗する自信はあるし。

ちなみに今の僕の場合、『相手が自分より強いか、弱いか、同じぐらいか?』ぐらいは見てわかるようになったが、自分より強い相手の場合、『逃げられるか、逃げられないか?』の判断はまだできない。

……というか、そうなった場合、僕は『全力で逃げの一手』だから判断する必要がないともいうけど。

「メドゥーサさん、なんぼなんでもやりすぎや」

刹那が落着いたところで、木乃香はメドゥーサを非難した。

「訓練だから少しやりすぎるぐらいでいいですよ。」

もし、私たちが本当に木乃香ちゃんを攫う存在だった場合、木乃香ちゃんを守るどころか何もできずに終わった、ということを身に染みて理解できたでしょう。

これを教訓にすれば、今後似たようなことが実際に起きた場合に、今よりましな対応がとれます」

「そやん?」

人を疑うことを知らない純粋な木乃香は、そのまま刹那に尋ねた。
「……悔しいですが、その通りです。」

今回のことを教訓にして、二度と同じようなことはしません。

……少なくとも、勝ち目のない相手に自分から喧嘩を売った拳句に戦闘不能となり、このちゃんを守れなくなるような無様な真似は二度と晒しません」

「うん、おおきにな。」

でも、無茶しちゃうやよ」

刹那も相当悔しそうだ、学ぶべきところは学んでいるらしい。

元地縛霊のさよ、元封印された人格のアスナ、元ホムンクルスのイリヤ、元人造霊のキャサリン紹介は特にトラブルもなく終了した。

女性陣はアスナ以外の全員が元人外で、現在全員人外（魔力生命体）だと知り、刹那は動揺を隠せない様子だった。

……ちなみに、さすがに刹那が半妖であることは木乃香には話していません。それはやりすぎだと思っただしね。

「これで僕たちの仲間は全員だよ。」

「あなたの仲間は、本当に全員人間ではないのですか？」

「ああ、そうだよ。」

でも、皆喧嘩を売られない限り、無闇に争いごとを起こしたりはしない。

……実際、怖くないだろ？」

「うん、みんな親切よ」

「刹那ちゃんはどうだい？」

「確かに、さっきのことは、私が信用しないのが原因であり、徹底的に手加減されていました。」

……ですが、やはり、信用できません」

「まあ、すぐに信じるっていう方が無理だしな。」

でも、君が信じられなくても、君が信じる木乃香ちゃんの判断を信じることはできるだろ？」

木乃香ちゃんは直感もあるけど、きちんと根拠を示して判断の理由を説明してくれるだろうし」

さっきとは違い、メドウスに完敗して多少は冷静になれたのか、こっちの言い分もある程度受け入れて考えている様子だった。

「少し、考える時間と、このちゃんと話す時間をください」

「どうぞどうぞ、いくらでも二人で話してくれ」

こうして、刹那は再び木乃香を連れて小屋に入って行った。

数年ぶりに会ったということもあり、お互いの近況報告から、今後の方針など、木乃香と刹那は幅広いことを遠慮なく話しているようだった。

シヨック療法で、『いやでも刹那が木乃香を守らなければいけな

い状況』に追い込んだのは正解だったみたいだな。

これなら原作開始時点のような、二人のよそよそしい関係など発生するはずもないだろう。

しばらく時間が経った後、十分話し終えた二人が戻ってきたので、今後の方針を決める材料として客観的事実をお互い確認することにした。

近衛木乃香に関する裏の世界での常識

- ・ 関東魔法協会の会長の孫
- ・ 関西呪術協会の長であるサムライマスターの娘
- ・ 『極東最強の魔力の持ち主』になれる素質を持っている。そしてこのことが魔法関係者に広く知れ渡っている。
- ・ 親の方針で、魔法や呪術に関して一切教えられていないが、関東魔法協会がある麻帆良学園に預けられている。

上記の内容については、刹那も完全に同意したため、木乃香はこの情報を完全に信用したようだった。

「うちのことがこれだけ有名なのは危険ではおまへん？」

「いえ、間違いなく危険です。」

ですから、このちゃんには関東魔法協会の本拠地である麻帆良学園に住まれ、さらに護衛が着いていますし、将来私がこのちゃんを守れるように現在訓練中です。

……このような心配をこのちゃんにさせたくないのも、長は呪術関連のことをこのちゃんに秘密にしていたのです」

「親として、『子供の精神的負担を与えたくなかった』という気持ちは分かるけど、金持ちの子供なら営利誘拐の可能性があるので、政治家の子供なら逆恨みで誘拐や襲われる可能性があることを教え

るように、木乃香ちゃんにも教えるべきだったと僕は思うけどね。

特に木乃香ちゃんの場合、立場もそうだけど、木乃香ちゃん自身に莫大な価値があるから、脅迫とか身代金要求の連絡が全くなく木乃香ちゃんだけが攫われる可能性もある。

そうになると、木乃香ちゃんを探し出す難易度が上がっちゃうだろう？」

「それをさせないために、護衛をつけています」

「うん、木乃香ちゃんのお父さんとお爺さんが、木乃香ちゃんに護衛を付けているのは知っているよ。」

でも、木乃香ちゃん自身が狙われている自覚が無くて、護身術どころか、狙われたときの対策とか心構えを全く教わっていない状態で、どんな敵に対してもいかなるときも絶対に守りきれると君は宣言できるのかい？」

「……そ、それは」

ある程度護衛としての教育は受けていたのか、刹那は何も言えなくなっただ。

よく考えると、精神だけとはいえ、現在木乃香は拐われているんだよな。

「そこまで言うのなら、あなたなら対策を持っているのですか？」

「ああ、あるよ」

「なっ！！」

あっさりと答えた僕に、刹那は驚きのあまり声が出ないようだった。

「ただし、過去なら使えた策が多くて、今からじゃ使えないのが多いけどね」

「どんな方法なの？」

「うち、知りたいわ」

「いいよ。」

ただし、かなり非情な策もあるので、そのつもりで聞いてね。

一つ目は、近衛詠春の娘は死産したことにして、親しかつ信頼できる人の養子に出す。

もちろん、極秘にだ。

こうすれば、魔法協会や呪術協会のトップの親族という立場からは解放される。

魔力の方も、普段はアイテムで封じていれば目立つこともないし、平凡だけど幸せな人生を送る可能性は相当高くなったと思う。

……ああ、もちろん、親しくしている人に会いに行くついでに養子に出した子にも会いに行くのはありだね。

真実が明らかにならないレベルで、という条件は当然付くけど」

これは、マブラヴの冥夜方式の変形版である。

本来なら、養子に出した後死ぬまで会わないのが一番だが、さすがにそれは受け入れられないだろうしな。

「うーん、確かにそれならうちは平穏な生活を送れたかもしれへんけど、お父様やお母様と別れて暮らすのはいやや」

「その通りです。」

このちゃんをご両親から引き離すなど言語道断です」

この案には、木乃香も顔を顰め、刹那もばつさりと否定した。

まあ、親子を引き離す非情の策だから当然だね。

「分かっているよ、この策はこういう方法もあると言ってみただけだ。」

二つ目は、木乃香ちゃんが生まれてからすぐに魔力封じのアイテムをずっとつけさせて、素質は平凡だと嘘の情報を流す。

呪術や魔法関連に絶対に関わらせないつもりなら、死ぬまで解けない封印を掛けて魔力を封じるのもありだね。

こうすれば、権力者の親族という理由で狙われることはあっても、魔力タンクとして狙われることは防げる。

で、永久封印をしていない場合は、将来木乃香ちゃん自身が魔法に関わるかどうか選択できるというメリットがある」

「確かにそうやな。

死ぬまで解けへん封印は嫌やけど、アイテムで魔力を隠しておけばずっと安全やな。

……なんで、お父様はその方法を取らなかったん？

せつちゃん、何や知ってる？」

「申し訳ありません。

なぜ、このちゃんの素質を隠さなかったかについて聞いたことはございません。

……ですが、このちゃんの素質を隠し通していれば、狙われる可能性が低くなつたのは間違いない、ですね」

「勝手な予想だけど、近衛詠春さんって、超一流の剣士ではあっても、情報戦とか調略戦とか苦手そうだからね。

信頼できる親しい人にも、そういうのが得意な人がいなくて、今言つたことを考えつかず、教えてくれる人もいなかったんじゃないかな？」

アルビレオ・イマとか、ガトウとか、アリカあたりなら考え付いただろうけど、木乃香が生まれたときにそばにいなかったんだろくなあ。

詠春が組織運営者としてレベルが低いのは、原作でスクナ復活を許した時点で明らかだしな。

……ああ、類い希な魔法の素質を活かしたいと考えた近衛近右衛門の策略でばらされた可能性もあるか。

よく考えれば僕程度がすぐに考え付くことを、あの古狸が考え付かないわけがなかったな。

「お父様は嘘とか隠し事とか下手やからなあ」

「……失礼ながら、私にも否定できません」

木乃香と刹那にも納得されてしまったところを見ると、詠春についでに僕の予想は大正解だったらしい。

あとは、学園長が何を考えてどう動いたかが気になるな。

「最後のプランが、僕がやろうとしていること。

狙われることが防げないなら、強力な護衛をつけるのはもちろんだけど、狙われている人自身が自分と自分の大切な人を守れるだけの力と知識を身に付けてもらう。」

木乃香ちゃん自身が護衛と協力して襲ってきた奴らを撃退できるようになれば、危険性は相当下がる。

……当然、木乃香ちゃんは修行をする必要はあるし、狙われていると認識するから精神的負担も増える。

その代わり、護衛の負担は減らせるし、木乃香ちゃん自身がものすごく強くなつて襲撃するリスクとデメリットが大きくなれば、襲撃が減る可能性もある。

特に、護衛の負傷や負担を気にしそうな優しい性格の持ち主なら、自分の努力で少しでも護衛の負担が減らせるから、精神的負担は軽くなるね。

防御とか治療の呪術や魔法を覚えておいて、護衛の指示に従つてうまく使いこなせればなお有効だね」

つまりはクロノアイズ方式である。

木乃香みたいな性格で、才能豊かな人なら一番これが合ってるんじゃないかな？

「うち、それがええわ。」

護衛の人に迷惑を掛けへんようにサポートして、治療ができるようになってたい」

「このちゃんをできるだけ争いに巻き込みたくないのですが、……狙われることが確実である以上、それしか、ありませんか」

刹那はものすごく悔しそうだった。

しかし、感情を抑え、その結論を受け入れたことは僕たちの中で刹那の評価を上方修正していた。

『極東最大の魔力保有量を持つ素質があつて、さらに関東魔法協会のトップの孫で、関西呪術協会のトップの娘』ということが有名

になっている時点で他の選択肢はないんだよなあ。

だからと言って、僕たちと一緒に修行するのが正しいかどうかは別問題だけだね。

「さて、情報交換もすんだし、今日はここまでにしとこう。
続きはまた明日ってことで。」

二人はこの世界から出たいと強く思うか、この世界で眠りについて現実世界に戻るように設定しとくから、気がすむまで二人で話し合えばいい。

……ああ、なんか聞きたいことがあれば大声で呼び掛けてくれればメドゥーサが対応するから。」

二人とも今後の方針について話し合いたいだろ？」

僕の提案に即木乃香が賛成した為、刹那が流されている可能性も否定できない。

じっくり話し合い、一日経ってそれでも同じ意見なら、後悔したり、気が変わったりする可能性は低くなると思う。

「そうだ。この世界は夢の中だから、いくら時間を過ごしても、目が覚めるのは明日の朝だから安心して」

あと言い忘れていることはないか？

「そうそう、目が覚めてからこのことを詠春さんとかに話すのは自由だけど、証拠は一切ないし、魔法関連を内緒にしている木乃香ちゃんに確認できないから、止めといた方がいいよ。」

……もちろん、最終的にどうするかは自由だけど。」

提案だけど、ここであつたことが本当のことか確信がもてないだろうから、現実に戻ってから電話で確認したら？

ここでお互いの電話番号を教えあっておけばいいだろう？」

「いい考えやわ。」

せつちゃん、電話番号を教えて？」

「あ、あの、うちは下宿しているので、このちゃんから電話をもらうと目立ってしまつて」

「だったら刹那ちゃんから木乃香へ電話を掛ければいい。」

で、約束の時間までに掛かってこなかったら木乃香の方から掛ければいい」

「……そ、そんな」

「がんばれ、木乃香。」

刹那と現実で会話できるかどうかはお前のがんばり次第だぞ」

「うん、うちがんばる」

「盗聴はないと思うけど、近くで聞き耳をたてている人がいるかもしれないから、世間話以外のこの夢の話は最小限にね。」

下手にばれたり怪しまれたりすると、夢の世界に呼べなくなるかもしれないからね」

「わかった。」

絶対に内緒にする」

「せっちゃんも協力をお願いな。」

し、しかし、このちゃんの身の安全を考えると

ならせっちゃんが、夢の中でもずっと一緒にいてくれれば安心でしょう？」

まだ二人は話していたが、言うことも尽きたし、僕たちは二人を置いて現実世界に戻ることにした。

メドゥーサに後で確認したところ、二人はあの後も相当長い時間話してから夢の世界から出ていったらしい。

いちやついてた時間も結構あったらしいけど。

仲の良かった幼馴染みが久しぶりに会ったし、色々話すことがあったから無理ないか。

さて、彼女たちの最終回答は明日の予定。

こっちは可能な限り誠実に対応して、嘘も吐かず、怪しいことも

一切しなかった。

……刹那に対してはきつかったかもしれないけど、正論しか言っていないし、問題ないよな。

メドゥーサとかアスナとかの情報を話されると面倒だけど、……まあ、『ギリシャ神話のメドゥーサと会った』と言ったら刹那の正気を疑われるよな。

いくら夢とはいえ、関東にいる木乃香と会ったと言っても信じてくれないだろうし、信じた人がいたとしても木乃香はきちんと否定してくれるだろうから、多分大丈夫だろう。

これでダメなら縁が無かったと諦めるしかないほどがんばった。さてさて、いい結果に繋がって欲しいけど、どうなることやら。

第16話 少女たちの勧誘（小学2年生 1996年8月1日）（後書き）

本日（2011.9.12）、40万PVを達成し、月刊ランキング85位に入れました。

評価していただき、ありがとうございます。

【映画の感想】

今日ネギまの映画を見ましたが、ライフメーカーの目的（あの手段を選んだ理由と導きたい結果）が意味不明でした。

それ以外は『なんでネギしか解決できないのか？』と思った以外は面白かったですね。

あと、さよのアーティファクトは、『ポスルターガイストそのもの』ですかね？

どう解釈するべきか迷っています。

映画版で『魔力にものをいわせれば、本契約でも無茶が効くこと』がはつきりしました。

うまく、この小説の設定に取り入れられないか考えているところです。

【備考】

近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女
職業：小学生
種族：人間
外見：8歳
能力：魔力：A+
技術：占い
気：回復可能、使用不可
魔力：回復可能、使用可能

桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那
性別：女
職業：小学生
種族：人間と烏族のハーフ
外見：8歳
能力：飛翔
技術：神鳴流剣技
神鳴流退魔術
陰陽術
気：回復可能、使用可能
魔力：回復可能、使用可能

1996年8月1日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年8月1日のメモ

1・アスナが身に着けた二つのスキル

1・1 咸卦法

相反し合う「気」と「魔力」を融合させ身の内と外に纏い、強大な力を得る高難度技法。

肉体強化、物理・魔法防御、加速効果は単なる「気」や「魔力」による強化よりもパワーアップし、耐熱、耐寒、耐毒その他諸々の効果も得られる。

1・2 魔力放出

武器ないし自身の肉体に魔力を帯びさせ、瞬間的に放出することによって能力を向上させる

現在のアスナの【魔力放出】だと、【咸卦法】に準ずるレベルまで肉体強化、加速効果が可能。

1・3 備考

【咸卦法】と【魔力放出】は併用して使うことができない。そのため、状況に応じて使い分ける必要がある。

1・4 比較

(1) 発動時間

魔力放出は瞬時に、咸卦法は「気」と「魔力」を融合という準備動作が必要なので、魔力放出の方が使い勝手がいい。

(2) 効果

咸卦法：肉体強化、物理・魔法防御、加速効果、耐熱、耐寒、耐毒その他諸々の効果

魔力放出：肉体強化、加速効果

アスナは魔力無効化能力を元々持っている為、咸卦法の方が物理防御力アップや耐熱、耐寒、耐毒その他諸々の効果の分強力。

(3) 結論

普段は魔力放出を使用し、強敵相手の場合仲間に時間を稼いでもらった隙に咸卦法発動、という戦い方がベストか？

2・勧誘対象者

近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

職業：小学生

種族：人間

外見：8歳

能力：魔力：A+

技術：占い

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

職業：小学生

種族：人間と鳥族のハーフ

外見：8歳

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操系術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

：E、A+（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドライト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A+（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A+（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）
：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ
：B（投影宝具）

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）
：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース
千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
：投影アーティファ

クト

ミステルテイン
世界樹の宿木の剣（対神&対不死）
：投影アーティファ

クト

カルンウェナン
小さな白い柄手（短剣）
：E（投影アーティ

ファクト）

妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
：C（投影宝具）

ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍（対軍）
：B（投影宝具）

ゲイ・ジャルグ
破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ
天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓
：投影武具

カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
：A（投影宝具）

フルンディング
赤原獵犬
：C（投影宝具）

盾

アイギス
蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環
：B +（投影宝具）

ブライウェン
魔法の船となりし聖盾（魔法の船）
：C（投影アーティ

ファクト）

兜

グースホワイ
騎士王の兜
：D（投影アーティ

ファクト）
鎧

英雄王の鎧のパーツ
ウィガール
騎士王の鎧（鎖帷子）
：B（投影宝具）
：D（投影アーティ

ファクト）
アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス
ライダー

マスター
-

真名
八神遼平

ステータス
筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力
【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル
【精霊魔術】：D

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具
【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

備考

【己が栄光の為でなく】：C
ステータスは『気』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A (ライダークラスのみA+)

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C (ライダークラスのみB)

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B (イリヤに貸し出し中)

【直感】：B

その他

【黄金律】：B (イリヤに貸し出し中)

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C (ライダークラスのみ)

B)

【自己封印・暗黒神殿】：D - (ライダークラスの

みC -)

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B (A) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A +

保有スキル 【魔眼】：A +

【怪力】：B

【神性】：E -

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術（知識のみ）

ガンド NEW

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル

【気配遮断】：A +

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具

【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

蛇刈る刺突剣
ハルベ

ミステルティン
世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C↓B 魔力 A+

耐久 C(B) 幸運 C

敏捷 B↓A 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

【魔力放出】：C NEW

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』と魔力放出を使用時のもの

(筋力、敏捷が2ランクアップ。耐久が1ランクア

ップ)

魔力放出の代わりに咸卦法を使用すると、耐久が1

ランクアップ

【夜天の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【協力者】

1・近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

職業：小学生

種族：人間

外見：8歳

能力：魔力：A+

技術：占い

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

2・桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

職業：小学生

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：5歳（普段は16歳に変身）

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凜

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

宝具

【カリスマ】：B

【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

第17話 少女たちの結論（小学2年生 1996年8月8日）

約束通り、僕は木乃香と刹那を夢の世界に招待した。

「この夢の世界のことが、幻じゃなかったってちゃんと確認できたかな？」

「うん、せっちゃんも電話で話したけど、ここで決めた二人だけの合言葉とか全部合ってたわ。」

うちは元々疑ってなかったけど、せっちゃんも信じてくれたで」それを横で聞いていた刹那は、何やら悔しそうに言葉を続けた。

「この世界が幻覚や捏造でないことはわかりました。」

……ですが、やはりあなたたちは信用できません」

自分の覚悟を示すためか、強い意志を込めた言葉を……僕はあっさりとスルーした。

「別に構わないよ」

「えっ!？」

予想外の回答だったのか、刹那は予想以上に驚いた。

「こつちも一日やそこらで信用してもらえとは思っていない。」

ただ、木乃香ちゃんは信じてくれて、ここで魔法とかの訓練を希望している以上、君も参加するしかないだろう？」

「……そ、それは」

「安心しろ、といつても無理だろうけど、まあ危害を加えるつもりはないよ。」

危害を加えられた、あるいは加えられそうになったら攻撃して構わないし、自分の意志ですぐにこの世界から出られるように設定してあるからいつでも出ていってくれて構わないよ」

「気を使ってくれて、ありがとな。」

……うち、自分と自分の大切な人を守る力をがんばって身に着ける。

皆とは会ってから時間はそれほど経ってないけど、うちを利用し

ようとか、騙そうとかしてないのはよう理解できた」

木乃香の宣言により、刹那は諦めたようにため息をついた。

「もちろん、せっちゃんが一番大事や。」

これからよろしくな」

「は、はい。私もこのちゃんを守れる力をできるだけ早く身に付けます」

一瞬前の雰囲気はどこかへ行つてしまい、やっぱり最後は木乃香に押し切られて、刹那も参加することになった。

こうして、木乃香は自分の意志で、刹那は木乃香を守るため、という理由で夢の世界での訓練を始めることになった。

世界扉を使つて魔法球に招待するのはまだ危険なので、こつちを完全に信用するまでは夢の世界でイメージトレーニングの訓練をする予定だ。

後でメドゥーサに確認したところ、刹那は僕が警告したことを守つて誰にも話していなかったが、寝室に今の刹那に可能な限界まで探知系の呪術とお札を仕掛け、さらに寝たふりまでした状態で警戒していたらしい。

そこまでしても、一切探知も抵抗もできずにメドゥーサによって夢の世界に取り込まれてしまった、という状況だったらしい。

……なるほど、夢の世界に来たときに悔しがるわけだ。

そこまではつきりと力の次元が違うことを思い知らされて、刹那もさすがに諦めがついたのかもしれない。

とはいえ、まだ全然信用していないようだし、……やっぱり刹那を呼ぶのは、証拠が残らない夢の世界の訓練に限定したほうがよさそうだな。

この夢の世界を作っている暗黒神殿は『一つの結界（世界）』のため、夢を覗ける魔法を使つてもこの世界のことは見ることができないらしい。

木乃香の方も魔法協会の警戒は意外と厳しそうだし、……世界扉を使うにしても、絶対にばれないように入念に調査を重ねた後の方がいいな。

夢の世界における訓練は、闇の魔法の巻物の中と同じく、『体は鍛えられないが、知識を蓄え、イメージトレーニングは可能』だから、知識の伝授や魔法や呪術を覚える修行には一切問題ない。肉体訓練の方も、動きを脳には覚えさせることができるし、体に一切傷を残さずに本気の戦闘訓練も積めるから、訓練内容を限定すればこちらとも問題ない。

最初に木乃香に教えたのは、当然仮契約の魔法陣のことだった。もともと仮契約に興味深々だった木乃香は、さっそく刹那にアタックを始めた。

「なあなあ、せつちゃん。
うちと仮契約しよ」

「待ってください、このちゃん。
確かに仮契約という存在については、西洋魔法使いについて教わった時に聞いたことがあります。」

「……ですが、この魔法陣が本物かどうか私にはわかりません。もしかすると、仮契約とは異なる魔法陣かもしれません。」

「そのため、……申し訳ありませんがこのちゃんと契約できません」
「うーん、せつちゃんはうちと仮契約するのはそやけども、この魔法陣が本物かわかれへんから嫌ってこと？」

「……そ、そのとおりです。
このちゃんの護衛になるのが私の目標ですから、このちゃんの従者になるのは私の願いでもあります。」

「本物の仮契約ならば喜んでお受けします。」
「うちの勘だと、遼平さんもメドウスさんも嘘を言うてへん」

し、この魔法陣も本物に見えるで？」

木乃香は僕たちのことを信じきっているようだ。

いや、この魔法陣は本物だし、一切妙な仕掛けはしていないけどね。

勘が鋭い木乃香に、姑息な手段は逆効果だと考えて無条件で認識してくれるように、一緒に遊んで、嘘を一切言わずに信頼度が上がるように努力してきたかいたがであったというものだ。

「このちゃんの勘を疑うわけではないのですが、……申し訳ありません。」

このちゃんを守る立場としては、絶対に問題がないと確認が取れない限り、仮契約はできません」

護衛としては全く正しい意見に、さすがの木乃香も諦め……てない？

いたずらを思いついたような顔をして、僕の方にやってきた。

「なあなあ、遼平さんはうちと仮契約してくるの？」

「ああ、木乃香ちゃんが望むならね。」

……一応言っておくけど、僕が主で君が従者だよ」

「うん、ええよ」駄目です！ このちゃん、何を考えているんですか！！」

「だって、せつちゃんが仮契約をしてくれへんなら、他の人とするしかないでしょ？」

この場合、うちが従者やけど、誘拐とかされたときに召喚して助けてもらえるし」

「……わ、わかりました。」

このちゃんは私が守ります！

ですから、何かあったら召喚できるように、私と仮契約をしてく
ださい！！」

「ほんま〜！

せつちゃん、大好きや〜」

策が成功して大喜びの木乃香は、刹那に抱き着いた。

気を利かせてメドゥーサが二人の真下に仮契約の魔法陣を形成すると、それに気付いた木乃香は熱烈なキスを刹那にした。

仮契約一回目、成功。

僕はというと、仮契約の最中に、メドゥーサに頼んで二人の横にもう一つ魔法陣を用意しておいた。

そして、仮契約が成立してキスを終えた木乃香に対して、僕はその魔法陣を指さして存在を教えた。

勘がいい木乃香は、それだけで僕の言いたいことを理解して、まだキスで惚けている刹那を引きずって新しい魔法陣の上へ移動した。そして有無を言わず、木乃香は刹那と再びキスをした。

仮契約二回目、成功。

よし、『メドゥーサかさよが構築した魔法陣なら、誰であつても相互仮契約が成功する』って認識で合つてそうだな。

仮契約

主 ×従者 Ⅱアーティファクト

近衛木乃香 × 桜咲刹那 Ⅱ 建御雷

桜咲刹那 × 近衛木乃香 Ⅱ 光の翼

「こ、このちゃん。なぜ二回も、く、口づけをされたのですか？」

「それはな。このためなんよ」

そう言つて、木乃香は2セットの仮契約を刹那に見せた。

気が利く男を目指している僕は、すでに僕は仮契約カードのコピーを作つて、二セットとも木乃香に渡してあつたのだ。

「な、なぜ二組も……そうですか、それで二回口づけをしたのですね。」

「どうやら、本物の仮契約の魔法陣だったようですね。」

……しかし、相互に仮契約ができるとは聞いたことがなかったの

ですが？」

「ああ、それはメドゥーサが構築した仮契約バクティオーの魔法陣限定で、相互仮契約が可能になるらしい。

詳しい理由とかは調べてないけど」

「あなたたちは本当に何でもありませんね」

刹那は驚きつかれた、という感じで溜息をつきながらそうこぼした。

「さ、木乃香ちゃん。アデアットと言えば、アーティファクトが現れるよ」

「うん、アデアット」

次の瞬間、木乃香に魔力で作られた白い翼が現れ、木乃香は宙へ浮き上がった。

「せっちゃん、うち空を飛べるみたいや」

うち、空を飛ぶのが夢やったんや」

「このちゃん、大丈夫ですか？」

「全く問題ないわ」

……そうや、せっちゃんのカードにも翼があるし、もしかしてせっちゃんも空を飛べるん？

うち、せっちゃんと一緒に空を飛びたいわ」

そう言って木乃香は、宙に浮いたまま刹那に近づいて抱きしめた。

木乃香は、刹那の仮契約カードバクティオー（原作のカードの8歳児バージョン）を見て、「刹那の背に翼がある」↓「刹那は空を飛べる」ことを連想したらしい。

今自分が翼を持っている今、特に不思議に思うことなく、思ったまま刹那に問いかけたようだ。

自分が翼を持っていることが予想外の方法でばれ、しかもそれを木乃香に肯定されたことに刹那はパニック状態だった。

そして、絶賛大混乱中の刹那は、深層意識に刷り込まれた木乃香

への忠誠心に基づき、何も考えずに木乃香の願いに従って白い翼を具現化させた。

「は、はいっ。」

わかりました」

刹那は木乃香を抱きしめたまま、そのまま空へ舞いあがった。

飛び立ってからやっと刹那は正気を取り戻し、状況を理解してパニック状態に突入しかけていたが、木乃香の言葉がそれを止めた。

「せっちゃん、本当に綺麗な羽や。」

ペガサスによく似た羽やし、せっちゃん天使みたいやで」

「て、天使などと、私はそのような存在ではありません。」

……あの、このちゃんはペガサスを見たことがあるのですか？」

まるで本物のペガサスの羽を見たことがあるような言葉に、現実逃避気味に刹那が木乃香へ尋ねた瞬間、話題のペガサスが二人の前へ舞い上がってきた。

「わあ、ペガサスちゃんや。」

今はうちも飛べるで。」

一緒にお空の散歩をしような」

その言葉を聞いたペガサスは、ゆっくり木乃香に近づくと木乃香に頭を擦りよせた。

「こ、このちゃん、このペガサスは一体？」

「メドゥーサさんのペガサスやで。」

ほら、伝説でもメドゥーサさんが死んだ後、ペガサスが現れてペルセウスの乗馬になつとるやろ。」

実はそのペガサスは、ポセイドンさんから譲ってもらってメドゥーサさんが世話をしとったそうや」

「ポセイドンから下賜されたペガサスですか！！」

……た、確かに気品といい、力といい、とてつもないものを感じますけど」

そう言っただけ刹那はしげしげとペガサスを観察していると、ペガサスの方から刹那にゆっくりと近づいてきた。

どうやらよく似た白い翼を持つ存在に、ペガサスの方も刹那に興味を持ったらしい。

刹那もペガサスを拒絶するようなことはせず、刹那がペガサスの頭をなでると、ペガサスも刹那に頭を摺り寄せてきた。

さらに木乃香まで刹那に抱き着いて、二人と一匹は空で戯れ始めた。

そのまま、彼女たちは空の散歩を開始し、刹那が木乃香に飛び方を指導し、慣れない飛行に最初にへばった木乃香はペガサスに乗せてもらって、心行くまで（夢の世界の）空を飛び続けた。

ペガサスを夢の世界に呼んだのはもちろんメドゥーサ。

この間ペガサスを木乃香に紹介したとき、ペガサスも気に入っていたので、会わせてあげようと考えたのだ。

原作で木乃香はドラゴンを大人しくさせただけのことはあり、木乃香はテイマーの素質があるらしい。

今もメドゥーサは、ペガサスが楽しそうに空を舞っているのを見て、とても嬉しそうに微笑んでいる。

「あの子があんなに楽しそうに飛んでいるのは久しぶりに見ます。

やはり、一緒に空を飛べる存在がいなくて寂しかったんですね」「そうだったんですか。

わかりました！

私ももつと空を飛ぶ訓練をして、ペガサスさんに着いていけるくらいになりますね」

浮遊はできても飛翔というレベルには達していなかったさよも、なにやらやる気を出しているようだ。

「まあ、がんばれ。

ああ、そうだ。浮遊した後、念動力で自分を動かせば飛翔と呼べる速度が出せるんじゃないか？」

と僕は『エスパー麻美方式の飛行方法』を思い出してアドバイスをしてみた。

「あつ、そうでした。

私、がんばります」

と言うとさよは念動力を全力で発動し、制御できずに悲鳴を上げて飛んでいってしまった。

幸いにも、さよに気付いた刹那が受け止めてくれたから問題ないだろう。

こうして、3人と一匹の空の散歩は二人の飛行訓練も兼ねて、限界まで続けていた。

「楽しかったわ、ありがとうな。」

バックティオー

せつちゃんと仮契約したおかげで、うち翼を手に入れることができたわ。

……せつちゃんもこんな綺麗な羽を持つてるのなら、もっと早く教えて欲しかったわ」

「も、申し訳ありません。」

……その、私の白い翼を見ると、忌避する人しかいなかったの、……このちゃんにも見せるのが怖かったのです」

「こんな綺麗な翼やのに、変な人たちやな。」

せつちゃん、そんな変な人たちのことなんて気にしないでええ。うちもそうやけど、遼平さんたちも嫌ってないでしょ」

「ああ、刹那ちゃんの翼、とつてもきれいだよ。許可がもらえるなら、僕も触りたいくらいだ」

本気でもふもふしてみたいと思うくらい、想像以上に刹那の翼は大きくて綺麗だった。

原作でそう言った描写もあったが、まさか、これほどまでとは思わなかった。

「せつちゃん、もてもてやなあ」

「そ、そんな。」

……あ、あの、どうしてもっていつのなら、少しだけならいいですよ」

あれっ、なぜか刹那がデレたぞ。

羽を誉められることが、刹那の精神的な弱点だったりするのか？許可が出たのですかさず近づこうとすると、……アスナとイリヤとさよに先を越されてしまった。

負けじと木乃香まで加わって、3人と木乃香が刹那の羽を思う存分もふもふしている為、僕が触れるところが残っていない。

僕は諦めて、5人の美少女が戯れているところを眺めていることにした。

「あつ、ちょっと、くすぐった、そ、そこは駄目です！」

4人の少女のあまりのヒートぶりに、刹那が本気で悶えているが、少女たちはほとんど気にしていないようだった。

そのため、僕は空気を読んで何も言わずに、思う存分刹那が悶えるシーンを鑑賞していた。

しかし、あまりに悶えすぎてやりすぎだと思った僕は、……少し考えた後、顔を真っ赤にして座りながら悶えている刹那の、誰もいない正面から近づいてみた。

「刹那ちゃん、大丈夫？」

警戒されないように、ゆっくりと膝立ちで近づいていくと、……体力の限界だったのか、ぽふっとこっちに倒れ掛かってきた。

慌てて、抱きかかえて支えると、刹那はかなり疲れているようだった。

「おい、限界ならきちんと言った方がいいぞ」

ちらりと刹那の後ろを見ると、相変わらず4人とも刹那の羽でもふもふを楽しんでいる。

確かに今の刹那は8歳児で、より天使の雰囲気は増えているが、……そこまで夢中にならなくても。

「だ、大丈夫です。これくらいのこと、このちゃんの行為は全て受け入れて見せます」

刹那は実に素晴らしい忠犬ぶりを発揮したが、……いきなり木乃香のペット化が進んでいないか？

自分が誘導したことながら、8歳からこんな感じで将来大丈夫だろうか？

……ま、まあ一生木乃香の護衛をしつつ、木乃香に面倒見て（飼って）もらえば問題ないか。

うん。僕の責任もちよつとあるし、できるだけフォローしてあげよう。

やっと4人が満足して刹那を解放した時には、刹那は完全に放心し、ぴくぴく痙攣していた。

……まさか8歳にして、イってないよな？

手持ちぶさただったので、僕も頭とか撫でてたけど、僕のせいじゃないよな？

この後は5人の少女たちが一緒に遊ぶのを僕は眺めていた。

この雰囲気で、この後のことや話すのは、場違いというか空気が読めていないのはさすがの僕にもわかったから黙ってることにした。

気づいたら、キャサリンも混じって一緒に遊んでいたが、……まあ、そういうこともあるだろう。

僕はあのテンションについていく自信はなかったので、メドゥーサと一緒にのんびりと少女たちが遊び疲れるのを待っていた。

思う存分遊んだあと、木乃香と刹那の方から話したいことがあると言って来たため、僕とメドゥーサを含めた4人で小部屋に入った。

「このちゃんと会わせいただき、こうして隠し事なく付き合えるようにしてくれたことには感謝しています。」

……改めて確認したいのですが、あなたの目的は一体何なのです

か？」

「まあ、僕の趣味だな」

「趣味、ですか？」

「そう、趣味。」

困ってる女の子、特に可愛い娘は放っておけなくてね。

で、その娘の行く場所がないようなら、従者にならないか勧誘しているわけだ」

「では、このちゃんも!!」

「いや、ちよつと違う。」

木乃香ちゃんは自分を取り巻く環境や自分の能力を知らされずにいて、それが原因で将来大トラブルに巻き込まれそうだと簡単に予想できた。

でも、それをフォローしたぐらいの対価じゃ、僕の従者になる対価としては少なすぎるし、第一東と西の権力者の親族を従者にするのは危険すぎる」

「うち、本当に感謝しとるで。」

だから、遼平さんの従者になってもかまへんで」

「このちゃん、うかつすぎます。」

従者になるというのは、主の人と一心同体になるのと等しいのです。

何も考えずにそんなことを言つては駄目です!!」

「うつ、ご免な。そんなに重要なことだと知らなかったんよ」

僕が何か言う前に、刹那に全部言われてしまった。

「木乃香ちゃんが受け入れてくれたのは嬉しいけど、そういうわけで今は従者に勧誘するつもりもない。」

ただ、僕は頼りになる協力者を求めているね。

木乃香ちゃんもいつ強力な存在に狙られるかわからないし、そういう意味で協力できるかと思っただけだ」

「このちゃんがあなたたちの協力する代わりに、あなたたちはこのちゃんの敵の排除を行う、ということですか？」

「まあ、そういうこと。」

協力者と言っても対外的には、『木乃香ちゃんが出世払いで個人的に雇った護衛』という立場になるかな。

契約書にも『僕たちは木乃香ちゃんの護衛のために雇われただけで、僕たちの行動に一切木乃香ちゃんが責任を持たないこと』を明記しておけば、木乃香ちゃんに迷惑が掛かる可能性をかなり減らせるはずだ。

……僕たちへの協力と言っても、木乃香ちゃんに負担にならない程度、余裕があるときに魔力を供給してもらいたいと思っっているくらいだよ。

でも、いきなりそんなことを決断できるはずもないし、それ以前に信用どころか僕たちのことを全く知らないから無理に決まってるだろ？

だから、お互いに知り合って理解できるまでの間、こつやつて夢で会って、よければ一緒に訓練をするのはどうかなんて思ったわけ。……仲間になるわけじゃないけど、困ったときは助けあう、ということで」

「お互いのことをよく理解した結果、結局協力できないと判断した場合はどうするつもりですか？」

「その場合、協力は無理でも、信頼できる交渉相手として今後も付き合いをお願いしようかと思っっているけどね。」

……ああ、結論を出すのはずっと後、4年後以降で構わないよ」
僕にしては、ものすごく下手に出た提案だが、8歳の女の子相手なんだからこれくらい配慮しなきゃダメだよな。

「……このちゃん、どう思いますか？」

「うちは賛成や。」

お父さまやお爺さまはうちのことを大切にしてくれてるのはわかるけど、何も教えてくれへんかった。

だから、ここで知らなければいけないことを全部学んで、自分と

自分の大切な人を守れるぐらいの力を身につけたい。

……できれば、せつちゃんに手伝ってほしいんやけど」

「この身はこのちゃんの為にあります。」

いくらでもこのちゃんのお手伝をします」

「ありがとう、せつちゃん。」

嬉しさのあまり感極まった木乃香は、刹那に抱き着いて押し倒してしまった。

刹那は顔を真っ赤にしてあうあう言っているだけで抜け出そうとしていない。

あれは照れてるけど、間違いなく喜んでいるな。

いやいや、仲がいいのはいいことだねえ。

僕たちは微笑ましい光景を邪魔することなくずっと見守っていた。

さて、これでもいいというまく行ったな。

あとは、彼女たちから見放されないように誠実に対応して、自分で判断できるだけの知識と実力と知性を身に着けたところで、……どうするべきだろうか？

こっちから勧誘すると約束違反だから、……向こうから仲間になりたいと言ってくるように誘導するべきか？

でも、木乃香ちゃんの純粹さとか見てると、このままの関係でもいいか、とか考えちゃうんだよなあ。

……僕ですら、少しでも騙すことに罪悪感を感じさせるのだから、木乃香は恐るべし天然癒し系少女である。

仲間にするのとは全く別に、純粹な好意として二人にはサーヴァントの能力を貸してあげたいんだよなあ。

どうせ僕のサーヴァントクラスは二つ以上余っていて、貸す相手も今のところ当てはないし、あの力があればそこの有像無像など相手にならないはずだ。

今まで僕は普通（？）の人間と仮契約をしたことはないけど、多分二人と仮契約をすれば、サーヴァント能力を貸すことができるだろう。

ただでさえ、ネギパーティーで最強クラスだった刹那がサーヴァントの能力を手に入れられればさらに強くなれるだろうし、木乃香も魔法の威力が上がるかもしれない。

それだけ強くなれば、原作同様に京都で襲撃にあっても、フェイト以外は二人だけでも撃退できるだろうし、二人が協力すればフェイトすら撃退できるかもしれない。

……いかにいかに、捕らぬ狸の皮算用は失敗（下手すると死亡）フラグだ。

今日のところは彼女たちと仲良くなる切っ掛けを無事に作れたことで満足、ということにしておこう。

今気づいたんだが、僕って『才能があって訳ありの可愛い女の子に、片っ端から声を掛けて契約を求めている』わけで、「僕と仮契約して、従者になってよ！」って言うって契約を迫るQBみたいな存在か、もしかして。

行動パターンが、言峰綺礼と間桐慎二とQBと一致するなんて、どれだけ悪役体質なんだよ、僕は。

あれか？ やっぱ、中ボスぐらいの存在として、僕は将来主人公に倒される運命なのか？

人助けと自分の趣味を両立させていただけだったんだが、……いつの間に悪役路線一直線になってしまったんだろう？

……悪事は働いてない（つもりだ）が、行動パターンは完全に悪役、か。

第三者から見たら速攻で誤解されて悪役認定されそうな気がするが、……まあいい、これが僕の生き方だ。

今さら生き方は変えられないし、堅気には迷惑を掛けないようにしつつ、策略や謀略を練って、がんばって暗躍していこう。

1996年8月8日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年8月8日のメモ

1. 仮契約 バックティオ

主

×従者

〓アーティファクト

近衛木乃香 × 桜咲刹那 〓 建御雷（石剣。魔力を充填することで
巨大な魔力の刃を形成する）

桜咲刹那 × 近衛木乃香 〓 光の翼（魔力で翼を構成して飛翔可能。
翼を防御や攻撃にも使用可能。翼からとった羽を従者が持つと、回
復力アップ。羽は一回限りの消耗型治癒アイテムとしても使用可能）

建御雷

石剣。魔力を充填することで巨大な魔力の刃を形成する

光の翼

魔力で翼を構成して飛翔可能。

翼を防御や攻撃にも使用可能。

翼からとった羽を従者が持つと、回復力アップ。

羽は一回限りの消耗型治癒アイテムとしても使用可能。

2. 勧誘対象者

近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

職業：小学生

種族：人間

外見：8歳

能力：魔力：A+

飛翔 NEW

技術：占い

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

光の翼

桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

職業：小学生

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

建御雷

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

職業：小学生

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

ゲート・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

ハルベ

蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）：投影アーティファ

クト

カルンウェナン

小さな白い柄手（短剣）：E（投影アーティ

ファクト）

建御雷（魔力の刃）

：投影アーティファ

クト NEW

妖刀ひな（呪われた刀）

：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ

刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）

：C（投影宝具）

ゲイ・ボルグ

突き穿つ死翔の槍（対軍）

：B（投影宝具）

ゲイ・ジャルグ

破魔の紅薔薇（魔力無効化）

：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ

必滅の黄薔薇（不治の傷）

：C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ

天の鎖（拘束&対神）

：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓

：投影武具

カラドボルグ

偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：A（投影宝具）

フルンディング

赤原獵犬

：C（投影宝具）

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

ロー・アイアス

熾天覆う七つの円環

：B +（投影宝具）

ブライウエン

魔法の船となりし聖盾（魔法の船）

：C（投影アーティ

ファクト）

兜

ゲースホワイト

騎士王の兜

：D（投影アーティ

ファクト）

鎧

英雄王の鎧のパーツ

：B（投影宝具）

ウィガール

騎士王の鎧（鎖帷子）

：D（投影アーティ

ファクト）

その他

光の翼

：投影アーティファ

クト NEW

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【精霊魔術】：D

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

職業：無職

種族：サーヴァント

外見：15歳↓18歳↓15歳

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A+ 宝具 A+

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

宝具 【騎英の手綱】：A+

【自己封印・暗黒神殿】：C-

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：14歳↓17歳（学校では7歳児に変身）

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術（知識のみ）

ガンド

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【浮遊】：A ↓ 【飛翔】：E

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ダビデの豎琴】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

職業：小学生

種族：サーヴァント

外見：9歳↓15歳（学校では7歳児に変身）

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 C↓B 魔力 A+

耐久 C(B) 幸運 C

敏捷 B↓A 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

【魔力放出】：C

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』と魔力放出を使用時のもの

(筋力、敏捷が2ランクアップ。耐久が1ランクア

ップ)

魔力放出の代わりに咸卦法を使用すると、耐久が1

ランクアップ

【夜の騎士】

1・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：10歳

能力：令呪

聖杯（複製）

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【協力者】

1・近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

職業：小学生

種族：人間

外見：8歳

能力：魔力：A+

飛翔 NEW

技術：占い

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

光の翼 NEW

2・桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

職業：小学生

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能
アーティファクト：

建御雷 NEW

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

職業：高校生

種族：人間

外見：5歳（普段は16歳に変身）

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）
の投影宝具（

：EX（小物サイズ

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

職業：魔術師、高校生

種族：人間

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

職業：サーヴァント

種族：サーヴァント（霊体化不可）

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凜

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

 【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

 【魔力放出】：A

宝具

【カリスマ】：B

【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

外伝02話 土郎達の様子（小学2年生 聖杯世界3月）（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

外伝02話 士郎達の様子（小学2年生 聖杯世界3月）

【聖杯世界】 3月 聖杯戦争終了一ヶ月後

相変わらず、アスナ、さよ、キャサリンの3人は、聖杯世界の衛宮邸へ通って、アルトリアの戦闘訓練を受ける日々を過ごしている。メドゥーサは当然、桜の護衛である。

聖杯世界と麻帆良世界は、世界扉を繋がない限り同じ時間は流れない。

二つの世界間で時間差があると面倒なので、とりあえず聖杯世界1日経過＝麻帆良世界1日経過のペースと、時間差が発生しないように接続することになっている。（魔法球内の時間は除く）

さよは、アルトリアの訓練だけでなく、さらにメドゥーサによる桜の修行にも参加している。

ランサーから継承したルーン魔術の情報を、さよは昂魔の宝珠から引き出すことが可能だが、それだけではルーン魔術を使えることができない。

そのため、慎二を含めた4人でルーン魔術について勉強し、実戦で使えるレベルまでルーン魔術に熟練することを目指しているらしい。

意外と、と言っては失礼かもしれないが、ルーン魔術の研究において慎二がかなり活躍しているらしい。

独学でマキリの魔術の勉強をしていた経験を持っているだけのことはある、ということか。

また、聖杯世界において、さよがついに24倍速の魔法球を二つ作ることに成功した。

一つ目は当然桜たちの訓練用として使用中で、もう一つは凜たち

に貸し出しすることにした。

凜は魔法球の説明を聞いて、面白い顔をしながら受け取ったらしい。

まあ、魔法球は空間と時間进行操作しているわけで、ものすごい技術の塊だからな。

嬉しい半分、驚愕とか「また借りが増えた」と考えてたんだろう。

士郎達をさらに強くして桜を安心させる（当然、メドゥーサを喜ばせる）ため、キャサリンとアスナから士郎と凜に『気』と『気に付随する技』を伝授することにした。

キャサリンとアスナは魔法生命体であるため気が使えないが、それぞれ気についての知識は詳しい。

桜は魔術と魔法も勉強を始めたばかりだが、「一緒に訓練をした」という桜の希望もあって、一緒に気の訓練を始めることになった。

将来、士郎や凜たちからきちんと対価をもらうつもりではいるが、……こつちの介入で士郎たちがどんどん強くなるのが面白いというものもある。

いわば、『士郎と凜の育成計画』である。

……まさかそんな理由で色々と情報提供をしているとは思ってないだろうなあ。

さっそく魔法球内で修行を開始し、気概念を伝えてみたが、士郎たちはなかなか気を使うことができなかった。

3人とも武術の経験があるから使えるはずなんだが、何が問題なんだろう。

……思いついたことがあって、『H×H』で念能力を覚醒させるように、ライン経由で僕から送り込んだ気をアスナがそのまま3人

に送り込んでみた。

その結果、二人ともあっさりと気に覚醒した。

覚醒できたのはいいが、士郎は気の放出を制御できずばすべての気を放出し、瀕死の状態にまでなってしまった。

幸い、アルトリアが士郎に魔力を供給することで、アヴァロ 全て遠き理想郷ンの効果で士郎はすぐに復活した。

…… 本アヴァロン当に全て遠き理想郷は便利だな。

死にかけても後遺症なしですぐに復活できるから、無茶な修行も
どんなにできる。

元々死と隣り合わせの修行（魔術回路の作成）をしていた士郎に
とって、最適なアイテムと言えるだろう。

士郎とは異なり、覚醒してから短期間である程度気を使いこなせるようになった凜にキヤサリンが確認してみると、どうやら気は（公表されている限りでは）時計塔の魔術師では使われていない力らしい。

とはいえ、日本古来の呪術や陰陽術などに似たような技術があることは聞いたことがあるらしいので、単に時計塔の魔術師が知らない技術という可能性は高そうだ。

……なるほど、『魔術や呪術（気を含む）の技術はそれぞれの組織において厳重に秘匿される聖杯世界』と、『軍事機密を除いて、魔法や気の技術が公開されている麻帆良世界』の差というところか。技術の発展を考えるなら情報公開するべきだろうけど、『知っている人間が増えれば増えるほど力が弱くなる』という制約がある聖杯世界の魔術なら仕方ないんだろうけど。

もっとも、気や咸卦法の場合、魔術と違って使い手が増えても威力が低下することはないだろうから公開しても問題ないな。

ちなみに、麻帆良世界の魔法は、こっちでも問題なく使用可能で、威力も変化なく使えている。

分かっていたことだが、『麻帆良世界の魔法は、聖杯世界の魔術

のような制約はない』という法則は、聖杯世界でも有効だったらしい。

士郎もなんとか気の制御ができるようになったので、キャサリンとアスナは3人に瞬動術や気を使った肉体強化の方法などを教え始めた。

凜と士郎は格闘訓練を積んでいたので意外と簡単に修得するが、武術は弓道しかやっていなかった桜はかなり苦労していた。

特に凜は天才の名にふさわしく、とんでもない速度で気の使い方を覚えていった。

士郎も努力するが、凜の習得速度には追いつけないでいた。

彼女たちも気と魔力の同時使用はできないようだが、一度投影した後は強化魔術しか使わない士郎は、強化魔術を気の肉体強化で代用することで魔力の節約になるし、飛躍的に身体能力がアップしたと喜んでいた。凜の方も魔力を使わずに不意打ちに使用、あるいは魔力が切れた後の切り札になると大喜びだった。

桜もまた、拙いながらも気を使うことができ始め、士郎達と同じ力を使えると喜んでいた。

咸卦法についても3人に教えて、アスナが実践して見せたが、当然ながら3人がすぐに使えるようにはさすがない、……そう思っていたこともありました。

日曜日ということで、ずっと魔法球内で訓練していたら、なんと凜が咸卦法を習得してしまったのだ。

さすがは天才と呼ばれるだけのことはあるか。

アスナには劣るが、十分チートな習得速度だな。

なんか、士郎達は4人で内緒話をしているようだから、こっそり世界扉で覗き見してみよう。

世界扉を使った覗き見は、アルトリアの直感でも見つからないことはすでに確認済みである。

「元々遠坂家って、師父に会うまでは『魔術と武術を通じて、無の境地を経て根源に触れる』ことを目指していたのよ。

そういう意味では、『魔力と気を融合して、強大な力を得る咸卦法』という技は遠坂家に相応しい技術ってことね。

……ふふふ、これで遠坂家は師父から教わった宝石魔術と、咸卦法の二枚看板でいけるわね」

凜は大喜びだが、これは宝石魔術を使う頻度を減らせることも嬉しいんだろうなあ。

なにせ、宝石魔術って威力とか発動速度とかは優秀だけど、実質『札束を投げるようなもの』とまで言われるぐらいコストパフォーマンスが最悪だからな。

咸卦法なら気と魔力だけでOK。

威力も使い勝手も申し分なしと、戦闘手段のメインに使っても全く問題ない。

「なあ、遠坂。咸卦法について公開しても大丈夫か？

……人のことは言えないけど、封印指定とかにならないか？」

「うーん、魔力と気を融合して新しいエネルギーである咸卦力を作り出すだけだから、……私程度の素質があれば、そしてやり方さえ知っていれば使える人は結構多いと思うから封印指定にはならないと思うけど。」

……そうね、不用意に公開するのは危険かもしれないわね。

咸卦法が有名になって封印指定にされそうになったら詳細な情報を公開して、そうでないなら門外不出の秘伝にすればいいわ。

咸卦法だと教えなければ、強化や防御の魔術を重ね掛けしているようにしか見えないわけだし。

……ものすごく強力だから多少不審に思われるとは思っけどね」
「まあ、そうだな。」

……はあ、咸卦法が使える凜が羨ましいよ」

士郎も時間を作ってはがんばって咸卦法に挑戦しているが、若かりし頃のタカミチのように全くうまくいかないのである。

僕も咸卦法は成功する見込みがいまだに全くないから、その気持ちよく分かる。

「確かに咸卦法の効果には驚かされますね。

気を使い始めて3人とも一気に接近戦が強くなったことにも驚かされましたが、咸卦法を使った凜はさらに一段階強くなっています」

「そうね、私はキャスター戦のように格闘戦を最後の手段としてきたけど、咸卦法があるならメインの戦闘手段として使えるかもね」

「アーチャーの技がある程度使えるようになって、さらにセイバーの訓練を受けている俺と、接近戦で互角以上に戦えるんだから十分だろ？」

そうなんと現在は、『気で肉体強化して、アーチャーの技を使って二刀流で戦う士郎』と『咸卦法で肉体強化して、八極拳で戦う凜』がほぼ互角という恐るべき状況なのである。

「何言っているのよ。

互角に戦えるのは、私用に投影してくれた籠手があるからでしょ。さすがに咸卦法だけじゃ、宝具と素手で殴り合いはできないわよ」凜の言うとおり、士郎はアルトリアの籠手を元に、凜用に改造した籠手を投影して凜に渡している。

格闘戦用籠手は武器扱いなのか士郎の投影でも消えなかったため、色々と改造を加えてかなり強力になったらしい。

「なあ、遠坂。

アスナのステータスは以前見たけど、あれって咸卦法を使っていない状態のものだよな。

もしかして、咸卦法を使ったアスナって、とんでもなく強いのか？」

「……確かにそうだわ。

アスナは咸卦法を使って見せた。

私でも咸卦法を使えばこんなに強くなれるんだから、サーヴァントであるアスナが咸卦法を使えば！」

「その通りです、リン。」

さすがに私には敵いませんが、咸卦法を使ったアスナは相当強い。このまま経験を積みめば、将来は私でも手こずるレベルまで強くなれるでしょう」

咸卦法を公開した時点で、アルトリアは咸卦法関連の情報公開が許可されているので、ここまで話すのは問題ない。

凜は咸卦法を使っている状態のアスナのパラメータを見ていなかったようだが、もしその状態のアスナのパラメータを見ていたら次のようになっていただろう。

<凜視点のサーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 不明

ステータス 筋力 B 魔力 A+

耐久 B 幸運 C

敏捷 A 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【咸卦法】：A

備考 咸卦法使用時のステータス

技量などを除いたステータス上は、アルトリアと互角に戦うことも不可能ではない、恐るべきステータスである。

そのことをアルトリアから聞いた凜は、質問を投げかけた。

「セイバー、本当に危険はないの？」

「問題ありません。」

「ご存じの通り、私にはほぼ全ての魔術が通用しません。」

ですから、ルールブレイカーのような切り札がない限り、脅威なのはメドゥーサ、アスナの2人だけです。

さらに、昼の訓練中は、メドゥーサは桜の護衛をされていて離れた場所におり、アスナだけで私をどうにかするのは不可能です」

「……遠坂、まだキャサリンたちを警戒してるのか？」

初めて会ってから一度も怪しい行動をしてないし、それどころか魔法球を貸してくれたり、気や咸卦法を教えてくれたり、色々してくれてるだろ。

セイバーも瞬動を覚えてさらに強くなったし、俺たちを騙すつもりはないんじゃないか？

……俺もこの間、かなり使えるアーティファクトを見せてもらったしな」

「何よ、それ？」

「私聞いてないわよ」

「ごめん。」

「言い忘れてた。」

……説明するより、実物を見せた方が早いな。
トレス・オン
投影開始」

士郎は、アスナのアーティファクトであるハマノツルギ（ハリセンモードと大剣モードの両方）を投影した。

「なに、それ。」

大剣はともかく、もう一つは……ハリセン？」

「これはアスナのアーティファクトで、2バージョンの外見を持っている。」

これのとんでもないところは、魔術無効化能力を持っていることだ。

つまり、魔術関連をほぼ完全に無効化するという機能があるんだ。

遠坂、ちょっとガンドをこのハリセンに向かって撃ってみてくれ」
「……まあ、いいけど」

士郎の言葉が信じられない凜は、ハマノツルギだけにぶつかるように配慮してガンドを撃ったが、当然ながらそのガンドはハマノツルギにぶつかった瞬間に消滅した。

「って、ええ!!」

全く効果なし?」

「そう、この大剣やハリセンを盾として使えば、セイバーの対魔力Aと同等の効果がある。

つまり、魔術は効かなくなるな。

それどころか、使い魔をこれで攻撃すると、一撃で消滅させることも可能らしい」

「それってまさか?」

「サーヴァントには試したことがないらしいけど、召喚した悪魔とか陰陽術の式神なら一撃で消えるか無効化するらしいぞ」

「……あ、ありえないわ」

「今さら、何を言ってるんだ。

キャサリンたちが、俺たちの予想を越えたアドバイスや助力をしてくれるのはいつものことだろ?」

この魔法無効化の機能は常時発動型だから、みんながこれを持てばいざというときに魔術の盾になる。

……ああ、ハマノツルギを持っているときは、セイバーとの接触は気を付けるよ。

万が一にもセイバーの召喚が解除されたら悔やんでも悔やみきれないからな。

あと、遠坂の魔力を込めた宝石にこれが接触すると、魔力が全部消えるそうだから、くれぐれも扱いには気を付けるよ」

「わ、わかってるわよ。

いくら私でも、そんなミスはしないわよ」

そうは言っても、一番重要なところでうっかりするのが遠坂家の

伝統であり、そのことの懸念は士郎も持っていたようだった。

「やっぱり心配だな。」

今度、小型のハマノツルギを格納するペンダント型のケースを作っておく。

そこに入れて、普段は首からぶら下げておけばいい。

そうすれば、セイバーや宝石と接触しても問題ないけど、ケースが壊れるような魔術の攻撃を受けた際には当然魔術を無効化するはずだ」

「いい考えね、さっそくそれを作ってね」

「ああ、まかせてくれ」

「ハマノツルギのことはそれでいいとして、ますますキャサリンたちに対する借りが増えてるじゃない。」

セイバーの戦闘訓練だけじゃ、借りは貯まる一方よ」

「そうなのか？」

士郎が驚いた顔をして凜に尋ねた。

どうやら、全然認識していなかったようだ。

「そうなの！」

最初に提供された情報の質と量もとんでもなかったけど、瞬動術の伝授といい、魔法球の貸し出しといい、今回のハマノツルギといい、普通なら絶対に門外不出の技術なのよ。

ほんと、キャサリンのマスターって、どんな思考回路をしているのか調べてみたいわよ」

ずいぶんな言われようだな。

こっちはメドゥーサと桜のご機嫌取りと、アルトリアの訓練に対する感謝の気持ちで提供しているだけなのに。

まあ、もらえるものはもらう主義だから、ただとは言わないけどね。

……もちろん、借りがどんどん大きくなるのに耐えかねて、凜がアルトリアのアルバイトを泣く泣く許可する展開を期待していない

と言ったら嘘になる。

「リン、彼女たちは私たちを騙す様子もありませんし、そこまで借りが増えているのなら私が「ダメよ。それは許可できないわ」

アルトリアの申し出を、凜は速攻で却下した。

「百歩譲ってセイバーのアルバイトを許可するとしても、キャサリンのマスターと最低一回でも会って、さらにアルバイトの場所も事前に調査する必要があるわ。

セイバーに何かあったときに、すぐに助けにいけるようにするためにもね」

正論だな。セイバーのことを心配していれば当然の配慮だが、…そうなるとセイバーのアルバイトは絶対に不可能か。

何せ僕は聖杯世界に会いに行けないし、凜たちは麻帆良世界へ来れない。

これは詰んでしまったか。

「……では、キャサリンたちと私が**仮契約**をするのはどうでしょうか？」
バクティオー

彼女たちはアーティファクト、それも高い確率で強力なアーティファクトを手に入れますし、私は何も困りません。

『私から魔力供給はしないこと』、『私は依頼されない限り彼女たちを召喚しないこと』を事前に約束する必要がありますが」

「その手があったわね。

確かにセイバーが主になれば強力なアーティファクトが出てくる可能性は高いし、こっちにはデメリットもリスクもないし、いいアイデアだわ。

……セイバーは彼女たちとキスすることになるけどいいの？」

「すでに、リンやサクラと**仮契約**をしているのでいまさらです。

それに、一緒に訓練をして親しくなりましたので、キスぐらいなら別に気にしません」
バクティオー

確かにセイバーと**仮契約**をすれば、強力なアーティファクトが出

てきそうだな。

「で、それで今までに提供された分の対価として十分か？」

「まだね、こつちが提供したのは、『訓練者の全情報秘匿込みのセイバーの訓練』、『投影アヴァロンの貸し出し（一個のみ）』、そして『セイバーとの仮契約^{バクティオー}』だけ。

悔しいけど、対価としてはまだまだ足りないわね。

異性である士郎と仮契約は抵抗があるでしょうから、私との仮契約^{バクティ}も希望するならしてもいいわ。

……セイバーほどじゃないけど、そこそこ便利なアーティファクトが出てきそうだし。

でも、それでも対価として不足しているわね。

……仕方ないわね。宝石魔術の基礎を教えることにするわ。

さすがの門外不出の技術は教えないつもりだけど、キャスターであるさよならもしかしたら宝石魔術を進化させることができるかもしれないしね。

ここまで対価に困るほど、質と量に優れたものをもらえるとは思ってもみなかったわね。

……本当に、想定外だったわ。

「ですが、それだけの価値はありました」

「そうね。私や士郎はもちろん、セイバーまで強くなったから、キヤサリンたちと会う前の私たちと今の私たちの戦力差はとんでもないことになってるわ」

「私の予想では、以前の私たちと戦った場合、10回戦って10回とも間違いなく勝てるでしょう」

「そこまで強くなつたのか！」

聖杯戦争時点の自分たちに完勝できることを宣言したアルトリアに、士郎は驚きを隠せなかった。

「アーティファクト、瞬動術に気と咸卦法はとんでもなく強力だから、それくらいは当然よね」

「その通りです。アーティファクトで全員の能力の底上げを可能に

なりました。

さらに、瞬動術で高速移動が可能になるのはもちろん、空を自由に駆けられる虚空瞬動をいきなり使われれば、ほとんどの戦いで有利に戦えたでしょう。

間違いなく、聖杯戦争当時に瞬動、特に虚空瞬動が使えていたら、私はもつと有利に戦えていました」

「それは同感ね。虚空瞬動を使えば、高速で擬似的に空を飛べるから、カウンターさえ気を付ければものすごく有利になるのは確かよね」

「くそつ、おれも早く身に付けてやる」

アスナから聞いた話ではあるが、アルトリアは虚空瞬動を、凜は虚空瞬動と気と咸卦法をすでに使えるのに対して、士郎は瞬動と気しか使えず差をつけられているらしい。

……同じ時間訓練してたのに、置いてきぼり状態で士郎は焦っているようだ。

その気持ちはよく分かる。僕が向こうの世界にいけるのなら、士郎と一緒に「これだから天才は！」と愚痴を言いたいところだ。

「それにしても、咸卦法もとんでもないわよねえ。」

そうだ。もし、セイバーが咸卦法を身に付けられたら鬼に金棒よね」

「そうですね。」

同じサーヴァントであるアスナができるのですから、私もリンから気の供給を受けることで咸卦法を使うのは不可能ではないでしょう。

……もつとも、現在は気を受け取った瞬間に私の魔力と反発してしまうので、成功までの道のりは遠いですが。

しかし、咸卦法を使えるようになれば、私もさらに強くなれるのは間違いなさそうです」

「そうよねえ。気だけを使う場合は接近戦では士郎の方が有利でも、咸卦法を使えば士郎は私とほぼ互角なものね」

「くっ、それは今だけだ。」

俺だって咸卦法を使えるようになれば「咸卦法もいいけど、まずは魔術と気の訓練が先なのを忘れてないでしょうね。」

咸卦法は使えるようになればものすごく強力だけど、……使えるようになるためには努力以外にセンスも必要だから、一生咸卦法を使えない人がほとんどらしいわよ」

「うっ、……魔術と気の訓練を終えた後なら問題ないだろ？」

士郎はまだ咸卦法を使うのを諦めていないようだが、咸卦法って本当に適性がものをいう技だからなあ。

原作で咸卦法を使っていたのは、ガトウとアスナとタカミチの3人だけ。

最強クラスのナギもラカンも詠春も使っていなかったところを見ると、3人とも多分咸卦法を使えなかったんじゃないかな。

「ふーん、魔術と気の訓練をした後に、咸卦法の訓練ができるくらい余裕なんだ、衛宮君は」

そう言って笑った凜の顔は、あかいあくまだった。

「ねえ、セイバー。士郎ったらこんなことを言ってるけどどう思う？」

「頼もしいですね。では、今後の訓練はより気合いをいれてやりましょう」

それを聞いた士郎は顔を真っ青にして自分の発言の迂闊さを悟ったが、もうすでに遅かった。

自分で招いた状況とはいえ、哀れな奴。

あとは士郎のお置ききタイムになりそうだったので、覗き見はここまでで止めといた。

（魔法球の）次の日に凜から「私とセイバーを主として、バクティオー仮契約をしないか？」という提案があった。

もちろん、アーティファクト提供のためだけの仮契約であり、それ以外（魔力供給や召喚実施）は一切しない、という契約の元でだ。バクティオー

……そうか、よく考えてみれば、迂闊に仮契約バクティオーすると、主が問答無用で召喚することが可能となる。

そのため、アーティファクト目的だけで仮契約をした主の場合、金とかで従者を買ってしまい、従者をいきなり召喚して誘拐やら殺害やら簡単にできてしまうわけか。

今回は凜とアルトリアが主だから問題ないが、……信用できない人を主にするのは絶対に避けた方がいいな。

アーティファクトが増えるのはありがたいので、アスナとさよは僕に相談した上で、二人と仮契約を行った。バクティオー

……キャサリンは仮契約できないので、適当な理由をつけて断っていた。

主 × 従者 Ⅱ アーティファクト

遠坂凜 × セイバーアスナ Ⅱ アゾット剣
 キャスター

遠坂凜 × 相坂さよ Ⅱ 琥珀の杖

セイバーアルトリア × セイバーアスナ Ⅱ ウロボロスの心臓
セイバー キャスター

アルトリア × 相坂さよ Ⅱ ダビデの豎琴

「ウロボロスの心臓」の効果により、アスナは擬似魔力炉心を手に入れ、自力で魔力回復が可能になった。

その分、ご飯を大量に食べる必要があるようだが、……まあサーヴァントは太らないし問題ないだろう。

とりこんだカロリー分だけ、という制約はあるが、自力で魔力を回復可能になったのはうれしいことだ。

これで、アスナは2代目「はらぺこセイバー」にまでなったのか。……どこまでアルトリアに似ていくのやら。

さよのアーティファクトは、ダビデの豎琴。

もちろんレプリカなのだが、宝具のレプリカとは大したものだ。伝説では、ダビデの豎琴で悪霊を退散させたので、悪霊などを追い払う機能かと思いきや、機能を解析したところ『死霊などの霊体や下等な魔物を操ることができる』とのこと。

「あれっ？ 確か、サーヴァントって霊体に分類されるよな？」と気づいて本人の了承の元メドゥーサに対して使ってみたところ、操ることまではできないが、動きを束縛することはできる、とのこと。

機能的には、『GS美神』でおキ又ちゃんが使っていた『ネクロマンサーの笛』そのものである。

まあ、元幽霊という共通項はあるし、幽霊の気持ちを理解できるのも間違いないだろうけど。

対魔力が低い相手なら、人間であつても霊体（魂）を操作することとで動けなくすることも不可能ではないらしい。

さよ本人は「成仏できない幽霊を成仏させることができるかも」と喜んでいるが、間違つて自分を成仏させないように気をつけるよ」。

アゾット剣はそのまんま。

琥珀の杖は、世界樹の枝で作った杖の先に琥珀が嵌められたもので、かなり強力なものらしい。

こうして、相変わらずアルトリアのアルバイトは許可される兆しは全くないが、アスナとさよが新しいアーティファクトを手に入れ、二人はさらに強くなることができたのだった。

外伝02話 土郎達の様子（小学2年生 聖杯世界3月）（後書き）

【更新履歴】

2011・09・21 『対価の一部として、宝石魔術の基礎をさ
よに伝授すること』を追記
2011・09・21 『凜を主としたアーティファクト』を追加

【備考】

劇場版ネギまで配布された第0巻において、相坂さよのアーティ
ファクトが『ポルスターガイスト』になっていました。

そのため、主人公との仮契約バクティオーで出現したさよのアーティファクト
を『ダビデの豎琴』から『ポルスターガイスト』に変更し、セイバ
ーとの仮契約バクティオーで出現したさよのアーティファクトを『ダビデの豎琴』
としました。

1996年8月21日（聖杯世界3月13日）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1996年8月21日（聖杯世界3月13日）のメモ

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

種族：人間

外見：17歳（家や学校では7歳児に変身）

職業：小学生

能力：能力解析

能力複製（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

アーチャー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

ゲート・オブ・バビロン

所持：王の財宝（倉庫）

：E→A+（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A+（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A+（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C-（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

ハルベ

蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）：投影アーティファ

クト

カルンウェナン

小さな白い柄手（短剣）：E（投影アーティ

ファクト）

建御雷（魔力の刃）
クト NEW
：投影アーティファ

妖刀ひな（呪われた刀）
Iサ用）
：投影武具（メドウ

槍
ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）
ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍（対軍）
ゲイ・ジャルグ
破魔の紅薔薇（魔力無効化）
ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）
：B（投影宝具）
：C（投影宝具）
：C（投影宝具）

鎖
エルキドゥ
天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

弓矢
エミヤの弓
カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）
フルンディング
赤原獵犬
：投影武具
：A（投影宝具）
：C（投影宝具）

盾
アイギス
蒼鏡の盾（センサー）
ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環
ブライウエン
魔法の船となりし聖盾（魔法の船）
：D（投影宝具）
：B +（投影宝具）
：C（投影アーティ

兜
ファクト）
ゲースホワイト
騎士王の兜
：D（投影アーティ

鎧
ファクト）
英雄王の鎧のパーツ
ウィガール
騎士王の鎧（鎖帷子）
：B（投影宝具）
：D（投影アーティ

ファクト）
その他
光の翼
：投影アーティファ

クト NEW

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>：重要な戦闘で使用（切り札）

クラス ライダー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C 魔力 B

耐久 D 幸運 A

敏捷 C 宝具 A+

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】：A+

保有スキル 【精霊魔術】：D

【直感】：B

【魔術】：D-

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【魔眼】：A+

宝具 【無限の剣製】：E→A+

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考 ステータスは『気』使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】

【魔眼】：A（ライダークラスのみA+）

戦闘能力向上系

【無窮の武錬】：A

【怪力】：C（ライダークラスのみB）

魔術系

【魔術】：D -

戦闘補助系

【精霊の加護】：B（イリヤに貸し出し中）

【直感】：B

その他

【黄金律】：B（イリヤに貸し出し中）

宝具

【無限の剣製】：E } A +

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスのみ

B）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスの

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳

職業：無職

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

忠誠の指輪

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B（A） 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

クラス別能力 【対魔力】 : B

【騎乗】 : A +

保有スキル 【魔眼】 : A +

【怪力】 : B

【神性】 : E -

【無窮の武錬】 : A

【直感】 : B

宝具 【騎英の手綱】 : A +

【自己封印・暗黒神殿】 : C -

【十二の試練】 : C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前 : 相坂さよ

性別 : 女

種族 : サーヴァント

外見 : 17歳 (学校では7歳児に変身)

職業 : 小学生

能力 : 気配遮断 : A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼 : B

技術 : バトントワリング (ペン回し)

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術（知識のみ）

ガンド

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

縛めの指輪

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C

宝具

【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ポルスターガイスト】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳（学校では7歳児に変身）

職業：小学生

能力：魔法無効化

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復不可、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルペー

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

影の鎧

<サーヴァントのパラメータ>
クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B 魔力 A+

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 A 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル 【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

【魔力放出】：C

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』と魔力放出を使用時のもの

(筋力、敏捷が2ランクアップ。耐久が1ランクア

ップ)

魔力放出の代わりに咸卦法を使用すると、耐久が1

ランクアップ

【夜の騎士】

1. イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

種族：魔法生命体

外見：10歳

職業：「夜の書」の守護騎士

能力：聖杯（複製）

魔眼

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

2・キャサリン（自称：夜天の女王）

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

種族：魔法生命体

外見：15歳

職業：「夜天の書」の守護騎士

能力：飛行

魔眼

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

瞬動術

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア 闇の魔法

備考

魔法生命体（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

【協力者】

1・近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

種族：人間

外見：8歳

職業：小学生

能力：魔力：A+

飛翔 NEW

技術：占い

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

光の翼 NEW

2・桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

職業：小学生

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能
魔力：回復可能、使用可能
アーティファクト：

建御雷 NEW

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

種族：人間

外見：5歳↓6歳（普段は16歳に変身）

職業：高校生

能力：能力解析（サーヴァント限定）

技術：魔術

吸収

使役

西洋魔法 NEW

ルーン魔術 NEW

アーティファクト：

魔獣の指輪

四天の指輪

破魔の指輪

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

備考：『気』で身体強化が可能

【契約相手】

1．遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

種族：人間

外見：17歳

職業：魔術師、高校生

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

瞬動術（虚空瞬動も可能） NEW

咸卦法 NEW

能力解析（サーヴァント限定）

所持：宝石

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）
アヴァロン

：EX（小物サイズ）

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

備考：『気』で身体強化が可能

2．衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

種族：人間

外見：17歳

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

能力解析（サーヴァント限定）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

瞬動術 NEW

アヴァロン

オリジナル

所持：全て遠き理想郷：EX

ゲート・オブ・バビロン

王の財宝：A（投影宝具）

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

種族：サーヴァント（霊体化不可）

外見：15歳

職業：サーヴァント

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アヴァロン

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミアード】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

第18話 魔女の干渉（小学3年生 1997年4月4日）

いつかは来ると覚悟はしていが、予想以上に早くメディアが僕たちに接触してきた。

メディアが最初に接触したのはさよだった。

いつも通り、放課後に『成仏認定されない為の週一の麻帆良学園の散歩』をしていたさよに、メディアから話しかけてきたらしい。

「こんにちは」

呼びかけられてさよが振り向くと、そこには紫のローブを目深にかぶった女性、メディアが佇んでいた。

「こ、こんにちは、わ、私に何か御用ですか？」

聖杯戦争の記憶も鮮明なさよは、思わず怯えてどもってしまったが、メディアは気にせず話しかけてきた。

「一応確認したいのだけど、あなたの名前は相坂さよ、で正しいかしら？」

「はい、私の名前は確かに相坂さよですけど。
すいませんが、どちら様ですか？」

さよのSOSの念話を聞いた僕たちは、修羅場に一番強くて弁が立つキャサリンにさよにフォローを頼み、キャサリンのアドバイスを得たさよは、何とか落ち着くことができたのだった。

「あら、ごめんなさい。」

私のことはキャスターと呼んでちょうだい。

今日はあなたに話しかける予定はなかったのだけど、……ちよつと信じられないものが見えてしまったから、確認する必要ができてしまったのよ」

げっ、これはさよがキャスターであることがばれたか？

さよが作った『英霊隠し』のアイテムは、霊体化した状態では亜

空間にしまわれるが、多少効果が低下するだけでサーヴァントの気配を消せる優れものだが、……至近距離までメディア本人に接近されれば隠しきれなかったか。

しかし、いきなり攻撃されたり封印されたりせず、平和的に話しかけてきたということは、これは僕が考えた理想的な接触か？

……できれば、もう少し僕たちが強くなり、仲間が増えてからにしたかったが、メディアから接触してきた以上、逃げるわけにはいかないな。

「あの、キャスターさん。それで、私にどんな御用ですか？」

無難な質問をしたさよに対して、メディアの回答は予想外のものだった。

「何度も同じことを話すのは面倒だから、あなたの保護者と一緒に時に話したいわ。」

今、あなたの保護者と念話で相談しているでしょ。

……そうね、麻帆良学園のそばにある公園で次の日曜日の1時に会うのはどうかしら？」

「わ、わかりました。」

保護者を連れて公園へ行きます。

……あの、怖いことしませんよね？」

「ふふ、安心なさい。」

私に喧嘩を売ってきたのなら容赦しないけど、礼儀を弁えているのならあなたが心配するようなことはしないわ。

それじゃ、来週会いましょうね」

そう言って、メディアは風のように去って行った。

当然さよは慌ててエヴァの家の魔法球に戻ると、すぐに世界扉で僕たちのところへ戻ってきた。

当然、僕たちもすでに魔法球に集合していて、即座に作戦会議を始めた。

議題1：次の日曜日にメディアに会いに行くか？

「まずはみんなの意見を聞かせてほしい。
遠慮なく意見を言ってくれ。」

……まずは、会いに行くことになる、絶対に参加しないといけないさよの意見を聞きたいけど？」

「聖杯戦争で見たキャスターは怖かったです。」

……でも、さっき会ったメディアさんは、確かに怖かったですけど、話を通じそうな相手だと感じました。

聖杯戦争中かそうでないか、という違いもあるかもしれませんが。

……私はメディアさんと対立する予定がないのなら、なぜメディアさんが私に会いに来たのか、理由を聞きたいです」

メディアがさよに会いに来た理由は、多分朱雀に依頼されて助けに来たんだろうな。

……メディアが幽霊を見つけたからと言って、対価もなしに助けるような性格とは思えないし。

今まで朱雀はさよに接触しなかったから「朱雀たちはさよを助けるつもりはない」と判断していたんだが、一体何があって心変わりをしたんだろう？

他のメンバーの意見も聞いたが、メドゥーサやキャサリンがメディアを警戒しているものの、まずは話し合いを行うことには反対しなかった。

こうして、まずはメディアと会うことは全員一致で決定した。

議題2：メディアの言う『保護者』とは誰のことか？

「戸籍上の保護者ならメドゥーサ、さよの主なら僕になるけど？」

「多分ですが、両方のことではないでしょうか？」

メディアが至近距離でさよを観察した以上、さよがサーヴァントであることがばれていると考えるべきです。

サーヴァントであることに気付いた以上、放置ということは絶対にないでしょうから、今後のことを話すために保護者と話したいと考えたのでは？」

「なるほど、それはあり得る話だな」

「そして、さよがサーヴァントになっている原因として考えられるさよの主とも会いたいだろうな。

保護者と主が同一人物ならそれでよし、別人物なら両方とも来い、と言ったところか」

メドゥーサの言葉に、キャサリンが言葉を続けた。

「私も同感。

さよに接触した最初の原因について保護者と話したいことがあるのは私も間違いないと思う。

そして、さよがサーヴァントであることに気付いて、さよをサーヴァントにした人物にも会いたいと思っているはず」

「まあ当然よね。

ただの地縛霊のはずが気づいたらサーヴァントになっていたら、絶対に理由を知りたいと思うはずよ。

幸いメディアは平和的な対話を選んでくれたけど、サーヴァントになっていたさよを見つけた瞬間に捕縛して、尋問や研究を始めてもおかしくなかったと思うわ」

アスナ、そしてイリヤまで同意し、それを聞いたさよは涙目になっってしまった。

「……ほ、本当ですか？」

「あくまでも可能性よ。

もっとも、次の話し合いが決裂したらどうなるかわからないけどね」

「あ、あの、遼平さん。

大丈夫ですよね。

メディアさんと対立したりしませんよね」

「こっちからは対立するつもりはないよ。

というか、最低でも好意的中立の立場を取りたいと思っている。

……ただ、向こうが喧嘩を売るとか、無茶な要求をしてきたら、自衛の為に戦うしかないけどね。

まさか、無条件降伏してまで奴隷の平和が欲しいとは思わないし」
僕の言葉に、さよ以外の全員が即座に頷いた。

さよもしばらく考えた後、ゆつくりと頷いた。

「平和が一番ですけど、……私も奴隷の平和はいりません。

もし、メディアさんが私たちの権利を侵害するなら、私も全力で抵抗します」

「ありがとうございます。

もちろん、こっちから挑発するようなことは一切しないから。

……そうになると、こちらの誠意を見せるため、さよと一緒に僕とメドゥーサも会いに行った方がいいかな？」

「誠意を見せるつもりなら、それが一番だろうな。

ただし、お前の秘密がばれて、さらにメディアが警戒してより危険視される可能性も十分あるが、……どっちを選んでも危険性はあるか」

課題3：メディアに僕が会うことのメリットとデメリットは？

メリット

・交渉が決裂して戦闘になるか可能性はあるが、平和的な交渉からスタートできる。

・メディアの「保護者に会いたい」という依頼に対して、僕が直接会うことで誠意を示せる。

・うまくいけば、今後協力体制を取れる。

デメリット

・メディアに攻撃されるとか罠に嵌められる可能性がある。最悪、奴隷か実験体が死亡。

・メディアに僕の複製能力やサーヴァント能力をコピーしたことがばれる可能性がある。

・僕がサーヴァント能力を持っていることがばれると、存在そのものを危険視され殺されるかも？

殺されなくても、何らかの方法でサーヴァント能力を封印されたりするかも？

「私とさよは会いに行くのは決定済みです。

リヨウが会うことについては、メディアの意図が不明の為、メリットとデメリットが予想しきれません。

もちろん、交渉が決裂して戦闘になれば全力で守りますが、対魔力Bの私ではメディアの魔術や魔法を防ぎきるのは難しいでしょう。速さで攪乱しても、高速神言を使われれば、ランクAの魔術が連続で使われる可能性が高いですね」

「下手すると、高速神言でこの世界の魔法を連発される可能性もあるしな。

それでも、もし戦闘になったとしても、ペガサスを召喚して逃げるに徹すればなんとかなるはずだ。

…… 虎穴に入らずんば虎児を得ず。

覚悟を決めて、僕もメディアに会いに行くよ。

最悪の場合、防御系の宝具は出し惜しみなしで行く」

不安はあるが、いつか朱雀たちと接触するのは覚悟していたことだ。

自分としてはもっと強くなってから会いたかったが、…… 手持ち

の材料で最善を目指さなきゃいけないのが人生だしな。

こっちは魔改造ライダーがいるんだ。

…… なんとかなる、はずだ。

直感も、『メディアと会うことによって不幸になる予感』を感じるんだけど、『メディアと会わない方がもっと不幸になる予感』があるんだよなあ。

こんな予知をしてしまえば、メディアと会う以外の選択肢はなくなってしまう。

「わかりました。

さよの護衛を最優先として、逃げることに全力を尽くしましょう」

「頼むよ、メドゥーサ。

さよも、光鷹翼とか遠慮なく使ってくれ」

「わかりました。

私も全力を尽くしますね」

課題4：準備

僕はまずサーヴァント能力を使わない状態でメディアと会う。

もちろん、危険を感じればすぐに使用するが、可能な限り隠し通す。

その代わり、防御用の宝具やアーティファクトは目立たない範囲で装備しておこう。

問題は令呪だけど、メディア相手だと持っているのがすぐばれてしまうだろう。

しかし、切り札としてあると心強い。

…… そうだな、僕だけが持つのではなく、仲間に配布しておこう。

すでにメディアに会っているさよが令呪を持っていると怪しまれ

るだろうから、アスナ、イリヤ、キャサリンに令呪を配布した。

僕は3画だけ残し、3人が4画ずつ持つことにした。

これで僕のことを、通常のマスターだと思ってくれるかもしれない。

居残り組のアスナ、イリヤ、キャサリンは世界扉で常に状況を監視し、必要があれば世界扉越しに援護を依頼することにする。

他に何かできることはないか？

そう思っゲート・オブ・バビロンて、自分のパラメータや王の財宝に格納してある武器のリストを見ていると、あることに気が付いた。

今の僕は、武器以外でも防具なら投影可能になっている。

ならば、メドゥーサの記憶にあるペルセウスが持っている宝具で、以前は登録できなかった宝具も今なら投影可能になるのではないか？

そのことに気付いた僕は、嫌がるメドゥーサを拝み倒して、再度ペルセウスを夢の世界で見せてもらった。

その結果、『冥王アイドス・キュネエの死兜』、『天駆ける翼靴タラリア』を投影可能になった。

……よし、これがあれば、いざというときにメディアから逃げられる可能性が大幅にアップしたぞ。

様々なシチュエーションを想定し、それぞれの対応策を可能な限り考えた後、僕らはメディアとの面会の日を迎えた。

麻帆良学園のそばにある公園で、霊体化したままのさよと実体化済みのメドゥーサ、そして僕の3人で待っていると、ついにメディアがやってきた。

解析したが、どうやら実体。つまり本物のメディアが来たらしい。

僕たちの探知範囲内にはメディア一人しかいないように見える。

「初めまして、ご招待いただいたさよの保護者です。

僕のことは、アキトと呼んでください」

当然ながら偽名である。

今の時点で本名をばらすのはデメリットが大きすぎる。

「あら、お久しぶりね。私はキャスターよ」

「……すいません。お会いしたことはあったでしょうか？」

「麻帆良祭の会場で会ったじゃない」

ぎくつとしたが、嘘を言うのはヤバい気がする。できるだけ、事実を話すことにしよう。

「ああ、そういえば、かなり前のことですが、麻帆良祭のコスプレ大会の会場で見かけたことはありますね。

……ただ、キャスターさんらしき人の後ろ姿を見た覚えはありますが、キャスターさんと挨拶はもちろん、顔を合わせた記憶はありませんが」

「ええ、確かに顔は合わせてないわね。私があなたに気付かれないように見ていただけ。

あの時、小さいけど妙な魔力反応があるとは思っていたけど、たった2年でこれほど成長するとは驚いたわ。

……やっぱり、何か特殊能力を持っているのかしら？

キャスターのさよがいたことも驚いたけど、まさかライダーまで連れてくるとは思わなかったわ」

メディアの言葉は静かだったか、ものすごい圧力が伝わってきた。
フレッシャー

「やっぱり、彼女もあなたがサーヴァントにしたのかしら？」

メドゥーサとは初対面のような発言だな。

……眼帯を外してメガネをかけて、外見が15歳ぐらいに若返っているとはいえ、メドゥーサに気付いていないのか？

もしかして、メディアは聖杯戦争の記憶を持っていないだけじゃ

なくて、朱雀から聖杯戦争の詳細も聞いていないのか？

……これはチャンスだな。

どうせ朱雀からばらされるFateの原作関連の情報は、こっちから全部ばらして誠意を示すでしょう。

「違います。」

ライダーは僕が召喚したサーヴァントです」

そう言っ僕は、左手にある令呪を見せた。

「あら、ということはあなたも英霊なのかしら？」

「ええ、その通りです」

メディアの問いに、メドゥーサはあっさりと肯定した。

「信じるかどうかは任せますが、ギリシャ神話に登場するメドゥーサですよ」

「挨拶が遅れましたが、ライダーのサーヴァントとして彼に召喚されたメドゥーサです。」

よろしくお願いします」

僕がメドゥーサの正体をばらした瞬間、メディアはとんでもないプレッシャーを僕に向けてきた。

「いきなり正体をばらすなんてどういっつもりかしら？」

「単にキャスターさんと友好的な関係を結びたいと考え、その第一歩として情報を公開しただけですよ。」

対価として、キャスターさんの真名を教えてほしいとは言いませんからご安心ください」

「その反応、私の真名を知っているということかしら。」

……ああ、そう、あなたも『第五次聖杯戦争を観測したことがある存在』なのね」

そう言っメディアは、ますますプレッシャーが増していた。げっ、いきなりばれた？

もしかして、朱雀はそういうふうに、自分のことをメディアに説明したのか？

「ええ、そういうことです。」

僕は第四次、第五次聖杯戦争を観測したことがあり、第五次聖杯戦争でキャスターとして召喚された存在を知っています」

「そう、私はその記憶も記録も持っていないけど、言う必要は無いわ。」

あの子の反応からして、あまり愉快的結果じゃなかったみたいだし。

……話がずれてしまったけど、とりあえず話が終わるまで戦闘はなし、ということでもいいかしら？」

「ぜひ、お願いします。」

こちらとしては、話が終わっても戦闘がないことを望んでいますけどね」

やっぱり、こちらを相当危険視していたか。

まあ、キャスターとライダーのメドゥーサの二人を連れてきたのだから当然か。

「最初の、本来の話はさよのことよ」

「私のことですか？」

いきなり話を振られて、さよはかなり戸惑っていた。

「そう、あなたはずっと地縛霊として過ごしていたでしょ？」

「はい、そうです」

「それを可哀そうに思った私のマスターが、あなたに限りなく人間に近い体をあげようと考えたのよ。」

人とまったく同じように成長し、病に冒され不慮の死に苛まれる体を、ね」

「そうだったんですか？」

さよは、予想外のことを言われてかなり驚いているようだった。

そうか、朱雀もさよのことは気にしていたのか。

「ええ、そのつもりだったのよ。」

今までは他の用事があったからあなたの体の作成に取り掛かれな

かったのだけど、やっとその用事が終わったの。

それで、あなたの外見情報を確認しようと観察していたら、なぜかサーヴァントになっていたことに気付いたのが先週よ。

……自分以外にこの子を助ける存在がいるとは、マスターも予想外だったみたいね」

なるほど。

まさか、さよを助けることより優先順位が高いことがあって、後回しになっていたとは思いつかなかった。

体を作るのは後回しでも、さよと会話をしたり、魔法人形などを与えたりすればよかったと思うんだが、それすらもできないほど忙しかったのだろうか？

あるいは、さよを助ける優先順位や重要度が相当低かった可能性もあるか。

「今は霊体化しているようだけど、実体化可能なんでしょう？」

「ええ、その通りです。」

さよ、実体化してくれ」

「わかりました」

次の瞬間、さよが実体化したが、メディアは当然のように見ているだけだった。

「本当にサーヴァントになっているのね。」

サーヴァントを受肉化させるのは、さすがの私でも不可能だからマスターの願いを叶えるのは無理そうね」

うん、それほど無理。

アーティファクトで出てきたとんでもないハイレベルの魔法人形にサーヴァント能力を封印して憑依することで、さよは人間に限りなく近い体を持てているが、サーヴァント能力を保持したまま受肉化するとか、聖杯戦争の聖杯並みの大魔力がないと難しいだろう。

「そ、そうなんですか、私のせいではないですか」

「いいのよ、事前に話さず勝手に行動していたこっちが悪いんだから、あなたが謝る必要は無いわ。」

それに、私が頼まれたことはすでにほとんど達成済みだったのだから、マスターも文句はないでしょう」

次の瞬間、さよに向けていた優しい霧囲気は完全に消え去り、冷徹なキャスターが現れた。

「……次が本題よ。」

メドゥーサを召喚し、地縛霊をサーヴァントにする能力を持つあなたは一体何をするつもりかしら？」

さあ、いよいよ本命の質問が来た。

ここで回答を間違えると、あつという間にデッドエンドへ行く羽目になりかねない。

全神経を集中し、迂闊なことを、そして余計なことを言わないように気を付けなければ。

「純粹に自衛の為の戦力を集めていただけです。」

日本だけでも、対立する魔法関連の二大組織がありますからね。万が一戦闘などに巻き込まれたとしても、完全にそして安全に排除できるだけの戦力が欲しかっただけです。

……あとは、僕がサーヴァントを召喚できたことから、他にもサーヴァントを召喚した人がいるのではないかと警戒していたのもあります。

実際、魔法世界の闘技場にランサーのサーヴァントであるディルムッドが戦っていましたし、さらにもう一人のサーヴァントが目の前にいますから僕の懸念は正しかったわけですね」

「……その言葉、私のマスターにも聞かせてあげたいわね。」

……つまり、『全ては自衛の為であり、私たちと友好的な関係を結びたいという言葉は嘘ではない』と言いたいよね。

気づいているのかしら？

過剰な戦力は持っているだけで、周りに警戒され、場合によっては攻撃されることもあるのよ」

「知っています。」

ですが、力が必要なきに戦力不足で何もできないよりは、戦力を持って警戒されることも仕方ないと考えたままでです。

……まあ、可能な限り無駄な戦闘は避けるつもりだったので、今までずっと気づかれないように隠れて過ごしてきましたけどね」

「確かにその通りね。

私に気付かれずに、サーヴァント二人を従える存在がいるとは思わなかったわ。

……まさかとは思うけど、メドゥーサ以外に召喚したサーヴァントや、さよと同じ存在がいるのかしら？」

「いえいえ、僕が召喚できた英霊はメドゥーサだけです。

そして、さよみたいに、僕に協力してくれるしつかりとした自我を持った幽霊がいたら、ぜひスカウトしたいと思っていますけど、まだ見つけられていません。

……もしかして、この世界ではサーヴァントを二人以上召喚することは可能なんですか？」

嘘は言っていないぞ、嘘は。

僕が召喚したのはメドゥーサー一人だし、残りは全員元幽霊じゃない。

誤魔化しと確認を兼ねて、質問してみたが、さてメディアはどう答える。

「私の知る限り、召喚できるサーヴァントは一人だけね。

私のマスターが召喚したのも私だけよ」

さて、この言葉は本当か？

原作では、メディアは言峰以上に言葉に裏があったイメージが強い。

……確か、士郎に対して『仲間になりなさい』ってタイガーを人質に脅迫して、士郎が承諾したら『生きた投影用の魔杖』に改造してたよな。

メディアにしてみれば、『（大切じゃない）仲間』と『殺さなければOK』と『生きた魔杖に改造して当然』なのかもしれないけど、

それは絶対に一般的な『仲間』の概念じゃない！

とりあえず、メディアの言うことは一切信じないつもりぐらいに考えておけばいいだろう。

「それで、サーヴァントを二人も従えておいて自衛のためにしか使うつつもりもなく、ずっと隠れて過ごすつもりなのかしら？」

「現時点では、4年後まではその予定です。」

僕は中学から麻帆良学園に入学する予定です。

その後、色々と予定していますが、キャスターさんと争うようなことは可能な限り避けたいと思っています」

「それが本当なら、私たちに不利益な行為をとらない限り見逃してあげてもいいのだけど、……その余裕の元は一体何かしらね？」

次の瞬間、『本気で殺されると感じるレベルの殺気とプレッシャーが僕に襲いかかってきた。』

メドゥーサはすぐに僕の前に出てくれたが、僕も反射的にサーヴァント能力を発動した、してしまったのだ。

しかし、メディアは殺気とプレッシャーを放つだけで攻撃する様子は見せない。

……しまった！　僕が隠していた能力を暴くための殺意だったのか！！

幸い、対メディア戦ではまずは見せ札のクラスを使うつもりだったので、今の僕はランサークラスになっているが、僕がサーヴァント能力を使えることがメディアにばれてしまった。

<メディアに見えていると思われる僕のパラメータ（保有スキルと宝具はどこまで見えたか不明）>

クラス ランサー

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 B

耐久 E 幸運 A
敏捷 D 宝具 C

クラス別能力
保有スキル

【対魔力】：B
【精霊魔術】：D

【魔術】：D -

【無窮の武錬】：A

【燕返し】

【直感】：B

【黄金律】：B

【十二の試練】：C

【己が栄光の為でなく】：C

備考

ステータスは『気』未使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップしていない)

恐る恐るメディアを見ると、絶対零度の氷の微笑に、僕は完全に凍り付いてしまった。

「……なるほどね。あなたはあの時、マスターから力をコピーしていたのね。」

そして、コピーした力の一部をさらにさよに渡していた。

それがあなたの特殊能力というわけね。

……全く、マスターといい、あなたといい、思わず殺したくなる存在が多い世界ね」

その言葉はまさしく凍りつく台詞で、僕とさよは思いつきりびびっていた。

っておい、メディアは朱雀を殺したかったのかよ。

……いや、確かにチートトリッパーなんて存在を見つけたら、真っ当に強くなつた人なら殺意を持ってもおかしくないけど。

「あら、ごめんなさい。」

……安心なさい。

マスターに依頼されているから、私たちに不利益な行動を取らないかぎり何もするつもりはないから」

そう言いつつ、メディアからは強烈な殺意が伝わってきた。

それはつまり、マスターに依頼されていなければ、容赦なく僕たちを殺すつもりだったということですね。

「殺したいのは事実だけど、今は何もしないからそこまで警戒する必要はないわよ。」

いくら私でも、メドゥーサ相手に簡単に勝てるとは思っていないわ。

……あなたもそう思うでしょ？」

「そうですね。」

魔術であなたに勝てるとは思いますが、前衛がいない今なら、私たちが圧倒的に有利です。

……もつとも、前衛を召喚されてしまえば不利になるのはこちらでしょう」

「さすがに賢明ね。」

生前は会ったことはなかったけど、近い時代、近い場所にいた私と同じく神に恨みを持つ存在。

……私としても好き好んで戦いたいとは思わないわ」

「アテナ達に対して恨みを持っているのは事実ですが、全ての神に恨みは持っていないですよ」

「……確かにそうだったわね。」

別に構わないわ。

一部であろうと、私と同じくあの傲慢な神々を恨んでいるという事実が重要なことから」

ギリシャ神話の神々って、やりたい放題だからなあ。

僕の知る限り、ギリシャ神話の神々の被害者っていう意味では、この二人はトップクラスに入と思う。

「こっちに敵意もないし喧嘩を売るつもりもないみたいだから、放

置しておいてもいいかとも考えたけど、……やっぱりマスターの能力をコピーできる存在は危険ね」

「ど、どうするつもりですか？」

殺気とプレッシャーは収まったが、直感がものすごく危険信号を発しているの、僕は恐る恐る確認した。

こっちが受け入れられない要求だったら、……さよをつれて全力で逃げる。

出し惜しみは当然なしだ。

アスナたちも世界扉からリアルタイムで状況を把握しているし、何とかなる、はずだ。

「そんなに警戒しなくていいわよ。

私もわざわざ攻撃をしかけて、あなたたちみたいな強力な集団を敵にしたくはないわ」

その言葉、全然使用できません。

怖いから、当然口には出さないけど。

「そうね、これがいいわ」

メディアがそう言うて手を振った瞬間、……僕のパラメータから「サーヴァント能力」の文字が薄くなり、勝手にサーヴァント能力が解除されてしまった。

慌ててパラメータをいじるが、どうやってもサーヴァント能力を使うことができなくなっていた。

あまりの事態に動揺を隠せずにいた僕を見て、メディアは静かに笑った。

「悪いけど、仮にも私のマスターの力を、無断でコピーするような真似は見逃すわけにはいかないのよ」

バカな！

確かにメディアは何らかの魔術か魔法を使ったけど、僕に対して直接掛けられたものではなかった。

一体何が起こった？

事情を知って全力で警戒態勢に入るメドゥーサを見て、メディア

は言葉を投げかけた。

「安心なさい。」

これ以上何かするつもりはないわ。

……ただ私は、無断でコピーされていた能力を使えなくしたただけだから一体何をした？

僕の疑問に回答をくれたのはメドゥーサだった。

「私たちの周辺に変わった結界を張っていますね。」

これが、マスターのサーヴァント能力が使えなくなった原因ですか？」

「ええ、そうよ。」

『私のマスターの魔力波長と全く同じ魔力波長に自分の魔力を交換して、さらに共鳴させることでサーヴァント能力を擬似的にコピーした』ことには驚いたけど、……種が割れてしまえば対策は簡単。私が周辺に張った結界で、彼とマスターが共鳴できないようにしたわ。

それだけで、疑似的なコピーは成立しなくなり、彼のサーヴァント能力は使えなくなった。

……もちろん、この結界から出れば再びコピーした能力は使えるようになるでしょうけど、私がマスターにこの結界と同等の効果を持つ魔道具を作って渡せば」

「僕はもう、……二度とコピーした能力を使えることができなくなる、と」

「その通りよ。」

私はただ、これ以上マスターから泥棒が能力を盗めないように対策を施しただけ。

……何か文句はあるかしら？」

「……な、何もない、です」

とてつもなくシヨックだったが、僕は全身全霊の精神力を振り絞り、なんとかそれだけ答えることができた。

僕がサーヴァント能力を失い、それによってメドゥーサも弱体化

しているはずだし、メディアに敵対するなど完全に自殺行為だ。

「物わかりがいい子って好きよ。」

……これで私の用事は全部済んだから、もう帰るわ」

「じゃ、じゃあ」

「ええ、あなたの行動は私たちに敵対していなし、不利益な行動もしていない。」

今後そのままなら特に何もしないわ。

……もちろん」

「わかっています。」

何百倍にもなつて反撃されることが分かっていて、攻撃をしかけるような馬鹿な真似はしません。

……できればいいので、絶対に手出ししてはいけない組織やメンバーを教えてもらいたいんですが。

あなたが『Gold Flash Group』の会長であることは調べたので、あなたの関係者と『Gold Flash Group』に手を出すつもりはありません。

ですが、敵対行為と誤解されないように、あなたに関する情報はほとんど集めていないので、それ以上のことは知りません」

「賢明ね。」

そのまま気を付けて過ごせば長生きできるわよ。

……そうね、『Gold Flash Group』、特に『Gold Flash Group』傘下の孤児院とその関係者へ危害を加えたら宣戦布告と受け取るわ。

もちろん、言い訳を聞くつもりもないわ」

メディアは凄まじいプレッシャーと共に僕たちにそう言った。

「き、肝に銘じておきます」

僕の横で、さよもすごい勢いで首を縦に振っている。

僕が頷いたのを見て、メドゥーサも頷いている。

「忘れたら絶対に殺すわ。」

気をつけなさい」

そう言って、メディアは背を向けたが、振り向いて言葉を続けた。
「そうそう、私の配下に入るのなら、私からマスターを説得して、
今まで通りサーヴァントの能力を使えるようにしてあげてもいいわ
よ。」

さよもメドウーサも可愛いし、悪いようにはしないわよ」

メディアが可愛い子が好物なのは分かっているし、僕がサーヴァント能力を使えるようになるのはものすごく魅力的だが、……全く信用できません。

原作のメディアの怖さを知っている身としては、どう考えても特大の死亡フラグにしか見えない。

「……魅力的なお誘いですが、申し訳ありませんが辞退させていただきます」

……なるほど、凜がアルトリアに対して、アルバイトの許可を出さない理由がよく分かった。

どれほど条件がおいしくても、借りが返しきれないほどたくさんあったとしても、……どう考えても絶対に裏があるようにしか感じられないのなら、今の僕と同様にアルバイトを許可するはずがない。
「そう、残念だね。」

焦らずに待っているから、気が変わったらいつでも来てちょうだい。

連絡は、『Gold Flash Group』へお願いね。

『ランサー』と名乗る人から連絡が来たら、私へ直接取り次ぐように伝えておくから。

……私から伝えたいことがあれば、またさよに伝言をお願いするわ」

そう言って、今度こそメディアは姿を消した。

最後にさよに視線を向けていたような気がしたが、特に何も言わなかった。

安心のあまり力が抜けて気を失いそうになったが、必死で気力を

振り絞って気絶するのを防いだ。

メディアが消えた瞬間、僕はサーヴァント能力を使えるようになったが、メディアの言葉が正しければ（正しいに決まっているが）、メディアが魔法具を作り出して朱雀がそれを身に着けた瞬間、僕は二度とサーヴァント能力を使えなくなるのだろう。

……メディアの配下に入らない限り。

メディアが去ったのを確認した後、僕たちは急いで家に帰った。もちろん世界扉の存在を隠すため、麻帆良市からかなり離れ、メドゥーサが監視されていないことを確認してから、世界扉を使って帰還した。

「リョウ、大丈夫だった？」

「ああ、世界扉で見てただろ。

あれで全部だ。

……僕がコピーした能力を使えなくなるのは残念だけど、……所詮借りものだったしな。

使えるようにするため、メディアに喧嘩を売るのはリスクが大きすぎる。

……そうだ！！

みんなの方は能力に変化はあったか？」

「私とイリヤは特に変化はなかったな。

アスナにも確認したが「大丈夫。パラメータに変化はなかった」

「さよは大丈夫だったか？」

「はい、遼平さんの能力が封じられていた間も、特に変化はなかったです」

さよもアスナも、アーティファクトでサーヴァント化した特別な存在だから、僕がサーヴァント能力を使えなくなっても影響はなかったということか。

そうだな、僕がサーヴァント能力を使っているかどうかでメドゥーサはステータスが変化していたけど、二人は関係なかったしな。メディアが最後にさよを見ていたのは、これに気付いていたからか。

「念のため確認するけど、メドゥーサは？」

「はい、マスターがサーヴァント能力を使えなくなったと同時に、私の能力が低下しました」

やっぱりか！

ああああ、僕の切り札の戦力が――！！

……正直、自分が弱体化したよりショックだった。

僕のようなチームの主力の一人が弱体化してもカバーは不可能ではないが、……チームの最強戦力の弱体化は痛すぎる。

これで、朱雀チームと比べてますます戦力差をつけられてしまったな。

しかし、弱体化したとはいえ魔改造メドゥーサが強力であることには変わらない。

そして、メディアに僕とメドゥーサとさよ以外の存在はばれていなかったし、切り札としては十分だ。

とりあえず、今後の対策を考えるため、僕たちは魔法球の中へ入って作戦会議を始めた。

「リョウ、あなたはこのままでよろしいのですか？」

「……ああ、弱くなってしまうの悔しい。本当に悔しいけど、所詮借りものの力、いつか無くすことも想定していた。

それにメディアがやったのは彼女が言った通り、『マスターから泥棒が能力を盗めないように対策を施しただけ』で、僕には指一本触れていない。

……これで僕が抗議するとか攻撃をしかけるようなことがあれば、完全に僕が悪役だ。

この程度の対価でメディアと繋がりができて、とりあえず平和的な関係が構築できたならそれで十分だ」

とはいえ、メディアによる僕の調査はGold Flash Groupを使って盛大にされるんだろっなあ。

今日彼女に会った僕は17歳の姿だけど、麻帆良祭でメディアを発見した時は家族全員勢揃いしていた。

その時、確か名前を呼んでいなかったから、家族構成と容姿は覚えられていても僕の戸籍までは辿りつけない、と思う。

「その方が賢明だろうな。

世界扉越しに見ていただけだが、私でも背筋が凍った。

さすがは、裏切りの魔女メディア。

伝説にたがわぬ恐ろしい存在だ。

……くくく、こういう経験ができると、お前の従者になって本当によかったと思うぞ。

この調子なら、いつまでも退屈しないで済みそうだ」

相変わらずマイペースなキャサリンだが、完全に彼女の言うとおりで。

「リョウ、本当にそれでいいの？」

「……構わない。

僕のことは構わないけど、イリヤやキャサリンにサーヴァントクラスを貸せないままで終わったのは残念だ。

僕が弱くなっても、二人が強くなれば元は取れるんだけど」

「試してみるか？」

どうせ、駄目元だ」

何やらニヤニヤと笑いながらキャサリンは提案してきた。

なぜかイリヤも意味ありげに微笑んでいる。

「そっだね。

仮契約を試してみようか。

万が一にも成功すればもうけものだからね」

いつも通り、さよが血文字で仮契約を構築し、イリヤ、キャサリンの順番でキスをしたが、……やはり仮契約は成立しなかった。

「やっぱり、駄目みたいだ」

「諦めのはまだ早い。」

今度は全力で魔力を注いでみる。

仮契約はかなりいい加減なところがあって、魔力にものをいわせれば何とかなることがある。

どうせ残り時間は少ないんだ。

試せる方法は全部試したらどうだ？」

そうか！

そう言えば、『まだ魂ができかけ(?)だった茶々丸に対して、ネギは全力で魔力を注ぎ込み、かつディープリキスをすることで無理やり仮契約を成立』させていたな。

よし、そうとわかれば、挑戦あるのみだ！！

「わかった。」

魔力全開で特殊な仮契約の方法を試すけど、覚悟はいいかい？」
「構わんぞ。」

サーヴァントになれるのなら安い代償だ。

いくらでも試すがいい」

「バーサーカーがいらない以上、自分の身は自分で守るしかないしね。そういう意味では、私もサーヴァントになればものすごく有利だわ。」

だから、私もOKよ」

二人から承諾が得られたので、僕は遠慮なくすることにした。

まずは、キャサリンを魔法陣の上で抱きしめると、一気にキスをして、魔法陣とキャサリンへ全開で魔力を注ぎ込み、さらに舌をね

じ込んで可能な限りディープなキス&粘膜接触による魔力供給を開始した。

『ちよ、ちよと待て。』

……一体、何のつもりだ!？」

驚いて念話で尋ねてきたキャサリンに対して、僕は容赦なくキスをしつつ、強気で返事をした。

『僕が見た予知夢では、ロボットの少女に魔力全開でディープキスをしたら仮契約バックタイオーが成功した例があった。

「いくらでも試すがいい」と言っただ。

自分の発言には責任を取れ!』

サーヴァント能力が使えなくなる、という危機感が、僕のたがを外してしまっただらしい。

本来なら、ほぼ対等といえる立場のキャサリンに対して、僕は容赦なく言葉と行動で攻め立て、さらに魔力を注ぎ込んだ。

『そ、そんな話は初めて聞くぞ。』

こ、こら、少しは遠慮し、んん〜!』

止めとばかりに、僕とキャサリンの令呪まで勝手に発動し、ついにキャサリンと僕は仮契約バックタイオーが成立した。

キスと全開の魔力供給のせいか惚けているキャサリンを魔法陣の外へ寝かせ、なぜか怯えているイリヤも問答無用で引っ張った。

「ちよ、ちよと待って!」

……ま、まさか私にもあんなすごいのを」

それ以上言わず、僕はイリヤにもディープキスを開始した。

動揺して暴れるイリヤを力づくで抑え込み、一気に舌を絡め、混乱のまま舌を絡めてきたイリヤに対して残っている魔力を全て注ぎ込む。

それでも足りなそうな気がしたので、ライン経由でイリヤから魔力を奪い取り、口から容赦なく魔力を注ぎ込み、その魔力をさらにライン経由で奪い取るという無限ループまで行った。

『あ、あ、あ、あああ！！』

やっぱり、最後は僕とイリヤの令呪が勝手に発動し、イリヤとの
仮契約も無事に成立した。
バックティオー

キャサリンと同じく惚けた顔をしているイリヤをキャサリンの横
に寝かすと、見守っていたみんな（メドゥーサ、さよ、アスナ）は
何故かどん引き状態だった。

魔力供給で性的快感があることは知っているだろうに、何でそん
な反応を示しているのだろうか？

「リョウ、さすがにそれはやり過ぎ」

「その通りです。やりすぎですよ」

「私も同意します」

僕は全員に非難され、やっと少し落ち着くことができた。

「あゝ、ごめん。」

サーヴァント能力を失うっていう事実には、予想以上に動揺してい
たみたいだ。

そのせいで、仮契約の時ちょっと暴走したみたいだ。
バックティオー

「……あ、あれで、ちよつと？」

「そうだよ。」

だって、キスしかしてないでしょ？」

事実しか言っていないつもりだが、なぜそれを聞いて3人ともま
すます僕のことを恐れているようだった。

ま、まあ、手段はともかく、僕の全魔力と合計4画の令呪を使う
ことで、キャサリンは「アサシンの運命」を、イリヤは「アーチャ
ーの運命」を手に入れた。

令呪4画消費は結構痛いけど、その代わりに二人にサーヴァント
クラスを貸すことができたのなら、十分元は取れた。

しかし、なんでイリヤはアーチャーになったんだか。

今、僕に残っていたクラスは、アーチャー、ランサー、ライダー、バーサーカー、アサシン、アヴェンジャーの6つ。

そして、現在僕はライダーのクラスを使っているので、残りは5つ。

バーサーカーのマスターとはいえ、イリヤにバーサーカーのクラスは全く似合わない。

残るはアーチャー、ランサー、アサシン、アヴェンジャーだが、……やっぱりアチャ子とクロエのイメージが影響したのか？

動画でしか存在を知らないが、アチャ子はかなりかつこよかったからな。

さらに言えば、プリズマ・イリヤのクロエも可愛かったのは否定しない。

アチャ子やクロエと能力も同じなら最高だったが、……解析した結果イリヤは英霊エミヤの能力は持っていなかった。

……そこまでうまい話はなかったな。

キャサリンのクラスは、アサシンか。

『元復讐者』とか、『本人は悪くないのに吸血鬼と言うだけで悪役として扱われた過去』とかあるから、てっきりアヴェンジャーになるかと思っていたけど。

……いや、これが当てはまるのはエヴァであって、元『エヴァの人造霊』であるキャサリンには関係なかったか。

そうになると、残りはランサー、バーサーカー、アサシン。

確かにこの中では、アサシンが一番ふさわしいな。

マキア・エレベア

気配遮断で空を飛んで、いきなり強力な魔法とか、闇の魔法で強力な一撃を加えられるとなれば、相手にとって恐怖そのものだろう。

こうして僕は、偶然手に入れたチート能力を（多分）永遠に失う

ことが決まってしまった。

今はまだ使えるが、メディアが魔法具を完成させた時がタイムリミットとなる。

実を言うと、さつきから数回サーヴァント能力が使えない時間帯が発生している。

多分、朱雀の周辺にさつきと同じ結界を張ってみるとか、試作の魔法具を朱雀が装着している時間だったのだろう。

つまり、まだサーヴァント能力を使える時間は残っているが、その残り時間は短い。

これから頼れるのは、今まで鍛えてきた僕の地力と仲間たち。

……ふっふっふ、僕は主人公って柄じゃないが、こういうシチュエーションは燃えるじゃないか。

いいだろう、サーヴァント能力を失おうとも、自分の能力を最大限活かせる道を探してやる。

僕は諦めが悪いのだ。

そう、アニメでやられてもやられても諦めることなく、ひたすら陰謀を企む悪役のように。

……いや、僕は暗躍はしても、悪事を働く気はないけどね。

メディアとの遭遇は、僕の運命をさらに大きく転換させてしまったが、今の僕は自分でも意外な程やる気は満ち溢れていた。

……逆境に強い性格だとは自覚していたけど、ここまで燃えるとはホント、自分でも予想外だったな。

さあて、僕がサーヴァント能力を失うその瞬間まで、少しでも仲間を強化できる方法を考えていこう。

第18話 魔女の干渉（小学3年生 1997年4月4日）（後書き）

【備考】

・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士↓小学生

種族：魔法生命体↓サーヴァント

外見：10歳↓15歳

能力：聖杯（複製）

魔眼

令呪（残り2画） NEW

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

アーティファクト：

アーチャーの運命 NEW

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アーチャー

マスター 八神遼平

真名 イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

保有スキル

【聖杯】：EX

【魔眼】：D

【精霊魔術】：A

アーティファクト

【カレイドステッキ】

・キャサリン

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

職業：「夜天の書」の守護騎士

種族：魔法生命体↓サーヴァント

外見：15歳

能力：飛行

魔眼

令呪（残り2画） NEW

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操系術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

サーヴァント（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アサシン

マスター 八神遼平

真名 キャサリン

ステータス 筋力 C 魔力 A

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 -

クラス別能力 【気配遮断】 : A

保有スキル 【魔眼】 : B

【精霊魔術】 : A

【人形使い】 : A

【闇の魔法】 : B

アーティファクト

【チャチャゼロ】

参考：エヴァのアーティファクト（公式画像）

http://negima.kc.kodansha.co.jp/images/news/110907_01.gif

1997年4月4日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1997年4月4日のメモ

1. 能力共鳴

メディア曰く、『私の主の魔力波長と全く同じ魔力波長に自分のものを変換して、さらに共鳴させることでサーヴァント能力を擬似的にコピーした』とのこと。

上記の内容を認識した上で『複製能力』を解析すると、メディアの言うとおりだった。

僕は本来、朱雀の能力は容量オーバーでコピーが不可能だった。令呪を使うことで対象固定の制限を掛けることでコピーに成功したとおもったが、どうやら『能力複製』を『能力共鳴』に進化させて擬似的に朱雀の能力をコピーしていたらしい。

メディアが張った結界により、『能力共鳴』を妨害された結果、朱雀からコピーした能力は使えなくなった。

この結界と同様の効果を持つ魔道具をメディアが作成して、朱雀が常時装着すると僕は二度とコピーした能力を使えることがなくなるだろう。

現在、メディアはこの魔法具を作っているはずであり、完成と同時に僕は『サーヴァント』と『能力使用による心身への悪影響の無効化』の能力を失うことになるだろう。

2. サーヴァント化

・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

性別：女

種族：魔法生命体↓サーヴァント

外見：10歳↓15歳（外出時は8歳児に変身）

職業：「夜天の書」の守護騎士↓小学生

能力：聖杯（複製）

魔眼

令呪（残り2画） NEW

技術：西洋魔法（風、水、氷、影、光、闇、回復）↓（全種類）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能

アーティファクト：

アーチャーの運命 NEW

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アーチャー

マスター 八神遼平

真名 イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 A

敏捷 E 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

保有スキル 【聖杯】：EX

【魔眼】：D

【精霊魔術】：A

アーティファクト

【カレイドステッキ】

・キャサリン

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

種族：魔法生命体↓サーヴァント

外見：15歳

職業：「夜天の書」の守護騎士

能力：飛行

魔眼

令呪（残り2画） NEW

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

備考

所持 サーヴァント（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アサシン

マスター 八神遼平

真名 キャサリン

ステータス 筋力 C 魔力 A

耐久 D 幸運 B

敏捷 C 宝具 -

八神遼平　：2画
メドゥーサ：1画
相坂さよ　：2画
アスナ　　：2画
イリヤ　　：2画
キャサリン：2画

備考

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

種族：人間

外見：17歳↓20歳（自宅や外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：能力解析

能力複製（対象固定）↓能力共鳴（対象固定）

能力設定

令呪（残り15画）↓（残り2画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操系術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（使用中）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（サーヴァント）：

ランサー

アーチャー

ライダー

バーサーカー（理性を失うため使用不可）

アサシン

アヴェンジャー

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンダイト

無敵なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

エクスカリバー

約束された勝利の剣（最強）：A +（投影宝具）

カリバーン

勝利すべき黄金の剣（内部破壊）：A（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ：B（投影宝具）

ハルベール

蛇刈る刺突剣（屈折延命）：C（投影宝具）

ク ト ハマノツルギ（魔法無効化）

：投影アーティファ

ク ト ホ・ヘーロース
千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）

：投影アーティファ

ク ト ミステルテイン
世界樹の宿木の剣（対神&対不死）

：投影アーティファ

ク ト カルンウェナン
小さな白い柄手（短剣）

：E（投影アーティ

ファクト）

建御雷（魔力の刃）

：投影アーティファ

ク ト

妖刀ひな（呪われた刀）

：投影武具（メドウ

ーサ用）

槍

ゲイ・ボルグ
刺し穿つ死棘の槍（一撃必殺）

：C（投影宝具）

ゲイ・ボルグ
突き穿つ死翔の槍（対軍）

：B（投影宝具）

ゲイ・ジャルグ
破魔の紅薔薇（魔力無効化）

：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ
必滅の黄薔薇（不治の傷）

：C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ
天の鎖（拘束&対神）

：A（投影宝具）

弓矢

エミヤの弓

：投影武具

カラドボルグ
偽・螺旋剣2（矢&爆弾）

：A（投影宝具）

フルンディング
赤原猟犬

：C（投影宝具）

盾

アイギス
蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

ロー・アイアス
熾天覆う七つの円環

：B +（投影宝具）

ブライウェン
魔法の船となりし聖盾（魔法の船）

：C（投影アーティ

ファクト）

兜

グースホワイ
騎士王の兜

：D（投影アーティ

ファクト)

冥王の死兜(アイドス・キユネエ)(気配遮断)

: D (投影宝具) N

EW

鎧

英雄王の鎧のパーツ

: B (投影宝具)

騎士王の鎧(ウィガール)(鎖帷子)

: D (投影アーティ

ファクト)

靴

天駆ける翼靴(タラリア)(飛翔)

: D (投影宝具)

その他

光の翼(飛翔)

: 投影アーティファ

クト

アーティファクト:

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>: 重要な戦闘で使用(切り札)

クラス

ライダー

マスター

-

真名

八神遼平

ステータス

筋力 C

魔力 B

耐久 D

幸運 A

敏捷 C

宝具 A+

クラス別能力

【対魔力】: B

【騎乗】: A+

保有スキル

【精霊魔術】: D

【直感】: B

【魔術】	：D -
【無窮の武錬】	：A
【燕返し】	
【魔眼】	：A +
【無限の剣製】	：E } A +
【十二の試練】	：C
【己が栄光の為でなく】	：C
ステータスは『気』使用時のもの (筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)	

備考

宝具

<コピー済みで利用可能なスキルと宝具>

保有スキル 攻撃系

【燕返し】	
【魔眼】	：A (ライダークラスのみA +)
戦闘能力向上系	
【無窮の武錬】	：A
【怪力】	：C (ライダークラスのみB)
魔術系	
【魔術】	：D -
戦闘補助系	
【精霊の加護】	：B (イリヤに貸し出し中)
【直感】	：B
その他	
【黄金律】	：B (イリヤに貸し出し中)
【無限の剣製】	：E } A +
【十二の試練】	：C
【己が栄光の為でなく】	：C

宝具

B)

【他者封印・鮮血神殿】：C（ライダークラスののみ）

【自己封印・暗黒神殿】：D -（ライダークラスののみ）

みC -）

【サーヴァント】

1・メドゥーサ

<パラメータ>

名前：メドゥーサ

偽名：メデュー・ライ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳（外出時は20歳ぐらいに変身）

職業：無職

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

令呪（残り1画） NEW

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

忠誠の指輪

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B (A) 魔力 A

耐久 D 幸運 A

敏捷 A + 宝具 A +

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

クラス別能力 【対魔力】：B

【騎乗】 ：A +

保有スキル 【魔眼】 ：A +

【怪力】 ：B

【神性】 ：E -

【無窮の武錬】：A

【直感】 ：B

宝具 【騎英の手綱】：A +

【自己封印・暗黒神殿】：C -

【十二の試練】：C

備考 ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：17歳（外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

令呪（残り2画） NEW

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術

ガンド

陰陽術

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能

所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）

アーティファクト：

キヤスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

縛めの指輪

ダビデの豎琴

琥珀の杖

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A+

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A+

【念動力】：A

【憑依】：C

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：C↓B

【ルーン魔術】：D NEW

【陰陽術】：E NEW

宝具 【光鷹翼】：B

アーティファクト

【ポルスターガイスト】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウェスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳（外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：魔法無効化

令呪（残り2画） NEW

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（「ウロボロスの心臓」の効果）、使用可能
所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

ハルベ

蛇刈る刺突剣

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣

影の鎧

ウロボロスの心臓

アゾット剣

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B 魔力 A+

耐久 C（B） 幸運 C

敏捷 A 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：A

保有スキル

【魔法無効化】：A

【咸卦法】：A

【魔力放出】：C ↓ B

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考

ステータスは『戦いの歌』と魔力放出を使用時のもの
(筋力、敏捷が2ランクアップ。耐久が1ランクア

ップ)

魔力放出の代わりに咸卦法を使用すると、耐久が1

ランクアップ

4・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・フォン・アインツベルン ↓ イリヤスフ
イール・アインツベルン

性別：女

種族：魔法生命体 ↓ サーヴァント

外見：10歳 ↓ 15歳 (外出時は8歳児に変身)

職業：「夜の書」の守護騎士 ↓ 小学生

能力：聖杯 (複製)

魔眼

令呪 (残り2画) NEW

技術：西洋魔法 (風、水、氷、影、光、闇、回復) ↓ (全種類)

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯 (複製) 供給、使用可能

アーティファクト：

アーチャーの運命 NEW

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アーチャー

マスター 八神遼平

真名 イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

ステータス 筋力 D 魔力 A+

耐久 D 幸運 A

敏捷 B 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：A

保有スキル 【聖杯（偽）】：A

【魔眼】：D

【精霊魔術】：A

アーティファクト

【カレイドステッキ】

備考 ステータスは『戦いの歌』を使用時のもの

（筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ）

5・キャサリン

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

種族：魔法生命体↓サーヴァント

外見：15歳

職業：「夜天の書」の守護騎士

能力：飛行

魔眼

令呪（残り2画） NEW

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法（氷、闇、影）

操糸術

人形使い

大東流合気柔術（合気鉄扇術）

マギア・エレベア
闇の魔法

アーティファクト：

アサシンの運命 NEW

備考

所持 サーヴァント（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未

<サーヴァントのパラメータ> NEW

クラス アサシン

マスター 八神遼平

真名 キャサリン

ステータス 筋力 E 魔力 A

耐久 D 幸運 B

敏捷 B 宝具 -

クラス別能力 【気配遮断】：A

保有スキル 【魔眼】：B

【精霊魔術】：A

【人形使い】：A

【闇の魔法】：B

アーティファクト

【チャチャゼロ】

【協力者】

1・近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

種族：人間

外見：8歳

職業：小学生

能力：魔力：A+

飛翔

技術：占い

西洋魔法（全種類）NEW

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

光の翼

2・桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

職業：小学生

能力：飛翔

技術：神鳴流劍技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

建御雷

【被保護者】

1. 間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

種族：人間

外見：5歳↓10歳（普段は16歳に変身）

職業：高校生

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

西洋魔法

ルーン魔術

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具)

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術師、高校生

能力：魔術刻印

令呪(残り3画)

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷(治癒&老化停滞)

：EX(小物サイズ)

の投影宝具)

契約：セイバー(アルトリア)

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

種族：サーヴァント（霊体化不可）

外見：15歳

職業：サーヴァント

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミニアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

第19話 悪足掻きの結果（小学3年生 1997年4月6日）

メディアによる、僕のサーヴァント能力の封印が宣言されてからかなりの時間が経ち、もう魔法球の外は夜になっているが、まだ封印されていない。

さすがのメディアも魔法具の作成に手間取っているのか、僕が逆らわないことを見越してゆっくり作っているのか。

……多分後者だろうな。

メディアなら、僕程度の性格なんぞあつという間に見抜いて、行動パターンを読んでいてもおかしくない。

まあ、どんな理由であろうと猶予ができたのは助かったので、僕たちはずっと魔法球に籠って様々な調査や対策を検討した。

1. 僕のサーヴァント能力封印の内容

まずは、僕のサーヴァント能力封印時を狙って、能力低下の詳細な調査を行った。

朱雀から擬似的にコピーした「サーヴァント」「能力使用による心身への悪影響の無効化」が使えなくなり、サーヴァント関連のスキルが全部使えなくなるのは予想通り。

問題は、投影した宝具類だった。

……まさか、宝具の真名開放ができなくなるとは。
ゲート・オブ・バビロン

幸い王の財宝の発動は問題なかったが、必殺技を発動する際に真名開放を必要とする宝具類は全て必殺技が使えなくなった。（例：エクスカリバー 約束された勝利の剣、カラドボルグ 偽・螺旋剣など）

つまり、それらの宝具は『必殺技を封じられた強力な武器』でしかなくなり、利用価値が相当低下してしまうわけだ。

……のわ、僕の戦力低下が半端ないぞ！！

投影した仮契約カードのアーティファクトへの変換や能力使用は
バックティオー
全く問題なかったけど、……やっぱりきついな。

当然、壊れた幻想も使えなくなっていたわけで、……もしかして
ブローケン・ファンタズム
僕の必殺技と言うか破壊力のある攻撃がほとんど残ってなくね？

コピーしたスキルを失うことは覚悟していた。

だから自分自身の技量を磨き、魔術と魔法を覚えた。

投影魔術も使えなくなるだろうから、一日一回のペースで無限の
剣製を展開して毎回王の財宝に蓄えてきたから投影宝具は恐ろしい
数が保管されている。

……しかし、投影宝具の真名開放も壊れた幻想も使えなくなると
いうのは完全に予想外だった。

スキルを失ったとしても、投影したのは僕だから真名開放とかも
使えると思い込んでいた。

まさか、固有結界を失うと真名開放もできなくなるとはなあ。

せめて壊れた幻想が使えるれば何とかなったんだが。
ブローケン・ファンタズム

この状態から真名開放を可能にしたかったら、担い手レベルまで
投影宝具に習熟する必要があるんだろうけど、……まあ無理だな。

……自分の分はわきまえている。僕にはそこまで習熟できるだけ
の才能は、残念ながない。
ブローケン・ファンタズム

色々試してみたのだが、壊れた幻想もどうやってもできなかった。

今後は、破魔の紅薔薇のような常時能力発動型の投影宝具や、投
ゲイ・ジャルグ
影アーティファクトで戦う戦闘がメインとなるわけか。

一から戦術を考え直さないといけないなあ。

アーティファクトで贗作工房があったので、僕にも固有結界「贗
作工房」みたいなものがないかと妄想し、色々試していた時期もあ

ったが全く成果がなかったしなあ。

僕の起源は高い確率で『複製』と『譲渡（貸与？）』だろうけど、『衛宮士郎が剣というか属性に特化している』ように、僕は『能力^{スキル}に特化されている』気がする。

だから、人（知的生命体）のパラメータや能力を解析したり、能力をコピーしたりできたんだろう。

アーティファクトで色々できているのは、主がサーヴァントであることによる例外と思っておかないと駄目だな。

だが、『「剣」の属性と「複製」の起源（だと思う）を持つ衛宮士郎が固有結界「無限の剣製」を展開できる』のならば、『「能力^{スキル}」の属性と「複製」と「譲渡」の起源を持つ（と予想する）僕は、これに関係する固有結界を展開できる』可能性はないか？

どんな固有結界になるか、全く想像できないし役立つかすらわからないけど、もし使えるようになれば嬉しいなあ。

2・イリヤの能力

次に調査したのは、イリヤの能力である。

イリヤは偶然の積み重ねとはいえ、夜天の騎士の魔法回復能力を持ったままサーヴァントになった。

つまり、自力で魔力回復が可能なサーヴァントになったようだ。

ただし、接近戦用の保有スキルもなければ、肉体系ステータスも低いいため、戦闘面では魔力供給源か魔術や魔法を使うぐらいしか意味がない。

実質、アーチャーというよりキャスターである。

イリヤの保有スキルについては、【聖杯（偽）】は当然。

【魔眼】は、士郎との視界共有や士郎の捕獲に使ったやつだろう。プリズマ・イリヤのイリヤだと「直感：A」「幸運：A」みたいな表現だったけど、まあFateのイリヤはそんな感じはしなかったから、【直感】がないのもしかたないか。

このイリヤが直感を持つてたら、いくらバーサーカー：ヘラクレスを信頼していたとしても、ギルガメッシュと真っ向から戦うなんてするはずないしなあ。

問題は、アーティファクト【カレイドステッキ】だ。

まさかとは思うが、あの愉快型魔術礼装か？

イリヤがカレイドステッキを具現化して手にとってみたが、どうやらレプリカであり人工天然精霊はいないらしい。

よかった。あんなのがいれば、間違いなくトラブル満載で收拾がつかなくなるのは間違いなかったからな。

さて、では何ができるんだ？ と解析しようとしたが、解析不可。僕のレベルでは解析できないくらい、とんでもないアーティファクトみたいだ。

もしかすると、これで『どこかの平行世界からアチャ子の情報をダウンロードして、それを元に体を再構成したからアチャ子化した』という可能性もありそうだな。

それを持ったイリヤは、しばらく考え込んでいたが、おもむろにカレイドステッキを僕に接触させた。

その瞬間、ものすごく嫌な予感が感じ、「一体何を？」と思った瞬間、目を疑う光景が発生した。

「トレース・オン
投影開始」

イリヤがそう呟くと、イリヤの両手には小型の干将・莫耶が出現した。

……驚きのあまり声も出せないでいると、イリヤはそんな僕を見て笑いながら

トレース・オフ
「投影解除」

と干将・莫耶を消滅させた。

慌ててイリヤのパラメータを確認すると、保有スキルに「魔術」が、宝具に「無限の剣製」が追加されていた。

「イ、イリヤ。今のは？」

ま、まさか、……平行世界のイリヤ（アチャ子？）から投影魔術と固有結界をダウンロードしたのか？」

そうでも考えないと、いきなり干将・莫耶を投影できるはずがない。

しかし、イリヤから帰って来た回答は予想外のものだった。

「……平行世界のわたしからダウンロード？」

そんなすごいことしてないわよ。

今やったのは、単にあなたからスキルと宝具を借りただけよ」

「はあっ？」

まさか、と自分のステータスを確認すると、確かに保有スキルから「魔術」が、宝具から「無限の剣製」がなくなっていた。

恐る恐るイリヤを見ると、満面の笑みで答えを教えてくれた。

「いま、あなたが確認した通り、このカレイドステッキを使えば、あなたが持っているスキルを私が借りることができるみたいね。

それもなぜか、遼の意志を無視して。

……あつ、安心して。今のはテストでやっただけ。借りたスキルと宝具はすぐに返すわ。」

イリヤがそう宣言した瞬間、イリヤと僕の保有スキルと宝具は元の状態に戻った。

さすがは、生きた聖杯（偽）のアーティファクトというべきか。カレイドステッキの名に恥じないとんでもない機能を持っていやがる。しかしタイミングが悪すぎる。

カレイドステッキは他にも機能があるかもしれないが、すさまじく使える機能である『僕のスキルをイリヤに貸与できるという機能』

は、僕がサーヴァント能力を失ってしまえば意味がない。

……いや、もしかしたら使えるか？

僕がサーヴァント能力を封じられても、さよたちに影響はなかったんだ。

可能性は低いが、……もしかしたら僕のサーヴァント能力封印後も、さよたちに貸したスキルや宝具はそのままかもしれない。

……ベストなのは、メドゥーサにやったようにさよたちに魔改造を施すことなんだが、……直感が確実に失敗すると囁いている。

あの時の令呪が特別性だったせいか、それともさよたちが特別なサーヴァントのせいか、……多分両方が原因なんだろう。

そういうわけで、僕が持つ全スキルと全宝具を従者達に配布するでしょう。

……つとその前に。

「イリヤ、カレイドステッキを使えば、他の人にスキルは配布可能か？」

「えっ、ちょっと待ってね。

うーんと、……えい!!」

次の瞬間、イリヤの令呪が発動した。

「あらら、令呪を使っちゃったけど、皆にスキルと宝具を配布可能になったわ」

……まあ、良しとしよう。

令呪一画でスキルなどの再配布が可能になったのなら安いものだ。しかし、ものすごいペースで令呪を使ってるなあ。

どれも後悔しない使い方ではあったが、このままだとすぐに全部使い切ってしまうそうだ。

それぞれの希望と相性を検討して、僕が持つ全部のスキルと宝具を従者達に配布した。

さよ 【十二の試練】 【精霊の加護】

アスナ 【燕返し】 【無窮の武錬】 【直感】 【己が栄光の為に
なく】
イリヤ 【黄金律】 【魔術】 【無限の剣製】
キャサリン 【怪力】 【魔眼】 【他者封印・鮮血神殿】 【自己封印・
暗黒神殿】

色々と考えたが、最終的にこうなった。

アスナは最強セイバー状態&正体を隠す。

イリヤは完全にアチャ子モード。

僕を除くとうちのメンバーで一番弱いさよは、守備力と幸運のア
ツプ。

キャサリンには、メドゥーサのスキルと宝具を渡した。元吸血鬼
の人造霊だから、問題なく使いこなしてくれるだろう。

さて、あとは少しでもみんなにスキルや宝具が残るのを祈るのみ
だな。

3・キャサリンの能力

キャサリンのアーティファクトを具現化したところ、カードのイ
ラスト通りチャチャゼロが現れた。

確認したところ、キャサリンが持つチャチャゼロの記憶から再現
された存在らしい。

もともと、少し話した限りでは、口の悪さといい、好戦的なこ
ろといい、オリジナルと全く区別がつかなかったけど。

キャサリンは、再現された存在とはいえ、記憶にあるチャチャゼ
ロがパートナーとなったことをとても喜んでいた。

そんな二人を見ていて僕はさらに強化できそうなプランを思いつ
いた。

「そつだ！ チャチャゼロを夜天の騎士にして、さらにサーヴァン

ト（多分バーサーカー）にできないか？」

「無理だな」

僕のプランを、キャサリンは速攻で否定してしまった。

「なんでさ？」

「サーヴァント化したとはいえ、私のコアの部分は夜天の騎士だ。

そして、チャチャゼロは私の、つまり夜天の騎士の魔力で作られた存在であり、夜天の騎士の一部だ。

つまり、夜天の騎士の一部であるチャチャゼロが、夜天の騎士に転生するのは仕様上無理だ」

くそ〜！ いいアイデアだと思ったのになあ。

こういうネタならいくらでも湧いてくるけど、現実で実現できるのはほんの一握りなんだなあ。

仕方ない、チャチャゼロには、今のうちに僕の宝具コレクションの望むもの全てをチャチャゼロサイズに投影してプレゼントしよう。それだけでも相当強くなれるはずだ。

……もちろん、妖刀ひなも渡してある。

オリジナルのチャチャゼロなら夜天の騎士化↓サーヴァント化のコンボができそうだけど、……エヴァが自分の従者を他人の従者になるのを許可するはずがないからなあ。

まさか、エヴァ自身が夜天の騎士に転生することを望むはずないしな。

4・仮契約大会

バクティオー

僕がキャサリンとイリヤに実行した『魔力にものを言わせた仮契約』は、他のメンバーも試したところ、（僕の能力が封印されていないときの）メドゥーサ、さよ、アスナ、イリヤが主の場合でも（令呪なしで）可能だった。

バクティ

つまり、この無茶な仮契約は魔力ランク：A+が必要だったらしい。
バクティオー

魔力ランクBの僕は、令呪を同時に二つ使うこと（とディープキス？）で辛うじて成功したんだろう、多分。

……ちなみに、彼女たちの場合、ディープキスは不要だった。それを知ったキャサリンとイリヤはじと目で僕のことを見ていたが、知らんぷりした。

僕の魔力ランクが足りない分、令呪＋『ディープキスで接触面を増やすこと』で仮契約が成功した可能性も十分あるから、僕は悪くない、と思う。

いずれのメンバーも強力なアーティファクトを入手しており、戦力は相当強化された。

しかし、イリヤはアーティファクトの内容もアーチャーというより、本気でキャスターだよな。

5・サーヴァント召喚に挑戦

無理だと思っていたので試していなかったが、ちょうど全員が令呪を持っているので、駄目元で全員によるサーヴァント召喚に挑戦。

……予想通り、結果は失敗。

やっぱり、言峰から奪った通常の令呪だから、麻帆良世界でのサーヴァント召喚は無理だったか。

ならば、と僕以外のメンバーが聖杯世界へ移動してサーヴァント召喚を試したが、やっぱり何も起きなかった。

……僕が朱雀からコピーした令呪は、本当に特別性だったんだなあ。

まあ、サーヴァントはいっぱいいるわけだし、贅沢言うのはやめ

ておこつ。

6・少女たちの再勧誘

夢の中だけとはいえ木乃香と刹那は僕たちと一緒に訓練を積んできたため、二人とも八ヶ月とは比較にならないほど強くなっている。木乃香は完全な後衛として力を付ける為、さよが西洋魔法とルーン魔術と宝石魔術を、陰陽術は刹那が教えており、乾いた砂が水を吸収するように凄まじい勢いで覚えている。

護身術代わりに、刹那は神鳴流剣術も木乃香に教えている。

今は剣術の基礎を教えているレベルだが、それでも木乃香から才能の片鱗が感じられるらしい。

夢の中では体を鍛える訓練はできないため、起きている間に木乃香一人でトレーニングをしているらしいが、刹那曰くありえない成長速度らしい。

……原作ではそういう描写はなかったが、伊達にサムライマスターの娘ではなかったということか。

このまま成長を遂げると、接近戦は刹那とコンビを組んで神鳴流剣術。遠距離戦は莫大な魔力を使って陰陽術や魔法で攻撃、というオールマイティな存在になりそうだな。

「護衛対象より弱いボディガードなど意味がない」と刹那も神鳴流と陰陽術の訓練により身が入り、ますます強くなっているしいいことだらけである。

まあ、夢の中でメドゥーサやアスナという最強クラスの存在と散々戦闘訓練を積んでいるのに加えて、詠春とか鶴子にも指導してもらっているそうだし、これで成長してくれなければ困ってしまうのも確かだけど。

僕たちは木乃香たちとかなり仲良くなっではいるが、まだ正式な協力関係は結んでおらず、現在も『お互いを理解するための期間であり、一緒に訓練をするだけ』ということになっている。

もつとも、木乃香に対して出し惜しみなしで魔法とか教えたり、刹那がギブアップするぐらい戦闘訓練の相手をしたりしているので、相当感謝はされていると思う。

本来なら木乃香たちが自分から仲間入りを言ってくるように徐々に誘導していくつもりだったのだが、近いうちに僕のサーヴァント能力を失ってしまう為、そんなことは言っていられなくなった。やむなく、僕は少しだけルールを破ることにした。

「前に僕が『今は従者に勧誘するつもりもない』って言ったの覚えてるかな？」

「もちろん、覚えとるで」

「ええ、その後勧誘もなく協力関係さえはつきりしていないのに、私たちの訓練をしていただいたことには感謝しています」

「そうなんだけど、……ちょっと僕の方で状況が変わっちゃってね。……今まで使っていた僕の一部が、近いうちに完全に使えなくなることが判明したんだ。

それだけなら君たちには全く関係のない話だけど、この能力の一部は仮契約バクティオーをすることで従者に渡すことができたんだ、実は。

で、その力を、望むなら木乃香ちゃんたちにもプレゼントしようかと思っ
てね。

その力を手に入れば一気に強くなれるし、強力なアーティファクトも手に入るはずだよ」

「それ、ええなあ」

「駄目です、このちゃん」

木乃香は興味津々だったが、速攻で刹那が否定してきた。

「八神さんたちが信用できるのは、これまでのことから私も理解しています。」

ですが、このちゃんが勝手に仮契約バクティオーをしたことがばれれば、最悪東と西で戦争になります。

申し訳ありませんが、お考え直してください」

「せっちゃん、それほんま？」

「はい。私の刀に掛けて、偽りは一切申しておりません」

さすがの木乃香も戦争勃発の原因になると言われてしまうと、僕バクティオーと仮契約する気は無くなってしまったらしい。

「……うゝん、八神さん。

うち、残念やけど……」

「わかったよ。

いくら僕でも戦争の引き金になるようなことをするつもりもないからね」

「うん、ごめんな」

そう言った木乃香だったが、やっぱりちょっと残念そうだった。

戦争勃発の危険性とは比較にならないが、やっぱり自分と自分の大切な人が確実に守れる強さは欲しかったんだろうなあ。

しかし、刹那の言うことは多分正しいのだろう。

木乃香と刹那が仮契約バクティオーをしたのがばれても、元々刹那は木乃香のボディガードになる予定だったし、詠春の配下だから全く問題ない。

……いつの間に、どこでやったのか不審がられるとは思うけど。

だが、僕との仮契約バクティオーがばれた場合、正体不明、目的不明の怪しさ満点の存在と仮契約を許してしまったということであり、関西呪術協会は関東魔法協会へ絶対に抗議するだろうし、最悪戦争の引き金になる可能性は否定できない。

人間がやることである以上、秘密が絶対にばれないなどありえないしなあ。

しかし、どうしても諦めきれない。

……いや木乃香たちの勧誘は諦めるとしても、僕の弱体化を少し

でもカバーするため、残っているサーヴァントクラスを渡せる従者が欲しい。

だからと言って、原作のネギみたいに一般人を従者にして裏の世界に巻き込むのは論外だ。

今のところ僕たちは『メディアとの接触』以外は平穏な生活を過ごせているが、いつ事件に巻き込まれるかわからないしな。

だから、『アスナや木乃香のような特別な力を持たない人』、又は『魔法関連に関わっていない堅気の人』を勧誘するつもりはない。……『僕たち以外の要因で魔法関連の事件に巻き込まれた人』を、助けるついでに勧誘するのはありだと思っているけどね。

…… そうだ！

木乃香たち本人の勧誘が無理なら、キャサリンみたいに本人の複製を夜天の騎士にして、さらにサーヴァントにすれば！！

…… って、人造霊の作り方なんて知らないし、知っている人もいない。

今からエヴァに聞いたとして、タイムリミットまでに木乃香たちの人造霊の作成が間に合う可能性は低い。

それ以前に、木乃香たちが人造霊の作成に許可を出すかすら不明だしな。

…… まてよ。

人造霊ではなく、式神を使うのはどうだろうか？

人造霊と違って、式神はどうみても知的生命体ではない。

しかし、原作のちびせつな存在は、陰陽術によって動かしている人格プログラムと言えないだろうか？

ならば、今まで全く使う機会がなかった『人格プログラム投入による夜天の書の守護騎士作成機能』が使えるか？

…… 成功する可能性は未知数だが、駄目元で試してみる価値はありそうだな。

式神を使わせてもらうのなら、木乃香たちも許可してくれる可能性は高そうだし。

自信がなかったので、僕は密かに木乃香と刹那に依頼してみることにした。

「バックティオー仮契約は諦めるけど、ちょっと試したいことがあって、木乃香ちゃんも刹那ちゃんの式神を貸してもらいたいんだけどいいかな？

使用には制限が多い式神を元にして、より高い知性を持たせて、さらにある程度の独自行動が可能な使い魔を作ってみようと思っっているんだけど」

少し隠していることはあるが、可能な限り事実を話して僕は木乃香たちに尋ねてみた。

「別にええで。

八神さんにはいつもお世話になっとなるしな」

「はい、それぐらいでしたら」

「ありがとうございます。」

……そうそう、実験時のショックとか木乃香ちゃんたちに逆流するといけないから接続は切つといてね」

「……所詮式神ですから何をしようと思っても問題ありませんが、あまり変なことには使わないでくださいね」

刹那は、式神に予想以上のことをするかもしれないと感じたようだが、所詮対象は式神とも思っただのか許可の取り消しまではしなかった。

ふう、助かった。

これで、第一段階はクリアだ。

さっそく二人は陰陽術で式神を作成し、ちびこのかとちびせつなが現れた。

……ちなみに、木乃香は式神を作り出すのはまだ無理なので、式神はほとんど刹那が作成し、最後の性格設定と魔力供給など一部のみを木乃香が担当することでちびこのかの作成に成功している。

「それじゃ、八神さんを代理マスターとして言うこと聞くんやで」

「あなたも同じです。いいですね」

「はい、わかりました」

こうして僕は、ちびこのかとちびせつなを譲ってもらい、さらに代理マスターとして登録してもらったことができた。

「さて、君たちに頼みたいのは、重大な任務だ」

「何やるか？」

「何ですか？」

二人の式神は可愛らしく顔を傾げて質問をしてきた。

「このアーティファクトの夜天の書は、知的生命体を取り込むか人格プログラムを入力することで守護騎士という存在を生み出すことができる。」

つまり「うちたちを守護騎士にしたいんか？」

「そういうこと。」

今まで二人試して、二人とも守護騎士になっている。

式神を試したことはないけど、引き受けてもらえるかな？」

「あなたが代理マスターである以上ことわれません。」

私が最初にためします」

そう言つて、ちびせつなはそのまま夜天の書に飛び込んでいった。と思つたらすぐに出てきた。

一瞬失敗したかと思つたが、解析してみると外見は変わっていないものの夜天の騎士となつていた。

「すごいです。」

今の私は守護騎士つて存在になったみたいです。

自力で魔力を回復できるので、魔力供給を受けなくてもずっと存在することができます」

それを聞いたちびこのかは、僕が何も言わないうちに夜天の書に飛び込んだ。

当然、ちびこのかも無事に夜天の騎士になり、二人は夜天の騎士

に生まれ変わったことに大はしゃぎだった。

「あゝ、喜んでいるところ悪いけど、ちょっといいかな？」

「「はい、何ですか？」」

「まずは無事に夜天の書の守護騎士になれてなにより。

で、マスターは僕という認識で合っているかな？」

「はい、刹那様が最初のマスターであることには変わりませんが、今のマスターは貴方です」

「うちも同じや」

二人とも嬉しいことを言ってくれる。

無事に僕をマスターとして認識してくれたのはいいが、……どう見ても二人とも強そうには見えないのが残念だ。

サイズも式神のままだし。

……いやいや、今は夜天の騎士が生まれたことが重要だ。

僕もサーヴァントの能力を得た直後は弱くても、訓練を積み、成長することで強くなれたんだしな。

ましてや、才能あふれる木乃香と刹那の式神なんだ。

彼女たちの才能の一端でも受け継いでいれば、相当成長してくれるはずだ、……多分。

「さて、夜天の書の守護騎士、略して夜天の騎士になって喜んでいるところ悪いけど、君たちには更なるパワーアップに挑戦してもらう。」

それは

「「それは？」」

「僕と仮契約して、僕の力の一部を受け取ることだ」

「うちにインプットされとる情報だと、うちみたいな魂を持たない存在は仮契約ができないはずやけど？」

「私にインプットされている情報でも同じです」

おお、そういった情報もデフォルトで持っていたのか。あまり期待していなかったけど、結構賢かったんだな。

これなら、今後の成長も期待できるかな？

「普通の仮契約ならその通り。」
バクティオー

でも、魔力にものを言わせれば、魂を持たない存在でも何とかする。

…… ということになった。

君たちと同じ夜天の騎士であるイリヤとキャサリンが仮契約に成功したんだよ。
バクティオー

「そうなんですか！」

「じゃあ、うちも仮契約ができるん？」
バクティオー

「多分ね」

もっとも、キャサリンもイリヤもオリジナルからかなりの記憶を引き継いでいたから、元式神でオリジナルの記憶はなく、与えられた情報しか持っていない彼女たちも同じ結果になるかはわからないけど、まあ夜天の騎士を二人追加できただけでも十分利益になっているか。

「じゃあ、うち仮契約をやってみる」
バクティオー

「わ、私もお願いします」

こうして二人とも僕との仮契約に同意したので、さっそくメドゥーサを呼んで作ってもらった魔法陣で実施したが、…… やっぱ何も起きなかった。

うーん、令呪なしじゃやっぱり無理か。

落ち込む二人に、イリヤとキャサリンの場合は令呪と言う特別な魔法を使ったことを説明し、さよも呼んでさよが持っている令呪を一画ずつ二人に移植した。

さあ、これで準備OK。

令呪を使って、さらにディープキスを…… 式神サイズの子が相手だとサイズ的にディープキスはできないぞ。

ディープキスは飛ばすか、…… いや、わざわざ仮契約の成功確率を落とすような真似は避けたいが、…… しかしサイズが、と思考のループに陥っていると、メドゥーサが何やら二人に話しかけたかと

思うと、次の瞬間ちびせつなとちびこのかはオリジナルとそっくりの姿になっていた。

「ええ！ 人間サイズにもなれたのか？」

「はい、聞かれなかったので答えませんでした。元々式神の時から人間サイズに大きくなることは可能でした、……マスターの魔力と操作が必要でしたが。」

今の私たちはパワーアップしてできることも増えていたので、自分の意志と魔力だけで人間サイズになれたようです」

ちびこのかもコクコク頷いている。

そのことを早く言ってほしかったが、まあいい。これなら問題ない。

泣かれると困るからディープキスで仮契約バクティオーをすることを伝え、了承を貰ったうえでまず僕はちびせつなと仮契約バクティオーを行った。

仮契約バクティオー、成立！

ディープキスをしてありったけの魔力を注ぎ込むと、見事に仮契約バクティに成功した。

ちびせつなの仮契約カードは、「ランサーの運命」だった。

大成功！！

お次はちびこのかの番だが、バーサーカーってことはないだろうから、アヴェンジャーか？

ちびこのかのイメージとは全く似合わないけど、それしか残っていないからしかたないか。

……もしかしたら、アヴェンジャーからヒーラーにクラスチェンジするとかんでも展開があるかもしれないし、まずは試してみよう。

覚悟はしていたらしいが、予想以上の精神的ショックで気絶してしまったちびせつなを横に寝かし、そのままちびこのかとも全力で仮契約バクティオー実施。

ここまでは全く問題なかったのだが、仮契約成立と同時に起きたのは予想外の事態だった。

なんと、いきなり僕のサーヴァント能力が勝手に解除されたのだ。ついに、メディアによる封印期間に突入したのか！！　と戦慄したのだが、なぜかサーヴァント能力は残っている。

……まさか、とクラスを確認すると、残っていたのはバーサーカーとアヴェンジャークラスだけだった。

おいおい、とちびこのかの仮契約カードを確認すると、……いやな予感は大当たりでそのカードは「ライダーの運命」だった。

……た、たしかに、原作でドラゴンをおとなしくさせていた木乃香の式神なら、残っているクラスではライダーが一番ふさわしいだろう。

しかし、僕が使っていたクラスを無理やり奪ってしまうほど、僕よりも適性が高かったと言うのか。

それも、オリジナルの木乃香ではなく、木乃香の式神を元にした生まれたばかりの夜天の騎士が、か！！

く、悔しすぎる。

……いや、冷静に考えれば、『原作で動物を従える能力を持っていた木乃香』の方がライダーによっぽどふさわしいから、その素質を受け継いでいればちびこのかにライダークラスを奪われたのは当然だとは思っけどね。

しかし、それでも、生まれたばかりの夜天の騎士（元式神）に素質で劣る僕って一体？

まあ、メディアによってサーヴァント能力は使えなくなるんだから、ライダークラスを失っても全く問題ないというのも事実だし、逆に考えれば、それだけライダー適性の高い従者を手に入れることができたってことだからそのことを感謝するべきか。

ここまで来れば隠す必要もなく、残りの従者たちを呼んで事情を説明すると、ものすごく呆れられた顔をされてしまった。

「確かに私やイリヤが成功したのだから、夜天の騎士を増やし、サーヴァント化しようと考えるのは分かるが、……シミュレーションどころか、事前調査も一切しないで、いきなり式神を夜天の騎士にしたあげく、そのままサーヴァントにするとは正気か？」

「いや、いつサーヴァント能力を失うかわからないからさ。」

こういう場合は、巧遅より拙速だと思っただよ。

結果論だけど、こうして成功したし、何より僕の直感も嫌な予感を感じなかったしね」

「馬鹿か、貴様！」

お前の直感スキルは、すでにアスナに貸しているだろうが！！

そんな状態なら、どれほどひどい未来が待っているかと嫌な予感など感じるはずがないわ！！！！」

し、しまったー！！

サーヴァント能力から直感スキルを外すことなんてほとんどなかったからすっかり忘れていた。

「完全に忘れていたな。」

……お前は今まで当たり前だったことが変更になっても、変更したことを度忘れてして行動するというところが多すぎる。

もう少し、気を付けろ」

なんか諦め顔でキャサリンに忠告された。

周りのメンバーを見ると、うんうんと皆に同意されてしまった。

……た、確かに今回は問題なかったが、この悪い癖は早めに直した方がいいな。

いずれ、『遠坂のサーヴァント召喚時間を間違える』クラスのうちかりをしてしまいそうな気がする。

そんなことはともかく、新しく僕の従者に加わった二人がいつまでも「ちびこのか」「ちびせつな」という名前では可哀想なので、サーヴァント化のお祝いとして新しい名前をプレゼントすることにした。

本人の意見も聞いて、皆で色々と考えたのだが、最終的には僕のアイデアが採用された。

命名：

「ちびせつな」↓^{ちなつ}千夏

「ちびこのか」↓^{ちか}ちかこ↓千佳

すぐにわかると思うが、二人とも元も名を短くして並び替えた名前である。

最初は「ちびこのか」の新しい名前は「ちかこ」にしようと思っただが、何となくしっくりこなかったので、「^{ちか}千佳」という名前にした。

『元の名前から生み出した新しい名前』というコンセプトが良かったのか、二人とも大喜びで新しい名前を受け取ってくれた。

千佳

<パラメータ>

名前：ちびこのか↓千佳

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：浮遊

技術：占い

西洋魔法（全種類）

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

所持：

アーティファクト：

ライダーの運命

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 千佳

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 D

耐久 F 幸運 A

敏捷 F 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：D

【騎乗】：E

保有スキル 【精霊魔術】：E

【ルーン魔術】：E

【宝石魔術】：E

【陰陽術】：E

【神鳴流】：E

アーティファクト

【コチノヒオウギ（東風の檜扇）】

【ハエノスエヒロ（南風の末広）】

千夏

<パラメータ>

名前：ちびせつな↓千夏

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：飛行

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

アーティファクト：

ランサーの運命

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

真名 千夏

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 F

耐久 F 幸運 A

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：E

保有スキル 【神鳴流】：E

【陰陽術】：E

アーティファクト

【ヒ首・十六串呂】

……なんだ、この弱さは。

全く戦闘面では役に立たないじゃないか。

……いや、落ち着け。

式神を元にして夜天の騎士になったばかりの存在を、すぐにサーヴァントにしたのだから、この結果はある意味当然と言える。

聖杯のホムンクルスの遺体から生まれたイリヤや、エヴァの人造
霊から転生したキャサリンとは状況が違いすぎる。

作られたばかりの簡易式神が短時間で人並みの能力を手に入れた
のだから、これでも十分すぎるぐらいのパワーアップだろう。

……あとは二人が強くなって、さらにパワーアップしてくれるの
を祈るだけか。

そう、逆に考えるんだ

弱い存在が生まれたのではなく、生まれたばかりでこれから強く
なれる可能性がたくさんあるのだ、と。

強くなるまでは、二人とも式神モードと人型モードの2パターン
の姿を取れるので、みんなのマスコットキャラとしての癒しキャラ
としての役割を任せるか。

……実際、今もみんなに可愛がられているし。

あとは、強くなった将来の話だが、木乃香の影武者になるっての
もありかもな。

元々オリジナルが作った式神だったせいか、千佳は投影アーティ
ファクトの「光の翼」が、千夏は投影アーティファクトの「建御雷」
が使えたから、これらの習熟を指示して少しはパワーアップさせと
こう。

ちなみに、次の日の夢の中で木乃香と刹那に使い魔化が成功した
ことを伝えて二人を召喚するともものすごく驚いていた。

とはいえ、元々許可を貰ったうえで二人の式神を使い魔化したわ
けだし、怒る筋合いでもない。

実際、二人ともただただ驚くばかりで、式神サイズの千佳や千夏
と仲良く話している。

「彼女はすでにあなたの使い魔ですが、元々私の式神です。
大切にしてくださいね」

「うちも同じやで」

「ああ、もちろんだよ。

新しい僕たちの仲間だし、新しい名前もあげたしね。

この容姿だと君たちとの関係も疑われかねないから、髪型とか変えて、何か言われたら君たちをモデルに使い魔を作ったことにするよ。

関係者以外に公開するのは現実で君たちと出会った後からにすれば、そう疑われないと思うよ」

「それがいいでしょう。

何度も言わせていただきますが、不用意にこのちゃんとの接触がばれると裏の世界で紛争の火種となります。

この夢の世界で会う限り、あなたたちとの接触はばれないようですので、今後もこの世界限定での接触をお願いします」

「現実で会えないのは残念やけど、うちのせいで人が傷つくのはいややから、お願いね」

「分かっているよ。

今回、こうして可愛らしい仲間を増やす手伝いをしてくれたんだから、君たちの意志は最大限に尊重するよ。

…… そうだ、これ、今回のお礼」

そう言って僕は、千佳と千夏の仮契約カードバクティオーを投影したものを二人に渡した。

「これは、千夏の仮契約カードバクティオーですか？

一体なぜ？」

「そう、それは千夏の仮契約カードバクティオーのコピーの一枚だ（投影はコピーみたいなものだから嘘ではない）。

千夏は僕の使い魔になったとはいえ、君との繋がりには完全に切れていない。

つまり、今も君の一部であるともいえる。

…… ならば」

「まさか！

…… アデアット」

半信半疑で刹那がそう言つと、そこにはヒ首・十六串呂が出現した。

それを見た木乃香も続けて呪文を唱えた。

「アデアット」

「コチノヒオウキ」

ハエフスエヒロ

次の瞬間、木乃香は東風の檜扇と南風の末広を手にしていた。

どうやら彼女たちのアーティファクトを君たちも使えるみたいだね。

どうかな？

よければ、使ってくれないか？」

バックティオー

仮契約カードを解析したときにはマジかと思つたけど、本当に木

乃香たちにも使えてしまった。

バックティオー

仮契約がいい加減なのか、僕のが滅茶苦茶なのか、……多分

両方なんだろうなあ。

「ありがとな。うち、大切にに使わせてもらうわ」

「威力はそれほどありませんが、攻撃補助としてはとても優秀な武器ですね。」

このちゃんを守るため、使わせていただきます」

サーヴァント

うんうん、僕たちは千佳と千夏という新しい従者を手にし、木乃

香たちは強力なアーティファクトを手に入れた。

ちびこのかとちびせつなは式神という仮初の存在から、確固たるサーヴァントという存在に成り上がって、しっかりとした自我を手に入れた。

見事にWIN-WINの関係である。誰も損をしていないどころか、皆大喜びの状態である。

いや、ほとんど偶然の結果とはいえ、素晴らしい結果になってよかった。

ちなみに、千佳と千夏はオリジナルである近衛木乃香と桜咲刹那と容姿がそっくりのため、木乃香たちに説明したように木乃香たちと現実で会うまでは人前に出せない。

そのため、キャサリンと同じく、僕の隠し札として身内以外には存在を隠すことにした。

必然的に一緒に行動することが多くなるキャサリンに、二人の指導と教育をお願いしたところ、なぜか大喜びで指導を開始していた。これでキャサリンもチャチャゼロ、千夏、千佳の三人を部下にして、4人でチームを作るからかなり強くなりそうだな。

……チャチャゼロは、オリジナルと名前が同じなのは混乱の元だから、早く別の名前にするべきだろうが、なかなかいい名前が思いつかない。

妖怪化した人形キャラとしてチャイカというキャラがいたが、彼女の名前を使わせてもらうか？

こうして、可能な限り対策を考え、それなりの結果が出た次の日、ついに僕のサーヴァント能力が封じされる時がやってきた。
今までとは違い、その後何日経っても封じられたままなので、メディアの対策が終わったと見ていいだろう。

イリヤのカレイドステッキで僕の従者に貸し出したスキルと宝具は、封じられてから時間が経つのと比例してランクがどんどん下がっていったが、スキルや宝具そのものは消えないで済んだ。

<残ったスキルと宝具>

さよ

【精霊の加護】：E

【十二の試練】：C

アスナ

【燕返し】

【無窮の武錬】 : A

【直感】 : B

【己が栄光の為でなく】 : E

イリヤ

【黄金律】 : E

【魔術】 : D -

【無限の剣製】 : E } A +

キヤサリン

【怪力】 : B

【魔眼】 : A +

【他者封印・鮮血神殿】 : B

【自己封印・暗黒神殿】 : C -

なぜか、ランクEとそれ以外というように、ランク差が激しい結果になった。

ランクが高いのは、……そうか、メドゥーサの保有スキルが。すっかり忘れてたけど、僕の保有スキルは『朱雀のスキルを能力共鳴で擬似的にコピーしたもの』と、『能力設定で結果的にメドゥーサからコピーしたもの』の二種類のスキルがあっただった。前者のスキルや宝具はランクEに、後者のスキルや宝具はメドゥーサと同じランクになったようだ。

この結果からすると、能力共鳴の詳細は、『ステータス、スキル、宝具（実体がないもの限定）を最低限のみ（ランクE相当で）コピーして、さらに共鳴することで朱雀に準ずるレベルまで威力や性能を向上させていた』のだろう。

そのため、共鳴が無くなれば、ランクEのものだけ残ったわけだ。

ランクEまで弱体化したのは悲しいが、まあスキルや宝具が残っているだけましなんだろうな。

つて、おい？

「なんで、イリヤは【魔術】と【無限の剣製】がランクダウンしてないんだ？

……もしかして、本当に平行世界のイリヤから宝具やスキルのダウンロードが可能になったのか？」

聖杯のイリヤなら不可能じゃないとは思っけど、それが本当ならとんでもない能力だぞ。

「いくら私でもそれは無理よ。

答えは簡単。私の中に、「無限の剣製」が展開できる人がいて、その力を借りただけよ」

「……つて、まさか英霊エミヤ？

英霊の座に戻らずに、イリヤの心臓に吸収されてたのか？」

「そういうこと。

私もそんなつもりはなかったけど、アーチャーが消滅するとき、世界扉である場所と繋がっていたでしょ。

近くにコピーとはいえ聖杯である私がいたから、英霊の座に直接戻らず、私の心臓に吸収されたの。

……もちろん、魂とはいえ英霊の存在は強大だから、魂を格納するのが精一杯で、その力や魔力を利用するなんてできるはずがなかったんだけど」

「だけど？」

「貴方のおかげで、私は夜天の騎士になっていたでしょ。

おまけに、意識が消えるまでにアーチャーも状況を理解して、

『今のイリヤなら、俺の魂を受け入れたままでも問題なさそうだな。』

イリヤが成長すれば、いつか俺の能力を使うことができるかもしれない。

固有結界を制御できるぐらい強くなって、この力が必要になる
ときがあれば、いつでも使ってくれ」

って言って、意識は消えてしまった後も固有結界をそのまま残し
てくれたのよ。

もちろん、固有結界が暴走しないように封印を掛けた状態だね。
で、今の私はアーチャーのサーヴァントになって、さらにあなた
からコピーとはいえ固有結界『無限の剣製』を借りたおかげで、私
の中『無限の剣製』の封印が解けて借りていた固有結界と融合した
のよ」

なんだ、それ！

体内の聖杯に吸収したサーヴァントの力を使うなんてチート、
…ああ、黒桜は黒化サーヴァントの使役という方法で使っていたか。
なら、イリヤでも不可能というわけじゃなかったわけか。

「本当なら、いくら私でもアーチャーの力を使えるようになるまで
は、相当訓練が必要だったはずなんだけどね。

サーヴァント化とコピーとはいえ『無限の剣製』を使えるように
なったことが原因で、いきなり使えるようになったわ」

そうか、まさに怪我の功名だったな。

それにしても自分の力を最期にイリヤに全部貸すとか、実に士郎
らしい。

最後のアーチャーは、衛宮士郎であつたことを受け入れ、心も一
部士郎に戻っていた感じがあつた。

ならば、「ギルガメッシュに殺されたはずのイリヤが実は生きて
いて、そのイリヤを自分が手助けできるなら嬉しい」と考えたのだ
ろう。

んっ？ ちょっと待て？

「でも、よくイリヤはアーチャーの願いを受け入れたな。

イリヤにとつて、衛宮士郎は父親を奪った憎い相手だろ？」

「ええ、そうよ。

もちろん、最初は断るつもりだったんだけど、

『俺の過去ではイリヤは大切な家族だったから、世界は違ってもイリヤは守りたいんだ』って言って、彼が持つ『私と過ごした記憶』を見せてくれたのよ。

断片的なものしかなかったけど、……その世界の私は士郎たちと一緒に楽しそうに過ごしていたから断われなかったの。

……まあ、リヨウが無限の剣製を使えなくなったから、断らなくて大正解だったみたいだけど」

ほんと、大正解だ。

イリヤが投影したものだから、僕が真名開放や壊れた幻想は使えないだろうけど、遠慮なく投擲できる宝具がいくらでも量産できるのは心強い。

他のメンバーも確認したところ、みんな問題なし。

アスナは、さっそく燕返し of 練習を始めている。

キャサリンもメドウ・サと相談して、スキルや宝具を使うコツなどについて確認を取っている。

みんなにスキルや宝具が残ったのは喜ばしいが、僕に返してもらうこと、あるいは貸してもらうことはできなかった。

どうも、サーヴァントクラスを持っていない存在が、サーヴァントの保有スキルを持つことはできないらしい。

さらに、主である僕と従者のみスキルの貸し出しと返却が可能な仕様だったらしく、従者同士でスキルの交換はできないようだ。

残念無念。

一発逆転を狙って、「令呪を使って『能力共鳴』を『能力複製』に戻し、容量の許す限り誰かの便利で強力な能力をコピーする」という方法もあるが、下手に『能力共鳴』をいじって僕の従者たちに

渡したスキルや宝具が消滅することがあれば大損害になってしまう。
……『能力複製』に未練がないわけではないが、『能力共鳴』はそのままにしておく方がいいだろう。

……さてよ。

保有スキルには『朱雀からコピーしたもの』と、『メドゥーサからコピーしたもの』の二種類のスキルを持っていたのなら、クラスも『朱雀からコピーしたもの』と、『メドゥーサからコピーしたライダークラス』があつたはずだ。

そのことに気づいた僕は慌てて能力サーヴァントをチェックすると、ライダークラスだけ他のクラスと違う反応を示した。

「よしっ、ライダークラスだけはまだ使えるかもしれない」と喜んだのもつかの間、試した結果は失敗だった。

調べると理由は簡単だった。

最初に僕は、メディアのサーヴァント能力をコピーできず、朱雀のサーヴァント能力をコピーできたのと同じ理由だった。

まず、トリッパーである朱雀が持っていた「（英霊ではない人間でも使える）サーヴァント能力」は容量さえ足りれば僕がコピー可能だったのに対して、メディアの「英霊の能力そのものであるサーヴァント能力」は僕にはコピー不可能だった。

しかし、朱雀から（疑似）コピーに成功した「（英霊ではない人間でも使える）サーヴァント能力」という土台があつたから、かつての僕はメドゥーサのライダークラスを完全にコピーして使用できたらしい。

しかし、その「（英霊ではない人間でも使える）サーヴァント能力」を僕が使えなくなった為、僕はライダークラスの能力を使えなくなってしまったようだ。

まさに宝の持ち腐れ。

いや、無理やり使ったところでオーバーフローを起こして自滅す

るだろうから、爆弾そのものである。

この力を破滅しないように制御して使いこなせれば大きな力となるのだが、……まあ無理だろうな。

……そうか、この力は『衛宮士郎に移植されたアーチャーの腕』と同じような存在だ。

一度でも使ったら、確実に僕が死亡する爆弾のタイマーが作動してしまうだろう。

……もちろん、タイマーは絶対に止まらない。

うん、どう考えてもこの能力は永久封印決定だな。

というか、さっき何も考えずに使おうとしていた。

幸いにも能力不足で使えなかったけど、とんでもないところで特大の死亡フラグが待ち受けていたな。

危なくデッドエンドで終わってしまうところだった。

ふー、これだから人生油断禁物だ。

『本物のサーヴァント能力というチートスキル』であることをしつかりと認識して、扱いは慎重にしとかなないと。

もし使うことがあるとすれば、……考えたくはないが、逃げることもできない絶体絶命の時の最後の手段だな。

令呪を使えば、多分使えるはずだ。

使ったあと、どれだけ生き延びられるかは神のみぞ知る、という状況だろうが、そのまま殺されるよりはよっぽどましだろう。

本当に最後の手段として、自身を夜天の騎士化して延命を図る、という手段もあるしな。

さて、仲間の増加と強化には成功したものの、サーヴァントクラス、スキル、宝具を失い、過去に投影した宝具の真名開放も壊れた^{ブローケン・フ}幻想も使えなくなった僕は、これからどうするべきだろうか？

今までは狭く深く鍛練し、魔法は、西洋魔法（精霊魔術）のみに

絞って訓練して、それ以外は今使える最強の手札である宝具を使いこなすための訓練と、（英霊エミヤの）武術の訓練に力を注いできた。

しかし、宝具の真名開放ができなくなった以上、……やはり、格闘技や魔法などを広く浅く学んでいき、より適性があるものを重点的にやるべきかな？

……あとは、エヴァに徹底的に鍛えてもらうか、あるいはラカンに正式に弟子入りするか。

やれやれ、今後の方針から全面的に見直す必要があるそうだな。

僕は謀略とか陰謀とかも考えるのは大好きだし、アイデアもたくさん考え付くけど、……突発事件には弱いんだよなあ。

あせらず、あらゆるアイデアを検討し、最善と思われる道を進んでいくことにしよう。

もちろん、頼りになるみんなに相談してから、だな。

第19話 悪足掻きの結果（小学3年生 1997年4月6日）（後書き）

本日（2011・10・1）、50万PVを達成しました。
どうもありがとうございます。

【更新履歴】

2011・10・02 イリヤやキャサリンが主で、バクティオー仮契約が可能
だと追記

2011・10・02 木乃香の式神は、刹那がサポートして作成
したことに修正

2011・10・06 「1・僕のサーヴァント能力封印の内容」
に追記

2011・10・11 さよに下賜した【十二の試練】のランクを
Cに訂正

【備考】

1・八神遼平

<サーヴァントのパラメータ>

クラス クラスなし

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 C

耐久 D 幸運 B

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力――

保有スキル

【精霊魔術】：D

備考

ステータスは『気』使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

2・千佳子

<パラメータ>

名前：ちびこのか↓千佳

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：浮遊

技術：占い

西洋魔法(全種類)

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

所持：

アーティファクト：

ライダーの運命

光の翼(投影品)

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 千佳

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 D

耐久 F 幸運 A

敏捷 F 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：D

【騎乗】：E

保有スキル 【精霊魔術】：E

【ルーン魔術】：E

【宝石魔術】：E

【陰陽術】：E

【神鳴流】：E

アーティファクト

【コチノヒオウギ（東風の檜扇）】

【ハエノスエヒロ（南風の末広）】

3・千夏

<パラメータ>

名前：ちびせつな↓千夏

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：飛行

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

アーティファクト：

ランサーの運命

建御雷（投影品）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

真名 千夏

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 F

耐久 F 幸運 A

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：E

保有スキル 【神鳴流】：E

【陰陽術】：E

アーティファクト

【ヒ首・十六串呂】

1997年4月6日のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。

「設定には興味がない」という方は、「次の話」をクリックしてください。

1997年4月6日のメモ

1. 僕の弱体化の内容

八神遼平

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

種族：人間

外見：20歳（自宅や外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：能力解析

能力共鳴（対象固定）

能力設定

令呪（残り2画）↓（残り1画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

能力（複製）（使用不可）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）
ゲイト・オブ・パヒロン

：E } A +（投影宝具）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）
ルールブレイカー

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具）

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドライト

無毀なる湖光（パラメータ向上）：A +（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）：C -（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ
ハルベ：B（投影宝具）

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
ハルベ：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）：投影アーティファ

クト

建御雷（魔力の刃）

：投影アーティファ

クト

妖刀ひな（呪われた刀）

：投影武具（メドウ

ーサ用）

短剣

カルンウエナン

小さな白い柄手（短剣）

：E（投影アーティ

ファクト）

シーカ・シシクシロ

七首・十六串呂（飛翔攻撃）

：投影アーティファ

クト NEW

槍

ゲイ・ジャルグ

破魔の紅薔薇（魔力無効化）

：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ

必滅の黄薔薇（不治の傷）

：C（投影宝具）

鎖

天の鎖（拘束&対神）

：A（投影宝具）

盾

蒼鏡の盾（センサー）

：D（投影宝具）

魔法の船となりし聖盾（魔法の船）

：C（投影アーティ

ファクト）

兜

騎士王の兜

：D（投影アーティ

ファクト）

冥王の死兜（気配遮断）

：D（投影宝具）N

EW

鎧

英雄王の鎧のパーツ

：B（投影宝具）

騎士王の鎧（鎖帷子）

：D（投影アーティ

ファクト）

靴

天駆ける翼靴（飛翔）

：D（投影宝具）

その他

光の翼（飛翔）

：投影アーティファ

クト

東風の檜扇（治療）

：投影アーティフ

アクト NEW

南風の末広（状態回復）

：投影アーティフ

アクト NEW

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>

クラス クラスなし

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C ↓ D 魔力 B ↓ C

耐久 D 幸運 A ↓ B

敏捷 C ↓ D 宝具 A + ↓ 消滅

クラス別能力 【対魔力】 : B ↓ 消滅

【騎乗】 : A + ↓ 消滅

保有スキル 【精霊魔術】 : D

【直感】 : B ↓ 消滅

【魔術】 : D - ↓ E

【無窮の武錬】 : A ↓ 消滅

【燕返し】 ↓ 消滅

【魔眼】 : A + ↓ 消滅

【無限の剣製】 : E ↓ A + ↓ 消滅

【十二の試練】 : C ↓ 消滅

【己が栄光の為でなく】 : C ↓ 消滅

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

このパラメータが見えるのは、本人のみ

以上のように恐るべき弱体化である。

上記の<サーヴァントのパラメータ>は、サーヴァント能力は失ったが「サーヴァントのランクで表示するとどの程度の能力になるか?」というデータを僕的能力で表示したものだ。

よって、このパラメータは僕以外には見えないものである。

整理すると下記のようになる。

<サーヴァントのパラメータ>

クラス クラスなし

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 D 魔力 C

耐久 D 幸運 B

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 |

保有スキル 【精霊魔術】 : D

【魔術】 : E

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

……なんだ、この雑魚。

パラメータだけ見れば、ただのやられ役にしか見えない。

元、じゃなかった以前の強さを取り戻すため僕ができることは、

『気』の熟練度アップ、咸卦法、ルーン魔術、宝石魔術、陰陽術の
習得あたりか？

2・新しい従者

千佳

<パラメータ>

名前：ちびこのか↓千佳

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント（偽）

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：浮遊

技術：占い

西洋魔法（全種類）

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

所持：

アーティファクト：

ライダーの運命

光の翼（投影品）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 千佳

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 D

耐久 F 幸運 A

敏捷 F 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：D

【騎乗】：E

保有スキル 【精霊魔術】：E

【ルーン魔術】：E
【宝石魔術】：E
【陰陽術】：E
【神鳴流】：E
アーティファクト
【コチノヒオウギ（東風の檜扇）】
【ハエノスエヒロ（南風の末広）】

千夏

<パラメータ>

名前：ちびせつな↓千夏

性別：女

種族：式神↓夜天の騎士↓サーヴァント（偽）

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓夜天の騎士

能力：飛行

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

アーティファクト：

ランサーの運命

建御雷（投影品）

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

真名 千夏

マスター 八神遼平

ステータス	筋力 F	魔力 F
	耐久 F	幸運 A
	敏捷 D	宝具 -
クラス別能力	【対魔力】	: E
保有スキル	【神鳴流】	: E
	【陰陽術】	: E
アーティファクト		

【ヒ首・十六串呂】

幸運以外、ランクD以下。

というか二人ともランクFが3つずつある。最低ランクってEじゃないかったのか？

慌てて調べると、ランクFは一般人（一般的な魔術師並み）の能力らしい。

こうなると、しばらくは戦力としては期待せず、アーティファクト要員として使うのが賢明だろうなあ。

ちなみに、サーヴァント化する際に、令呪は二画ずつしか使わないで済んだ。（つまり僕が持っていた令呪は消費しなかった）

夢の中の世界だから、メドゥーサの後押しがあって魔力が底上げされた分、令呪が一個不要だったんだらうか？

備考

<パラメータ>

名前：八神遼平

性別：男

種族：人間

外見：20歳（自宅や外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：能力解析

能力共鳴（対象固定）

能力設定

令呪（残り2画）↓（残り1画）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

槍術

弓術

操糸術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（風、影、回復）

能力（複製）（選択可能）：

令呪（残り0画）

能力（複製）（使用不可）：

サーヴァント

能力使用による心身への悪影響の無効化

能力（複製）（使用不可）（サーヴァント）：

ライダー（自滅しそうなので、絶対に使わない）

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

所持：王の財宝（倉庫）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

破戒すべき全ての符（対魔術&魔法）：D（小物サイズの

投影宝具

武装（王の財宝に格納しているメイン武装）

剣

アロンドライト

無毀なる湖光（パラメータ向上）
：A+（投影宝具）

干将・莫耶（対魔力&対物理向上）
：C-（投影宝具）

干将・莫耶オーバーエッジ
：B（投影宝具）

ハルベ

蛇刈る刺突剣（屈折延命）
：C（投影宝具）

ハマノツルギ（魔法無効化）
：投影アーティファ

クト

ホ・ヘーロース

千の顔を持つ英雄（変幻自在武具）
：投影アーティファ

クト

ミステルテイン

世界樹の宿木の剣（対神&対不死）
：投影アーティファ

クト

建御雷（魔力の刃）
：投影アーティファ

クト

妖刀ひな（呪われた刀）
：投影武具（メドウ

ーサ用）

短剣

カルンウェナン

小さな白い柄手（短剣）
：E（投影アーティ

ファクト）

シーカ・シシクシロ

匕首・十六串呂（飛翔攻撃）
：投影アーティファ

クト NEW

槍

ゲイ・ジャルグ

破魔の紅薔薇（魔力無効化）
：C（投影宝具）

ゲイ・ボウ

必滅の黄薔薇（不治の傷）
：C（投影宝具）

鎖

エルキドゥ

天の鎖（拘束&対神）
：A（投影宝具）

盾

アイギス

蒼鏡の盾（センサー）
：D（投影宝具）

フライウエン

魔法の船となりし聖盾（魔法の船）
：C（投影アーティ

ファクト)

兜

グースホワイ
騎士王の兜

：D（投影アーティ

ファクト)

アイドス・キユネエ
冥王の死兜（気配遮断）

：D（投影宝具）N

EW

鎧

英雄王の鎧のパーツ

：B（投影宝具）

ウィガール
騎士王の鎧（鎖帷子）

：D（投影アーティ

ファクト)

靴

タラリア
天駆ける翼靴（飛翔）

：D（投影宝具）

その他

光の翼（飛翔）

：投影アーティファ

クト

コチノヒオウギ
東風の檜扇（治療）

：投影アーティフ

アクト NEW

ハエノスエヒロ
南風の末広（状態回復）

：投影アーティフ

アクト NEW

アーティファクト：

贗作工房

夜天の魔法書

魔眼のコンタクト

<サーヴァントのパラメータ>

クラス クラスなし

マスター -

真名 八神遼平

ステータス 筋力 C ↓ D 魔力 B ↓ C

耐久 D 幸運 A ↓ B

敏捷 C ↓ D 宝具 A + ↓ 消滅

クラス別能力 【対魔力】 : B ↓ 消滅

【騎乗】 : A + ↓ 消滅

保有スキル 【精霊魔術】 : D

【直感】 : B ↓ 消滅

【魔術】 : D - ↓ E

【無窮の武錬】 : A ↓ 消滅

【燕返し】 ↓ 消滅

【魔眼】 : A + ↓ 消滅

宝具 【無限の剣製】 : E ↓ A + ↓ 消滅

【十二の試練】 : C ↓ 消滅

【己が栄光の為でなく】 : C ↓ 消滅

備考 ステータスは『気』使用時のもの

(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

【サーヴァント】

1. メドゥーサ

<パラメータ>

名前: メドゥーサ

偽名: メデュー・ライ

性別: 女

種族: サーヴァント

外見: 15歳(外出時は20歳ぐらいに変身)

職業: 無職

能力：サーヴァント（ライダー）

吸血

能力使用による心身への悪影響の無効化

令呪（残り1画）

技術：剣術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

西洋魔法（水、影、回復）

気：回復不可、使用可能（妖刀ひな限定）

魔力：回復不可、使用可能

所持：妖刀ひな（投影品）

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

世界扉

魔眼制御の眼鏡

時の天秤

忠誠の指輪

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 メドゥーサ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B↓C（B） 魔力 A

耐久 D↓E 幸運 A

敏捷 A+↓A 宝具 A+

クラス別能力

【対魔力】：B

【騎乗】：A+

【魔眼】：A+

【怪力】：B

【神性】：E-

保有スキル

宝具

備考

【無窮の武錬】：A

【直感】：B

【騎英の手綱】：A+

【自己封印・暗黒神殿】：C-

【十二の試練】：C

ステータスの○は、【怪力】使用時のステータス

2・相坂さよ

<パラメータ>

名前：相坂さよ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：17歳（外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：気配遮断：A

ポルターガイスト

血文字表示

憑依

空中浮遊

光鷹翼：B

令呪（残り2画） ↓（残り1画）

技術：バトントワリング（ペン回し）

西洋魔法（光、闇、回復）

ルーン魔術

ガンド

陰陽術

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（世界樹供給）、使用可能
所持：世界樹のブレスレット

英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

世界樹の種（昂魔の宝珠に格納）

アーティファクト：

キャスターの運命

魔法人形

昂魔の宝珠

縛めの指輪

ダビデの豎琴

備考：世界樹と契約済み

<サーヴァントのパラメータ>

クラス キャスター

真名 相坂さよ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 E 魔力 A +

耐久 E 幸運 B

敏捷 B 宝具 B

クラス別能力 【陣地作成】：A

【道具作成】：A

保有スキル 【気配遮断】：A +

【念動力】：A

【憑依】：C

【世界樹の加護】：A

【精霊魔術】：B

【ルーン魔術】：D

【陰陽術】：E

【精霊の加護】：E N E W

宝具

【光鷹翼】：B

【十二の試練】：C NEW

アーティファクト

【ポルスターガイスト】

3・アスナ

<パラメータ>

名前：アスナ・ウエスペリーナ・テオタナシア・エンテオフュシア

偽名：相坂アスナ

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳（外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：魔法無効化

令呪（残り2画）

技術：咸卦法

瞬動術（虚空瞬動も可能）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能（「ウロボロスの心臓」の効果）、使用可能

所持：英霊隠し（サーヴァントの気配遮断）

アーティファクト：

セイバーの運命

蛇刈る刺突剣

世界樹の宿木の剣

影の鎧

ウロボロスの心臓

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アスナ

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 B 魔力 A +

耐久 C (B) 幸運 C

敏捷 A 宝具 - ↓ E

クラス別能力 【対魔力】 : A

【騎乗】 : A

保有スキル 【魔法無効化】 : A

【咸卦法】 : A

【魔力放出】 : B

【燕返し】 NEW

【無窮の武錬】 : A NEW

【直感】 : B NEW

宝具 【己が栄光の為でなく】 : E NEW

アーティファクト

【ハマノツルギ】

備考 ステータスは『戦いの歌』と魔力放出を使用時のもの

(筋力、敏捷が2ランクアップ。耐久が1ランクア

ップ)

魔力放出の代わりに咸卦法を使用すると、耐久が1

ランクアップ

4・イリヤスフィール

<パラメータ>

名前：イリヤスフィール・アインツベルン

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳（外出時は8歳児に変身）

職業：小学生

能力：聖杯（複製）

魔眼

令呪（残り2画） ↓（残り1画）

技術：西洋魔法（全種類）

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能：聖杯（複製）供給、使用可能
アーティファクト：

アーチャーの運命

ヘカテーの魔法書 NEW

ヘルメスの杖 NEW

<サーヴァントのパラメータ>

クラス アーチャー

マスター 八神遼平

真名 イリヤスフィール・フォン・アインツベルン

ステータス 筋力 D 魔力 A+

耐久 D 幸運 A

敏捷 B 宝具 - ↓ A+

クラス別能力 【対魔力】：A

保有スキル 【聖杯（偽）】：A

【魔眼】：D

【精霊魔術】：A

【黄金律】：E NEW

【魔術】：D - NEW

宝具 【無限の剣製】：E ↓ A+ NEW

アーティファクト

備考

【カレイドステッキ】

ステータスは『戦いの歌』を使用時のもの
(筋力、耐久、敏捷が1ランクアップ)

5・キャサリン

<パラメータ>

名前：キャサリン

性別：女

種族：サーヴァント

外見：15歳

職業：「夜天の書」の守護騎士

能力：飛行

魔眼

令呪(残り2画)

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

技術：西洋魔法(氷、闇、影)

操糸術

人形使い

大東流合気柔術(合気鉄扇術)

マギア・エレベア
闇の魔法

アーティファクト：

アサシンの運命

琥珀の爪 NEW

夜霧の指輪 NEW

吸血鬼のマント NEW

備考

サーヴァント（元人造霊）のため、「吸血」「再生」能力は未所持

<サーヴァントのパラメータ>

クラス アサシン

マスター 八神遼平

真名 キャサリン

ステータス 筋力 E 魔力 A

耐久 D 幸運 B

敏捷 B 宝具 - ↓ B

クラス別能力 【気配遮断】 : A

保有スキル 【魔眼】 : B ↓ A +

【精霊魔術】 : A

【人形使い】 : A

【闇の魔法】 : B

【怪力】 : B NEW

宝具 【他者封印・鮮血神殿】 : B NEW

【自己封印・暗黒神殿】 : C - NEW

アーティファクト

【チャチャゼロ】

6・千佳

<パラメータ>

名前:ちびこのか↓千佳

性別:女

種族:式神↓「夜天の書」の守護騎士↓サーヴァント（偽）

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓「夜天の書」の守護騎士

能力：浮遊↓飛行

技術：占い

西洋魔法（全種類）

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復不可、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

所持：

アーティファクト：

ライダーの運命

アーティファクト（投影）：

光の翼

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ライダー

真名 千佳

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 D

耐久 F 幸運 A

敏捷 F↓E 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：D

【騎乗】：E

保有スキル 【精霊魔術】：E

【ルーン魔術】：E

【宝石魔術】：E

【陰陽術】：E

【神鳴流】：E

アーティファクト

【コチノヒオウギ（東風の檜扇）】

【ハエノスエヒロ（南風の末広）】

7・千夏

<パラメータ>

名前：ちびせつな↓千夏

性別：女

種族：式神↓「夜天の書」の守護騎士↓サーヴァント（偽）

外見：式神 or 8歳児

職業：式神↓「夜天の書」の守護騎士

能力：飛行

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

アーティファクト：

ランサーの運命

アーティファクト（投影）：

建御雷

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

真名 千夏

マスター 八神遼平

ステータス 筋力 F 魔力 F

耐久 F 幸運 A

敏捷 D 宝具 -

クラス別能力 【対魔力】：E

保有スキル 【神鳴流】：E

【陰陽術】：E

アーティファクト

【ヒ首・十六串呂】

【協力者】

1．近衛木乃香

<パラメータ>

名前：近衛木乃香

性別：女

種族：人間

外見：8歳

職業：小学生

能力：魔力：A+

飛翔

技術：占い

西洋魔法（全種類）

ルーン魔術

陰陽術

ガンド

神鳴流剣技

気：回復可能、使用不可

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

光の翼

アーティファクト（投影）：

コチノヒオウキ

東風の檜扇NEW

ハエフスエヒロ

南風の末広NEW

2．桜咲刹那

<パラメータ>

名前：桜咲刹那

性別：女

種族：人間と烏族のハーフ

外見：8歳

職業：小学生

能力：飛翔

技術：神鳴流剣技

神鳴流退魔術

陰陽術

気：回復可能、使用可能

魔力：回復可能、使用可能

アーティファクト：

建御雷

アーティファクト（投影）：

シーカ・シンクシロ

匕首・十六串呂NEW

【被保護者】

1・間桐桜

<パラメータ>

名前：間桐桜

性別：女

種族：人間

外見：5歳↓10歳（普段は16歳に変身）

職業：高校生

能力：なし

技術：魔術

吸収

使役

西洋魔法

ルーン魔術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術師、高校生

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

種族：サーヴァント（霊体化不可）

外見：15歳

職業：サーヴァント

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）
アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凛

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A+

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】：A

【騎乗】：B

保有スキル 【直感】：A

【魔力放出】：A

【カリスマ】：B

宝具 【風王結界】：C

【約束された勝利の剣】：A++

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】：A

【全て遠き理想郷】：EX

アーティファクト

【エクスカリバー】：A（剣）

【アヴァロン】：EX（魔法の鞘）

【カリバーン】：B（剣）

【ロンゴミアド】：C（槍）

【カルンウェナン】：E（短剣）

【プライウエン】：C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】：D（兜）

【ウィガール】：D（鎖帷子）

外伝03話 バゼットの目覚め（小学2年生 聖杯世界8月）

気が付けば、聖杯世界では聖杯戦争終了から半年が終了し、原作通りならいよいよバゼットが目覚めます日が近づいている。

つい先日、教会にはカレンが着任し、バゼットを発見して何やらしていたようだった。

最初はバゼットの介護とか、可能ならhollow ataraxiaの世界を観察することか考えていた。

いたのだが、メドゥーサから『下手にバゼットに触れると、予想外の事態が発生しかねない』とアドバイスを受け、世界扉で観察する以外完全放置していたのだ。

バゼットの夢を覗いて、メドゥーサや僕がアヴェンジャーに感染、あるいは浸食されたらとんでもないことになってしまう。

このリスクがあまりにも大きすぎたので、泣く泣く諦めることにしたのだ。

もちろん、完全に諦めるつもりはなく、アヴェンジャーが去り、バゼットが目覚ました後に交渉して記憶を見せてもらいたいと思っている。

できれば、hollow ataraxiaの世界にも行ってみたかったんだが、アヴェンジャー感染の危険性以外にも、一度入ったらバゼットが覚醒するまであの世界から脱出不可になる可能性もあったので、こっちは最初から諦めていた。

ランサーと世間話をしたり、アーチャーと才能の無い人の戦い方の相談をしたりとか、色々してみたかったんだけどな。

そんなある日の昼ごろ、メドゥーサからバゼットが覚醒しそうだと連絡が入り、全員でバゼットの様子を見守ることにした。

「っ——、あ——」

そんな声を出して、バゼットは目を開けてソファから体を起こした。

顔を顰めているところを見ると、体が痛むようだ。

そして、バゼットは部屋の机の上に置かれたパズルを見ると、とても懐かしそうな顔をして呟いた。

「バカな男だ。こんなもの、何処にでも」

そのままパズルを見つけたづけ、バゼットは静かに泣いていた。

「……それじゃあこれで。さようなら、アヴェンジャー」

バゼットはそう言って、アヴェンジャーに別れを告げた。

この様子だと、どうやら原作通りのエンディングを迎えたようだな。

バゼットは荷物を確認して不思議そうな顔をしていた。

……確か、手袋をアヴェンジャーが盗っていったんだっけ？

「……まあ、何にせよ、まずは義手を手配しないと」

確か原作ではこのタイミングで士郎と凜が、バゼットがいるエーデルフェルトの洋館を訪れたが、二人は今セイバーと一緒に魔法球の中で訓練中である。

間違いなく僕たちの介入が原因だろう。

そういうわけで、邪魔が入る心配もなく、バゼットと交渉ができそうだな。

というわけで、キャサリンとメドゥーサを派遣させる。

交渉の目的は、……桜のボディガード兼ルーン＆戦闘の講師として雇うことだ。

メドゥーサはサーヴァントであるがゆえに強力ではあるが、警戒もされるだろうし、絶対に桜を守れると思いがっついてはいない。

そこで、『対人戦闘に優れ、戦闘経験も豊富であり、対価もたっぷり用意でき、今はフリーランスになってしまったと思われるバゼット』を可能なら雇うことにしたのだ。

戦闘ではないので、キャサリン一人でエーデルフェルトの洋館に入って行ってもらった。

部屋に入ったキャサリンに対して、バゼットは警戒して戦闘態勢を取っていた。

「安心しろ。お前に危害を加えるつもりはない」

「その言葉、全く信用できません。」

一体どんな理由で、ここへ来たのですか？」

言葉通り、バゼットは警戒態勢を解かなかった。

「平和的な取引だ。」

貴様がずっとここで仮死状態なのは分かっていたが、妙な存在と繋がっていたのは分かったから手出しできなくてな。

やっと目が覚めたからこうして来たまでだ」

「……私の何を求めるといいますか？」

「知っているかもしれないが、お前は半年間仮死状態だった。」

そして、そのことは私たち以外誰も知らなかった。

……いや、最近聖堂教会の奴らにばれたが、最近まで知っていたのは私たちだけだった。

当然、魔術協会も死亡認定をしているだろう。

となれば、当然魔術協会におけるお前の席も無くなって今は無職だろうから、スカウトに来たまでだ」

「……スカウト、ですか？」

一体私に何をさせるつもりですか？」

「大したことではない。」

私のマスターが懇意にしている少女たちの護衛、そしてルーン魔術の知識の伝授と戦闘訓練といったところだな」

「ルーン魔術の知識の伝授ならば私でも可能ですが、……この通り隻腕ですのでそれ以外は無理ですよ」

やっとキャサリンを信頼してきたのか、バゼットはまともに対応してくれてきたが、戦えない今の自分に対して不可能な依頼をして

きたことに対して不審を隠そうとしなかった。

「安心しろ。」

対価には腕の治療を含んでいる。

その治療を受ければ、聖杯戦争前と同様に戦えることは保証するぞ」

「それが事実ならありがたいのですが、……対価はそれで全てですか？」

「貴様が一番欲しがっているだろう、聖杯戦争の詳細な情報もあるぞ。」

もちろん、ランサーと言峰綺礼のことも含まれている。

……ただし、提供条件として誰にも、そう魔術協会に対しても口外禁止とさせてもらうがな」

「やはり、私のことは全て知っているのですね」

「もちろんだ。」

魔術協会から参加した封印指定ハンターのバゼット。

ランサーとしてクー・フリーンを召喚したが、言峰綺礼から不意打ちを受け、左腕と令呪とランサーを奪われて脱落。

ぎりぎりですなずにいて、妙な存在と繋がり、仮死状態のまま半年経ってから目を覚ました。

……何か間違っていることはあるか？」

「……いえ、合っています。」

……いいでしょう。

失った腕の治療と聖杯戦争の詳細な情報を貰えるのなら、あなたと契約しましょう」

「そうか、契約する気になったか。」

……では、まずは場所を移動するぞ。

これは移動用の魔術具だ。

私たちの拠点へ案内するから入るがいい」

バゼットはその言葉を聞くと、ためらわずに世界扉をくぐった。

その先には魔法球が設定されており、世界扉から出た瞬間、魔法

球内に入るようになっている。

すぐにキャサリンは後を追ひ、二人とも魔法球に入った。

魔法球内にはメドゥーサ、さよ、アスナがすでに待機しており、バゼットを連れて家の中に入った。

バゼットは魔法球に入った瞬間あたりに充満する濃い魔力に気付いたようだが、何も言わずに家の中に入った。

「さて、遅くなったが自己紹介といこう。

すでに気づいているだろうが、ここにいる全員がサーヴァントと同じ魔力生命体であり人間ではない。

そして私たちのマスターは同一人物だが、訳あってここには来れない」

「貴方達全員をたった一人で支えるとはとんでもない魔術師のようですね、貴女たちのマスターは。

会えないのは残念ですが、私の願いを叶えてくれるのならば問題ありません」

それからキャサリンたちは順に自己紹介を行い、最後にメドゥーサの番になった。

「私は、今回の聖杯戦争において、ライダーのクラスで召喚されたサーヴァントです」

とんでもない話を聞いたはずなのに、バゼットは動揺した様子を見せなかった。

「やはりそうでしたか。

私は今もサーヴァントのパラメータを見通す能力は失っていません。

ですから、貴女がサーヴァントのライダーであることはすぐにわかりました。

……もつとも、なぜセイバーとキャスターまで一緒にいるのかわかりませんが」

そつえば、サーヴァントのマスターはサーヴァントのパラメー

タを見る能力を付加されるんだっけ。

……ああ、一度サーヴァントを失っている士郎と桜もその能力を持っていたんだなら、バゼットも持っていることを予想しておくべきだったな。

「詳しい事情は後で説明するが、聖杯戦争で召喚されたのはライダーだけだ。

セイバーのアスナとキャスターのさよはイレギュラーな存在だ」
とんでもない発言を聞いたにも関わらず、バゼットは動揺を見せなかった。

「そうでしたか。」

アスナやさよからも相当強力な力を感じましたが、あなたは明らかに格が違う。

……それにわずかですが、ランサーと似た感じも受けます。

多分、あなたも神性を持っているのでしょう？」

「その通りです。私はわずかですが、神性があります」

「やはりそうでしたか。」

それで、聖杯戦争後も現界を続けているということは、あなたが聖杯戦争の勝者ですか？」

まあ、普通ならそう考えるよな。

現実とはんでもなく異常な事態が発生しているんだけど。

「いえ、違います。」

私は一度敗退したにも関わらず、イレギュラーな召喚により再召喚されただけです。

また、新しいマスターの方針で、再召喚後は聖杯戦争を監視するだけで一切関わりませんでした」

それを聞いて初めてバゼットは表情を変えた。具体的には不信感ばりばりの表情だった。

「それはありえない。」

聖杯戦争に関わらないというのなら、なぜサーヴァントを召喚したのです」

「私を召喚した魔術師は、フリーの魔術師であり、さらに『聖杯が願いを叶えるという話』について信頼性が低いと考えており、ハイレベルな殺しあいが行われる聖杯戦争に参加するのはリスクが高すぎると考えていました。」

しかし、『過去の英霊をサーヴァントとして従えることが可能なこと』にはメリットがあると考えていました。

そのため、『サーヴァントを召喚しながら聖杯戦争に参加しない』という対応を取りました」

「……マスターの方針は理解しました。」

しかし、あなたも聖杯を求めて召喚に応えたはずではないのですか？」

「問題ありません。私は聖杯を求めて召喚に応えたわけではないので、マスターの方針に異論はありませんでしたし、今も同様です。」

実際、あなたが召喚したランサーも聖杯など求めていなかったと思いますか？」

「……確かにその通りです。」

ランサーは満足できる戦いを求めて私の召喚に応じました。

彼と同様に、聖杯以外の理由で召喚された存在がいてもおかしくなかったですね」

「そういうことです」

実際、戦いを求めていたのがランサーとアサシン、桜を助けたかったのがライダー、衛宮士郎を殺したかったのがアーチャー、多分イリヤを助けたかったのがバーサーカーだし、一応聖杯を求めてはいたが実質葛木と一緒に過ごすことで満足していたのがキャスターだから、純粋に聖杯を求めていたのってセイバーだけか。

本当にイレギュラーだらけの聖杯戦争だったよなあ。

とりあえず、納得してくれたバゼットに対して、契約の対価の前払いとして世界扉で7ヶ月若返らせて腕の再生を行った。

ちなみに、7ヶ月分の時間はアスナが受け取った。

謎の魔術具（実際はアーティファクト）であつという間に自分の腕が蘇り、しかも聖杯戦争参戦時の絶好調状態に体が回復した（実は若返った）ことに驚いたバゼットだったが、ライダーの特殊能力だと納得したようだった。

こうして、バゼットはそれなりにキャサリンたちを信頼し、契約の詳細を詰めることになった。

<バゼットと交わした契約>

○バゼットが提供するもの&バゼットが守ること

・護衛：対象は間桐桜

間桐桜の護衛をするが、間桐桜が望む行為の阻害はしないこと。

契約は1年ごとに更新。ただし、契約終了後も間桐桜への間接・

直接を問わず不利益な行動の禁止。

・ルーン魔術の伝授：対象は間桐桜、キャサリン、ライダー、アスナ、さよ、イリヤ、間桐慎二。必要なら他数名追加。

バゼットの持つ全情報の提供。

契約は1年ごとに更新。

・戦闘訓練：対象は間桐桜、キャサリン、ライダー、アスナ、さよ、イリヤ、間桐慎二、衛宮士郎、遠坂凜、セイバー

キャサリンたちが求めるレベルの戦闘訓練の実施。

戦闘訓練中のバゼットの怪我の治療はこちらが行う。

バゼットが承諾すれば、他のメンバーにも戦闘訓練を行う。

契約は1年ごとに更新。

・情報秘匿：対象は間桐桜、キャサリン、ライダー、アスナ、さよ、イリヤ、キャサリンたちのマスター、間桐慎二、衛宮士郎、遠坂凜、セイバー

キャサリンたちが許可したもの以外の全情報の秘匿

期間は無制限。

○バゼットへの対価

- ・腕と体の治療（実施済み）
- ・第五次聖杯戦争の情報

注 他人（魔術協会を含む）への許可された情報以外の情報提供禁止

- ・戦闘力向上の技術と魔術具の提供
- ・衣食住の提供
- ・護衛任務中、ルーン魔術の伝授、戦闘訓練のいずれか、あるいは全ての契約継続中に限る。
- ・金銭報酬

必要に応じて適宜変更することにして、まずは上記の契約をバゼットと結ぶことが決定した。

で、いくら原作を知っている程度信頼できるとはいえ、士郎達ほど無条件で信頼はできないので、バゼットの許可を得た上で、さよがこつちの世界で作った鵬エンノモス・アエトスフラীগス法璽を使用した。

これによりバゼットは契約に縛られたので、桜はバゼットに対しては完全な安全が保証され、さらに情報漏洩もほぼ防げただろう。

バゼットはさっそく聖杯戦争の情報を見せてほしいと依頼してきた。

契約で約束したこともあり、特に異論はなく全員メドゥーサの夢に取り込んで、メドゥーサが再現したものすごくリアルな夢で第五次聖杯戦争を見せた。

僕はライン経由で一緒に見ていたが、やっぱりランサーは悲惨だったよなあ。

……まあ、アーチャーと本気で戦って、一応満足できる戦いはできたし、最後にバゼットが生きていることを聞いて多少は救われた

とは思っけど。

全て見終え、夢の世界から出た後、しばらくバゼットは黙りこんでいた。

「ランサーが最後に力を込めた種、それを納めた珠を見せてもらえませんか？」

「いいですよ。」

はい、どうぞ」

さよは素直に、現在世界樹の種を格納している『昂魔の宝珠』をバゼットに手渡した。

それを受け取ると、バゼットは目を閉じて『昂魔の宝珠』を手で包み込んだ。

「確かに彼の魔力が込められているのが感じられます。」

……しかし、それ以上のことは分かりません。

あなたは何か感じ取れるのですか？」

「は、はい。」

その宝珠を持っていると、ルーン魔術の知識が私に流れ込んでくるんです。

……多分、ランサーさんの記憶の一部だと思っているんですが」「……そうでしたか。

残念ながら私では何も情報を受け取れませんでした。

これにランサーの意思が宿っているかは私にはわかりませんが、大切にしてください」

バゼットは複雑な表情で、さよに『昂魔の宝珠』を返却した。

「はい、約束します」

さよは当然、とばかりに満面の笑顔で答えた。

世界樹の種に込められているかもしれないランサーの意志が覚醒すれば、それだけでも色々な意味ですごいことになるけど、……どうなるのかなあ？

いくらさよが魔力を込めても世界樹の種から芽が出る気配がない

となると、何かきつかけとかイベントが必要なのだろう。

……例えば、世界樹に魔力が満ち溢れる時、とかかな？

「ランサーは一度とはいえ満足できる戦いができたようですし、……さよたちの尽力によって、それなりに満足して消滅したようですが……」

「何か不審な点があるのか？」

「はい、確かにセイバーは強力ですし、アーチャーも手ごわかった。綺礼に令呪で偵察を命じられて全力を出せないという制約もあったようですが、それでも彼の實力はあの程度ではなかった」

「おいおい、本気で戦ったはずの二回目の対アーチャー戦でも全力じゃなかったなんて、ありえるのかよ。」

「そんなことがあるとすれば、……ああそういうことか。」

「ライン経由でマスターから伝言があったぞ。」

綺礼は魔術師としてバゼットより劣るため、主替えてランサーが弱体化した可能性がある、とのことだ。

確認したいので、お前がマスターだったときにランサーのステータスを教えてくれるか？」

「なるほど、その可能性がありますね。」

「いいでしょう。私の知る彼のスキルを教えます」

「そう言っただけで教えてくれたバゼットランサーのステータスはとんでもなかった。」

<サーヴァントのパラメータ>

クラス ランサー

真名 クー・フリーリン

マスター バゼット

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 C 幸運 A

敏捷 A+ 宝具 B

クラス別能力
保有スキル

【対魔力】：A

【戦闘続行】：A

【仕切り直し】：C

【ルーン】：B

【矢よけの加護】：B

【神性】：B

宝具

【刺し穿つ死棘の槍】：B

【突き穿つ死翔の槍】：B +

……おいおい、耐久と宝具以外全部Aランクだぞ？

これが事実なら、ランサーってとんでもなく強かったんじゃないか？

下手をすると、士郎セイバーでは絶対に勝てないぐらい。

……ま、まあ、クー・フリーンは怪力の伝承を持っているし、ルーン魔術を修めてキャスターのクラスにも該当しうる魔術の知識と腕前を持っていたらしいし、『バゼットと会えたのは幸運だ』とか言ってたし、それらを考えればこれくらいのステータスでも不思議じゃないんだろうけど。

どこで読んだかは忘れたけど、『伝説通りの力を持っていたとしたら、アーサー王とクー・フリーンはほぼ互角』って意見が多かったから、それから考えるとこの結果はおかしくないんだろうけど。

そういえば、時臣ギルと言峰ギルを比較すると、『筋力、敏捷、魔力：1ランク低下、対魔力：2ランク低下』って半端ない弱体化だったから、ランサーも弱体化していることは十分考えられることだったか。

……セイバーは士郎がマスターだったせいで弱体化していたとはいえ、ランサーは弱体化&令呪による制約まである状態でセイバーに重傷を負わせたわけで、バゼットランサーだったらあの一撃でセイバーが負けていた可能性は十分あったんだなあ。

さらに、このバゼットランサーは宝具の斬り決る戦神の剣フラガラックを使え

るバゼットと組んでいたんだから、戦力的に十分すぎるほど強いよな。

バゼットとランサーは、最強クラスのコンビだったのは間違いない。

ルール違反の強さを持つギルガメッシュとバーサーカー以外なら、十分有利に戦えたのは間違えなさそうだ。

綺礼はそんな二人を不意打ちで倒して、あまつさえランサーを配下に置くことを成功したのだから、恐ろしい奴だ。

まるで切嗣みたいだ……って、まじで切嗣の方法を真似したのかも。

「マスターが見たランサーのパラメータは、お前の話したものよりかなり低かった。

綺礼がマスターになったことで、ランサーが弱体化したのは間違いなさそうだな」

「やはりそうでしたか。

……彼には本当に悪いことをしてしまいました」

事実しか言っていないが、バゼットがかなり落ち込んでしまったようだ。

キャサリンたちはバゼットを気遣って部屋から出て行き、バゼットは一人でランサーのことを思い出していたようだった。

こうして、バゼットは実質的に桜の仲間となった。

で、護衛を任せるんだからバゼットを強化するのは当然で、ここが魔法球という時間と空間を捻じ曲げた場所であることを伝えた後、バゼットの了承後さっそく訓練を始めた。

例のごとく、気、瞬動術、そして駄目元で咸卦法を教えてみたわけだ。

元々前衛の格闘魔術師だったわけで、気や瞬動術はあつという間に覚えてしまい、元々封印指定ハンターとして強かったこともあり、相当強くなってしまった。

ここまでは予想通りだったんだが、……さすがに咸卦法を使うことは、将来はともかく今すぐにはできない。……そう思ってたんだけどね。

主人公補正ということか、それともhollow ataraxiaで数えきれないほど対サーヴァントの戦闘を繰り返して成長限界まで成長したバゼットを舐めていたというべきか、……凜よりも短い時間で咸卦法を身に着けてしまった。

で、咸卦法を使ったバゼットは、さすがに全力のアスナには勝てないものの、その恐るべき戦闘経験に基づいた技術と咸卦法のパワーで、アスナが苦戦するレベルまで強くなってしまった。

……いや、桜の護衛としては頼もしい限りなんだが、これに斬り^ッ決る戦神の剣まで使われたら、普通の人間でバゼットに勝てる奴っていないんじゃないかね？

『戦闘時には硬化のルーンを刻んだ手袋をはめ、時速80km（プロボクサーが時速40km）のパンチを繰り出す』という恐るべき武闘派魔術師だったのに、これに『気』や『咸卦法』による肉体強化と『瞬動術』による高速移動術を身に付けちゃったからなあ。いやいや、純粋な人間としてここまで強くなれると士郎達の目標になることを考えれば、いい発奮材料になるかな？

それから、これもお約束の仮契約大会^{バックティオー}を行った。

……バゼットにとっては初めてみる魔法陣だから拒絶するかも思ったが、意外にもあっさりと承諾した。

「ずいぶん素直に承諾したな。」

「畏だとは思わなかったのか？」

キヤサリンも不思議に思ったのか、率直にバゼットに質問をしていた。

「あなたがたは瀕死の私にいくらでも手出し可能でしたし、それ以前に今も私など簡単に従えることが可能な存在です。」

……多分、私を洗脳することも容易いでしょう。

そのような状況で、今さら畏を掛けるとは思いません。

初めて見る魔法陣ですが、咸卦法などと同じく、純粹に私の能力向上に役に立つものなのでしょう?」

「くっ、くははははは！」

……いいぞ、その割り切りっぷり。

大いに気に入った。

いいだろう。私を裏切らない限り、できるだけお前に力を貸してやろう」

「感謝します。」

……それで、この魔法陣を使って何をするつもりなのですか?」
「簡単なことだ。」

その魔法陣で、メドゥーサ、さよ、アスナの3人とキスをするだけいい。

そうすれば、お前だけが使える強力な魔術具が召喚される。

そういう魔法陣だ」

「それが本当ならば、とんでもない代物ですね。」

いいでしょう、さっそくお願いします」

キスをするという聞いても全く動じず、速攻で魔法陣に入ってしまった。

さすがは、鉄の女バゼットというべきか。

予想外の反応に呆然としていたが、キャサリンに促されて、メドゥーサたちはバゼットと仮契約を行った。

【仮契約】

ライダー	メドゥーサ	×バゼット		斬り決る戦神の剣
キャスター	相坂さよ	×バゼット		琥珀の腕輪（ルーンに加護付き）
セイバー	アスナ	×バゼット		

さすがのバゼットも、仮契約カードから斬り決る戦神の剣が具現化した時には驚きを隠せなかったが、仮契約によって召喚された贗作だと知って納得していた。

僕が解析したところ、一日一回という使用制限はあるものの、本物の斬り決る戦神の剣に準ずる威力があるため、かなり便利なのは確かだろう。

こうして、バゼットの魔改造が終了した後、まずは桜（と慎二）にバゼットを紹介し、皆で相談した結果、バゼットは間桐邸に同居することになった。

……まあ、桜の護衛兼教師として雇ったんだから当然だな。ルーン魔術を実際に使える人材が加わったことは予想以上に効果的で、桜たちのルーン魔術の習得も順調に進むことになった。

ちなみに、リアルな『hollow ataraxia』をみたと思うて、メドゥーサにバゼットの記憶を覗いてもらおうと思ったのだが、見事に失敗した。

……なんと、アヴェンジャーがバゼットの記憶をブロックしていたらしい。

下手に手を出すと、バゼットに記憶を覗こうとしたことがばれてしまうということで、泣く泣く諦めることになった。

アヴェンジャーの奴、そこまで二人の思い出を誰にも見せたくないかったんだな。

当然、バゼットを士郎達にも紹介した。

士郎達は、全て遠き理想郷を持っていれば老化しないことを確認したので、遠慮なく魔法球を使っているらしく、バゼットとの面会も魔法球の中で行うことになった。

バゼットは士郎を見て少し懐かしそうにした後、自己紹介を始めた。

「キャサリンにも紹介してもらいましたが、バゼット・フラガ・マクレミッツです。」

聖杯戦争に参加するため、ランサーを召喚しましたが、言峰綺礼の不意打ちに会い、令呪とランサーを奪われてしまいました」

「そうだったのか！」

「ふーん、なるほどね。」

綺礼の奴、あなたからランサーを奪っていたのね。

バゼットって、どこかで聞いたことある名前ね。

……って、まさか！？

「はい、私は封印指定の執行者として活動していました。」

……訳あって今まで動けず連絡も取れなかった為、すでに魔術協会から席は抹消されているでしょうが」

「そうでしたか。」

確かにあなたは相当強い。

シロウやリンでは敵わないでしょうね。

……あなたがランサーのマスターというのは納得できます。

自己紹介が遅れました。

私はセイバーのサーヴァントです。

マスターは、リンですが、シロウにも忠誠を誓っています」

「セイバーのマスターであり、冬木のセカンドオーナーの遠坂凛よ」

「衛宮士郎だ。」

よろしく」

「ええ、よろしく願います。」

だいたいのことは、口外禁止の契約の元、キャサリンから伺っています。

ランサーと共に戦い、彼が望む戦いができたことに感謝します」

「それはこっちの台詞よ。」

彼のおかげで私は死なずに済んだわけだし、キャスターを倒すこともできたわけだしね」

「ああ、俺たちもランサーには感謝している」

「それを聞けば、彼も喜ぶでしょう」

「ランサーは本当に強かった。」

……願わくば、私も彼と決着を付けたかったのですが……」

「そうですね。」

私も全力の状態で作らせてあげたかった」

そうすれば、間違いなくランサーが勝っていた、と多分心の中で続けたんだろうな。

その後、バゼットがキャサリンと契約して、聖杯戦争の情報提供や傷の治療と引き換えに、桜の護衛を引き受けることになったことや契約内容の概要を伝え、士郎達が納得した後、これも当然ながらバゼットの實力を試すため、模擬戦闘をすることになった。

封印指定の執行者であり、人間としてはトップクラスに強いと分かっていたが、咸卦法を使えることでかなり自信があつた凜だったが、同じ咸卦法を使われると、後は地力と経験の差で、あつという間に戦闘不能状態になってしまった。

すぐに、セイバーの魔力供給で復活したが、相当お冠の様子だった。

「ちよつと、なんで咸卦法を使えるの？」

「護衛を引き受けた後にキャサリンたちから教わりました。」

あなたも使えるようですが、元々私は武闘派魔術師です。

肉体強化系の術は得意分野です」

「あゝ、確かに桜の護衛をしてくれるなら強いに越したことはないけど。」

……やっぱり、それなりに才能があれば、咸卦法は結構簡単に使えちゃうのね」

そう言つて凜は納得していたけど、それは違つ。

凜もバゼットも、咸卦法への適性が半端なく高かつたとは思えない。

……それとも、聖杯世界の武闘派魔術師は全員咸卦法の適性が高

いのだろうか？

続いて士郎もバゼットと戦闘を行ったが、……凜が勝てなかった相手に勝てるはずもなく、守備に専念して相当粘ったが、バゼットのパワーと瞬動による起動力に抗しきれず、士郎も地に這うこととなった。

最後にセイバーが登場し、これまた当然ながらバゼットはセイバーには勝てなかった。

「さすがは、最優のサーヴァント。

咸卦法を使えるようになって相当強くなったはずですが、それでも届きませんか」

「卑下することはありません。

純粹な人間でここまで強い存在がいるとは思いませんでした。

私には敵いませんでしたが、平均的な能力値のサーヴァント相手なら、勝つことも不可能ではないでしょう」

「セイバーにそこまで評価していただけるとは光栄ですね」

バゼットはそう言って笑顔を見せた。

フラガラク

もっとも、バゼットはさらに斬り決る戦神の剣という切り札があるから、これを使えばサーヴァント相手でもさらに勝率が上がるのは間違いないだろう。

顔見せも終わったので、バゼットは桜と共に家の中に入って行った。

「それにしても悔しいわね。

綺礼のおかげなのは癪だけど、もしバゼットがランサーと組んで聖杯戦争に参戦していたら、アーチャーがランサーと戦っている横で私はバゼットと戦うことになっていたわ。

そうなれば、私に勝ち目は無かったわね」

「そうだな。バゼットはとんでもなく強い。

おまけに俺なんかじゃ全然想像もできないほど、とんでもない量

の戦闘経験を積んでいると思う。

下手すると、アーチャー並みじゃないか？」

「……確かにそれくらい戦っていてもおかしくないぐらいの強さよね。」

咸卦法をより効率的に使いこなせるように訓練を続けるのは当然として、何か一気に強くなれる方法はないかしら？」

「そう簡単に強くなる方法はないだろ？」

いつも遠坂が言っているように、毎日の修練あるのみじゃないか？」

「そうだけど、他ならぬ士郎がキャサリンのアドバイスで一気に強くなったじゃない。」

「……別の平行世界の私の情報で、私が一気に強くなれるアドバイスはないのかしら？」

凜は、キャサリンの方を向きながらそう言ってきた。

ちようど思いついたことがあったので、僕はキャサリンにさらなる情報提供と新しいアドバイスの提供を連絡した。

「あるぞ？」

それもサーヴァントと互角に戦えるぐらい強くなれる方法がな」

「何よ、それ！」

知っているのならさっさと教えなさいよ！！」

「別にいいぞ。」

……簡単な話だ。

マスターが見た予知夢、この世界からすると平行世界の話になるが、お前たちがバーサーカーのマスターであるイリヤスフィールと共闘した世界があつて、イリヤスフィールが持っていた聖杯戦争構築時の記憶を衛宮士郎が見せてもらったらしいな。

そして、イリヤスフィールの記憶内のゼルレッチが持つ特別な剣を投影したそうだ」

返ってきた内容があまりにも想像を超えたものだったのか、凜は固まってしまった。

「俺が特別な剣を投影したのか？」

確かに剣なら、ものすごく特別なものじゃない限り俺が投影できるだろうけど。

……そういえば、ゼルレッチってどこかで聞いたことがあるような？」

「聞いたことがあるような、じゃない！！」

遠坂家の大師父である魔導元帥キシュア・ゼルレッチ・シュバインオーグ。

現存する魔法使いの一人よ！

それぐらい私の弟子なら覚えておきなさい！！」

「ああ、そういえば聞いた覚えがあるな。」

……って確かその人が持っている特別な剣って！？」

「そう、宝石剣よ。宝石を刀身とした第二魔法の能力を持つ限定魔術礼装。」

遠坂家が求める最終目標と言っても過言じゃないのよ。

……それを、平行世界の士郎が投影したっていうの！？」

「投影したらしいぞ。」

もつとも、投影して死にかけたというか、間違いなく寿命を相当削ったらしいな」

「げっ、そこまでとんでもないものなのか？」

「……確かに宝石剣なら、宝具すら投影可能な士郎でもきついかもしれないわね。」

おまけにイリヤスフィールの記憶を見て投影したっていうのなら、この世界じゃどうやってても無理ね」

実はコピーとはいえ、イリヤの全記憶と引きついた存在が僕の従者として存在しているから、多分大聖杯完成時の記憶を士郎に見せることは可能だと思う。

……ただ、アヴァロン発動中&固有結界「無限の剣製」展開中の士郎でも、宝石剣を投影するのは厳しそうだよなあ。

諦めきれない凜は、なおも士郎に尋ねていた。

「……一応聞くけど、士郎の固有結界に宝石剣は登録されてる？」

「……確認したけど、なかった。」

アーチャーは宝石剣を見たことがなかったのか、あるいは固有結界に登録できないほど宝石剣が特別性なのか」

「多分後者ね。」

さすがは大師父の宝石剣。

『無限の剣製』にすら登録されず、士郎が寿命を削らないと投影できないなんて、本当にとんでもない代物ね」

感慨深げに考え込んでいたが、本題を思い出したらしく凜はキャサリンに食って掛かった。

「今の話が本当ならすごい情報だけど、結局今の私の強化にはならないじゃない。」

他に何かないの？」

「あと二つあるぞ。もともと、そのうち一つの強化案はマスターのアイデアであって、予知夢で遠坂凜が使っているのを見たわけではないらしいがな」

「別に構わないわ。」

いいからさっさと言いなさい」

「一つ目はバゼットの真似だな」

「……バゼットの真似って一体何よ？」

「バゼットは加護のルーンを刻んだ皮手袋をはめ、さらに拳や脚、膝、爪先には硬化のルーンが刻むことで打撃の威力を向上している。この強化策はリンにも有効ではないか？」

「……確かに、格闘戦をするならそのルーンによる強化は有効ね。咸卦法と組み合わせればものすごい効果になりそうね。」

……がんばってルーン魔術も覚えるべきかしら？」

「元々お前はルーン魔術の一つであるガンドを得意としているのだ。加護と硬化に限定してルーン魔術を覚えるのはそれほど難しくないだろうさ。」

……なんなら、バゼットに教えてもらえるように口を利いてもい

いぞ？」

「……大丈夫よ。

ルーン魔術なら自力で習得できるから、そこまでしてもらう必要は無いわ。

というか、いいかげん借りを増やすのは止めたいのよ、私としては」

「くつくつく、これだけアドバイスを貰っておいて今さらだと思いが、……まあそれがお前の意志なら尊重しよう」

「……で、もう一つの強化案って何かしら？」

「これもまた簡単な話だ。

今話したが、凜がよく使っている攻撃手段としてガンドがあるな？」

「ええ、私のガンドは威力もそれなりにあって「フインの一撃」と呼べるレベルだし、連射も可能だから使い勝手はいいわよ。

今も咸卦法ではカバーできない遠距離攻撃は、基本がガンドで切り札に宝石魔術と使い分けているわ」

「そのガンドを格闘戦に混ぜて使うだけ、だそうだ。

……軍隊で使う格闘術に銃剣術というのがあらしいな。

接近戦では着剣した銃を槍として使い、距離を取った場合はもちろん、接近戦でも銃口が相手に向き次第発砲する格闘術らしい」

「なるほどね。

つまり私は拳ではなく抜き手で攻撃して、攻撃が届かない時、あるいは接近戦の途中で人差し指が相手に向いている時に、ガンドで攻撃すればいいのね」

「そういうことだ。

銃剣術ならぬ、ガンド拳法とでも言ったところか？

詳しいことは銃剣術の専門書などを調べる必要があるだろうが、

……とりあえず士郎を相手に試してみればどうだ？」

その後、キャサリンは士郎に聞こえないように凜にある作戦を囁き、それを聞いた凜は面白がっていた。

当然、それを見た士郎は嫌な予感がしていただろうが、戦闘訓練は断らなかった。

で、士郎と凜が構えて戦闘開始の合図があった瞬間、あっさりと勝負がついた。

何のことはない。

拳ではなく抜き手で構えていた凜は、戦闘開始の合図と同時にガード攻撃を行ったのだ。

士郎も格闘戦に織り交ぜてガード攻撃が来ることは覚悟していただろうが、いきなり初手からガード攻撃が来るとは全く予想していなかったらしい。

見事にガードの直撃を受けて昏倒してしまった。

すぐにセイバーが魔力供給して士郎は復活したが、当然ながら士郎は非難の言葉を発してきた。

「卑怯だぞ。」

あんなの避けられないに決まっているだろ！

「あら、ガードを織り交ぜて攻撃することは言っていたでしょ。

それを最初に使って何の問題があるのかしら？」

凜はものすごくいい笑顔でそう言い切った。

「うっ、確かにそれは聞いてたけど。」

……やっぱり卑怯だ」

「何言ってるのよ。」

私がガードを使うような距離なら、士郎は投影魔術が王の財宝ゲート・オブ・バビロンを使えばいいだけじゃない」

「その手があったか！

……いや、駄目だ。

遠坂はシングルアクションでガード攻撃ができるけど、俺の投影魔術はそこまで短時間で発動できない」

「じゃあ、王の財宝をシングルアクション並みの速度で起動できるように努力あるのみね。」

士郎が格闘戦を仕掛けながら、同時に王の財宝をシングルアクション並みの速度で起動して攻撃できるようになれば、1対1なら相当有利に戦えるはずよ」

「……そうだな。」

「よしがんばろう」

そうやって気合を入れる士郎を見てにこりと笑うと、凜は容赦なく言葉を続けた。

「じゃ、さっそく始めましょうね」

有無を言わず、凜は士郎と第二戦を始めた。

どうやら、予想以上に拳法+ガンドは凜の趣味に合ったらしい。

さすがに士郎はガンド攻撃を最初から警戒していたが、それが分かつている凜はガンドを撃たずにいた。

そして、いきなり瞬動で凜は士郎の目の前へ移動した。

士郎もさすがの反応速度で腕を使ってガードするが、凜が抜き手で腕を伸ばした瞬間にガンドが放たれ、そのガンドによって士郎の腕が弾かれて無防備になったところへ凜の抜き手が突き刺さった。

抜き手ではあるが咸卦法で強化されているので、気で強化された士郎の肉体でも防げない威力となっている。

当然、悶絶した士郎は床にうずくまっている。

再びセイバーが士郎に駆け寄って、手を当てて魔力の供給を行った。

「卑怯すぎるぞ！

ほとんど銃弾と変わらない速度と威力のガンドを、接近戦で至近距離から使われたら俺に勝ち目がないじゃないか！！」

「本当ね。まさかこれほど有効だとは思ってなかったわ。

ちよつとアドバイスをもらって、いきなり試したのに自分でも驚くほどうまくいったわ。

……もちろん、ガンドが効かない相手には意味がないけど、そん

な相手は滅多にいないし、咸卦法と瞬動と組み合わせればもつと強くなれるわね」

「さらに言えば、銃剣術の詳細を調べて凜の格闘戦と融合させればより効果的にガンドを使えるだろうな」

「そうだったわね。」

「さっそく調べないと」

「私も銃剣術という戦い方を初めて知りましたが、確かに接近戦で強力な飛び道具を使われれば避けるのはかなり難しいですね。」

「特に対魔力が弱いシロウは気を付けなければいけませんね」

「ちよつとしたアドバイスで、士郎に完勝できるほど強くなった凜はものすごくご機嫌だった。」

「当然、今まで互角だった相手にいきなり勝てなくなった士郎は相当悔しそうだったが、何か思いついたのかキャサリンに話しかけた。」

「なあ、キャサリン」

「なんだ？」

「このままじゃ、俺は接近戦でも遠坂に勝てなくなってしまう。」

「遠坂のガンドみたいに接近戦でも使える遠隔攻撃で、俺がすぐに使えるものを何か知らないか？」

「……ゲート・オブ・バビロン 投影魔術も王の財宝も接近戦の一瞬で使うのは、今の俺では無理だ。」

「多分、相当訓練しても難しいと思う」

「士郎、何でキャサリンに聞いてるのよ！」

「いや、だって、今まで色々教えてくれただろ？」

「というか、遠坂だってキャサリンのアドバイスで強くなったばかりじゃないか。」

「何か思い当たることがあるかもしれだろ？」

「あれだけ強化案を教えてもらっておいて、そんな都合のいいことが「あるぞ」」

「あっさりと言いつつキャサリンに、思わず二人は口論を止めてキャサリンの方へ顔を向けた。」

「シロウができるかどうかはわからないが、気は体や武器を強化するだけでなく、ガンドのように打ち出すこともできる。」

士郎の場合剣と相性がいいから、気を剣に纏わせて剣を振ると同時に気を放出することで、接近戦と遠隔攻撃が同時にできる可能性がある」

神鳴流の「斬空閃」のように、ネギま世界では『気を刀身から飛ばし、遠距離にある物体を破壊する技』がごく普通に存在するから、気を使えるようになり、剣の適性が高い士郎なら、訓練すれば使えるなるだろう、……多分。

「そうか！ よし、さっそく練習するぞ」

士郎はそう言うと、竹刀に一瞬で気を纏わせるとすぐに素振りを開始した。

ちょうどいい機会だったので、士郎達に『マンガに出てきた気の運用方法』と断ったうえで、H×Hの念能力についてキャサリンに説明してもらった。

神鳴流の技は、念能力でいう「強化系」「放出系」「変化系」に分類される技が多く、意外と念能力の知識は役立つのではないかと考えていたのだ。

ネギまとH×Hとのクロスの二次創作では、『気と念能力の関連性が高い』っていう設定は良くある設定だよな。

実際原作では、気での肉体強化（纏）&守備力強化（堅）は普通にやってたし、剣を気で強化（周）してたし、さら強化系の斬岩剣、放出系の斬空閃、変化系の雷光剣って技（発）もあるし、どう考えてもネギま世界において念の概念は有効だろう。

そういうわけで、念能力の【纏】【絶】【練】【発】【周】【隠】【凝】【円】【硬】【流】の概念を士郎達に教え、それらの実践をがんばってもらうことにした。

さすがに【発】だけは、「マンガ世界のご都合主義だからできないとは思っけど」と前置きして教えたけど。

……もつともそれを言ってしまったえば、ネギま世界もマンガ世界だと、聖杯世界はゲーム世界なんだけど。

有効そうなら、僕も試してみることにしよう。

こうして、魔改造バゼットが桜の護衛&教師役として雇われ、その強さに触発された凜もまたパワーアップしてしまった。

……いや、本当に思いつきを伝えたただだったんだけだね。

ついでに、凜のパワーアップに危機感を抱いた士郎までさらにやる気になってしまったわけで、……まあ結果オーライかな。

それにしても、魔改造済みの衛宮パーティ（衛宮士郎、遠坂凜、セイバー）に、過剰すぎる護衛を揃えた間桐パーティ（間桐桜、魔改造メドゥーサ、魔改造バゼット、おまけの間桐慎二）が加わった今、もしかしなくても世界最強クラスの戦力になってないか？

強いに越したことはないが、強すぎることでトラブルを引き寄せないといいけど、……さてどうなることやら。

外伝03話 バゼットの目覚め（小学2年生 聖杯世界8月）（後書き）

【更新履歴】

2011・10・21 凛の強化案に『ルーン魔術使用』を追加

【備考】

バゼット

<パラメータ>

名前：バゼット・フラガ・マクレミッツ

性別：女

種族：人間

外見：23歳

職業：魔術師、ゴッズ・ホルダー伝承保菌者、封印指定の執行者

能力：魔術刻印

能力解析（サーヴァント限定）

技術：ルーン魔術：A+

体術

瞬動術 NEW

咸卦法 NEW

所持：斬り決る戦神の剣
フラガラック

アーティファクト：

フラガラック斬り決る戦神の剣

琥珀の腕輪（ルーンに加護付き）

備考：『気』で身体強化が可能

1997年1月（聖杯世界8月）のメモ（前書き）

下記のメモは、主人公の考察メモ&パラメータシートです。
「設定には興味がない」という方は、スルーしてください。

1997年1月（聖杯世界8月）のメモ

備考

バゼット

<パラメータ>

名前：バゼット・フラガ・マクレミッツ

性別：女

種族：人間

外見：23歳

職業：魔術師、ゴッズ・ホルダー伝承保菌者、封印指定の執行者

能力：魔術刻印

能力解析（サーヴァント限定）

技術：ルーン魔術：A+

体術

瞬動術 NEW

咸卦法 NEW

所持：斬り決る戦神の剣
フラガラック

アーティファクト：

フラガラック斬り決る戦神の剣

琥珀の腕輪（ルーンに加護付き）

備考：『気』で身体強化が可能

【契約相手】

1・遠坂凜

<パラメータ>

名前：遠坂凜

性別：女

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術師、高校生

能力：魔術刻印

令呪（残り3画）

能力解析（サーヴァント限定）

技術：宝石魔術

ガンド

八極拳

瞬動術（虚空瞬動も可能）

咸卦法

所持：宝石

アヴァロン

全て遠き理想郷（治癒&老化停滞）

：EX（小物サイズ

の投影宝具）

契約：セイバー（アルトリア）

備考：『気』で身体強化が可能

2・衛宮士郎

<パラメータ>

名前：衛宮士郎

性別：男

種族：人間

外見：18歳

職業：魔術使い、高校生

能力：固有結界「無限の剣製」

能力解析（サーヴァント限定）

技術：魔術（強化、投影）

剣術

弓術

瞬動術

アヴァロン

オリジナル

所持：全て遠き理想郷：EX

ゲート・オブ・バビロン

王の財宝：A（投影宝具）

3・アルトリア

<パラメータ>

名前：アルトリア

性別：女

種族：サーヴァント（霊体化不可）

外見：15歳

職業：サーヴァント

能力：サーヴァント（セイバー）

鎧の具現化

技：剣術

槍術

馬術

瞬動術（虚空瞬動も可能）

アヴァロン

所持：全て遠き理想郷（治癒）：EX（小物サイズの投影宝具）

アーティファクト：

騎士王の武具

影の馬

魔力のペンダント

<サーヴァントのパラメータ>

クラス セイバー

真名 アルトリア

マスター 遠坂凜

ステータス 筋力 A 魔力 A

耐久 B 幸運 A +

敏捷 B 宝具 EX

クラス別能力 【対魔力】 : A

【騎乗】 : B

保有スキル 【直感】 : A

【魔力放出】 : A

【カリスマ】 : B

宝具 【風王結界】 : C

【約束された勝利の剣】 : A + +

宝具（投影）

【勝利すべき黄金の剣】 : A

【全て遠き理想郷】 : EX

アーティファクト

【エクスカリバー】 : A（剣）

【アヴァロン】 : EX（魔法の鞘）

【カリバーン】 : B（剣）

【ロンゴミニアド】 : C（槍）

【カルンウェナン】 : E（短剣）

【プライウエン】 : C（盾、魔法の船）

【グースホワイト】 : D（兜）

【ウィガール】 : D（鎖帷子）

4・バゼット

<パラメータ>

名前：バゼット・フラガ・マクレミツ

性別：女

種族：人間

外見：23歳

職業：魔術師、ゴッズ・ホルダー伝承保菌者、封印指定の執行者

能力：魔術刻印

能力解析（サーヴァント限定）

技術：ルーン魔術：A+

体術

瞬動術 NEW

咸卦法 NEW

所持：斬り決る戦神の剣
フラガラック

アーティファクト：

フラガラック斬り決る戦神の剣

琥珀の腕輪（ルーンに加護付き）

備考：『気』で身体強化が可能

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7467v/>

ライダーとトリッパーが「ネギま」で暗躍

2011年10月25日10時37分発行